

I. 県民アンケート結果

1 調査の概要

1-1 調査の目的

この調査は、ごみに対する県民の取組や考え方を把握することにより「ごみゼロ社会実現プラン」の推進に必要な基礎資料を得るため、実施する。

1-2 調査対象

地域特性などを考慮して選んだ県内15市町から500名ずつ、合計7,500名を各市町の選挙人名簿を用いて無作為抽出し調査対象とした。

1-3 調査方法

調査票を郵送、回収した。回収期限前にははがきによる督促を行った。

1-4 調査期間

平成27年8月3日に調査票を発送し、8月21日を回答期限として回収した。なお回答期限後も回答があったため、10月1日を最終回収期限として有効回答に含めた。

1-5 回収状況

番号	市町名	発送数	宛先不明	有効発送数	有効回収数	有効回収率
1	津市	500	15	485	252	52.0%
2	四日市市	500	9	491	195	39.7%
3	伊勢市	500	6	494	212	42.9%
4	松阪市	500	2	498	201	40.4%
5	桑名市	500	12	488	206	42.2%
6	鈴鹿市	500	8	492	197	40.0%
7	名張市	500	13	487	214	43.9%
8	尾鷲市	500	5	495	163	32.9%
9	鳥羽市	500	9	491	146	29.7%
10	熊野市	500	2	498	161	32.3%
11	志摩市	500	6	494	169	34.2%
12	伊賀市	500	8	492	202	41.1%
13	東員町	500	3	497	220	44.3%
14	菰野町	500	6	494	215	43.5%
15	紀宝町	500	2	498	201	40.4%
	不明	—	—	—	25	—
	全体	7500	106	7394	2979	40.3%

※「不明」の16件は、設問での「住まいの市町」が無回答の分である。

表 1-1 市町別回収状況

1-6 回収状況：市町別各年度との比較

市町名	平成19年度	平成22年度	平成27年度	平成19年度との差	平成22年度との差
津市	49.9%	45.5%	52.0%	2.1%	6.5%
四日市市	45.2%	41.3%	39.7%	-5.5%	-1.6%
伊勢市	48.1%	43.7%	42.9%	-5.2%	-0.8%
松阪市	48.8%	43.9%	40.4%	-8.4%	-3.5%
桑名市	51.3%	44.8%	42.2%	-9.1%	-2.6%
鈴鹿市	46.1%	41.7%	40.0%	-6.1%	-1.7%
名張市	55.8%	47.7%	43.9%	-11.9%	-3.8%
尾鷲市	43.3%	33.3%	32.9%	-10.4%	-0.4%
鳥羽市	43.3%	33.7%	29.7%	-13.6%	-4.0%
熊野市	45.5%	41.2%	32.3%	-13.2%	-8.9%
志摩市	43.9%	37.5%	34.2%	-9.7%	-3.3%
伊賀市	49.3%	46.0%	41.1%	-8.2%	-4.9%
東員町	52.2%	46.1%	44.3%	-7.9%	-1.8%
菰野町	48.0%	43.9%	43.5%	-4.5%	-0.4%
紀宝町	50.0%	38.4%	40.4%	-9.6%	2.0%
全体	49.7%	42.7%	40.3%	-9.4%	-2.4%

表1-2 回収状況：市町別各年度との比較

市町別の回収率を前回調査の平成22年度と比較すると、全体では2.4%下がっている。
市町別では、津市と紀宝町を除く市町で前回調査の回収率より下がっている。

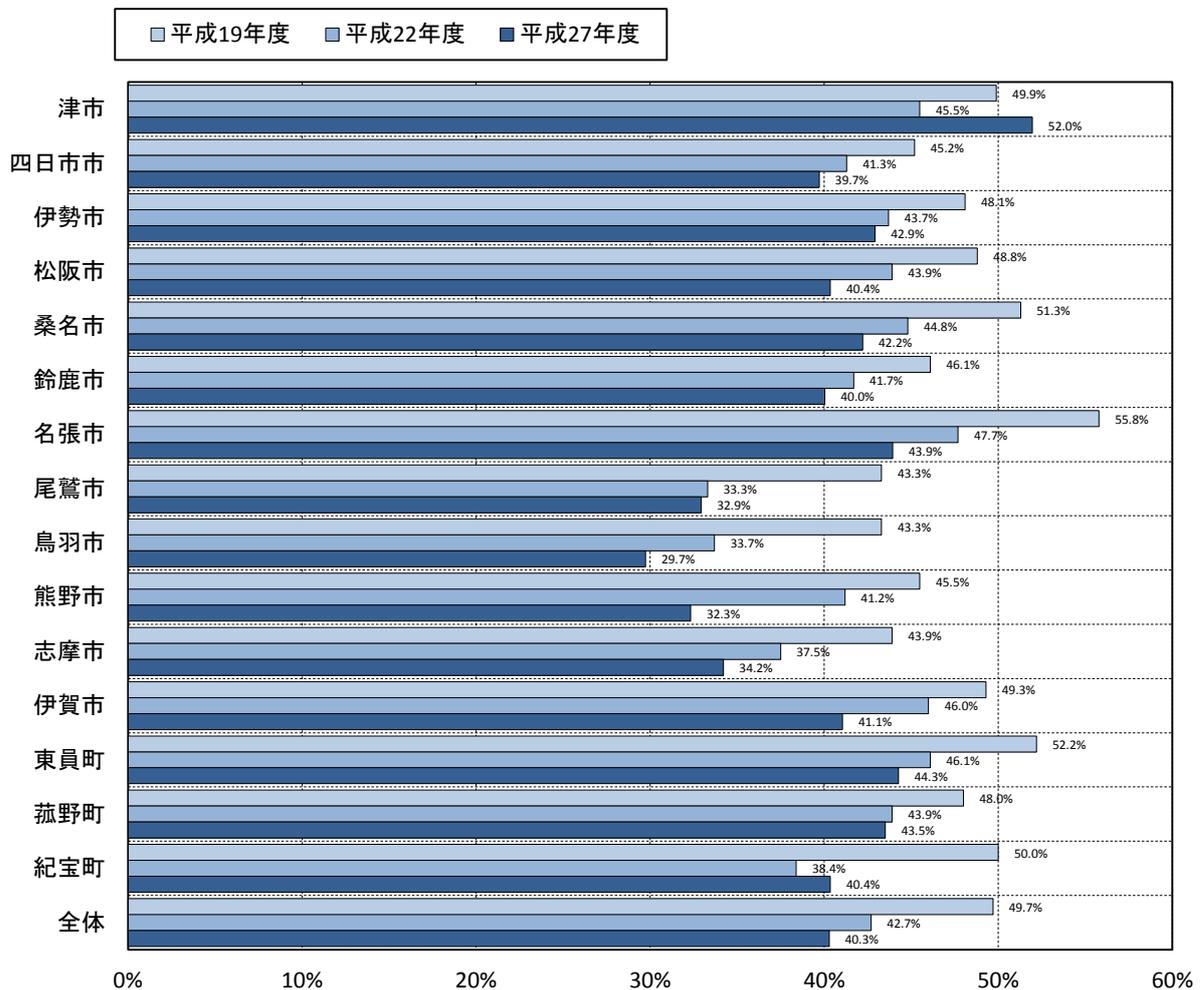


図1-1 回収状況：市町別各年度との比較

1-7 分析結果の見方

- ①各比率は、各設問の解答数を有効回答数の100分率で示している。比率は、小数点第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならないことがある。
- ②複数回答の場合の各比率は、その項目を選んだ人が有効回答数の何%に当たるかを算出している。従って各項目の比率の合計は100%を超える場合がある。
- ③ある設問の指定された回答を選んだ人を対象回答者としている場合がある。このような場合、指定回答者以外の回答は無効回答としている。

1-8 標本誤差の範囲

県民意識調査を実施する場合、本来は全県民を対象とすることが望ましいが、実際には適当な人数を選んで精度の高い調査結果（全数調査の結果に近い調査結果）を得ることになる。今回は2,979人の県民から回答を得た。

この結果がどの程度の精度を持った回答結果であるかは、アンケート結果に対する標本誤差を算定することで検証できる。

統計学的には、標本誤差が3%以下であれば精度の高い調査結果であるとされている。

標本誤差が3%ということは、調査結果が母集団の真値に対し、ある信頼度（今回の信頼度は95%とした）でプラス・マイナス3%の範囲にあるということである。

標本誤差 σ は次式で算定される。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

記号	項目	内容
σ	標本誤差	上記による
M	母集団	人口数については平成27年4月1日現在
n	有効回収数	表 1-4 の通り
k	信頼度による定数	信頼度95%の時、1.96
p	結果の比率	50%の時の最も大きな値となる

表 1-3 記号の説明

		p : 結果の比率					M : 母集団	n : 有効回答数
		50%・50%	40%・60%	30%・70%	20%・80%	10%・90%		
全体		1.79	1.76	1.64	1.44	1.08	1,811,228	2,979
性別	女性	2.35	2.30	2.15	1.88	1.41	929,600	1,741
	男性	2.84	2.79	2.61	2.28	1.71	881,628	1,185
居住地別	津市	6.17	6.05	5.66	4.94	3.70	278,657	252
	四日市市	7.02	6.87	6.43	5.61	4.21	305,479	195
	伊勢市	6.73	6.59	6.16	5.38	4.04	126,774	212
	松阪市	6.91	6.77	6.33	5.53	4.14	165,398	201
	桑名市	6.82	6.69	6.25	5.46	4.09	140,636	206
	鈴鹿市	6.98	6.84	6.40	5.58	4.19	196,538	197
	名張市	6.69	6.55	6.13	5.35	4.01	78,212	214
	尾鷲市	7.64	7.49	7.00	6.11	4.58	18,043	163
	鳥羽市	8.08	7.92	7.41	6.46	4.85	19,296	146
	熊野市	7.69	7.53	7.05	6.15	4.61	17,712	161
	志摩市	7.53	7.37	6.90	6.02	4.52	50,427	169
	伊賀市	6.89	6.75	6.31	5.51	4.13	91,984	202
	東員町	6.58	6.45	6.03	5.26	3.95	25,339	220
	菰野町	6.67	6.53	6.11	5.33	4.00	40,370	215
紀宝町	6.85	6.71	6.28	5.48	4.11	11,092	201	

表 1-4 標本誤差算定結果

標本誤差の算定結果は、最も大きな値を示す結果の比率が50%の場合でも県民アンケート全体の回答結果では、県民全員に対する質問の回答から±1.79%以下の僅差と考えられる。また属性性別のクロス集計においても最大でも1割以下の差である。

2 調査結果（属性）

2-1 年代

問1 あなたの年齢は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「年代」は、70代以上が27.7%で最も高く、「20代」が5.3%で最も低い。
 「20代」を除くと、各年代に大きな偏りは見られない。
 市町別では、極端な隔たりは見られないが、鳥羽市の「20代」の比率が低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	20代	158	5.3%
2	30代	284	9.5%
3	40代	400	13.0%
4	50代	492	17.0%
5	60代	787	26.4%
6	70代以上	825	27.7%
99	無回答	33	1.1%
	計	2,979	100.0%

表 2-1 「年代」回答状況

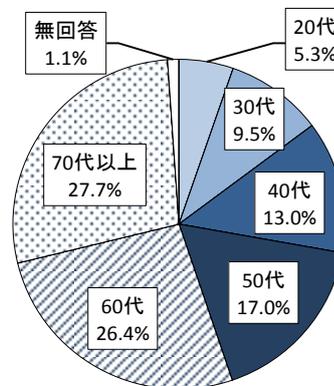


図 2-1 「年代」回答率

② 市町別集計

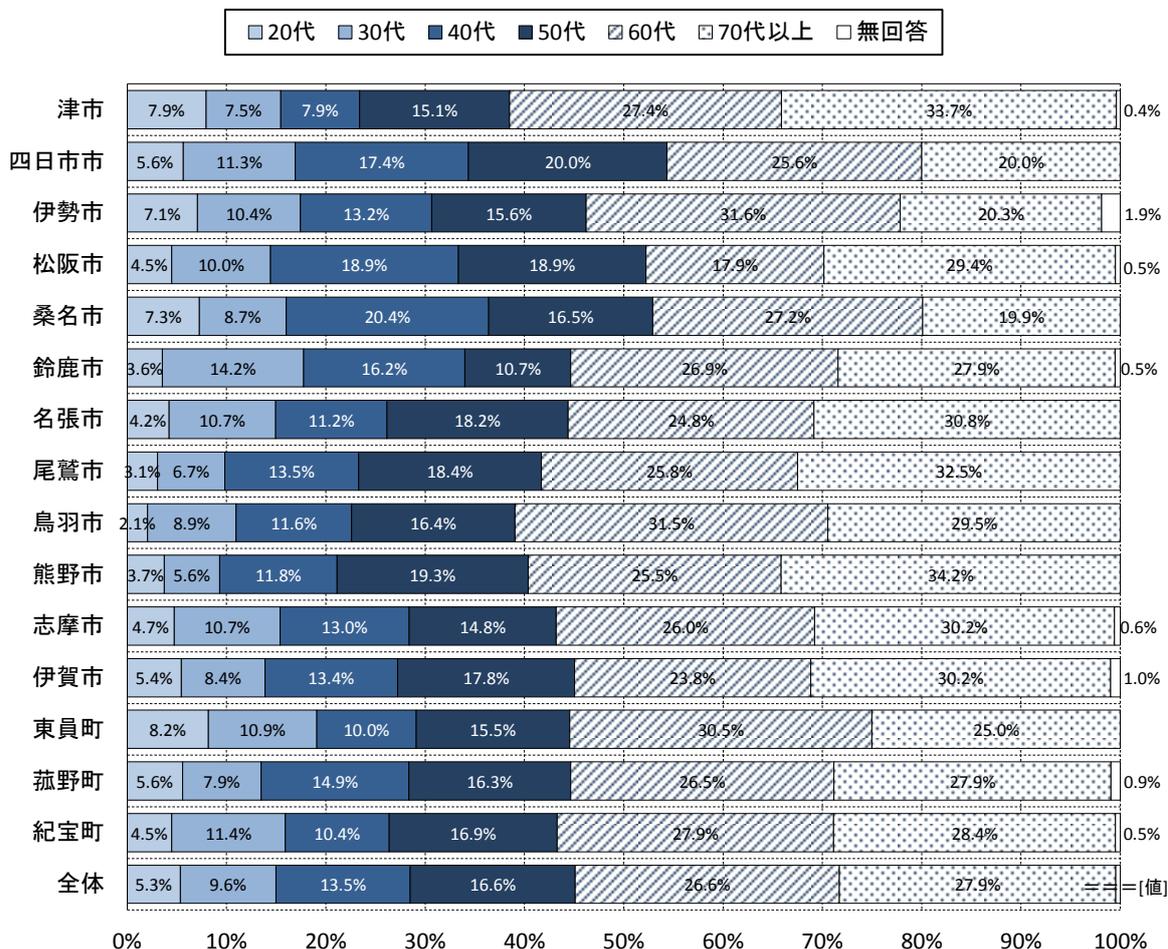


図 2-2 「市町別 年代」回答率

2-2 性別

問2	あなたの性別は？	あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
----	----------	---------------------------

「性別」は、「女性」が58.4%、「男性」が39.8%となっている。
 「女性」の回答率が「男性」の約1.47倍となっており、本調査は「女性」の方がごみの問題に関心が高いことがわかる。
 市町別では、全ての市町で「女性」の回答率が高い。中でも志摩市は「女性」の回答率が高く、「女性」は「男性」の2倍強となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	女性	1,741	58.4%
2	男性	1,185	39.8%
99	無回答	53	1.8%
計		2,979	100.0%

表 2-2 「性別」回答状況

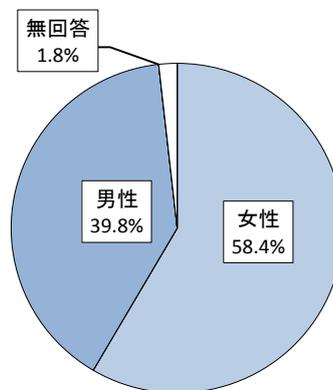


図 2-3 「性別」回答率

② 市町別集計

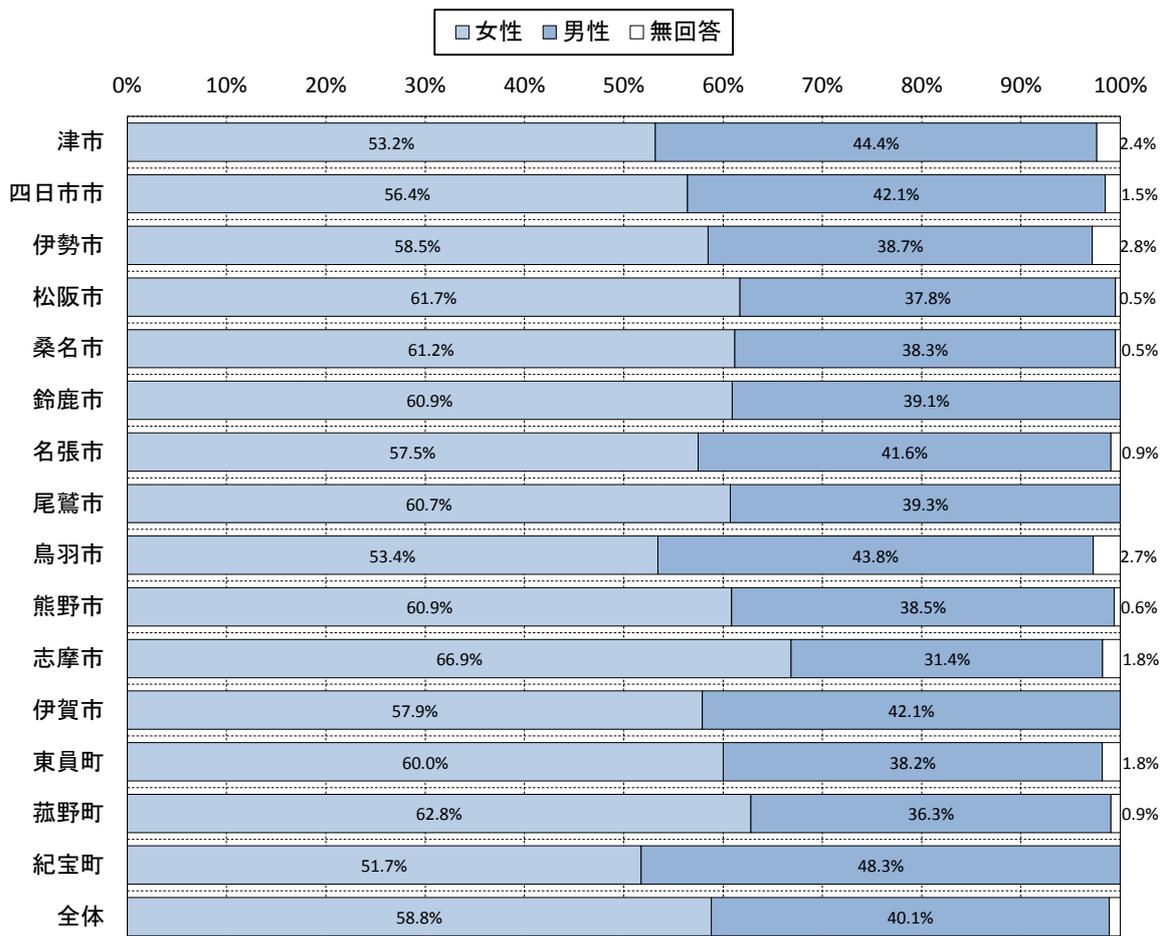


図 2-4 「市町別 性別」回答率

2-3 職業

問3 あなたのお仕事は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「仕事」は、「無職」が34.0%で最も高く、次いで「会社員・公務員」の26.9%となっている。
他の「仕事」は、0.9%から15.5%であり職業別の回答率には偏りが見られる。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	会社員・公務員	801	26.9%
2	パート・アルバイト	461	15.5%
3	農林水産業	82	3.0%
4	自営業	222	7.5%
5	家事・家事手伝い	288	9.7%
6	学生	31	1.0%
7	無職	1,023	34.0%
8	その他	26	0.9%
99	無回答	45	1.5%
	計	2,979	100.0%

表 2-3 「職業」回答状況

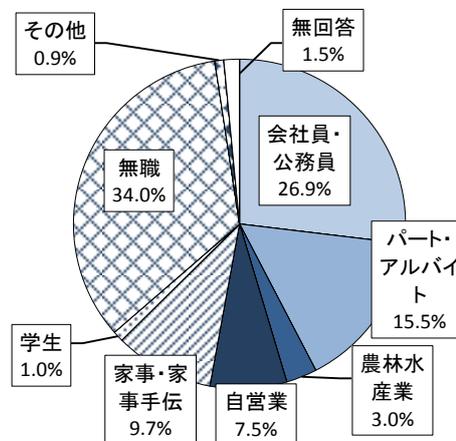


図 2-5 「職業」回答率

2-4 家族人数

問4 いっしょに住んでいる家族の人数は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「家族の人数」は、「2人」が34.5%で最も高い。全体的には「家族の人数」での大きな偏りは見られない。
市町別では、「3人」が最も多い市町は「桑名市」のみで、他の市町は、「2人」が最も多い。
年代別では、40代以下は「4人」が最も多く、「50代」は「2人」と同数であり、60代以上は「2人」が最も多い。年代が高くなると少人数となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	1人	299	10.0%
2	2人	1,027	34.5%
3	3人	689	23.1%
4	4人	513	17.2%
5	5人以上	418	14.0%
99	無回答	33	1.2%
	計	2,979	100.0%

表 2-4 「家族人数」回答状況

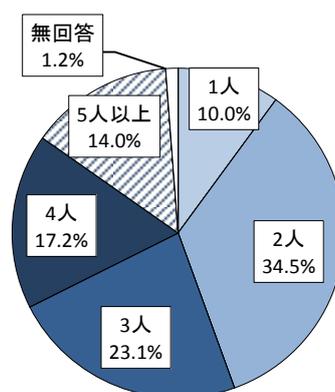


図 2-6 「家族人員」回答率

② 市町別集計

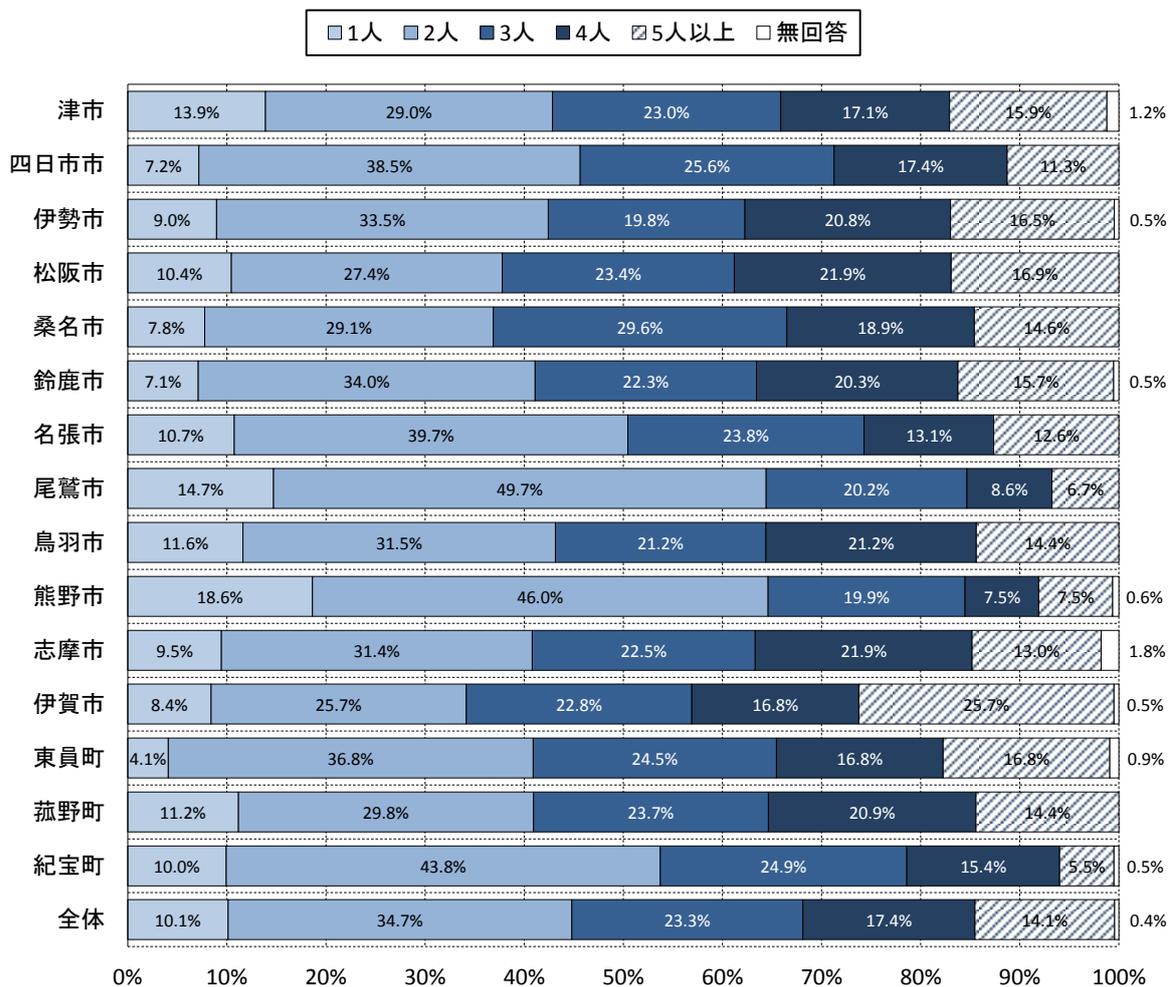


図 2-7 「市町別 家族人員」回答率

③ 年代別集計

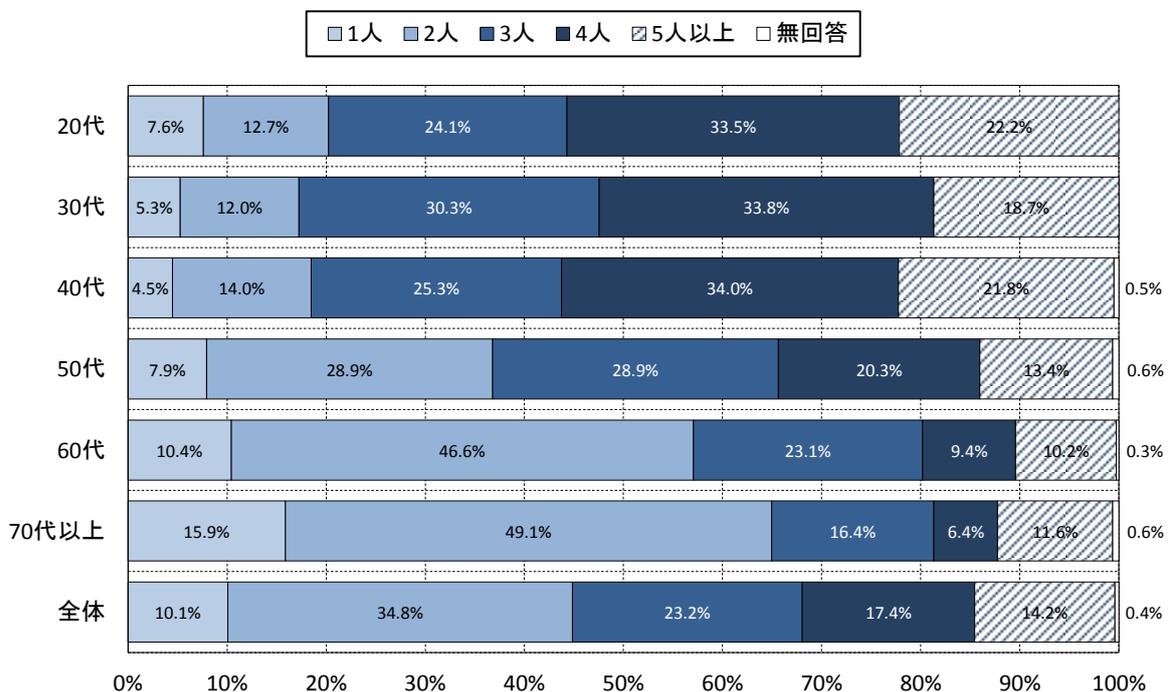


図 2-8 「年代別 家族人員」回答率

2-5 住まいの市町

問5 お住まいの市町は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「住まいの市町」は、4.9%から8.5%であり、「住まいの市町」による大きな偏りは見られない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	津市	252	8.5%
2	四日市市	195	6.5%
3	伊勢市	212	7.0%
4	松阪市	201	6.7%
5	桑名市	206	6.9%
6	鈴鹿市	197	6.6%
7	名張市	214	7.2%
8	尾鷲市	163	5.5%
9	鳥羽市	146	4.9%
10	熊野市	161	5.4%
11	志摩市	169	5.7%
12	伊賀市	202	6.8%
13	東員町	220	7.4%
14	菰野町	215	7.2%
15	紀宝町	201	6.7%
99	無回答	25	1.0%
	計	2,979	100.0%

表 2-5 「市町」回答状況

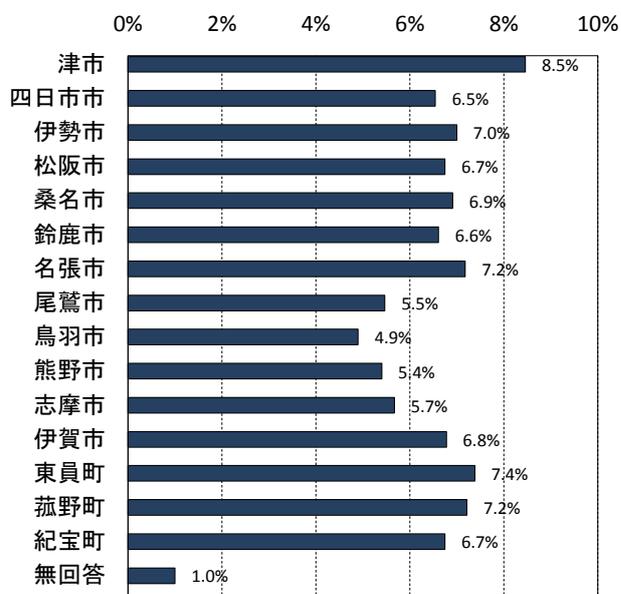


図 2-9 「市町」回答率

2-6 住まいの形態

問6 お住まいの形態は？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「住まいの形態」は、「戸建住宅」が90.5%で圧倒的に高い。「戸建住宅」以外の住まいの形態は、0.8%から4.3%となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	戸建住宅	2,697	90.5%
2	ワンルームのマンションやアパート	50	1.7%
3	学校や会社の寮	24	0.8%
4	その他のマンションやアパート	128	4.3%
5	その他	38	1.3%
99	無回答	42	1.4%
	計	2,979	100.0%

表 2-6 「住まいの形態」回答状況

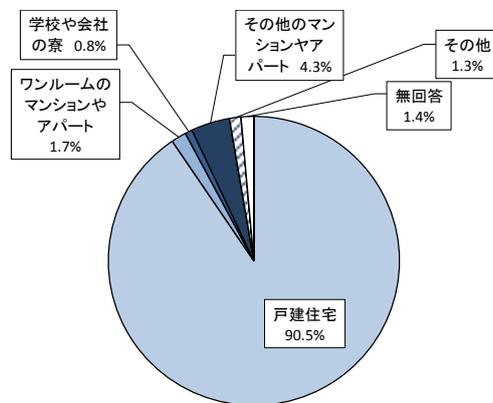


図 2-10 「住まいの回答」回答率

2-7 住まい周辺の様子

問7	お住まいの周辺の様子は？	あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
----	--------------	---------------------------

「住まいの周辺の様子」は、「住宅地」が64.4%で最も高い。次いで「住宅が点在する農山漁村」が24.3%で、合わせると88.7%を占めている。
市町別では、「伊賀市」は、「住宅が点在する農山漁村」が最も高くなっている以外はいずれの市町別では「住宅地」が最も高い。しかし、「鳥羽市」、「志摩市」、「伊賀市」では「住宅地」が50%以下となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	住宅地	1,919	64.4%
2	住宅とお店や工場などが混在している地域	238	8.0%
3	住宅が点在する農山漁村	724	24.3%
4	その他	30	1.0%
99	無回答	68	2.3%
計		2,979	100.0%

表 2-7 「住まいの周辺の様子」回答状況

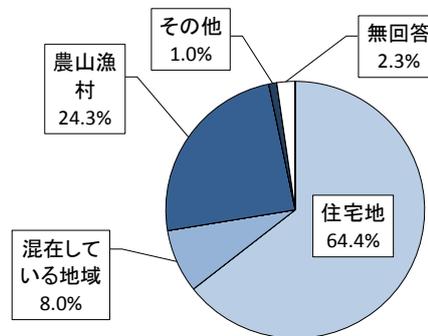


図 2-11 「住まいの周辺の様子」回答率

② 市町別集計

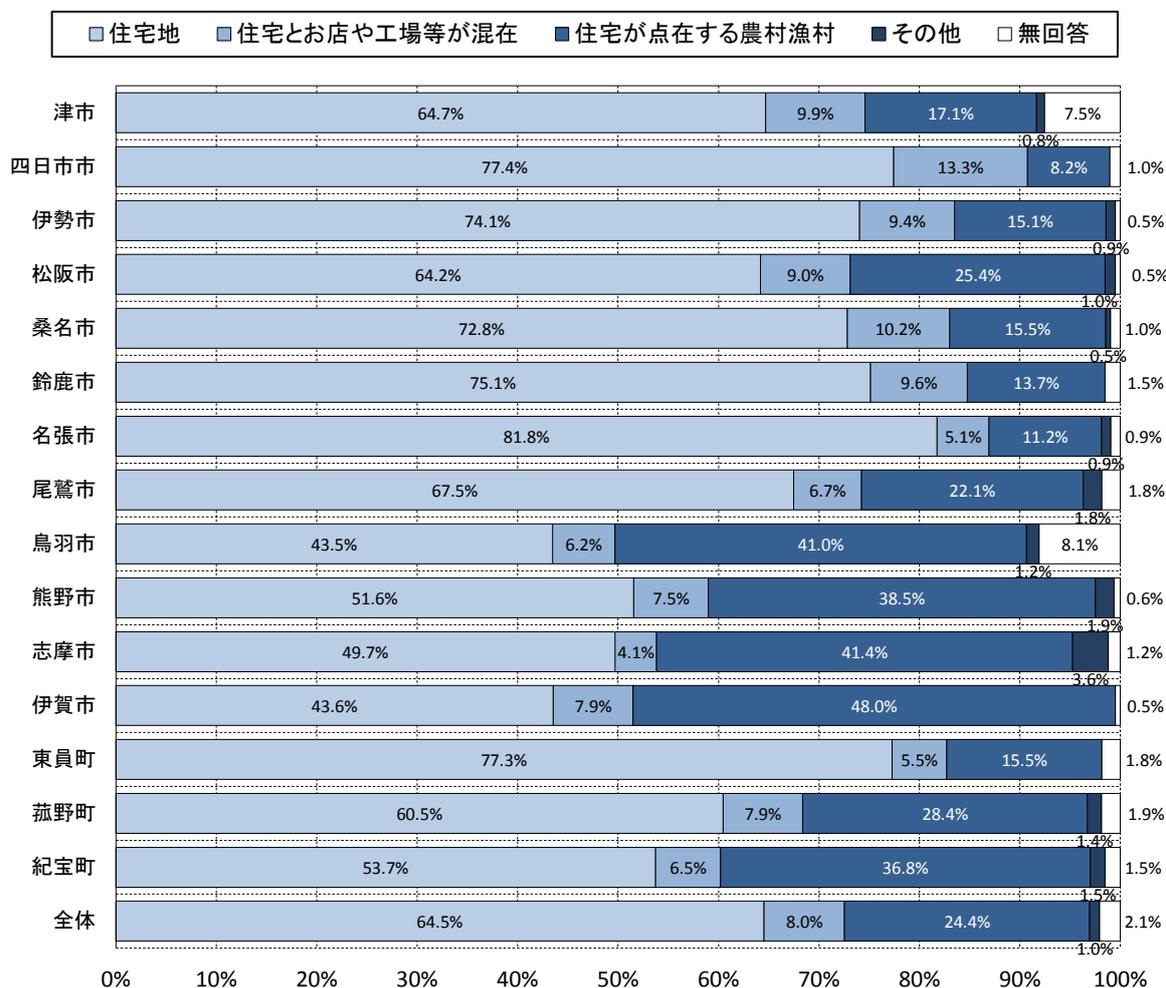


図 2-12 「市町別 住まいの周辺の様子」回答率

2-8 家庭にあてはまること

問8	次のうち、あなたの家庭にあてはまることはありますか？ あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。（複数回答）
----	---

「家庭にあてはまること」については、「いずれにもあてはまらない」が36.0%で最も高く、次いで「夫婦共働き」が19.2%となっている。
市町別では、「いずれにもあてはまらない」が一番高い市町は14市町となっている。
「家族は全員60歳以上」が25%を超えている市町は「四日市市」、「桑名市」、「鈴鹿市」、「名張市」、「尾鷲市」、「紀宝町」となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	夫婦共働き	572	19.2%
2	就学前の乳幼児がいる	127	4.3%
3	小中学生がいる	215	7.2%
4	家族は全員60歳以上	482	16.2%
5	いずれにもあてはまらない	1,073	36.0%
総回答数		2,469	82.9%
有効回答者数		2,979	—

表 2-8 「家庭にあてはまること」回答状況

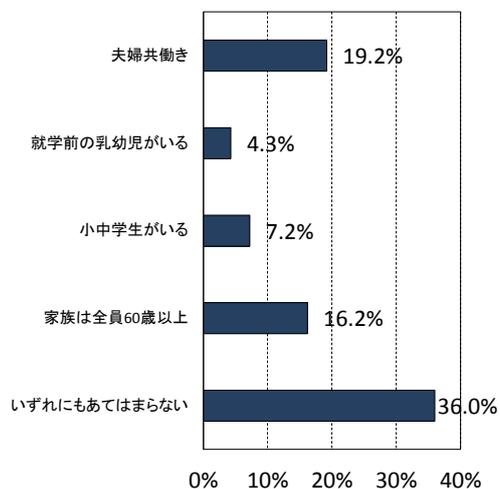


図 2-3 「家庭にあてはまること」回答率

② 市町別集計

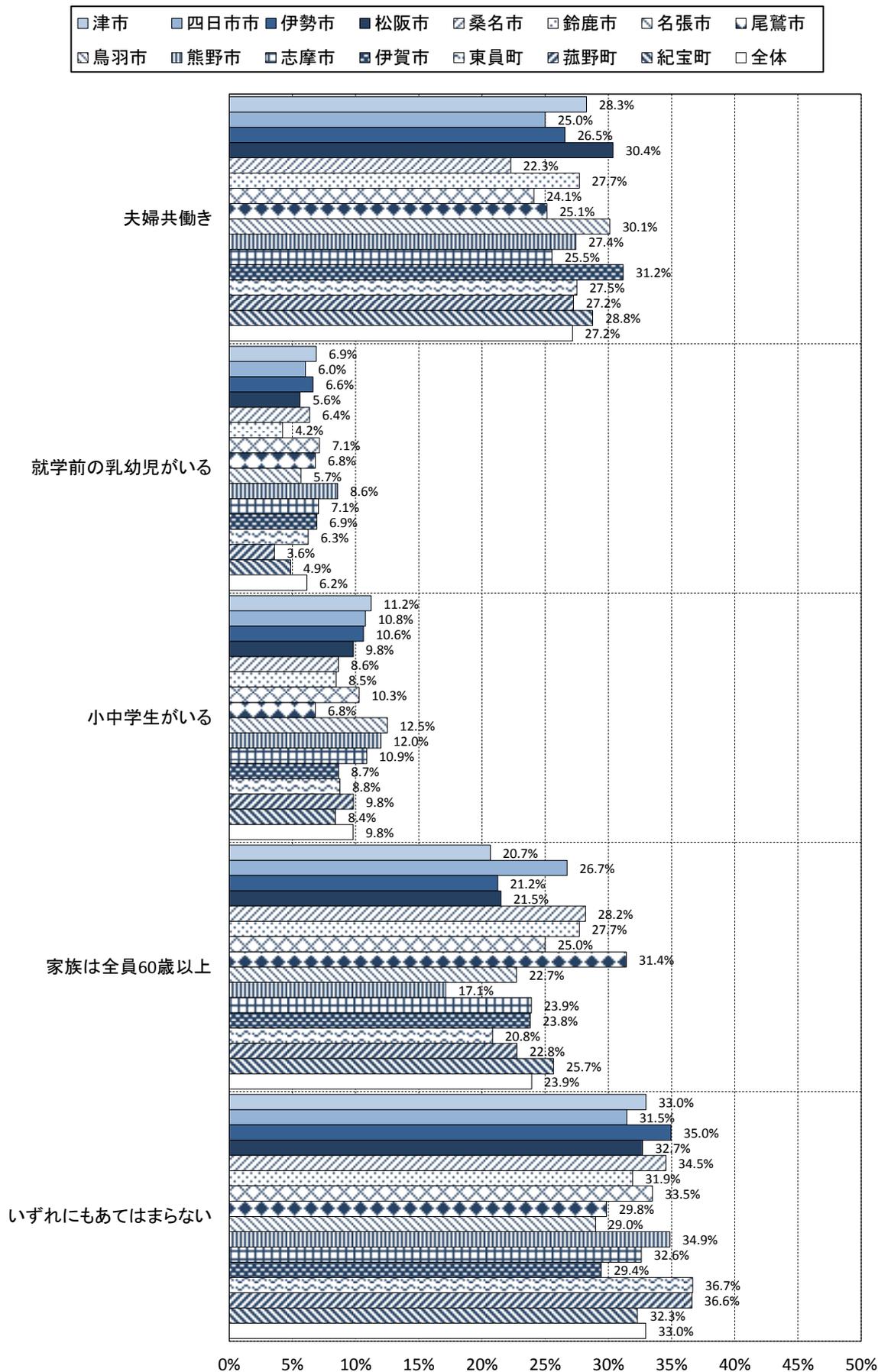


図 2-14 「市町別 家庭にあてはまること」回答率

2-9 地域活動

問9	あなたの住んでいる地域では、自治会や子供会などの地域活動は盛んですか？ あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
----	--

「地域活動」については、「比較的盛ん」が49.5%で最も高い。
 「とても盛ん」、「比較的盛ん」を合わせると56.7%を占めている。
 市町別では、「とても盛ん」、「比較的盛ん」の計が50%を超えている市町は11市町となっている。
 年代別では、「とても盛ん」、「比較的盛ん」の計がすべての年で50%を超えている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とても盛ん	214	7.2%
2	比較的盛ん	1,476	49.5%
3	あまり盛んでない	1,061	35.6%
4	まったく盛んでない	168	5.6%
99	無回答	60	2.1%
計		2,979	100.0%

表 2-9 「地域活動」回答状況

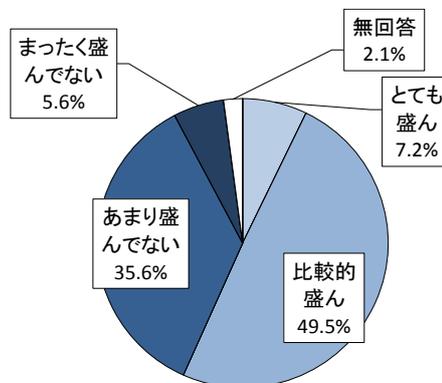


図 2-15 「地域活動」回答率

② 市町別集計

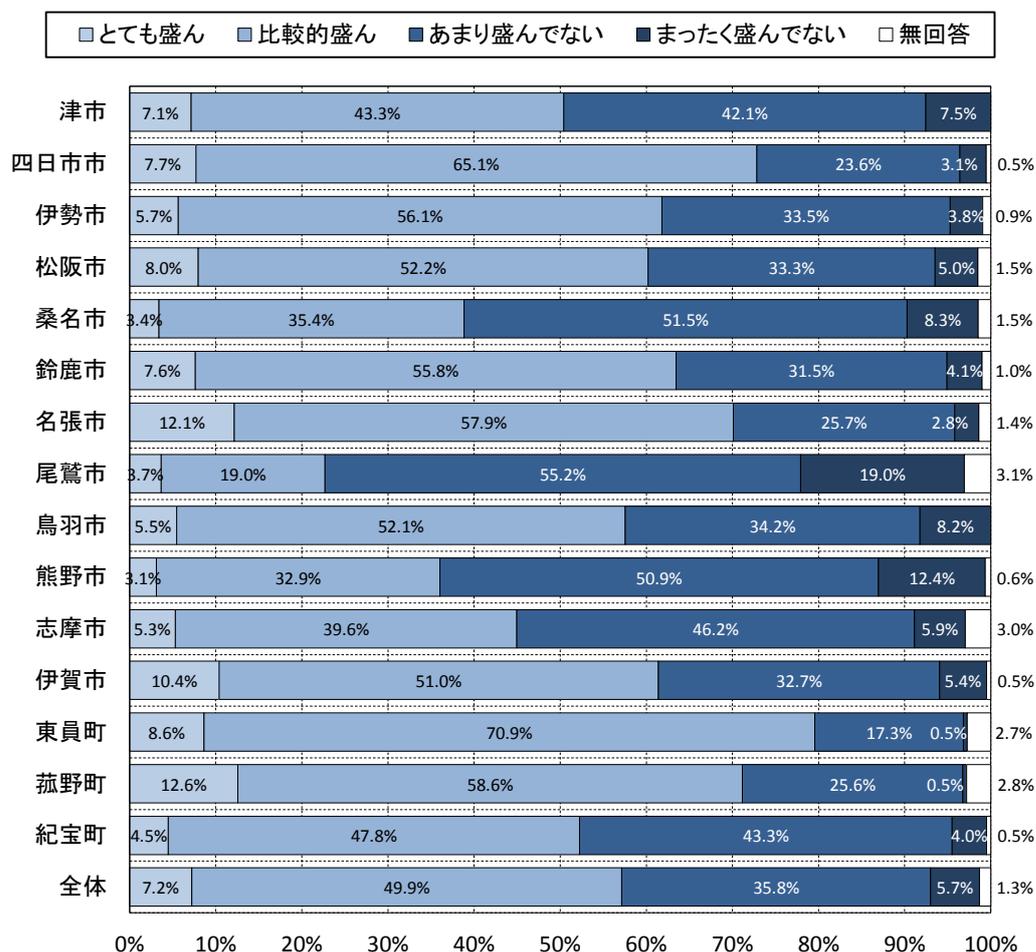


図 2-16 「氏町別 地域活動」回答率

③ 年代別集計

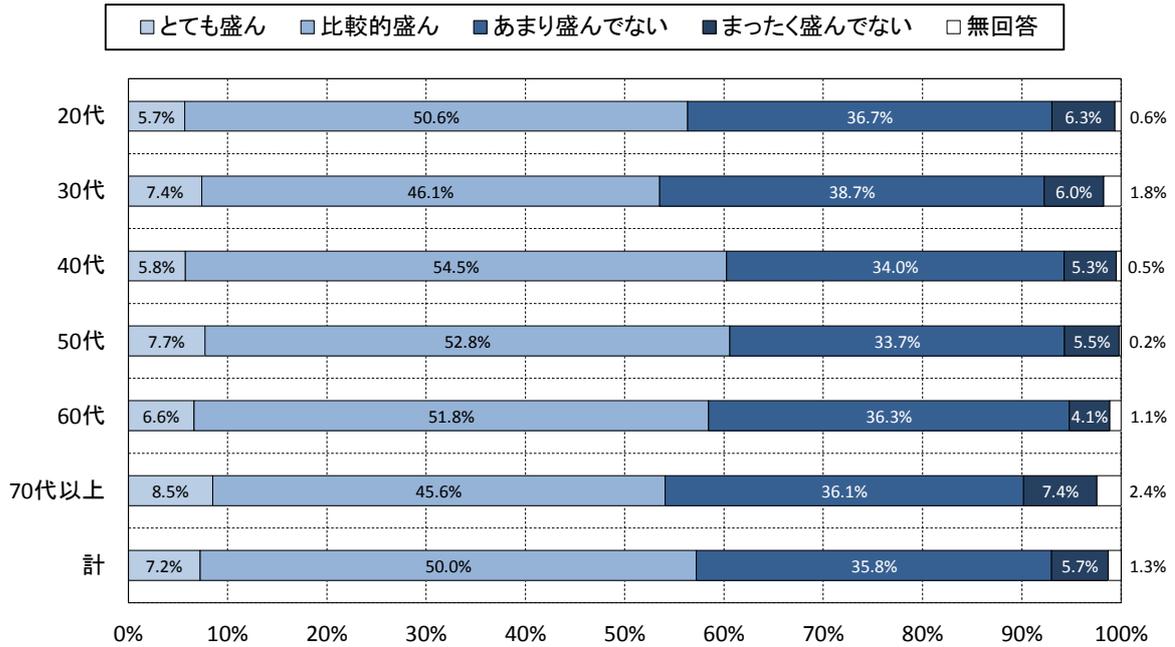


図 2-17 「年代別 地域活動」回答率

2-10 ごみの分別へのかかわり

問10 あなた自身は家庭でごみの分別にどうかかわっていますか？
あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

「ごみ分別へのかかわり」については、「家族の中心ではないがごみは分別している」が46.6%で最も高い。
分別にかかわっている率は93.1%でほとんどの人が分別活動をしている。
市町別、年代別、性別の中で、年代別の「20代」と性別の「男性」を除いて、9割以上が分別に関わっている結果となっている。
性別では「家族の中心になって熱心に分別している」が女性で62.1%に対し、男性は24.5%となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	家族の中心になって熱心に分別している	1,386	46.5%
2	家族の中心ではないがごみは分別している	1,389	46.6%
3	ごみの分別にはあまりかかわらない	160	5.4%
99	無回答	44	1.5%
	計	2,979	100.0%

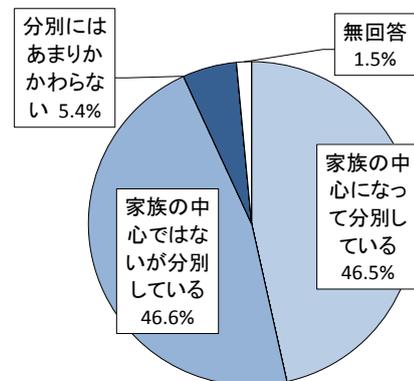


表 2-10 「ごみ分別へのかかわり」回答状況

図 2-18 「ごみ分別へのかかわり」回答率

② 年代別集計

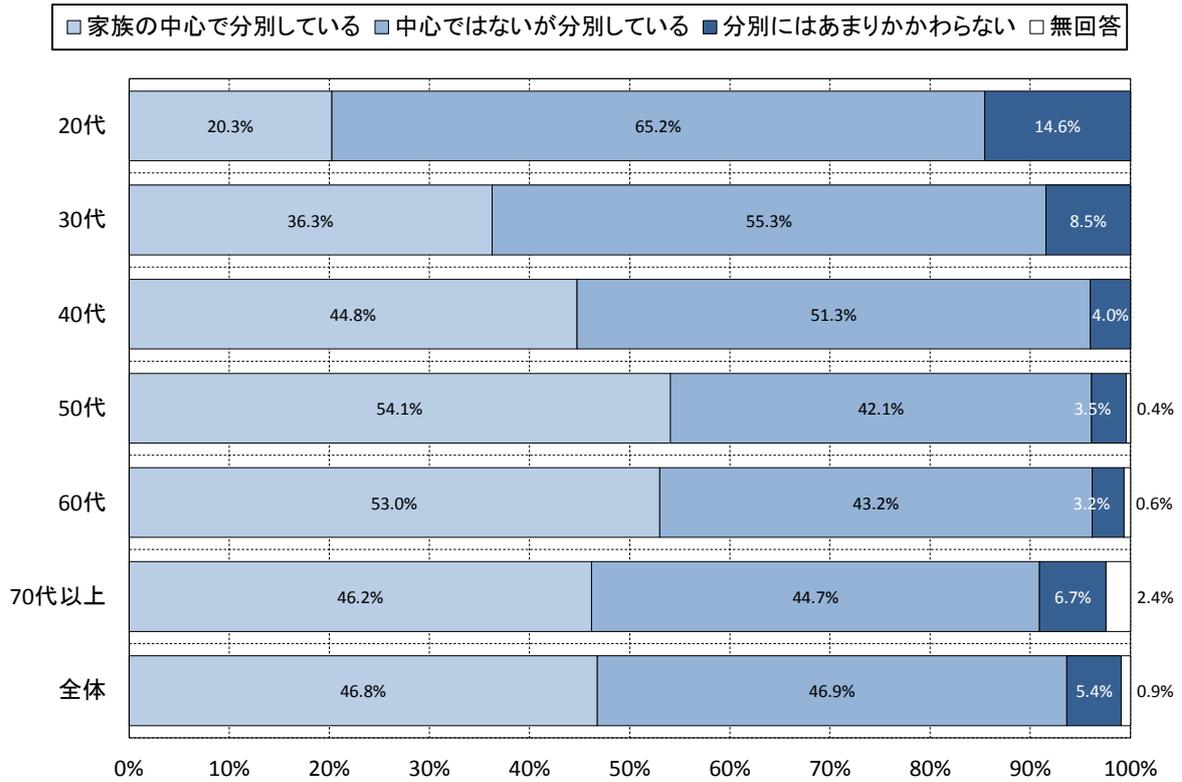


図 2-19 「年代別 分別活動」回答率

③ 性別集計

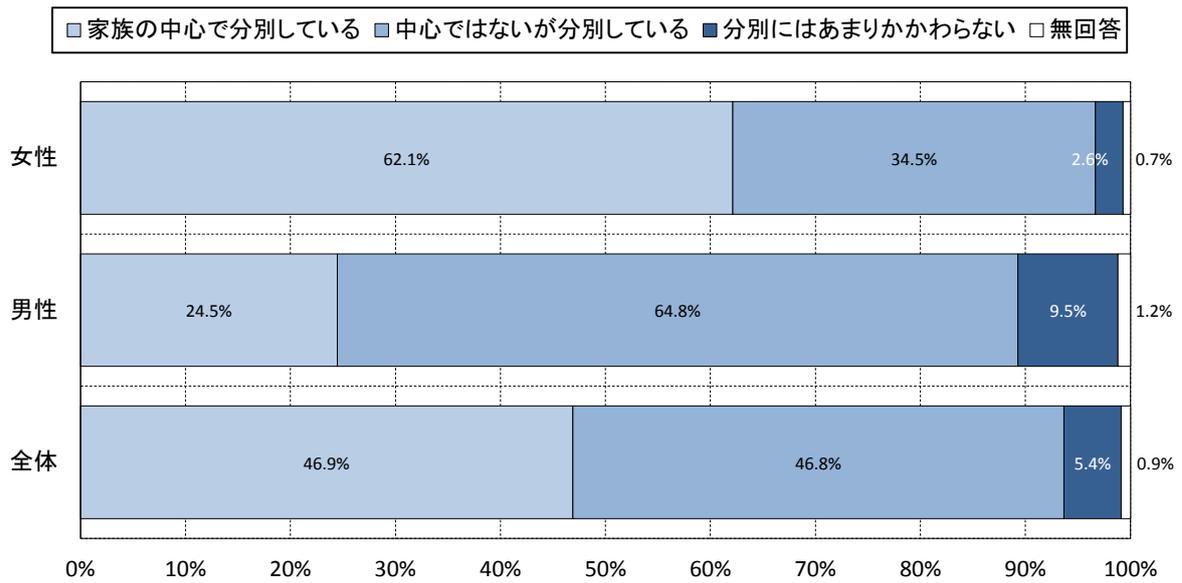


図 2-20 「性別 分別活動」回答率

3 「ごみゼロ社会実現プラン」における目標指標達成状況

3-1 目標指標

「ごみゼロ社会実現プラン」(平成17年3月策定)では、プランの趣旨を踏まえ「ごみの減量化」、
「多様な主体の参画・協働」、「ごみ処理に伴う環境負荷の抑制」の3つの観点から数値目標を設定している。その中で、「多様な主体の参画・協働」については、ごみ減量化やごみ問題に関する
県民の意識、行動の変化を表す目標として県民アンケートの結果から目標を設定している。

指標名	平成16年度調査	平成19年度調査	平成22年度調査	目標値
ものを大切にしようとする県民の率	58.2%	58.3%	59.4%	100%
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	39.4%	40.2%	41.3%	100%
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	38.5%	40.6%	47.3%	100%
ごみゼロ社会実現プランの認知率	—	45.6%	36.8%	100%

表 3-1 目標指標(平成16・平成19・平成22調査結果および目標値)

3-2 今回調査結果からみた目標指標現況値の算出

平成27年度			よくあてはまる	よくあてはまる	①+②	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない	③+④
環境関連行動に関する質問項目			よくある	たまにある		あまりない	ほとんどない	
			①	②		③	④	
A	問12 (1)	必要なくても買ってしまう	5.2%	28.5%	33.7%	43.0%	22.2%	65.2%
B	問12 (2)	修理するより買い換える	12.8%	32.1%	44.9%	39.0%	15.0%	54.0%
C	問12 (3)	環境のことは考えずに商品を選ぶ	16.3%	44.4%	60.7%	30.7%	6.7%	37.4%
D	問12 (4)	新品を購入する	19.9%	34.9%	54.8%	28.8%	13.9%	42.7%
E	問14 (1)	賞味期限切れ等で食材を捨ててしまう	12.7%	51.5%	64.2%	21.1%	13.6%	34.7%
F	問14 (2)	食べきれず、料理を捨ててしまう	6.9%	37.6%	44.5%	29.8%	24.1%	53.9%
「ごみゼロ社会実現プラン」の認知			知っている	名前は聞いたことがある	①+②	知らない		
			①	②		③		
G	問43	「ごみゼロ社会実現プラン」の認知	4.5%	33.9%	38.4%	59.1%		



数値目標の指標	目標とする数値の根拠	現状値 (平成27年度)
ものを大切にしようとする県民の率	A+Bの「③+④」の加重平均	59.6%
環境に配慮した消費行動をとる県民の率	C+Dの「③+④」の加重平均	40.1%
食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	E+Fの「③+④」の加重平均	44.3%
ごみゼロ社会実現プランの認知率	「知っている」および「名前は聞いたことがある」の率	38.4%

表 3-2 目標指標現況値の算出

3-3 目標指標の達成状況

目標指標について、「ものを大切に長く使おうとする県民の率」は平成22年度対比で0.2%増加、「ごみゼロ社会実現プランの認知率」平成22年度対比で1.6%増加している。しかしながら、「環境に配慮した消費行動をとる県民の率」は、平成22年度対比で1.2%減少、「食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率」は、平成22年度対比で3.0%の減少となっている。平成16年度からの推移をみると各目標指標ともに微増もしくは、横ばい傾向にある。

目標指標		ものを大切に長く使おうとする県民の率	環境に配慮した消費行動をとる県民の率	食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率	ごみゼロ社会実現プランの認知率
平成16年度	率	58.2%	39.4%	38.5%	—
平成19年度	率	58.3%	40.2%	40.6%	45.6%
	対平成16年度	0.1%	0.8%	2.1%	—
平成22年度	率	59.4%	41.3%	47.3%	36.8%
	対平成16年度	1.2%	1.9%	8.8%	—
	対平成19年度	1.1%	1.1%	6.7%	-8.8%
平成27年度	率	59.6%	40.1%	44.3%	38.4%
	対平成16年度	1.4%	0.7%	5.8%	—
	対平成19年度	1.3%	-0.1%	3.7%	-7.2%
	対平成22年度	0.2%	-1.2%	-3.0%	1.6%

表 3-3 目標指標の達成状況

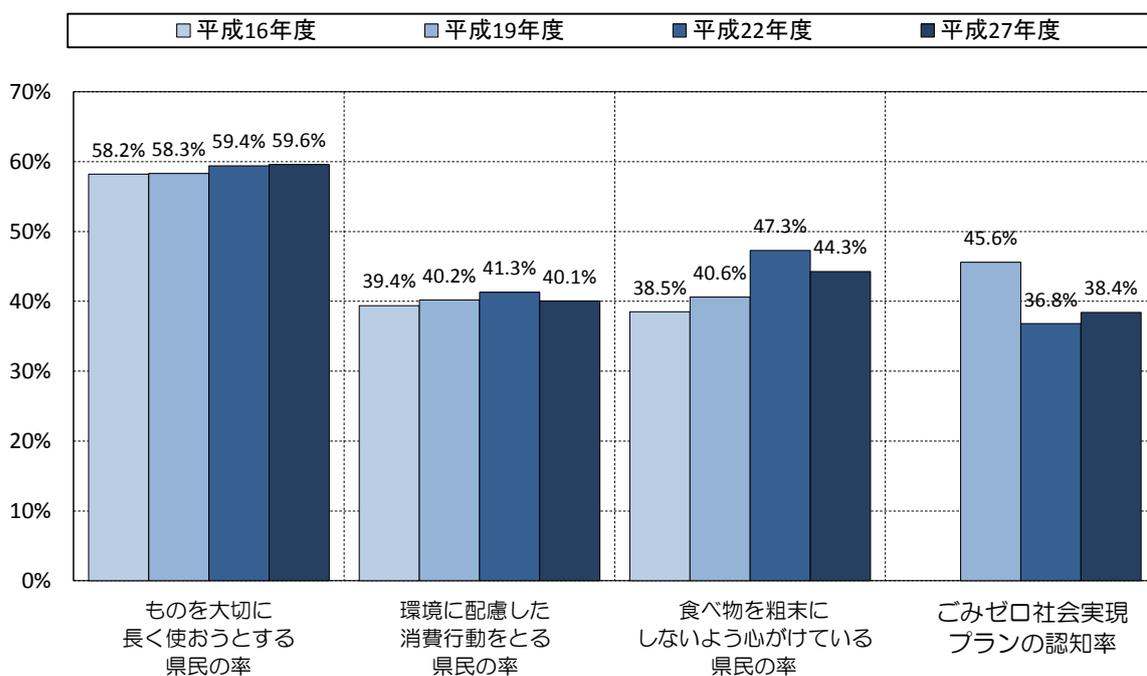


図 3-1 目標指標の達成状況

3-4 目標指標別、市町別に見た平成22年度との比較

①ものを大切に使うとする県民の率は

ものを大切に長く使おうとする県民の率は、どの市町においても50%を超えており、平成27年度では平成22年度との差が-6.3%から7.8%となっている。

ものを大切に長く使おうとする県民の率		平成19年度	平成22年度	平成27年度		
		率	率	率	平成19年度との差	平成22年度との差
1	津市	52.4%	58.2%	59.3%	6.9%	1.1%
2	四日市市	59.8%	56.9%	56.2%	-3.6%	-0.7%
3	伊勢市	60.8%	63.1%	61.3%	0.5%	-1.8%
4	松阪市	59.0%	59.1%	60.5%	1.5%	1.4%
5	桑名市	58.1%	62.3%	62.6%	4.5%	0.3%
6	鈴鹿市	60.6%	57.8%	62.2%	1.6%	4.4%
7	名張市	57.2%	58.7%	58.7%	1.5%	0.0%
8	尾鷲市	58.4%	60.4%	61.4%	3.0%	1.0%
9	鳥羽市	57.0%	55.4%	63.2%	6.2%	7.8%
10	熊野市	62.9%	59.4%	65.3%	2.4%	5.9%
11	志摩市	55.7%	62.8%	64.4%	8.7%	1.6%
12	伊賀市	54.1%	54.2%	61.5%	7.4%	7.3%
13	東員町	61.0%	59.8%	55.7%	-5.3%	-4.1%
14	菰野町	59.5%	61.7%	55.4%	-4.1%	-6.3%
15	紀宝町	61.3%	63.9%	60.4%	-0.9%	-3.5%

表 3-4 「目標指標1の市町別状況」

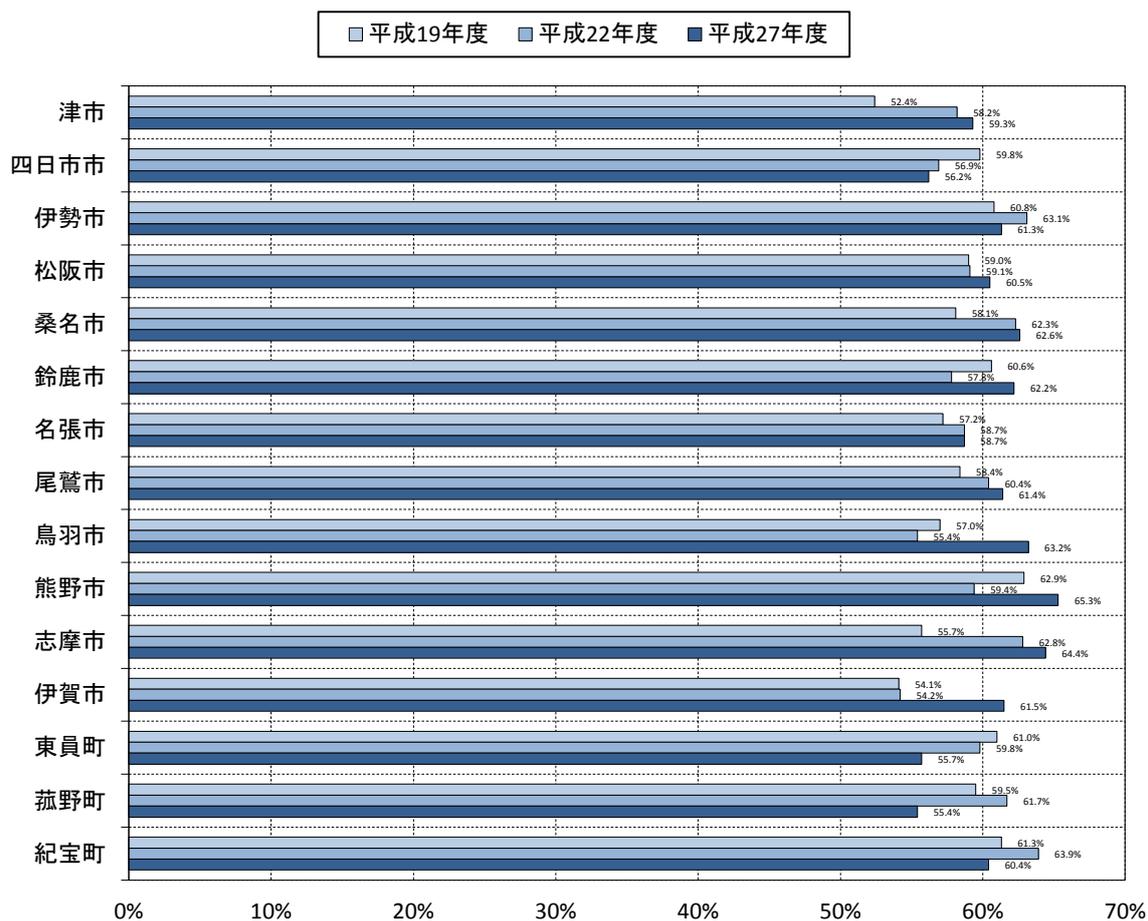


図 3-2 「目標指標1の市町別状況」

②環境に配慮した消費行動をとる県民の率

環境に配慮した消費行動をとる県民の率は、どの市町においても35%を超えており、平成27年度では、平成22年度との差が-5.3%から7.5%となっている。

環境に配慮した消費行動をとる県民の率		平成19年度	平成22年度	平成27年度		
		率	率	率	平成19年度との差	平成22年度との差
1	津市	35.7%	40.7%	41.1%	5.4%	0.4%
2	四日市市	42.5%	41.3%	43.8%	1.3%	2.5%
3	伊勢市	40.3%	41.6%	41.8%	1.5%	0.2%
4	松阪市	41.3%	39.0%	37.1%	-4.2%	-1.9%
5	桑名市	39.5%	44.1%	41.4%	1.9%	-2.7%
6	鈴鹿市	39.2%	37.0%	42.8%	3.6%	5.8%
7	名張市	36.4%	39.2%	37.7%	1.3%	-1.5%
8	尾鷲市	44.7%	45.7%	43.8%	-0.9%	-1.9%
9	鳥羽市	40.0%	44.9%	40.1%	0.1%	-4.8%
10	熊野市	48.0%	44.8%	43.0%	-5.0%	-1.8%
11	志摩市	40.4%	44.3%	42.1%	1.7%	-2.2%
12	伊賀市	34.4%	37.1%	36.5%	2.1%	-0.6%
13	東員町	38.5%	38.0%	39.4%	0.9%	1.4%
14	菰野町	40.5%	44.7%	39.4%	-1.1%	-5.3%
15	紀宝町	43.8%	39.2%	46.7%	2.9%	7.5%

表 3-5 「目標指標2の市町別状況」

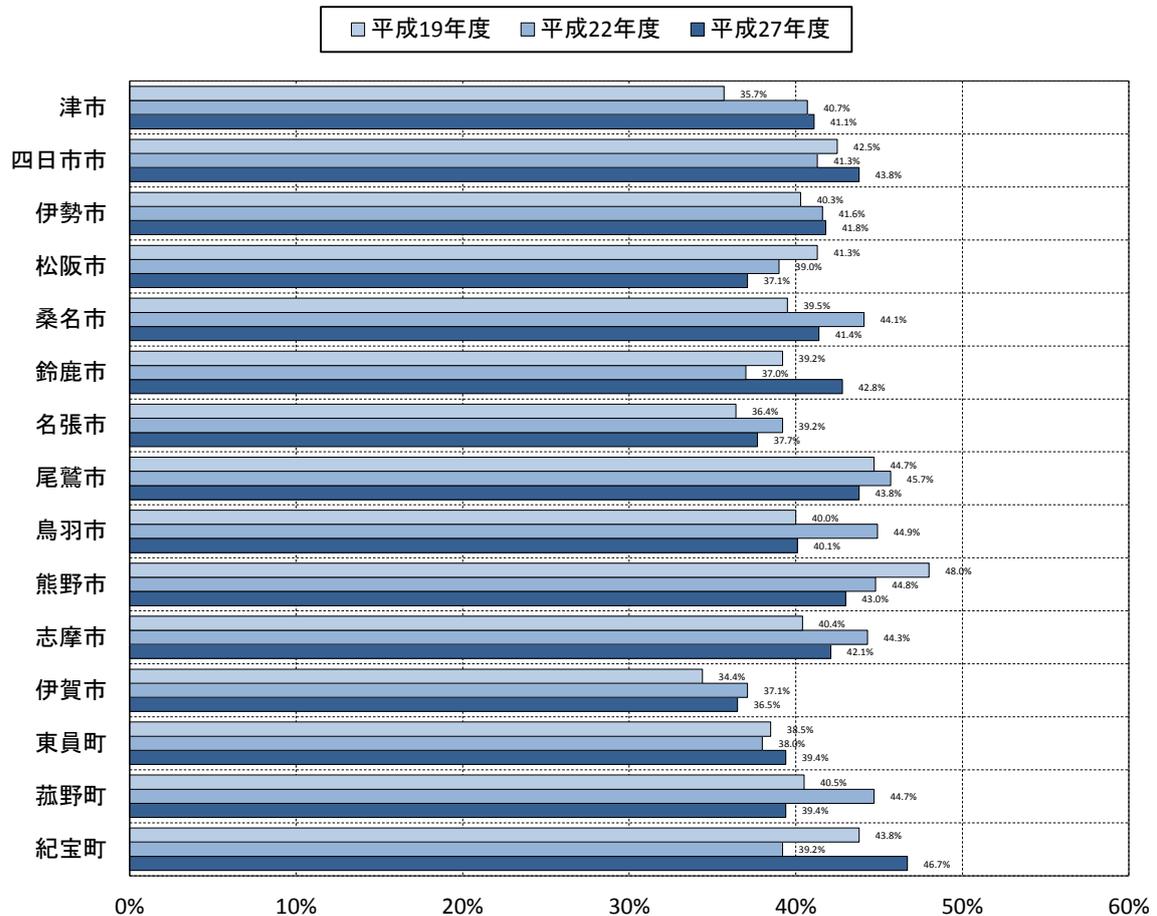


図 3-3 「目標指標2の市町別状況」

③食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率

食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率は、どの市町においても40%を超えており、平成27年度では、平成22年度との差が-8.0%から3.4%となっている。

食べ物を粗末にしないよう心がけている県民の率		平成19年度	平成22年度	平成27年度		
		率	率	率	平成19年度との差	平成22年度との差
1	津市	40.4%	45.1%	49.2%	8.8%	-36.3%
2	四日市市	39.5%	49.5%	45.5%	6.0%	-43.5%
3	伊勢市	41.1%	51.2%	46.2%	5.1%	-46.1%
4	松阪市	37.9%	46.3%	41.0%	3.1%	-43.2%
5	桑名市	41.9%	45.0%	42.7%	0.8%	-44.2%
6	鈴鹿市	39.4%	46.6%	45.9%	6.5%	-40.1%
7	名張市	37.6%	49.2%	43.4%	5.8%	-43.4%
8	尾鷲市	41.9%	53.4%	47.1%	5.2%	-48.2%
9	鳥羽市	40.2%	46.4%	40.6%	0.4%	-46.0%
10	熊野市	43.3%	50.0%	42.0%	-1.3%	-51.3%
11	志摩市	41.3%	47.3%	45.7%	4.4%	-42.9%
12	伊賀市	36.7%	43.9%	42.7%	6.0%	-37.9%
13	東員町	40.0%	45.4%	44.5%	4.5%	-40.9%
14	菰野町	42.9%	42.0%	45.4%	2.5%	-39.5%
15	紀宝町	44.0%	50.8%	48.0%	4.0%	-46.8%

表 3-6 「目標指標3の市町別状況」

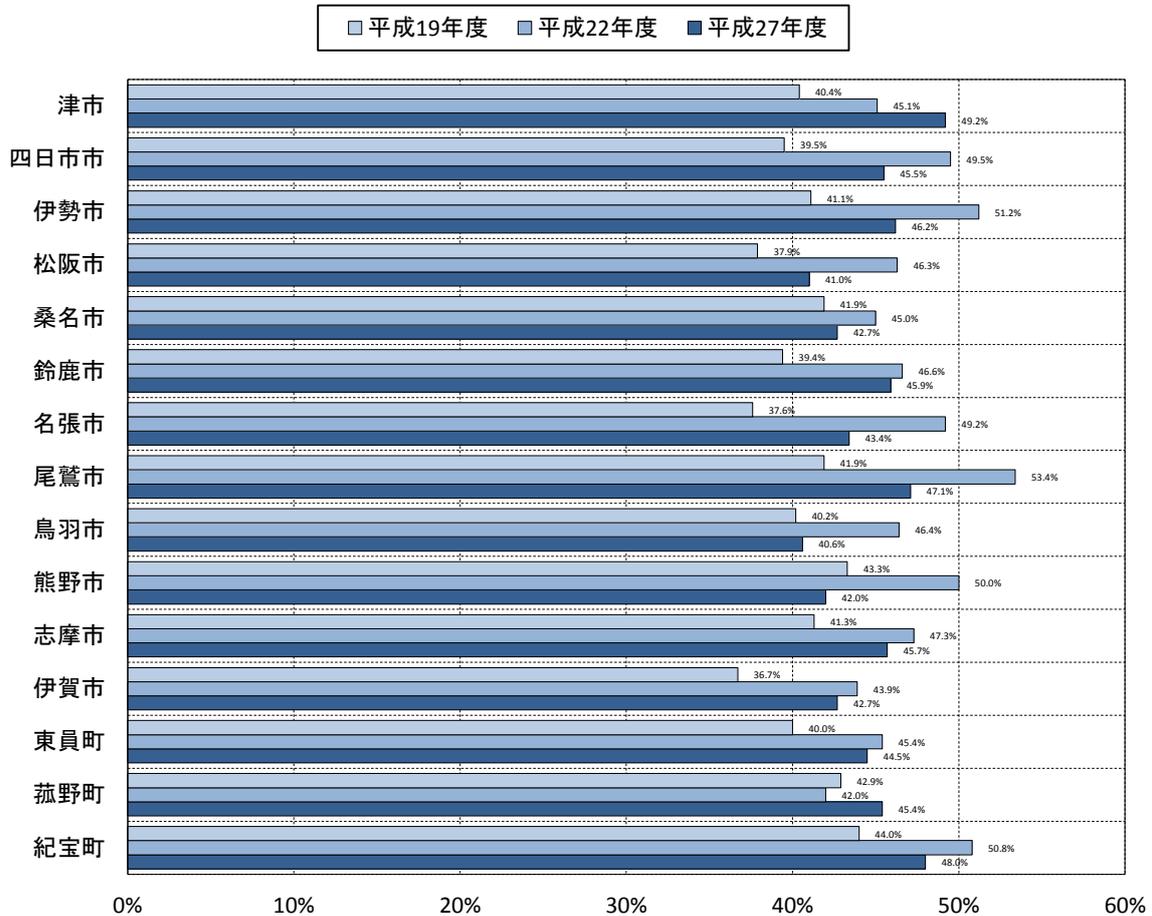


図 3-4 「目標指標3の市町別状況」

④ごみゼロ社会実現プランの認知率

ごみゼロ社会実現プランの認知率は、どの市町においても30%を超えており、平成27年度では、平成22年度との差が-5.0%から7.8%となっている。

ごみゼロ社会実現プランの認知率		平成19年度	平成22年度	平成27年度		
		率	率	率	平成19年度との差	平成22年度との差
1	津市	46.5%	36.3%	38.4%	-8.1%	2.1%
2	四日市市	42.0%	33.2%	34.5%	-7.5%	1.3%
3	伊勢市	55.7%	39.3%	46.6%	-9.1%	7.3%
4	松阪市	50.0%	39.3%	34.3%	-15.7%	-5.0%
5	桑名市	38.1%	35.5%	30.8%	-7.3%	-4.7%
6	鈴鹿市	42.3%	31.9%	33.7%	-8.6%	1.8%
7	名張市	52.7%	41.5%	49.3%	-3.4%	7.8%
8	尾鷲市	42.8%	40.9%	44.7%	1.9%	3.8%
9	鳥羽市	42.5%	37.3%	43.0%	0.5%	5.7%
10	熊野市	44.4%	37.1%	40.4%	-4.0%	3.3%
11	志摩市	46.8%	33.7%	34.9%	-11.9%	1.2%
12	伊賀市	49.6%	43.9%	39.5%	-10.1%	-4.4%
13	東員町	46.5%	34.3%	47.7%	1.2%	13.4%
14	菰野町	48.3%	39.0%	35.2%	-13.1%	-3.8%
15	紀宝町	34.3%	35.8%	37.6%	3.3%	1.8%

表 3-7 「目標指標4の市町別状況」

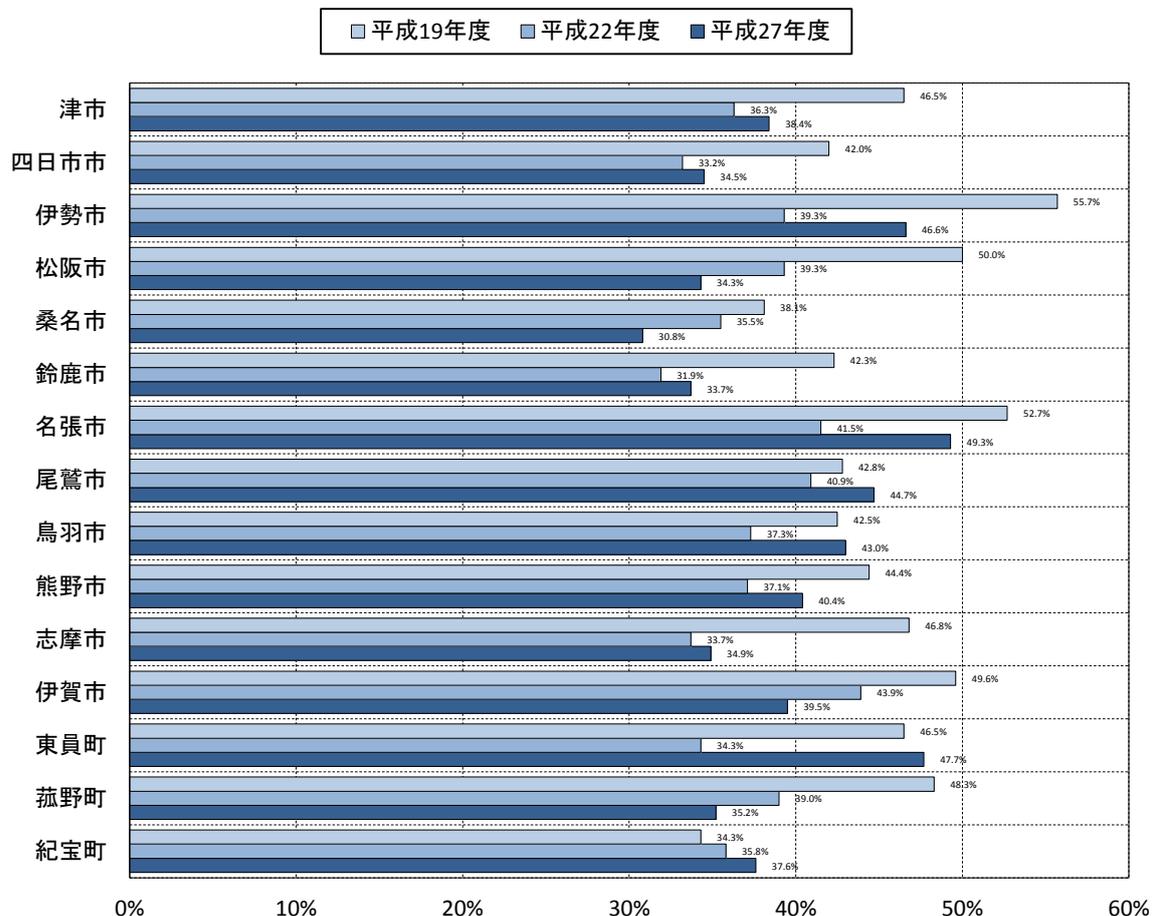


図 3-5 「目標指標4の市町別状況」

4 調査結果（統括：意識度）

県民アンケートの結果の総括は、意識に関する設問で、評価点方法を取り入れ意識度として評した。

意識度の算定方法は以下の通りである。

- ①：設問に対し選択肢が4個あり、選択肢が意識程度を示すものを抽出する。
- ②：各設問の解答数を単純集計する。
- ③：集計回答数に次の評価点を乗じ、合計点を算定する。
- ④：評価点

意識レベル	非常に高い	高い	低い	非常に低い
評価点	2	1	-1	-2

⑤：③の合計点を総回答数で除し平均点を求める。

⑥：⑤の平均点を満点の2点で除し、意識度とする。

意識度はゼロ%が平均値で、プラスであれば意識度は高く、マイナスであれば意識度は低いと判断した。究極の目標値は100%である。

意識度には無回答をゼロ点として含めている。無回答が多いと意識度がゼロに近づく。

平成16年度、平成19年度、平成22年度の調査で平成27年度と比較できるものは、上記と同じ算定方法で意識度を求め年度間の比較を行った（p.34 4-2、p39 4-3）。

4-1 平成27年度 意識度解析

意識度	50%以上	20 ~50%	0 ~20%	-20 ~0%	-20 ~-50%	-50%以下	計
質問数	4	9	3	5	1	2	24
割合	16.7%	37.5%	13.0%	21.0%	4.2%	8.0%	100.0%
質問数	16			8			24
割合	67.2%			33.2%			100.0%

表 4-1 平成27年度 意識度分布

平成27年度の県民調査では、意識度算定該当設問が24ある（表4-2）。内訳は、プラス意識度が16件（66.8%）、マイナス意識度が8件（33.2%）である（表4-3）。

特に意識度の高いもの（50%以上）は次の4件である。

- ・問11-3（商品についている容器や包装材は、もっとすくなくていいと思う）：68.0%
- ・問11-5（日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う）：75.7%
- ・問11-6（環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う）：64.7%
- ・問18（ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思っていますか？）：61.0%

特に意識度の低いもの（-50%以下）は次の2件である。

- ・問34（家庭から出されるごみを市町が処理するのに、どれくらい費用がかかっているかをご存知ですか？）：-64.4%
- ・問42-5（あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？）：-51.9%

マイナス意識度8件に対し、適切な施策を講じてプラス意識に変化させる必要がある。

選択肢	問11						問12				問14	
	問11-1	問11-2	問11-3	問11-4	問11-5	問11-6	問12-1	問12-2	問12-3	問12-4	問14-1	問14-2
1	875	717	1,507	457	1,911	1,554	156	380	486	594	377	207
2	1,456	1,638	1,245	1,304	867	1,073	849	955	1,322	1,041	1,533	1,120
3	522	492	178	860	141	267	1,282	1,162	916	859	628	887
4	95	102	15	277	19	31	662	447	199	415	404	717
5	31	30	34	81	41	54	30	35	56	70	37	48
計	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979
選択肢							問42					
	問18	問23	問25	問29	問34	問36	問42-1	問42-2	問42-3	問42-4	問42-5	問42-6
1	1,179	294	912	253	69	620	1,109	708	838	442	851	153
2	1,510	728	1,444	1,000	217	1,313	1,230	1,611	1,419	1,697	1,722	1,306
3	203	1,265	472	1,290	1,026	592	497	487	517	627	258	1,108
4	16	633	77	292	1,582	302	43	75	90	90	38	282
5	71	59	74	144	85	152	100	98	115	123	110	130
計	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979

表 4-2 「平成27年度 回答数」

平成27年度	問11						問12				問14	
	問11-1	問11-2	問11-3	問11-4	問11-5	問11-6	問12-1	問12-2	問12-3	問12-4	問14-1	問14-2
	不要なものが多い	捨てるもったいない	包装材は少しでよい	レンタル品に抵抗感なし	一人の行動が大きな影響	技術開発等が重要	不要なものを買う	修理より買換え	環境等考えずに選ぶ	新品を購入	食材を捨てる	食べ残しを捨てる
合計点	2,494	2,376	4,051	804	4,510	3,852	1,445	341	-980	-540	-851	787
平均点	0.837	0.798	1.360	0.270	1.514	1.293	0.485	0.114	-0.329	-0.181	-0.286	0.264
意識度	41.9%	39.9%	68.0%	13.5%	75.7%	64.7%	24.3%	5.7%	-16.5%	-9.1%	-14.3%	13.2%
平成27年度							問42					
	問18	問23	問25	問29	問34	問36	問42-1	問42-2	問42-3	問42-4	問42-5	問42-6
	資源として有効利用	処理・リサイクルの方法	分別の増加	リユースカップの使用	ごみの処理費用	ごみ収集の有料化	住民参加	要望・意見の反映	市町が主体	情報入手	時間・手間がかかり大変	計画づくりへの参画
合計点	3,633	-1,215	2,642	-368	-3,835	1,357	2,865	2,390	2,398	1,774	-3,090	-60
平均点	1.220	-0.408	0.887	-0.124	-1.287	0.456	0.962	0.802	0.805	0.596	-1.037	-0.020
意識度	61.0%	-20.4%	44.4%	-6.2%	-64.4%	22.8%	48.1%	40.1%	40.3%	29.8%	-51.9%	-1.0%

表 4-3 「平成27年度 算定結果」

平成27年度：意識度

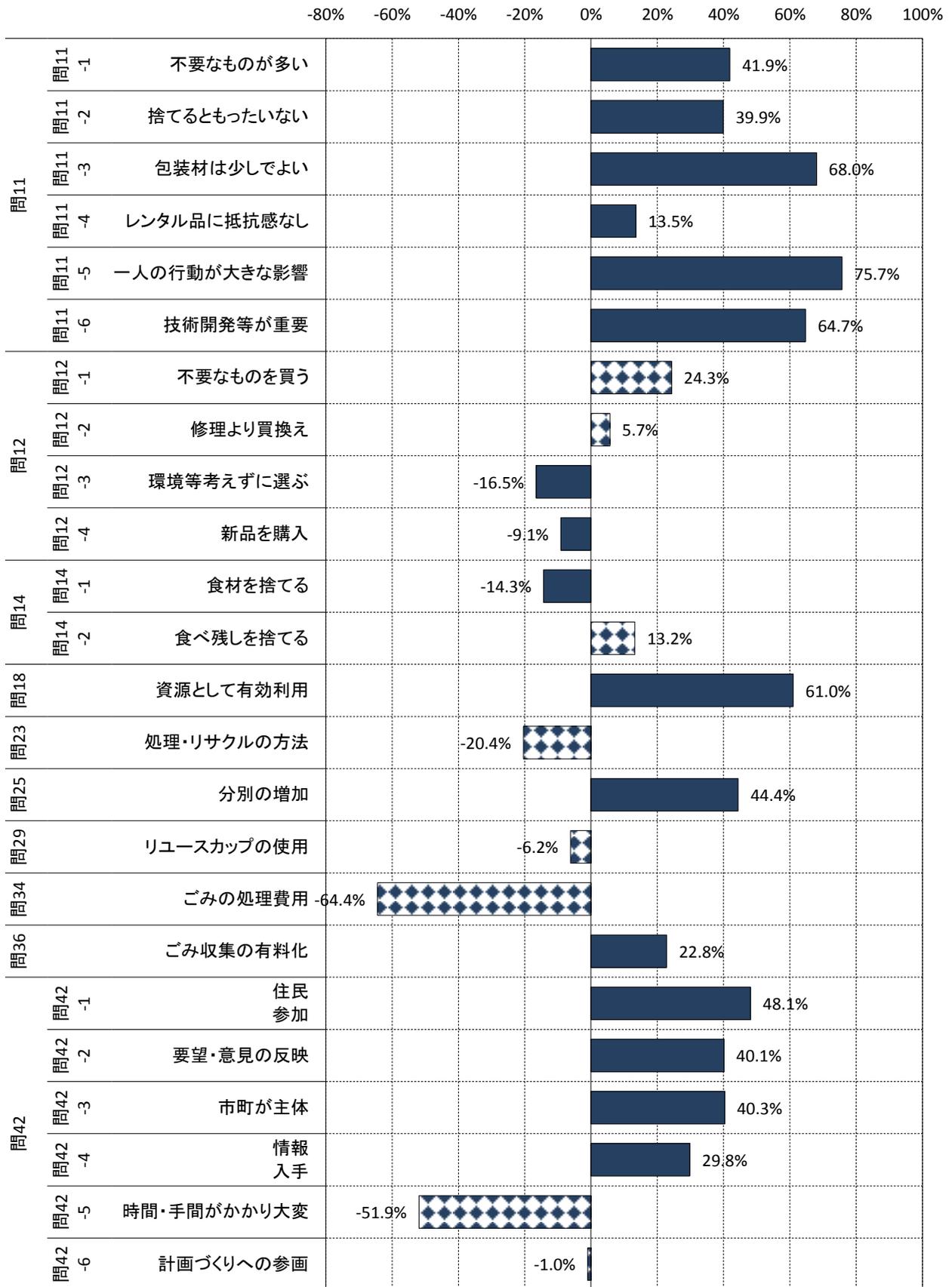


図 4-1 「平成27年度 意識度」

4-2 平成16年度・平成19年度・平成22年度・平成27年度 意識度比較

問11 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？
それぞれの考えについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

問11-3「商品についている容器や包装材は、もっとすくなくていいと思う。」については、68.0%で問11の中では最も高い意識度となっている。ただし、平成27年度は平成19、22年度よりも低下している。
問11全体での意識度は全てマイナスであり、毎日の暮らしの中での「もの」に対する意識度は低傾向にある。

年度	選択肢	問11						
		問11-1	問11-2	問11-3	問11-4	問11-5	問11-6	
		家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。	ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう。	商品についている容器や包装材は、もっとすくなくていいと思う。	レンタル製品など多くの方が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。	日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う。	環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う。	
平成16年度	1	とてもそう思う	1,192	1,277	2,444	622	—	—
	2	少しそう思う	1,831	1,980	1,055	1,543	—	—
	3	あまりそうは思わない	587	355	161	1,118	—	—
	4	まったくそうは思わない	83	79	29	334	—	—
	5	無回答	142	144	146	218	—	—
		計	3,835	3,835	3,835	3,835	—	—
平成19年度	1	とてもそう思う	1,137	1,265	2,356	637	—	—
	2	少しそう思う	1,824	1,888	1,069	1,578	—	—
	3	あまりそうは思わない	577	375	166	1,003	—	—
	4	まったくそうは思わない	73	87	19	338	—	—
	5	無回答	71	67	72	126	—	—
		計	3,682	3,682	3,682	3,682	—	—
平成22年度	1	とてもそう思う	1,013	1,098	1,882	556	2,230	1,702
	2	少しそう思う	1,535	1,626	1,078	1,364	769	1,074
	3	あまりそうは思わない	520	357	156	878	109	303
	4	まったくそうは思わない	71	54	17	301	19	36
	5	無回答	15	19	21	55	27	39
		計	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154	3,154
平成27年度	1	とてもそう思う	875	717	1,507	457	1,911	1,554
	2	少しそう思う	1,456	1,638	1,245	1,304	867	1,073
	3	あまりそうは思わない	522	492	178	860	141	267
	4	まったくそうは思わない	95	102	15	277	19	31
	5	無回答	31	30	34	81	41	54
		計	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979	2,979

表 4-4 「問11」回答数

問11		問11-1	問11-2	問11-3	問11-4	問11-5	問11-6
合計点	平成16年度	3,462	4,021	5,724	1,001	—	—
	平成19年度	3,375	3,869	5,577	1,173	—	—
	平成22年度	2,899	3,357	4,652	996	5,082	4,103
	平成27年度	2,494	2,376	4,051	804	4,510	3,852
平均点	平成16年度	0.9027	1.0485	1.4926	0.2610	—	—
	平成19年度	0.9166	1.0508	1.5147	0.3186	—	—
	平成22年度	0.9192	1.0644	1.4750	0.3158	1.6110	1.3010
	平成27年度	0.8370	0.7980	1.3600	0.2700	1.5140	1.2930
意識度	平成16年度	45.1%	52.4%	74.6%	13.1%	—	—
	平成19年度	45.8%	52.5%	75.7%	15.9%	—	—
	平成22年度	46.0%	53.2%	73.7%	15.8%	80.6%	65.0%
	平成27年度	41.9%	39.9%	68.0%	13.5%	75.7%	64.7%
意識度差	平成16年度	-3.2%	-12.5%	-6.6%	0.4%	—	—
	平成19年度	-3.9%	-12.6%	-7.7%	-2.4%	—	—
	平成22年度	-4.1%	-13.3%	-5.7%	-2.3%	-4.9%	-0.3%

表 4-5 「問11」算定結果

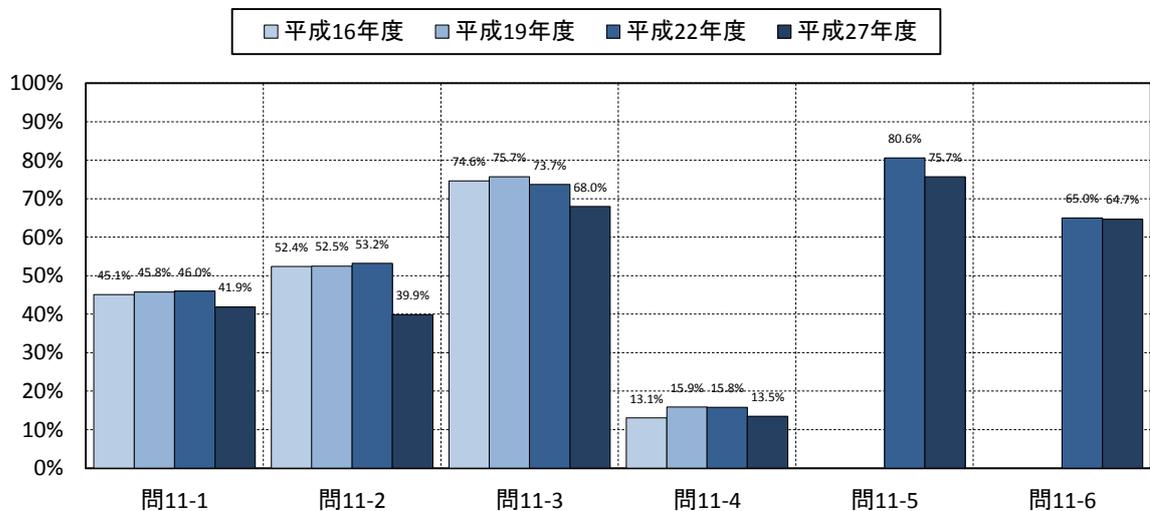


図 4-2 「問11」意識度年度比較

問12 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？
それぞれの考えについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

問12-1 「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ。」については、問2の中で最も高く、各年度と比べ若干高くなっている。
問12-2 「買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い換える。」については、各年度と比べ半分に低下している。
問12-3 「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。」、問12-4 「一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。」については、意識度はマイナスであり、特に問12-3は-17%前後で低い値を示しており「環境やごみを意識した商品選び」の意識度は低い。
「購入に関する行動」の意識度は、あまり高くないと思われる。

年度	選択肢		問12			
			問12-1	問12-2	問12-3	問12-4
			特価品や新品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ。	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い換える。	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。
平成16年度	1	よくあてはまる	215	455	670	789
	2	少しあてはまる	1,174	1,060	1,624	1,235
	3	あまりあてはまらない	1,450	1,432	1,121	1,050
	4	まったくあてはまらない	852	734	256	595
	5	無回答	144	154	164	166
			計	3,835	3,835	3,835
平成19年度	1	よくあてはまる	240	431	652	771
	2	少しあてはまる	1,131	1,108	1,601	1,209
	3	あまりあてはまらない	1,350	1,293	1,089	1,043
	4	まったくあてはまらない	888	764	260	567
	5	無回答	73	86	80	92
			計	3,682	3,682	3,682
平成22年度	1	よくあてはまる	204	379	533	637
	2	少しあてはまる	988	942	1,399	1,076
	3	あまりあてはまらない	1,205	1,185	952	883
	4	まったくあてはまらない	738	621	248	520
	5	無回答	19	27	22	38
			計	3,154	3,154	3,154
平成27年度	1	よくあてはまる	156	380	486	594
	2	少しあてはまる	849	955	1,322	1,041
	3	あまりあてはまらない	1,282	1,162	916	859
	4	まったくあてはまらない	662	447	199	415
	5	無回答	30	35	56	70
			計	2,979	2,979	2,979

表 4-6 「問12」回答数

	問12	問12-1	問12-2	問12-3	問12-4
合計点	平成16年度	1,550	930	-1,331	-573
	平成19年度	1,515	851	-1,296	-574
	平成22年度	1,285	727	-1,017	-427
	平成27年度	1,445	341	-980	-540
平均点	平成16年度	0.4042	0.2425	-0.3471	-0.1494
	平成19年度	0.4115	0.2311	-0.3520	-1.5590
	平成22年度	0.4074	0.2305	-0.3224	-0.1354
	平成27年度	0.4850	0.1140	-0.3290	-0.1810
意識度	平成16年度	20.2%	12.1%	-17.4%	-7.5%
	平成19年度	20.6%	11.6%	-17.6%	-7.8%
	平成22年度	20.4%	11.5%	-16.1%	-6.8%
	平成27年度	24.3%	5.7%	-16.5%	-9.1%
意識度差	平成16年度	4.1%	-6.4%	0.9%	-1.6%
	平成19年度	3.7%	-5.9%	1.1%	-1.3%
	平成22年度	3.9%	-5.8%	-0.4%	-2.3%

表 4-7 「問12」算定結果

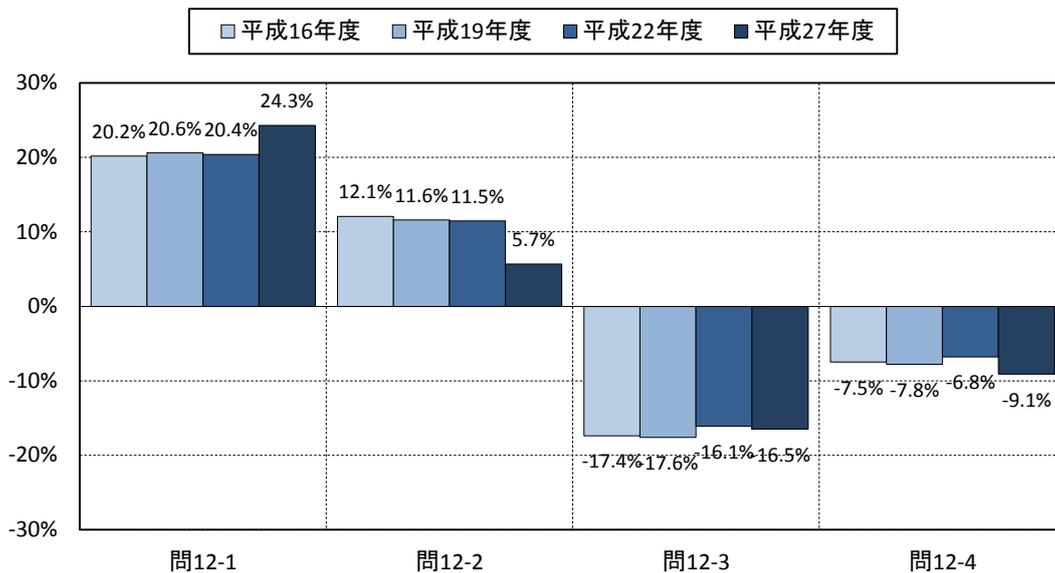


図 4-3 「問12」意識度年度比較

問14	食べ物のごみについてお聞きします。(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか。(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか。それぞれについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
問18	ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。
問36	出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

問14-1「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？」については、意識度は各年度でマイナスであり、平成22年度までは年々上がっていたが、平成27年度は平成22年度に対して約4%下がっている食材の購入量や食材の選び方に改善が必要であると思われる。

問14-2「食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？」についての意識度は、平成22年度と比べ低下している。

問18の「ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきか」に対しては、意識度は年々低下してきている。

問36の「出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみ有料化」に対しては、平成19年度をピークに年々低下してきている。

年度	選択肢			問14-1	問14-2	問18	問36	
	番号	問14 選択肢	問18 選択肢	問23 選択肢	使い切れ なかったり賞味期 限が切れ たために 食材を捨 ててしま うことは ありませ うか？	食べきれ ず、料理 を捨てて しまうこ はありま すか？	ごみは手 間やコス トをかけ てでも、 できるだ け資源と して有効 利用すべ きだと思 いますか？	出したご みの量に 応じて、 多く出し た者が多 く負担す るごみの 有料化に ついてど う思いま すか？
平成 16 年度	1	よくある	とてもそう思う	賛成	651	400	2,293	1,064
	2	たまにある	少しそう思う	どちらかという と賛成	2,004	1,578	1,320	1,460
	3	あまりない	あまり そうは思わない	どちらかという と反対	642	970	142	653
	4	ほとんどない	まったく そうは思わない	反対	494	845	28	400
	5	無回答	無回答	無回答	44	42	52	258
	計				3,835	3,835	3,835	3,835
平成 19 年度	1	よくある	とてもそう思う	賛成	624	368	2,057	1,149
	2	たまにある	少しそう思う	どちらかという と賛成	1,843	1,410	1,333	1,474
	3	あまりない	あまり そうは思わない	どちらかという と反対	651	928	194	577
	4	ほとんどない	まったく そうは思わない	反対	502	906	26	316
	5	無回答	無回答	無回答	62	70	72	166
	計				3,682	3,682	3,682	3,682
平成 22 年度	1	よくある	とてもそう思う	賛成	402	199	1,474	744
	2	たまにある	少しそう思う	どちらかという と賛成	1,571	1,119	1,402	1,353
	3	あまりない	あまり そうは思わない	どちらかという と反対	624	886	196	644
	4	ほとんどない	まったく そうは思わない	反対	541	930	25	309
	5	無回答	無回答	無回答	16	20	57	104
	計				3,154	3,154	3,154	3,154
平成 27 年度	1	よくある	とてもそう思う	賛成	377	207	1,179	620
	2	たまにある	少しそう思う	どちらかという と賛成	1,533	1,120	1,510	1,313
	3	あまりない	あまり そうは思わない	どちらかという と反対	628	887	203	592
	4	ほとんどない	まったく そうは思わない	反対	404	717	16	302
	5	無回答	無回答	無回答	37	48	71	152
	計				2,979	2,979	2,979	2,979

表 4-8 「問14・問18・問36」回答数

		問14-1	問14-2	問18	問36
合計点	平成16年度	-1,676	282	5,708	2,135
	平成19年度	-1,436	594	5,201	2,563
	平成22年度	-669	1,229	4,104	1,579
	平成27年度	-851	787	3,633	1,357
平均点	平成16年度	-0.4370	0.0735	1.4884	0.5567
	平成19年度	-0.3900	0.1613	1.4125	0.6961
	平成22年度	-0.2121	0.3897	1.3012	0.5006
	平成27年度	-0.2860	0.2640	1.2200	0.4560
意識度	平成16年度	-21.9%	3.7%	74.4%	27.8%
	平成19年度	-19.5%	8.1%	70.6%	34.8%
	平成22年度	-10.6%	19.5%	65.1%	25.0%
	平成27年度	-14.3%	13.2%	61.0%	22.8%
意識度差	平成16年度	7.6%	9.5%	-13.4%	-5.0%
	平成19年度	5.2%	5.1%	-9.6%	-12.0%
	平成22年度	-3.7%	-6.3%	-4.1%	-2.2%

表 4-9 「問14・問18・問36」算定結果

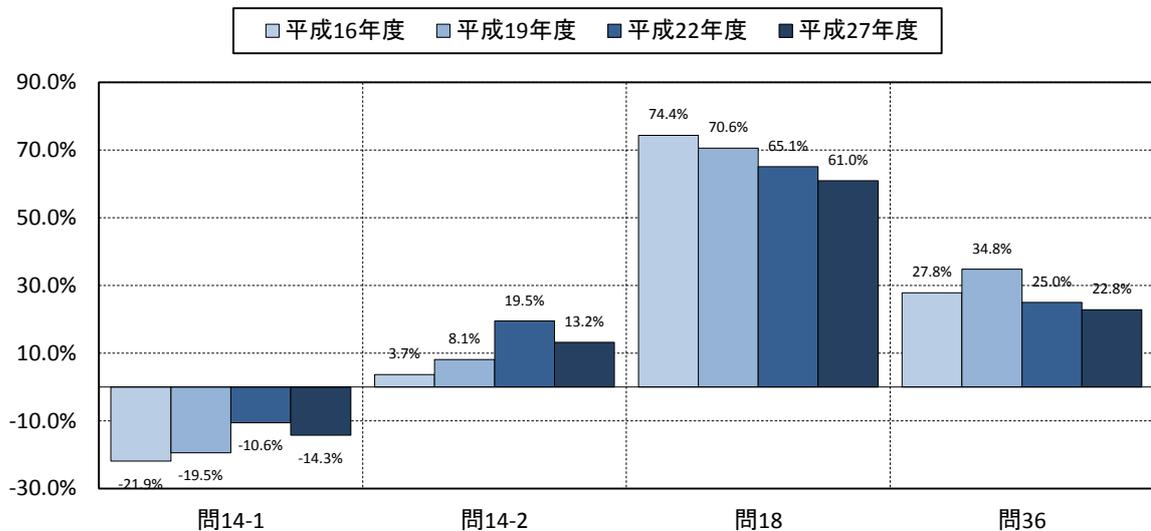


図 4-4 「問14・問18・問36」意識度年度比較

4-3 平成19年度・平成22年度・平成27年度 意識度比較

問25	ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？ あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。
問42 1・2・3	ごみ処理のあり方や具体的にごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きます。 それぞれの意見について、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。

問25「ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？」については、平成27年度は平成22年度より約5%低下している。
問42-1「計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？」については、平成27年度は平成22年度より約9%低下している。
問42-2「計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？」については、平成27年度は平成22年度より約6%低下している。
問42-3「計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？」についての意識度は40%弱であり、平成27年度は平成22年度に対し若干高くなっている。

年度	選択肢		問25 ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？	問42			
				問42-1	問42-2	問42-3	
				問42-1 計画づくりに、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？	問42-2 計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思えますか？	問42-3 計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？	
番号	問25 選択肢	問42 選択肢					
平成19年度	1	賛成	とてもそう思う	1,411	1,715	1,172	1,077
	2	どちらかとうと賛成	少しそう思う	1,584	1,466	1,835	1,495
	3	どちらかとうと反対	あまりそうは思わない	446	320	481	747
	4	反対	まったくそうは思わない	70	37	54	185
	5	無回答	無回答	171	144	140	178
	計			3,682	3,682	3,682	3,682
平成22年度	1	賛成	とてもそう思う	1,152	1,317	865	942
	2	どちらかとうと賛成	少しそう思う	1,449	1,381	1,718	1,418
	3	どちらかとうと反対	あまりそうは思わない	410	335	423	566
	4	反対	まったくそうは思わない	94	28	51	110
	5	無回答	無回答	49	93	97	118
	計			3,154	3,154	3,154	3,154
平成27年度	1	賛成	とてもそう思う	912	1,109	708	838
	2	どちらかとうと賛成	少しそう思う	1,444	1,230	1,611	1,419
	3	どちらかとうと反対	あまりそうは思わない	472	497	487	517
	4	反対	まったくそうは思わない	77	43	75	90
	5	無回答	無回答	74	100	98	115
	計			2,979	2,979	2,979	2,979

表 4-10 「問25・問42-1・2・3」回答数

		問25	問42-1	問42-2	問42-3
合計点	平成19年度	3,820	4,502	3,590	2,532
	平成22年度	3,155	3,624	2,923	2,516
	平成27年度	2,642	2,865	2,390	2,398
平均点	平成19年度	1.0375	1.2227	0.9750	0.6877
	平成22年度	1.0003	1.1490	0.9268	0.7977
	平成27年度	0.8870	0.9620	0.8020	0.8050
意識度	平成19年度	51.9%	61.1%	48.8%	34.4%
	平成22年度	50.0%	57.5%	46.3%	39.9%
	平成27年度	44.4%	48.1%	40.1%	40.3%
意識度差	平成19年度	-7.5%	-13.0%	-8.7%	5.9%
	平成22年度	-5.6%	-9.4%	-6.2%	0.4%

表 4-11 「問25・問42-1・2・3」算定結果

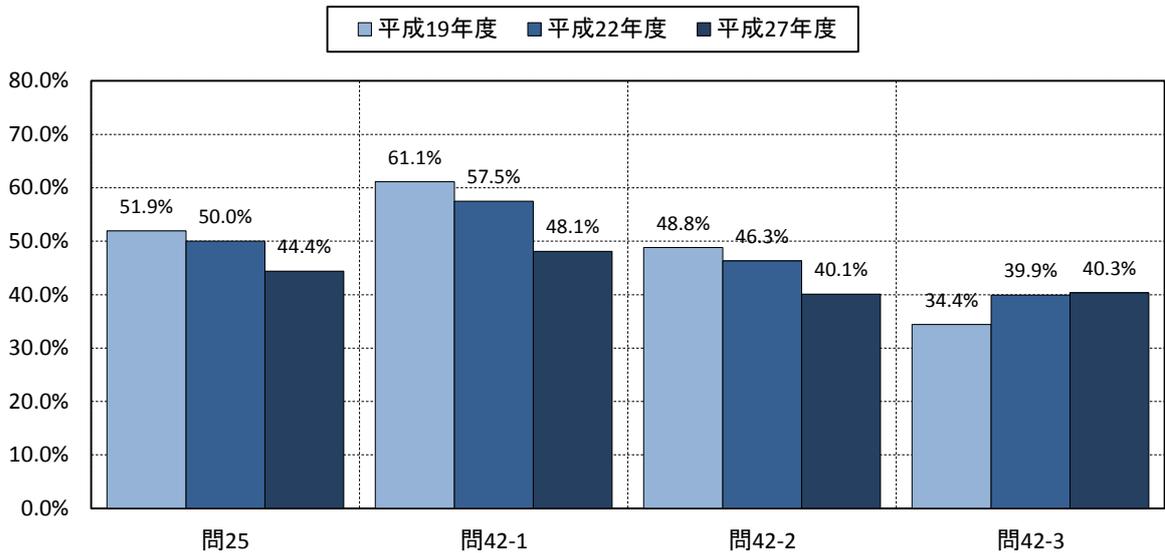


図 4-5 「問14・問18・問36」意識度年度比較

<p>問42 4・5・6</p>	<p>ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きます。 それぞれの意見について、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。</p>
----------------------	---

問42-4「あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思っていますか？」については、平成27年度は平成22年度より約6%低下している。

問42-5「あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？」については、各年度ともに意識度は-50%前後でかなり低い。平成27年度は平成22年度より約1%低下している。

問42-6「今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？」については、平成27年度の意識度はマイナスであり、平成22年度と比べ約6%低下している。

年度	選択肢	問42-4	問42-5	問42-6
		あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？	あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？	今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？
平成19年度	1 とてもそう思う	809	1,063	323
	2 少しそう思う	1,955	2,061	1,772
	3 あまりそうは思わない	671	327	1,134
	4 まったくそうは思わない	88	65	277
	5 無回答	159	166	176
	計	3,682	3,682	3,682
平成22年度	1 とてもそう思う	593	929	224
	2 少しそう思う	1,802	1,786	1,487
	3 あまりそうは思わない	558	275	1,038
	4 まったくそうは思わない	85	48	279
	5 無回答	116	116	126
	計	3,154	3,154	3,154
平成27年度	1 とてもそう思う	442	851	153
	2 少しそう思う	1,697	1,722	1,306
	3 あまりそうは思わない	627	258	1,108
	4 まったくそうは思わない	90	38	282
	5 無回答	123	110	130
	計	2,979	2,979	2,979

表 4-12 問42-4・5・6 回答数

		問42-4	問42-5	問42-6
合計点	平成19年度	2,726	-3,730	730
	平成22年度	2,260	-3,273	339
	平成27年度	1,774	-3,090	-60
平均点	平成19年度	0.7404	-1.0130	0.1983
	平成22年度	0.7166	-1.0377	0.1075
	平成27年度	0.5960	-1.0370	-0.0200
意識度	平成19年度	37.0%	-50.7%	9.9%
	平成22年度	35.8%	-51.9%	5.4%
	平成27年度	29.8%	-51.9%	-1.0%
意識度差	平成19年度	-7.2%	-1.2%	-10.9%
	平成22年度	-6.0%	0.0%	-6.4%

表 4-13 問42-4・5・6 回答

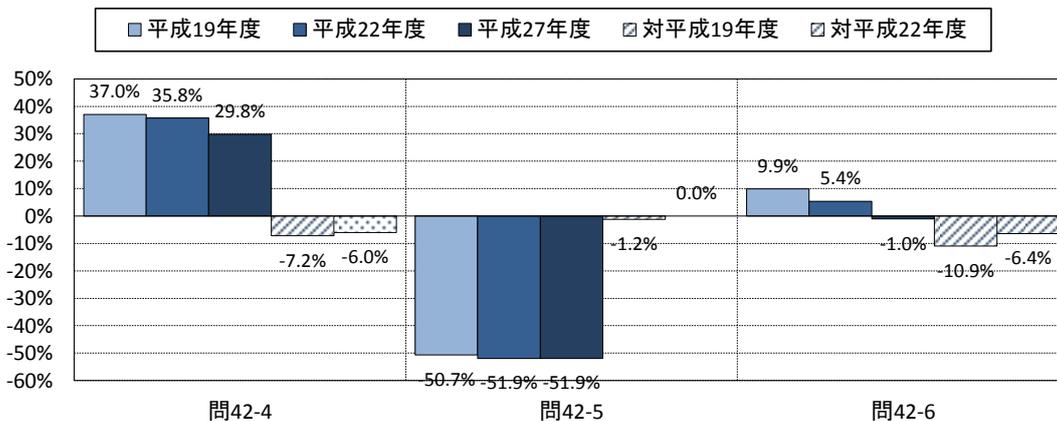


図 4-6 問42-4・5・6 意識度年度比較

5 調査結果（詳細）

5-1 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動について

問11 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？（〇は1つずつ）

(1) 家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。

「あまり必要ないものがたくさんあると思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が78.3%となっている。
 市町別では、上記の計が72.1%から83.2%で大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が70.9%から85.2%で大きな偏りはみられない。
 分別行動別では、上記の計が70%から79.9%で大きな偏りはみられない。
 全体的に、「あまり必要ないものがたくさんある」割合が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	875	29.4%
2	少しそう思う	1,456	48.9%
3	あまりそうは思わない	522	17.5%
4	まったくそうは思わない	95	3.2%
99	無回答	31	1.0%
有効回答数		2,979	100.0%

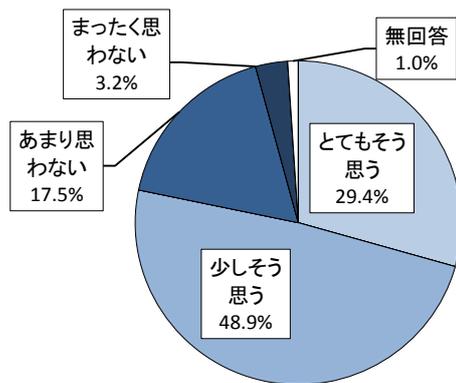


表 5-1-1 「あまり必要ないものがたくさんある」回答状況

図 5-1-1 「あまり必要ないものがたくさんある」回答率

② 市町別集計

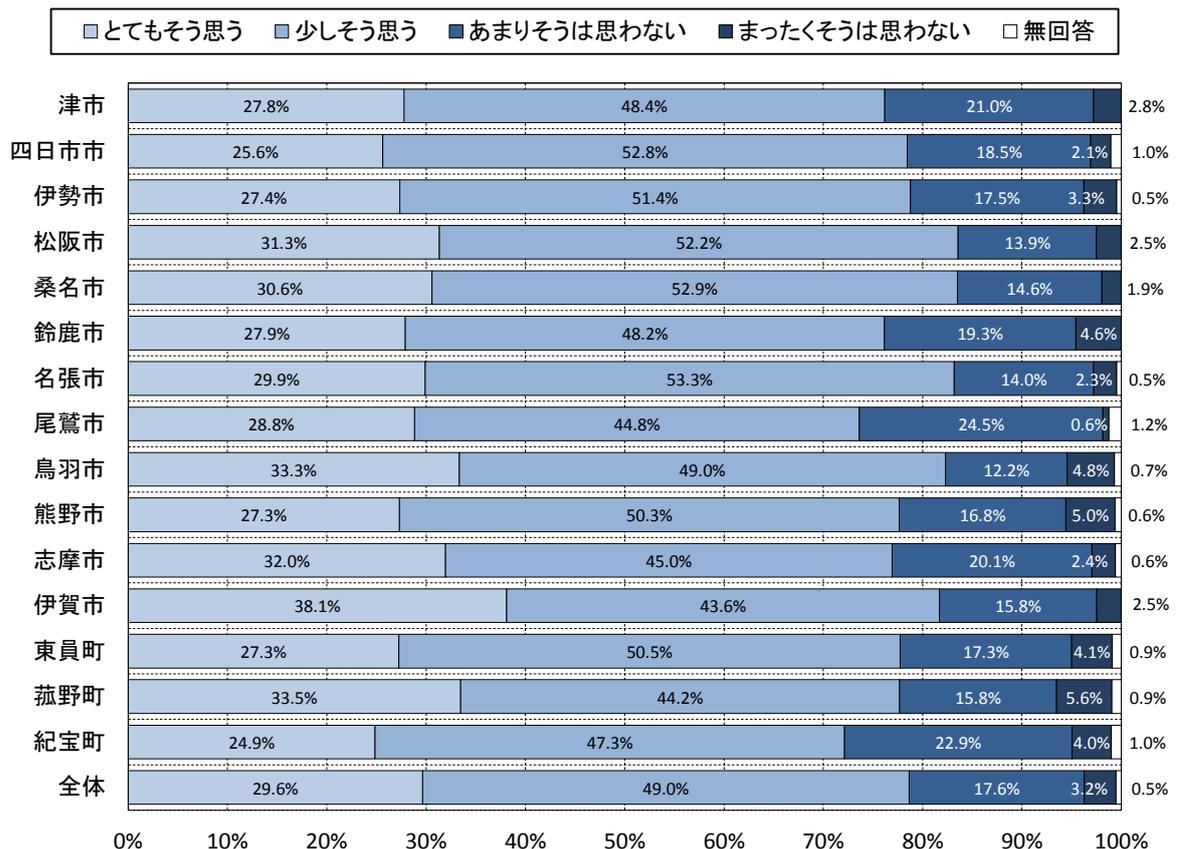


図 5-1-2 「市町別 あまり必要ないものがたくさんある」回答率

③ 年代別集計

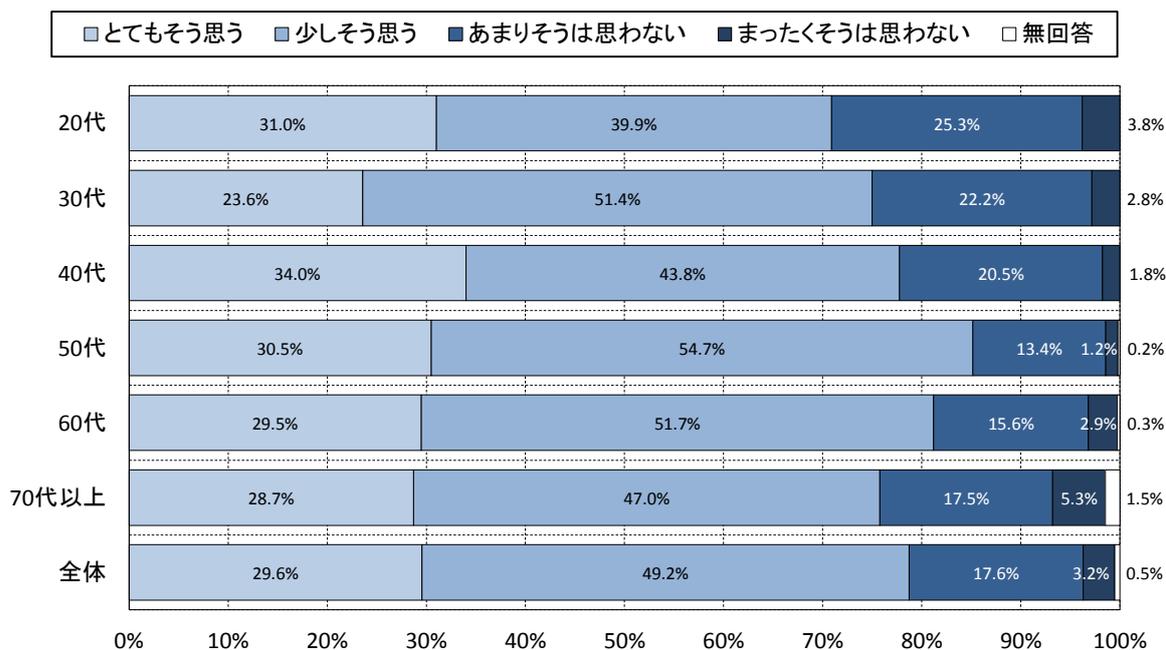


図 5-1-3 「年代別 あまり必要ないものがたくさんある」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

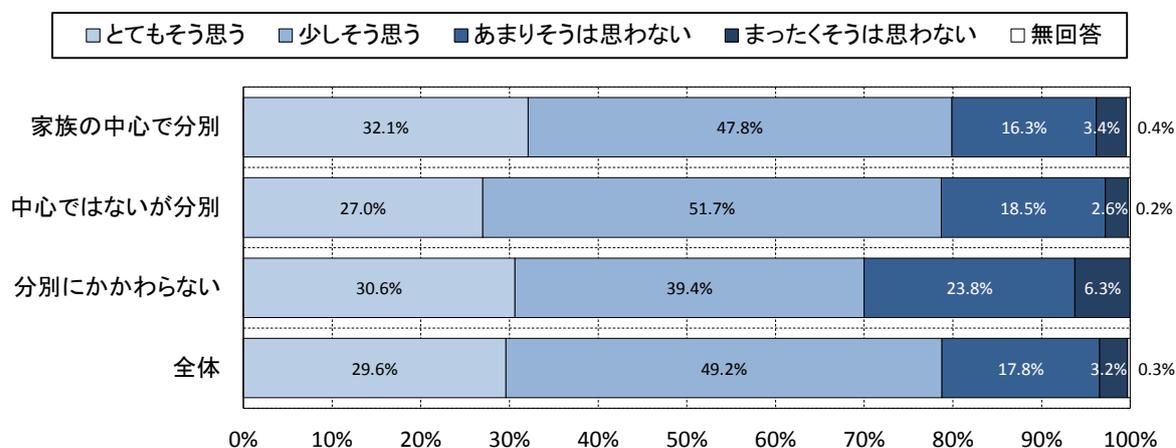


図 5-1-4 「分別行動別 あまり必要ないものがたくさんある」回答率

(2) ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう。

「ものを捨てる時に『もったいない』と思うか」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が79.1%となっている。
 市町別では、上記の計が73.6から86.1%で大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が69%から82.2%で世代が若くなるにつれ低くなっている。
 分別行動別では、上記の計が66.3%から81.1%で「ごみの分別にはあまりかかわらない」が他と比べ低くなっている。
 全体的に「ものを捨てる時、つい『もったいない』と思う」割合が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	717	24.1%
2	少しそう思う	1,638	55.0%
3	あまりそうは思わない	492	16.5%
4	まったくそうは思わない	102	3.4%
99	無回答	30	1.0%
有効回答数		2,979	100.0%

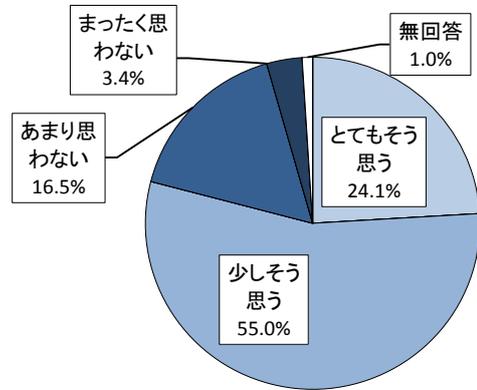


表 5-1-2 「捨てる時『もったいない』と思う」回答状況

図 5-1-5 「捨てる時『もったいない』と思う」回答率

② 市町別集計

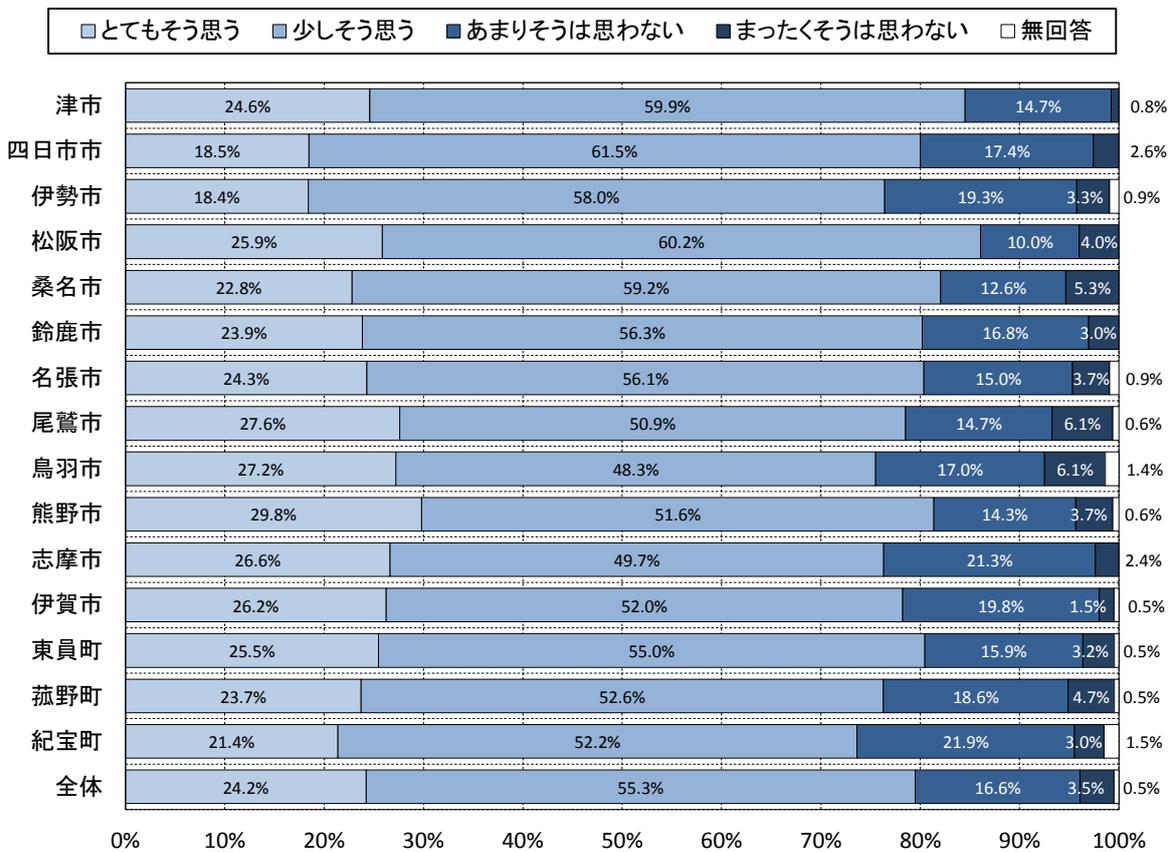


図 5-1-6 「市町別 捨てる時『もったいない』と思う」回答率

③ 年代別集計

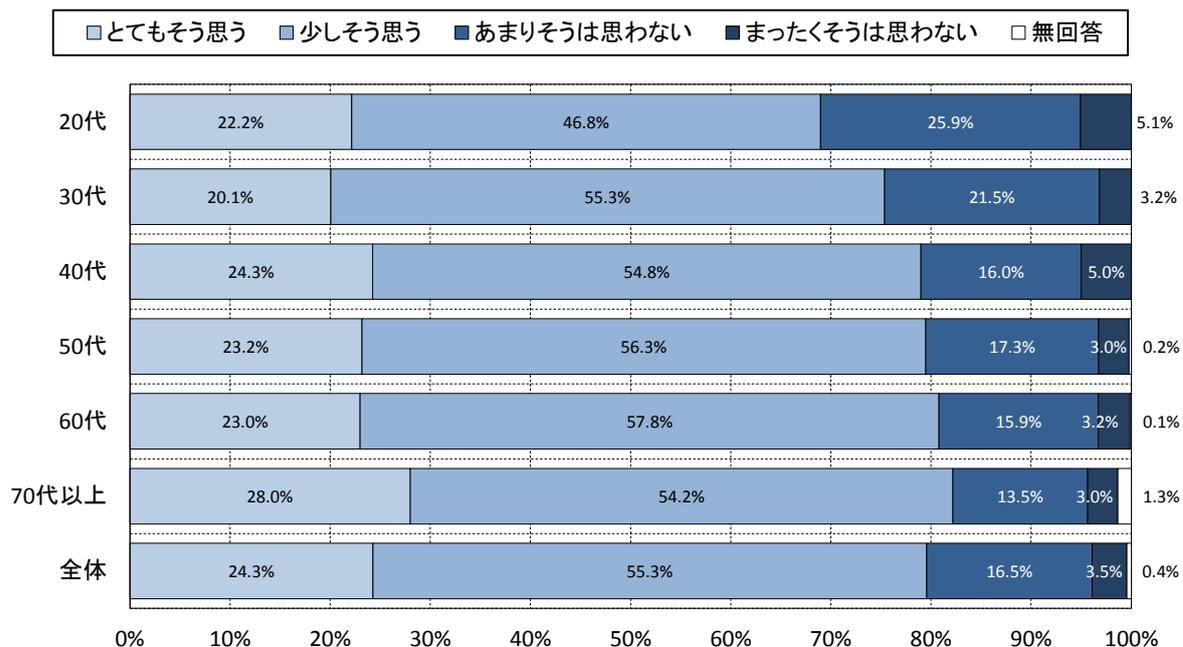


表 5-1-7 「年代別 捨てる時『もったいない』と思う」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

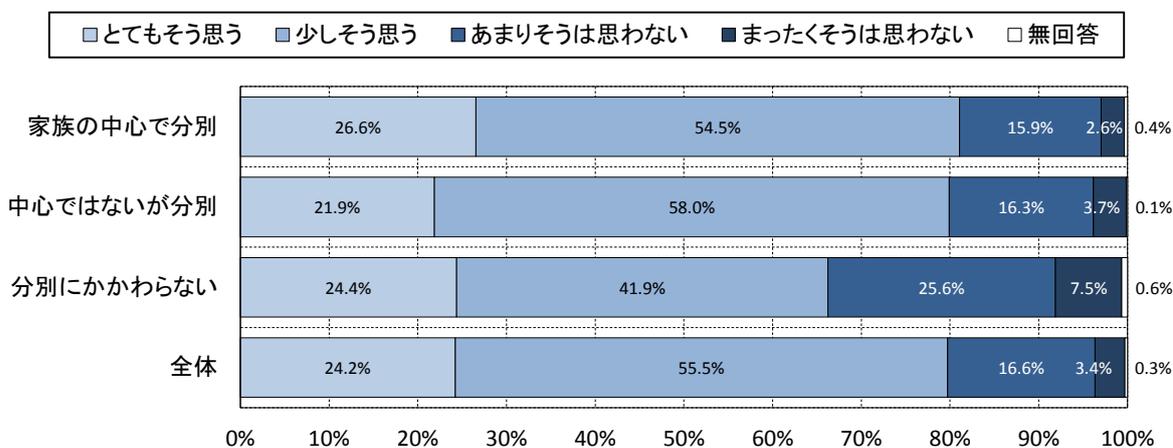


図 5-1-8 「分別行動別 捨てる時『もったいない』と思う」回答率

(3) 商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う

商品の過剰包装については、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が92.4%となっている。市町別では、上記の計が88.6%から95.8%で大きな偏りはみられない。年代別では、上記の計が86.7%から93.7%で大きな偏りはみられない。分別行動別では、上記の計が87.5%から93.6%で大きな偏りはみられない。全体的に「容器や包装材はもっと少なくていい」割合が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,507	50.6%
2	少しそう思う	1,245	41.8%
3	あまりそうは思わない	178	6.0%
4	まったくそうは思わない	15	0.5%
99	無回答	34	1.1%
有効回答数		2,979	100.0%

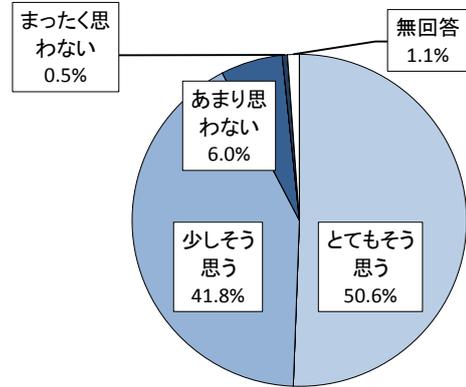


表 5-1-3 「容器や包装材は少なくていい」回答状況

図 5-1-9 「容器や包装材は少なくていい」回答率

② 市町別集計

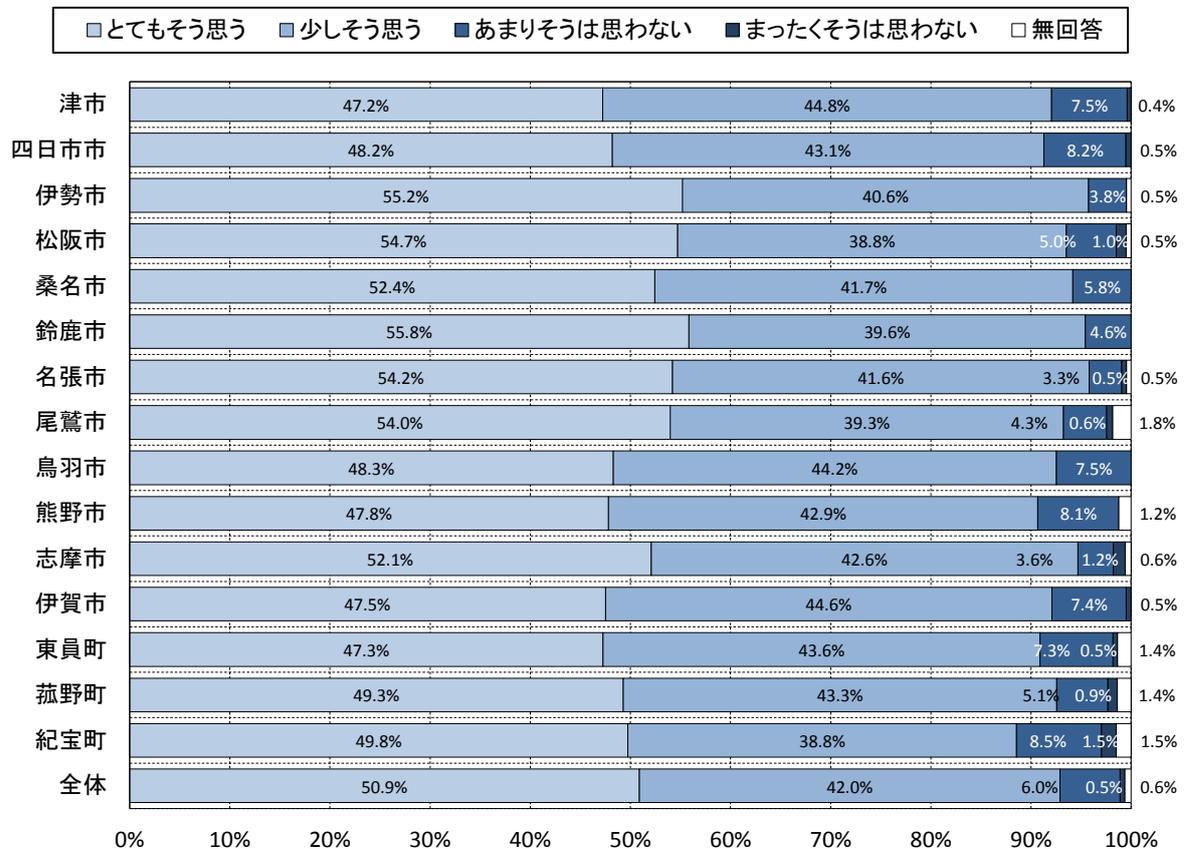


図 5-1-10 「市町別 容器や包装材は少なくていい」回答率

③ 年代別集計

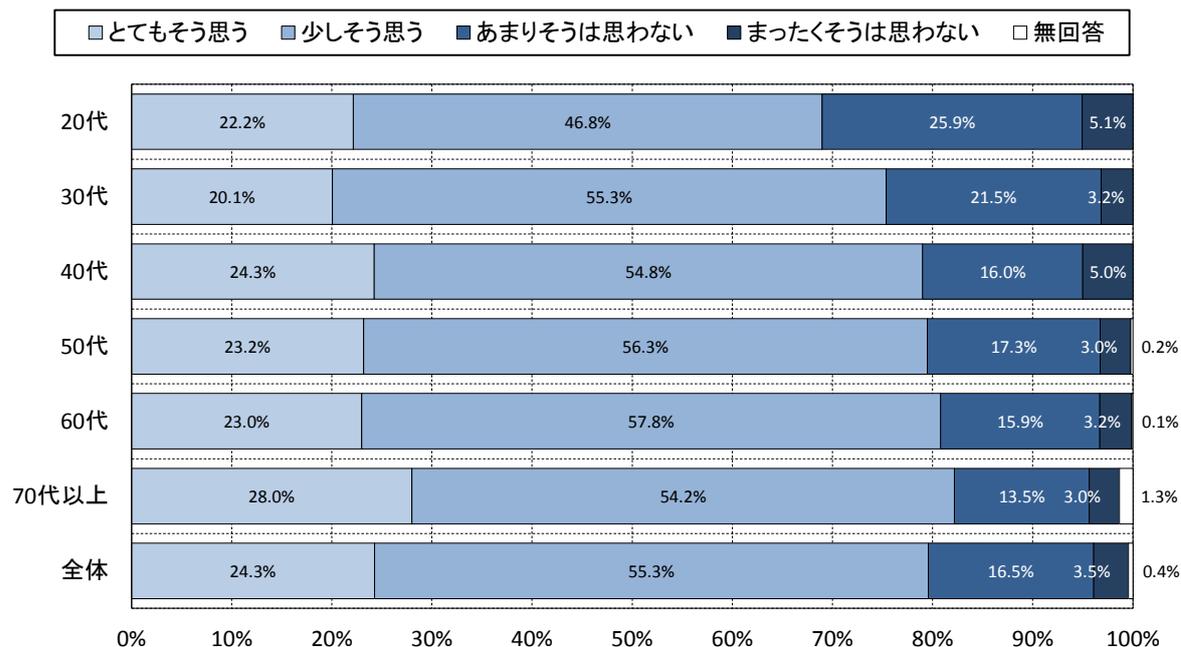


図 5-1-11 「年代別 容器や包装材は少なくていい」回答率

④ 分別へのかかわり集計

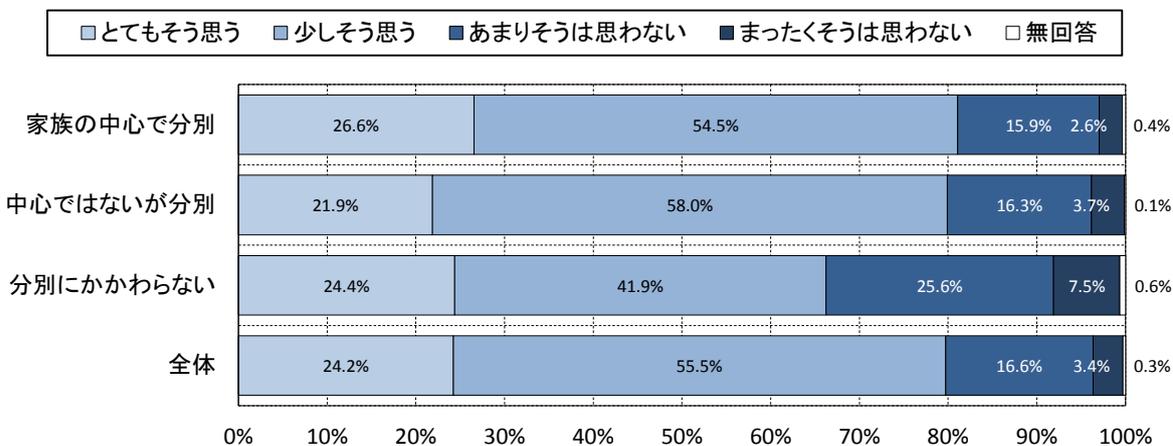


図 5-1-12 「分別行動別 容器や包装材は少なくていい」回答率

(4) レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。

「多くの人が使いまわすものに抵抗感はないか」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が59.1%となっている。
 市町別では、上記の計が54.5%から65.8%で大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が58.4%から62%で大きな偏りはみられないが、若い世代ほど「とてもそう思う」が高い傾向になっている。
 分別行動別では、上記の計が51.3%から60.2%であり、分別にかかわる人ほど高くなる傾向が見られる。
 全体的に「使いまわすものでも、抵抗感はない」割合がやや高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	457	15.3%
2	少しそう思う	1,304	43.8%
3	あまりそうは思わない	860	28.9%
4	まったくそうは思わない	277	9.3%
99	無回答	81	2.7%
有効回答数		2,979	100.0%

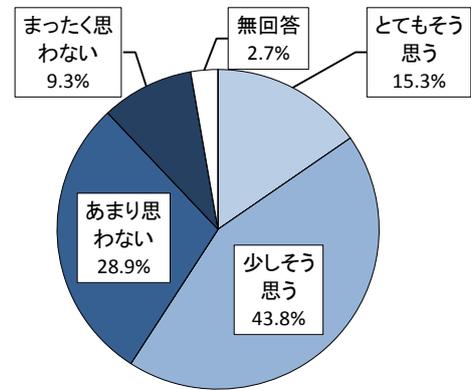


表 5-1-4 「使いまわすものでも、抵抗感はない」回答状況

図 5-1-13 「使いまわすものでも、抵抗感はない」回答率

② 市町別集計

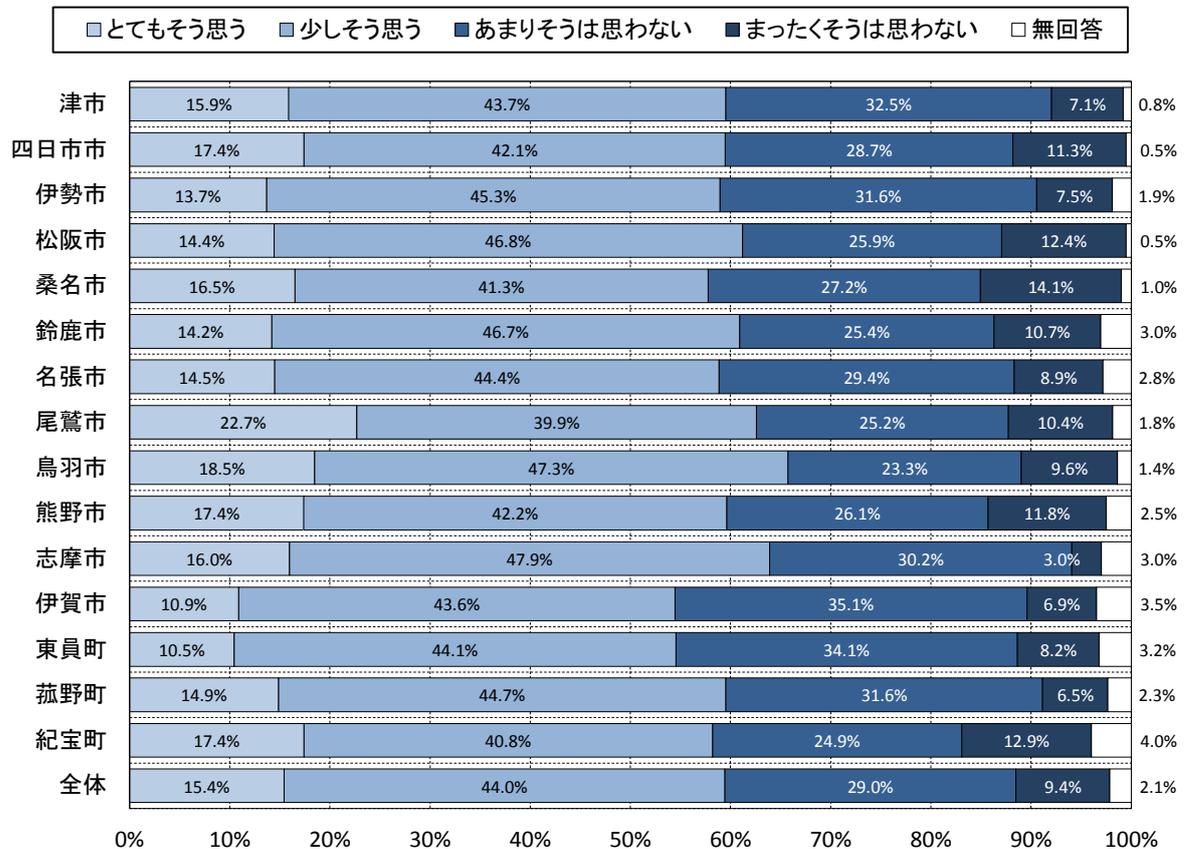


図 5-1-14 「市町別 使いまわすものでも、抵抗感はない」回答率

③ 年代別集計

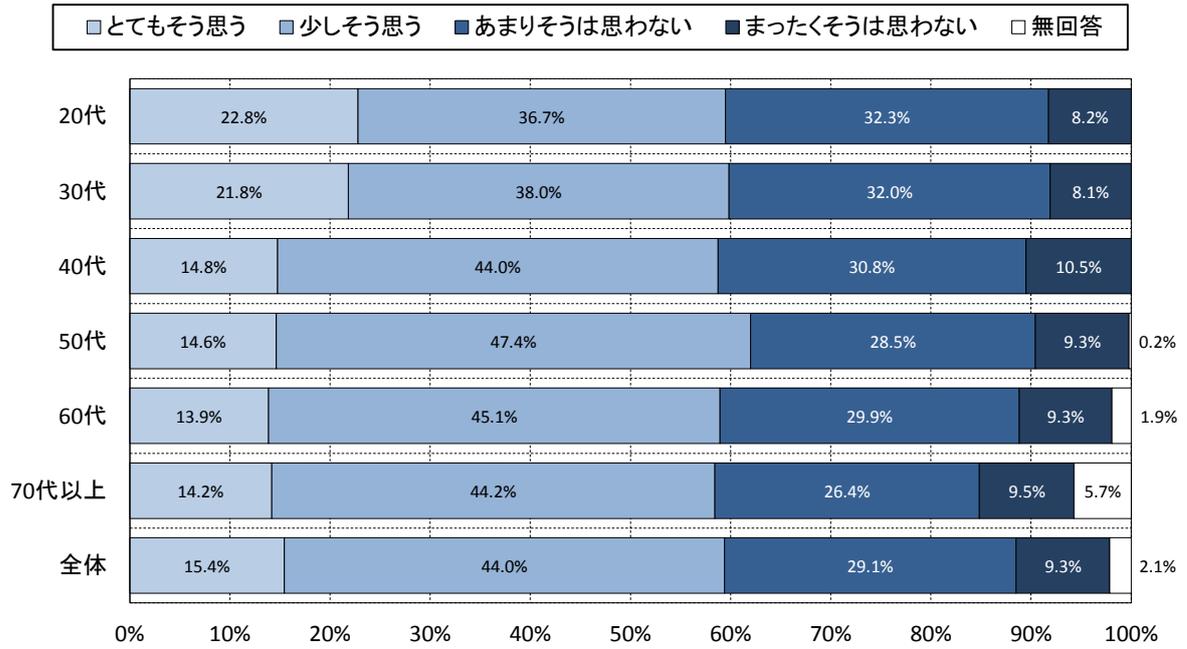


図 5-1-15 「年代別 使いまわすものでも、抵抗感はない」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

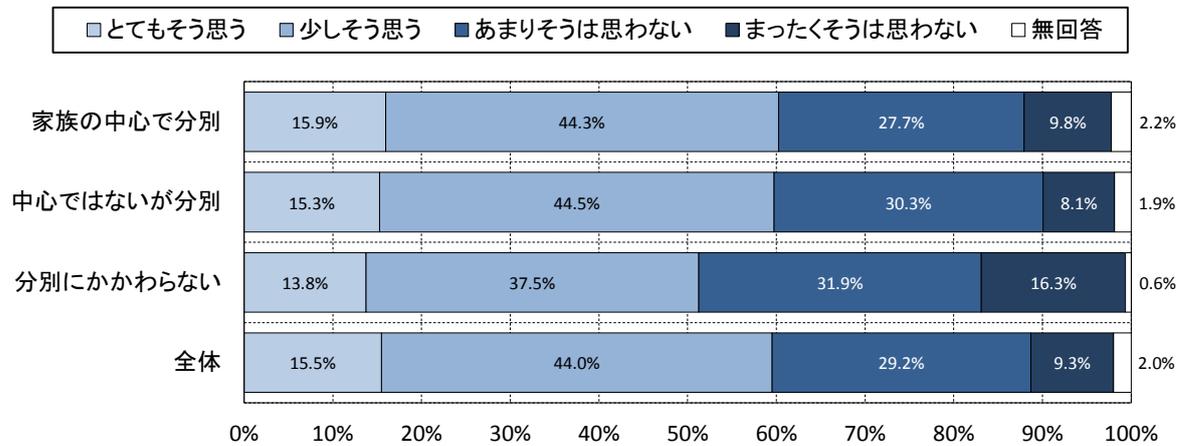


図 5-1-16 「分別行動別 使いまわすものでも、抵抗感はない」回答率

(5) 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う。

「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」という問いに対しては、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が93.0%となっている。
 市町別では、上記の計が89.6%から96.4%で大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が90.5%から96.5%で大きな偏りはみられない。
 分別行動別では、上記の計が85%から95.2%であり、分別にかかわる人ほど高くなる傾向が見られる。
 全体的に「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」割合が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,911	64.0%
2	少しそう思う	867	29.0%
3	あまりそうは思わない	141	5.0%
4	まったくそうは思わない	19	0.6%
99	無回答	41	1.4%
有効回答数		2,979	100.0%

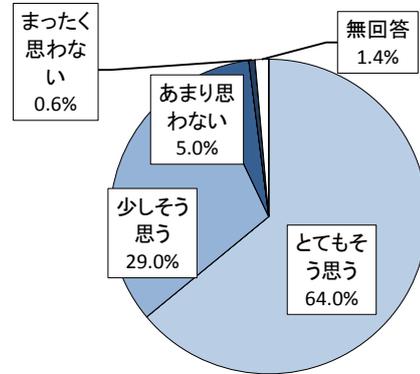


表 5-1-5 「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」回答状況

図 5-1-17 「一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」回答率

② 市町別集計

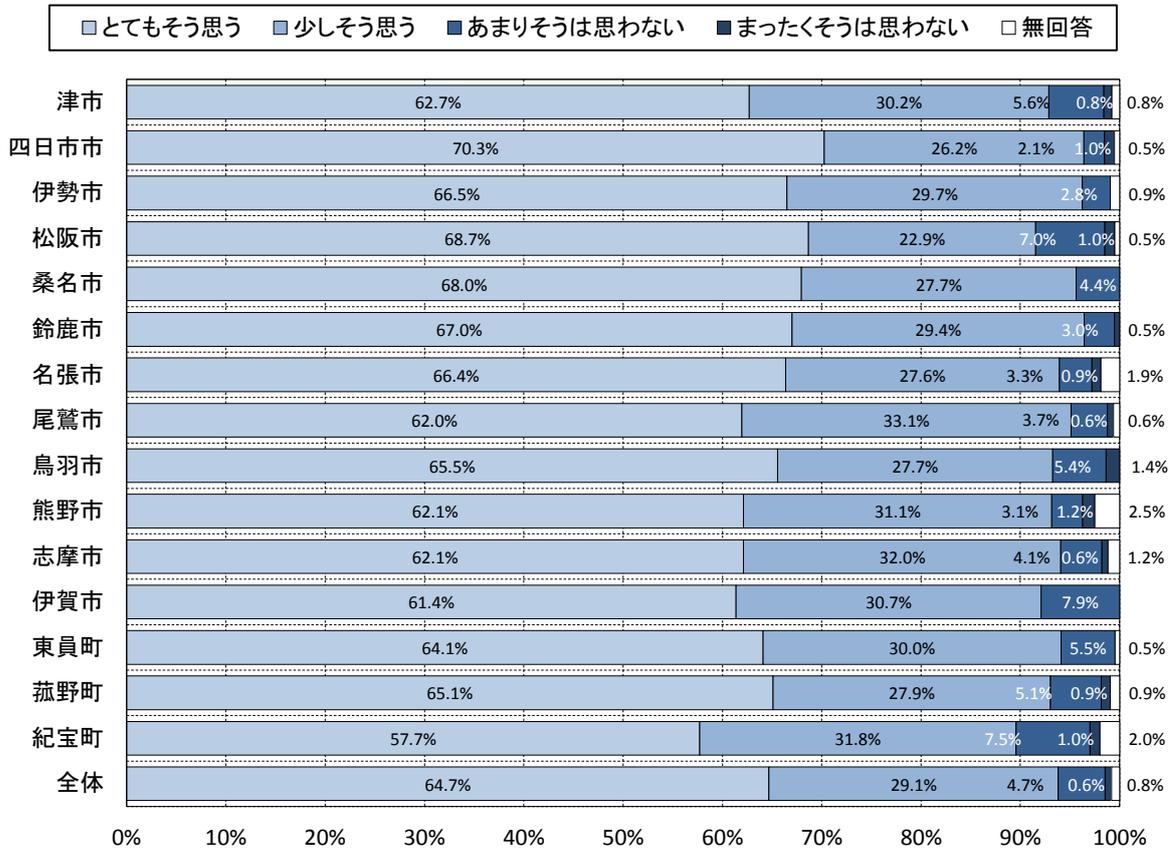


図 5-1-18 「市町別 一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」回答率

③ 年代別集計

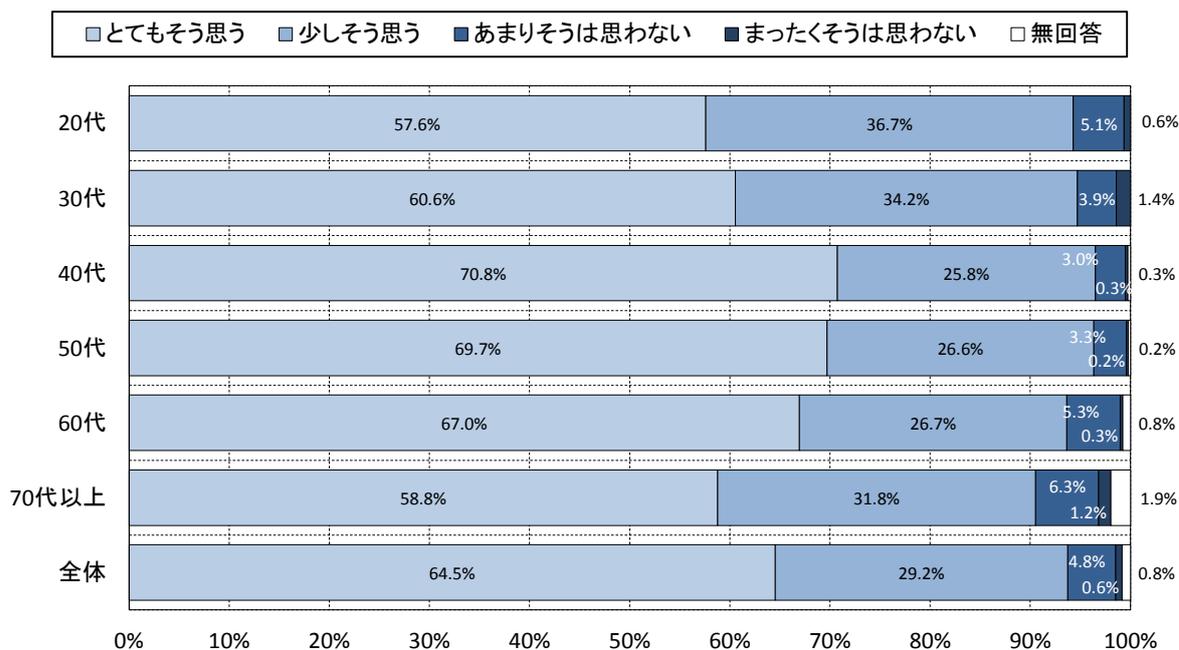


図 5-1-19 「年代別 一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

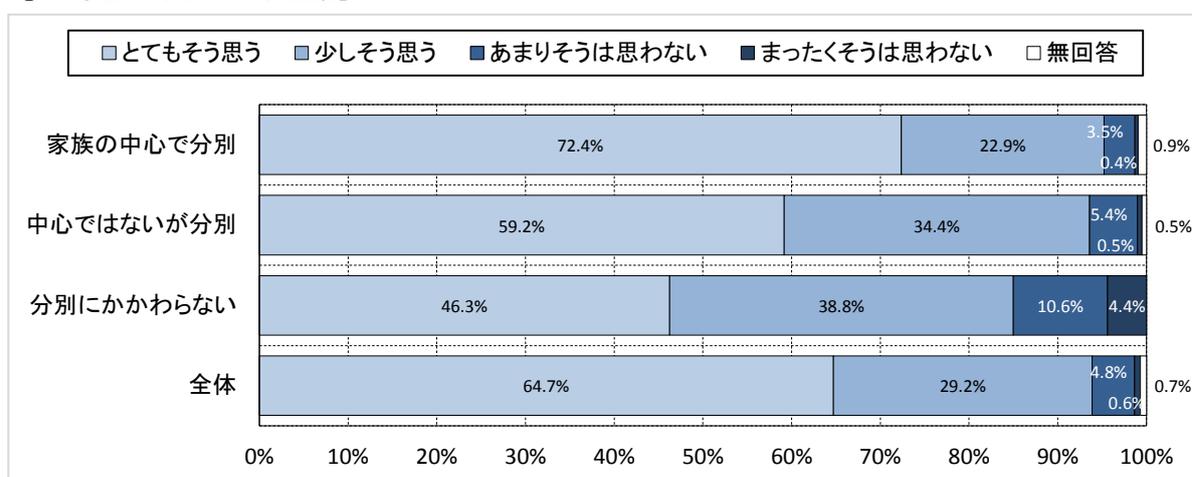


図 5-1-20 「分別行動別 一人ひとりの行動が環境に影響を及ぼすと思う」回答率

(6) 環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う。

「環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う」という問いに対して、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が88.2%となっている。
 市町別では、上記の計が85.1%から92.8%で大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が82.3%から90.9%で大きな偏りはみられないが、年代が高くなるほど「とてもそう思う」が高くなる傾向がみられる。
 分別行動別では、上記の計が82.5%から91.1%で大きな偏りはみられないが、分別にかかわる人ほど「とてもそう思う」が高くなっている。
 全体的に「技術開発や研究の充実が必要と思う」割合が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,554	52.2%
2	少しそう思う	1,073	36.0%
3	あまりそうは思わない	267	9.0%
4	まったくそうは思わない	31	1.0%
99	無回答	54	1.8%
有効回答数		2,979	100.0%

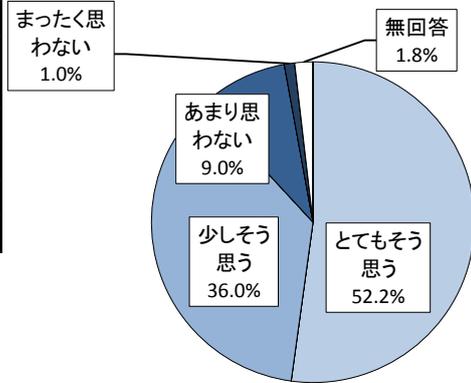


表 5-1-6 「技術開発や研究の充実が必要と思う」回答状況

図 5-1-21 「技術開発や研究の充実が必要と思う」回答率

② 市町別集計

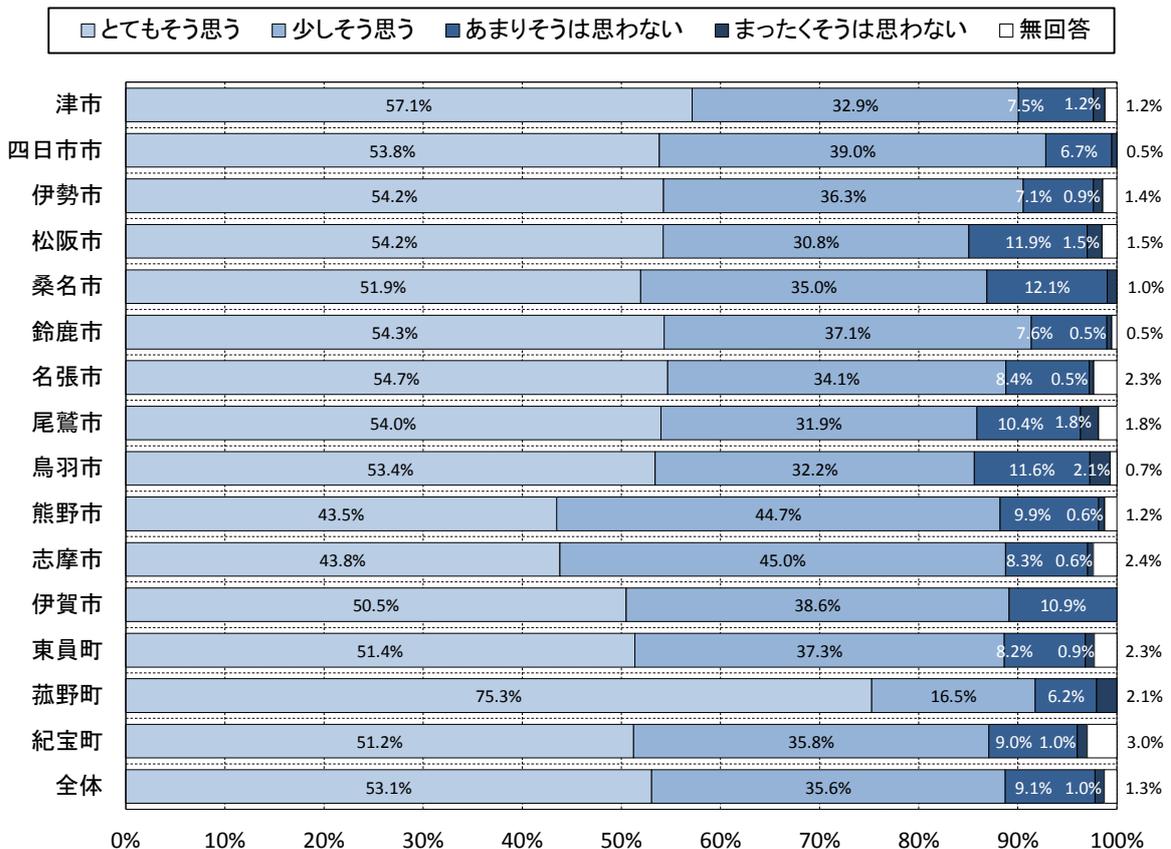


図 5-1-22 「市町別 技術開発や研究の充実が必要と思う」回答率

③ 年代別集計

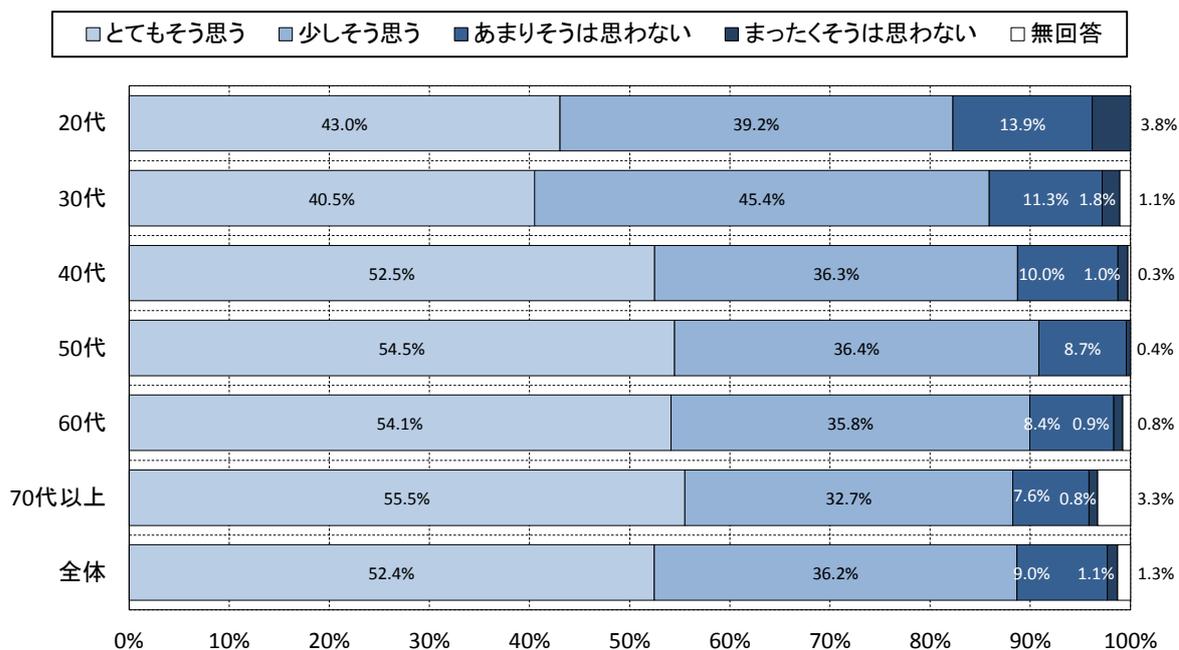


図 5-1-23 「年代別 技術開発や研究の充実が必要と思う」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

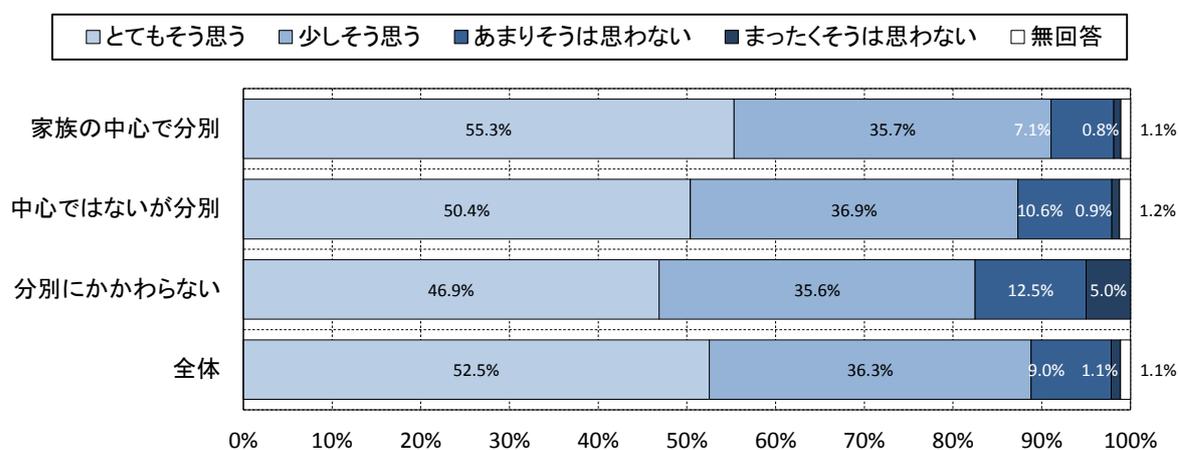


図 5-1-24 「分別行動別 技術開発や研究の充実が必要と思う」回答率

問12 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？（〇は1つずつ）

(1) 特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう。

「特価品や新商品をすぐには必要なくても買ってしまおうか」については、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が33.7%となっている。
 市町別では、上記の計が29.7%から39.6%で大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が25.9%から41.5%で大きな偏りはみられない。
 分別行動別では、上記の計が26.9%から34.9%で大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	156	5.2%
2	少しあてはまる	849	28.5%
3	あまりあてはまらない	1,282	43.0%
4	まったくあてはまらない	662	22.2%
99	無回答	30	1.1%
有効回答数		2,979	100.0%

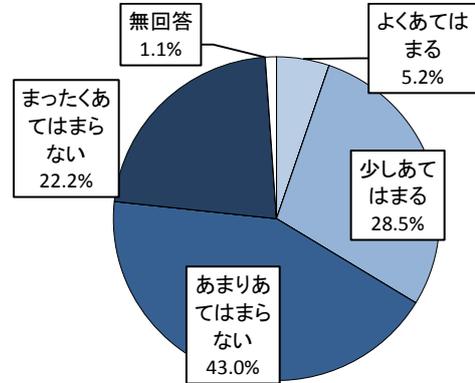


表 5-1-7 「必要なくても買ってしまおう」回答状況

図 5-1-25 「必要なくても買ってしまおう」回答率

② 市町別集計

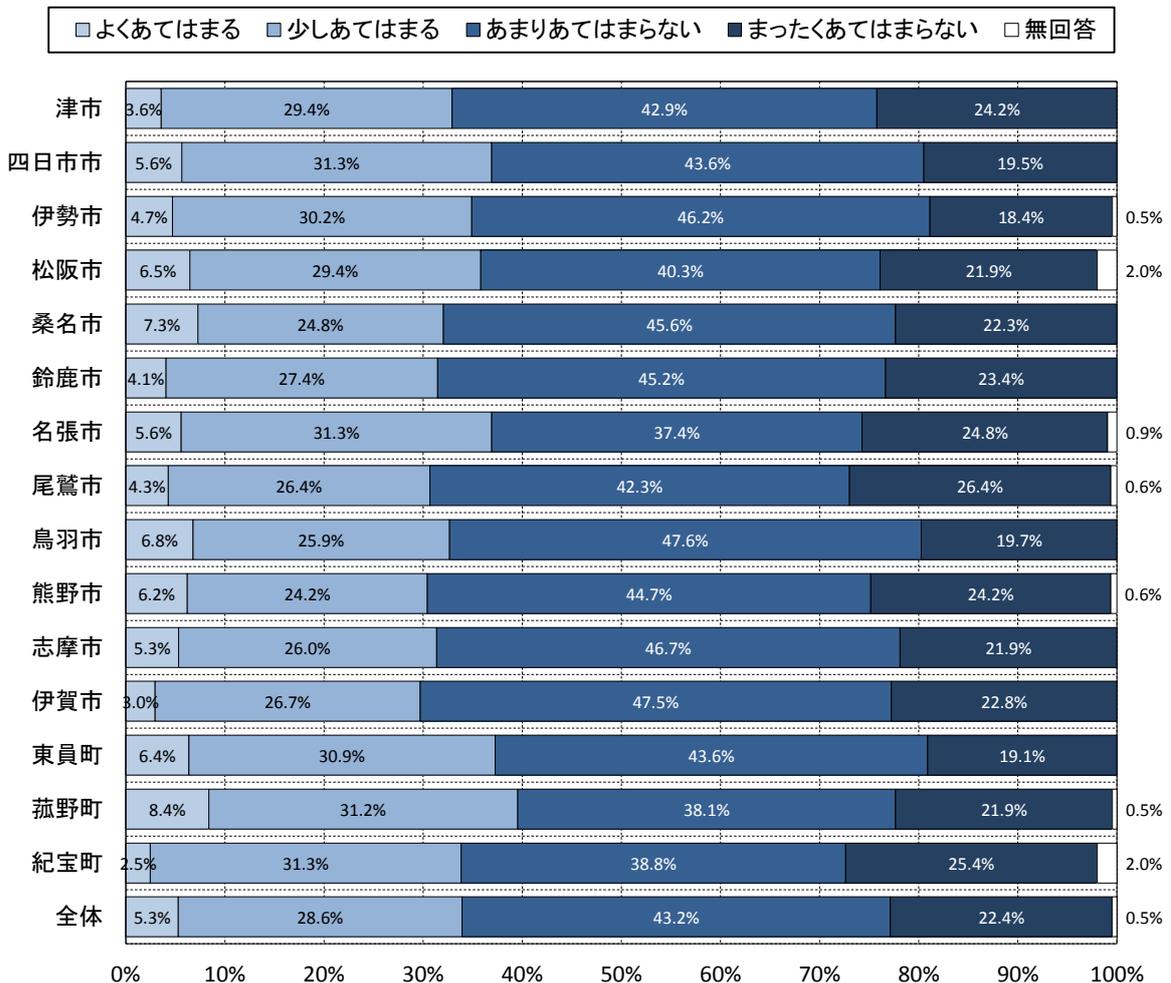


図 5-1-26 「市町別 必要なくても買ってしまおう」回答率

③ 年代別集計

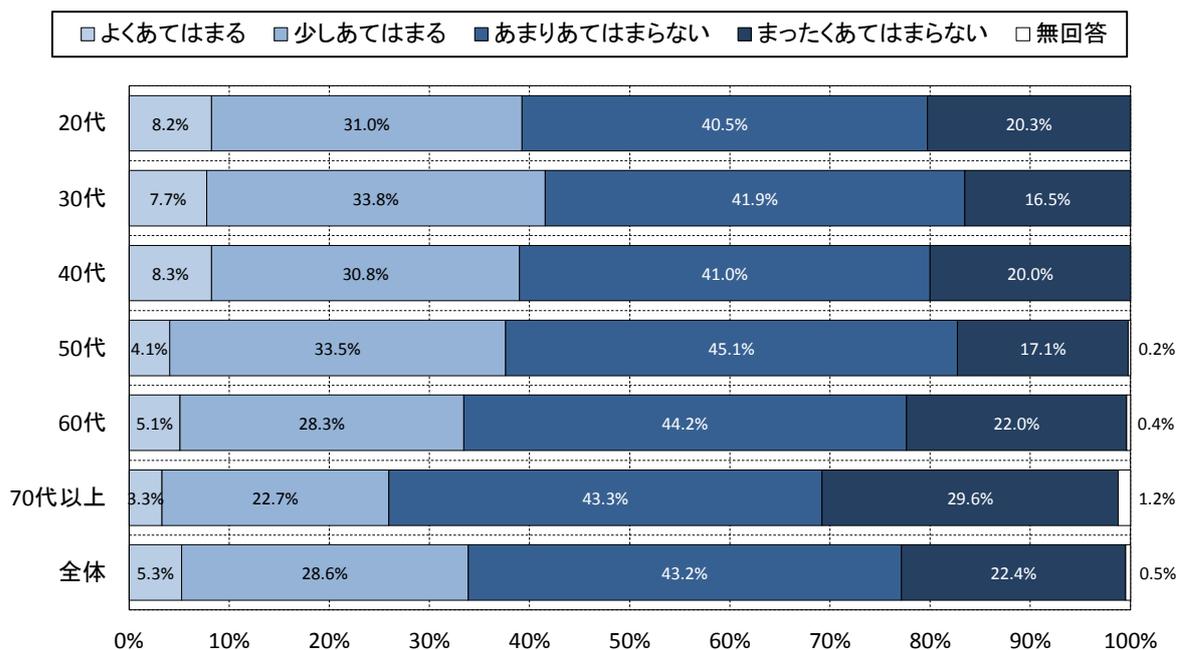


図 5-1-27 「年代別 必要なくても買ってしまおう」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

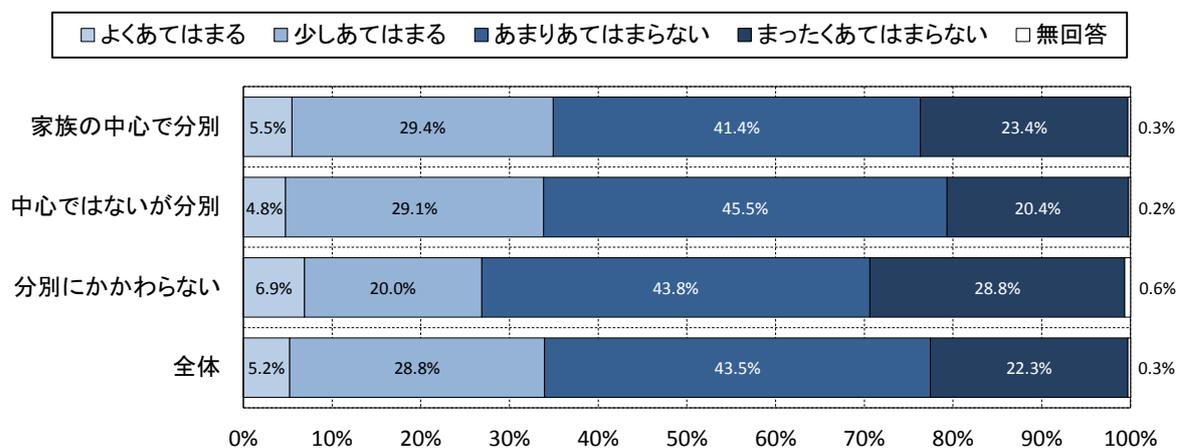


図 5-1-28 「分別行動別 必要なくても買ってしまおう」回答率

(2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い換える。

「壊れたら修理するより買い替えるか」については、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が44.8%となっている。
 市町別では、上記の計が38.5%から50.8%で大きな偏りはみられないが、「よくあてはまる」では、熊野市で8.7%に対し、鳥羽市（17.7%）、東員町（16.8%）、菰野町（16.3%）では、約2倍程度の差がみられる。
 年代別では、上記の計が42.4%から47.4%で大きな偏りはみられない。
 分別行動別では、上記の計が42.4%から46.3%であり、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	380	12.8%
2	少しあてはまる	955	32.0%
3	あまりあてはまらない	1,162	39.0%
4	まったくあてはまらない	447	15.0%
99	無回答	35	1.2%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-1-8 「修理するより買い替える」回答状況

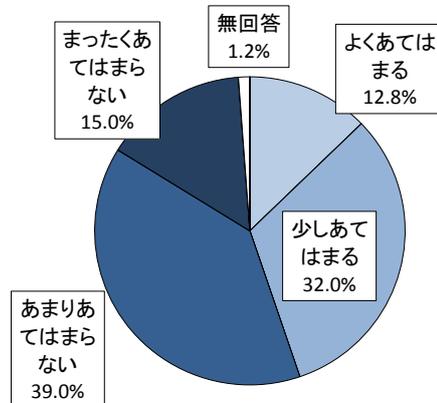


図 5-1-29 「修理するより買い替える」回答率

② 市町別集計

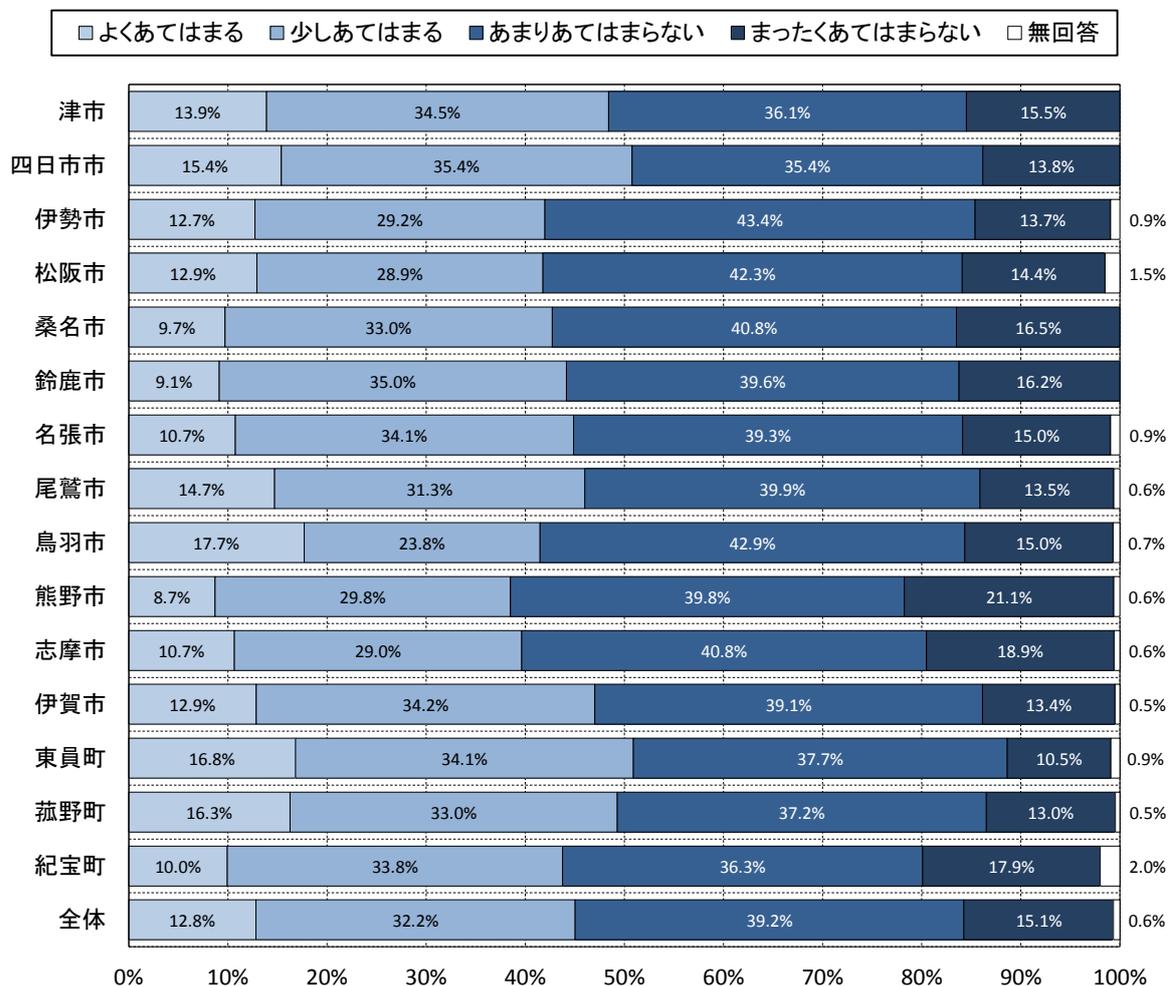


図 5-1-30 「市町別 修理するより買い替える」回答率

③ 年代別集計

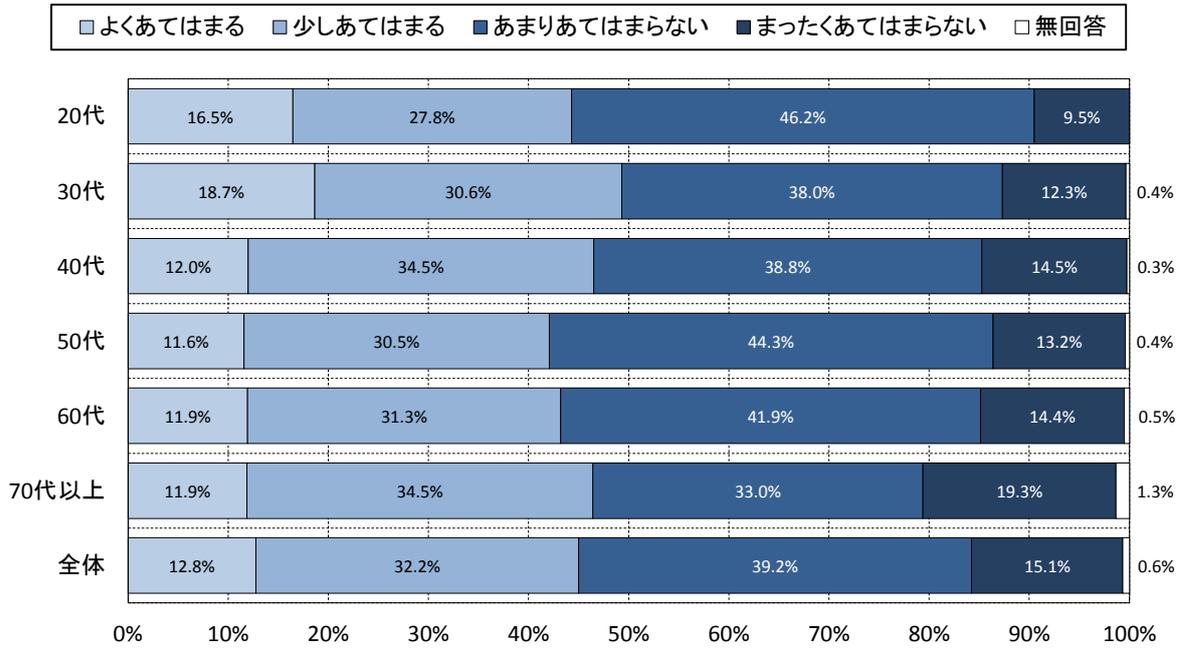


図 5-1-31 「年代別 修理するより買い替える」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

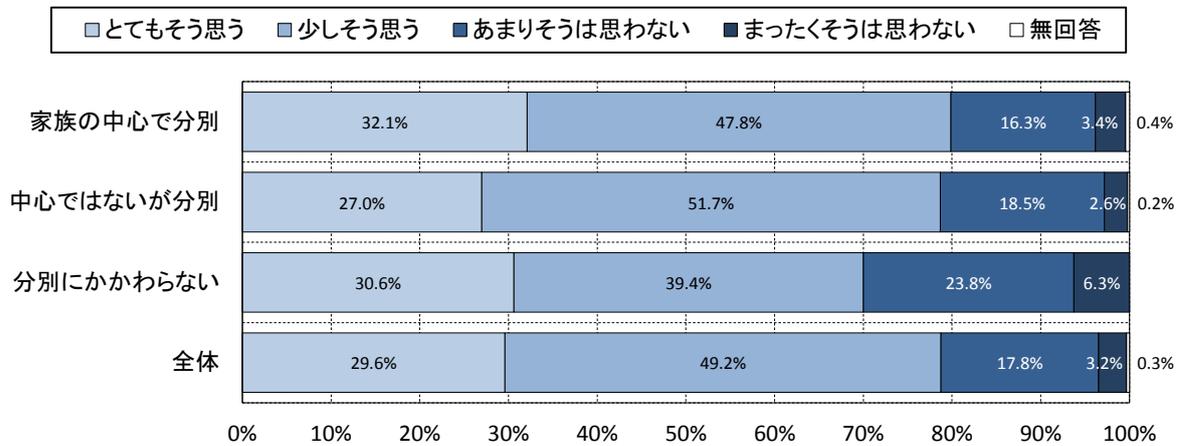


図 5-1-32 「分別行動別 修理するより買い替える」回答率

(3) お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選び。

「環境やごみのことを考えずに商品を選ぶか」という問いに対して、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が60.7%となっている。
 市町別では、上記の計が53.2%から65.8%で大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が56.8%から74.7%で若い世代ほど高くなっている傾向がみられる。
 分別行動別では、上記の計が56.4%から65.2%で大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	486	16.3%
2	少しあてはまる	1,322	44.4%
3	あまりあてはまらない	916	30.7%
4	まったくあてはまらない	199	6.7%
99	無回答	56	1.9%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-1-9 「環境を考えずに商品を選ぶ」
回答状況

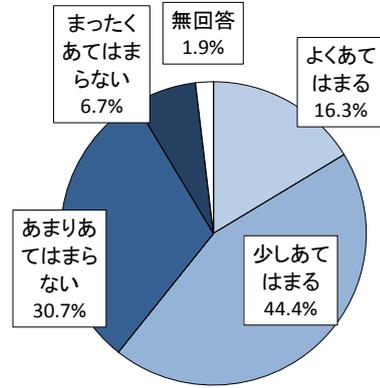


図 5-1-33 「環境等を考えずに商品を選ぶ」回答率

① 市町別集計

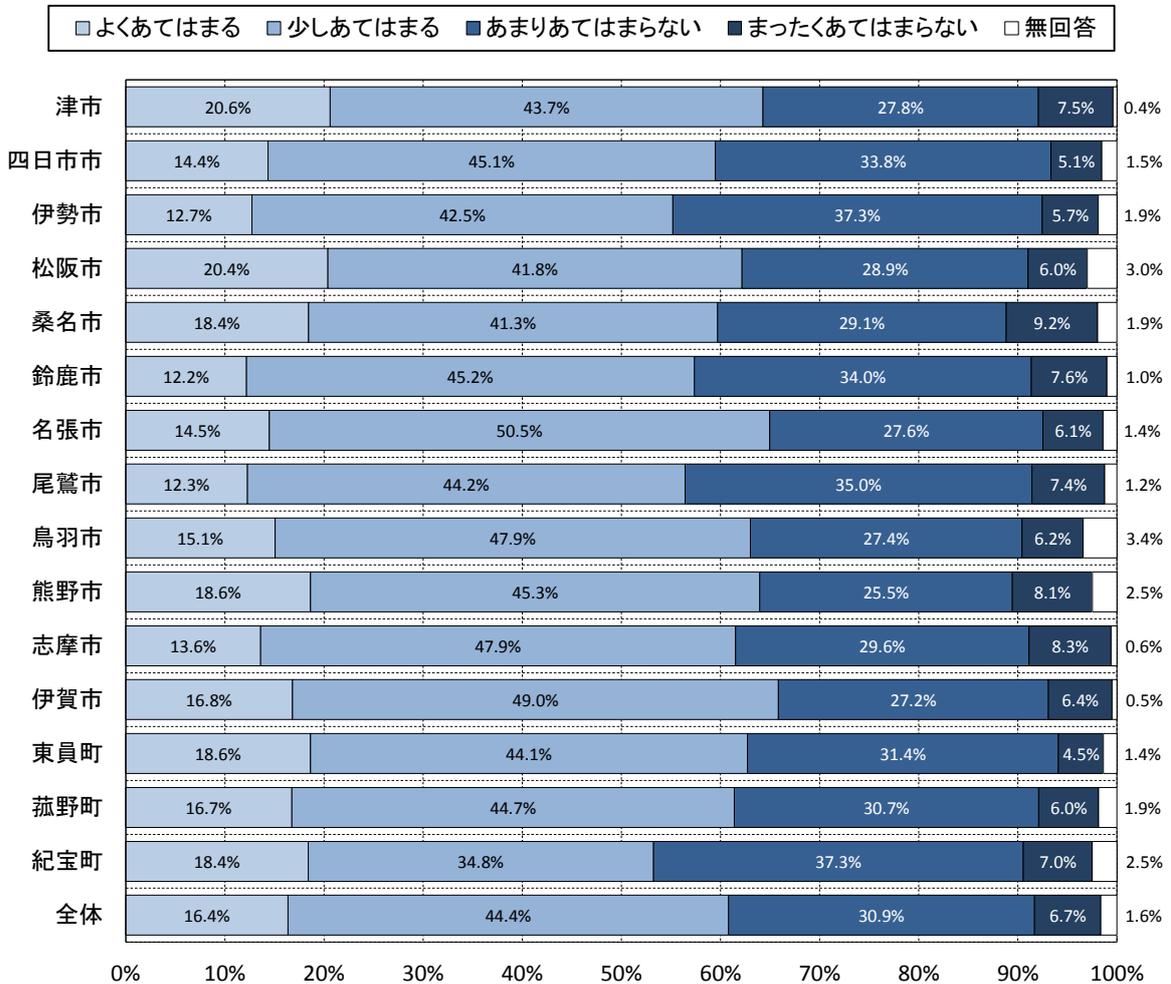


図 5-1-34 「市町別 環境等を考えずに商品を選ぶ」回答率

③ 年代別集計

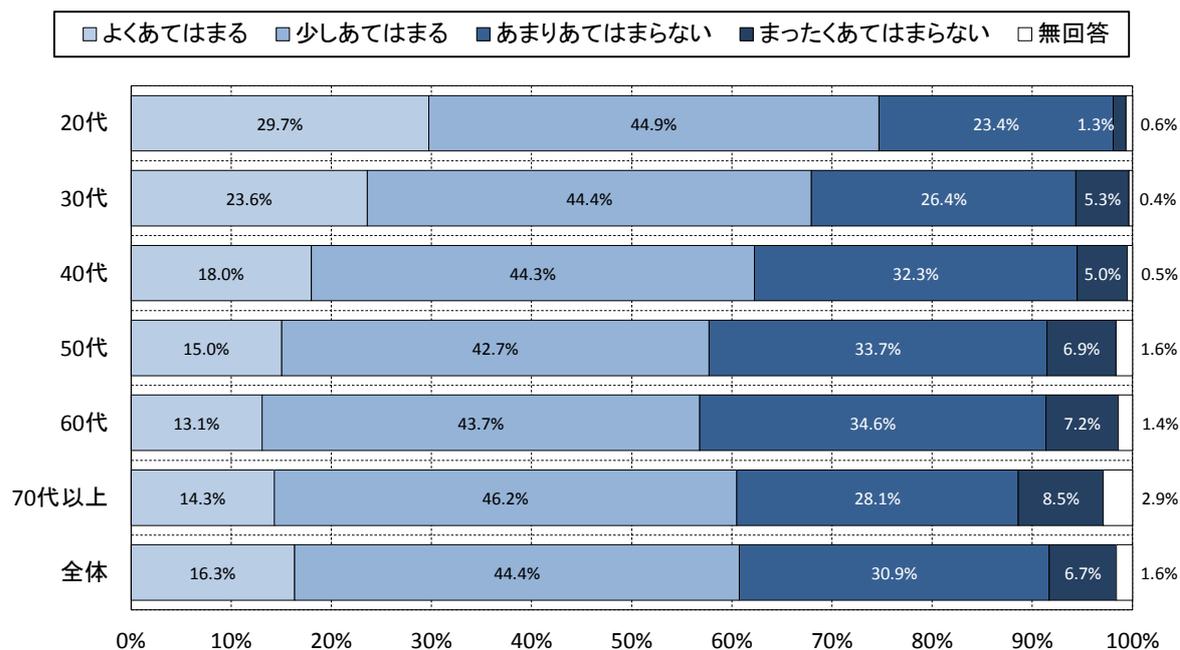


図 5-1-35 「年代別 環境等を考えずに商品を選ぶ」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

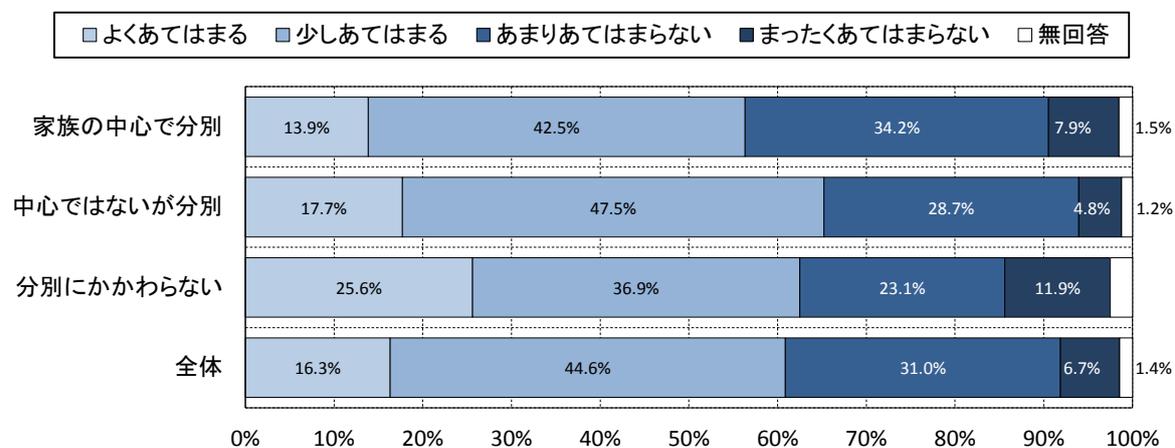


図 5-1-36 「分別行動別 環境等を考えずに商品を選ぶ」回答率

(4) 一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。

「レンタル品などは使わず、新品を購入するか」については、「よくあてはまる」、「少しあてはまる」の計が54.8%となっている。
 市町別では、上記の計が46.6%から60.2%であり、大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が51.2%から62%であり、大きな偏りはみられない。しかし、「まったくあてはまらない」の割合が年代が高くなるほど高くなっている。
 分別行動別では、上記の計が54%から56.2%であり「ごみの分別にはあまりかかわらない」人ほど「よくあてはまる」割合が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくあてはまる	594	19.9%
2	少しあてはまる	1,041	34.9%
3	あまりあてはまらない	859	29.0%
4	まったくあてはまらない	415	13.9%
99	無回答	70	2.3%
有効回答数		2,979	100.0%

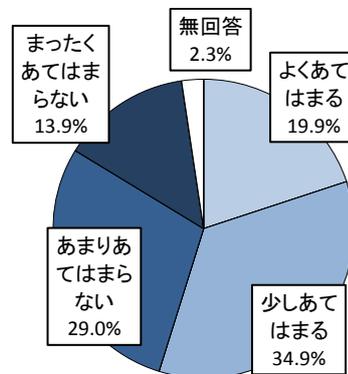


表 5-1-10 「レンタル品などは使わず、新品を購入する」回答状況

図 5-1-37 「レンタル品などは使わず、新品を購入する」回答率

② 市町別集計

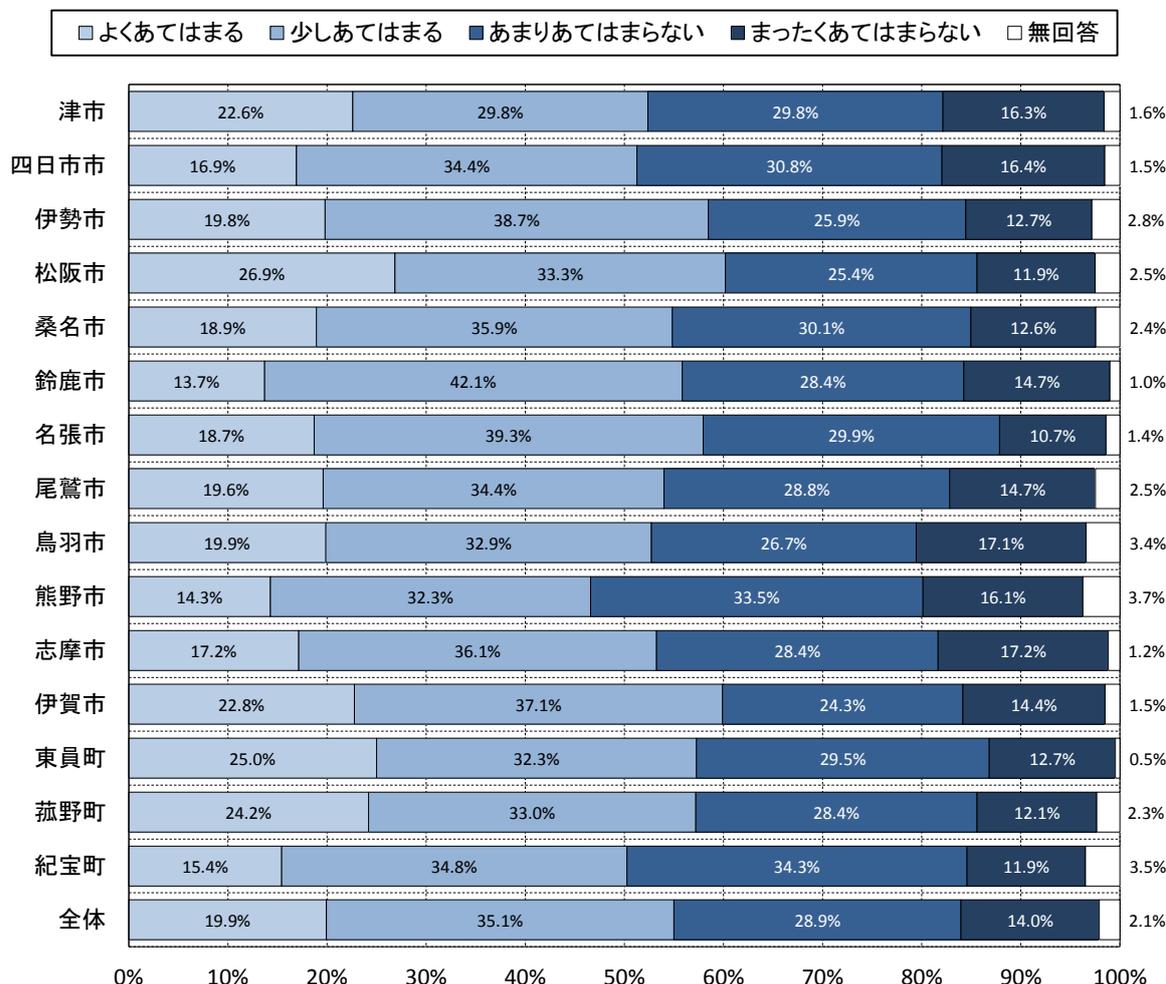


図 5-1-38 「市町別 レンタル品などは使わず、新品を購入する」回答率

③ 年代別集計

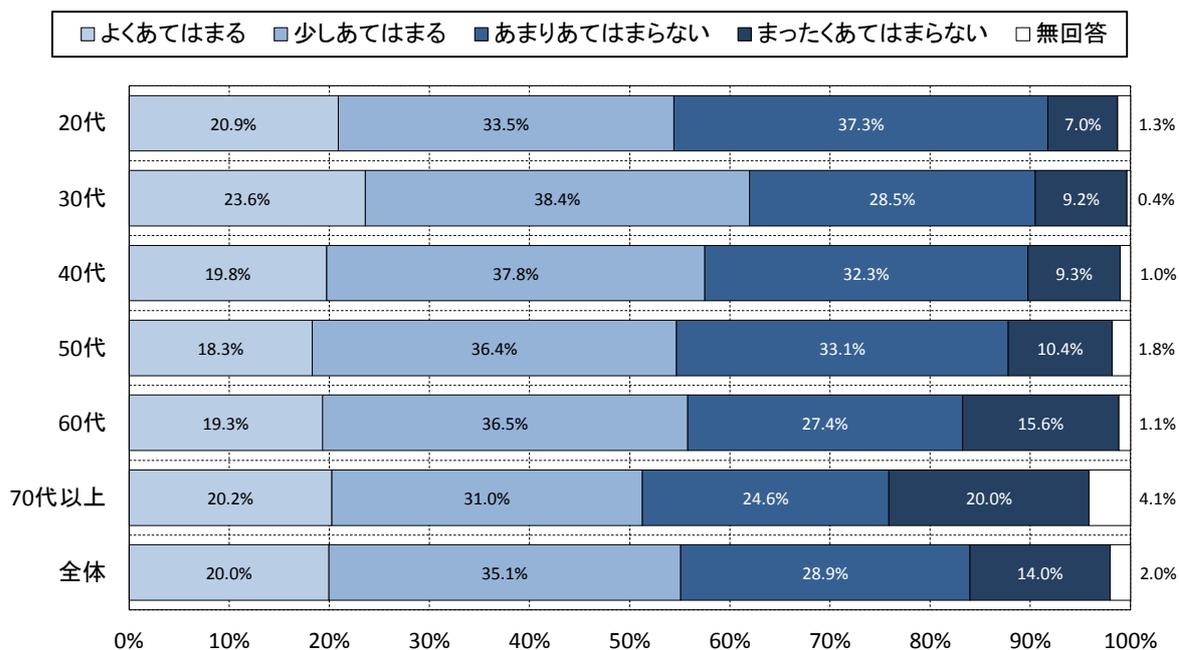


図 5-1-39 「年代別 レンタル品などは使わず、新品を購入する」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

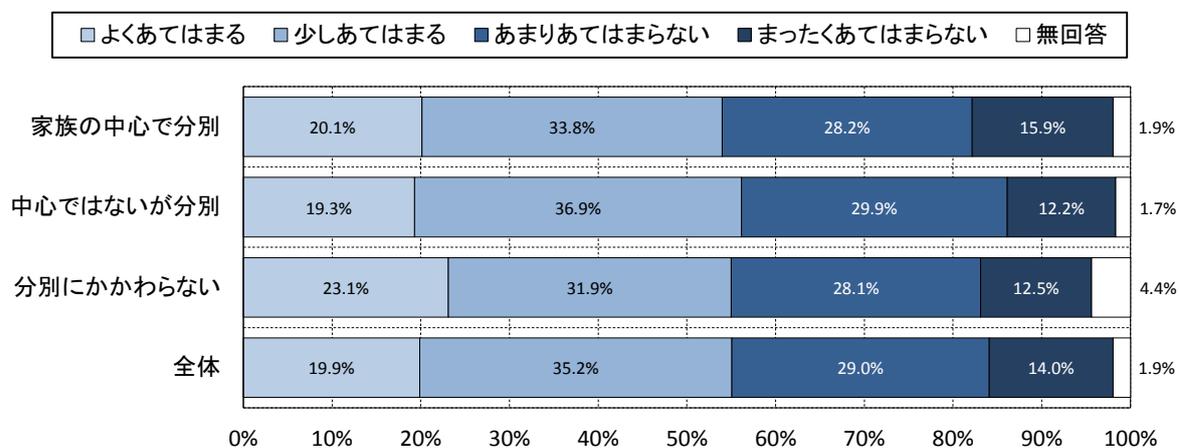


図 5-1-40 「分別行動別 レンタル品などは使わず、新品を購入する」回答率

問13

物を買うときの環境への配慮について、あなたはどう感じていますか？（〇は1つ）

「物を買うときの環境への配慮」については、「環境保全のために良いことなので、常に意識している」、「習慣になっており、特に意識することではない」、「店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する」の計で75.6%となっている。
 市町別では、上記の計が66.7%から83.1%と大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が69.4%から81.9%であり、年代が高いほど「環境保全のために良いことなので、常に意識している」、「習慣になっており、特に意識することではない」が高い傾向となっている。また、「店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する」は「70代以上」が一番低い。
 分別行動別では、上記の計が51.9%から80.3%であり、ごみの分別にかかわる人ほど高くなっている。また、「手間や時間がかかる・面倒だ」、「わからない」は、「ごみの分別にあまりかかわらない」人が一番高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	環境保全のために良いことなので、常に意識している	423	14.2%
2	習慣になっており、特に意識することではない	596	20.0%
3	店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する	1,232	41.4%
4	家計の圧迫につながるので避けたい	192	6.4%
5	手間や時間がかかる・面倒だ	77	2.6%
6	生活の便利さや快適さを損なう	35	1.2%
7	その他	33	1.1%
8	わからない	295	9.9%
99	無回答	96	3.2%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-1-11 「物を買うときの環境への配慮」回答状況

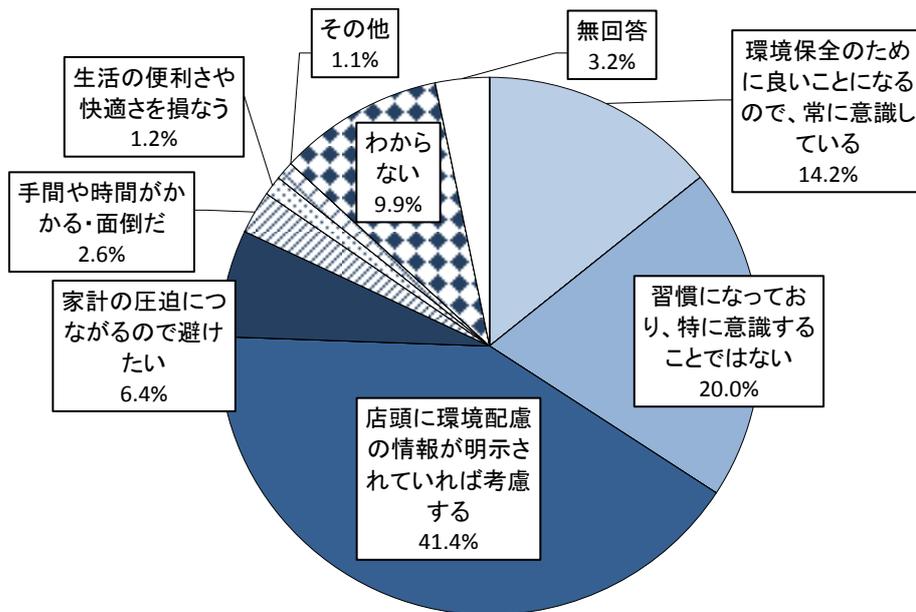


図 5-1-41 「物を買うときの環境への配慮」回答率

② 市町別集計

- 環境保全のために良いことなので、常に意識している
- 習慣になっており、特に意識することではない
- 店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する
- 家計の圧迫につながるのを避けたい
- ▨ 手間や時間がかかる・面倒だ
- ▨ 生活の便利さや快適さを損なう
- ▨ その他
- ▨ わからない
- 無回答

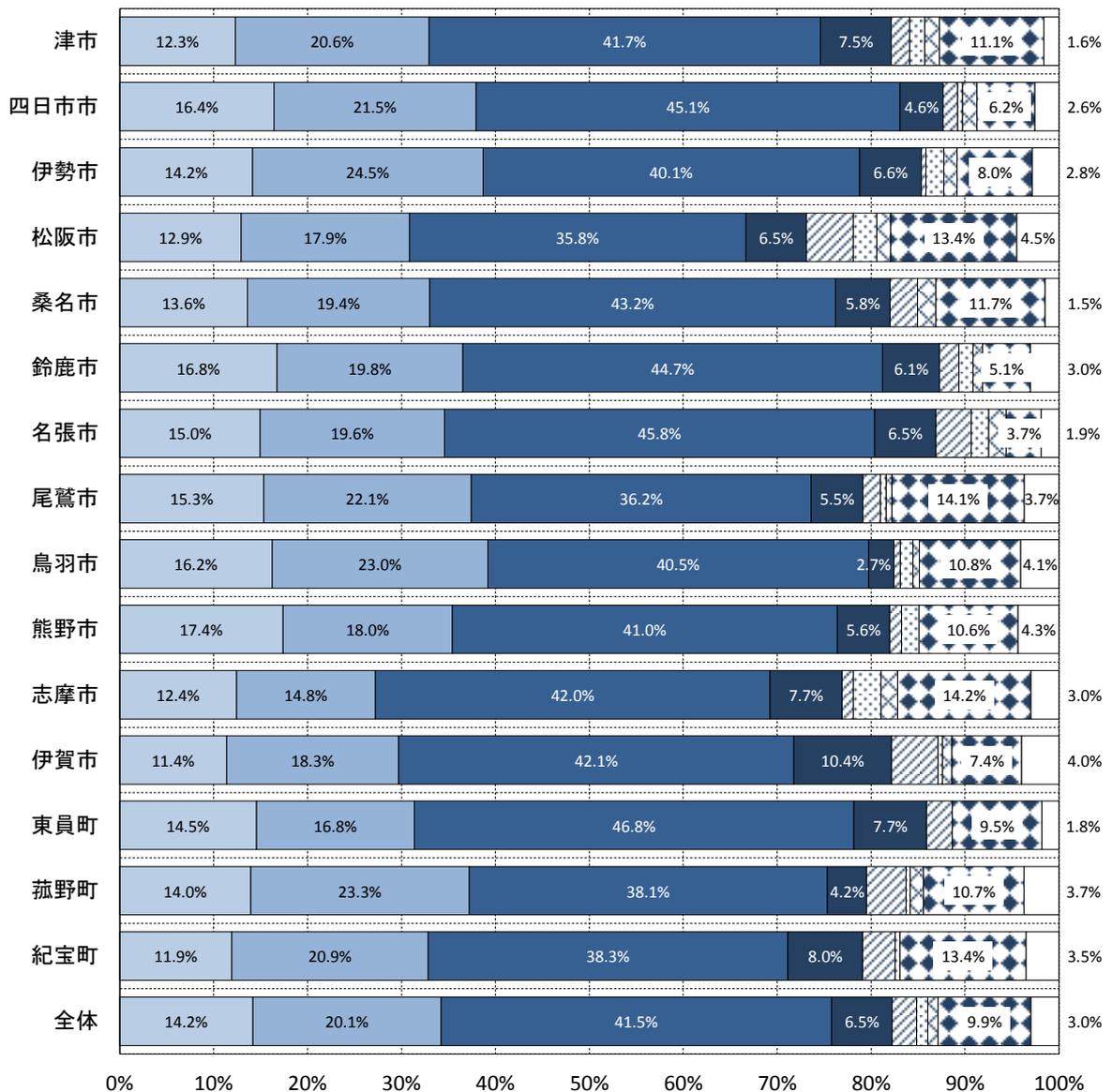


図 5-1-42 「市町別 物を買うときの環境への配慮」回答率

③ 年代別集計

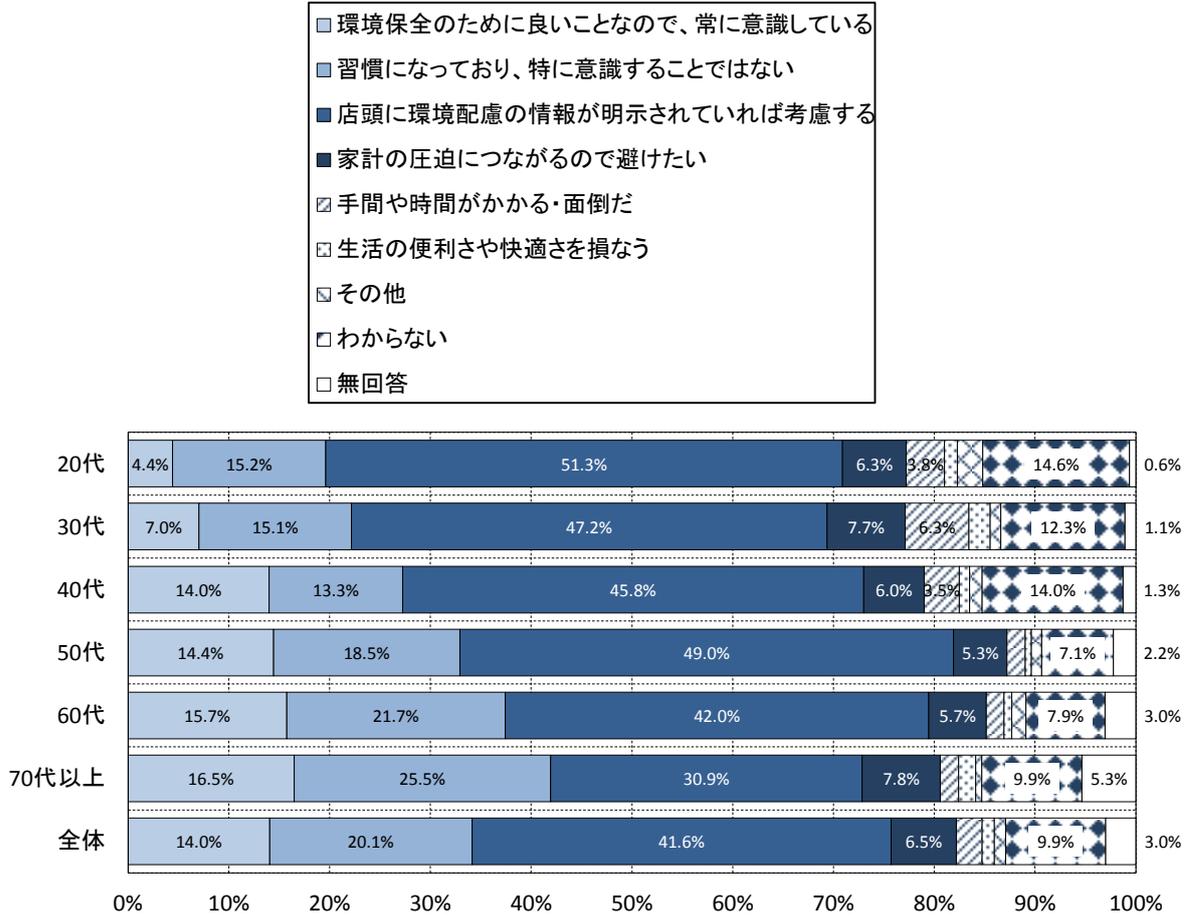


図 5-1-43 「年代別 物を買うときの環境への配慮」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

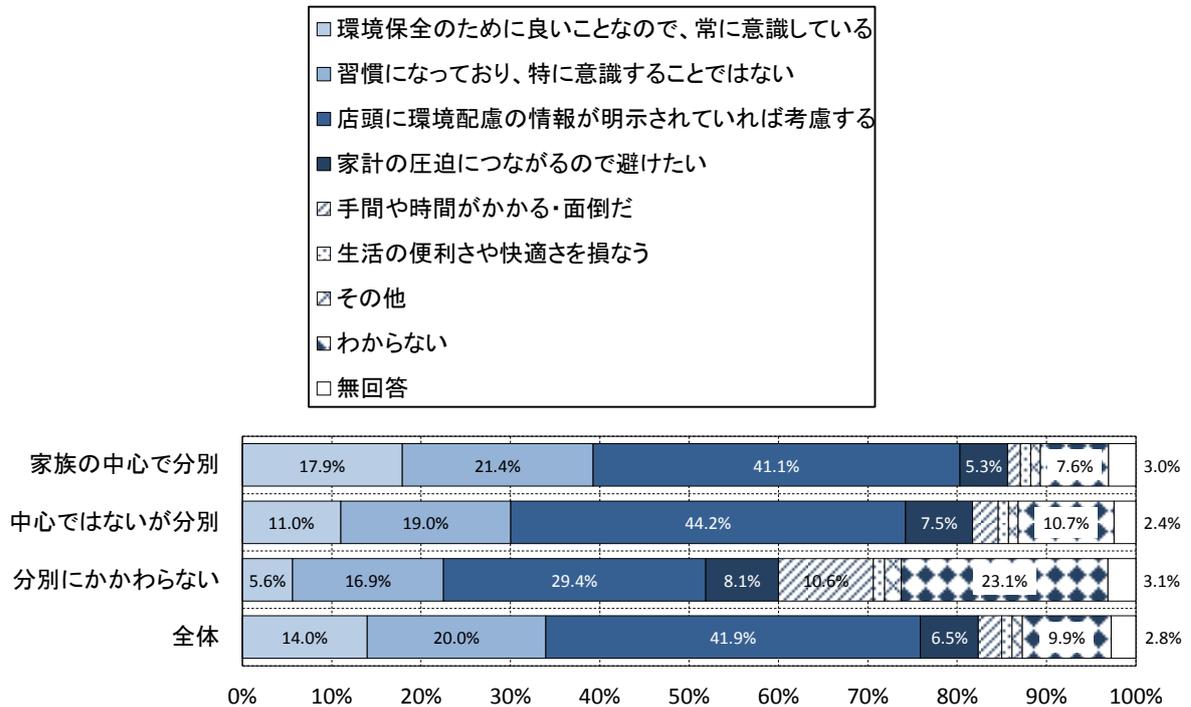


図 5-1-44 「分別行動別 物を買うときの環境への配慮」回答率

問14 食べ物のごみについてお聞きします。(〇は1つずつ)

(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？

「食材を捨ててしまうことがあるか」については、「よくある」、「たまにある」の計が64.2%となっている。全体的に「食材を捨ててしまう」は「たまにある」人の割合が大きい。市町別では、上記の計が59.5%から70.1%であり、大きな偏りはみられない。年代別では、上記の計が66.9%から68.8%であり、年代が高くなるほど低い。分別行動別では、上記の計が63.1%から65.1%であり、大きな偏りはみられない。世帯人員別では、上記の計が61.2%から69.9%であり、世帯人数が少なくなるほど低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくある	377	12.7%
2	たまにある	1,533	51.5%
3	あまりない	628	21.0%
4	ほとんどない	404	13.6%
99	無回答	37	1.2%
有効回答数		2,979	100.0%

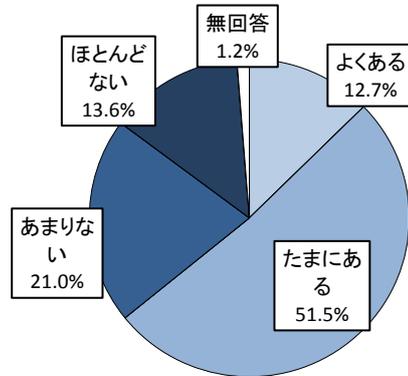


表 5-1-12 「食材を捨ててしまうことがある」回答状況

図 5-1-45 「食材を捨ててしまうことがある」回答率

② 市町別集計

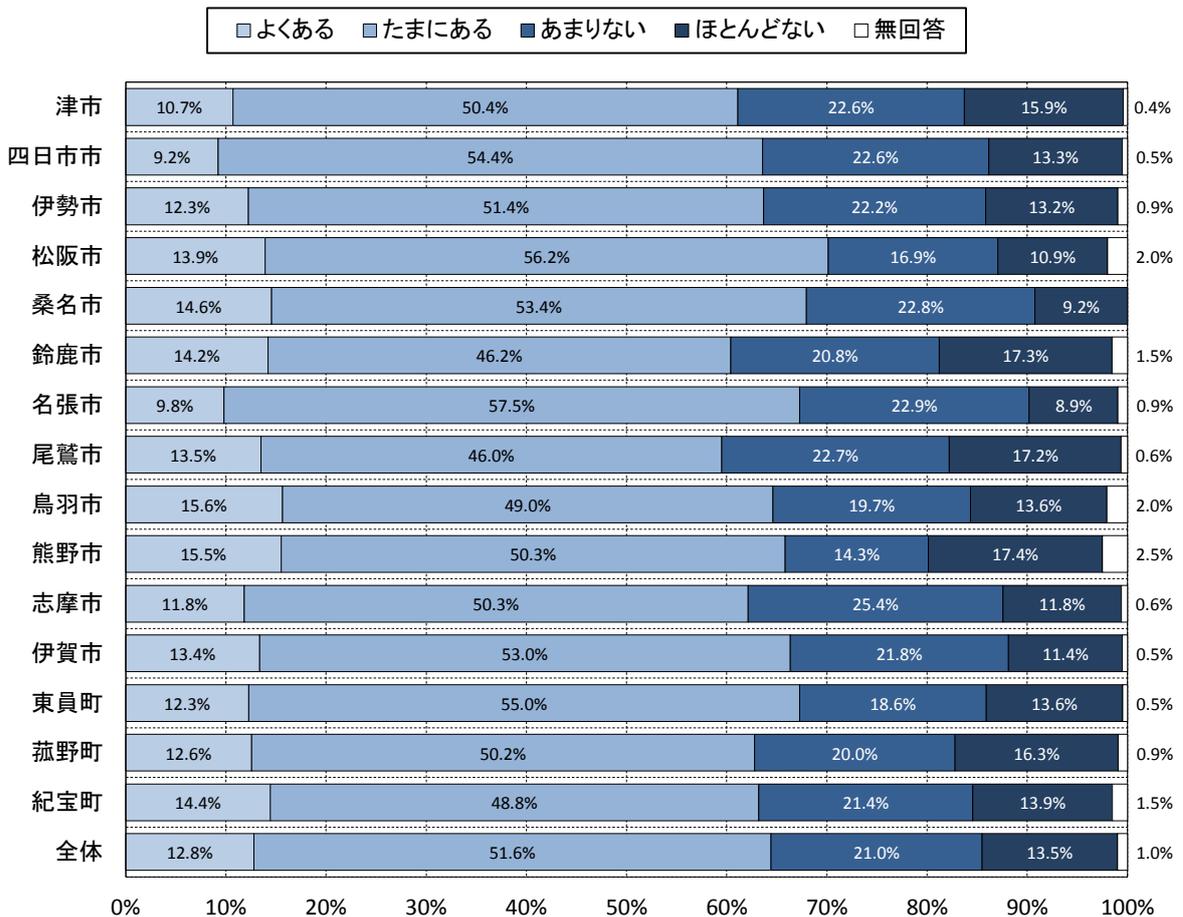


図 5-1-46 「市町別 食材を捨ててしまうことがある」回答率

③ 年代別集計

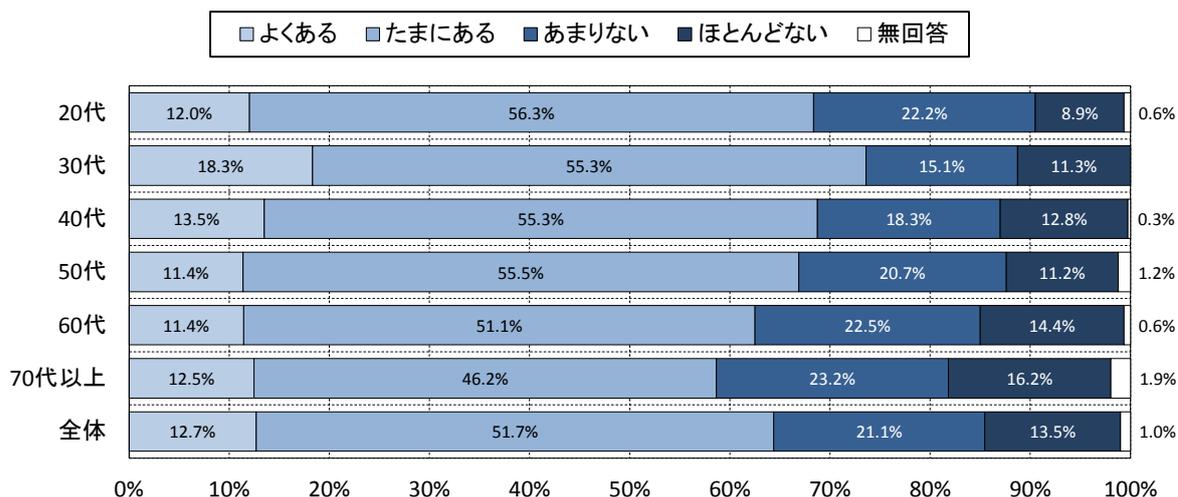


図 5-1-47 「年代別 食材を捨ててしまうことがある」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

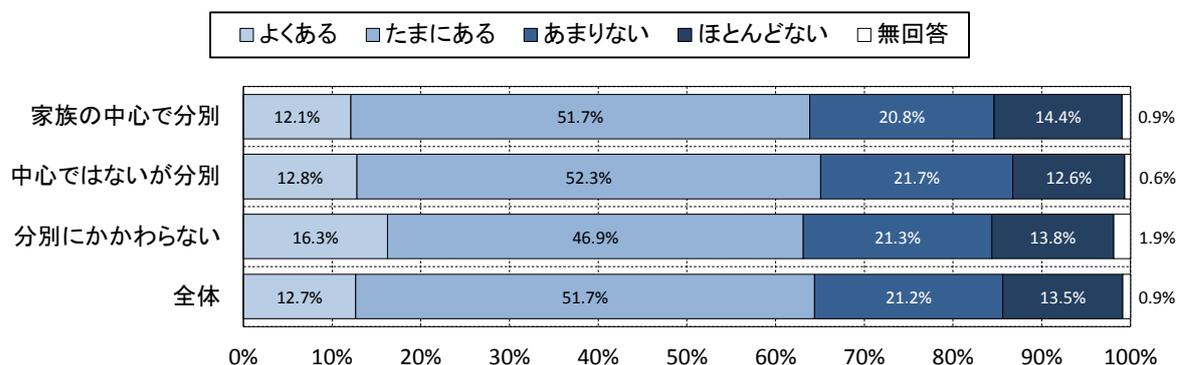


図 5-1-48 「分別活動別 食材を捨ててしまうことがある」回答率

⑤ 世帯人員別集計

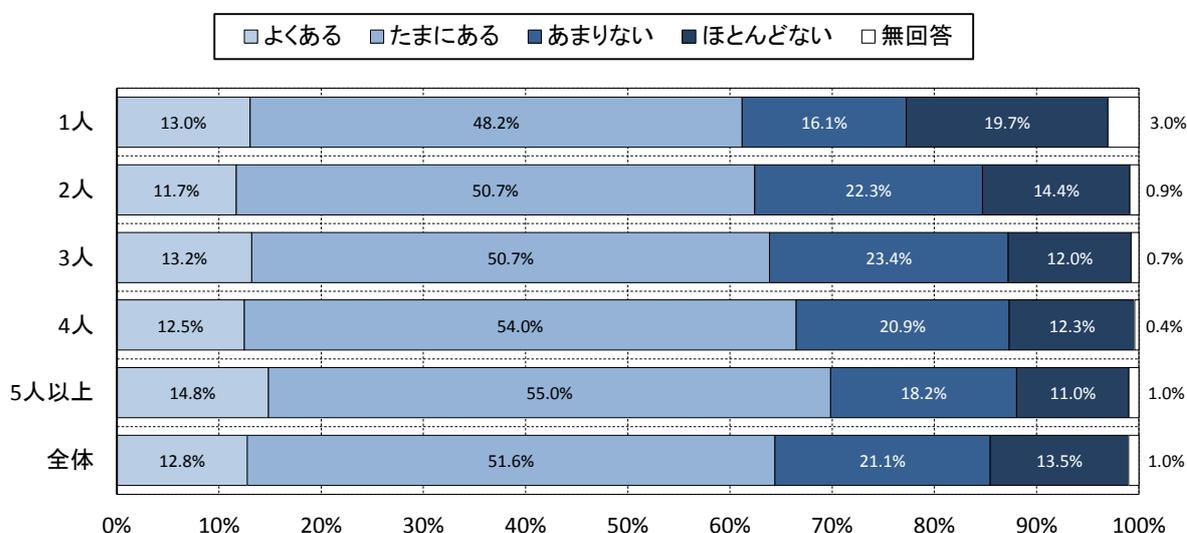


図 5-1-49 「世帯人員別 食材を捨ててしまうことがある」回答率

(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？

「料理を捨ててしまうことがあるか」については、「よくある」、「たまにある」の計が44.5%となっている。

市町別では、上記の計が39.3%から52.1%であり、大きな偏りはみられない。
年代別では、上記の計が42.6%から46.4%であり、「20代」は「ほとんどない」が高い。
分別行動別では、上記系が41.1%から48.8%であり、大きな偏りはみられない。
世帯人員別では、上記の計が40.8%から50%であり、人員が多くなるほど高い。
全体的に「料理を捨ててしまうことがある」は、「よくある」の割合は低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	よくある	207	6.9%
2	たまにある	1,120	37.6%
3	あまりない	887	29.8%
4	ほとんどない	717	24.1%
99	無回答	48	1.6%
有効回答数		2,979	100.0%

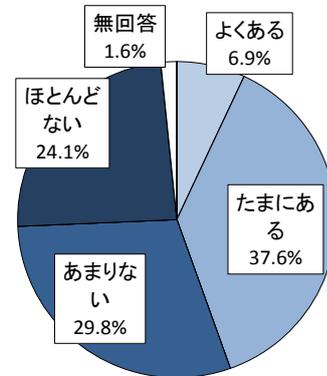


表 5-1-13 「料理を捨ててしまうことがある」
回答状況

図 5-1-50 「料理を捨ててしまうことがある」 回答率

② 市町別集計

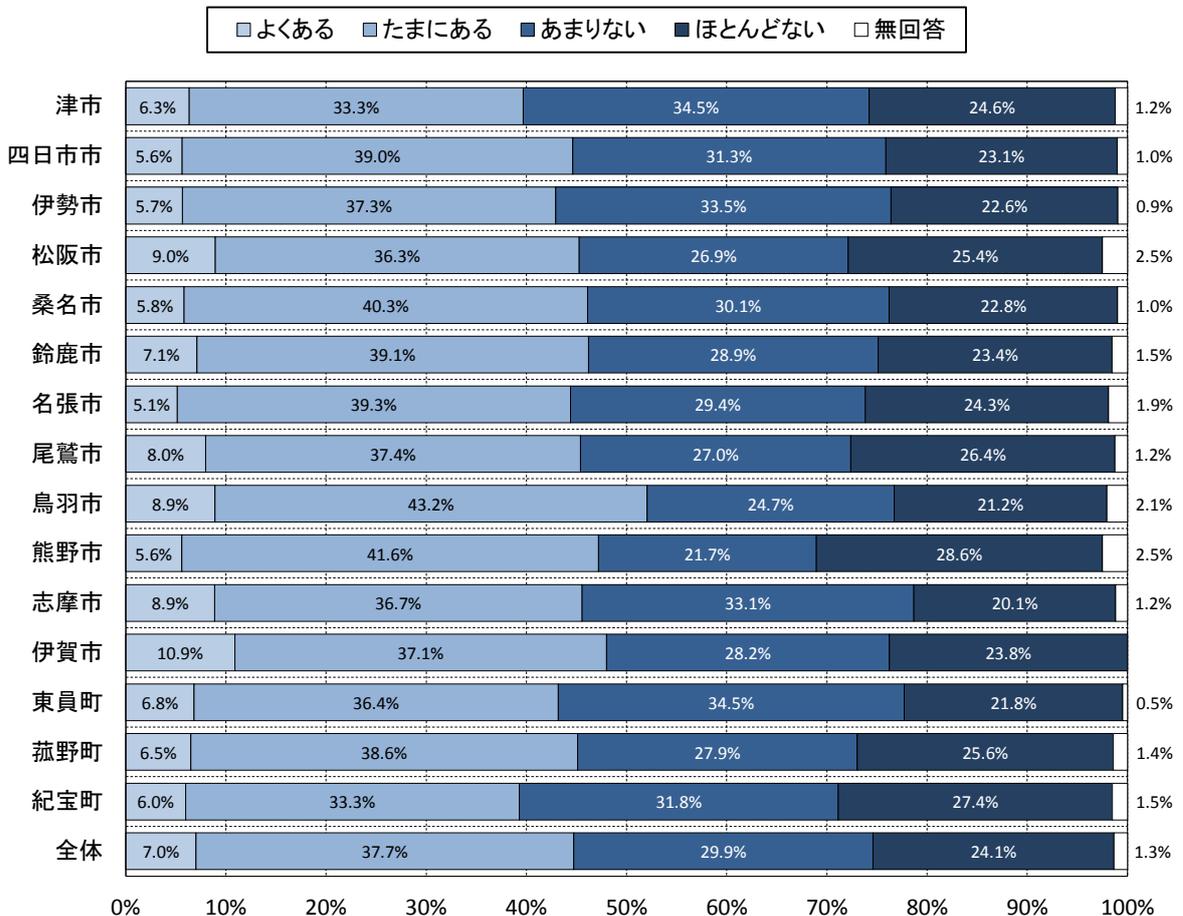


図 5-1-51 「市町別 料理を捨ててしまうことがある」 回答率

③ 年代別集計

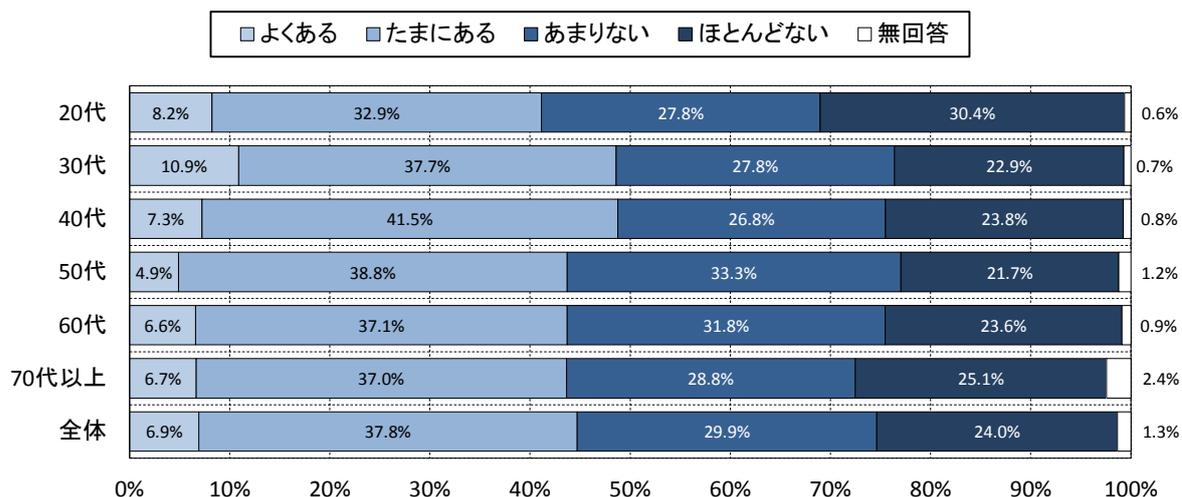


図 5-1-52 「年代別 料理を捨ててしまうことがある」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

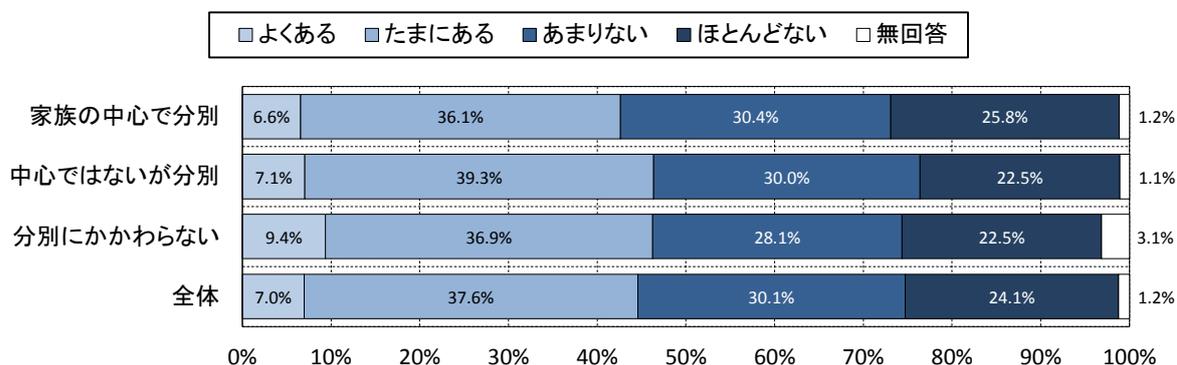


図 5-1-53 「分別行動別 料理を捨ててしまうことがある」回答率

⑤ 世帯人員別集計

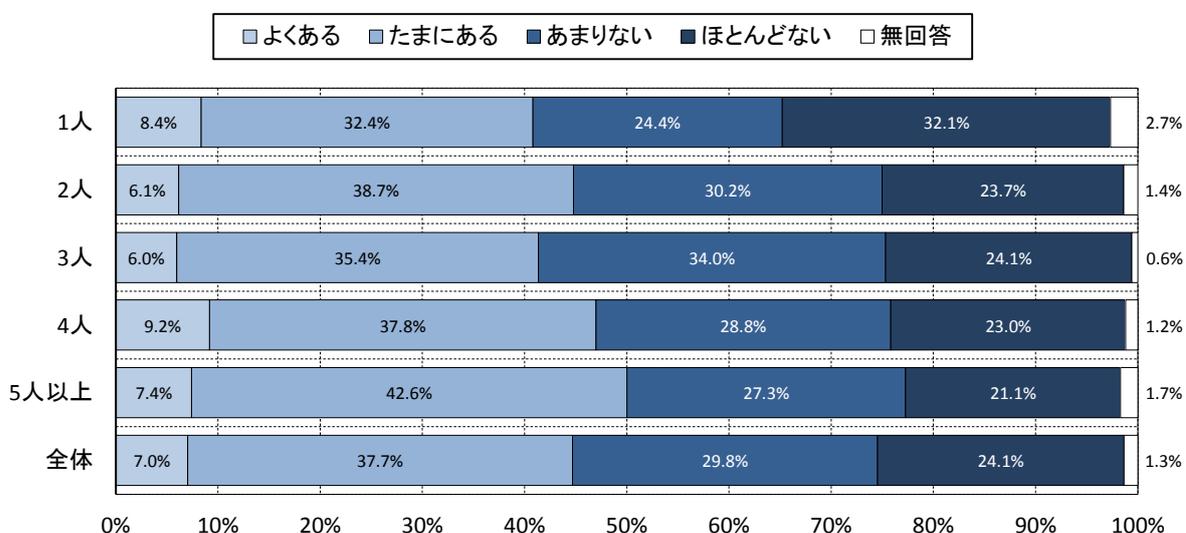


図 5-1-54 「世帯人員別 料理を捨ててしまうことがある」回答率

問15 次のうち、だいたい意味がわかる言葉はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

「意味がわかる言葉」については、「マイバック」（90.9%）、「レジ袋の有料化」（93.5%）の回答率が90%より大きくなっている。
市町別、年代別についても、「マイバック」、「レジ袋の有料化」の割合が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	循環型社会	1,228	41.2%
2	低炭素社会	541	18.2%
3	ごみゼロ社会	2,188	73.4%
4	リデュース	803	27.0%
5	リユース	1,262	42.4%
6	リサイクル	2,631	88.3%
7	3R（さんアール、スリーアール）	651	21.9%
8	エコライフ	2,075	69.7%
9	スローライフ	1,221	41.0%
10	容器包装リサイクル法	1,764	59.2%
11	家電リサイクル法	2,437	81.8%
12	食品リサイクル法	985	33.1%
13	排出者責任	766	25.7%
14	拡大生産者責任	274	9.2%
15	マイバック	2,708	90.9%
16	レジ袋の有料化	2,785	93.5%
17	ごみの有料化	2,241	75.2%
18	どれも知らない	23	0.8%
総回答数		26,583	892.5%
有効回答数		2,979	—

表 5-1-14 「だいたい意味がわかる言葉」回答状況

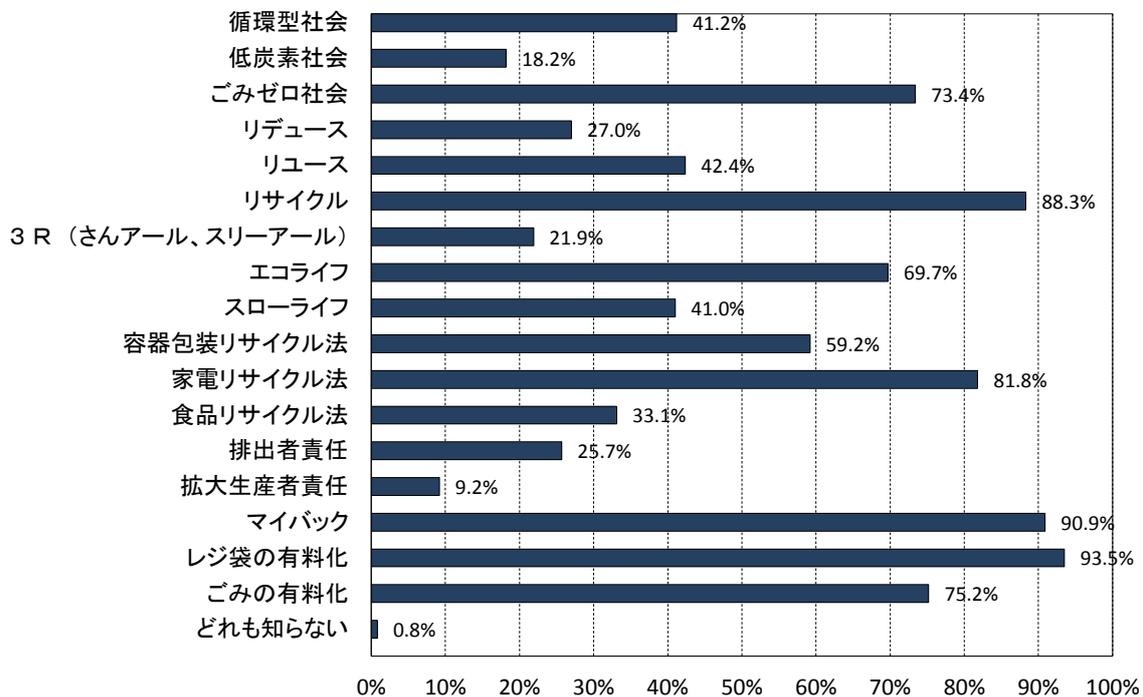


図 5-1-55 「だいたい意味がわかる言葉」回答率

② 市町別集計

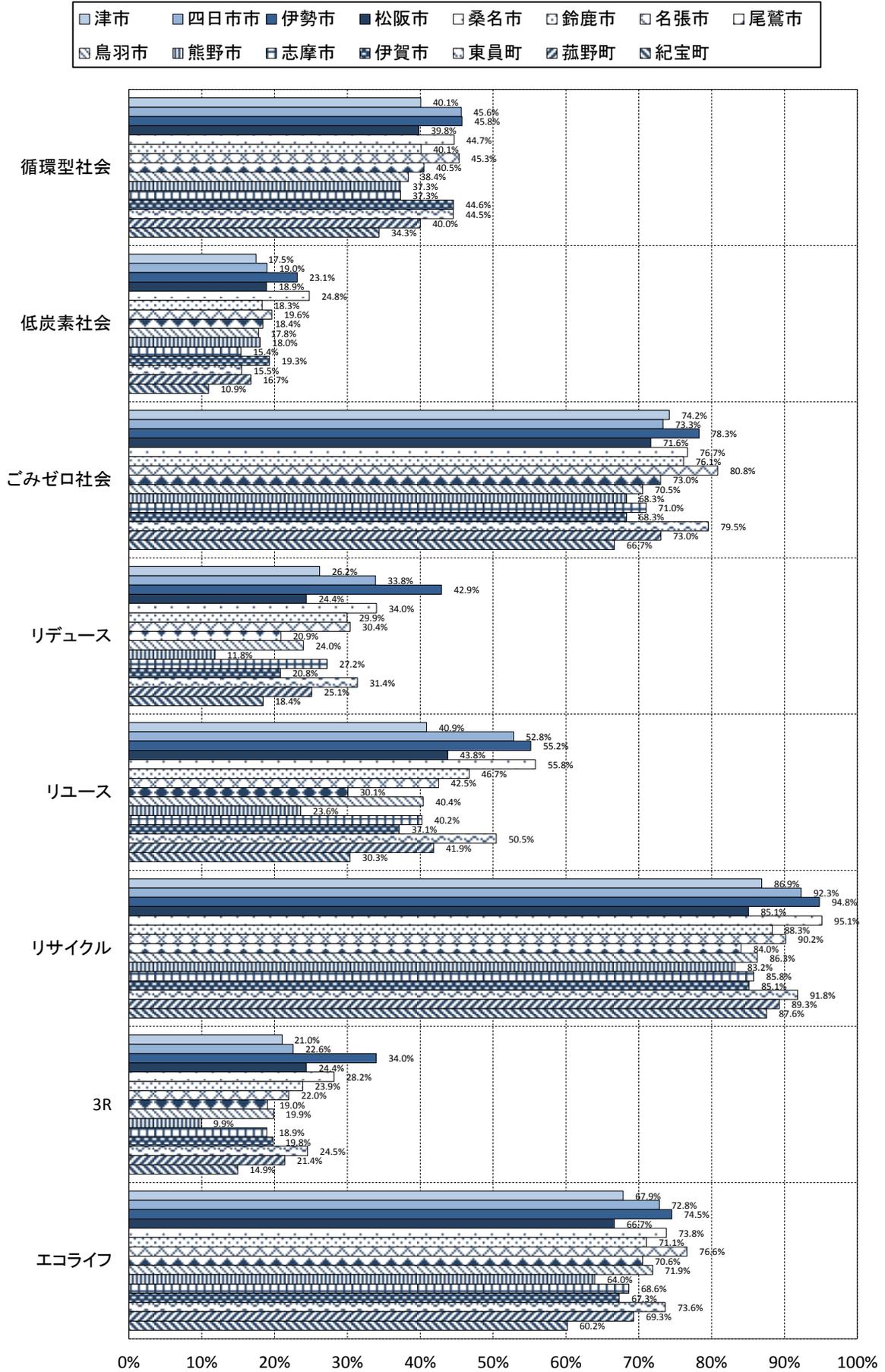


図 5-1-56 (1/2) 「市町別 だいたい意味がわかる言葉」回答率

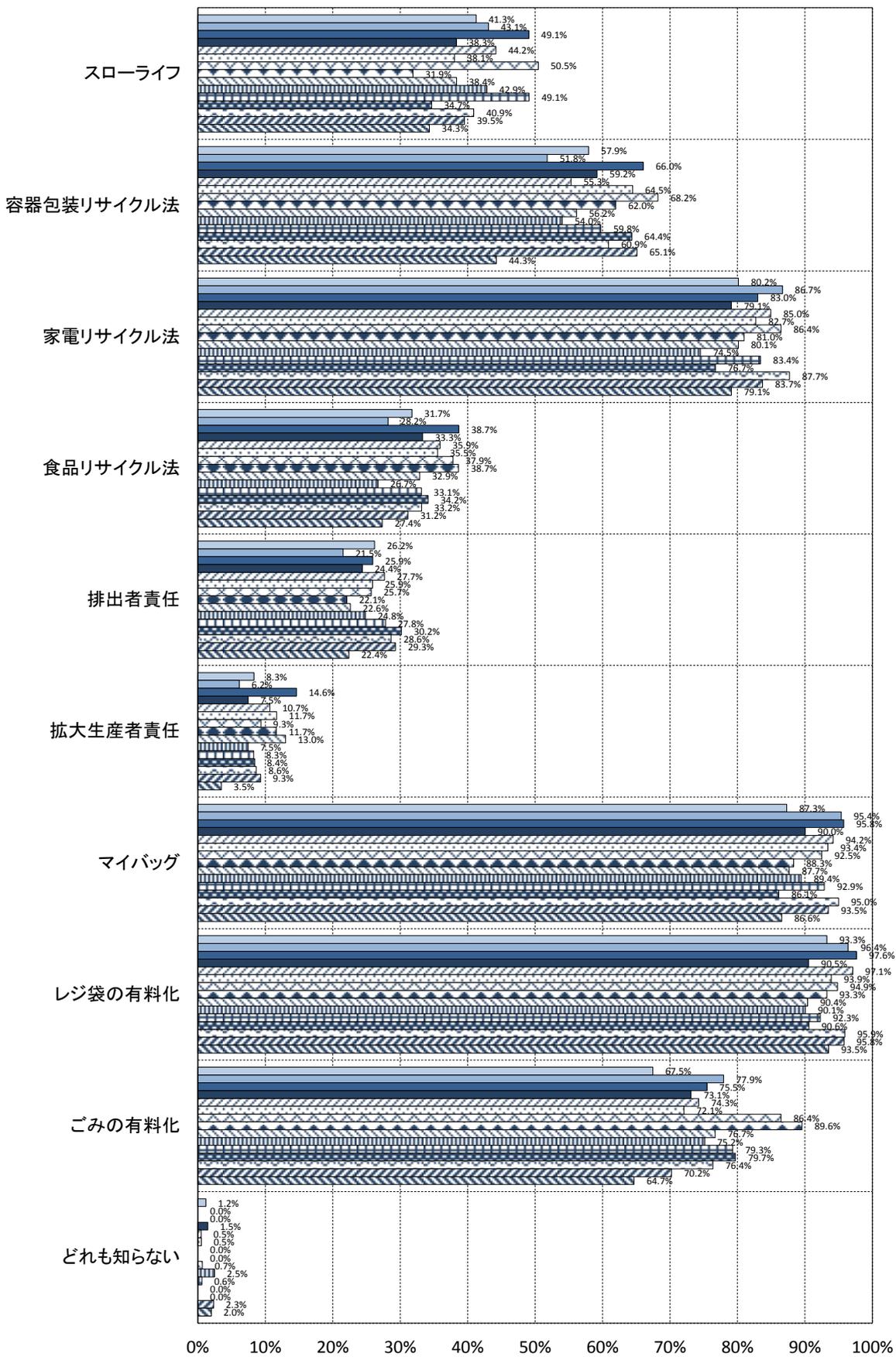
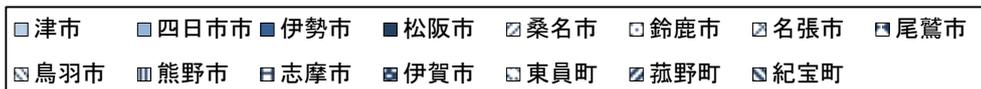


図 5-1-56 (2/2) 「市町別 だいたい意味がわかる言葉」回答率

③ 年代別集計

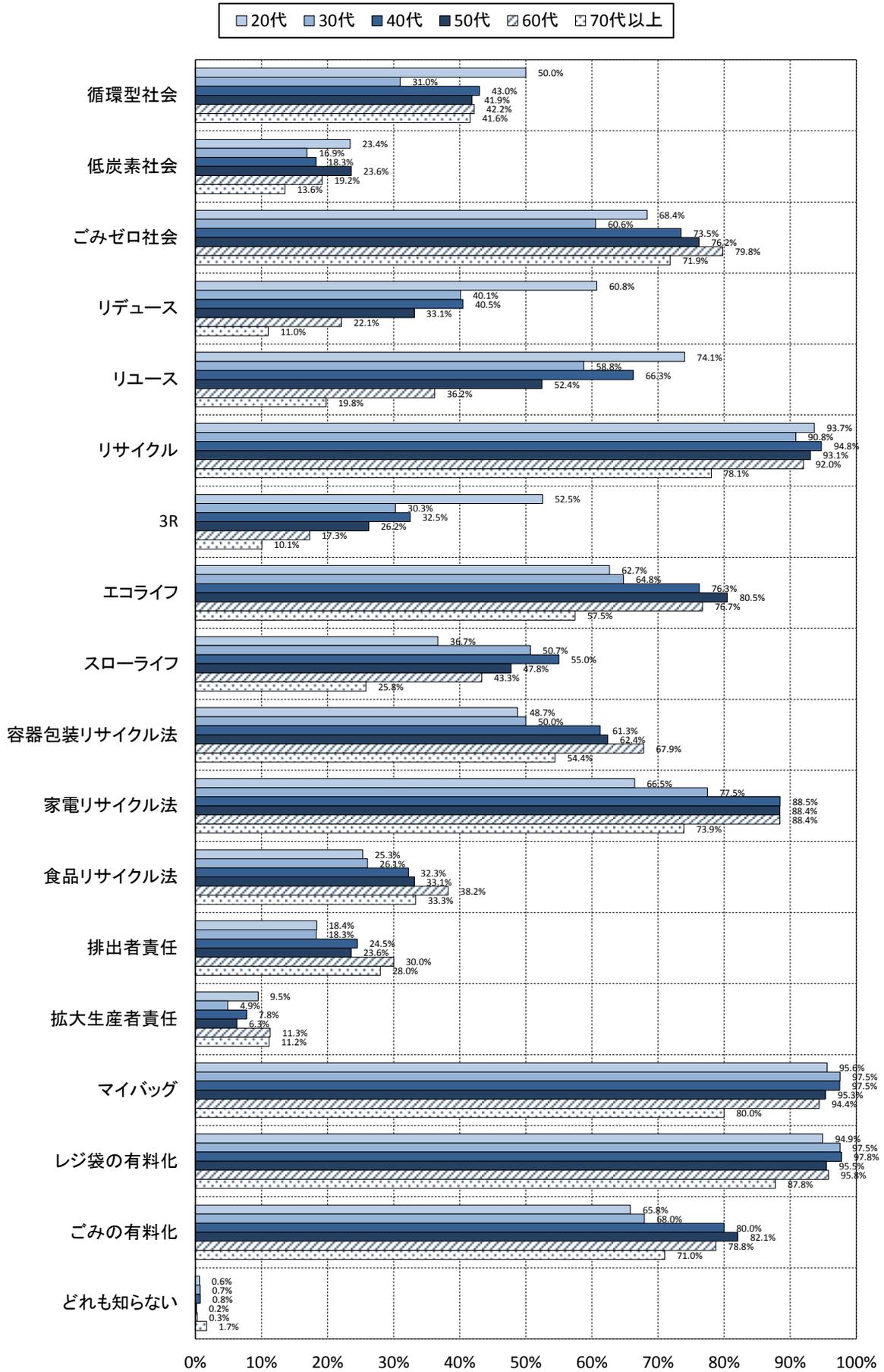


図 5-1-57 「年代別 だいたい意味がわかる言葉」回答率

問16	あなたは、ごみ問題について、どのようなことを知っていますか？ (あてはまるものすべてに○)	(複数回答)
-----	--	--------

「ごみ問題について知っていること」については、「野山や河原などへの不法投棄が大きな社会問題になっている」(77.5%)、「海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、生態系などに影響を及ぼしている」(70.3%)の回答率が70%より高くなっている。市町別にみると、これら2つの選択肢はいずれも回答率が高い。しかし、「ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することには反対すると考えている人が多い」については、一番高い名張市で75.2%に対し、紀宝町では57.7%、また「ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている」では、一番高い四日市、東員町でともに60%に対し、一番低い紀宝町では37.3%と大きな差がみられる。年代別については、いずれの選択肢についても「50代」、「60代」が高い。分別行動別については、いずれの選択肢についても、ごみの分別に関わっている人は高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている	1,484	49.8%
2	ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することは反対すると考えている人が多い	1,999	67.1%
3	規制の強化によりダイオキシン類の排出量が大幅に削減されている	1,203	40.4%
4	野山や河原などへの不法投棄が大きな社会問題になっている	2,310	77.5%
5	私有地に廃タイヤやパチンコ台などが将来リサイクルするとの名目で、放置されている	915	30.7%
6	海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、生態系などに影響を及ぼしている	2,095	70.3%
7	稲わらや間伐材など、資源として利用できるものを活かしきっていないものがある	1,037	34.8%
8	テレビやパソコンなどの身近な使用済み家電が海外へ輸出され、その一部が不適正に処理されていることによる環境汚染が生じている	1,050	35.2%
9	その他	35	1.2%
10	特に知っているものはない	154	5.2%
総回答数		12,282	412.2%
有効回答数		2,979	—

表 5-1-15 「ごみ問題について知っていること」回答状況

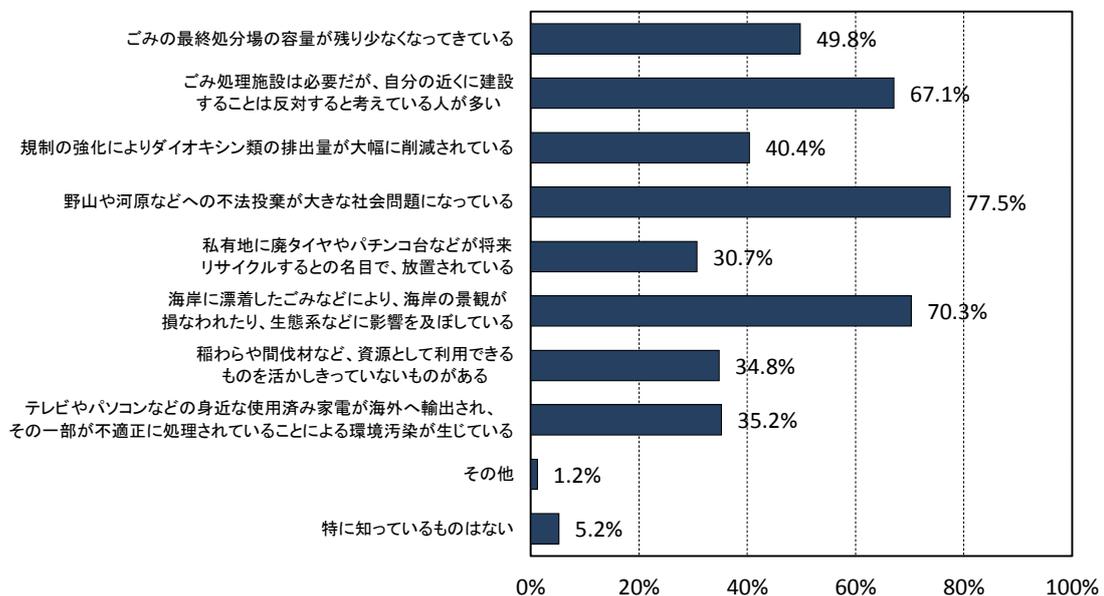


図 5-1-58 「ごみ問題について知っていること」回答率

② 市町別集計

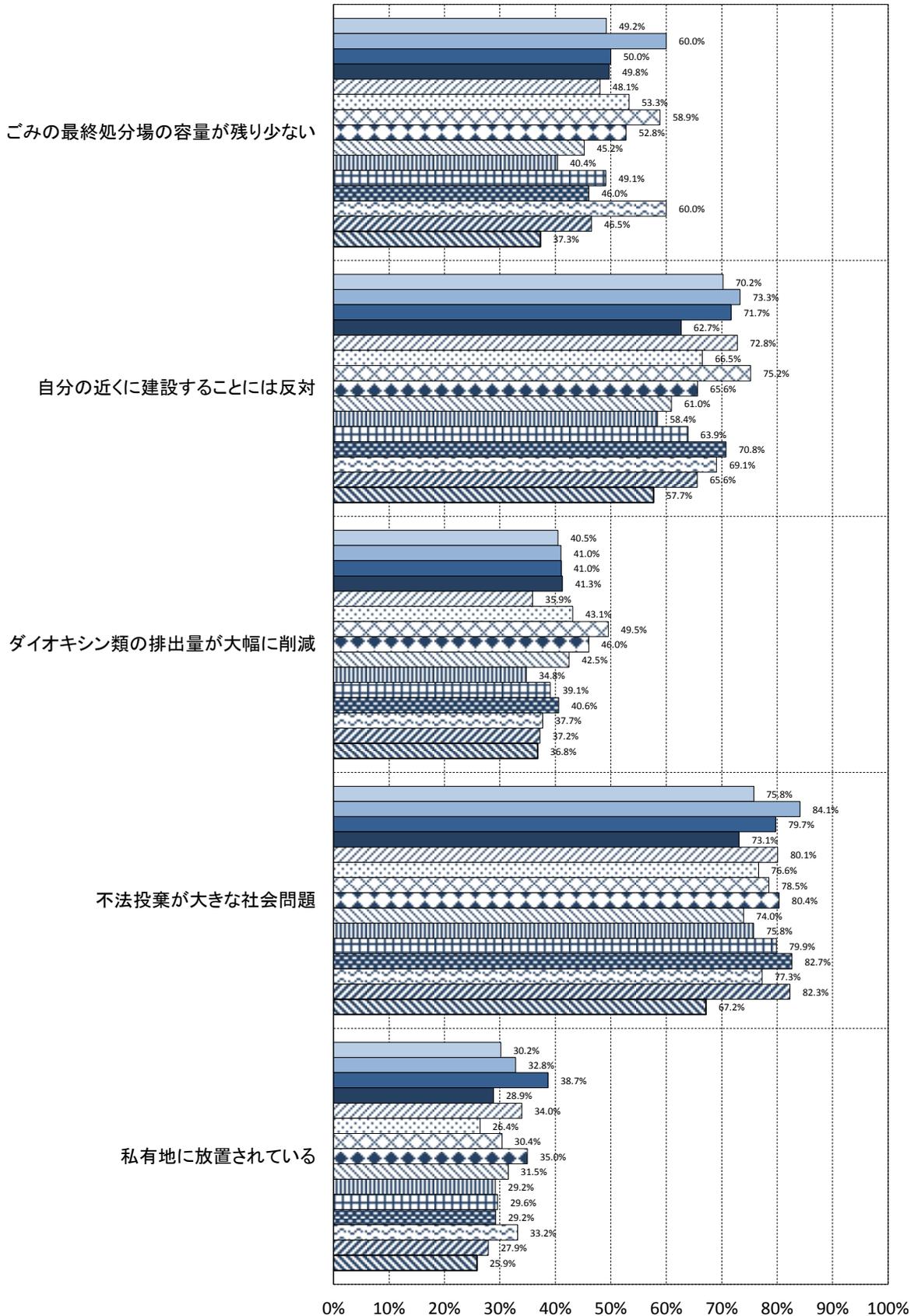
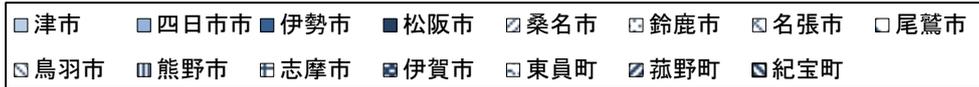


図 5-1-59 (1/2) 「市町別 ごみ問題について知っていること」回答率

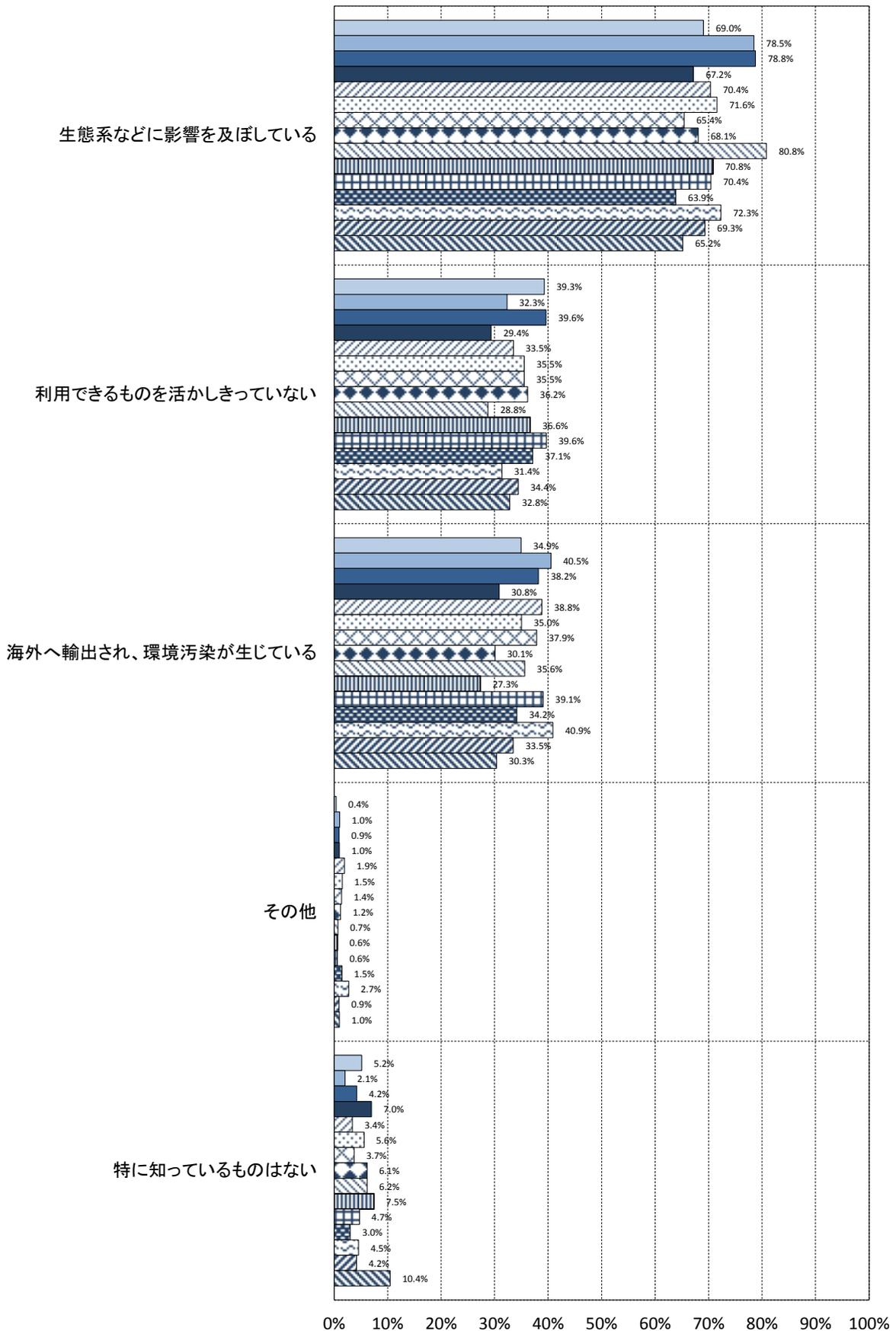
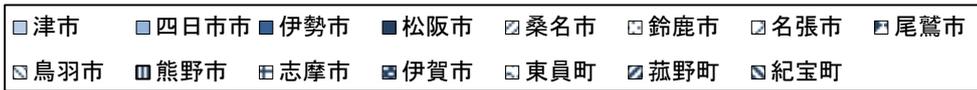


図 5-1-59 (2/2) 「市町別 ごみ問題について知っていること」回答率

③ 年代別集計

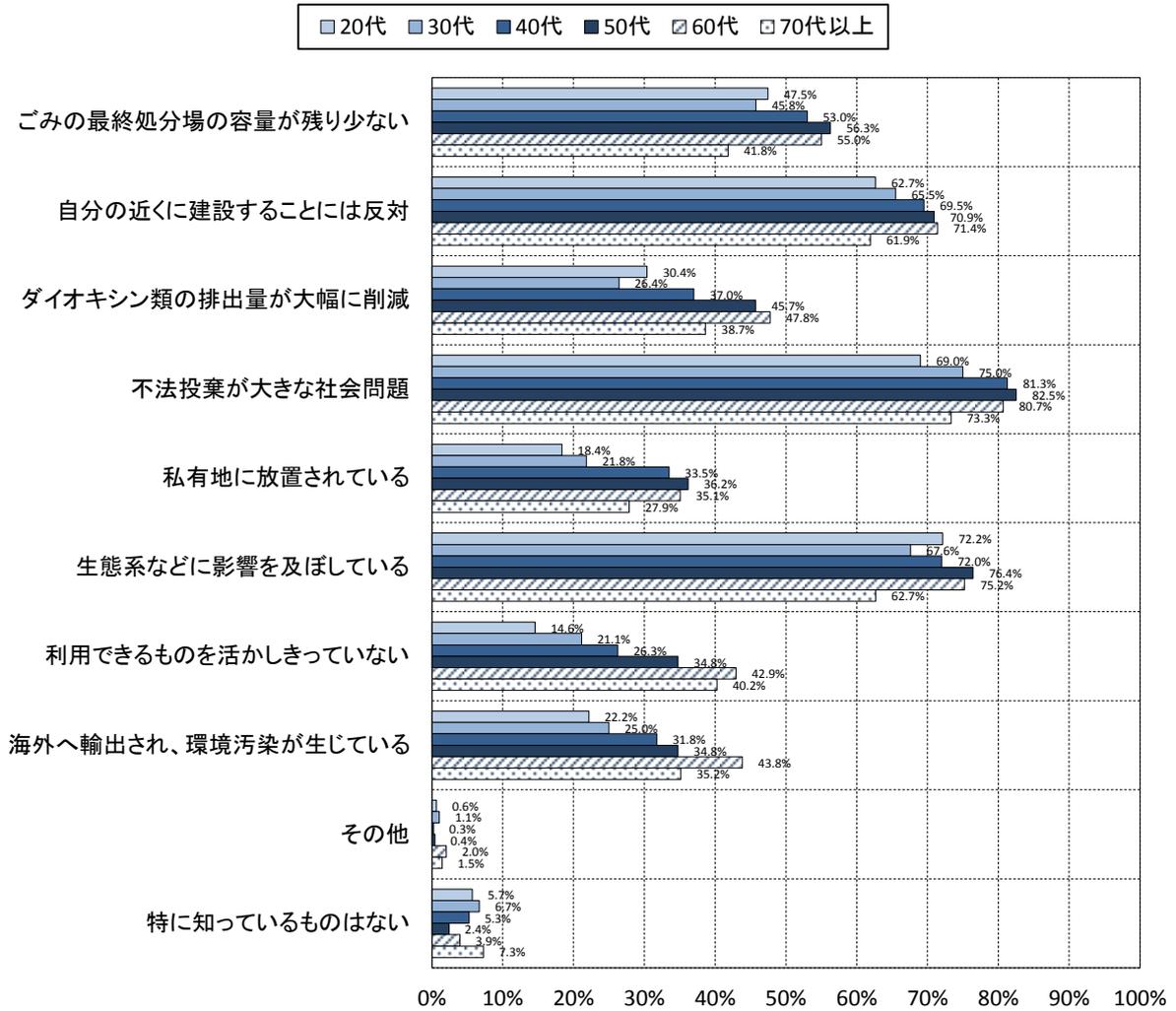


図 5-1-60 「年代別 ごみ問題について知っていること」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

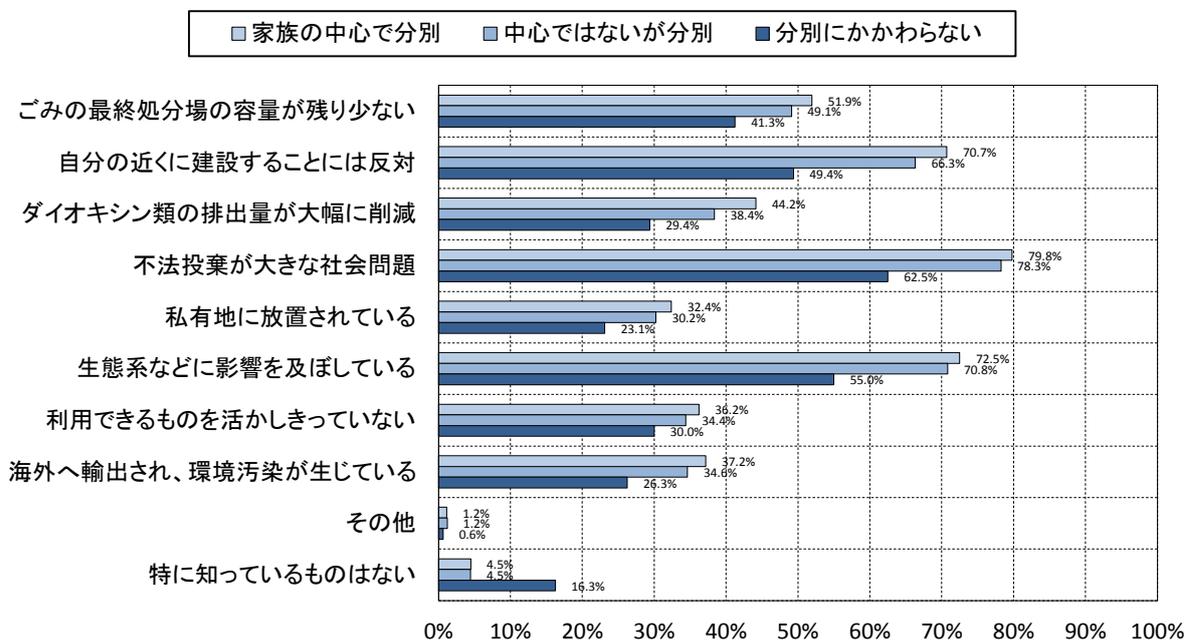


図 5-1-61 「分別行動別 ごみ問題について知っていること」回答率

問17	使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果としてごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか？（〇は1つ）
-----	--

「使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」に対し、「どちらかという、将来のことを考えると『このままでいいのか』という疑問を感じる」が80.4%となっている。市町別では、上記が71.6%から86.2%であり、大きな偏りはみられない。年代別では、上記が72.8%から84.1%であり、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	どちらかという、便利で暮らしやすく、特に疑問は感じていない	210	7.0%
2	どちらかという、将来のことを考えると「このままでいいのか」という疑問を感じる	2,396	80.4%
3	よくわからない	302	10.1%
99	無回答	71	2.5%
有効回答数		2,979	100.0%

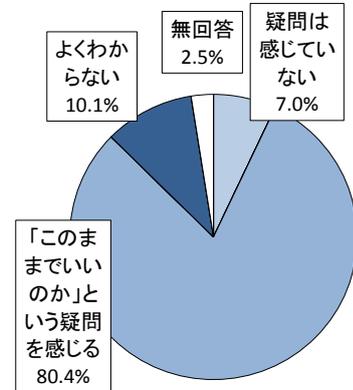


表 5-1-16 「使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」回答状況

図 5-1-62 「使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」回答率

② 市町別集計

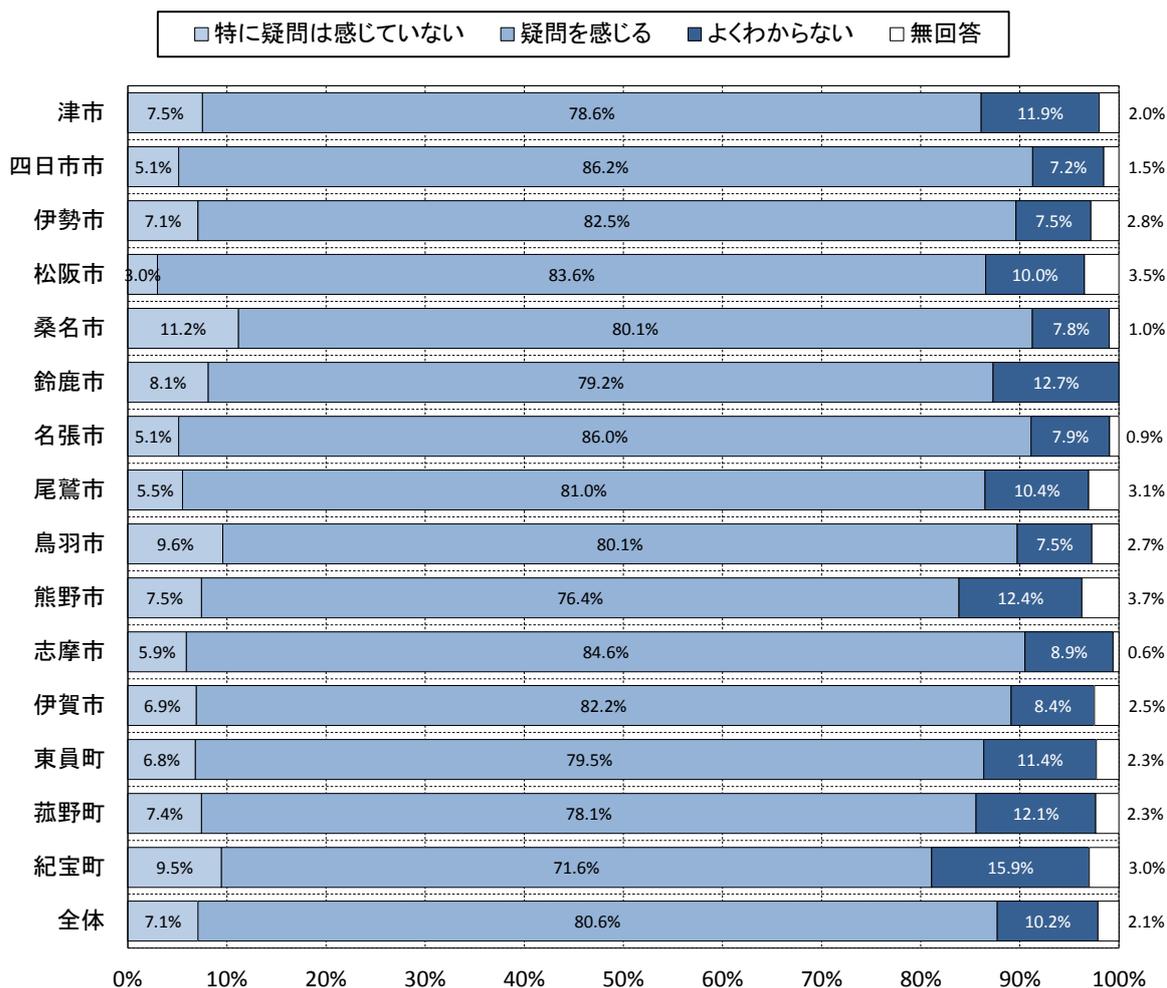


図 5-1-63 「市町別 使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」回答率

③ 年代別集計

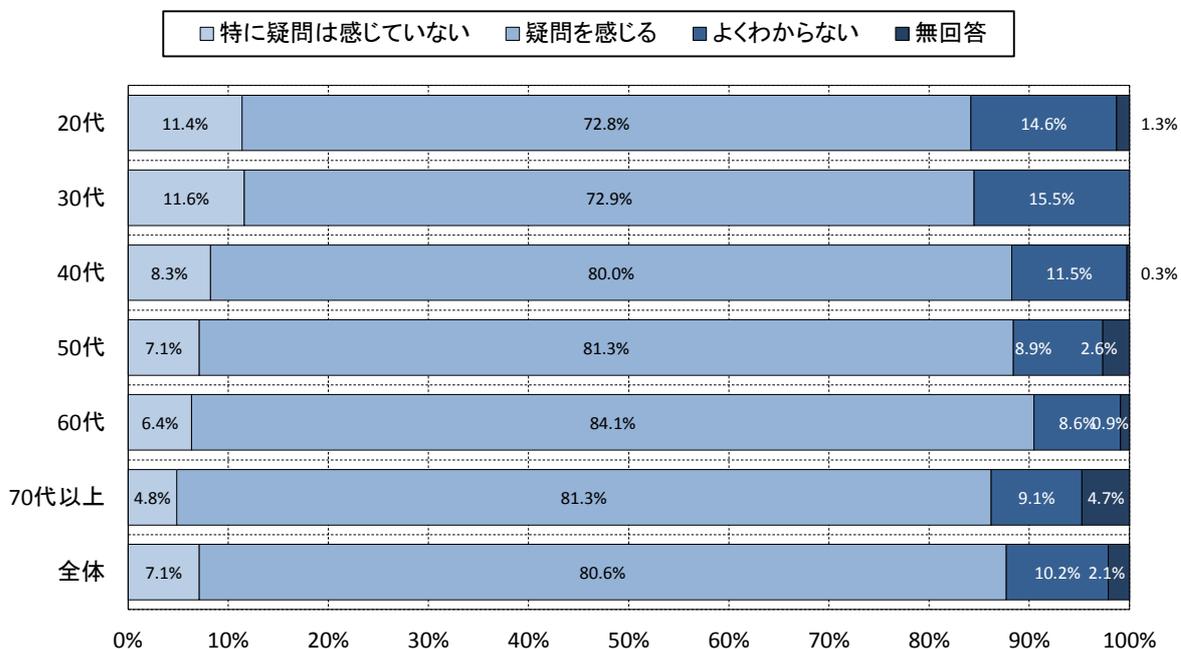


図 5-1-64 「年代別 使い捨て商品があふれる現代の社会をどう感じているか」回答率

問18	ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？ (〇は1つ)
-----	---

「手間やコストをかけてでもごみは有効利用すべき」については、「とてもそう思う」、「少しそう思う」の計が90.3%となっており、「ごみは有効利用すべき」という意識が高いと考えられる。

市町別では、上記の計が85.6%から93.9%であり、大きな偏りはみられない。

年代別では、上記の計が88%から91%であり、「50代」が最も高く「60代」から離れるほど低くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,179	39.6%
2	少しそう思う	1,510	50.7%
3	あまりそうは思わない	203	6.8%
4	まったくそうは思わない	16	0.5%
99	無回答	71	2.4%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-1-17 「ごみは有効利用すべきか」
回答状況

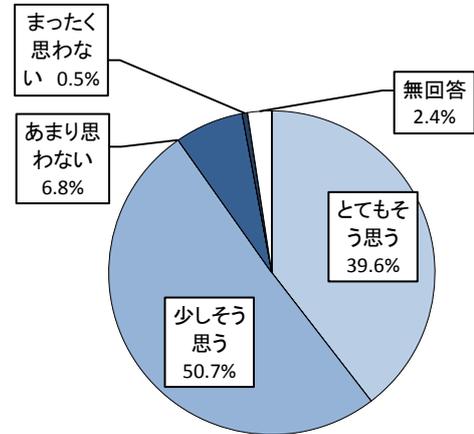


図 5-1-65 「ごみは有効利用すべきか」回答率

② 市町別集計

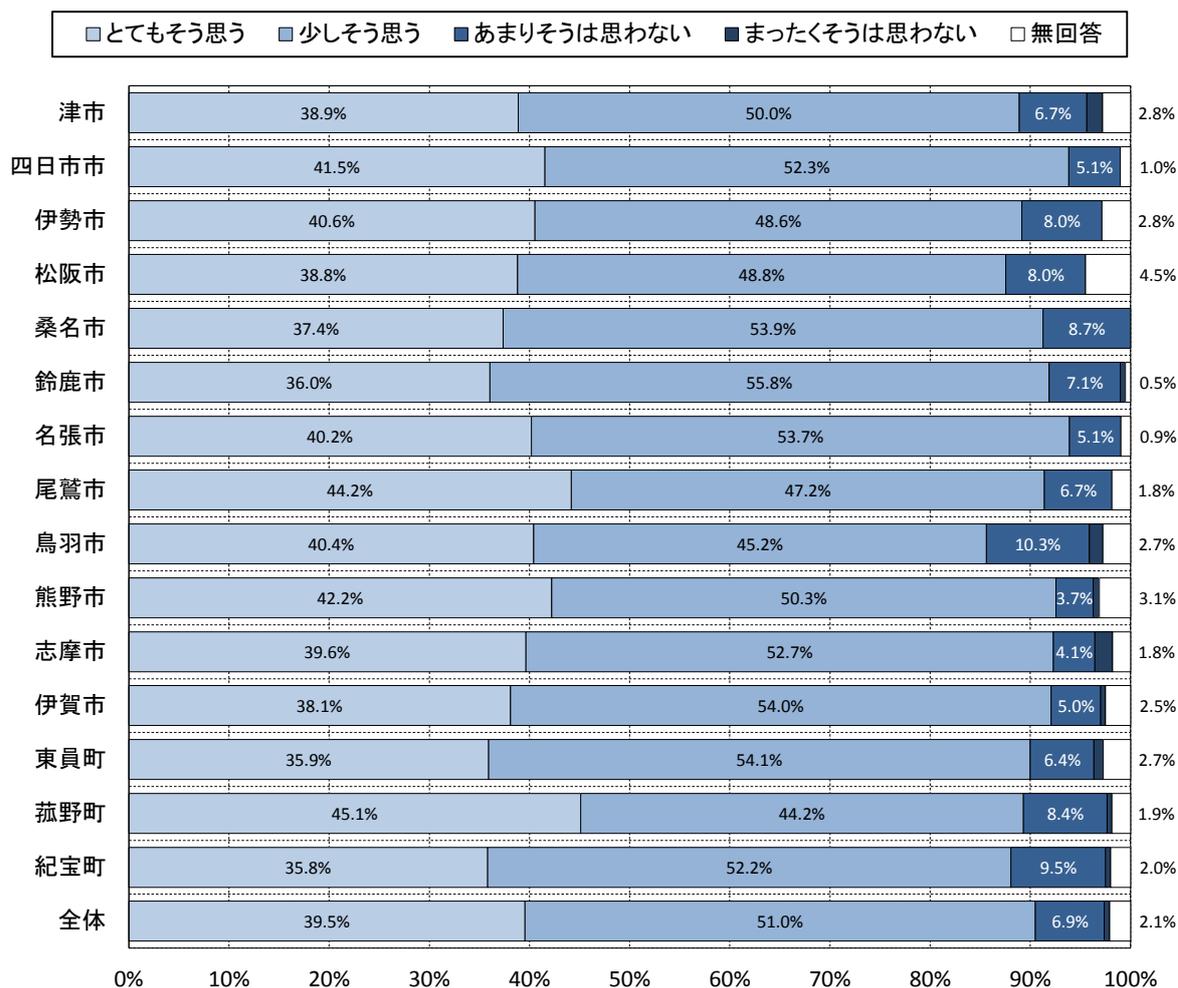


図 5-1-66 「市町別 ごみは有効利用すべきか」回答率

③ 年代別集計

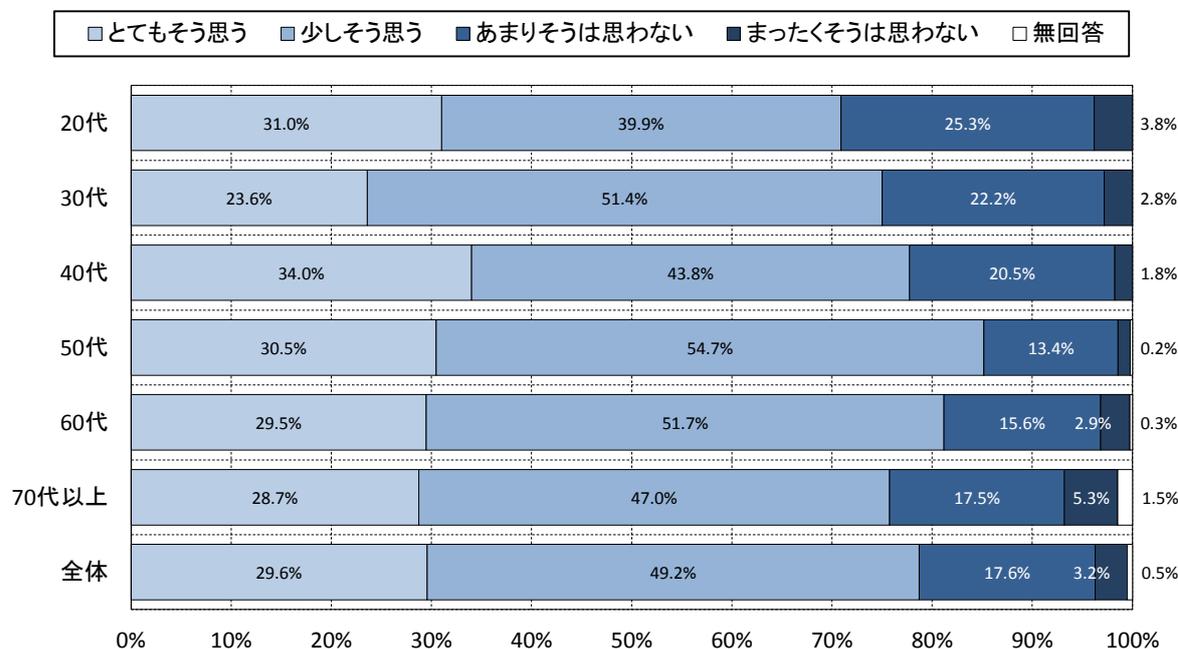


図 5-1-67 「年代別 ごみは有効利用すべきか」回答率

5-2 現在行っているごみ減量やリサイクルの取組について

問19 ごみを減らす取組の中でどれが大切だと思いますか？（〇は1つずつ）

「ごみを減らす取組の中で最も大切なこと」については、「ごみそのものの発生を減らすこと」の割合が52.3%で最も高い。
 市町別では、上記が43.3%から56.3%であり、大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記が46.6%から58.5%であり、大きな偏りはみられない。
 また、「ごみを減らす取組の中で次に大切なこと」については、「ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること」が39.3%と高く、次いで「まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと」の31.0%となっている。
 「ごみそのものの発生を減らすこと」という意識は比較的高いと考えられる。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみそのものの発生を減らすこと	1,557	52.3%
2	まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと	387	13.0%
3	ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること	845	28.4%
99	無回答	190	6.3%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-2-1 「取組の中で最も大切なこと」回答状況

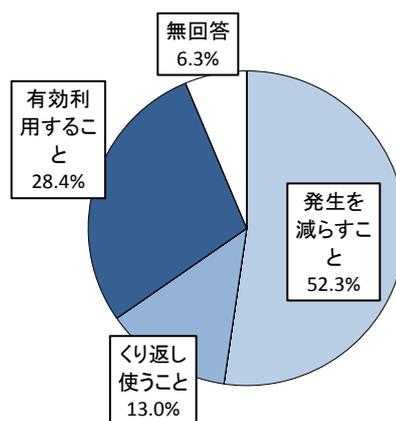


図 5-2-1 「取組の中で最も大切なこと」回答率

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみそのものの発生を減らすこと	543	18.2%
2	まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと	922	31.0%
3	ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること	1,170	39.3%
99	無回答	344	11.5%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-2-2 「取組の中で次に大切なこと」回答状況

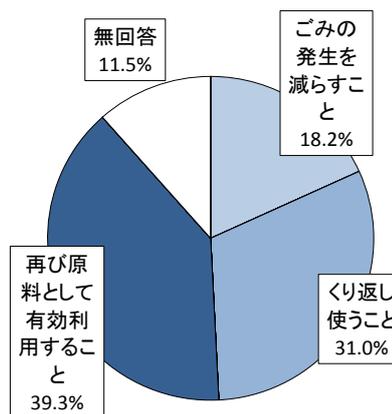


図 5-2-2 「取組の中で次に大切なこと」回答率

② 市町別集計

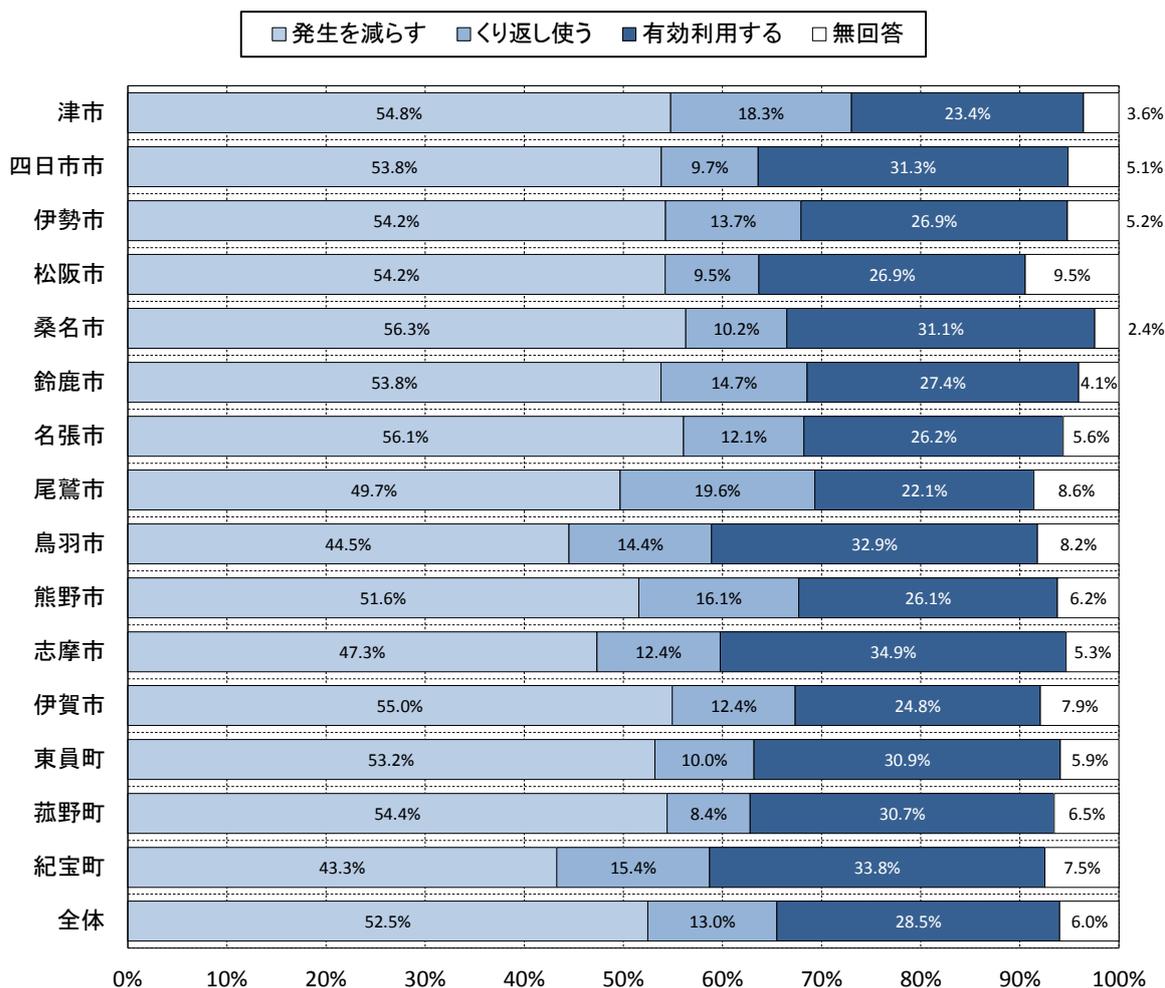


図 5-2-3 「市町別 取組の中で最も大切なこと」回答率

③ 年代別集計

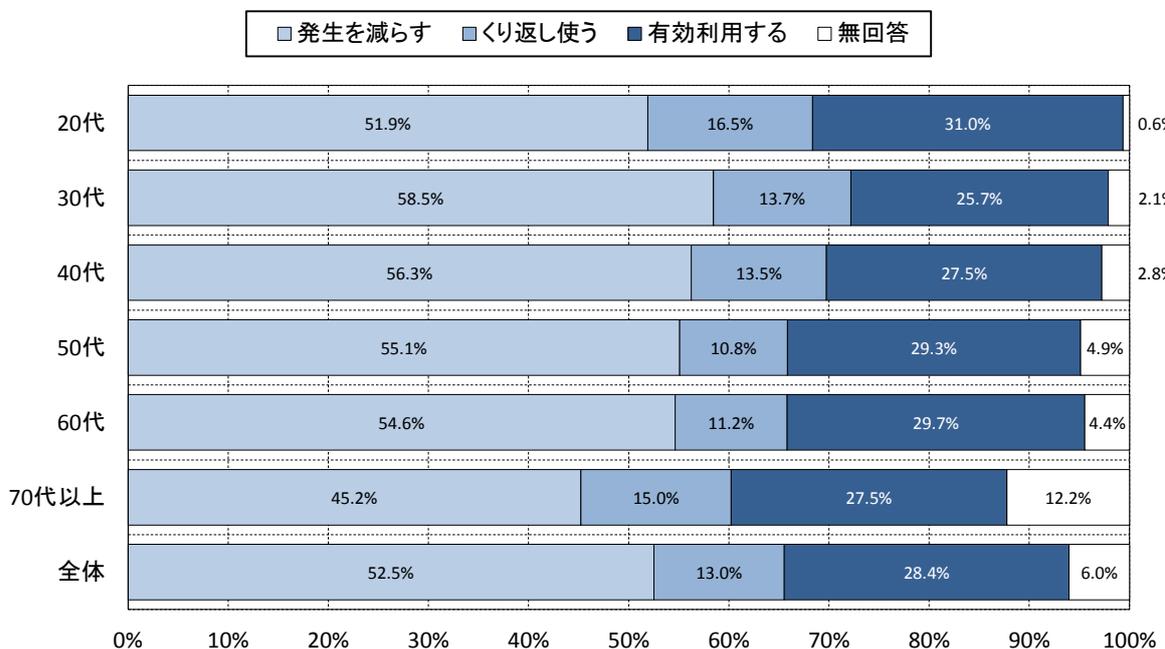


図 5-2-4 「年代別 取組の中で最も大切なこと」回答率

問20 あなたの家庭では、次のうち、資源ごみとして市町の収集に出している品目はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

「資源ごみとして市町の収集に出している品目」については、「ペットボトル」（81.4%）、「アルミ缶」（82.3%）、「空きびん」（85.8%）の回答率が80%より高くなっている。市町別についてみると、上記のいずれの品目も数値の差はあるものの高い。その一方で、牛乳パック、古布や衣類、食品トレイ、蛍光管および電池類では、市町間での差が大きい。また、菰野町ではすべての品目で6割以上となっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	新聞	2,239	75.2%
2	雑誌	2,266	76.1%
3	牛乳パック	1,593	53.5%
4	古布や衣類	2,050	68.8%
5	食品トレイ	1,772	59.5%
6	ペットボトル	2,424	81.4%
7	アルミ缶	2,451	82.3%
8	スチール缶	2,316	77.7%
9	空きびん	2,555	85.8%
10	蛍光管	1,814	60.9%
11	電池類	2,115	71.0%
12	あてはまるものなし	62	2.1%
総回答数		23,657	794.3%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-2-3 「資源ごみとして市町の収集に出している品目」回答状況

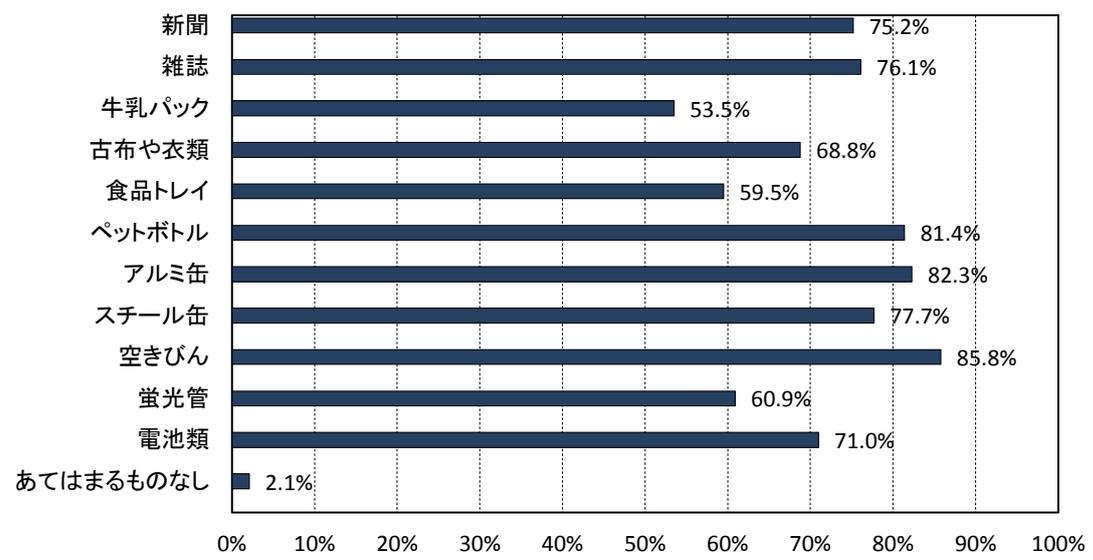


図 5-2-5 「資源ごみとして市町の収集に出している品目」回答率

② 市町別集計

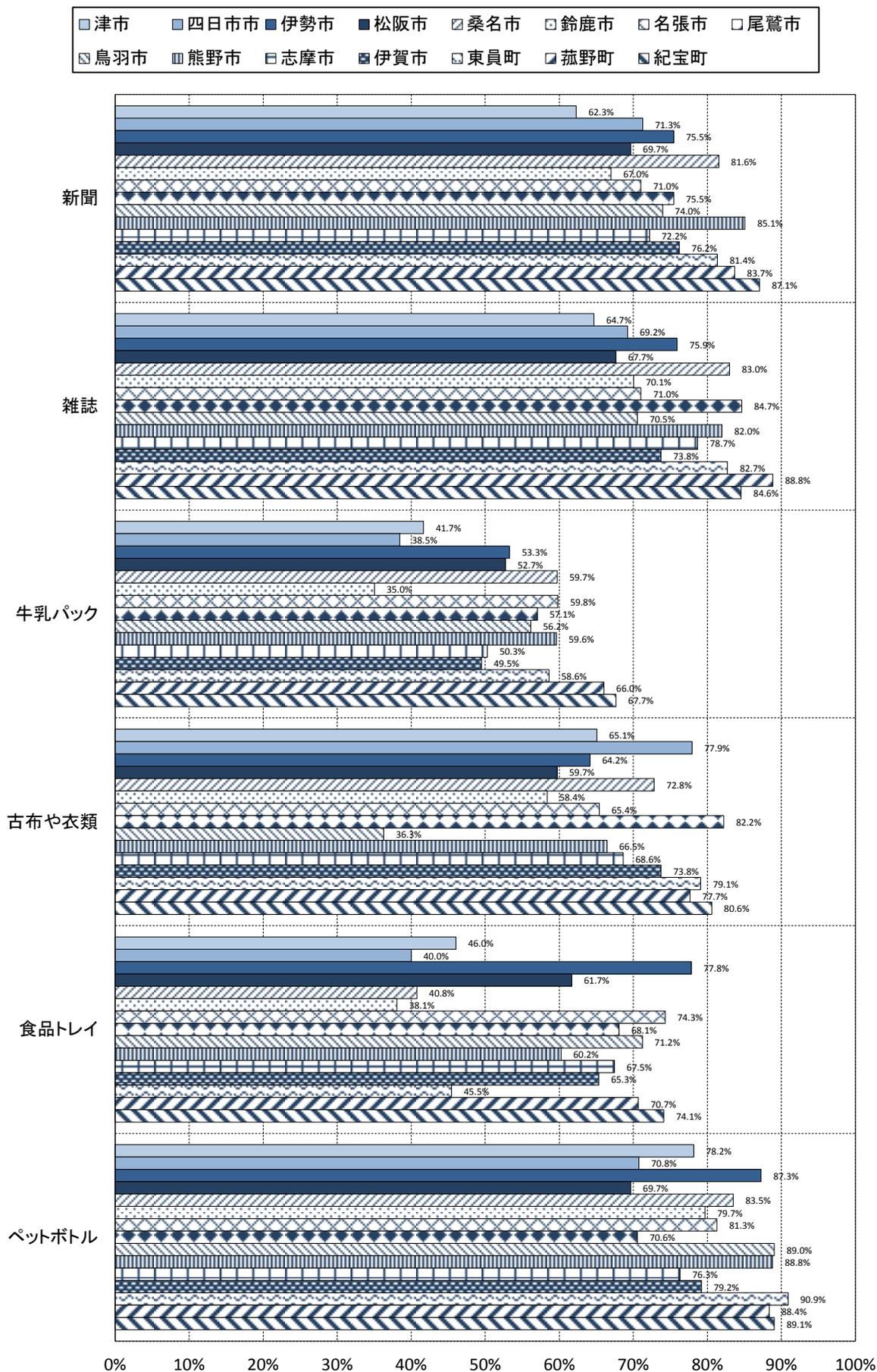
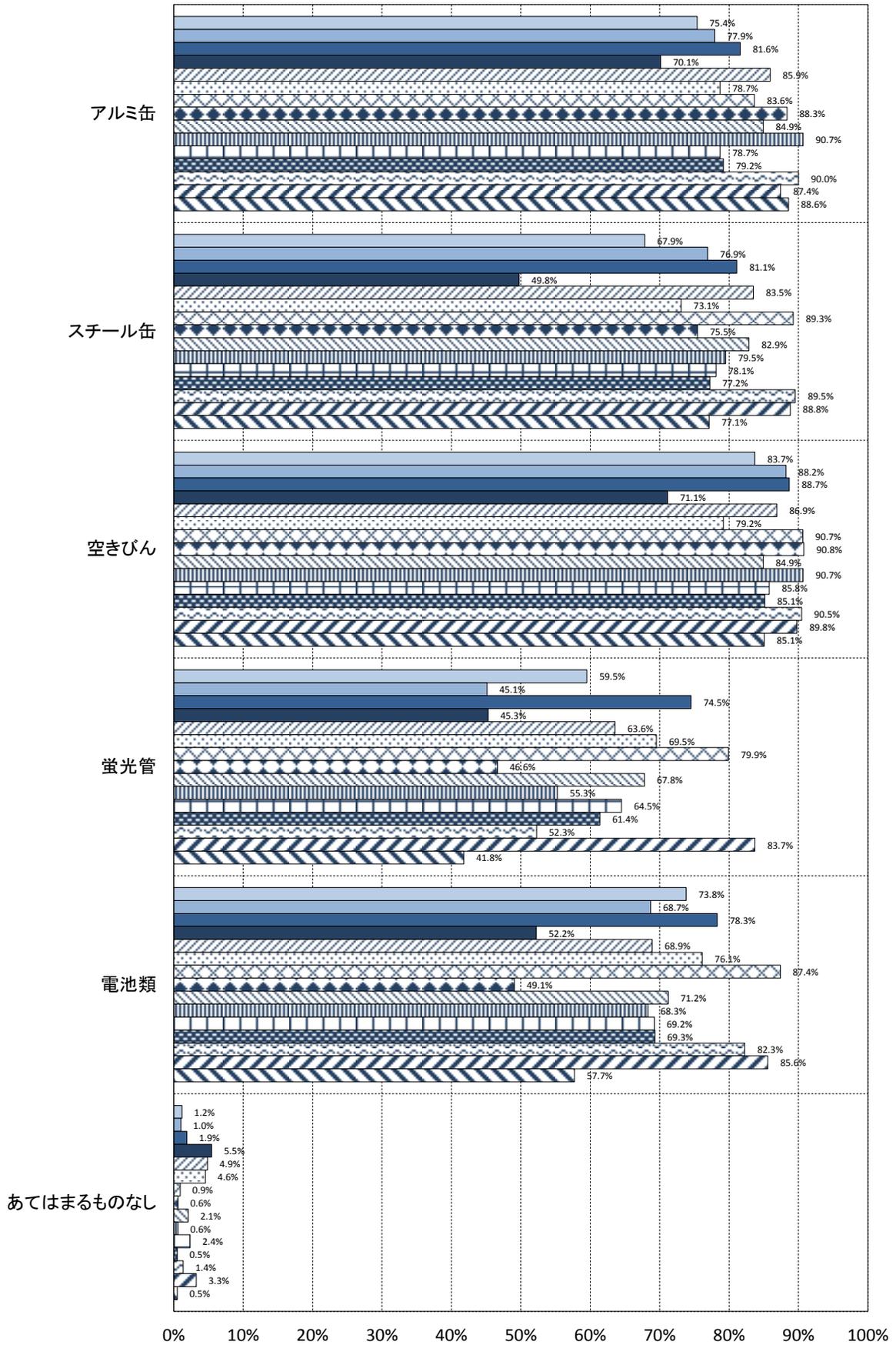
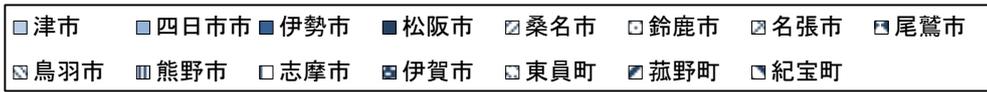


図 5-2-6 (1/2) 「市町別 資源ごみとして市街の収集に出している品目」 回答率



問21 あなたの家庭では、次のうち、お店に持って行って回収してもらっている品目はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

「お店で回収してもらっている品目」については、「食品トレイ」（39.2%）、「ペットボトル」（37.2%）の回答率が30%とより高くなっている。市町別では、ほとんどの市街で上記2品目の割合が高くなっているが、数値としてはかなり差がある。尾鷲市では、上記2品目に加え、「蛍光管」、「電池類」については7割を超えており、「あてはまるものなし」も6.1%と市町間で一番低い。一方、紀宝町では、「食品トレイ」が22.9%で、それ以外の品目は2割に満たず、「あてはまるものなし」が53.2%と市町間で一番高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	新聞	419	14.1%
2	雑誌	345	11.6%
3	牛乳パック	852	28.6%
4	古布や衣類	209	7.0%
5	食品トレイ	1,169	39.2%
6	ペットボトル	1,108	37.2%
7	アルミ缶	752	25.2%
8	スチール缶	373	12.5%
9	空きびん	344	11.5%
10	蛍光管	286	9.6%
11	電池類	373	12.5%
12	あてはまるものなし	867	29.1%
総回答数		7,097	238.1%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-2-4 「お店で回収してもらっている品目」回答状況

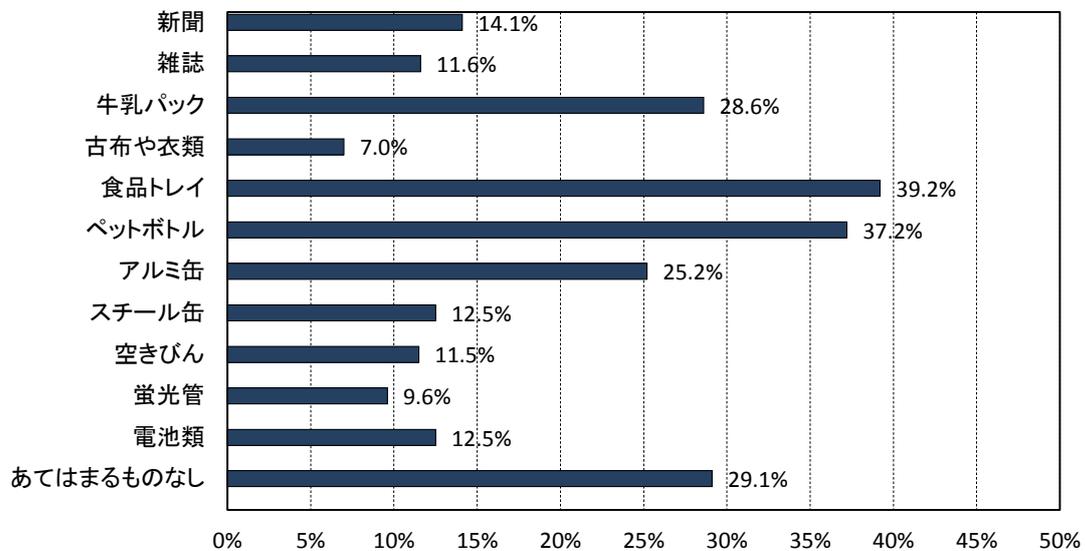


図 5-2-7 「お店で回収してもらっている品目」回答率

② 市町別集計

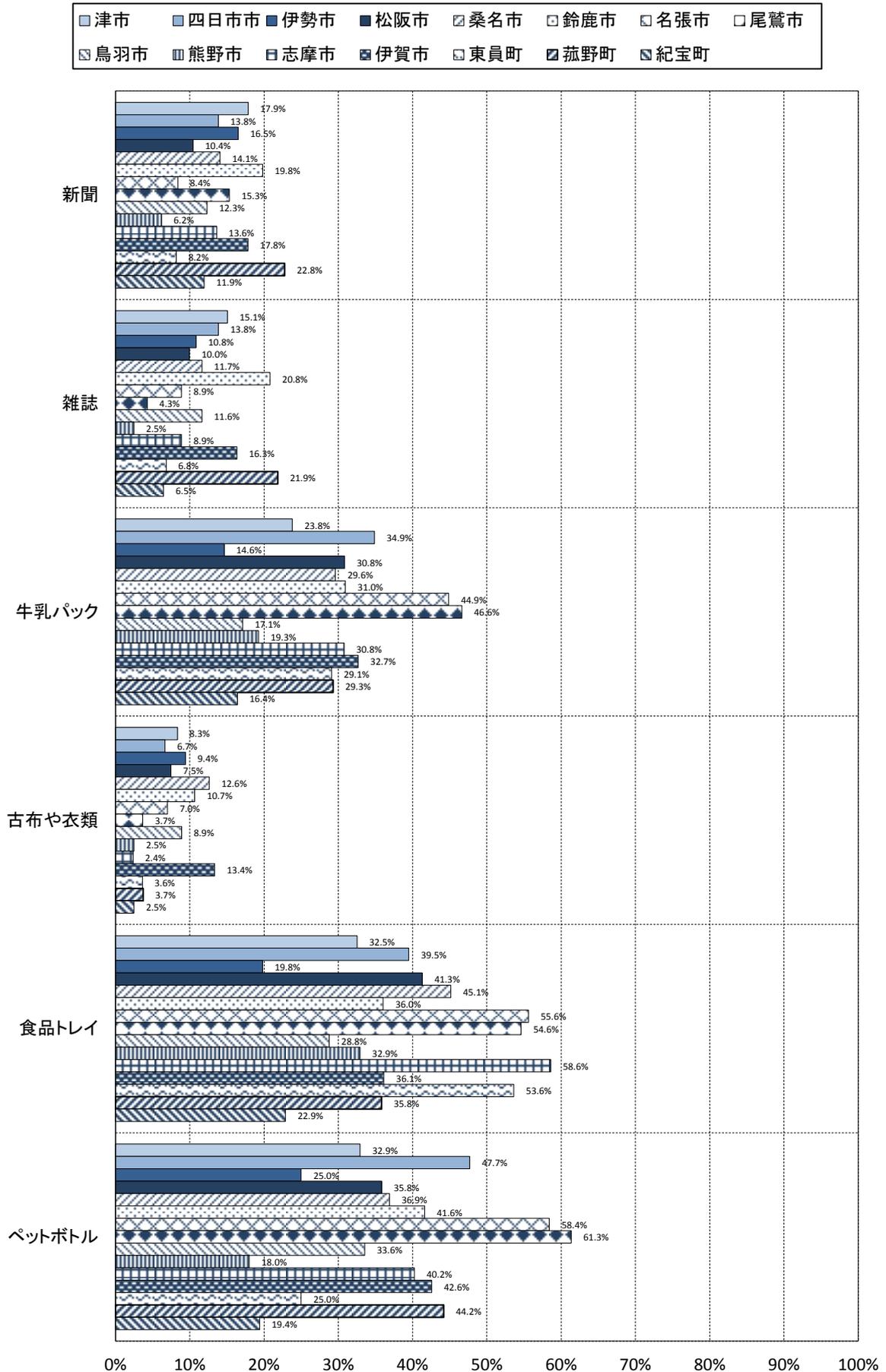


図 5-2-8 (1/2) 「市町別 お店で改修してもらっている品目」回答率

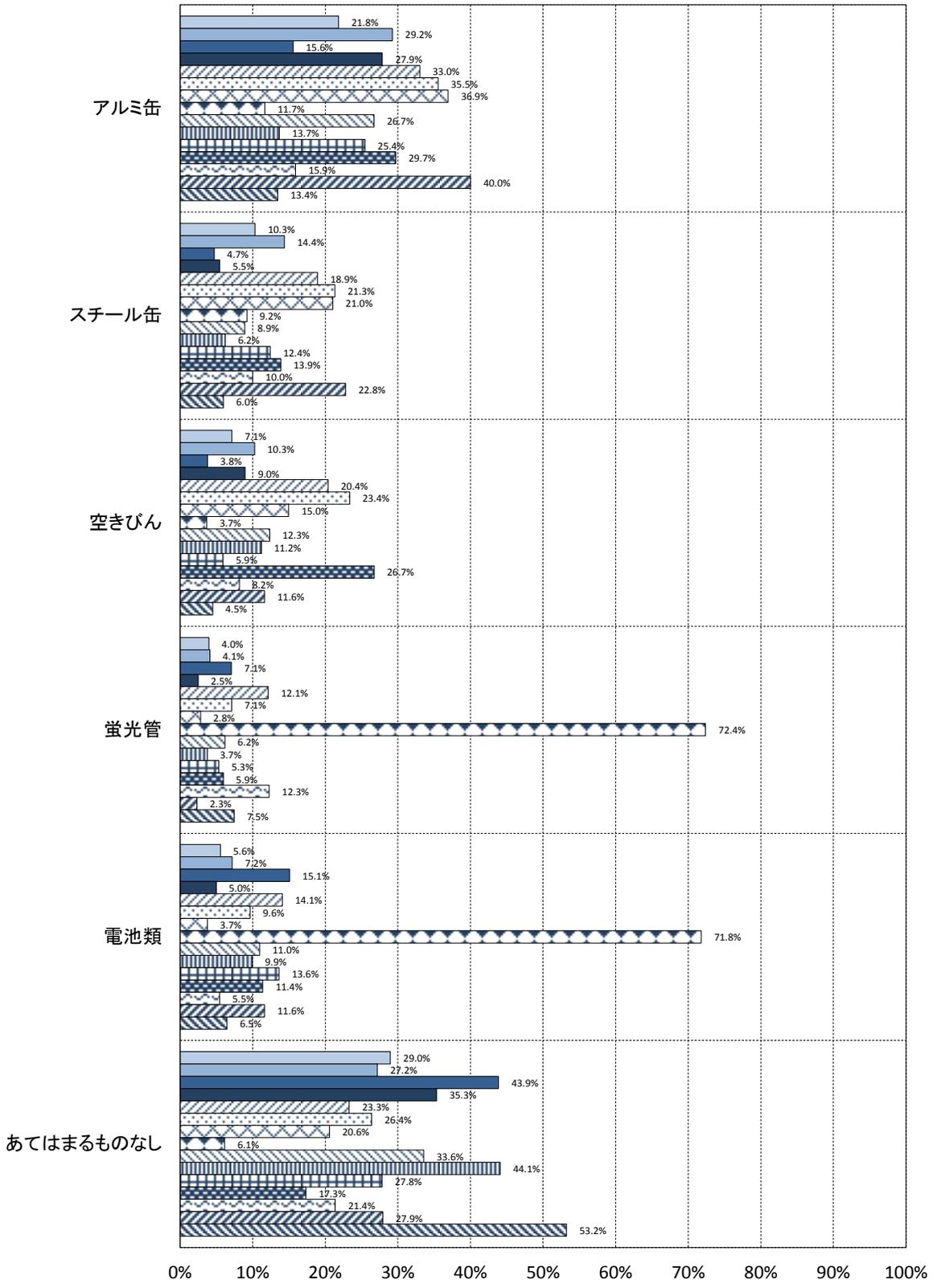
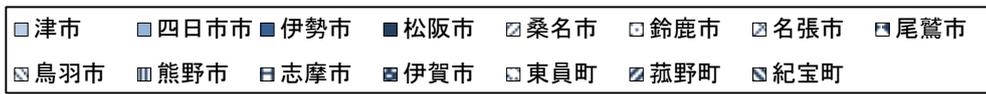


図 5-2-8 (2/2) 「市町別 お店で改修してもらっている品目」回答率

問22 あなたの家庭では、次のうち、地域で行われる廃品回収（集団回収）に出している品目はどれですか？（あてはまるものすべてに○）

地域の廃品回収（集団回収）に出している品目について、「新聞」（59%）、「雑誌」（54.6%）の回答率が50%より高くなっている。
市町別にみると上記2品目はいずれの市町でも高い割合となっているが、最も高い名張市と低い紀宝町では倍以上の開きがあるなど、市町によってかなり差がある。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	新聞	1,758	59.0%
2	雑誌	1,626	54.6%
3	牛乳パック	762	25.6%
4	古布や衣類	1,110	37.3%
5	食品トレイ	616	20.7%
6	ペットボトル	944	31.7%
7	アルミ缶	1,258	42.2%
8	スチール缶	946	31.8%
9	空きびん	1,038	34.8%
10	蛍光管	705	23.7%
11	電池類	794	26.7%
12	あてはまるものなし	713	23.9%
総回答数		12,270	412.0%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-2-5 「廃品回収に出している品目」
回答状況

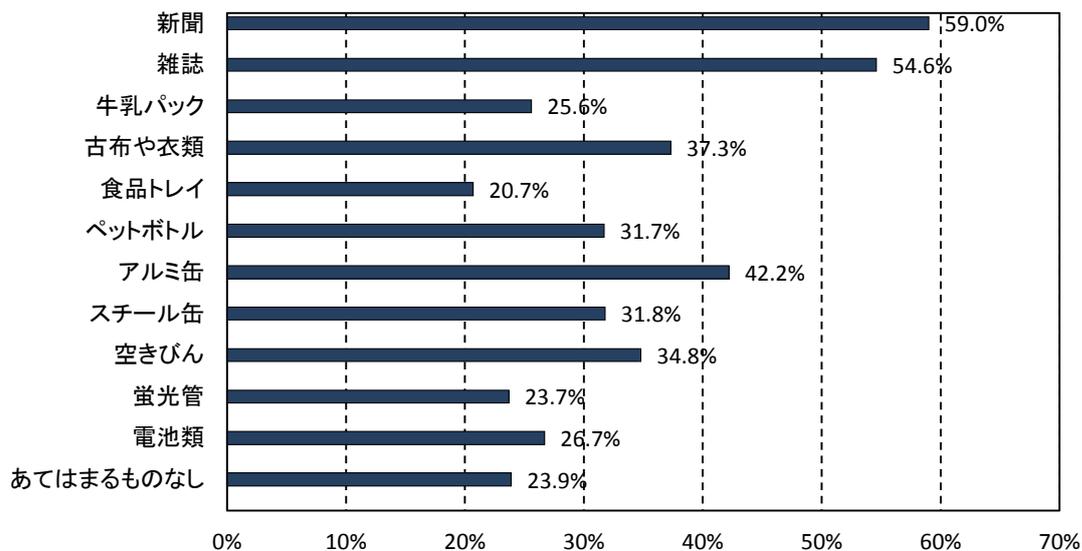


図 5-2-9 「廃品回収に出している品目」回答率

② 市町別集計

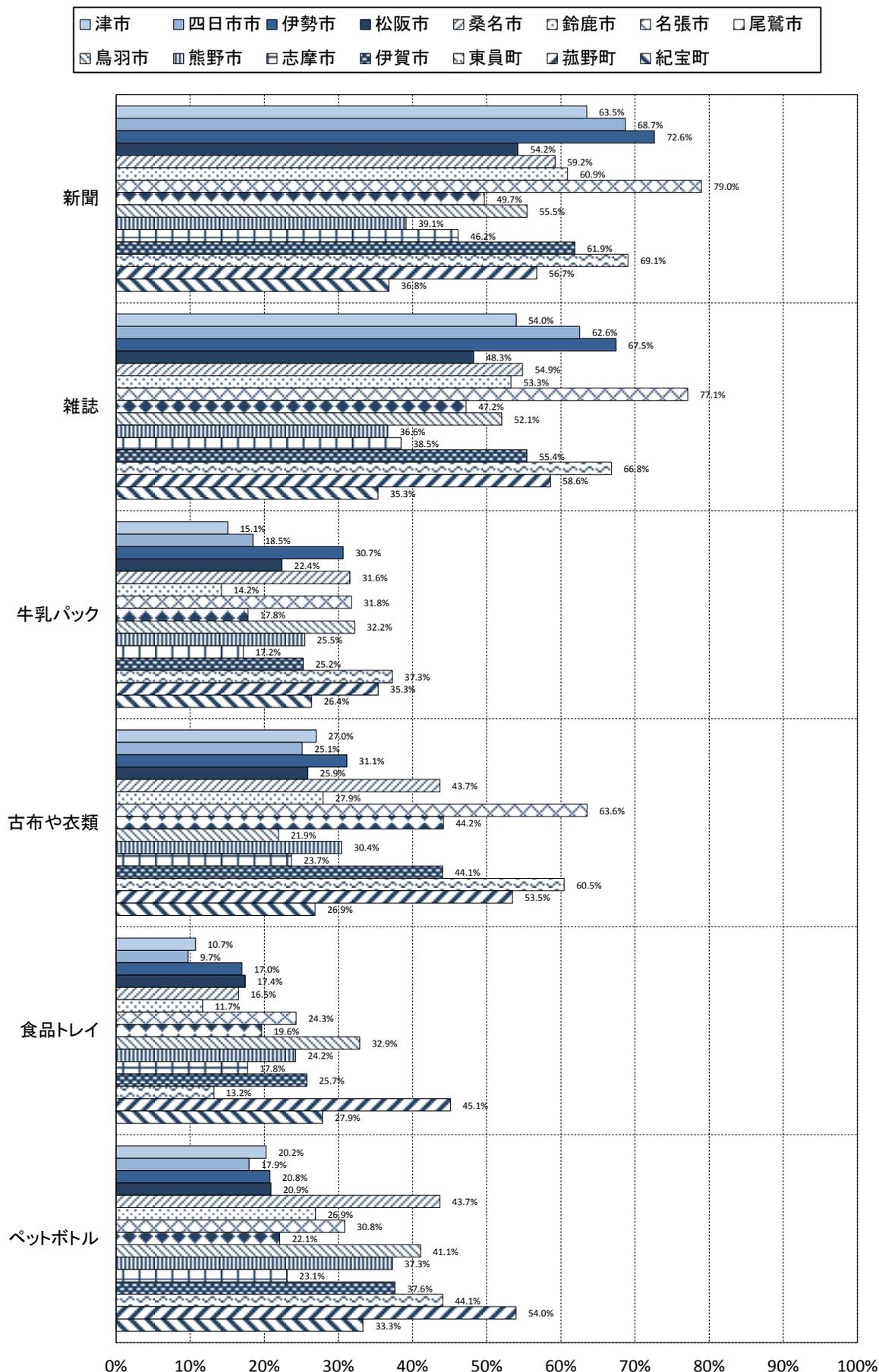


図 5-2-10 (1/2) 「市町別 廃品回収に出している品目」 回答率

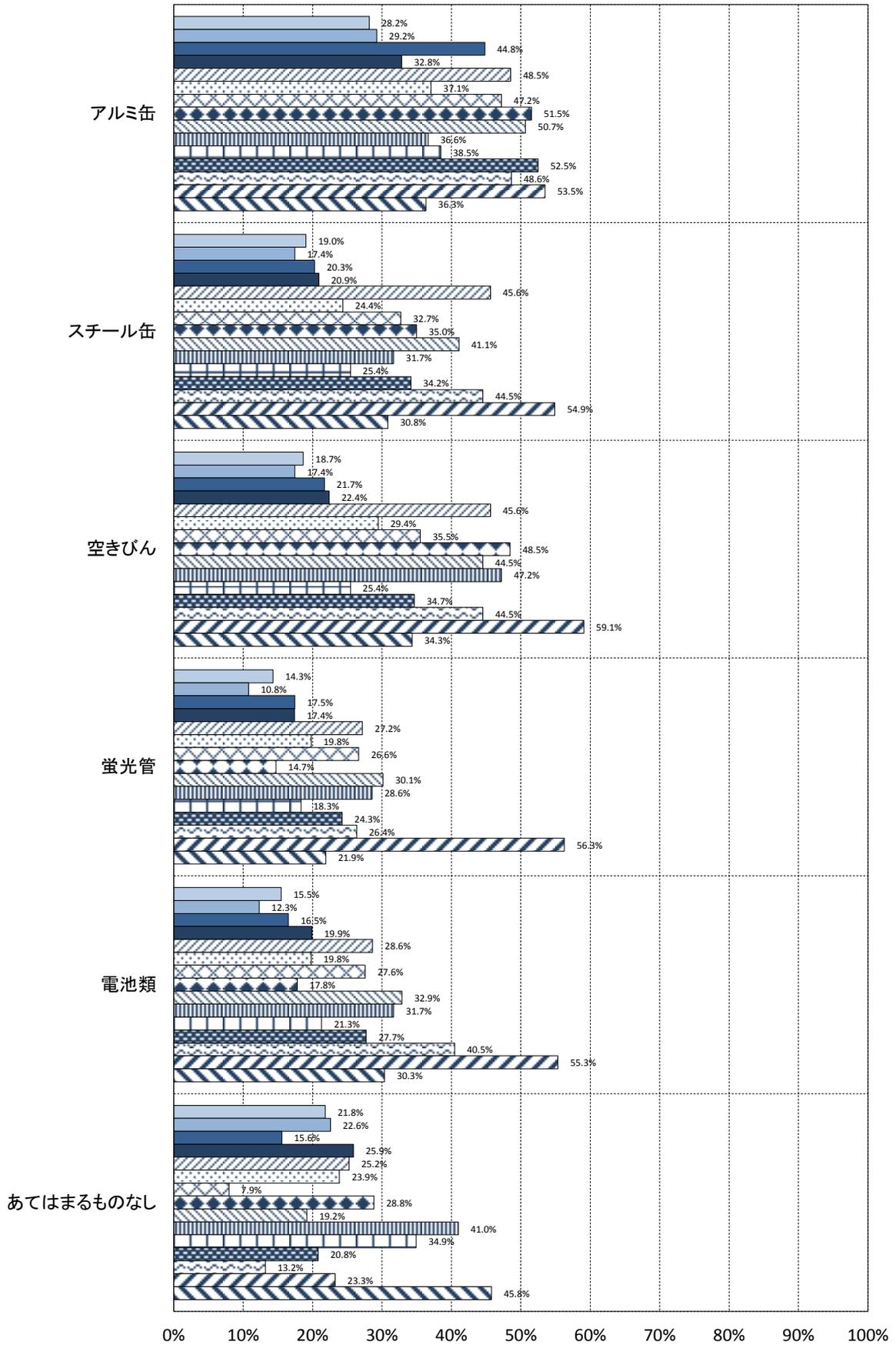
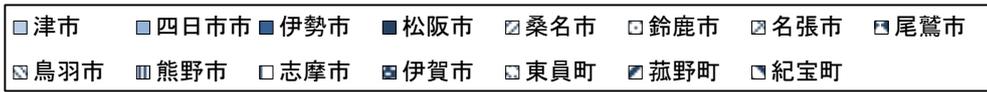


図 5-2-10 (2/2) 「市町別 廃品回収に出している品目」 回答率

問23 あなたは、分別したごみがあなただの市町でどのように処理・リサイクルされるかご存知ですか？（〇は1つ）

「ごみの処理・リサイクルの仕方」については、「あまり知らない」、「まったく知らない」の計で63.7%となっている。
 市町別では、上記の計が57.7%から69.9%であり、市町により大きな偏りはみられないが、「鳥羽市」および「紀宝町」では「知っている」が比較的高い。
 年代別では、上記の計が63.8%から86.6%であり、年代が低いほど高い。
 分別行動別では、上記の計が61.5%から78.1%であり、分別にかかわらないほど高く、「まったく知らない」が40%と非常に高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	知っている	294	9.9%
2	少し知っている	728	24.4%
3	あまり知らない	1,265	42.5%
4	まったく知らない	633	21.2%
99	無回答	59	2.0%
有効回答数		2,979	100.0%

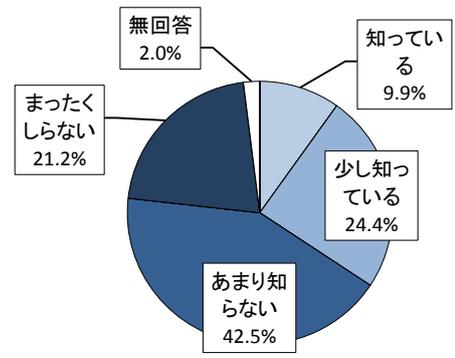


表 5-2-6 「ごみの処理・リサイクルの仕方」回答状況

図 5-2-11 「ごみの処理・リサイクルの仕方」回答率

② 市町別集計

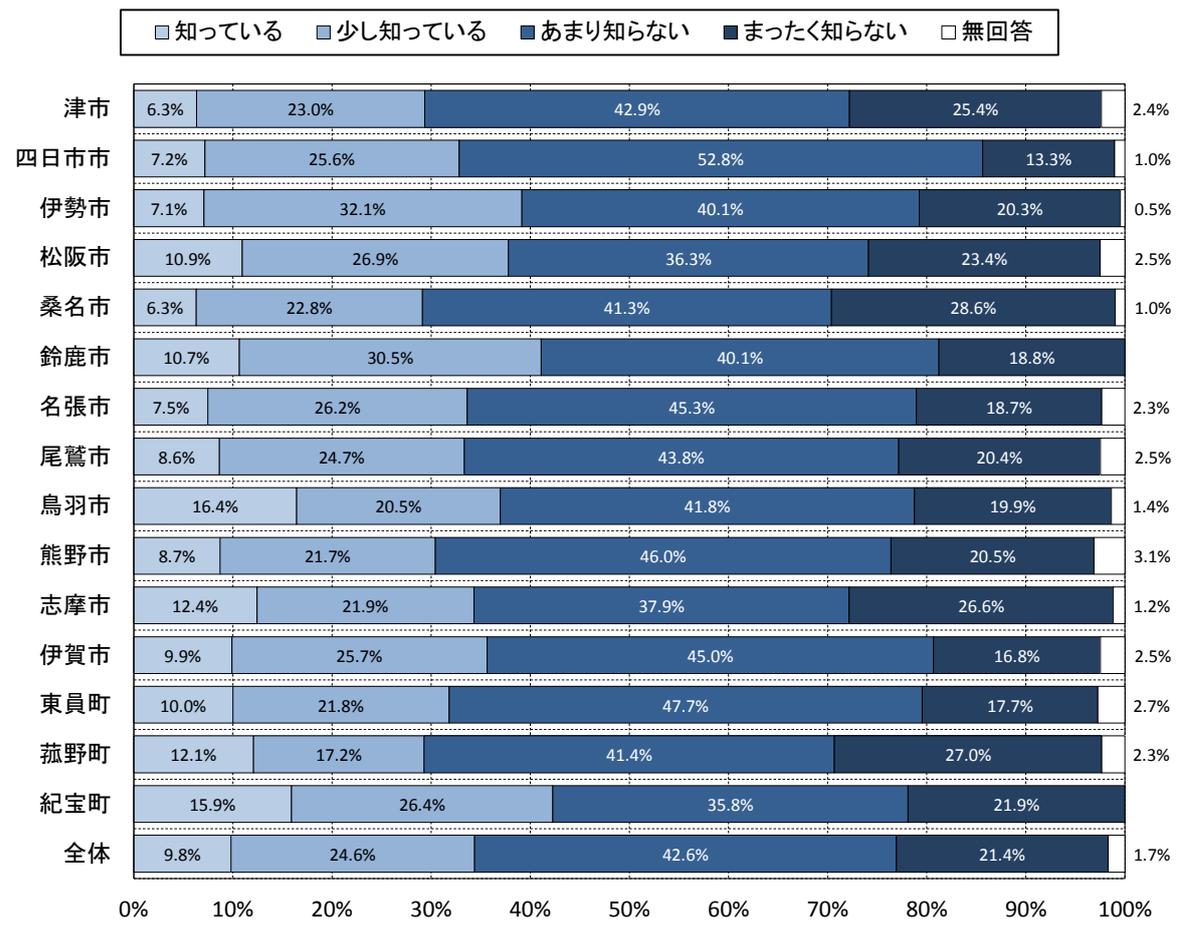


図 5-2-12 「市町別 ごみの処理・リサイクルの仕方」回答率

③ 年代別集計

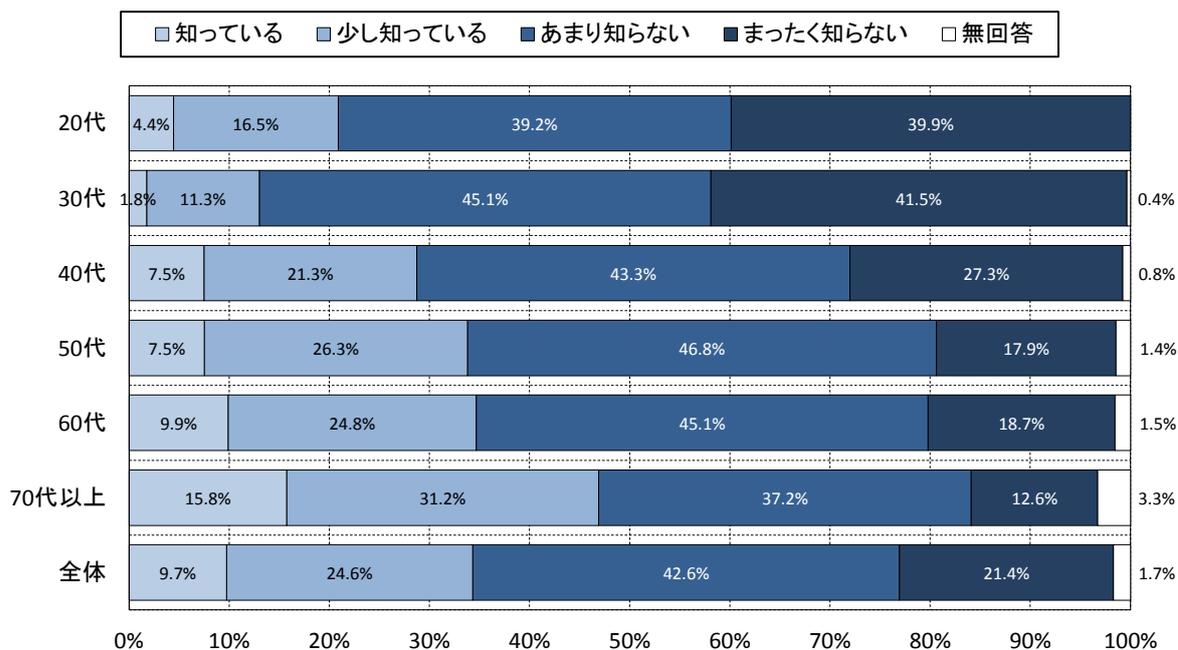


図 5-2-13 「年代別 ごみの処理・リサイクルの仕方」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

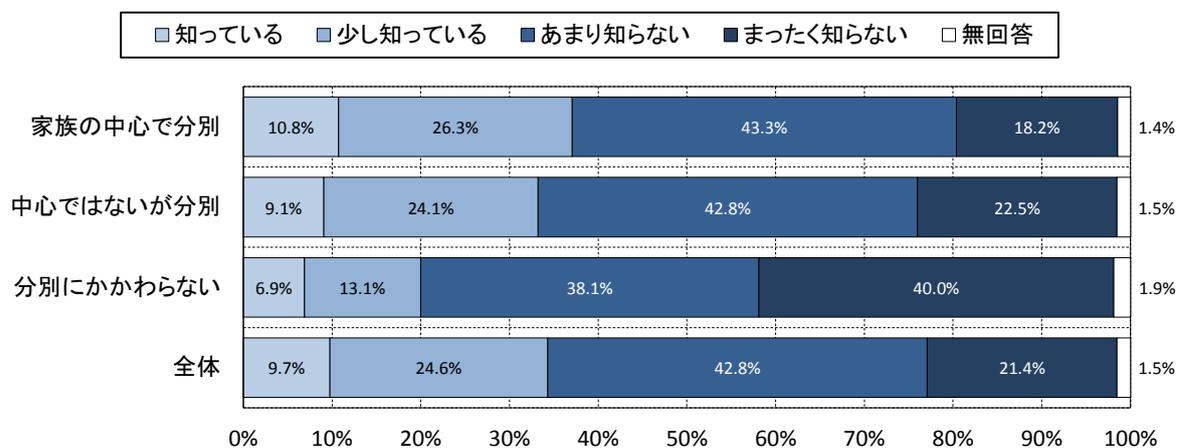


図 5-2-14 「分別行動別 ごみの処理・リサイクルの仕方」回答率

問24 ごみを分別するのに、あなたは1日あたりおよそどのくらいの時間をかけていると思いますか？（〇は1つ）

家庭内でごみの分別に要している時間は、「数分程度」が47.0%と高く、次いで「10分～30分くらい」が26.9%となっている。
市町別については、大きな偏りはみられない。
世帯特徴別については、A-5「夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる」は「数分程度」が高い一方、「1時間以上」も高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	1時間以上	216	7.3%
2	30分～1時間くらい	158	5.3%
3	10分～30分くらい	801	26.9%
4	数分程度	1,403	47.0%
5	ほとんどかけていない	324	10.9%
99	無回答	77	2.6%
有効回答数		2,979	100.0%

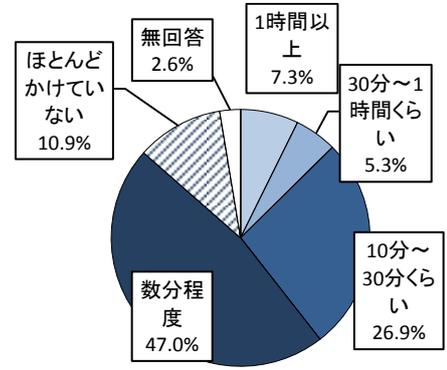


表 5-2-7 「ごみを分別するのにかけている時間」回答状況

図 5-2-15 「ごみを分別するのにかけている時間」回答率

② 市町別集計

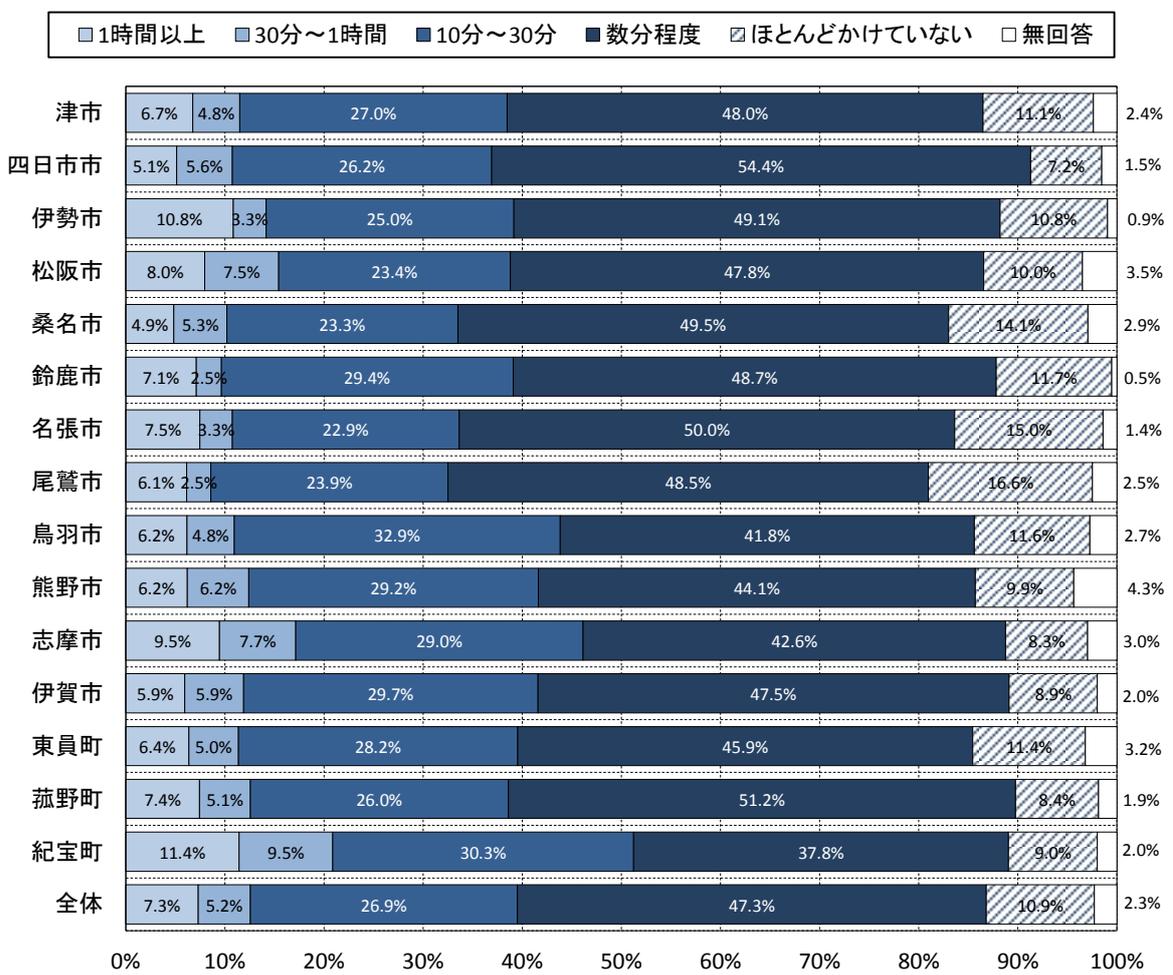


図 5-2-16 「市町別 ごみを分別するのにかけている時間」回答率

③ 世帯特徴別集計

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査表は上の表のたすね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-8 「世帯特徴別 ごみを分別するのにかけている時間」

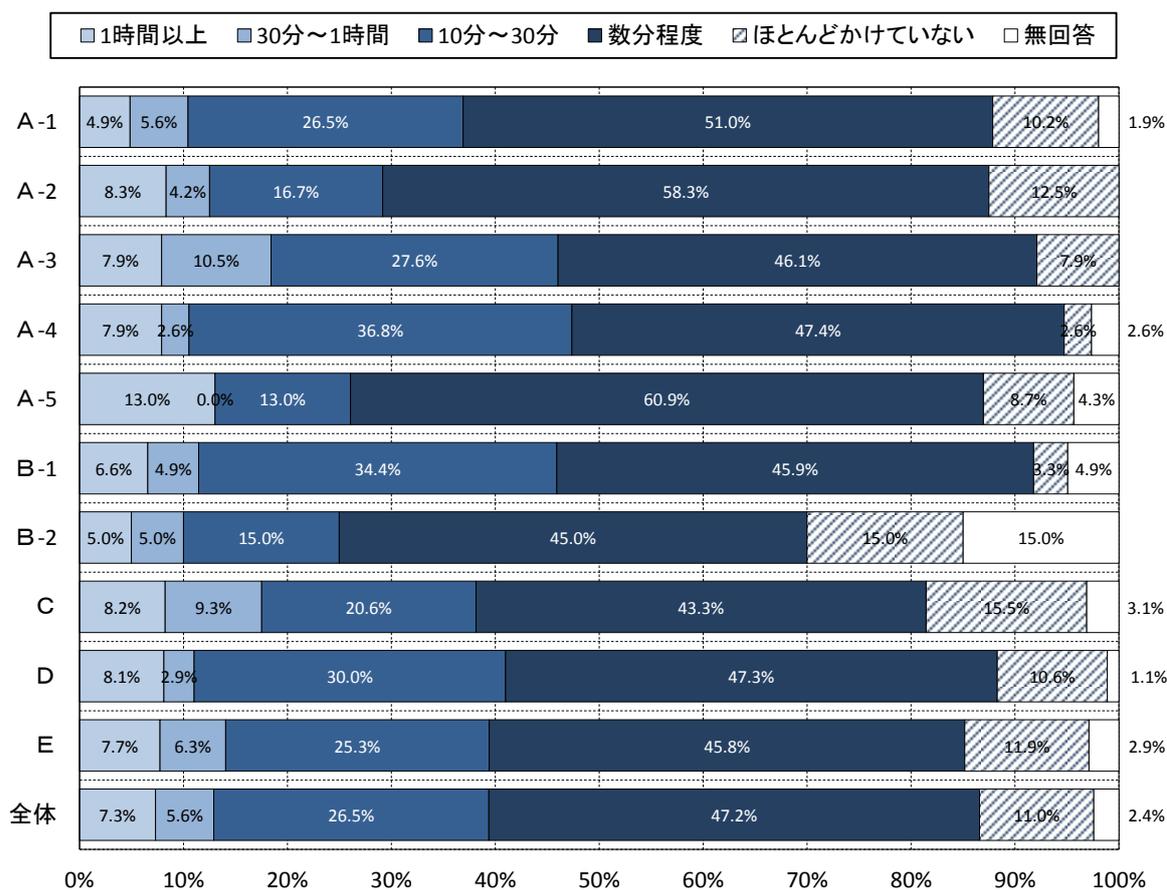


図 5-2-17 「世帯特徴別 ごみを分別するのにかけている時間」回答率

問25 ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？（〇は1つ）

ごみの分別数が増えることについて、「賛成」、「どちらかという賛成」の計で79.1%となっている。
 市町別では、上記の計が73.3%から86.5%となっており、大きな偏りはみられない。
 世帯特徴別では、上記の計が73.7%から91.7%となっており、A-4「夫婦共働き、家族は全員60歳以上」は、上記の計が一番低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	賛成	912	30.6%
2	どちらかという賛成	1,444	48.5%
3	どちらかという反対	472	15.8%
4	反対	77	2.6%
99	無回答	74	2.5%
有効回答数		2,979	100.0%

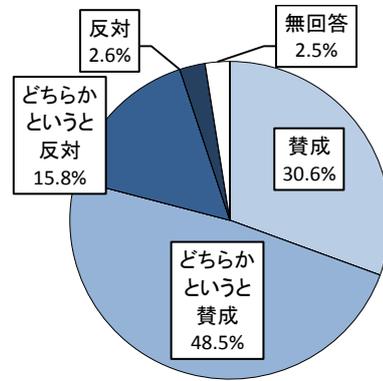


表 5-2-9 「資源やごみの分別が増えることなどについて」回答状況

図 5-2-18 「資源やごみの分別が増えることなどについて」回答率

② 市町別集計

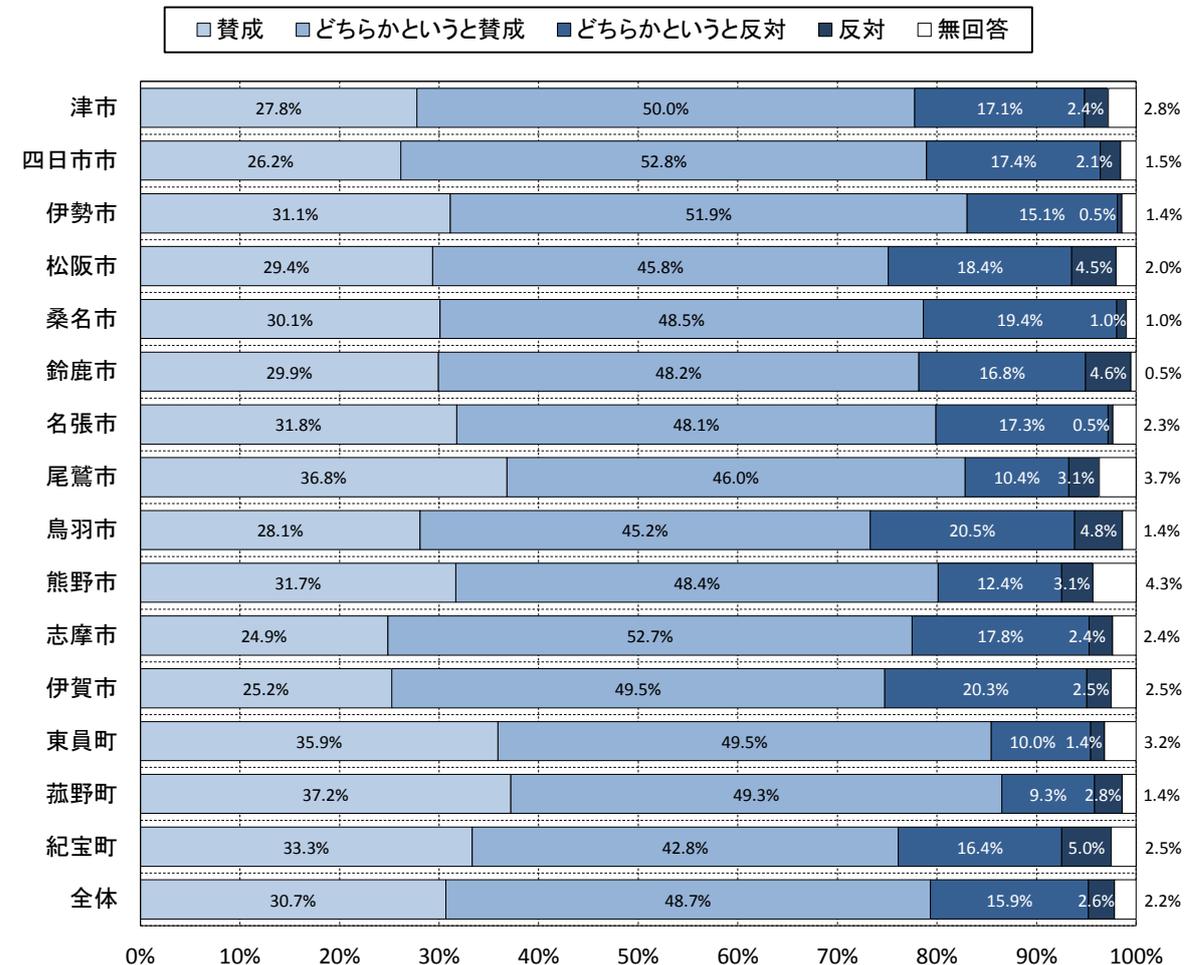


図 5-2-19 「市町別 資源やごみの分別が増えることなどについて」回答率

③ 世帯特徴別集計

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査表は上の表のたずね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-10 「世帯特徴別 資源ごみの分別が増えることなどについて」

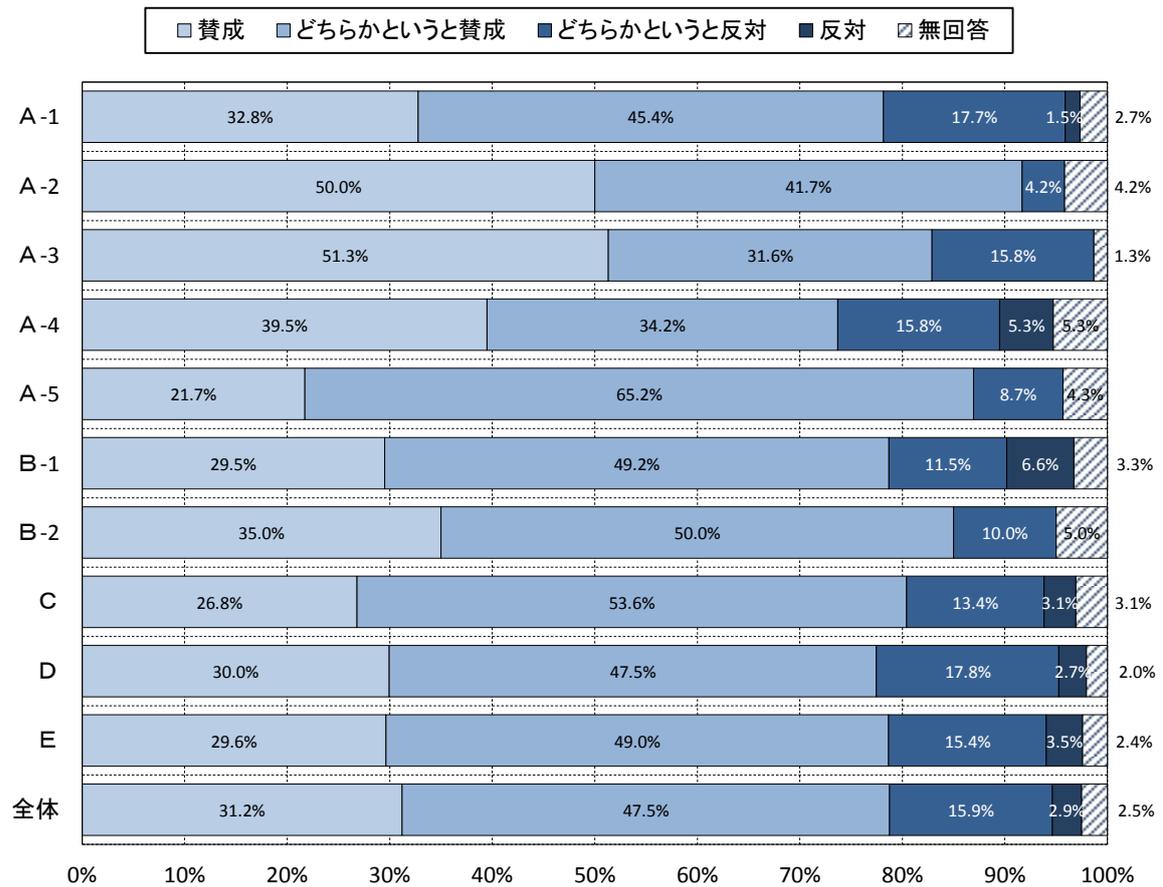


図 5-2-20 「世帯特徴別 資源やごみの分別が増えることなどについて」回答率

問26 次のうち、あなたのご家庭でやっていることはどれですか？（あてはまるものすべてに○）

家庭で実践していることとしては、「買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない」の回答率が89.2%で最も高く、次いで「台所ごみの水切りをしている」（84.5%）となっている。「食事を食べ残さないようにしている」（68.8%）、「詰め替え容器を使用した商品を買っている」（60.6%）、「資源とごみの分別を徹底している」（60.4%）、「食品は買いすぎないようにしている」（57.5%）、「地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」（56.2%）も5割を超えている。

市町別についても、上記項目はいずれも高いが、「店頭回収を利用している」では熊野市及び紀宝町が他市町と比べて低い。

これら以外について高いものとして「市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している」の鳥羽市（15.1%）、「紙くすなどを庭や畑で焼却している」の伊賀市（15.3%）、「不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている」の桑名市（30.6%）等がある。

世帯特徴別については、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	台所ごみの水切りをしている	2,518	84.5%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	365	12.3%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理	303	10.2%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	90	3.0%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	80	2.7%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	302	10.1%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	210	7.0%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	2,658	89.2%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	1,804	60.6%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	422	14.2%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んで	273	9.2%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	1,076	36.1%
13	食品は買いすぎないようにしている	1,714	57.5%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	90	3.0%
15	食事を食べ残さないようにしている	2,050	68.8%
16	不要物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	594	19.9%
17	資源とごみの分別を徹底している	1,800	60.4%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	1,675	56.2%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	250	8.4%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	742	24.9%
21	マイ箸を携帯している	222	7.5%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	452	15.2%
23	その他	19	0.6%
24	これからいずれもやっていない	15	0.5%
総回答数		19,724	662.0%
有効回答数		2,979	—

表 5-2-11 「あなたの家庭でやっていることについて」 回答状況

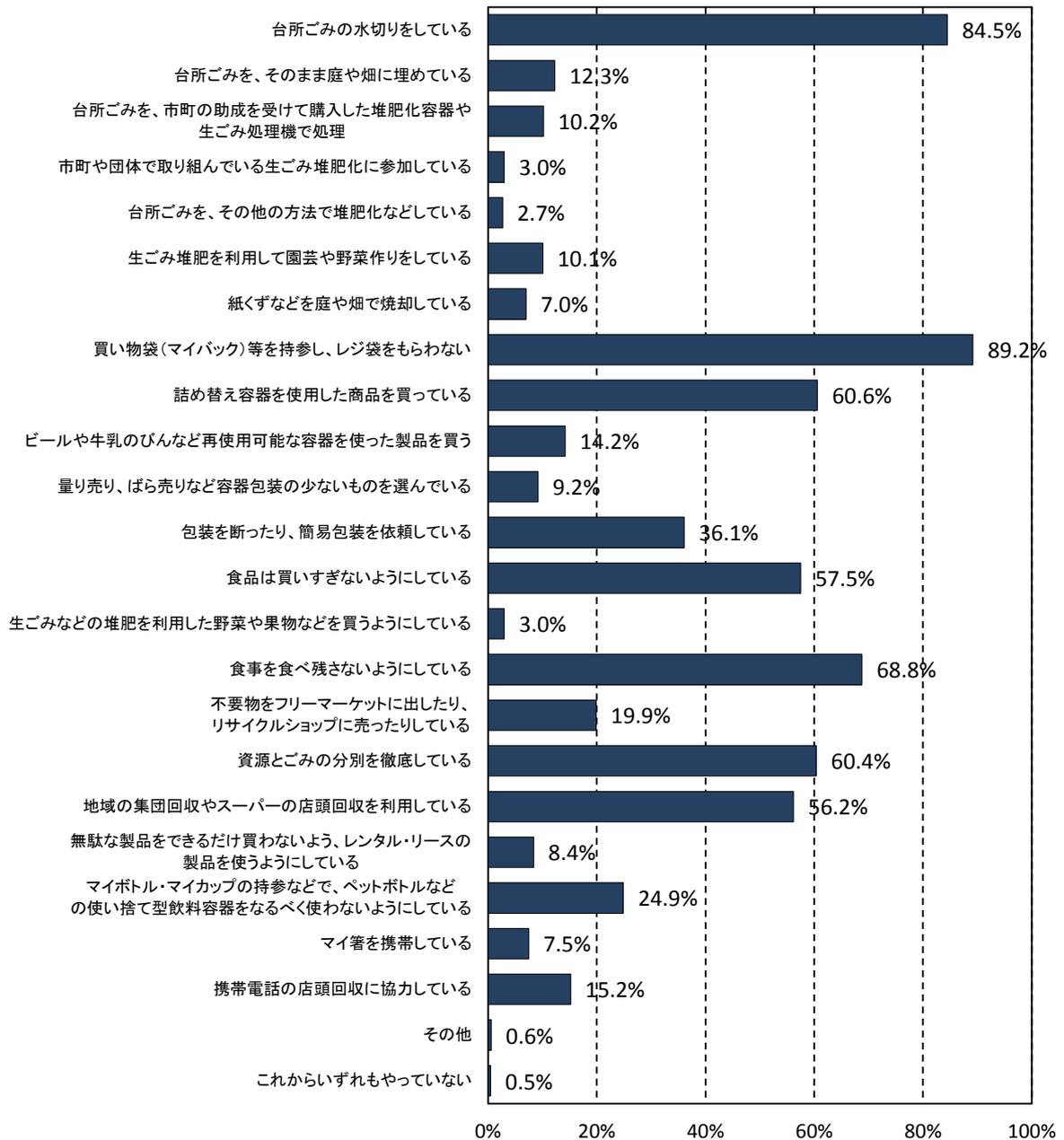


図 5-2-21 「あなたの家庭でやっていることについて」回答率

② 市町別集計

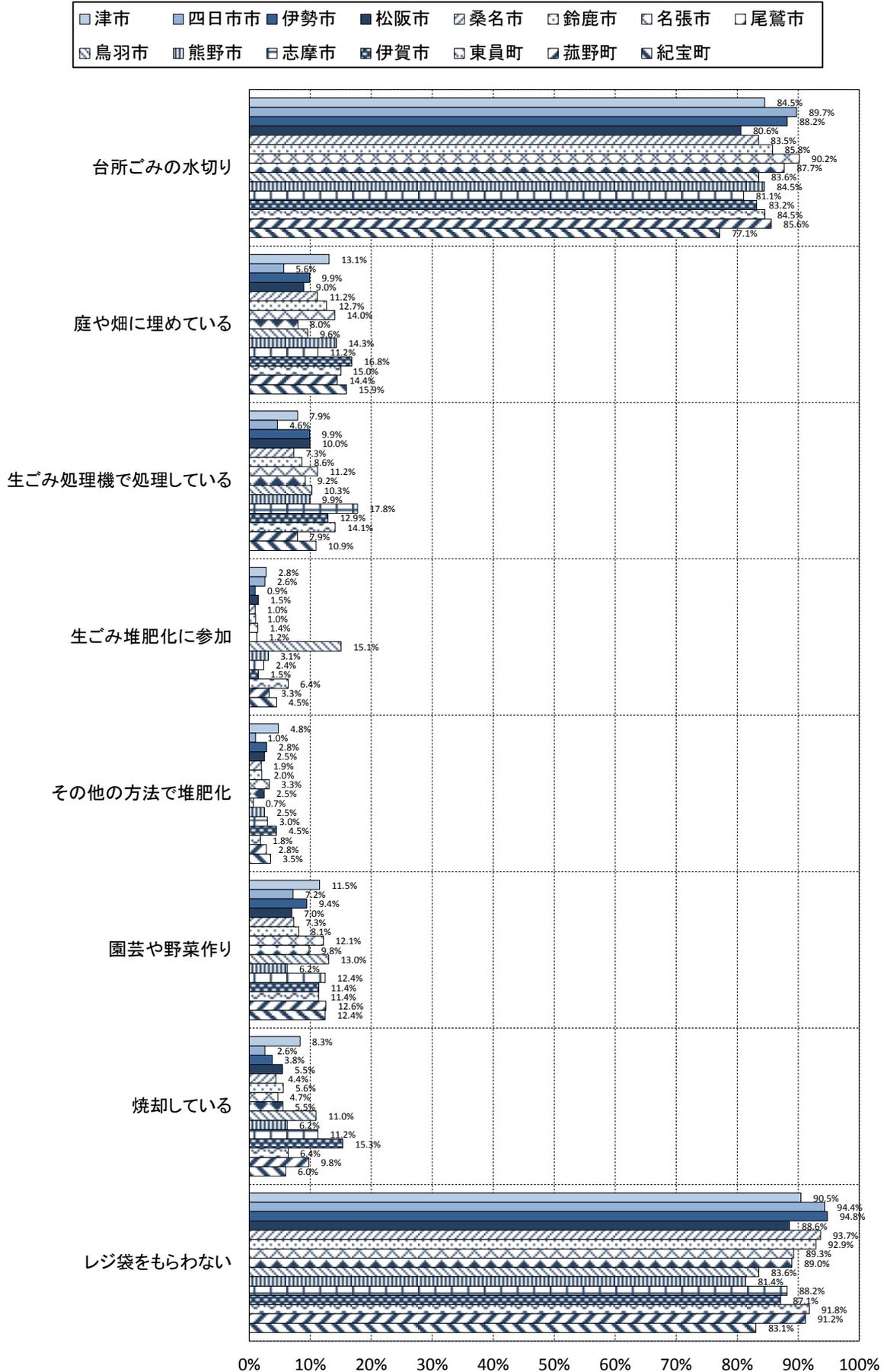


図 5-2-22 (1/3) 「市町別 あなたの家庭でやっていることについて」回答率

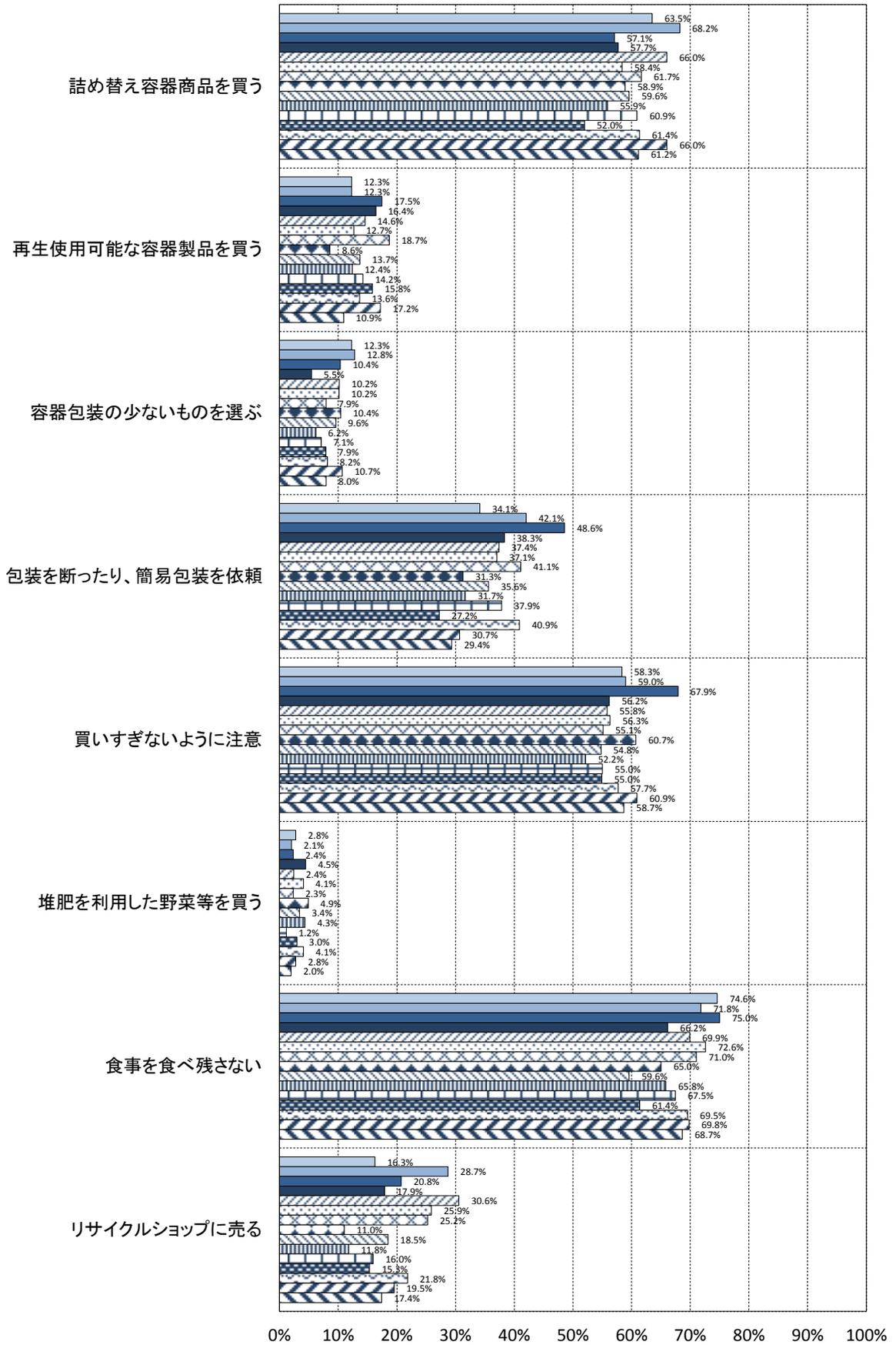
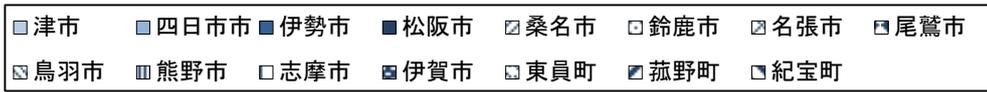


図 5-2-22 (2/3) 「市町別 あなたの家庭でたっていることについて」 回答率

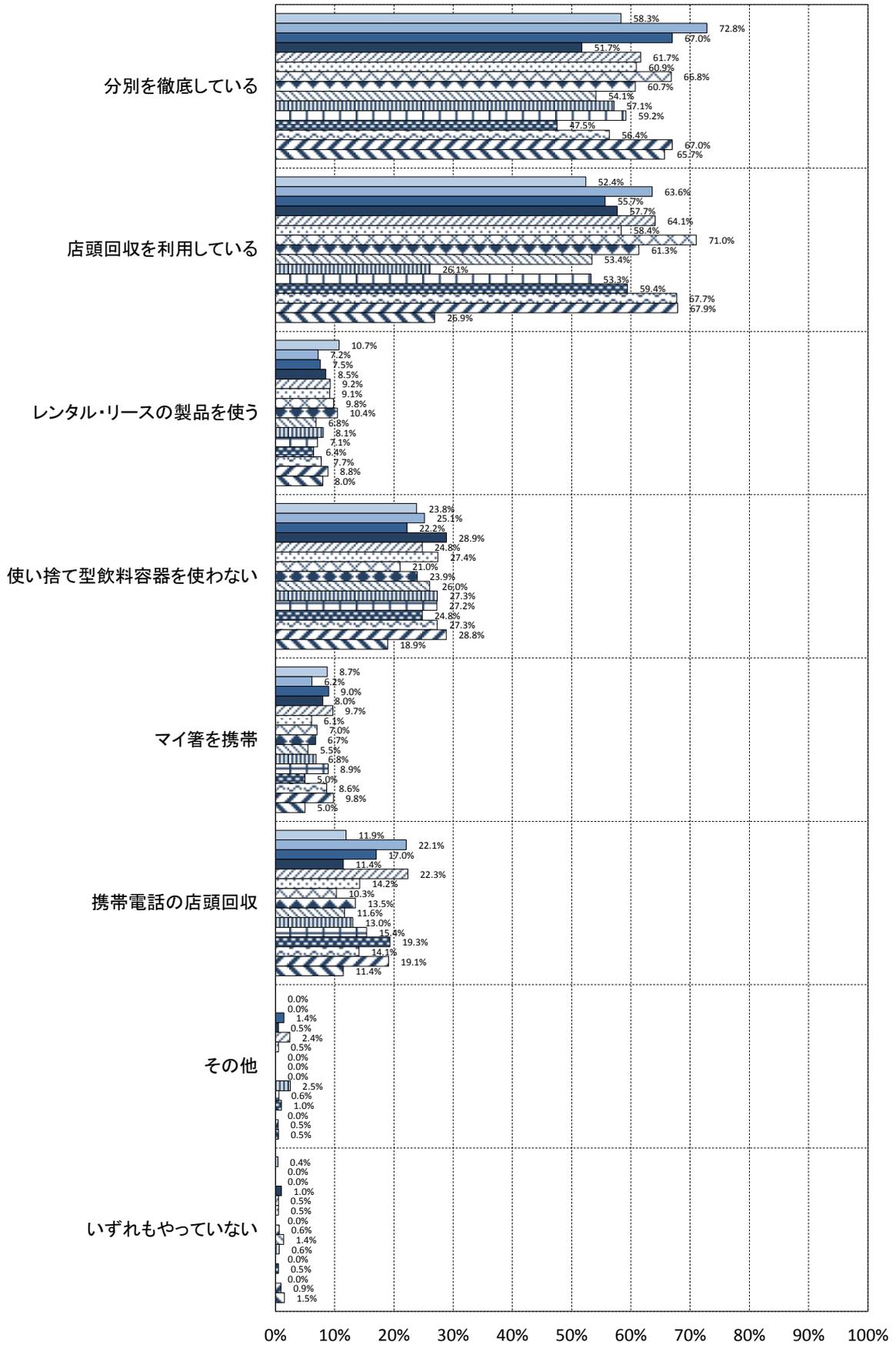
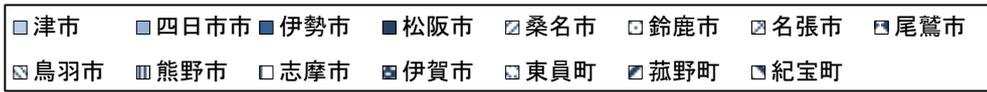


図 5-2-22 (3/3) 「市町別 あなたの家庭でたっていることについて」 回答率

③ 世帯特徴別集計

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査表は上の表のたすね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-12 「世帯特徴別 あなたの家庭でやっていることについて」

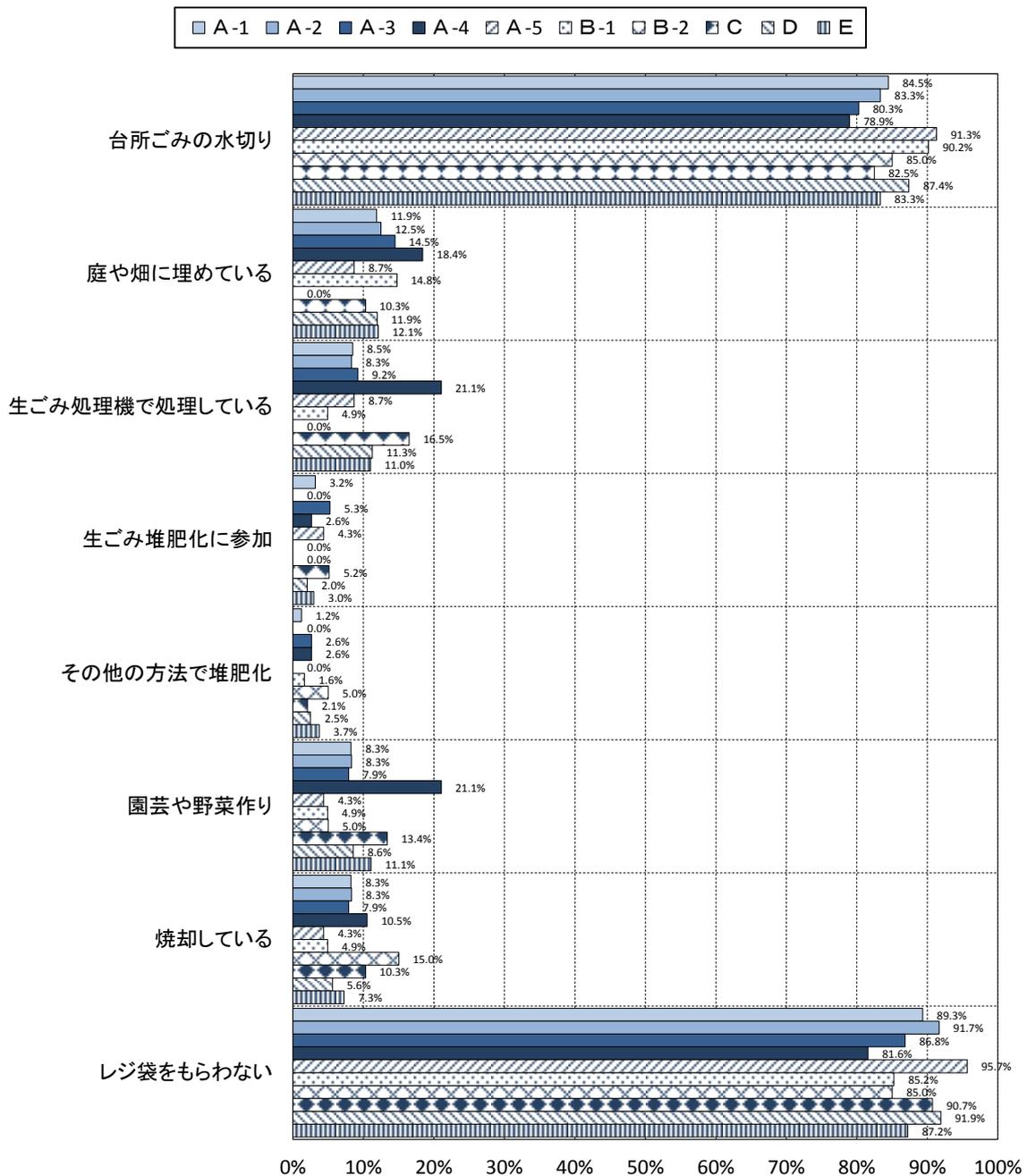


図 5-2-23 (1/3) 「世帯特徴別 あなたの家庭でやっていることについて」 回答率

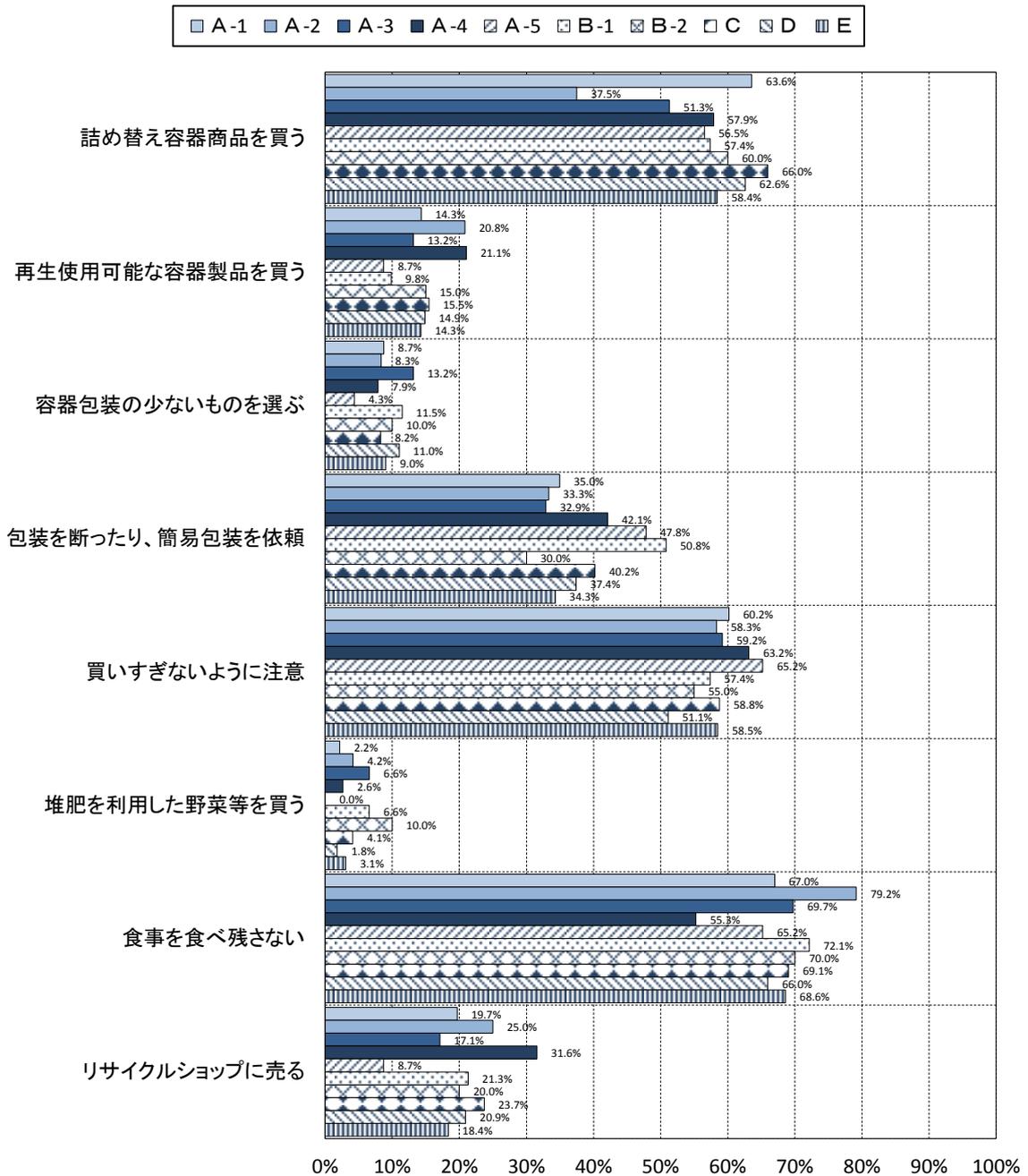


図 5-2-23 (2/3) 「世帯特徴別 あなたの家庭でやっていることについて」回答率

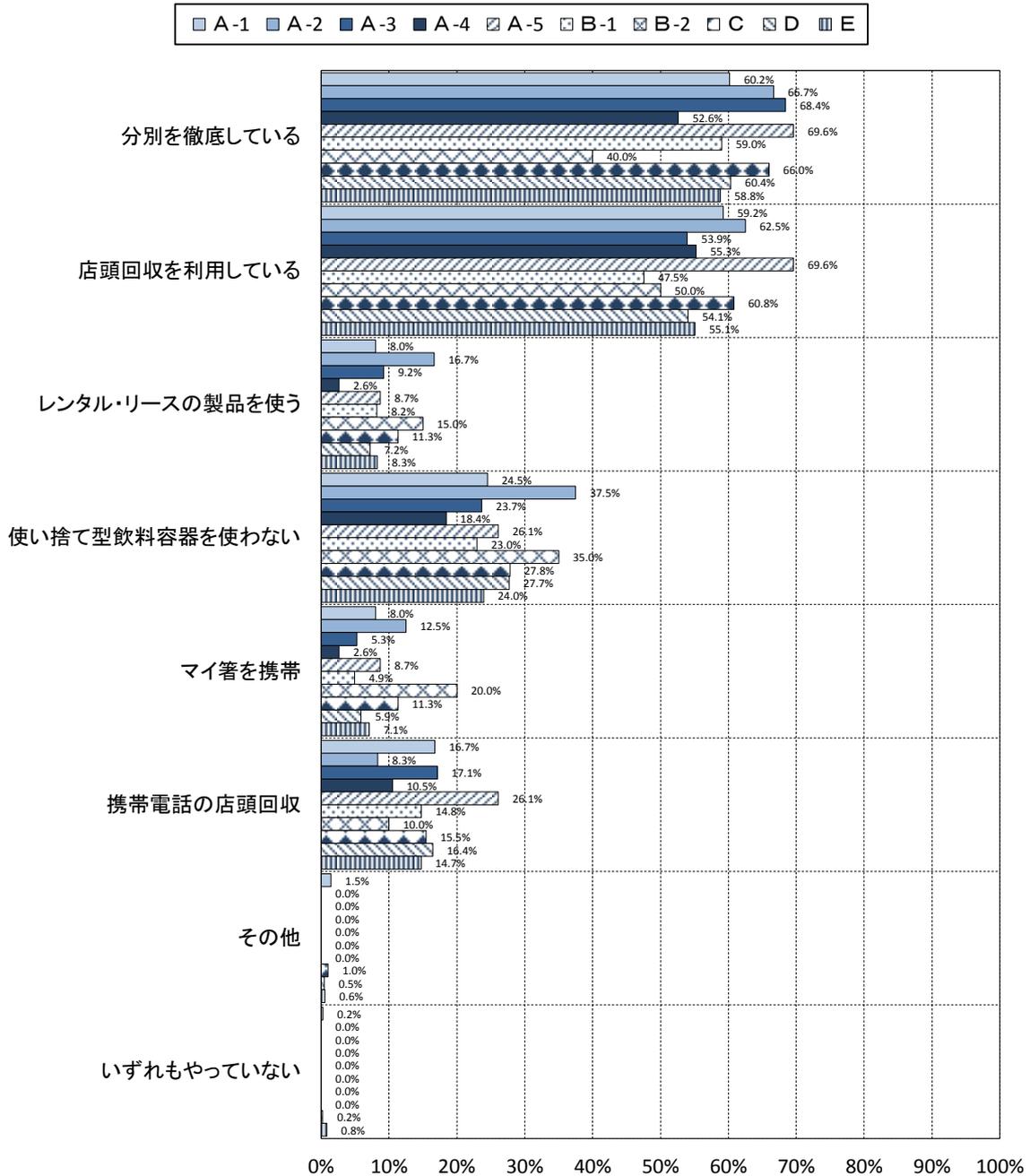


図 5-2-23 (3/3) 「世帯特徴別 あなたの家庭でやっていることについて」 回答率

問27 あなたのご家庭では、ごみを出すにあたり、どのような問題がありますか？（〇は3つまで）

ごみ出しで困っていることについては、「特に問題はない」（38.7%）、「収集日時が限られている」（34.7%）の回答率が30%より高くなっている。
 市町別については、尾鷲市及び鳥羽市、志摩市、伊賀市で「収集日時が限られている」が最も多く他市町では「特に問題はない」が最も高くなっている。また、「分別ルールが複雑でわかりにくい」では、伊賀市で3割を超え、尾鷲市及び熊野市、紀宝町で1割に満たないなど市町により差が生じている。
 年代別については、年代が低いほど「分別ルールが複雑でわかりにくい」、「市町ごとにルールが異なり覚えにくい」、「収集日時が限られている」、「ごみ集積所（ステーション）まで遠い」が高くなっている。
 分別行動別については、「分別ルールが複雑でわかりにくい」が「分別にかかわる」人ほど低い。世帯特徴別については、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	分別ルールが複雑でわかりにくい	558	18.7%
2	市町ごとにルールが異なり覚えにくい	305	10.2%
3	次の収集日までにごみを保管しておく場所がない	561	18.8%
4	収集日時が限られている	1,034	34.7%
5	ごみ集積所（ステーション）まで遠い	289	9.7%
6	洗ったり束ねたり手間がかかる	662	22.2%
7	その他	104	3.5%
8	特に問題はない	1,153	38.7%
総回答数		4,666	156.5%
有効回答数		2,979	—

表 5-2-13 「ごみ出しで困っていること」回答状況

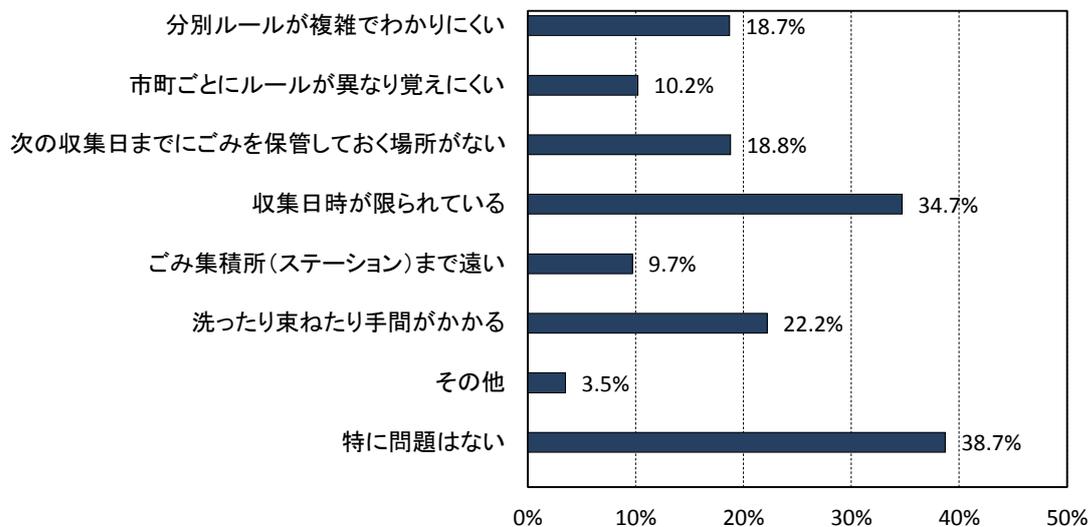


図 5-2-24 「ごみ出しで困っていること」回答率

② 市町別集計

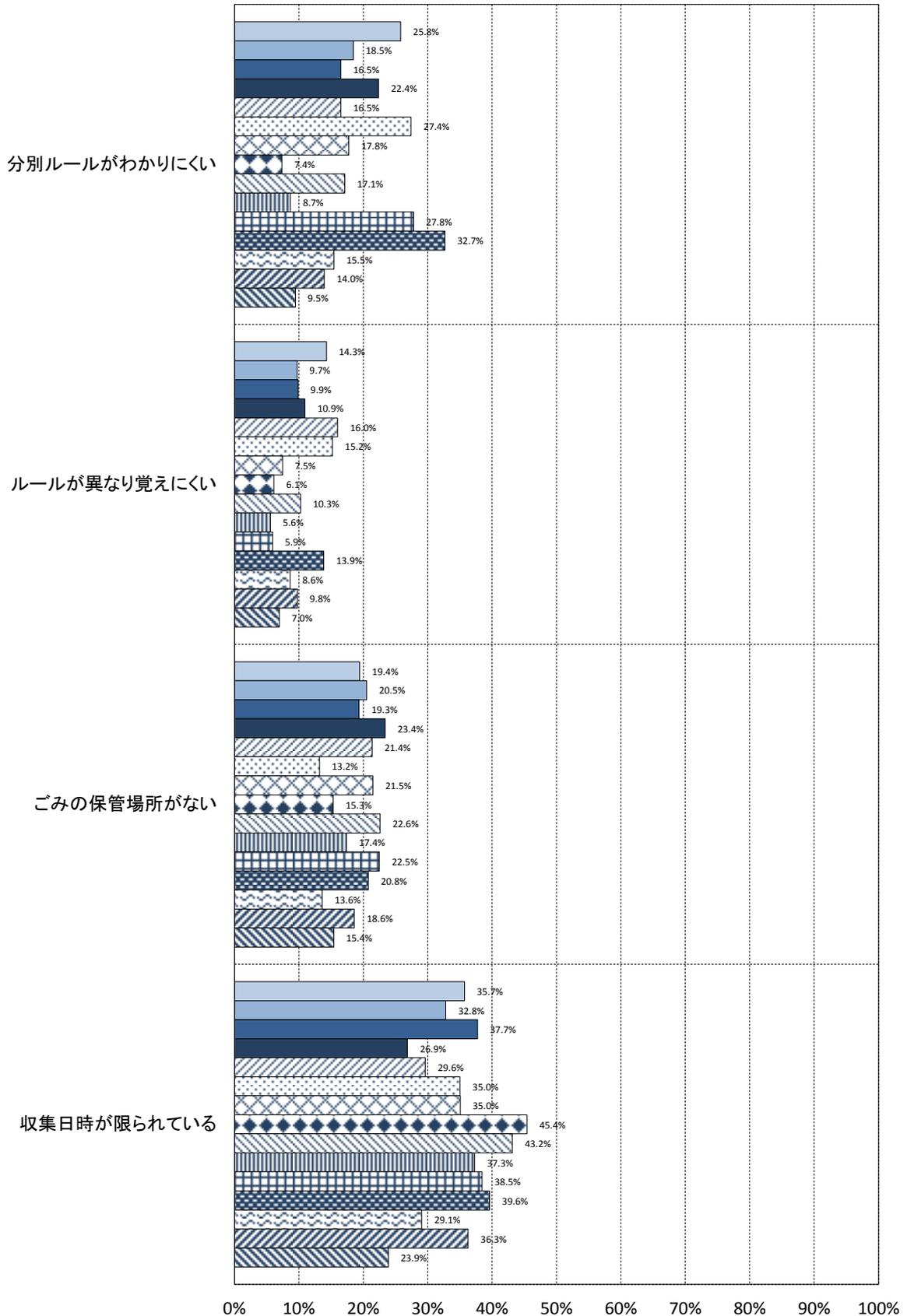
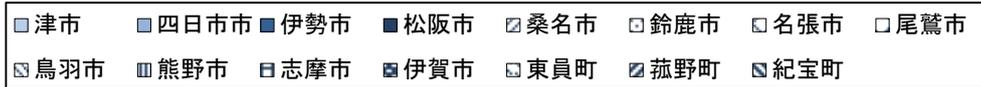


図 5-2-25-2 (1/2) 「市町別 ごみ出しで困っていること」回答率

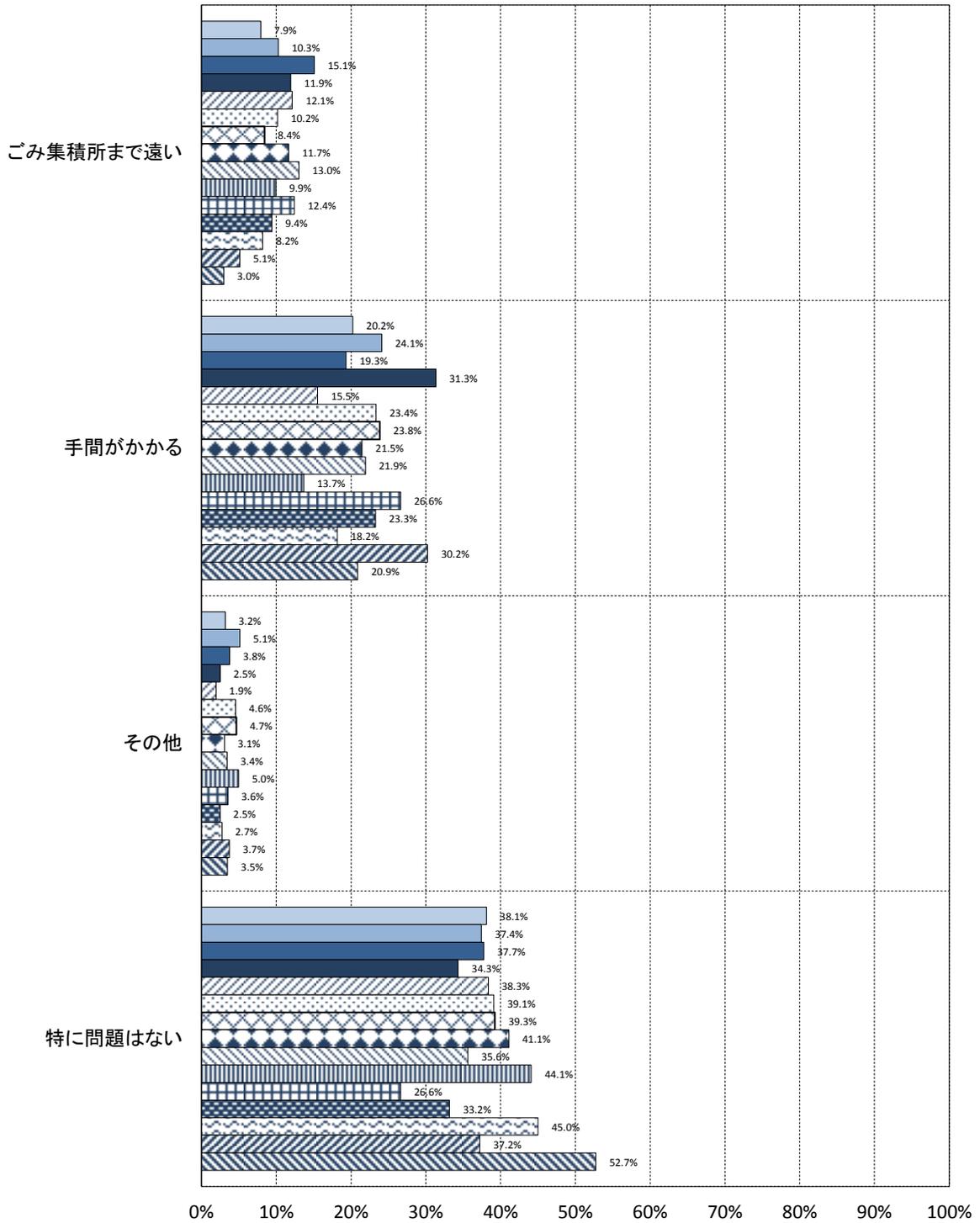
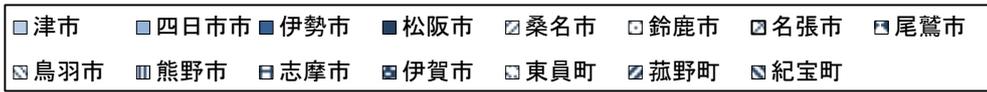


図 5-2-25-2 (2/2) 「市町別 ごみ出しで困っていること」回答率

③ 年代別集計

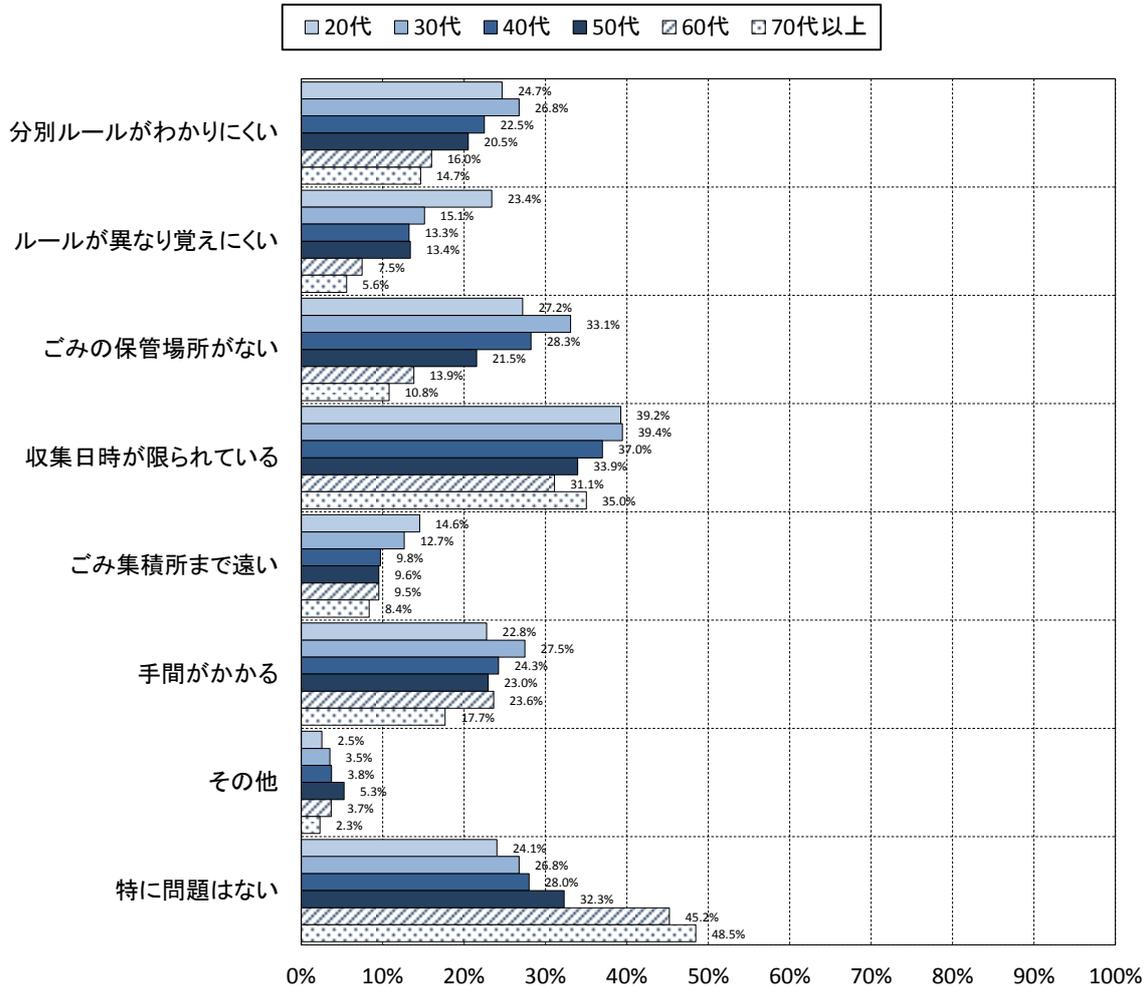


図 5-2-26 「年代別 ごみ出しで困っていること」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

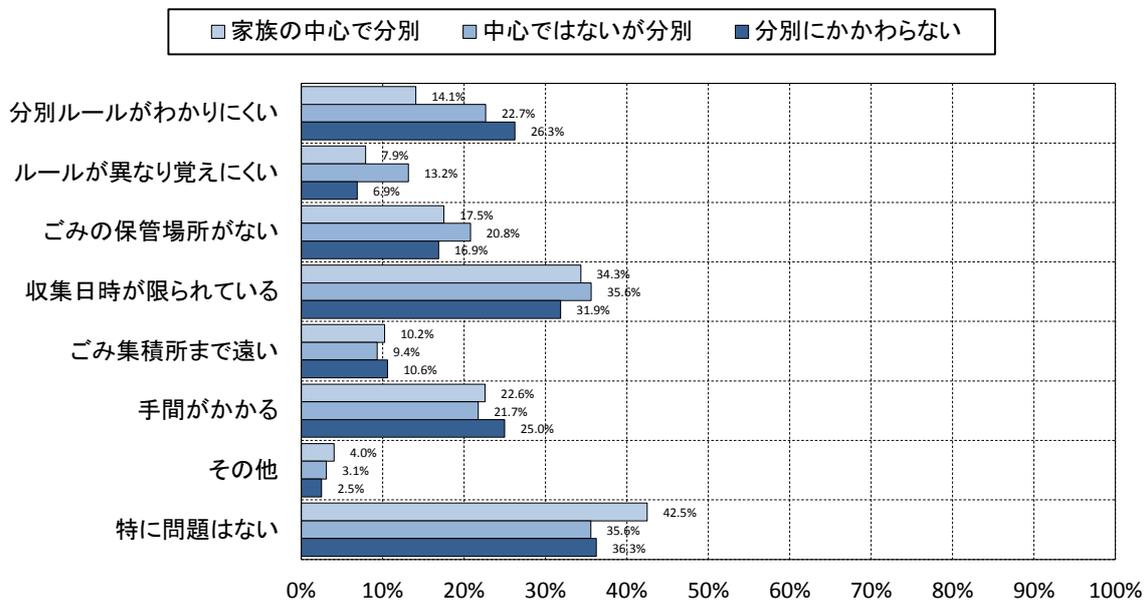


図 5-2-27 「分別行動別 ごみ出しで困っていること」回答率

⑤ 世帯特徴別集計

1	夫婦共働き
2	就学前の乳幼児がいる
3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上
5	いずれにもあてはまらない



記号	世帯特徴
A-1	夫婦共働き
A-2	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる
A-3	夫婦共働き、小中学生がいる
A-4	夫婦共働き、家族は全員60歳以上
A-5	夫婦共働き、就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
B-1	就学前の乳幼児がいる
B-2	就学前の乳幼児がいる、小中学生がいる
C	小中学生がいる
D	家族は全員60歳以上
E	いずれにもあてはまらない

調査表は上の表のたすね方をしており、回答の組み合わせにより、右のような分類をし、集計している。

表 5-2-14 「世帯特徴別 ごみ出しで困っていること」

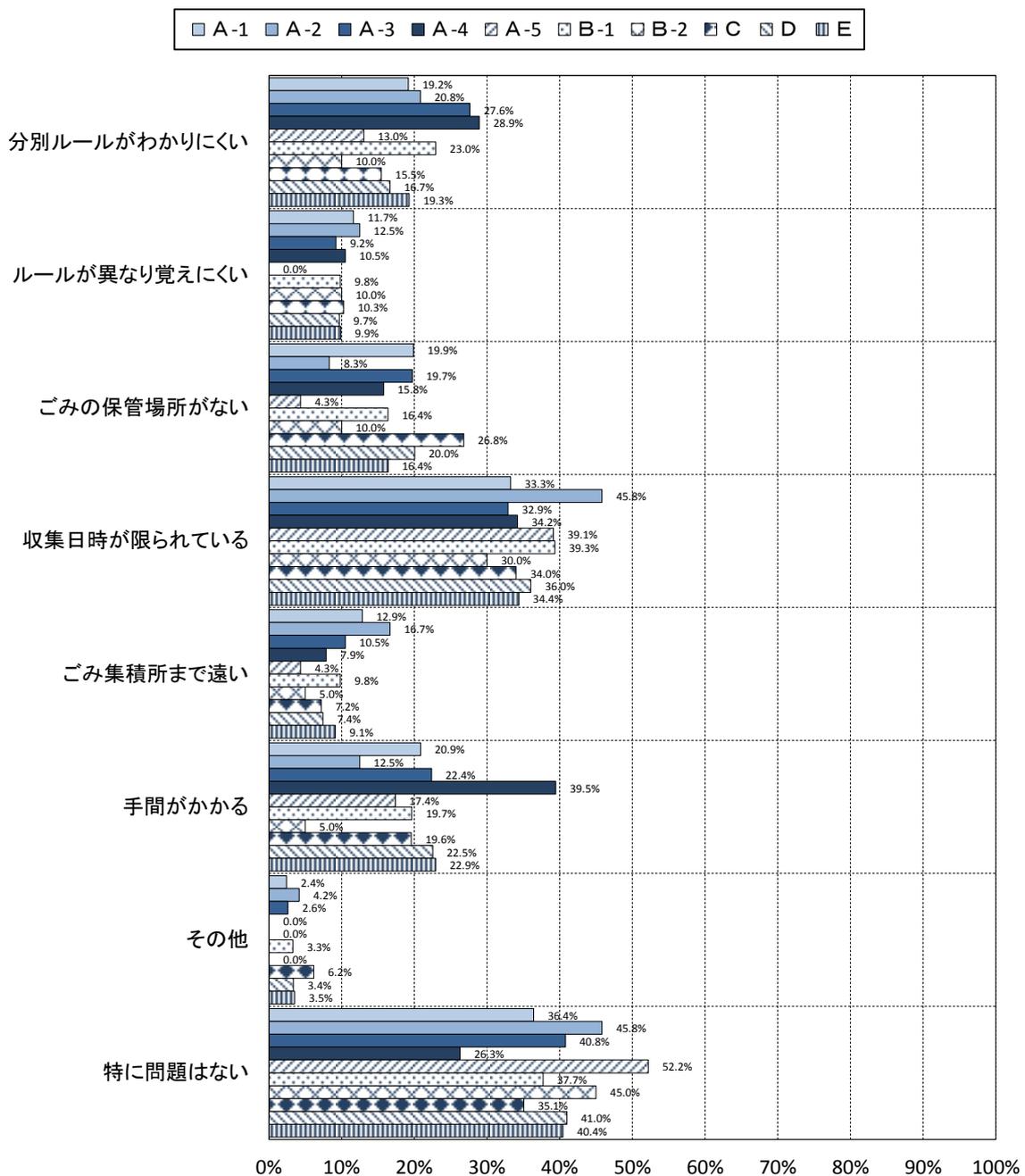


図 5-2-28 「世帯特徴別 ごみ出しで困っていること」回答率

5-3 今後の方策に対する意向について

問28	今後あなたが、暮らしの工夫によって「家庭から出る量を減らせる」と思えるものはどれですか？（あてはまるものすべてに○）
-----	--

暮らしの工夫で減らせるごみについては、「食べ残し」の割合が高く60.8%であり、次いで「賞味期限切れ食品」（59.3%）、「調理くず」（41.2%）の順となっている。
市町別、年代別については、それぞれ項目により傾向に違いが生じているものの、大きな偏りは見られない。
世帯人員別については、「食べ残し」について「5人以上」の家族が一番高く65%近くを占めている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	調理くず	1,227	41.2%
2	食べ残し	1,810	60.8%
3	賞味期限切れ食品	1,766	59.3%
4	紙容器、紙袋や包装紙	770	25.8%
5	新聞	366	12.3%
6	チラシ	594	19.9%
7	雑誌	525	17.6%
8	段ボール	476	16.0%
9	紙パック	290	9.7%
10	古着類	650	21.8%
11	ペットボトル	676	22.7%
12	レジ袋	1,075	36.1%
13	プラスチック容器	492	16.5%
14	びん	335	11.2%
15	缶	369	12.4%
16	粗大ごみ	505	17.0%
17	その他	38	1.3%
総回答数		11,964	401.6%
有効回答数		2,979	—

表 5-3-1 「暮らしの工夫で減らせるごみ」回答状況

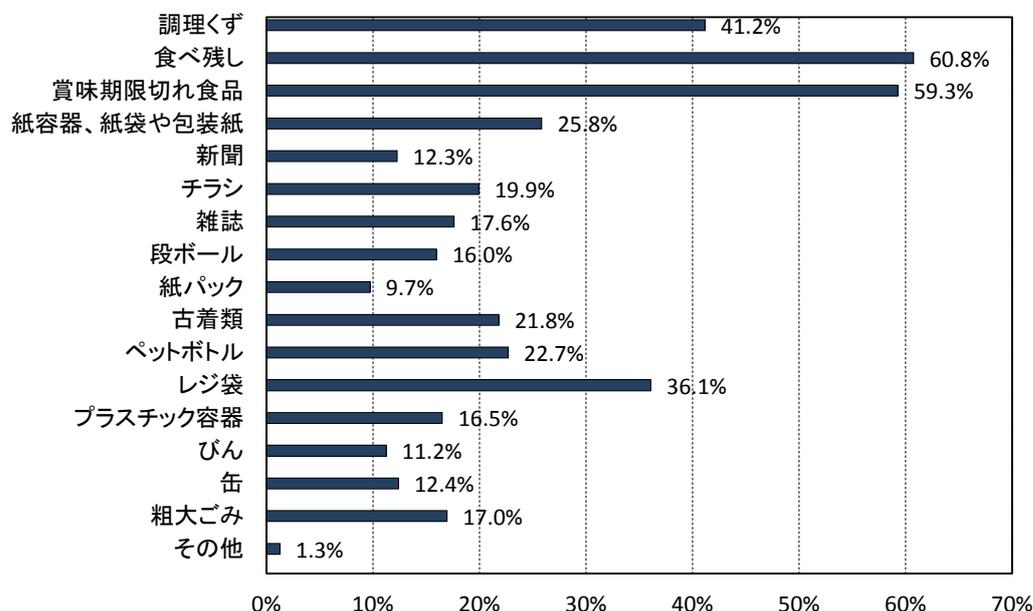


図 5-3-1 「暮らしの工夫で減らせるごみ」回答率

② 市町別集計

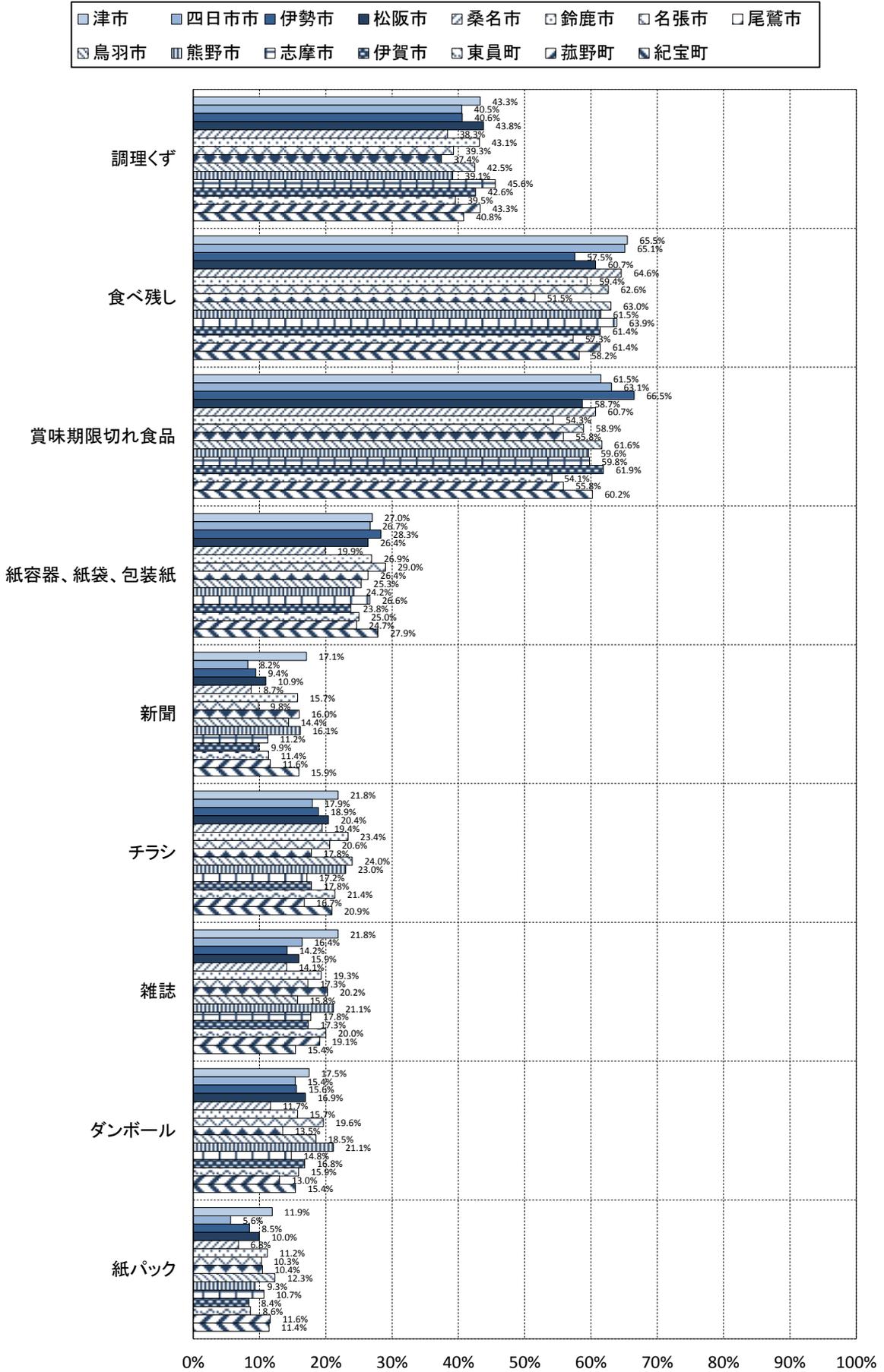


図 5-3-2 (1/2) 「市町別 暮らしの工夫で減らせるごみ」回答率

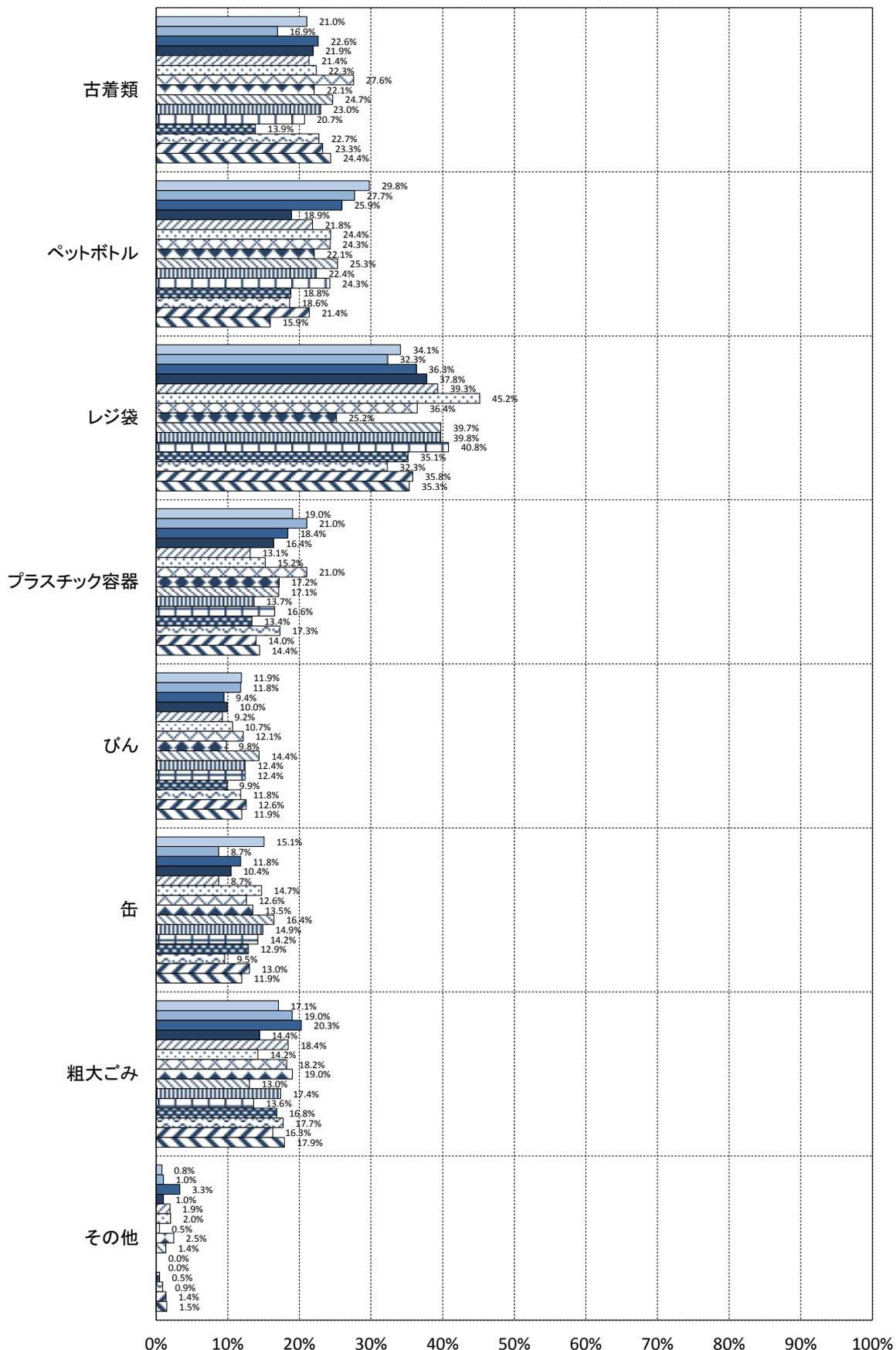
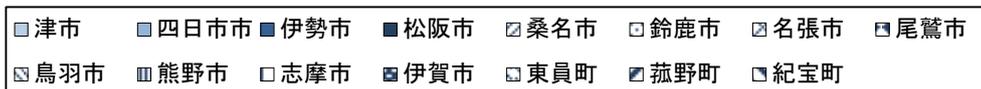


図 5-3-2 (2/2) 「市町別 暮らしの工夫で減らせるごみ」回答率

③ 年代別集計

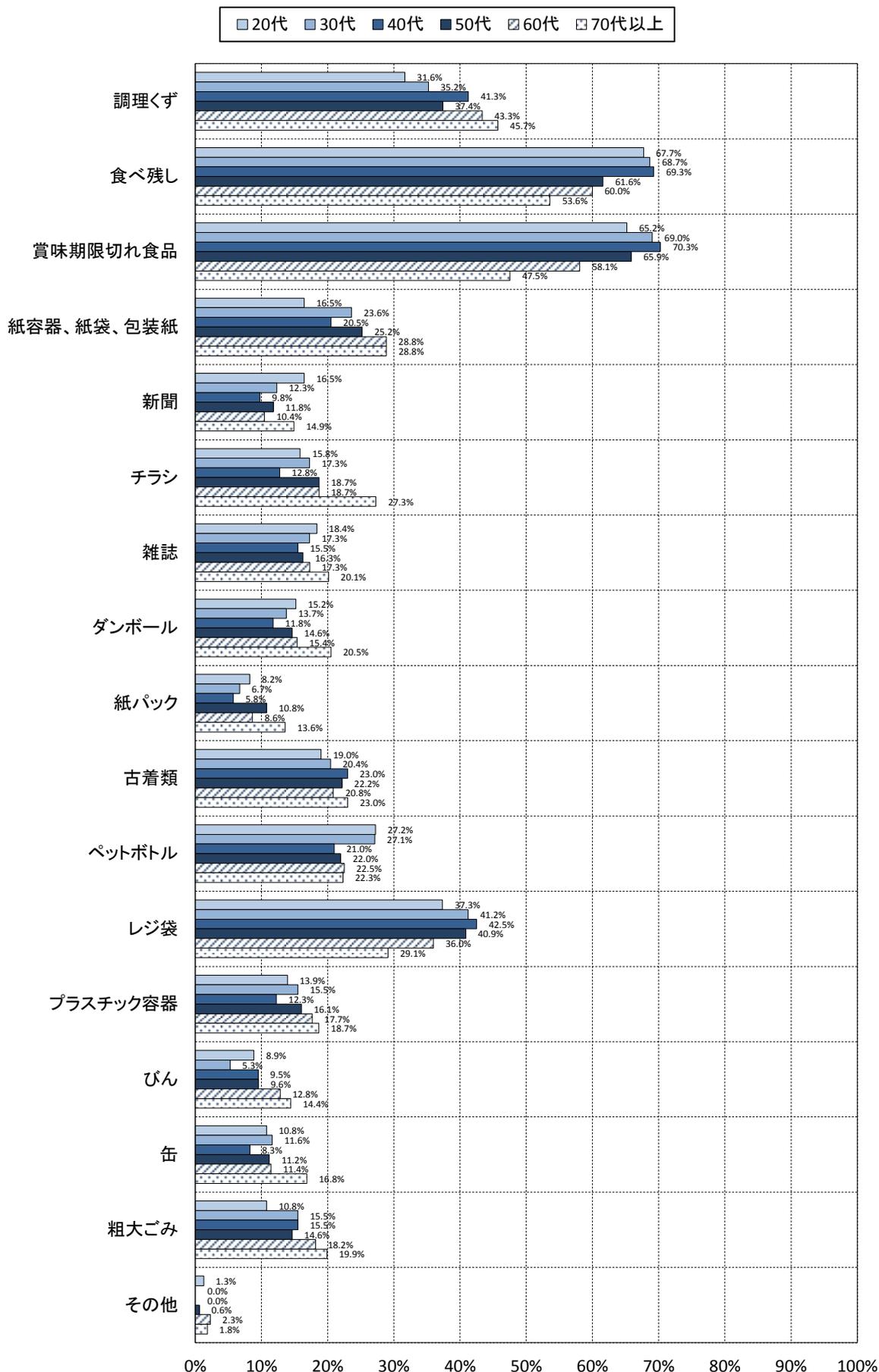


図 5-3-3 「年代別 暮らしの工夫で減らせるごみ」回答率

④ 世帯人員別集計

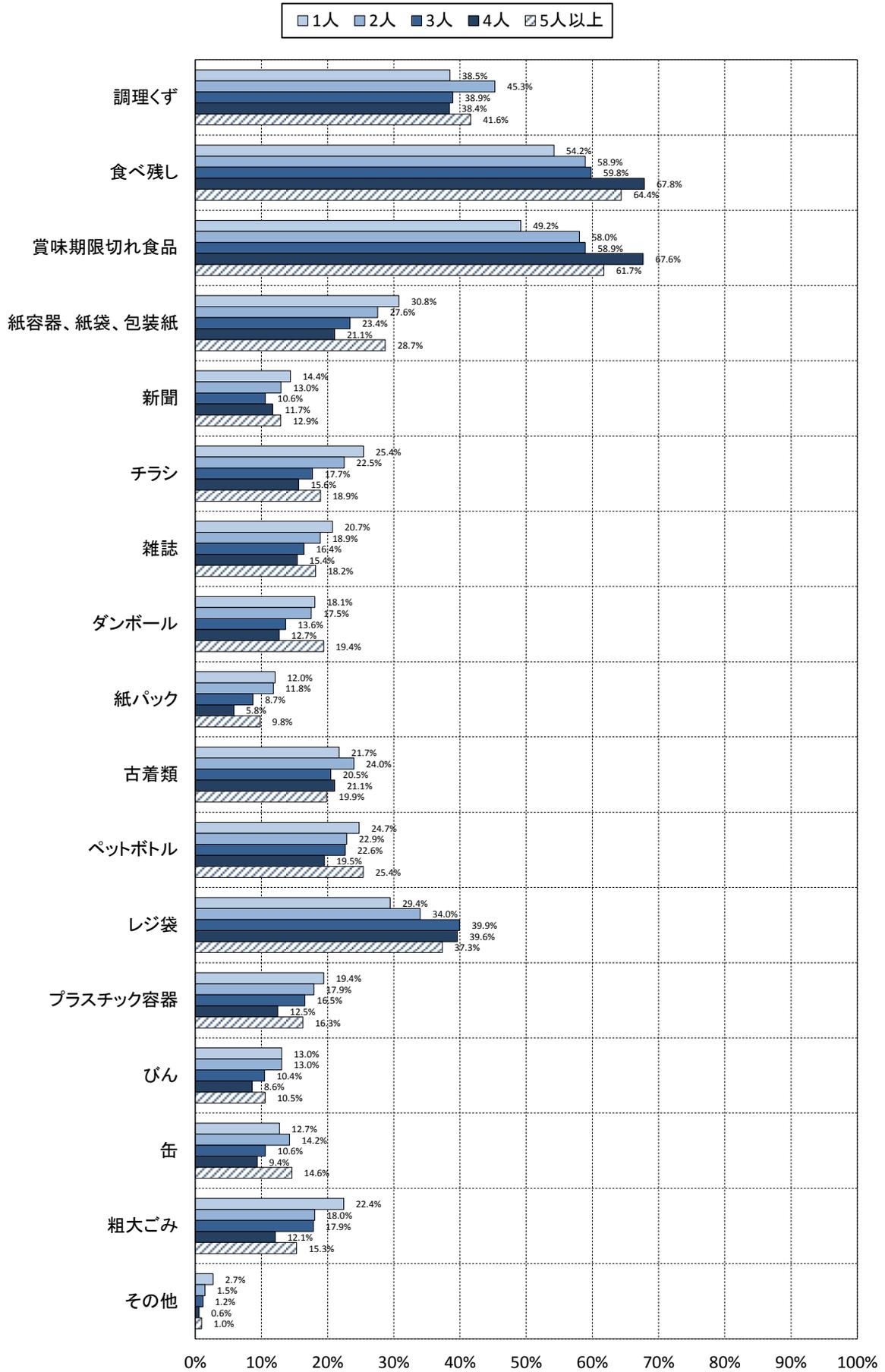


図 5-3-4 「世帯人員別 暮らしの工夫で減らせるごみ」回答率

問29 イベントなどにおいて、使い捨てコップの代わりに洗って繰り返し再利用できるプラスチック製のカップ（リユースカップ）を使うことについて、あなたはどのように思いますか？
（〇は1つ）

「リユースカップ」については、「ぜひ使うべきである」と「できれば使った方がよい」の計が42.1%、「どちらかというと思ってほしくない」と「使うべきでない」の計が53.1%となっている。「賛成派」、「反対派」で、意見がわかれている。市町別及び年代別についても同じ傾向である。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ぜひ使うべきである	253	8.5%
2	できれば使った方がよい	1,000	33.6%
3	どちらかというと思ってほしくない	1,290	43.3%
4	使うべきでない	292	9.8%
99	無回答	144	4.8%
有効回答数		2,979	100.0%

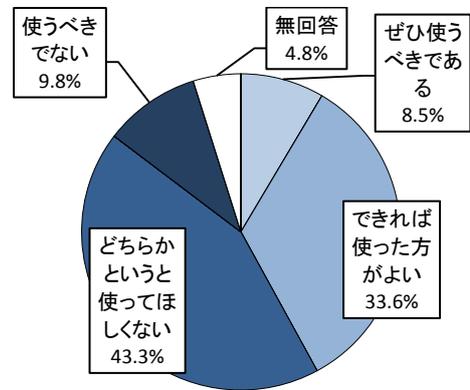


表 5-3-4 「リユースカップを使うことについて」回答状況

図 5-3-11 「リユースカップを使うことについて」回答率

② 市町別集計

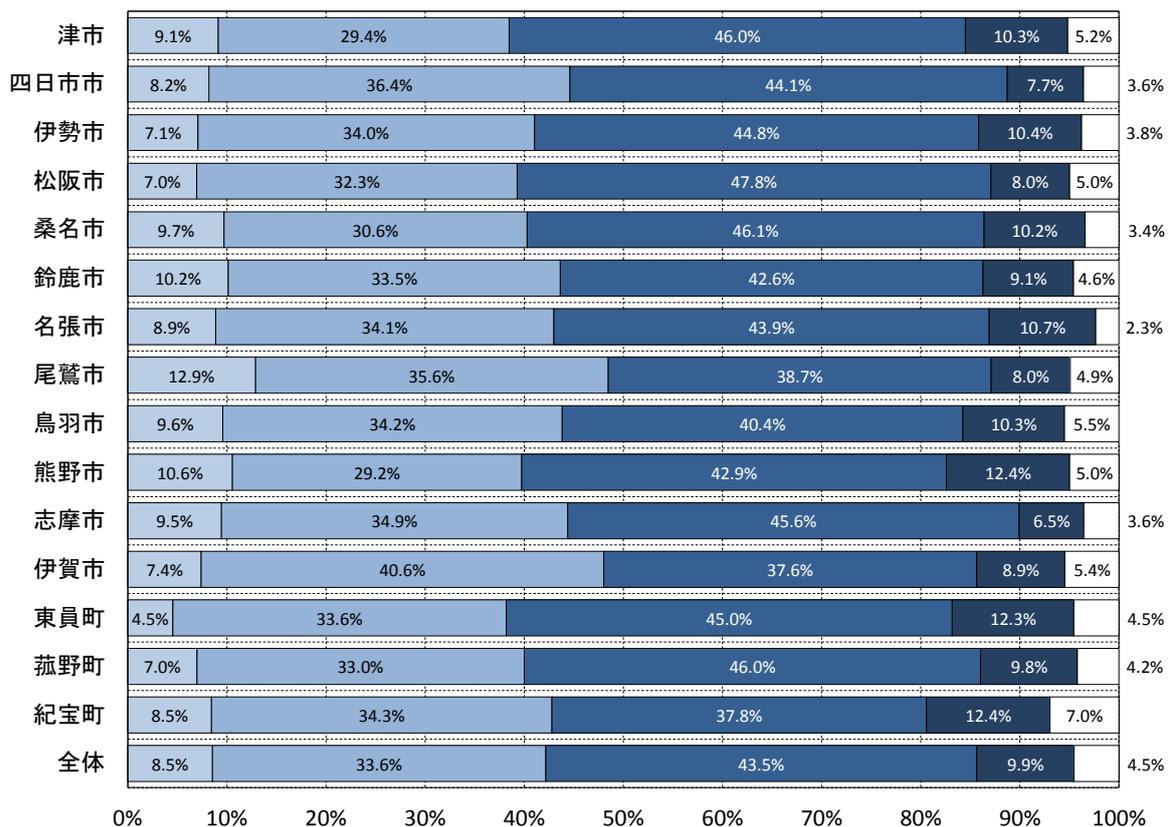
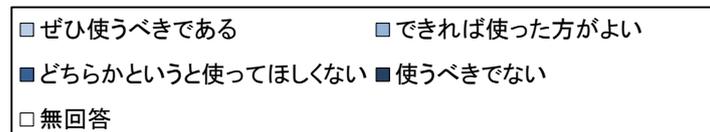


図 5-3-12 「市町別 リユースカップを使うことについて」回答率

③ 年代別集計

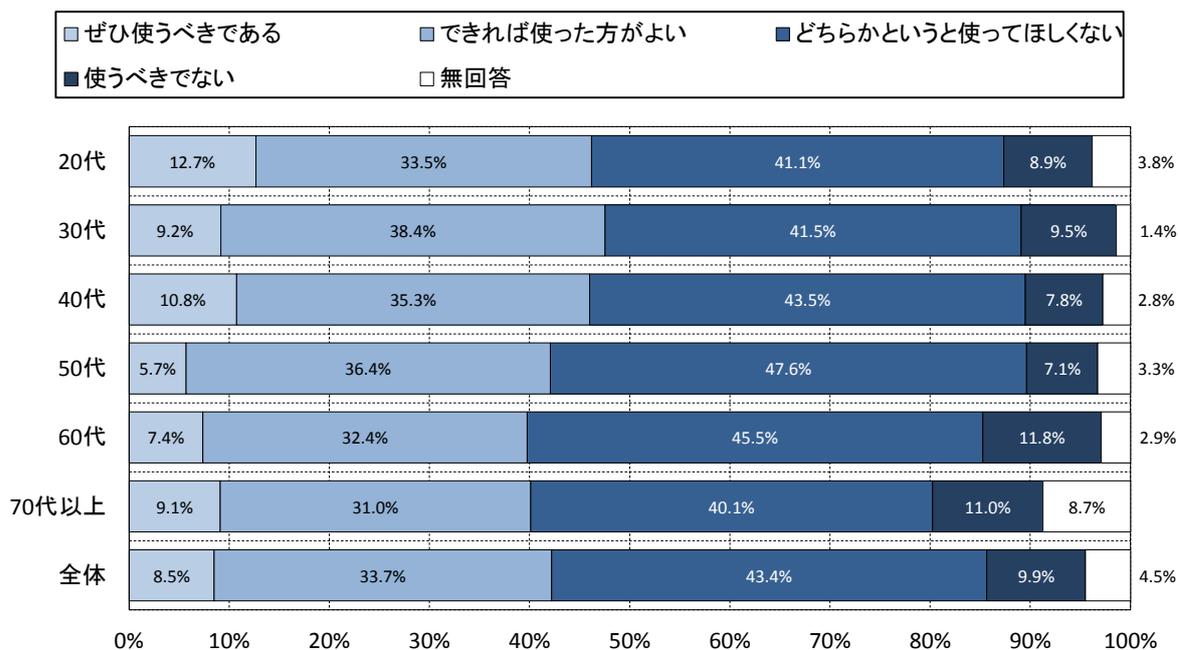


図 5-3-13 「年代別 リユースカップを使うことについて」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

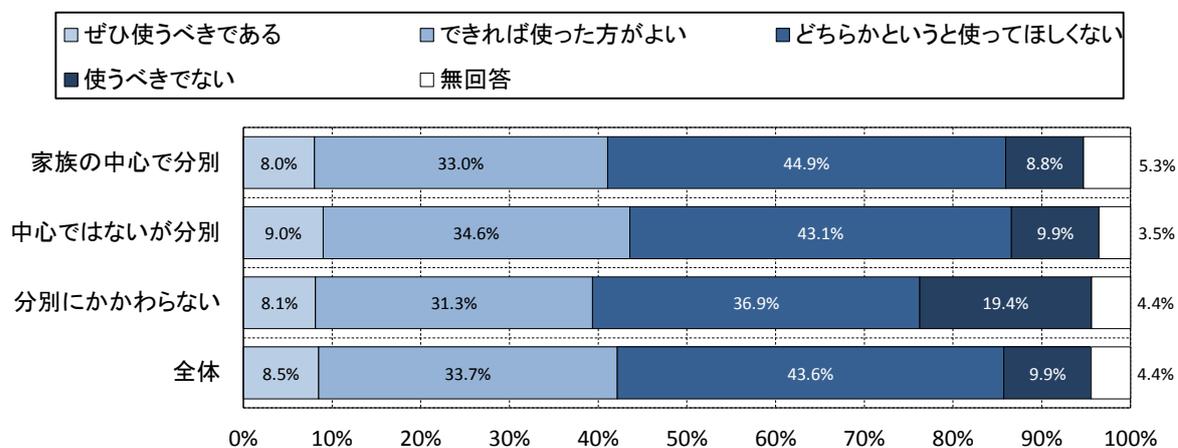


図 5-3-14 「分別行動別 リユースカップを使うことについて」回答率

問30	(問い29で「1 ぜび使うべきである」「2 できれば使った方がよい」と答えた方のみ) 「ぜび使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由はなんですか？(あてはまるものすべてに○)
-----	--

「ぜび使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由については、「ごみの減量につながるか」が最も多い理由となっている。
市町別については、大きな偏りはみられない。
年代別については、大きな偏りはみられない。
分別行動別については、どの項目も分別にかかわる人の回答率が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	資源の有効利用につながるから(使い捨てコップはもったいない)	885	70.6%
2	ごみの減量化につながるから	1,058	84.4%
3	利用者にとっては特に大きな負担にならないから	399	31.8%
4	環境問題への意識向上に役立つから	500	39.9%
5	リユースカップで飲む方がおいしく感じられるから	36	2.9%
6	その他	20	1.6%
7	特にない	11	0.9%
総回答数		2,909	232.1%
有効回答数		1,253	100.0%

表 5-3-5 「『ぜび使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」回答状況

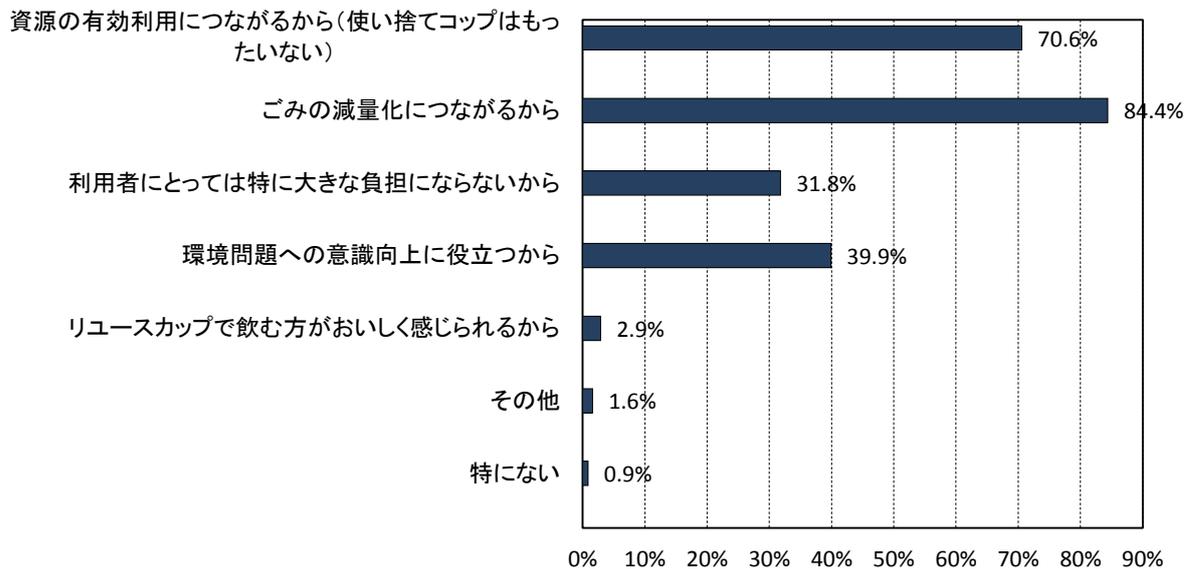


図 5-3-15 「『ぜび使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」回答率

② 市町別集計

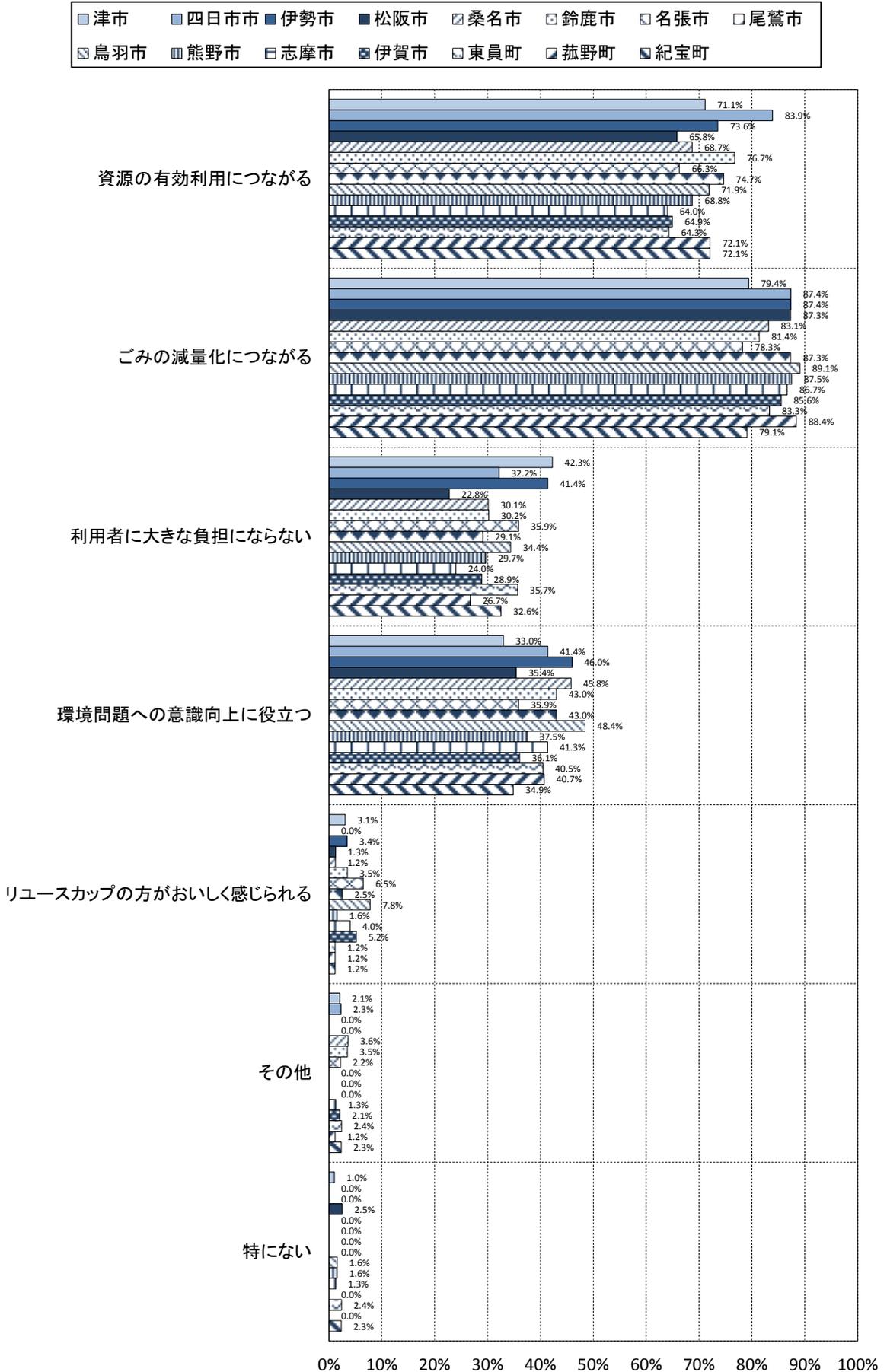


図 5-3-16 「市町別 『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」回答率

③ 年代別集計

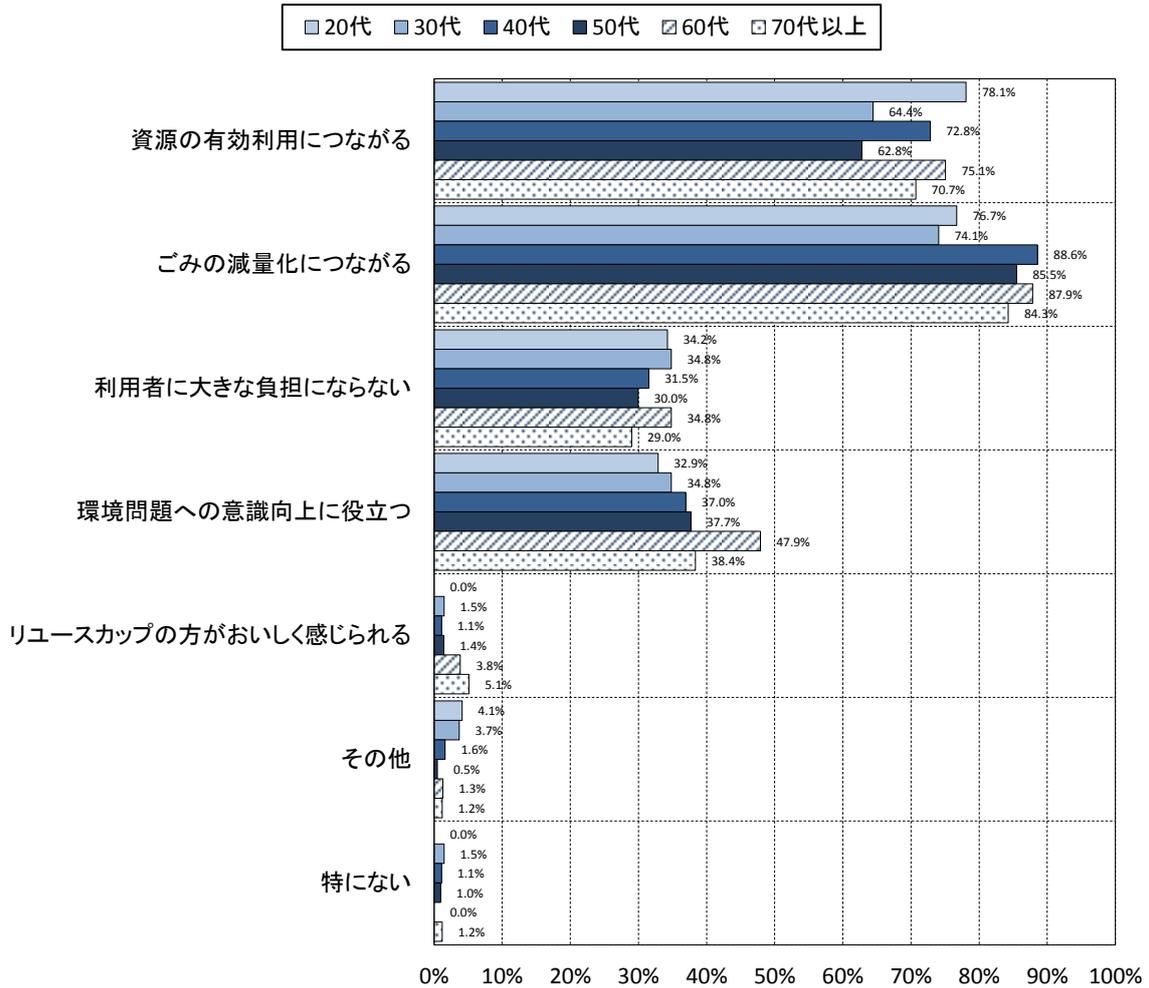


図 5-3-17 「年代別 『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

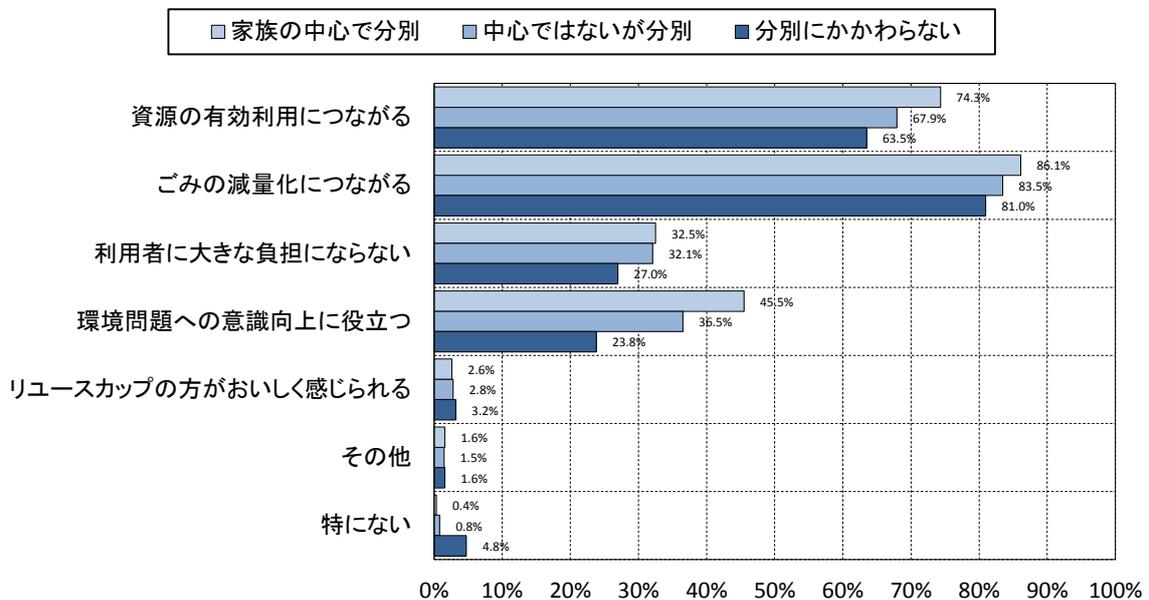


図 5-3-18 「分別行動別 『ぜひ使うべきである』又は『できれば使った方がよい』理由」回答率

問31	(問い29で「3 どちらかというと思ってほしくない」「4 使うべきでない」と答えた方のみ) 「どちらかというと思ってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由はなんですか？ (あてはまるものすべてに○)
-----	--

「どちらかというと思ってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由については、「衛生上の不安があるから」の回答率が93.3%と高くなっている。
 市町別については、大きな偏りはみられない。
 年代別については、大きな偏りはみられない。
 分別行動別については、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	指定場所への返却など、手間がかかるから	148	9.4%
2	商品の値上げにつながる可能性があるから	61	3.9%
3	衛生上の不安があるから	1,476	93.3%
4	リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負荷が小さいと思うから	740	46.8%
5	使い捨てコップで飲む方がおいしく感じられるから	106	6.7%
6	その他	42	2.7%
7	特になし	18	1.1%
総回答数		2,591	163.9%
有効回答数		1,582	100.0%

表 5-3-6 「『どちらかというと思ってほしくない』又は『使うべきでない』理由」回答状況

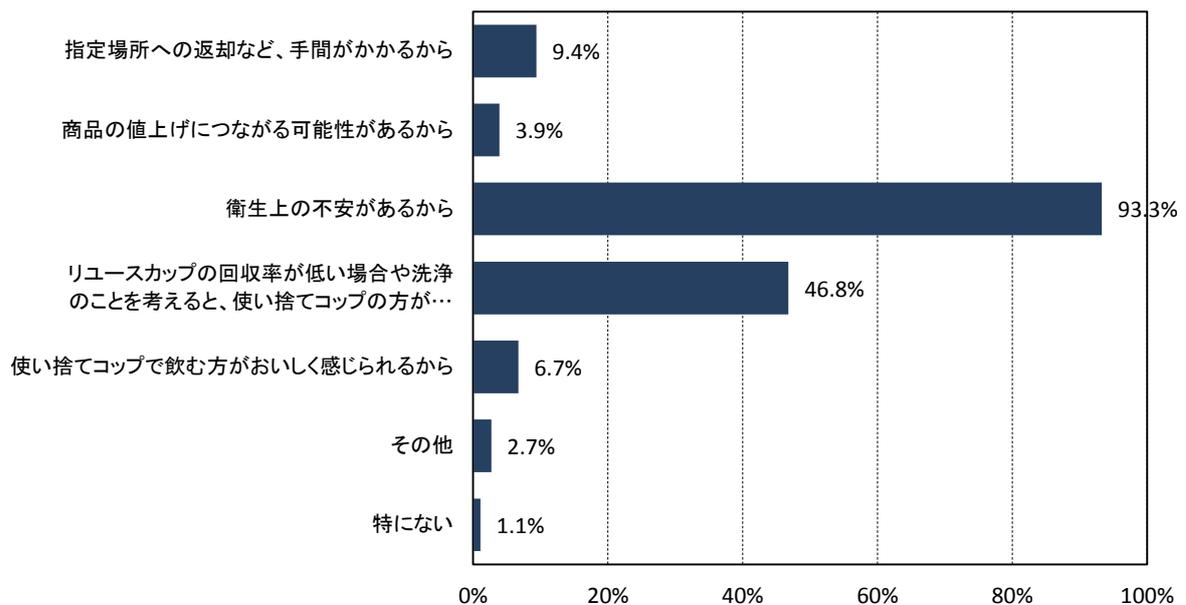


図 5-3-19 「『どちらかというと思ってほしくない』又は『使うべきでない』理由」回答率

② 市町別集計

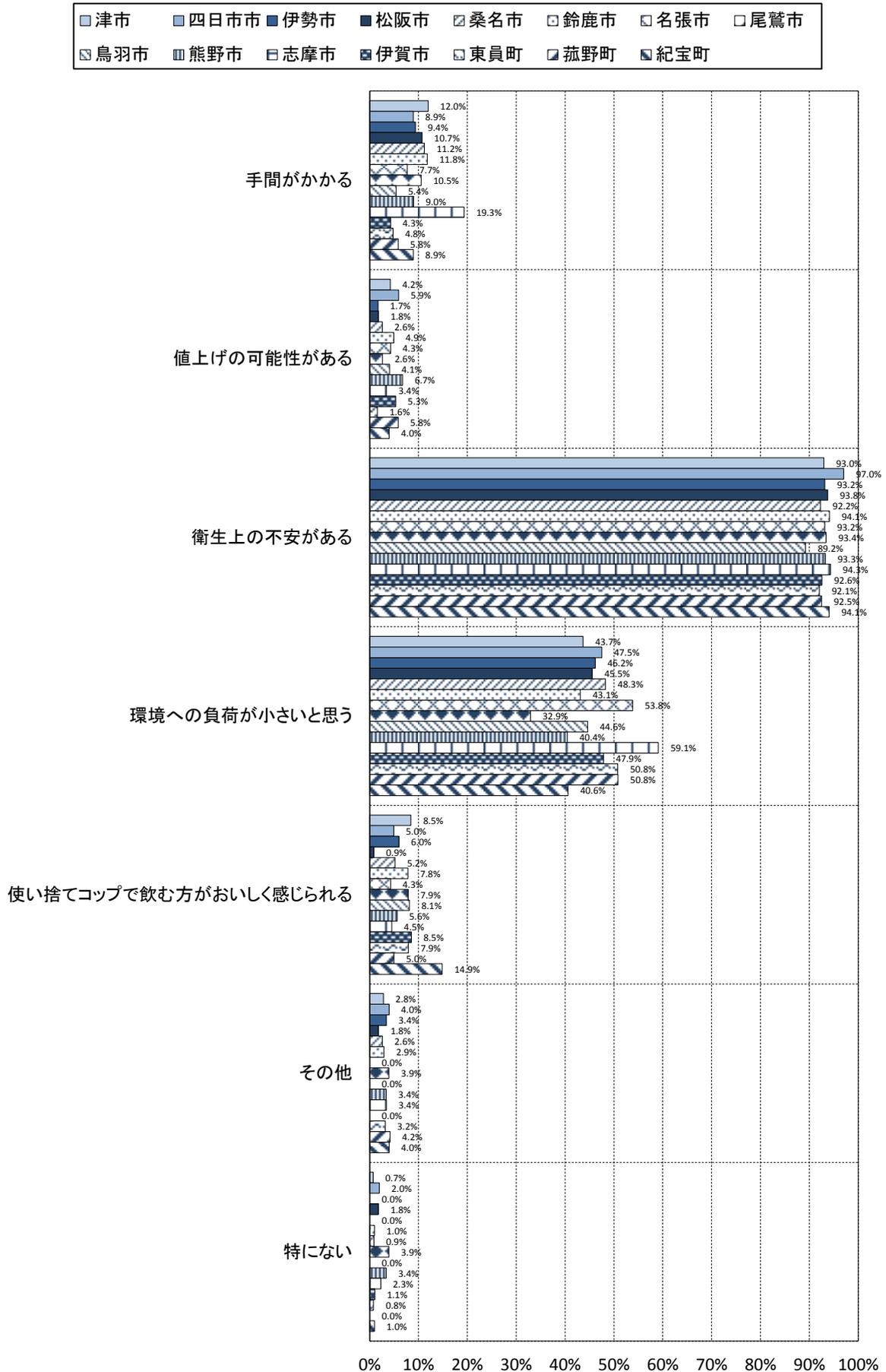


図 5-3-20 「市町別 『どちらかというってほしくない』又は『使うべきでない』理由」回答率

③ 年代別集計

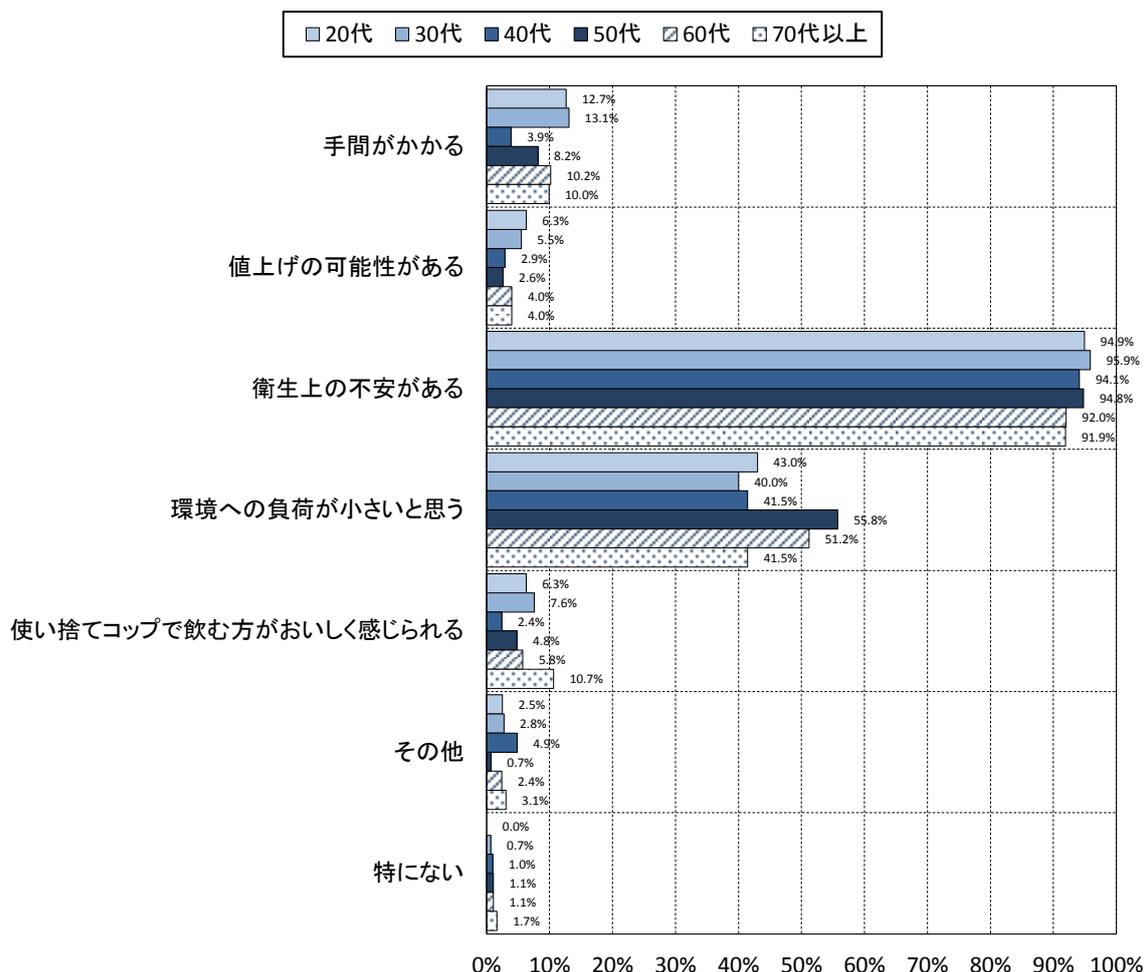


図 5-3-21 「年代別 『どちらかというってほしくない』又は『使うべきでない』理由」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

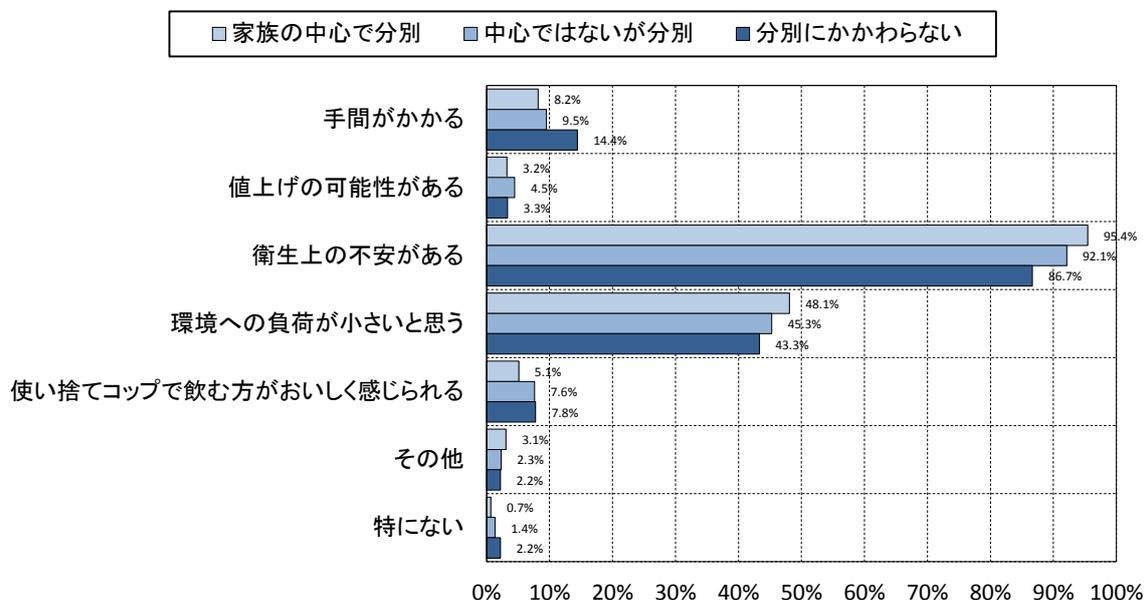


図 5-3-22 「分別行動別 『どちらかというってほしくない』又は『使うべきでない』理由」回答率

問32	ごみに関する情報を、あなたはどのような方法で手に入れていますか？（あてはまるものすべてに○）
-----	--

ごみ関連情報の入手方法として、「市町の広報や分別マニュアルを通じて」の回答率が83.9%と最も高く、次いで「地域の回覧板や掲示物を通じて」が51.3%、「新聞などマスコミを通じて」が21.9%となっている。
市町別については、いずれの市町においても上記項目の割合が高いが、「地域の回覧板や掲示物を通じて」は、28.8%から62.3%の範囲にわたっている。
年代別については、どの年代も「市町の広報や分別マニュアルを通じて」が最も高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	市町の広報や分別マニュアルを通じて	2,499	83.9%
2	市町のホームページを通じて	307	10.3%
3	公共施設などのポスターやチラシを通じて	506	17.0%
4	地域の回覧板や掲示物を通じて	1,527	51.3%
5	防災無線や広域スピーカーで	201	6.7%
6	住民説明会を通じて	172	5.8%
7	新聞などマスコミを通じて	652	21.9%
8	企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書で	181	6.1%
9	家族や友人・知人を通じて	490	16.4%
10	子供（学校などの情報）を通じて	83	2.8%
11	書籍で	75	2.5%
12	スーパーマーケットなど地域の店舗や流通業者を通じて	306	10.3%
13	エコ製品やサービスを展示するイベントを通じて	99	3.3%
14	PTA・自治会などの地域の活動を通じて	461	15.5%
15	勤務先・取引先など仕事を通じて	157	5.3%
16	環境保護団体・環境NGOの広報誌やパンフレットを通じて	84	2.8%
17	生協活動・ボランティア活動など社会活動を通じて	124	4.2%
18	シンポジウムや講演会、市民大学などで	14	0.5%
19	その他	15	0.5%
20	あてはまるものなし	25	0.8%
総回答数		7,978	267.9%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-3-2 「情報をどのような方法で手に入れているか」回答状況

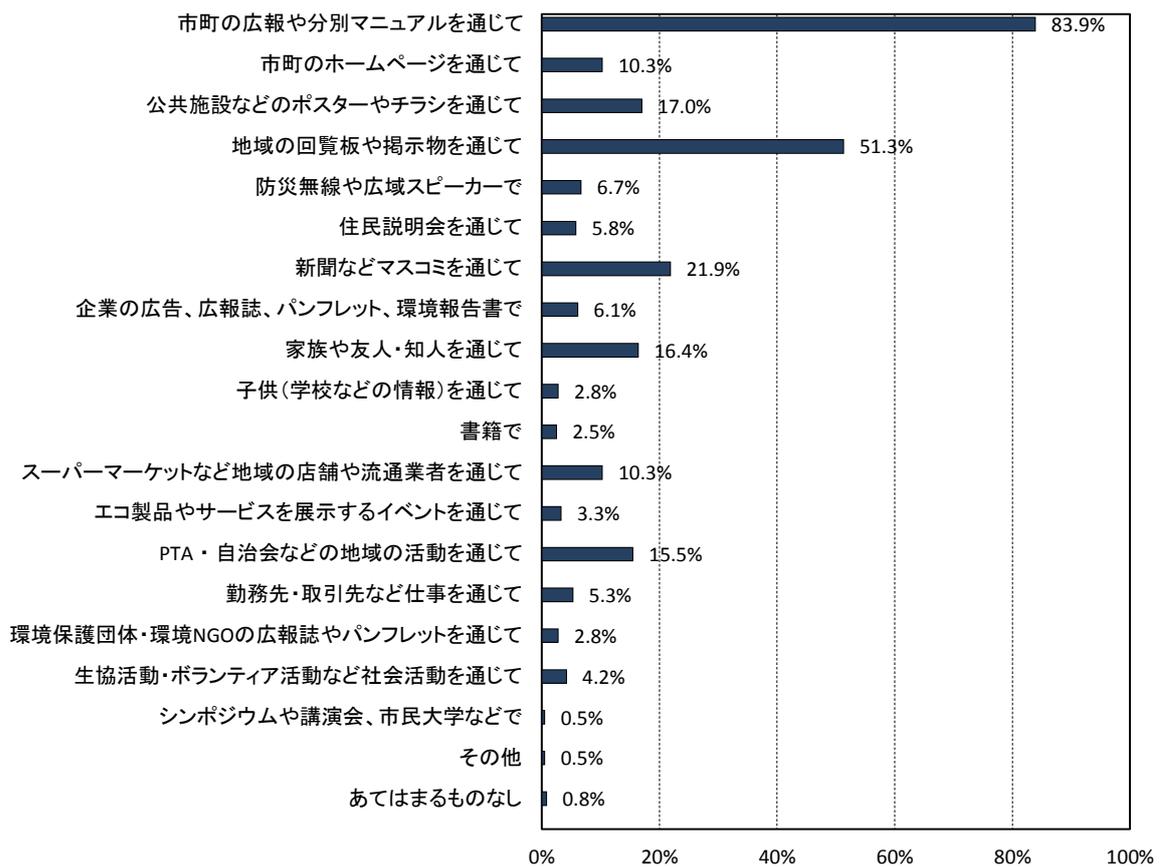


図 5-3-5 「情報をどのような方法で手にいれているか」回答率

② 市町別集計

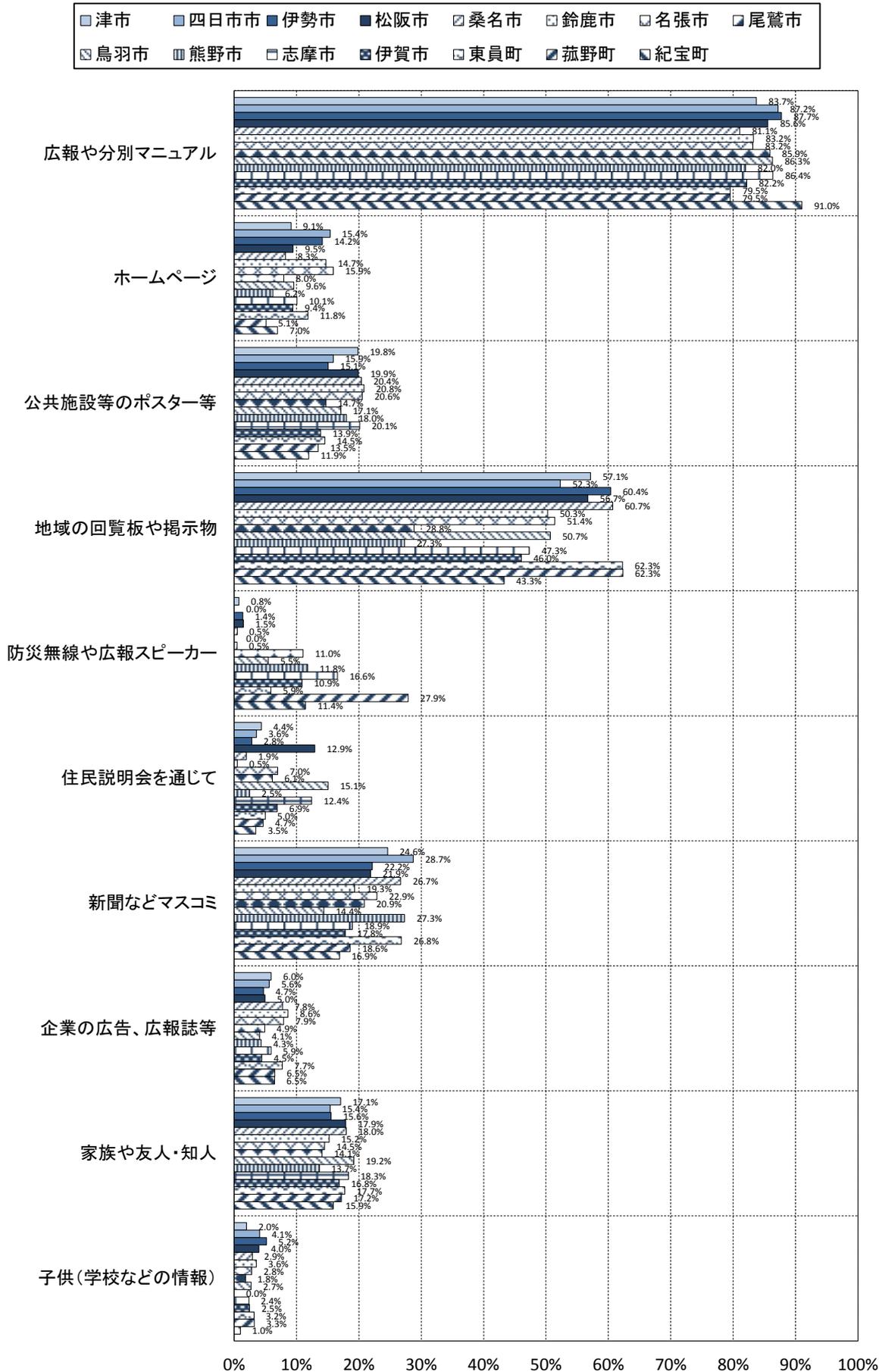


図 5-3-6 (1/2) 「市町別 情報をどのような方法で手に入れているか」回答率

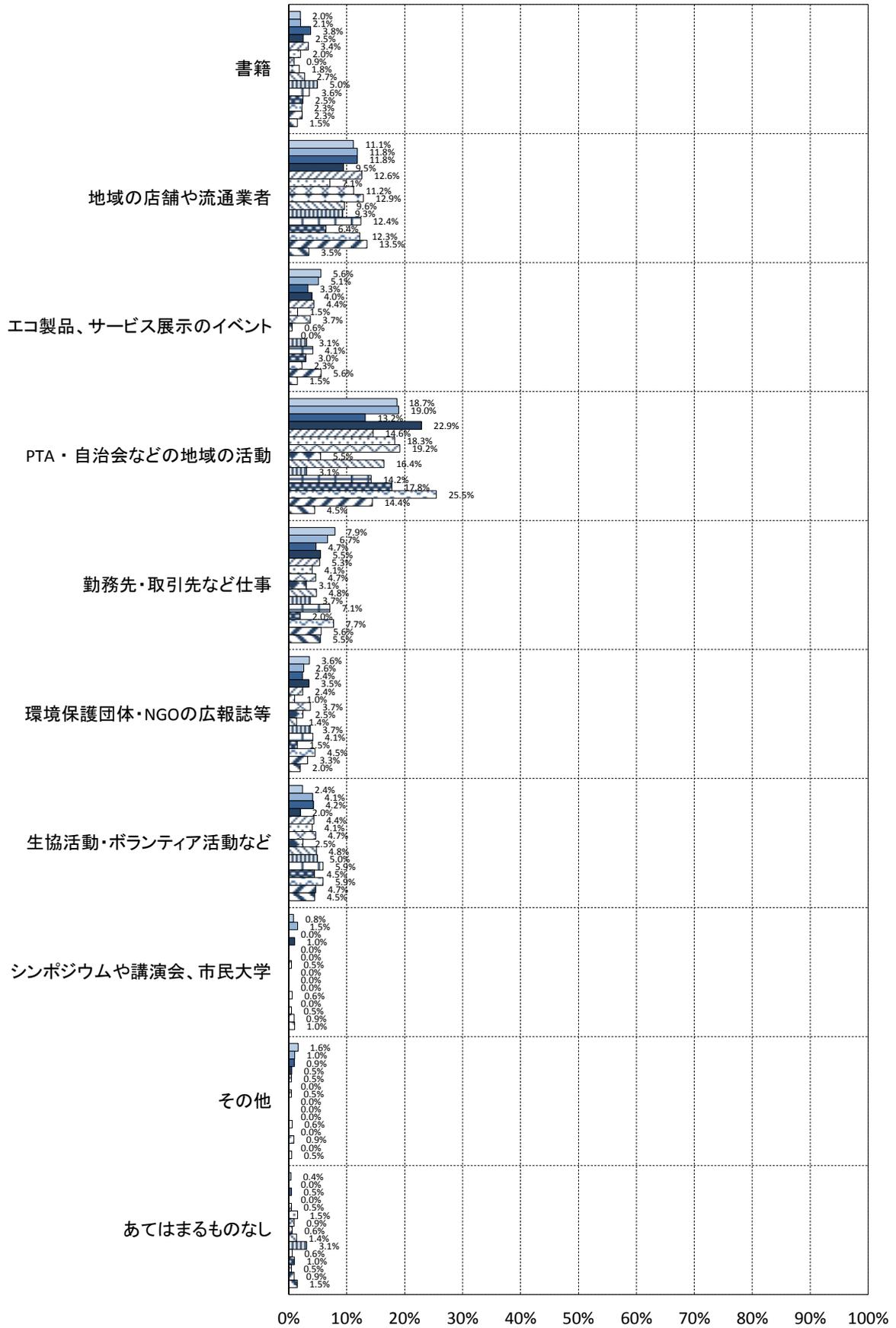
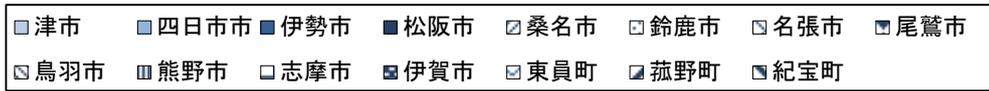


図 5-3-6 (2/2) 「市町別 情報をどのような方法で手に入れているか」回答率

② 年代別集計

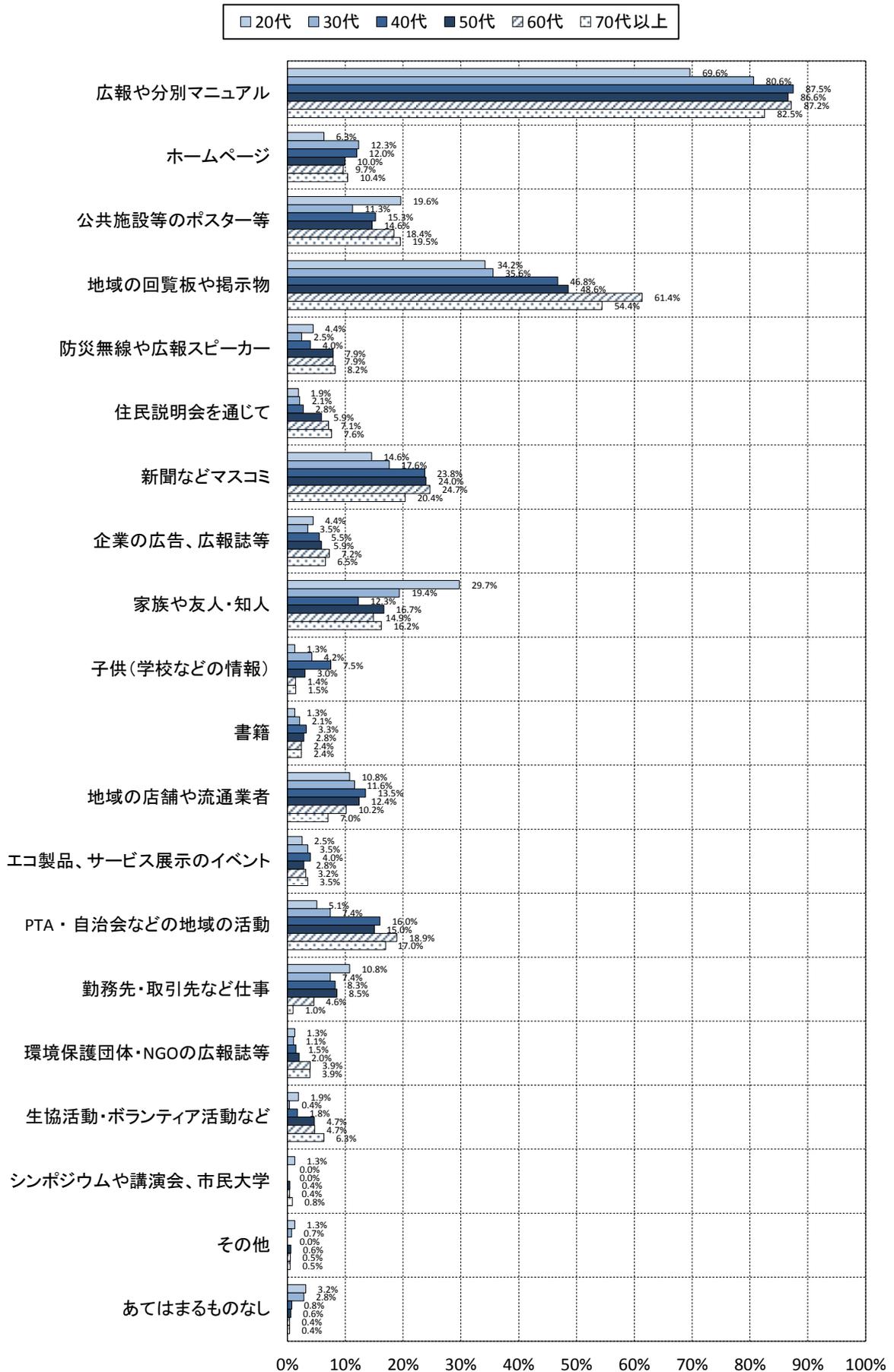


図 5-3-7 「年代別 情報をどのような方法で手に入れているか」回答率

問33 今後、ごみに関してどのような情報がほしいですか？（あてはまるものすべてに○）

「どのような情報がほしいか」については、「わかりやすい分別方法」の回答率が64.9%と大きく、次いで「ごみの減量方法」が36.0%、「市町のごみの量やリサイクル率などのごみ処理状況」が22.0%となっている。
 市町別については、「わかりやすい分別方法」は55.3%から76.6%の範囲にわたっており、「津市」(76.6%)、「伊賀市」(72.8%)、「四日市市」(71.8%)では70%を超えている。
 年代別については、「わかりやすい分別方法」は59.0%から78.5%の範囲にわたっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	わかりやすい分別方法	1,933	64.9%
2	ごみ処理コスト	506	17.0%
3	ごみの減量方法	1,071	36.0%
4	地域の集団回収(資源回収)	550	18.5%
5	生ごみ処理機等の購入助成制度	420	14.1%
6	ごみ減量・リサイクル推進活動団体の紹介	121	4.1%
7	ごみ減量・リサイクルに関する講座・セミナー	137	4.6%
8	ごみ減量によるCO2削減量を表示するなど、地球温暖化防止効果の見える化	399	13.4%
9	市町のごみの量やリサイクル率などのごみ処理状況	654	22.0%
10	その他	41	1.4%
11	あてはまるものなし	161	5.4%
総回答数		5,993	201.4%
有効回答数		2,979	

表 5-3-3 「どのような情報がほしいか」回答状況

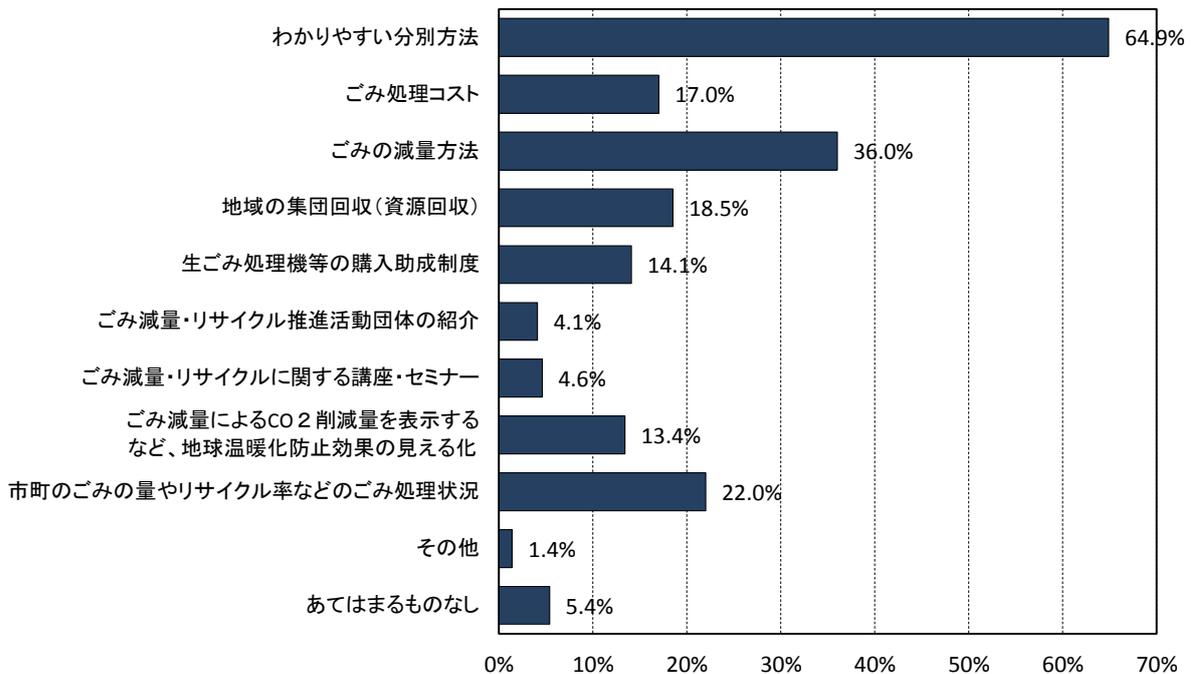


図 5-3-8 「どのような情報がほしいか」回答率

② 市町別集計

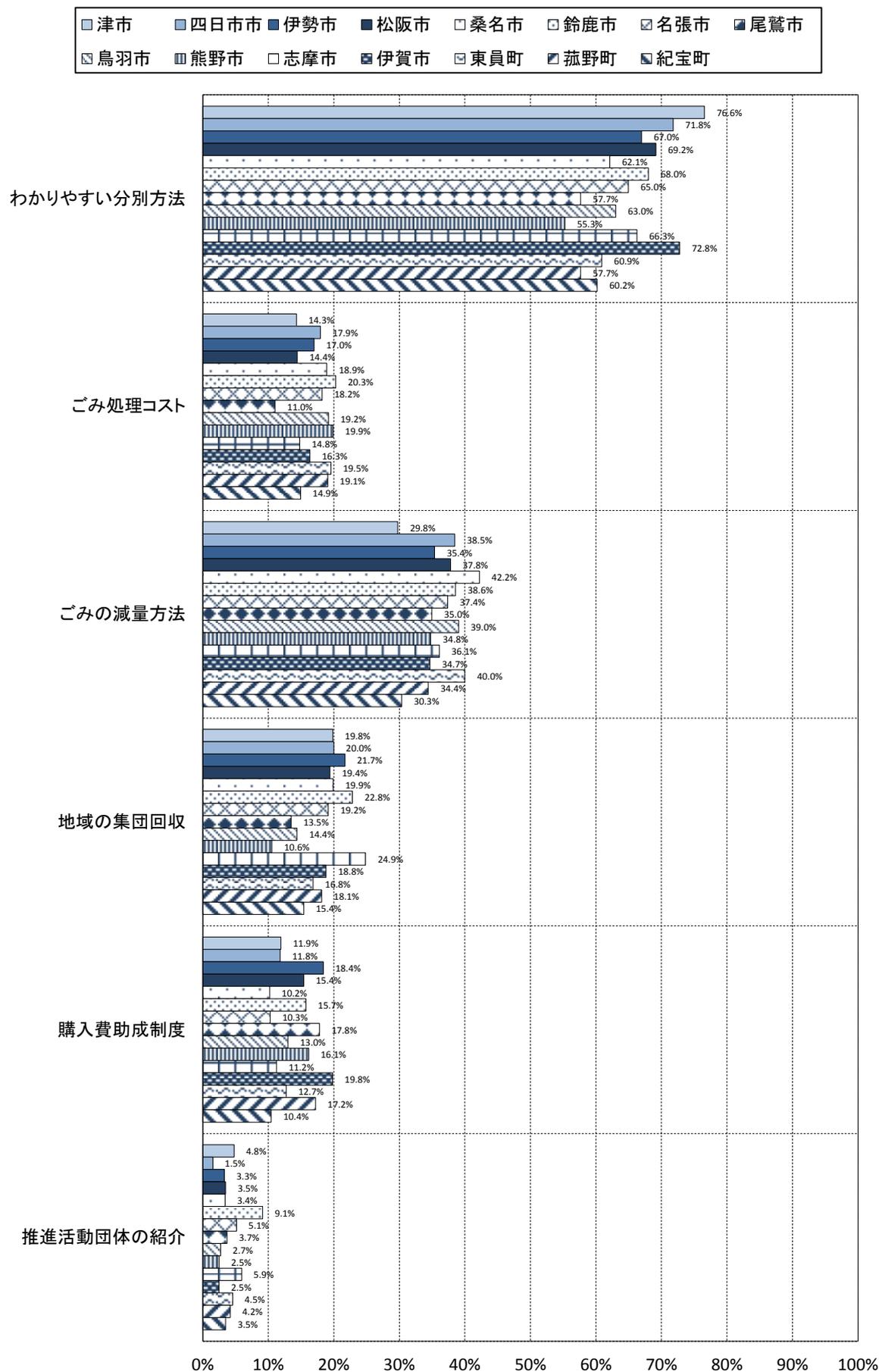


図 5-3-9 (1/2) 「市町別 どのような情報がほしいか」回答率

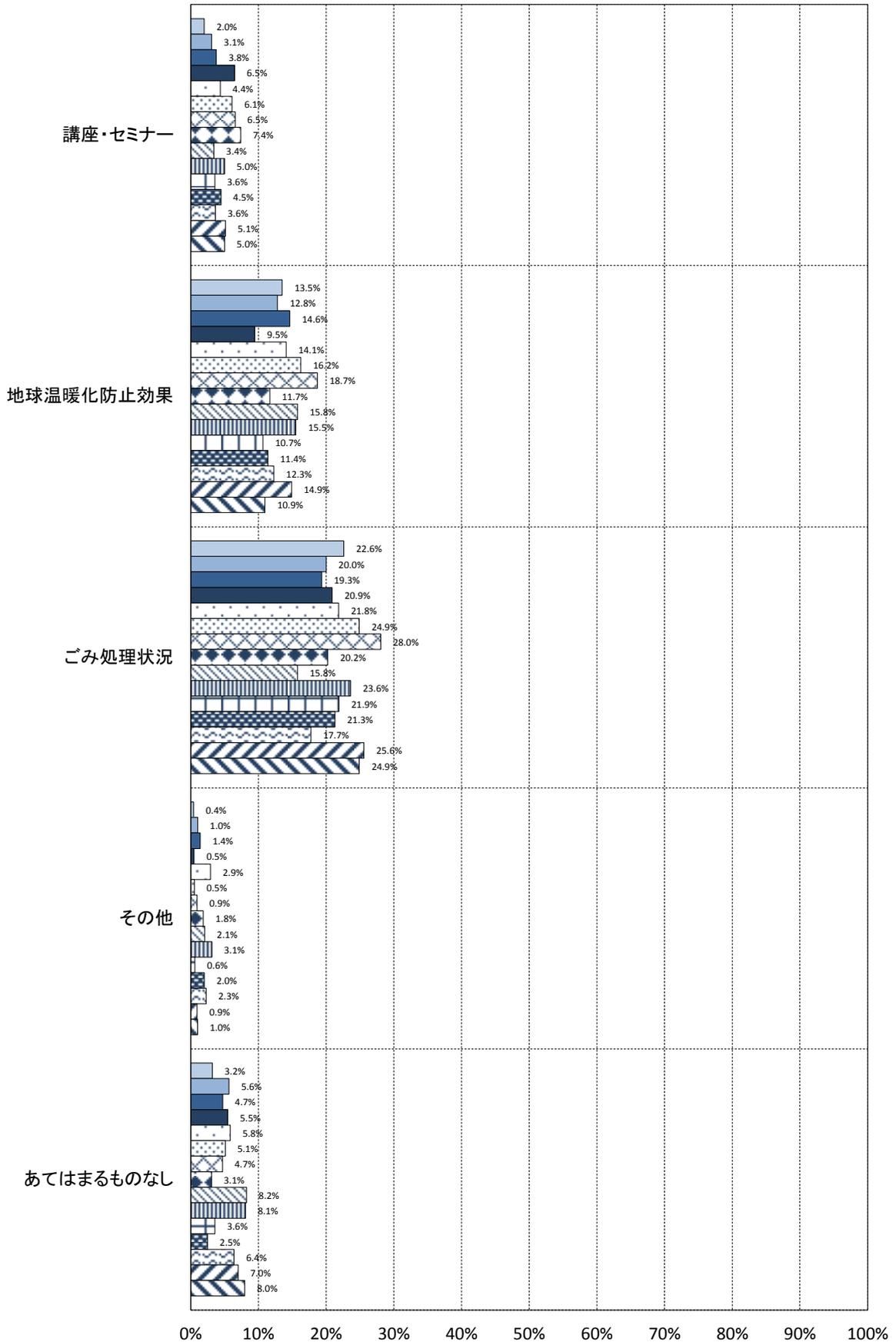


図 5-3-9 (2/2) 「市町別 どのような情報がほしいか」回答率

③ 年代別集計

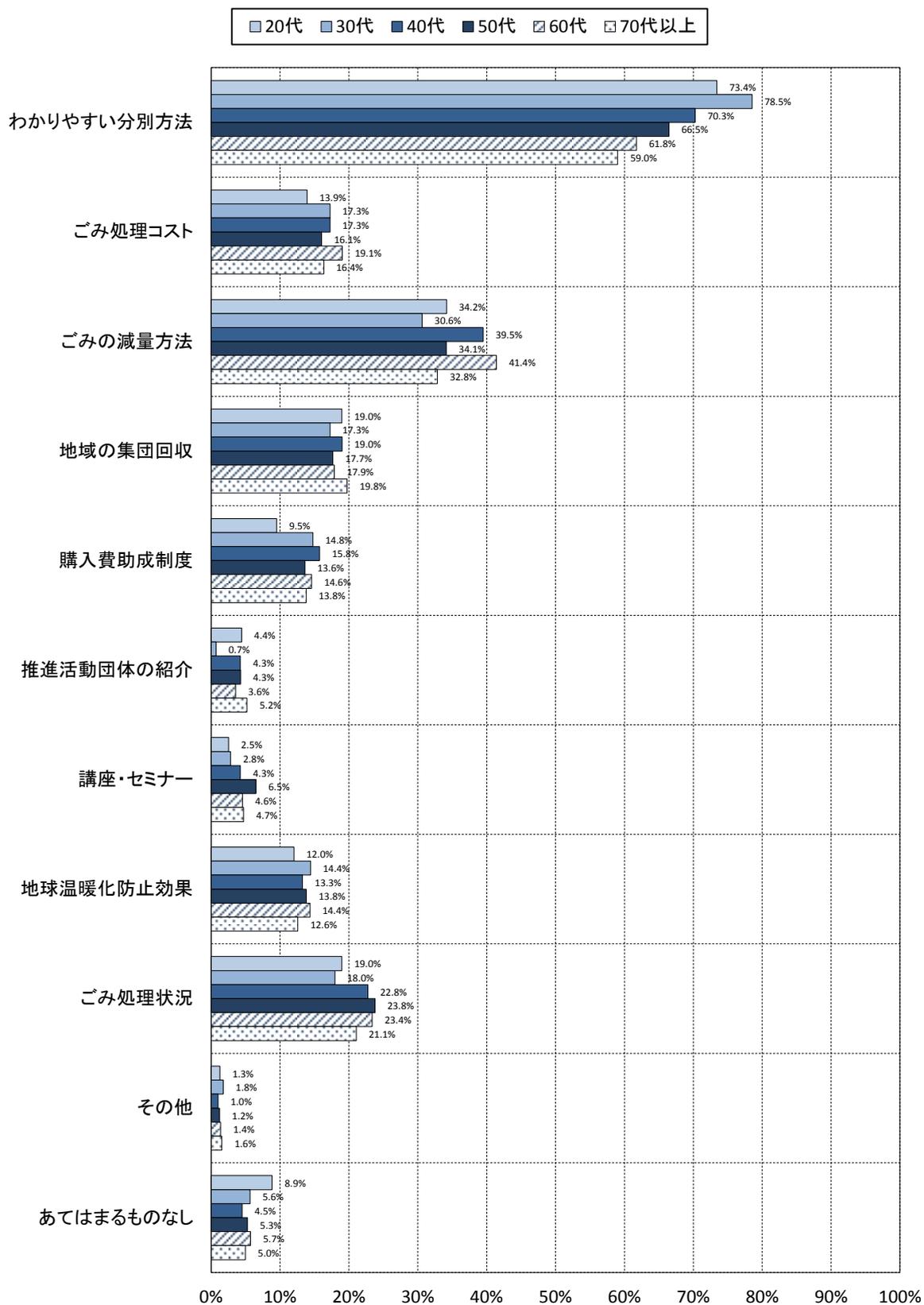


図 5-3-10 「年代別 どのような情報がほしいか」回答率

問34 家庭から出されるごみを市町が処理するのに、どれくらい費用がかかっているかをご存知ですか？（○は1つ）

「ごみ処理費用を知っているか」については、「あまり知らない」、「まったく知らない」の計が87.5%となっている。
 市町別では、上記の計が74.8%から94.7%であり、大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が78.7%から96.2%であり、年代が若い方が知らない傾向がみられる。
 分別行動別では、上記の計が88.1%から89.4%となっており、特に「ごみの分別にはあまりかわらない」人が66.9%と高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	知っている	69	2.3%
2	少し知っている	217	7.3%
3	あまり知らない	1,026	34.4%
4	まったく知らない	1,582	53.1%
99	無回答	85	2.9%
有効回答数		2,979	100.0%

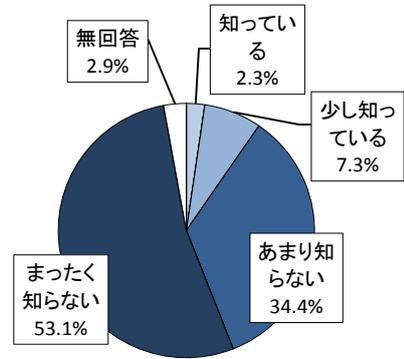


表 5-3-7 「ごみ処理費用を知っているか」回答状況

図 5-3-23 「ごみ処理費用を知っているか」回答率

② 市町別集計

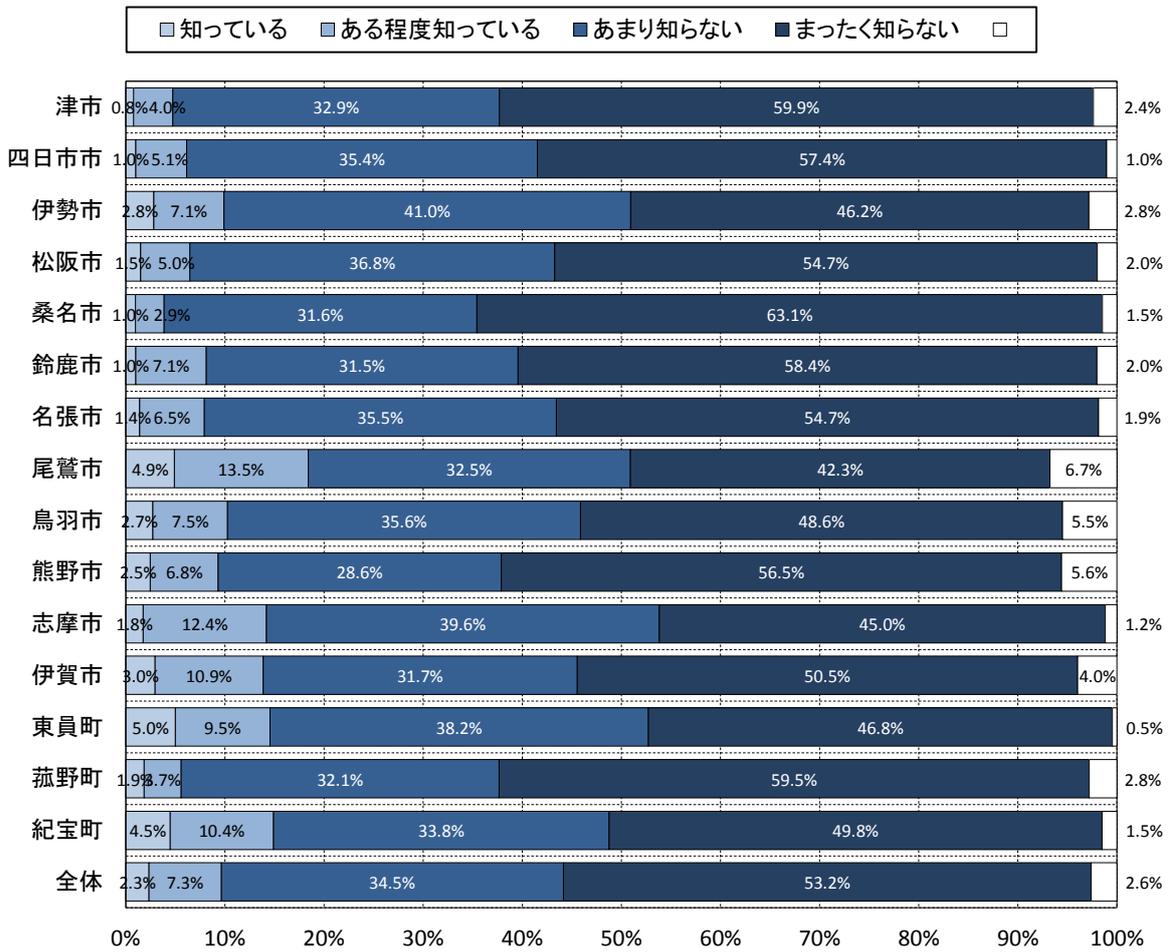


図 5-3-24 「市町別 ごみ処理費用を知っているか」回答率

③ 年代別集計

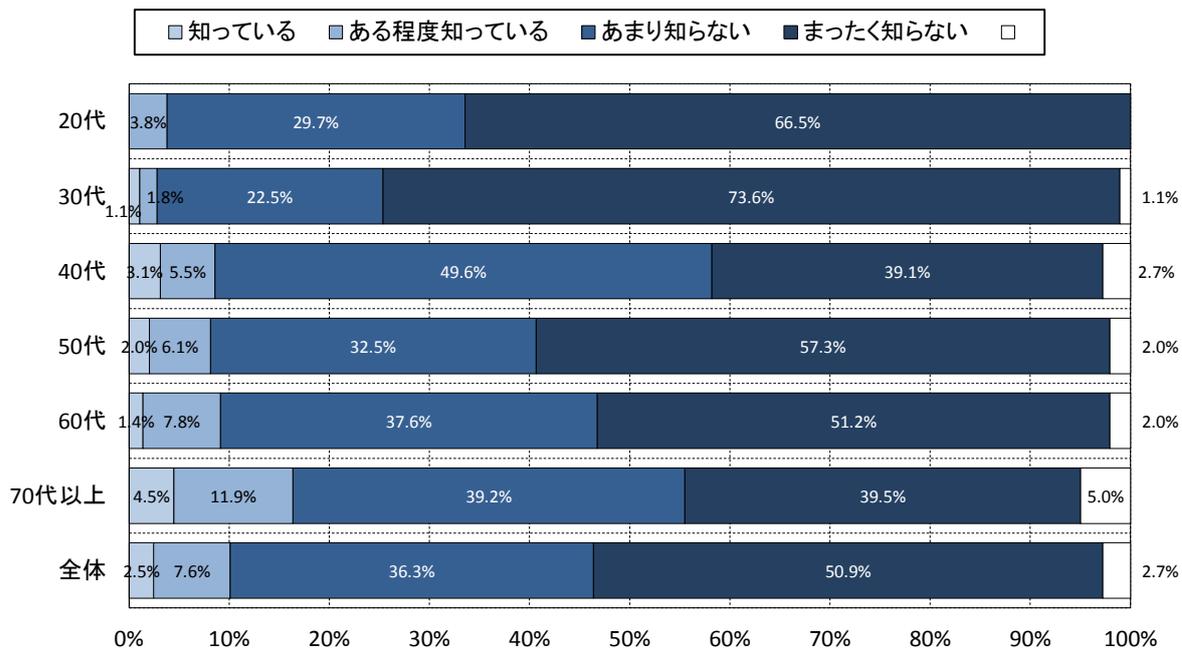


図 5-3-25 「年代別 ごみ処理費用を知っているか」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

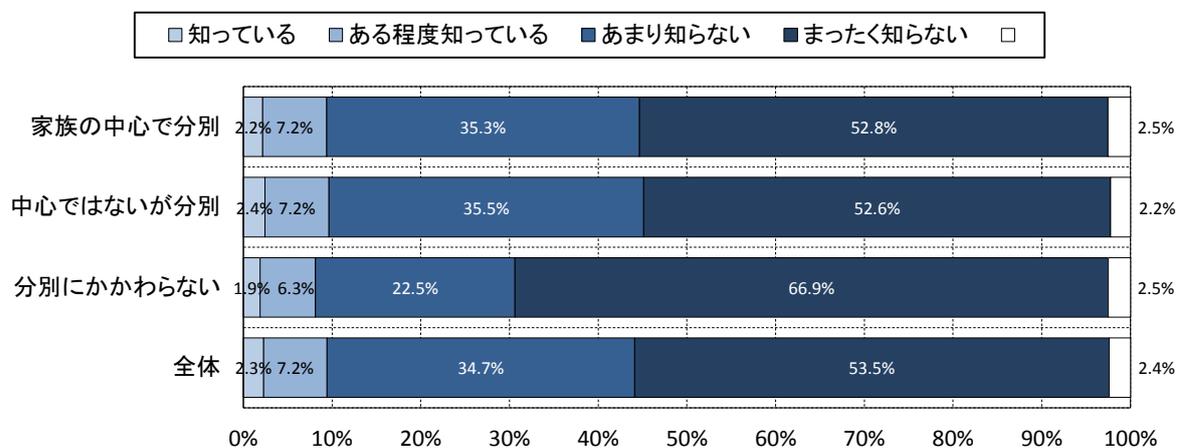


図 5-3-26 「分別行動別 ごみ処理費用を知っているか」回答率

問35	増え続けるごみを減らすため、ごみ（可燃ごみ）の排出に料金を課す市町が増えていきます。税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか？（○は1つ）
-----	---

「税金を使ってごみ処理を行うこと」については、「最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい」が47.6%と高くなっている。市町別では、上記が35.8%から56.2%であり、大きな偏りはみられない。年代別では、上記が42.5%から52.2%であり、大きな偏りはみられない。分別行動別では、上記が41.3%から48.8%であり、「ごみの分別にはあまりかかわらない」人ほど低くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい	703	23.6%
2	最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい	1,418	47.6%
3	ごみ処理費用はごみの量に応じて出す人が負担する仕組みとすることで、これまでごみ処理に使っていた税金を福祉や教育などにまわすのがよい	297	10.0%
4	よくわからない	413	13.9%
5	その他	42	1.4%
99	無回答	106	3.5%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-3-8 「税金を使ってごみ処理を行うことについて」回答状況

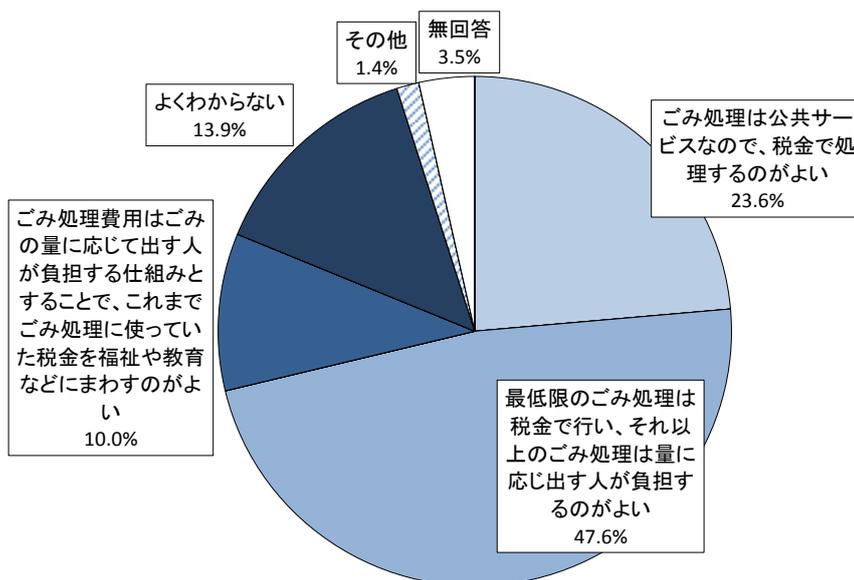


図 5-3-27 「税金を使ってごみ処理を行うことについて」回答率

② 市町別集計

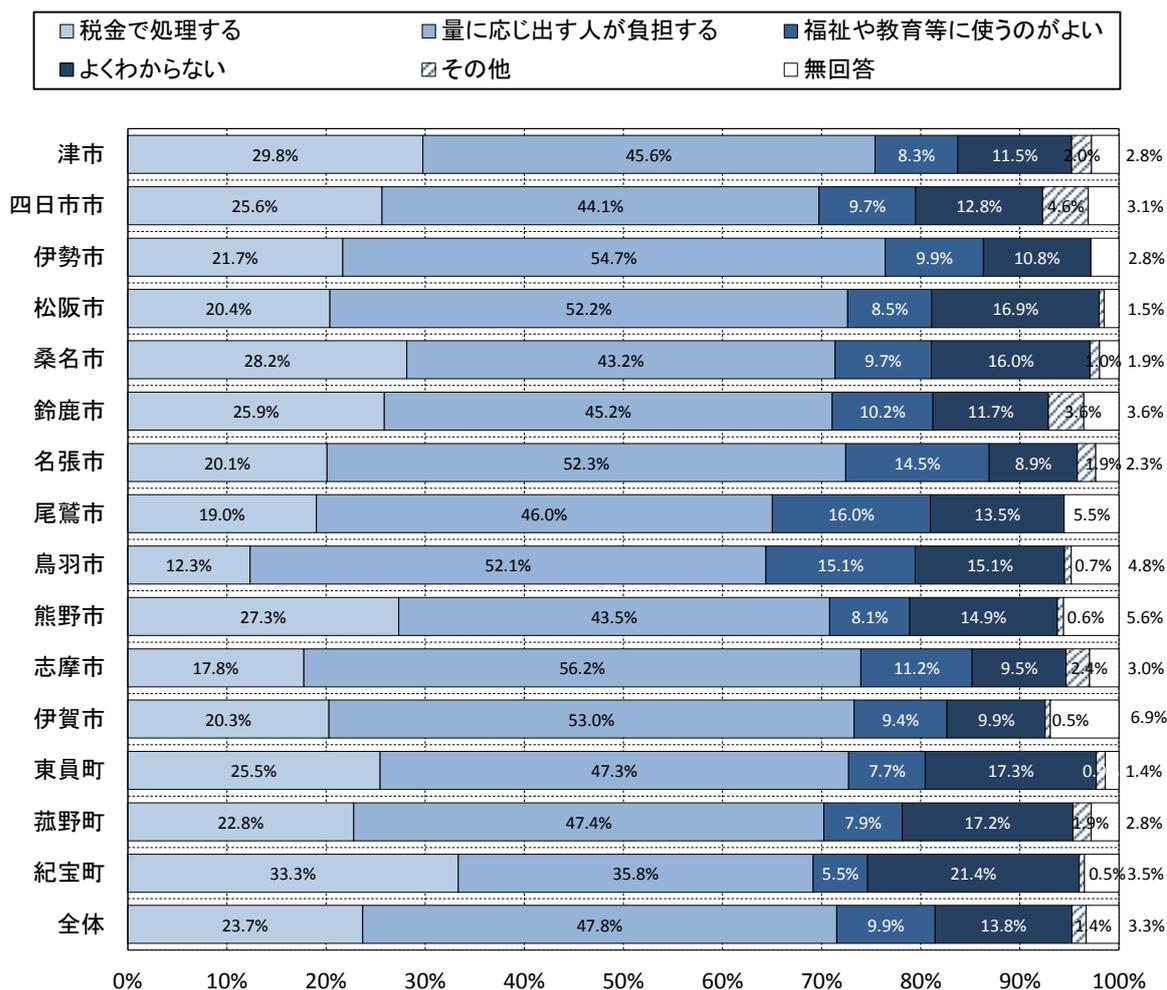


図 5-3-28 「市町別 税金を使ってごみ処理を行うことについて」回答率

③ 年代別集計

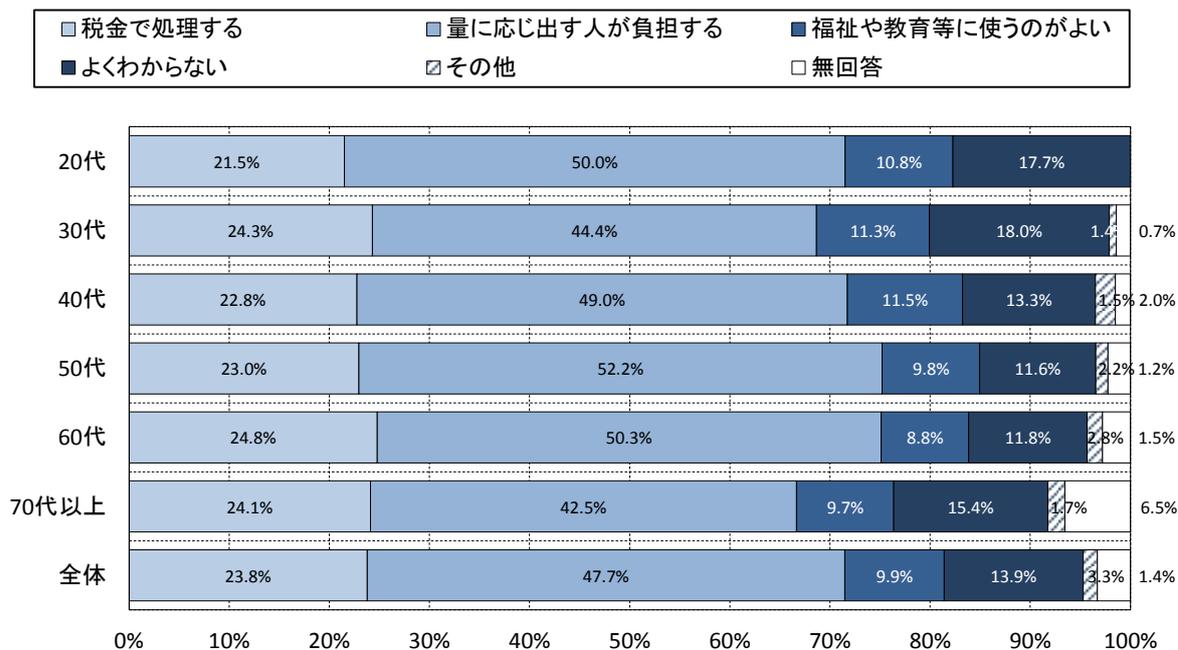


図 5-3-29 「年代別 税金を使ってごみ処理を行うことについて」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

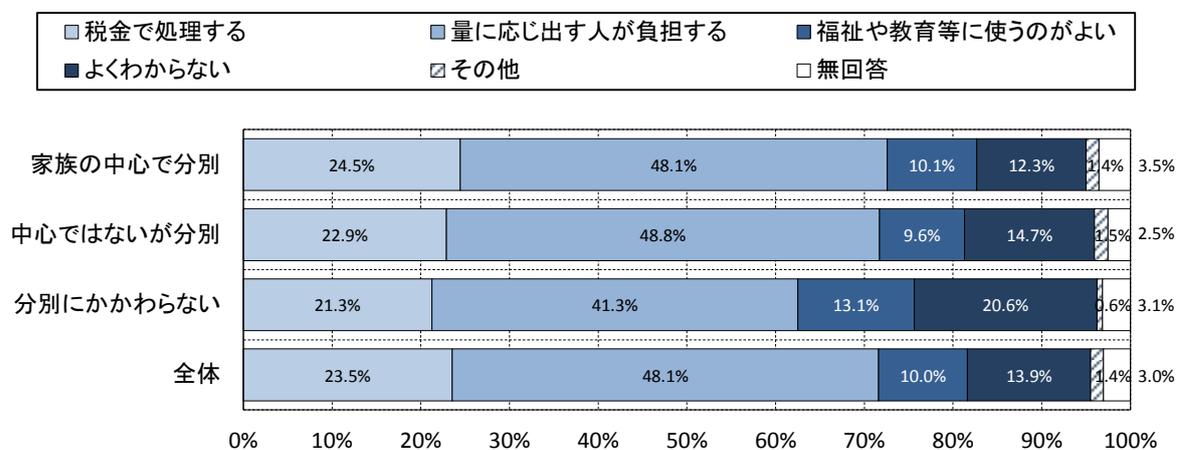


図 5-3-30 「分別行動別 税金を使ってごみ処理を行うことについて」回答率

問36 出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？（〇は1つ）

「ごみの有料化」については、「賛成」と「どちらかという賛成」の計が64.9%となっている。
 市町別では、上記の計が57.8%から79.3%であり、志摩市では約8割（79.3%）を占めている。
 年代別では、上記の計が59.9%から70.3%であり、大きな偏りはみられない。
 分別行動別では、上記の計が61.3%から65.7%であり、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	賛成	620	20.8%
2	どちらかという賛成	1,313	44.1%
3	どちらかという反対	592	19.9%
4	反対	302	10.1%
99	無回答	152	5.1%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-3-9 「ごみの有料化について」回答状況

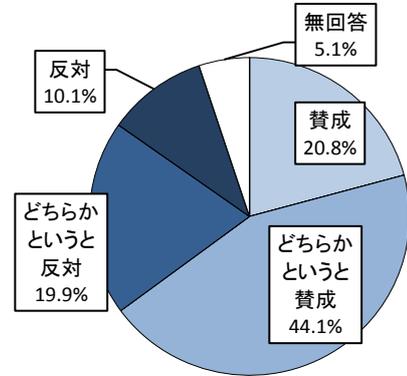


図 5-3-31 「ごみの有料化について」回答率

② 市町別集計

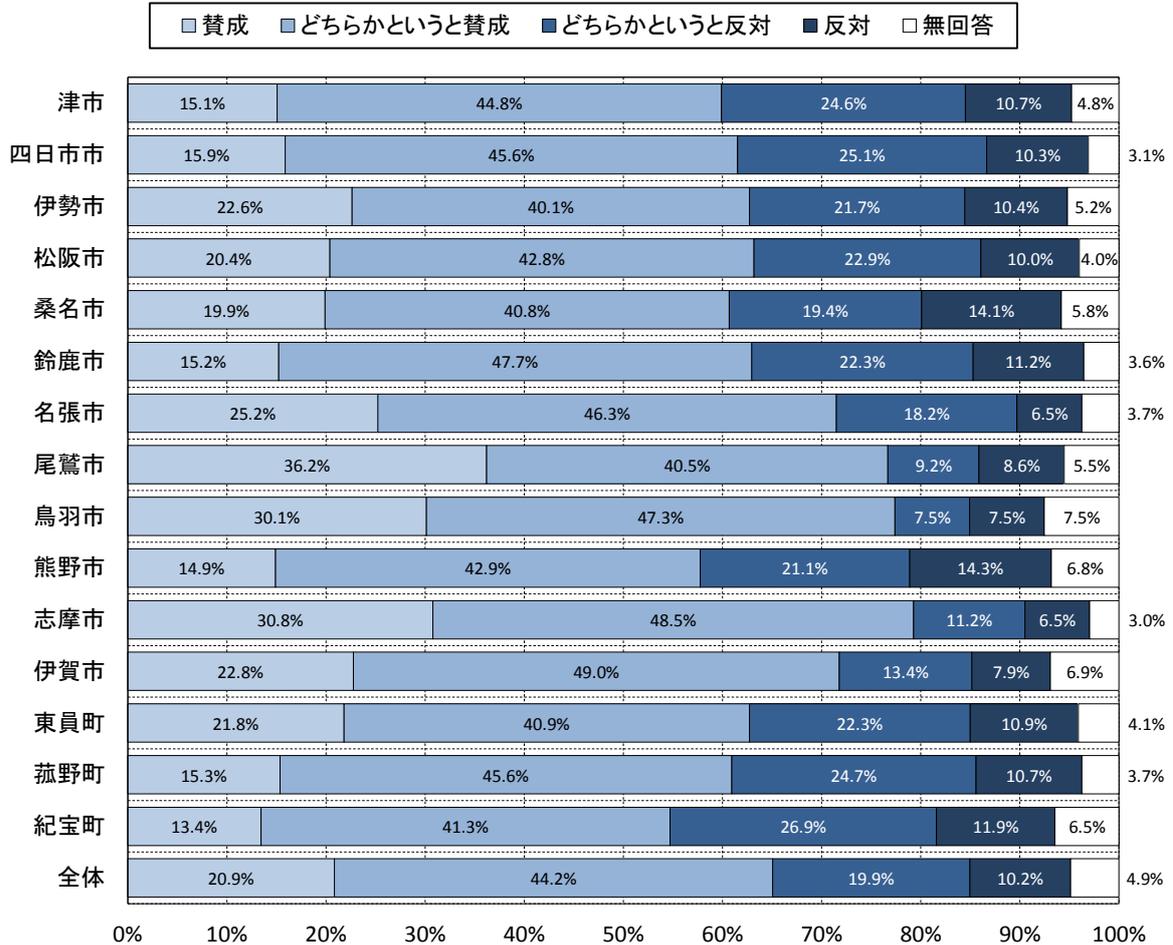


図 5-3-32 「市町別 ごみの有料化について」回答率

③ 年代別集計

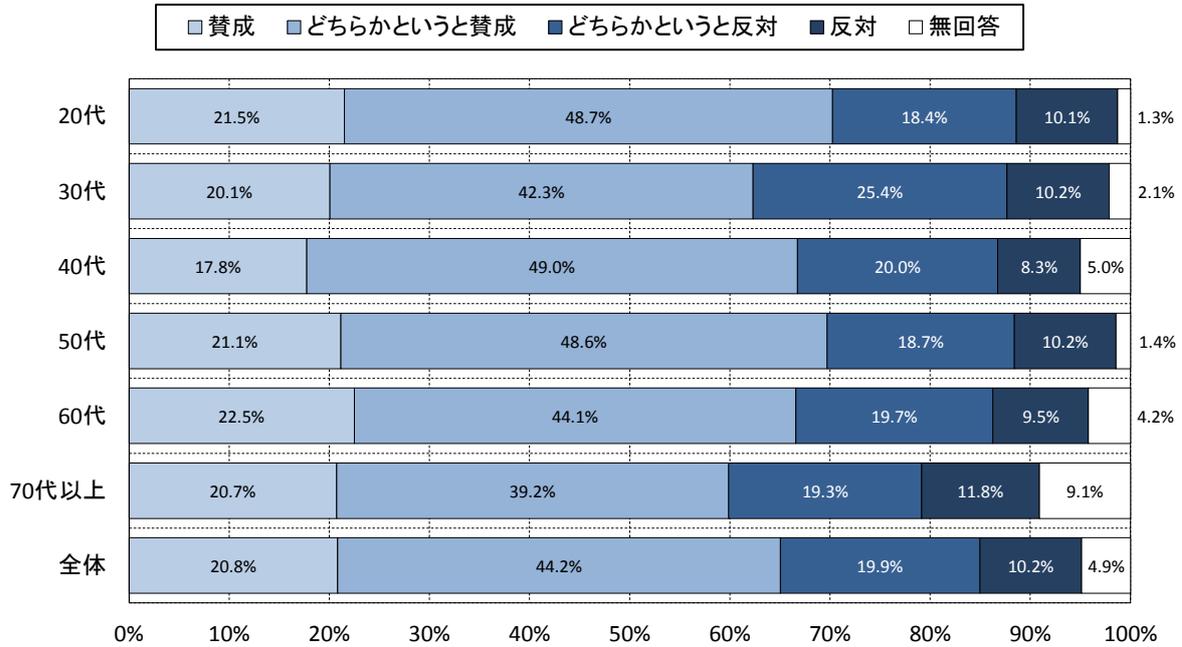


図 5-3-31 「年代別 ごみの有料化について」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

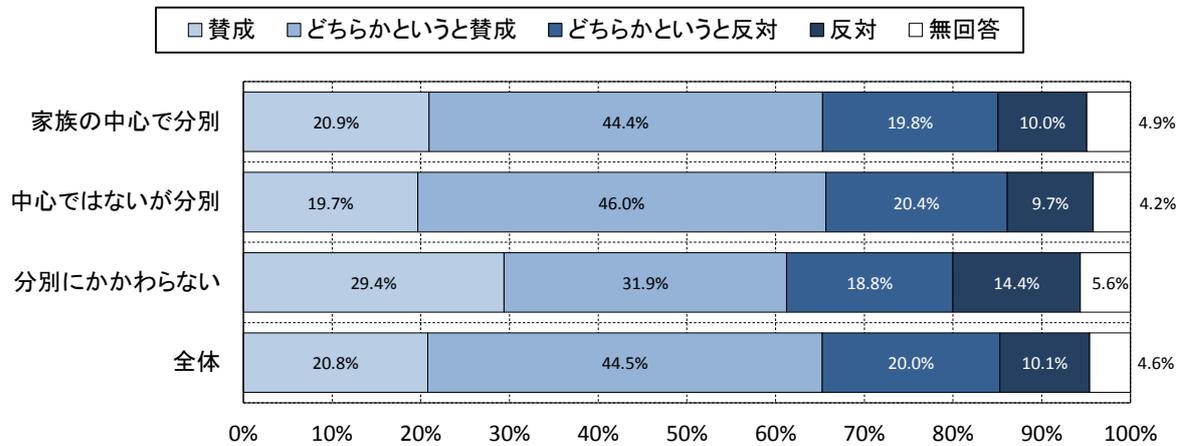


図 5-3-31 「分別行動別 ごみの有料化について」回答率

問37	ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか？（〇は3つまで）
-----	--

「有料化を検討する場合、重視すべきこと」については、「家計への負担が少ない料金とすること」の回答率が一番高く54.6%となっており、次いで「ルール違反（不法投棄など）を許さないこと」（42.0%）、「ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なくみとすること」（33.4%）となっている。

市町別については、大きな偏りはない。

年代別については、「家計への負担が少ない料金とすること」が「70代以上」の47.2%から「20代以下」の61.4%と年代が低いほど高くなっている。

分別行動別では、「ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なくみとすること」が「ごみの分別にはあまりかわからない」人ほど低くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なくみとすること	996	33.4%
2	家計への負担が少ない料金とすること	1,628	54.6%
3	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびに ある程度の負担が感じられる料金とすること	371	12.5%
4	一人ひとりが取り組めるごみ減量メニューを配布すること	643	21.6%
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること	919	30.8%
6	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること	941	31.6%
7	ルール違反（不法投棄など）を許さないこと	1,250	42.0%
8	有料化だけでなく、他のごみを減らす ための方法を併せて検討すること	703	23.6%
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の 用途（福祉や教育等）に使うことを検討すること	365	12.3%
10	その他	67	2.2%
総回答数		7,883	264.6%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-3-10 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答状況

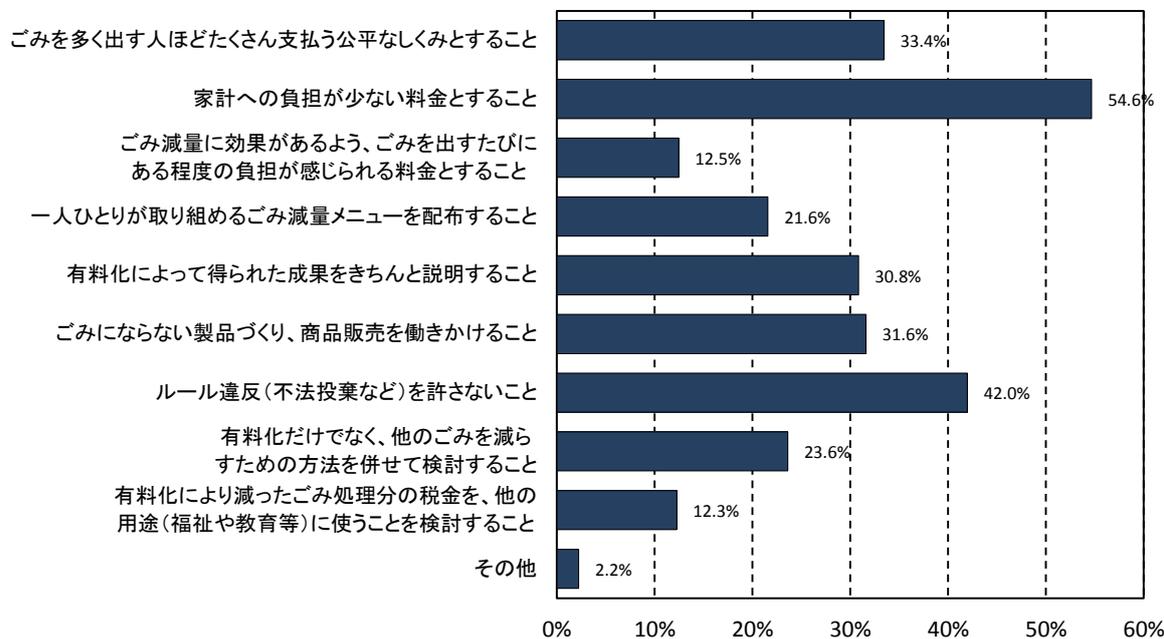


図 5-3-35 「有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答率

② 市町別集計

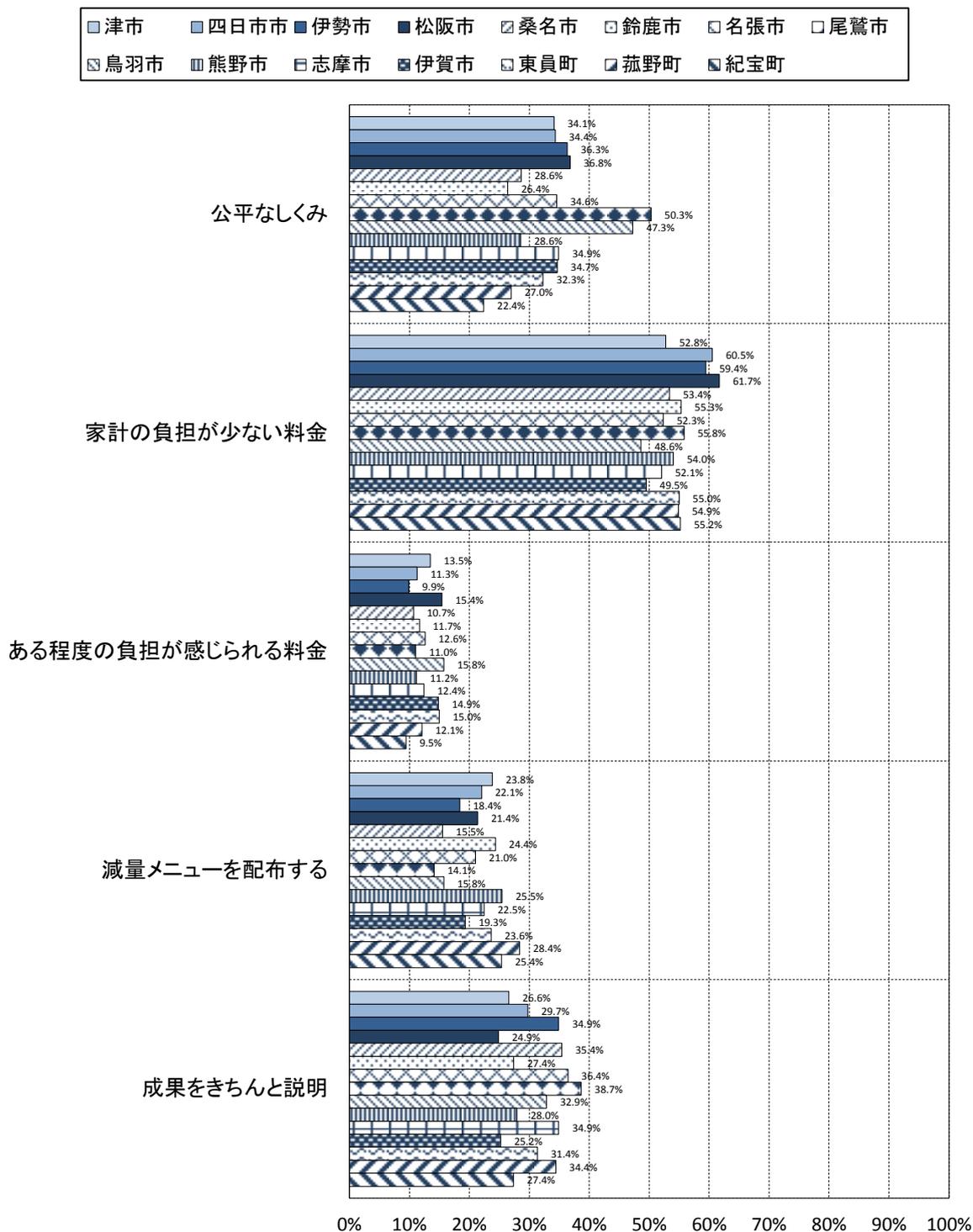


図 5-3-36 (1/2) 「市町別 有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答率

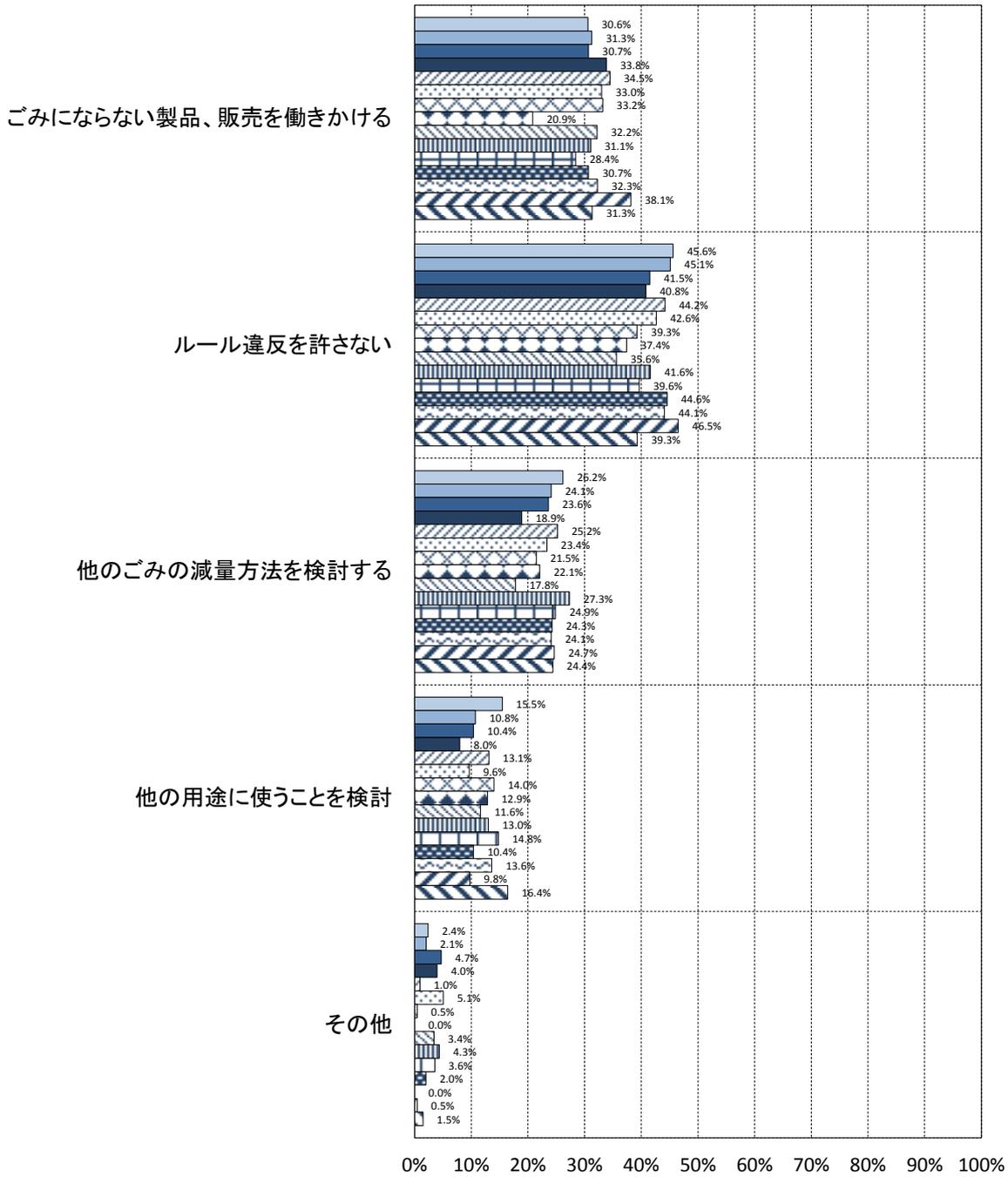
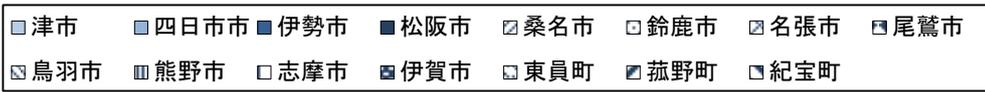


図 5-3-36 (2/2) 「市町別 有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答率

③ 年代別集計

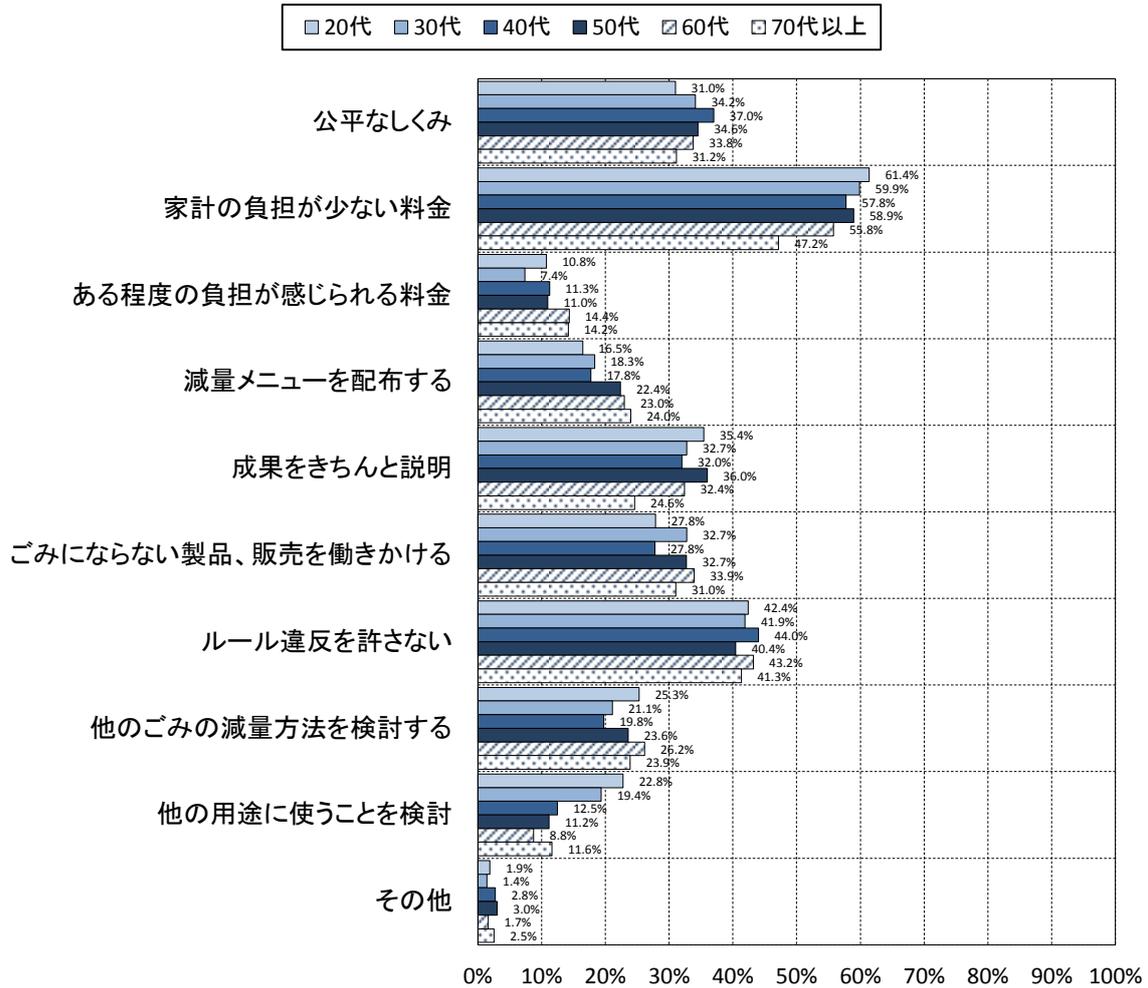


図 5-3-37 「年代別 有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答率

④ 分別へのかかわり別集計

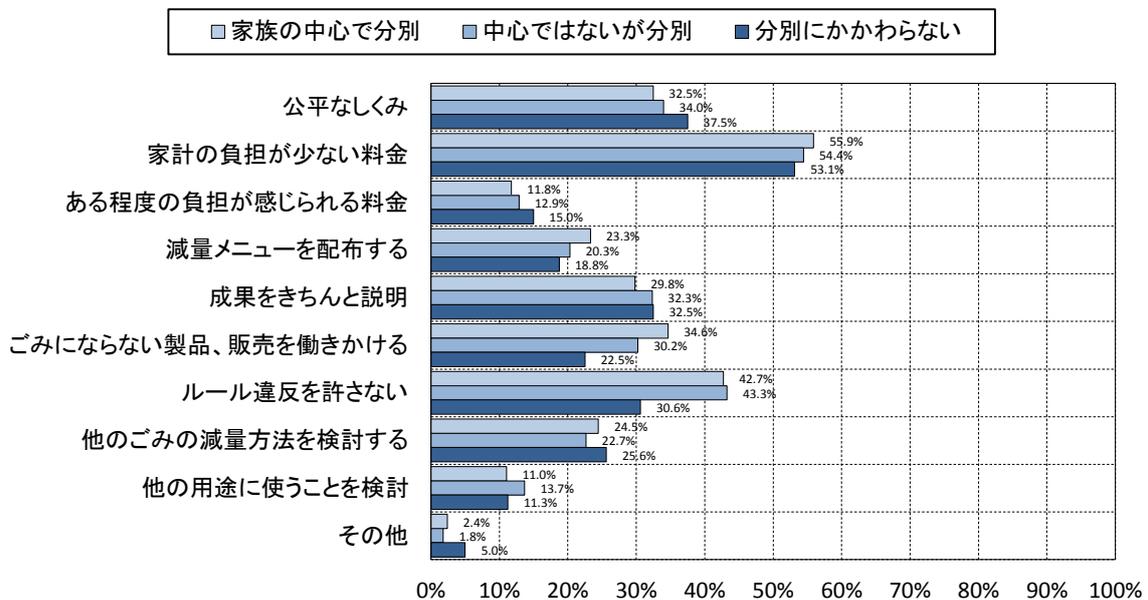


図 5-3-38 「分別行動別 有料化を検討する場合、重視すべきこと」回答率

問38	ごみ処理を有料化した市町では、料金を「指定のごみ袋」を購入するという形で支払うことが多く、「指定のごみ袋」は普通のごみ袋に比べて値段が高くなっています。有料化する場合、その料金としていくらまでなら受け入れられますか？（〇は1つ）
-----	--

「有料化する場合、いくらまで受け入れられるか」については、「ごみ袋大（45リットル）が1袋10円」の回答率が56.1%と一番高くなっており、次いで「ごみ袋大が一袋50円程度」が27.1%となっている。全体的に安い料金の回答が多くなっている。市町別では、鳥羽市で「ごみ袋大が1袋50円程度」が一番高く、他市町については「ごみ袋大が1袋10円」が一番高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	ごみ袋大（45リットル）が1袋10円	1,671	56.1%
2	ごみ袋大が一袋50円程度	806	27.1%
3	ごみ袋大が一袋100円程度	251	8.4%
4	ごみ袋大が一袋200円程度	53	1.8%
5	それ以上	10	0.3%
99	無回答	188	6.3%
有効回答数		2,979	100.0%

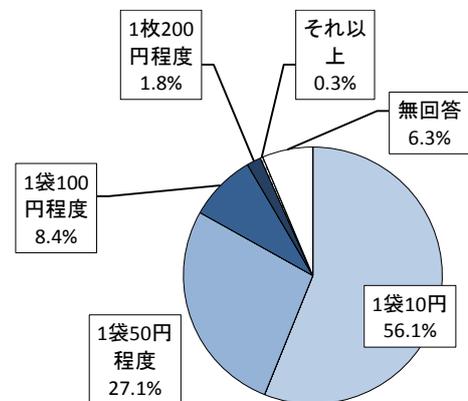


表 5-3-9 「ごみの有料化について」回答状況

図 5-3-39 「有料化する場合、いくらまで受け入れられるか」回答率

② 市町別集計

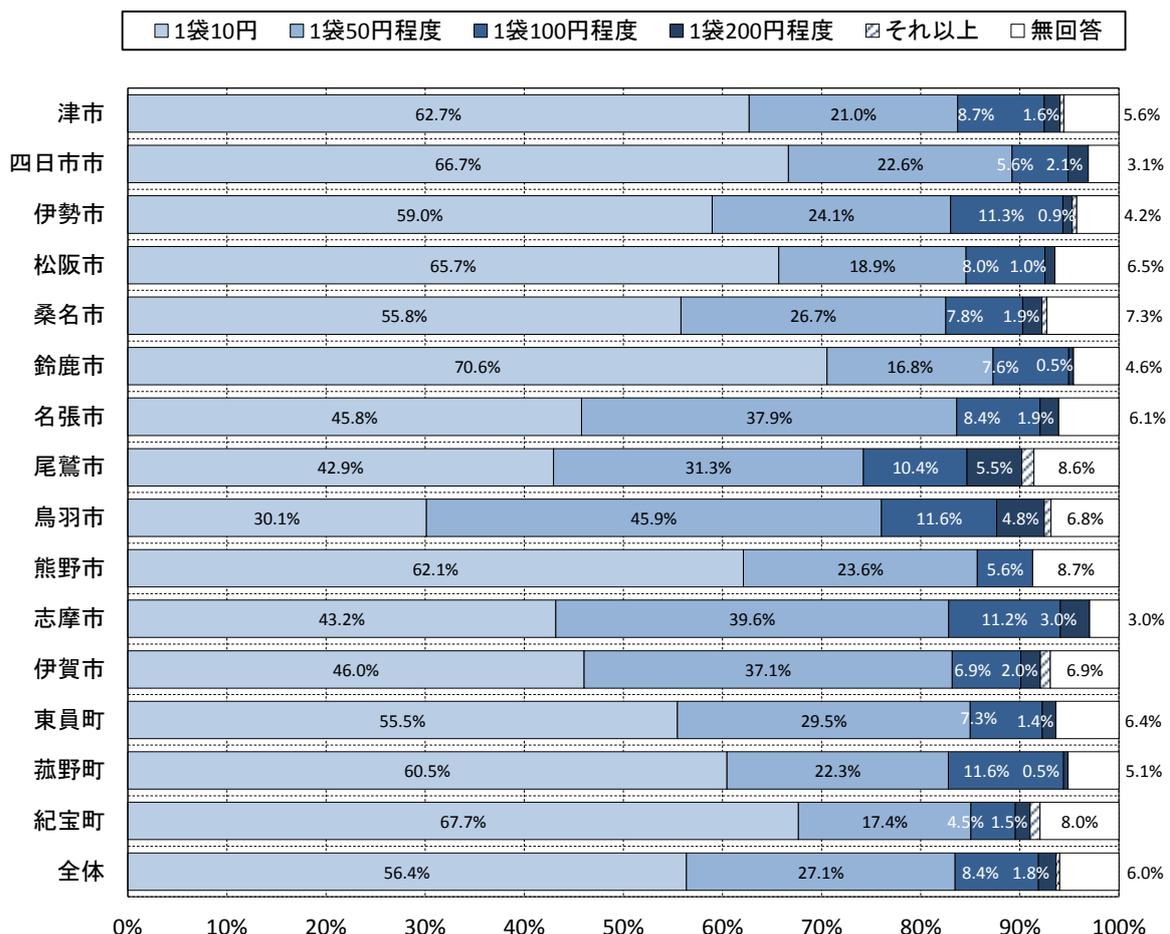


図 5-3-40 「市町別 有料化する場合、いくらまで受け入れられるか」回答率

問39	あなたの市町でごみの有料化が実施された場合、どのようにごみを減らしますか？（あてはまるものすべてに○）
-----	---

「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」については、「買い物袋（マイバック）等を持参しレジ袋をもらわない」の回答率が一番高く78%を占め、次いで「食品は買いすぎないように注意する」が65.6%、「食事を食べ残さないようにする」が65.5%、「台所ごみの水切りをする」が63.8%となっている。

市町別については、大きな偏りはみられない。

年代別については、「台所ごみを堆肥化処理する」、「紙くすなど少量のごみを庭や畑で焼却する」は年代が若いほど低いが、「マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにする」は年代が若いほど高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	台所ごみの水切りをする	1,902	63.8%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋める	491	16.5%
3	台所ごみを堆肥化処理する	664	22.3%
4	紙くすなど少量のごみを庭や畑で焼却する	390	13.1%
5	買い物袋（マイバック）等を持参しレジ袋をもらわない	2,325	78.0%
6	詰め替え容器を使用した商品を買う	1,565	52.5%
7	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選ぶ	673	22.6%
8	包装を断ったり、簡易包装を依頼する	1,413	47.4%
9	食品は買いすぎないように注意する	1,954	65.6%
10	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにする	243	8.2%
11	食事を食べ残さないようにする	1,952	65.5%
12	不要物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりする	833	28.0%
13	資源とごみの分別をより徹底する	1,591	53.4%
14	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用する	1,555	52.2%
15	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにする	580	19.5%
16	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにする	1,021	34.3%
17	マイ箸を携帯する	440	14.8%
18	その他	25	0.8%
19	これらいずれもしない	20	0.7%
総回答数		19,637	659.2%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-3-12 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答状況

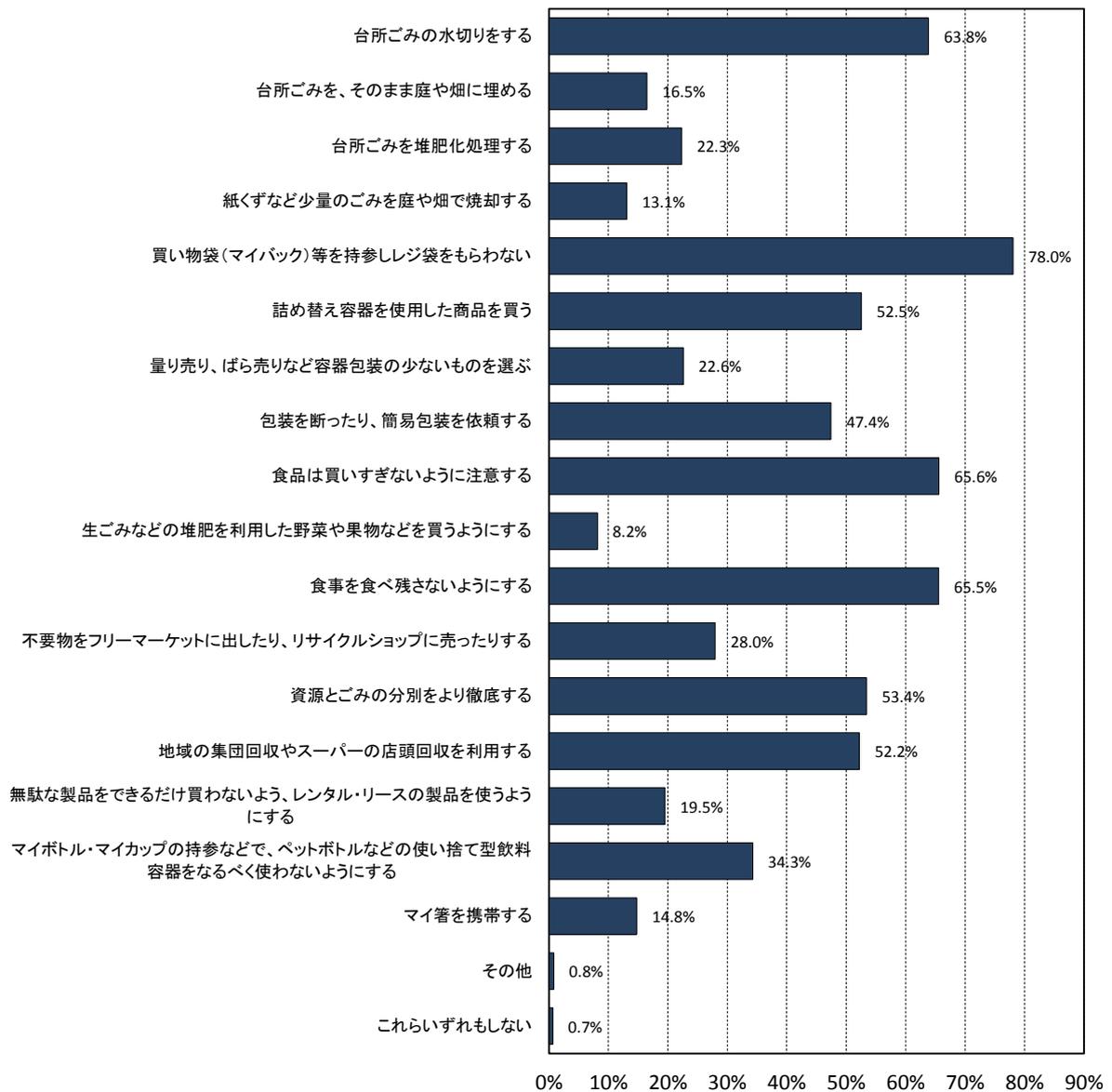


図 5-3-41 「有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答率

② 市町別集計

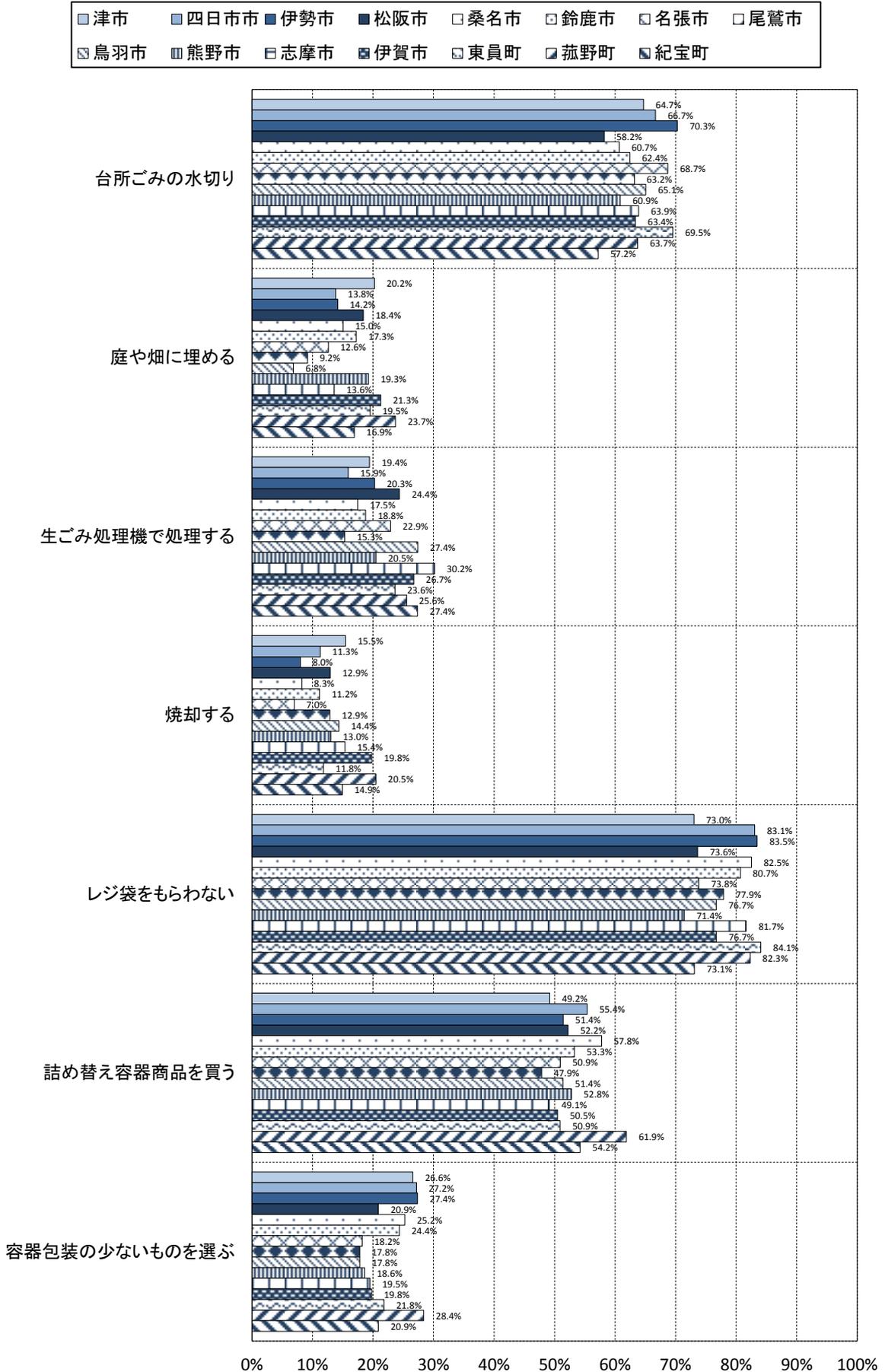


図 5-3-42 (1/3) 「市町別 有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答率

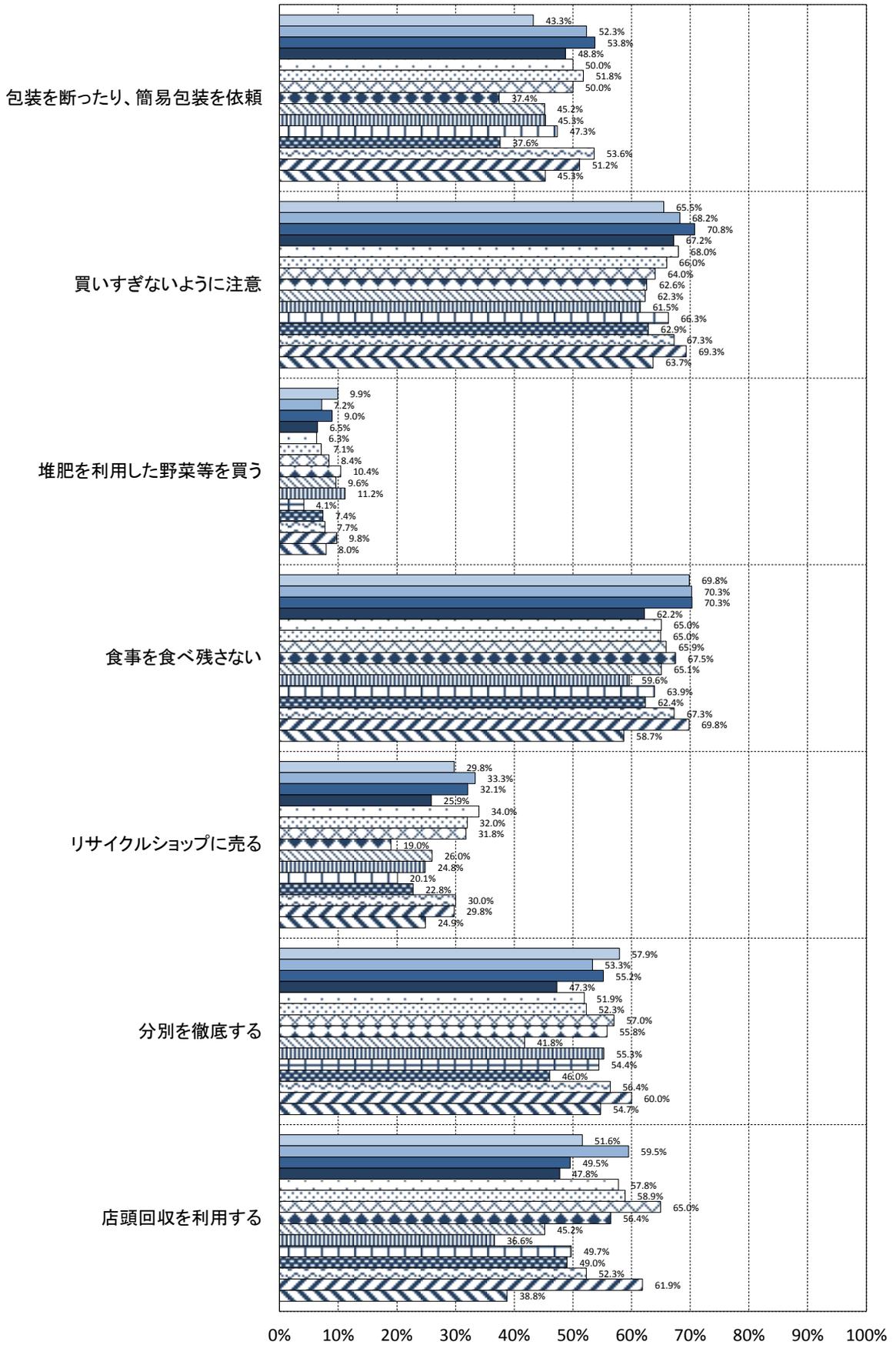
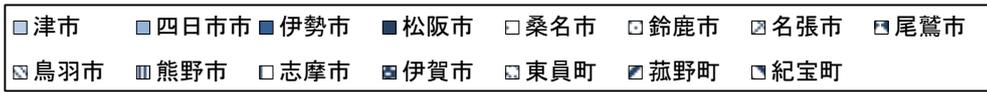


図 5-3-42 (2/3) 「市町別 有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答率

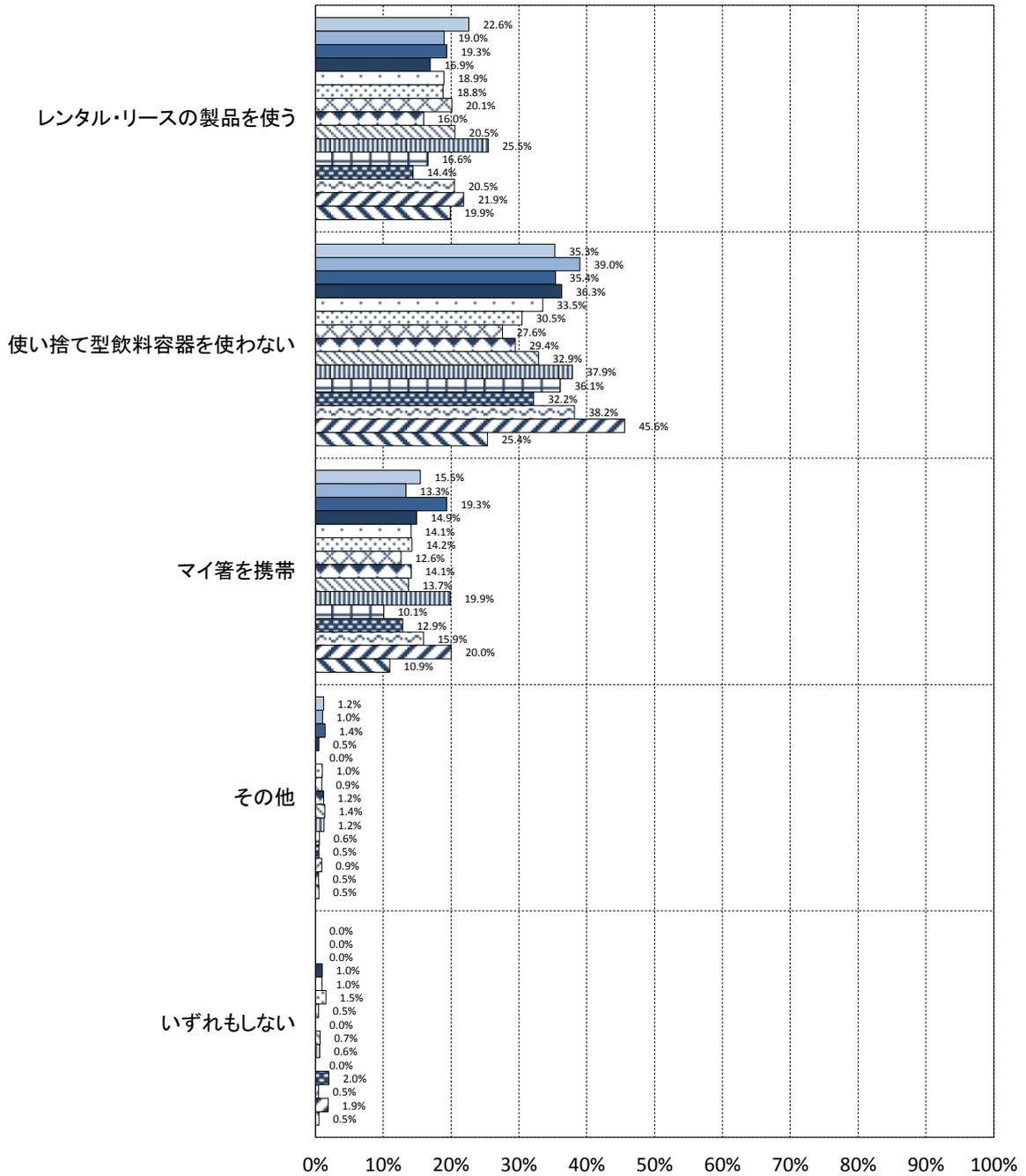


図 5-3-42 (3/3) 「市町別 有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答率

③ 年代別集計

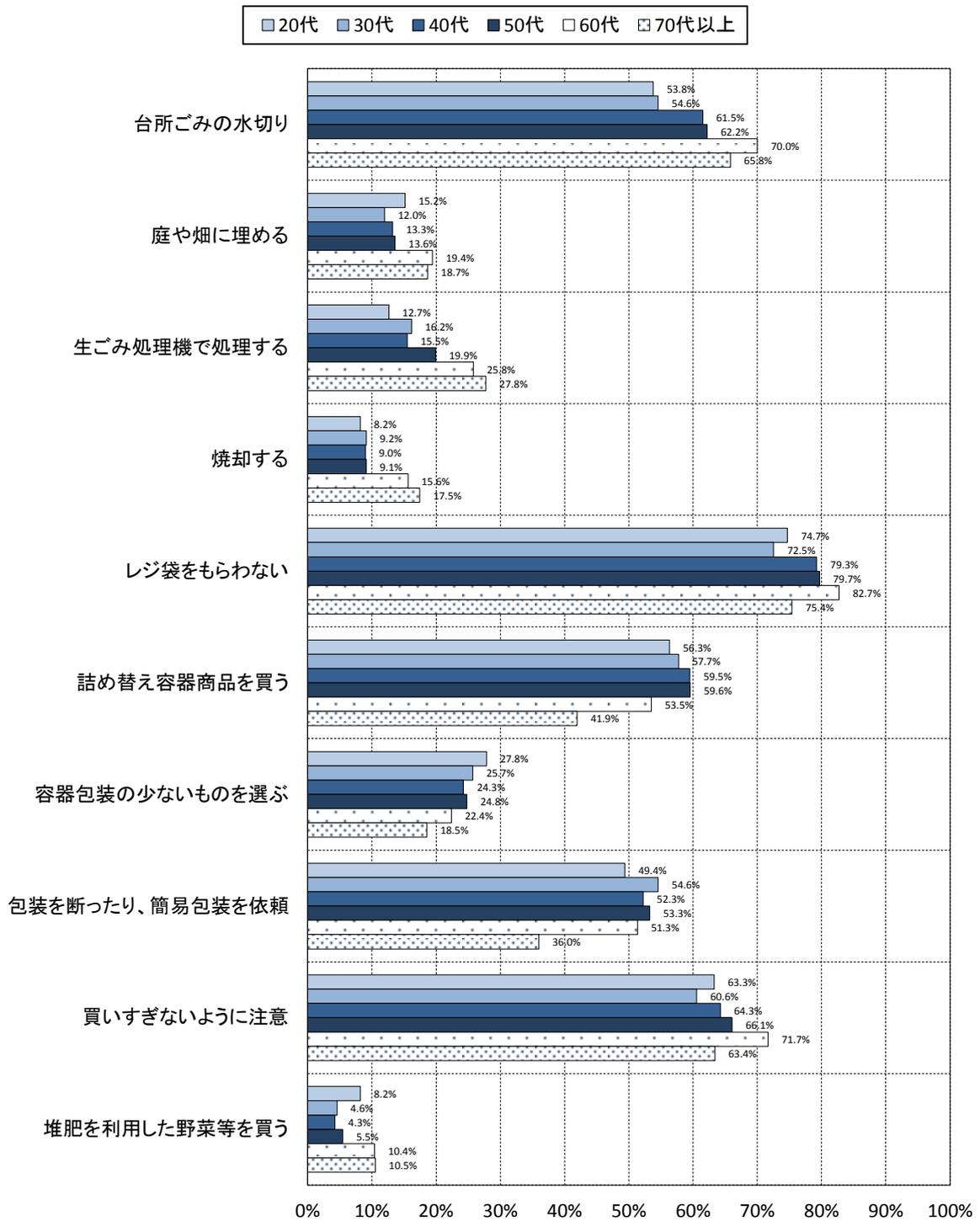


図 5-3-43 (1/2) 「年代別 有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答率

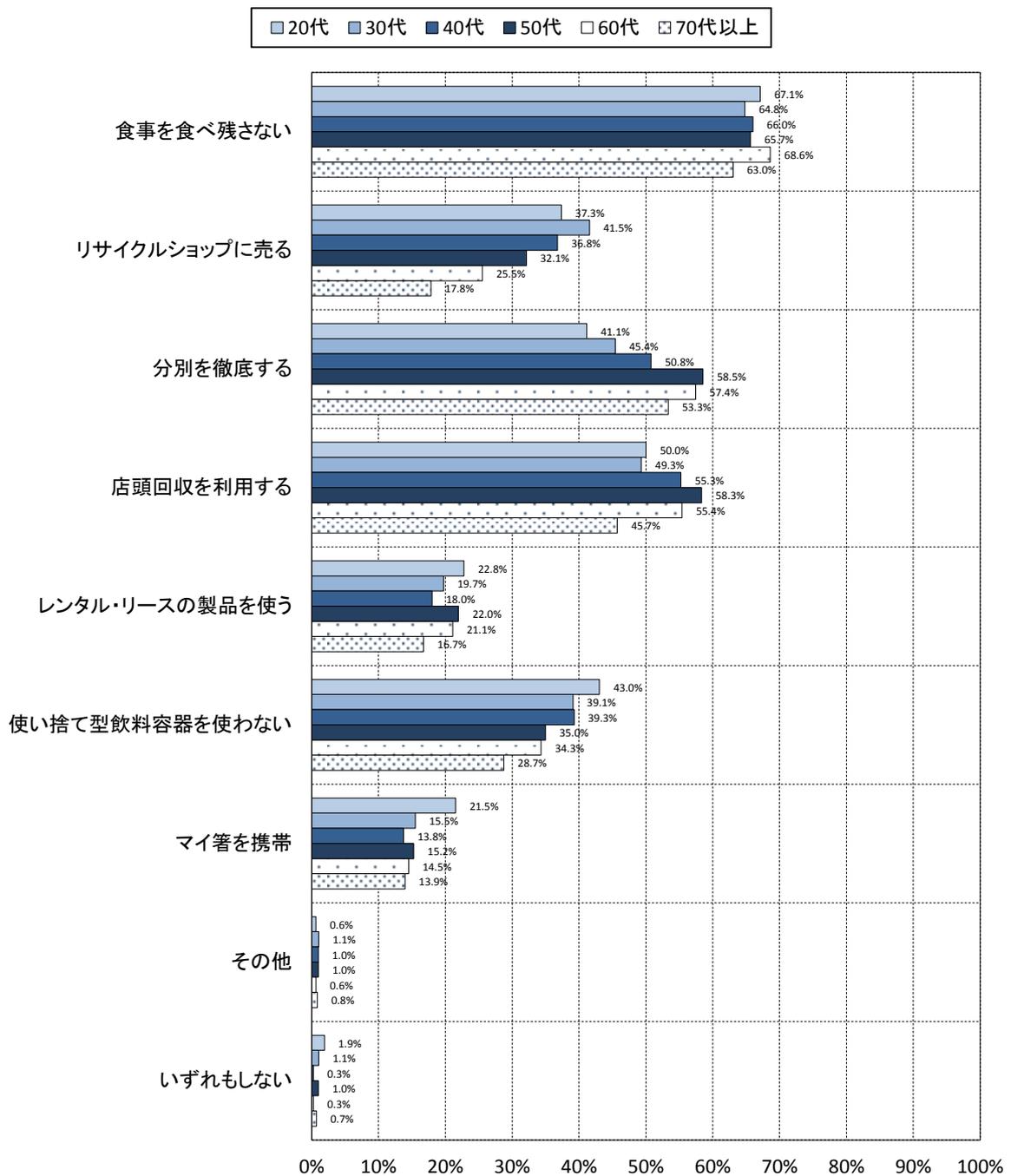


図 5-3-43 (2/2) 「年代別 有料化された場合、どのようにごみを減らすか」回答率

問40	あなたの家の近くに中古の家電製品や家具を扱うお店（リサイクルショップ）ができたと思います。この店がどんな店だったら、あなたは足を運んでみようと思いますか？（〇は3つまで）
-----	---

「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」については、「品質など信頼できる」の回答率が一番高く67%であり、次いで「取り扱っている商品がきれい」の回答が57.2%となっている。

市町別についても同様の傾向であるが、「品質など信頼できる」が62.6%から73.5%と大きな偏りはみられない。また「商品が探しやすい」が7.5%から15.4%と約2倍の開きがある。

年代別についても、全体と同じ傾向であるが、「店舗がきれい、明るい」は年代が若い方が高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	店舗がきれい、明るい	1,118	37.5%
2	取り扱っている商品がきれい	1,704	57.2%
3	商品の品ぞろえがある	1,062	35.6%
4	商品が探しやすい	357	12.0%
5	品質など信頼できる	1,995	67.0%
6	販売金額は安く、買取金額は高め	1,027	34.5%
7	その他	29	1.0%
8	どんな店でも足は運ばないと思う	178	6.0%
総回答数		7,470	250.8%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-3-13 「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」回答状況

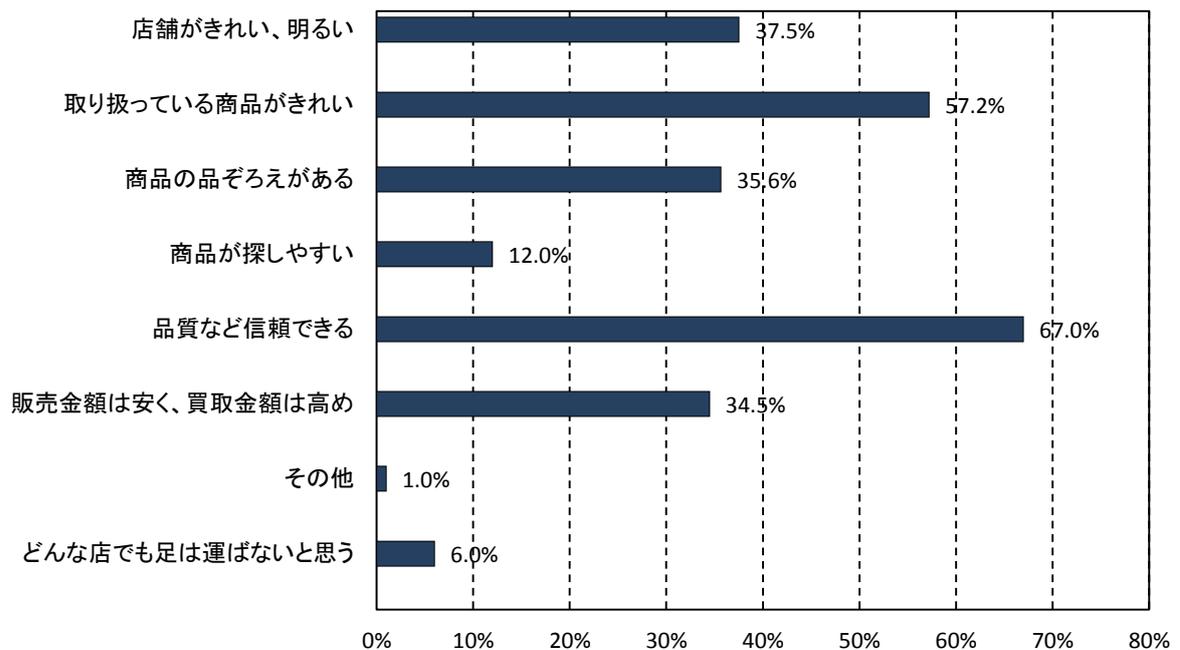


図 5-3-44 「どんなリサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」回答率

② 市町別集計

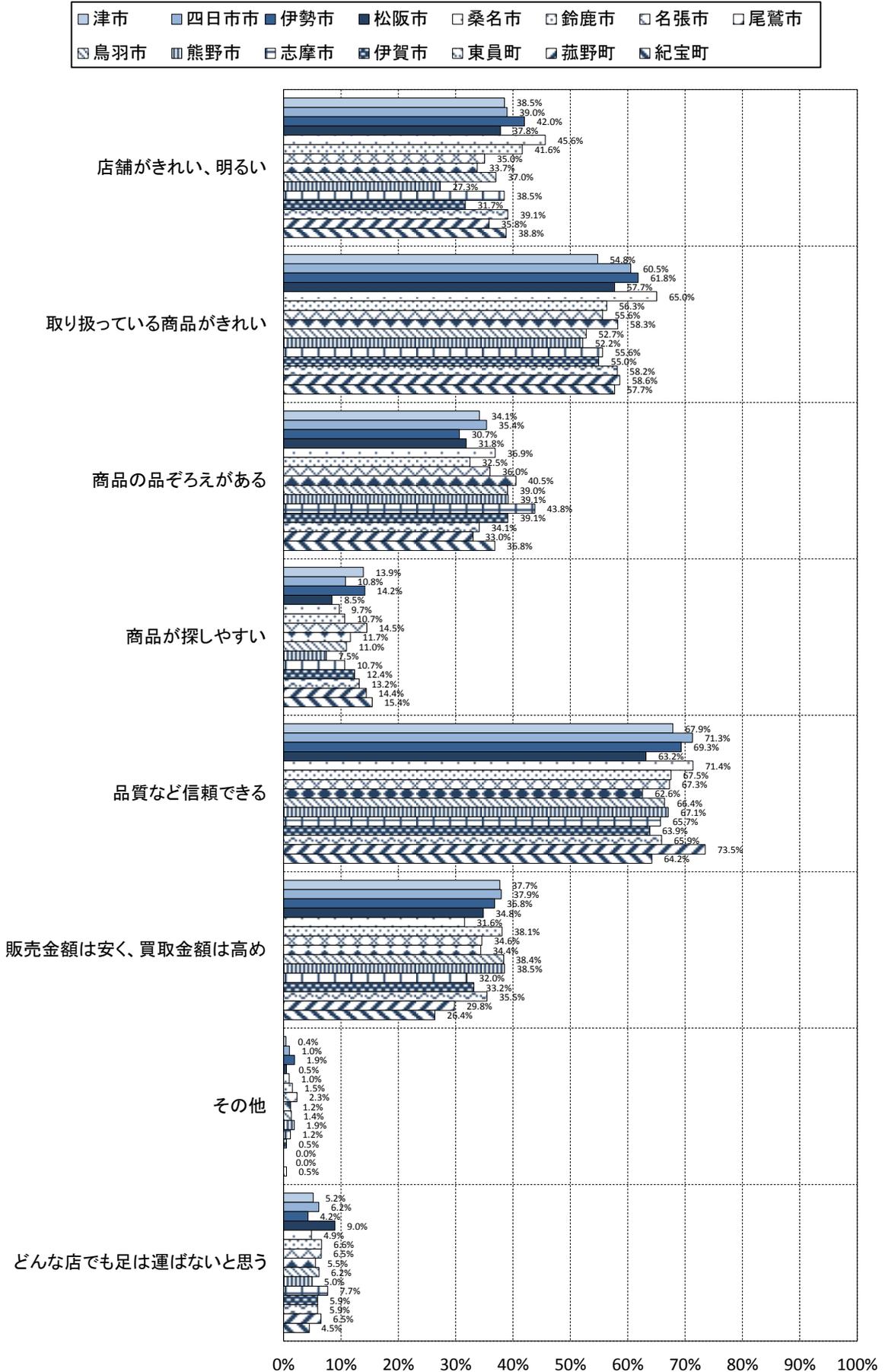


図 5-3-45 「市町別 どんなりサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」回答率

③ 年代別集計

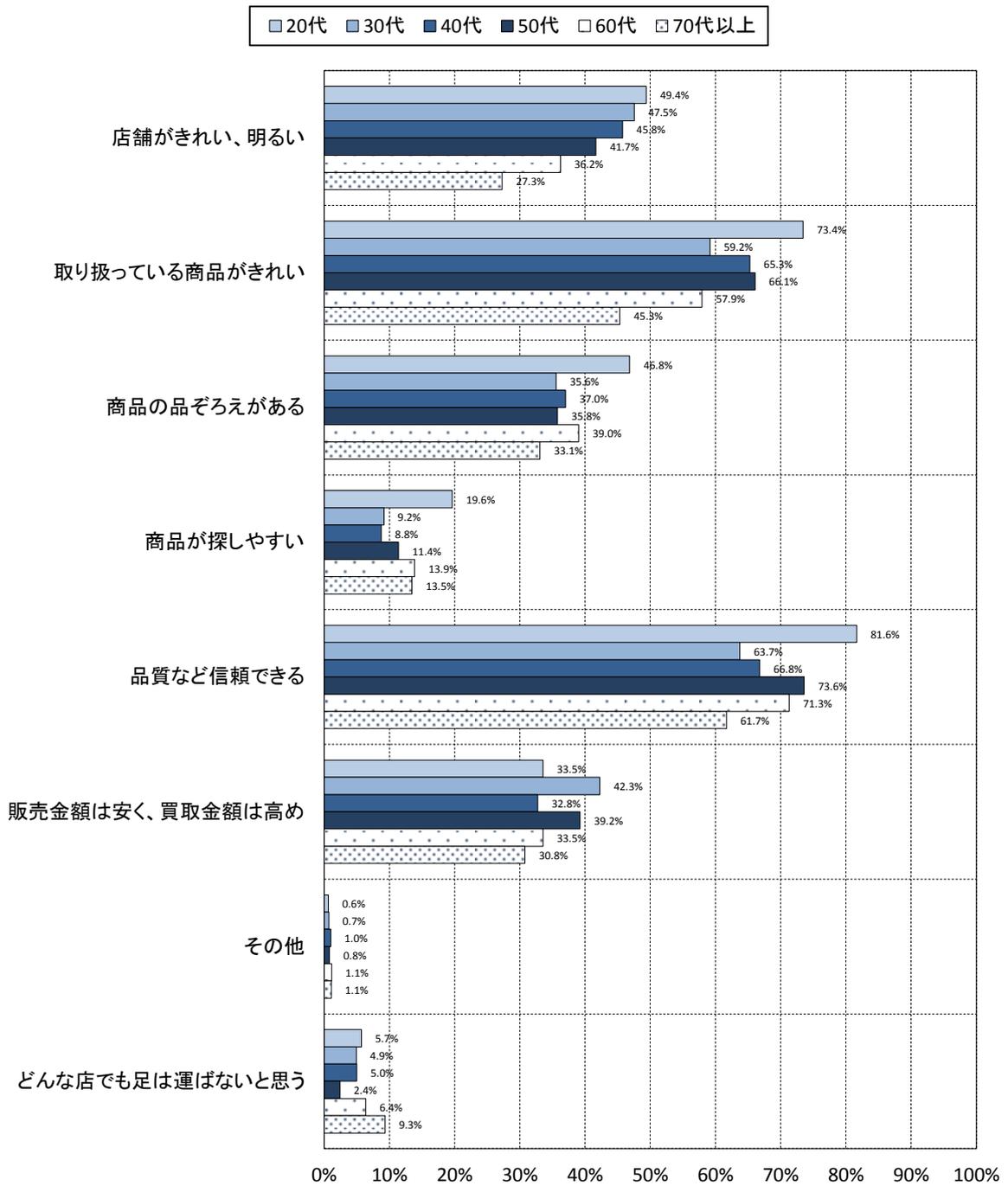


図 5-3-46 「年代別 どんなりサイクルショップなら足を運んでみようと思うか」回答率

問41	あなたのご家庭から出る可燃ごみに限っていえば、努力によりどれだけ減らせると思いますか？（〇は1つ）
-----	---

「可燃ごみはどれだけ減らせるか」については、「10%～30%」の回答率が48.7%と一番高く、次いで「10%未満」が27.1%となっており、これらの計が75.8%となっている。市町別では、上記の計が65%から89.1%であり、尾鷲市は「これ以上減らせない」が16.6%と他市町と比べ高くなっている。年代別では、上記の計が64.7%から84.8%であり、「70代以上」が低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	10%未満	806	27.1%
2	10%～30%	1,452	48.7%
3	30%～50%	281	9.4%
4	50%～80%	62	2.1%
5	80%以上	16	0.5%
6	これ以上は減らせない	238	8.0%
99	無回答	124	4.2%
有効回答数		2,979	100.0%

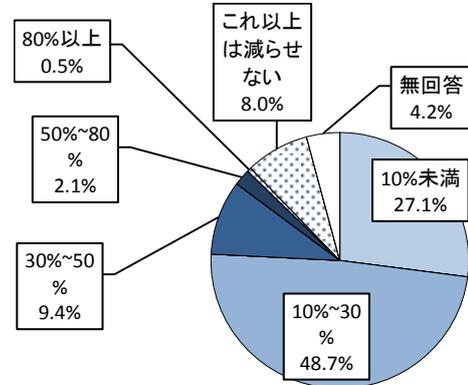


表 5-3-14 「可燃ごみはどれだけ減らせるか」
回答状況

図 5-3-31 「ごみの有料化について」回答率

② 市町別集計

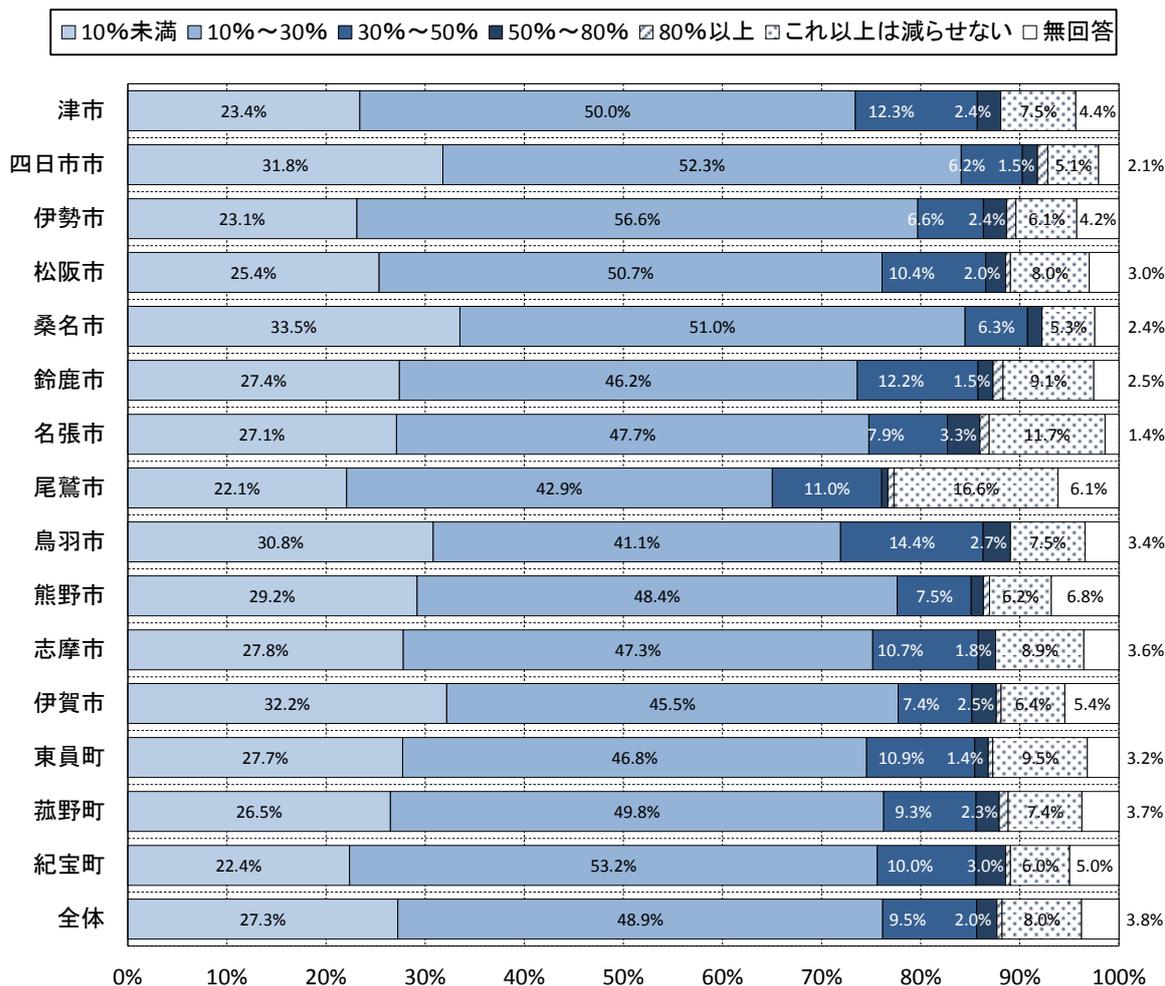


図 5-3-48 「市町別 可燃ごみはどれだけ減らせるか」回答率

③ 年別集計

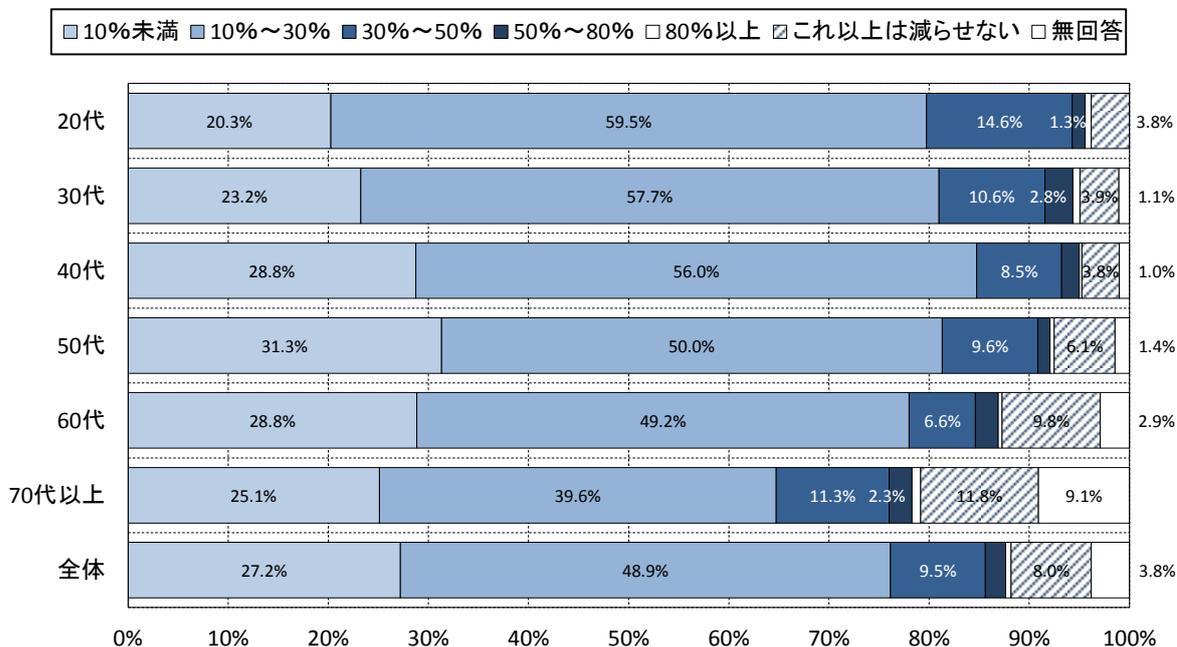


図 5-3-49 「年代別 可燃ごみはどれだけ減らせるか」回答率

5-4 「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画について

問42	ごみ処理のあり方や具体的にごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きます。(〇は1つずつ)
-----	--

(1) 計画づくりには、できるだけ多く住民が参画することが必要だと思いますか？

「計画づくりには、多くの住民が参画することが必要か」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が78.5%となっている。
 市町別では、上記の計が74.1%から84.7%であり、大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が75.6%から85.1%であり、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,109	37.2%
2	少しそう思う	1,230	41.3%
3	あまりそうは思わない	497	16.7%
4	まったくそうは思わない	43	1.4%
99	無回答	100	3.4%
有効回答数		2,979	100.0%

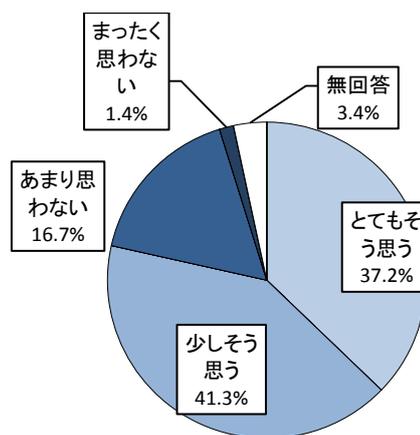


表 5-4-1 「多くの住民が参画することが必要か」回答状況

図 5-4-1 「多くの住民が参画することが必要か」回答率

② 市町別集計

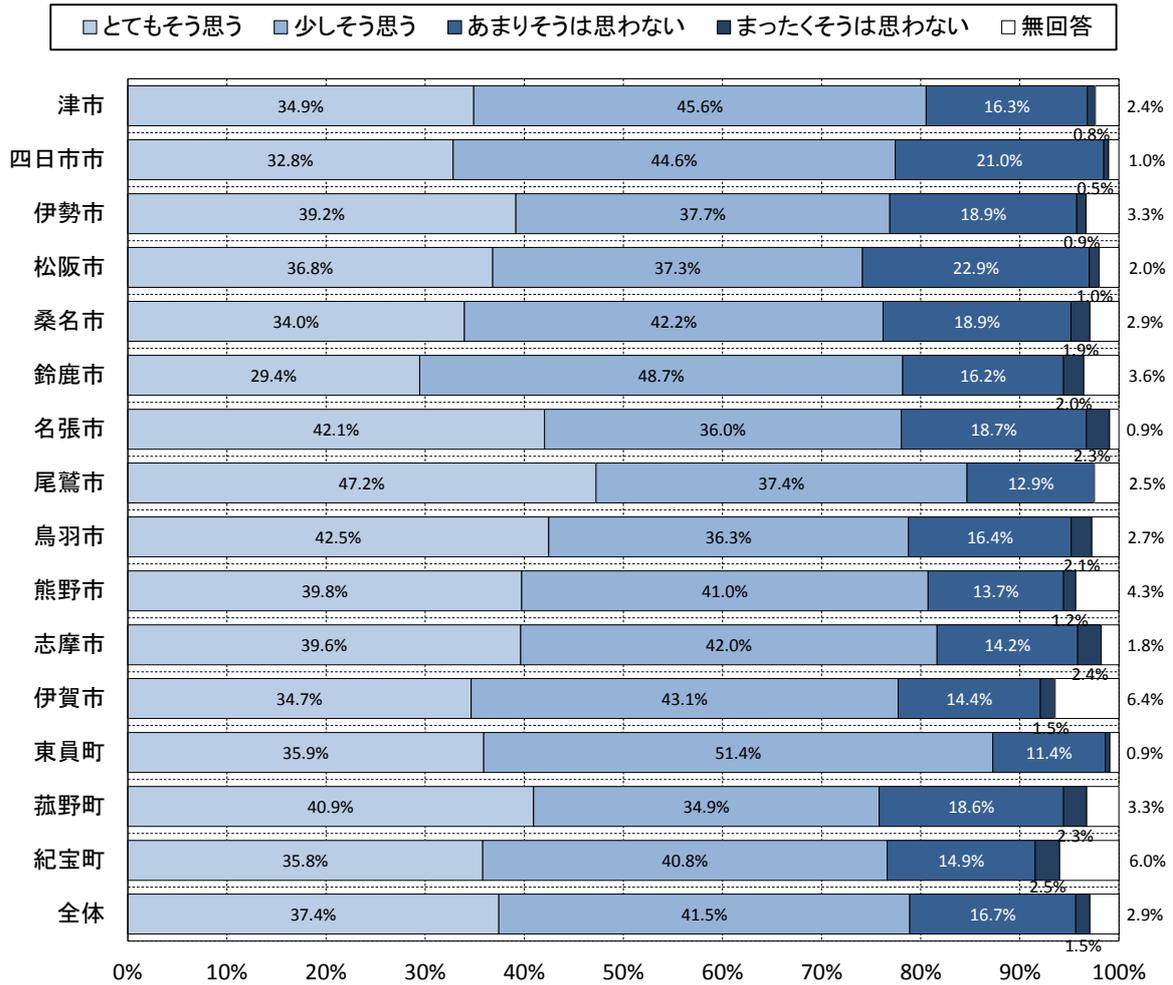


図 5-4-2 「市町別 多くの住民が参画することが必要か」回答率

③ 年代別集計

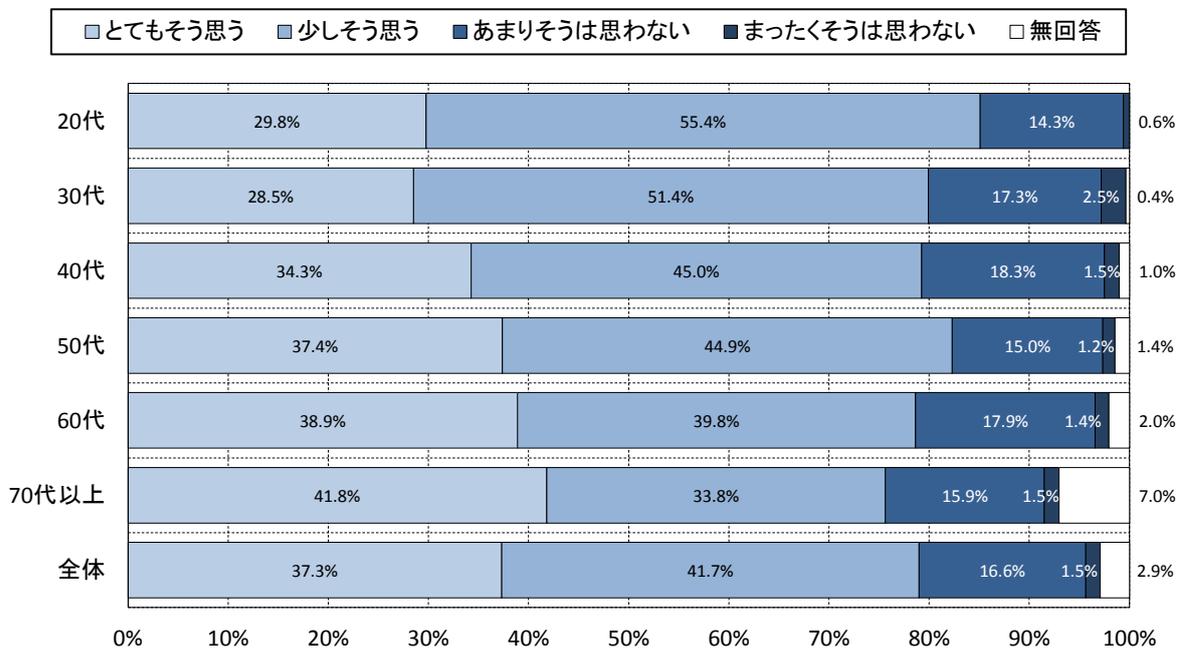


図 5-4-3 「年代別 多くの住民が参画することが必要か」回答率

(2) 計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？

「住民参画すれば要望等を反映できるか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が77.9%となっている。
 市町別では、上記の計が73.8%から84.1%であり、大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が76.4%から80.7%であり、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	708	23.8%
2	少しそう思う	1,611	54.1%
3	あまりそうは思わない	487	16.3%
4	まったくそうは思わない	75	2.5%
99	無回答	98	3.3%
有効回答数		2,979	100.0%

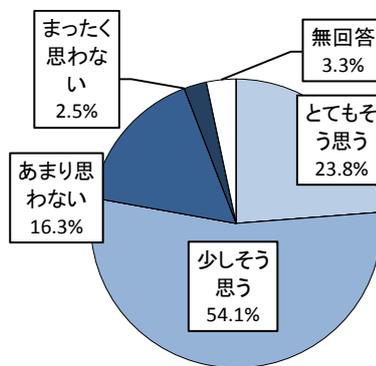


表 5-4-1 「住民参画すれば要望等を反映できるか」回答状況

図 5-4-4 「住民参画すれば要望等を反映できるか」回答率

② 市町別集計

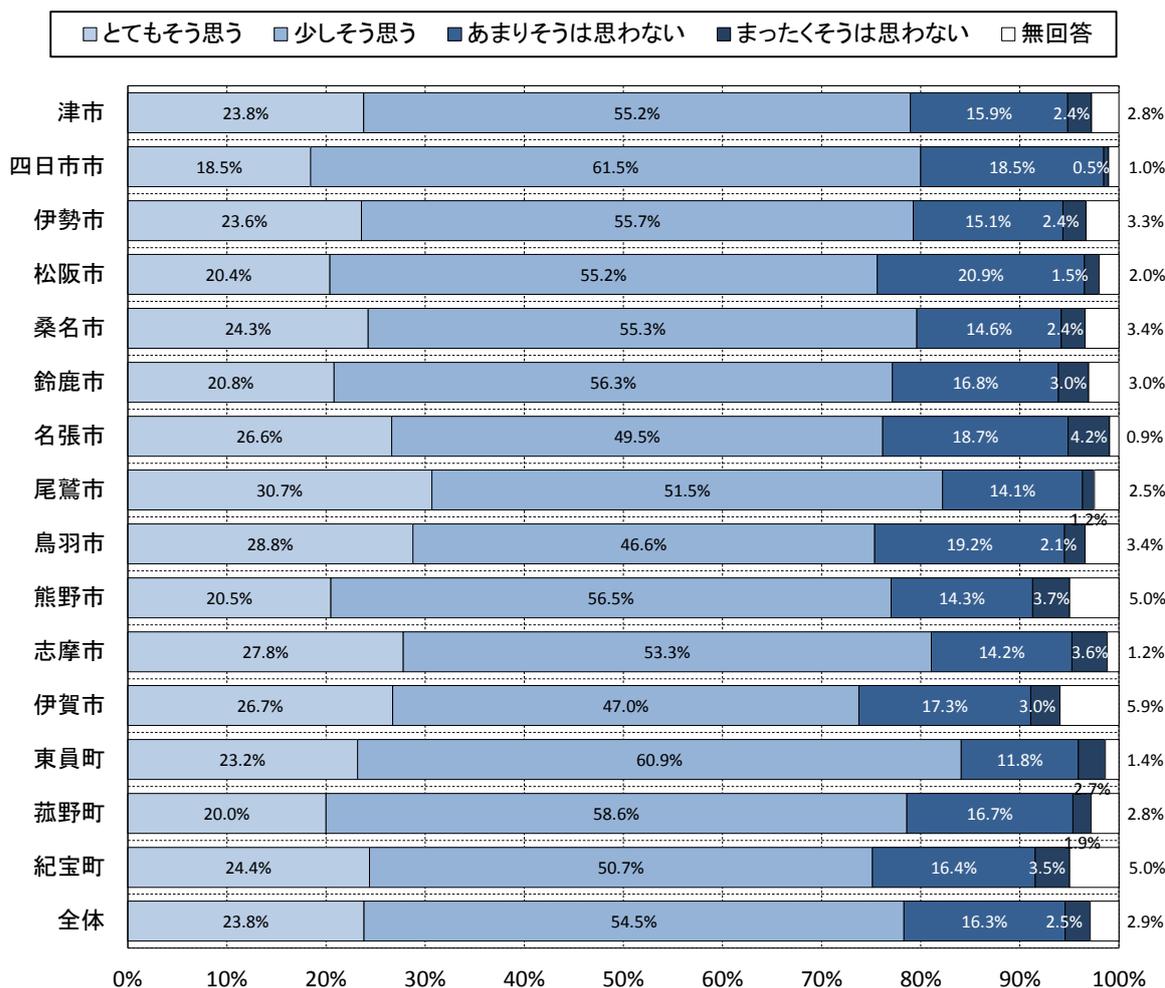


図 5-4-5 「市町別 住民参画すれば要望等を反映できるか」回答率

③ 年代別集計

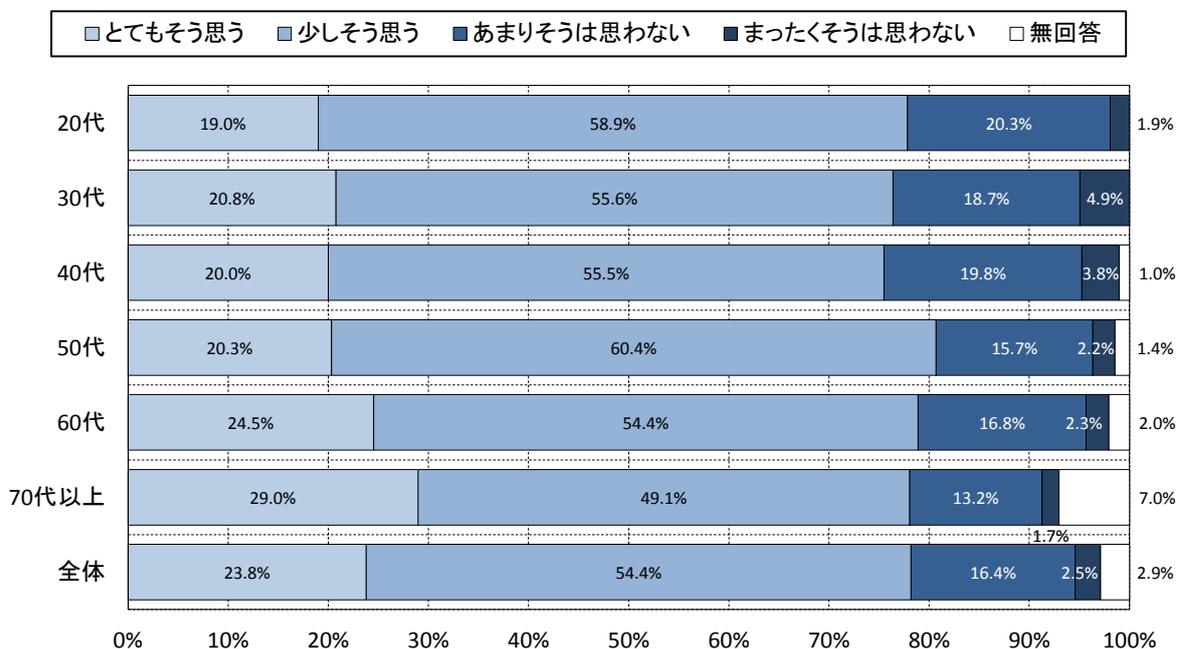


図 5-4-6 「年代別 住民参画すれば要望等を反映できるか」回答率

(3) 計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？

「計画は市町が主体的につくる方がよいか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が75.7%となっている。
 市町別では、上記の計が70.2%から83.1%で大きな偏りはみられない。「四日市市」(83.1%)及び「菰野町」(82.3%)、「鈴鹿市」(82.2%)では80%を超えている。
 年代別では、上記の計が74.6%から77.9%であり、「とてもそう思う」は「70代以上」が高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	838	28.1%
2	少しそう思う	1,419	47.6%
3	あまりそうは思わない	517	17.4%
4	まったくそうは思わない	90	3.0%
99	無回答	115	3.9%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-4-2 「計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答状況

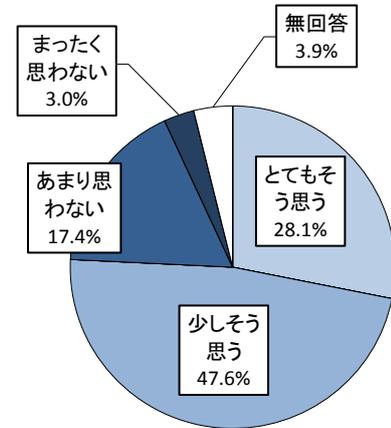


図 5-4-7 「計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答率

② 市町別集計

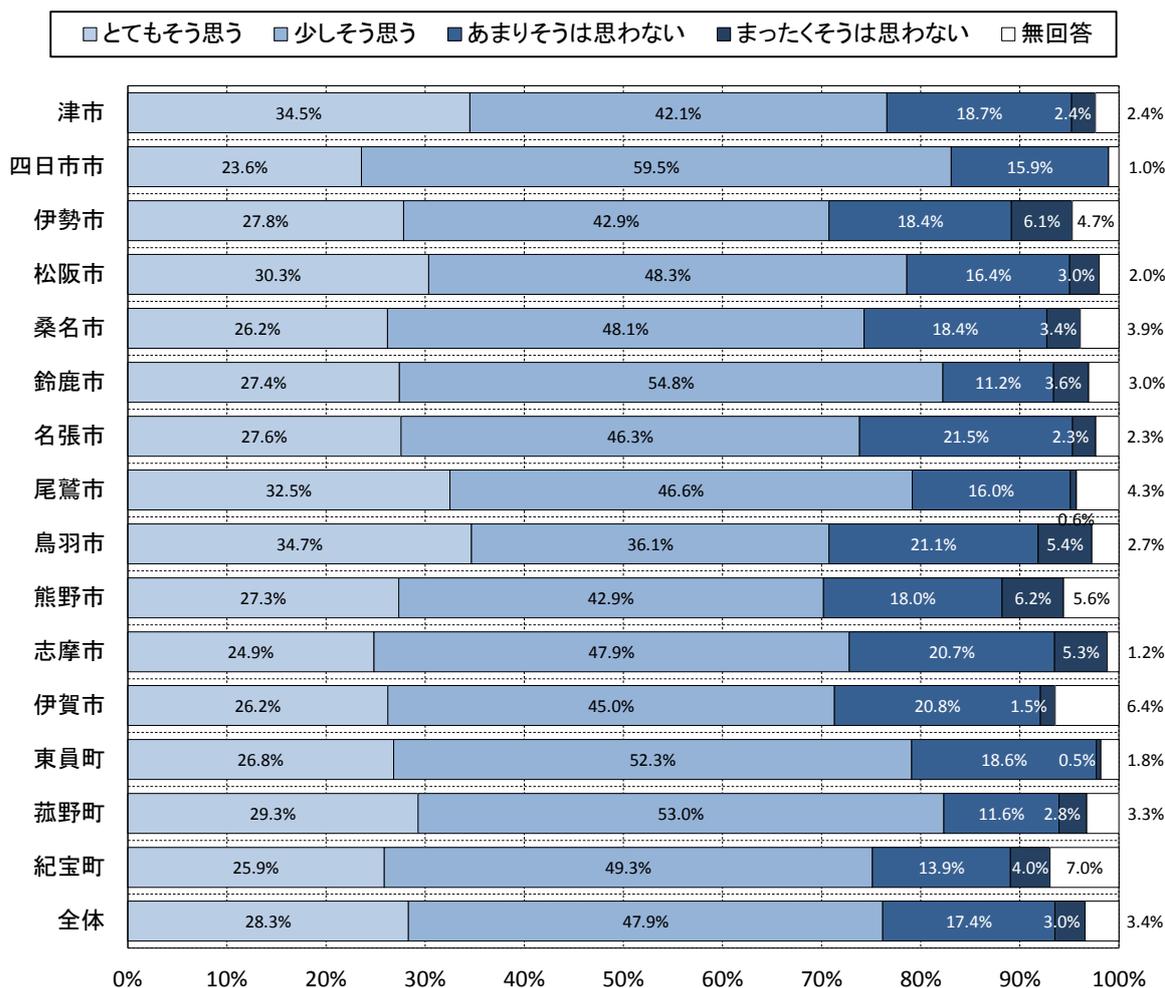


図 5-4-8 「市町別 計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答率

③ 年代別集計

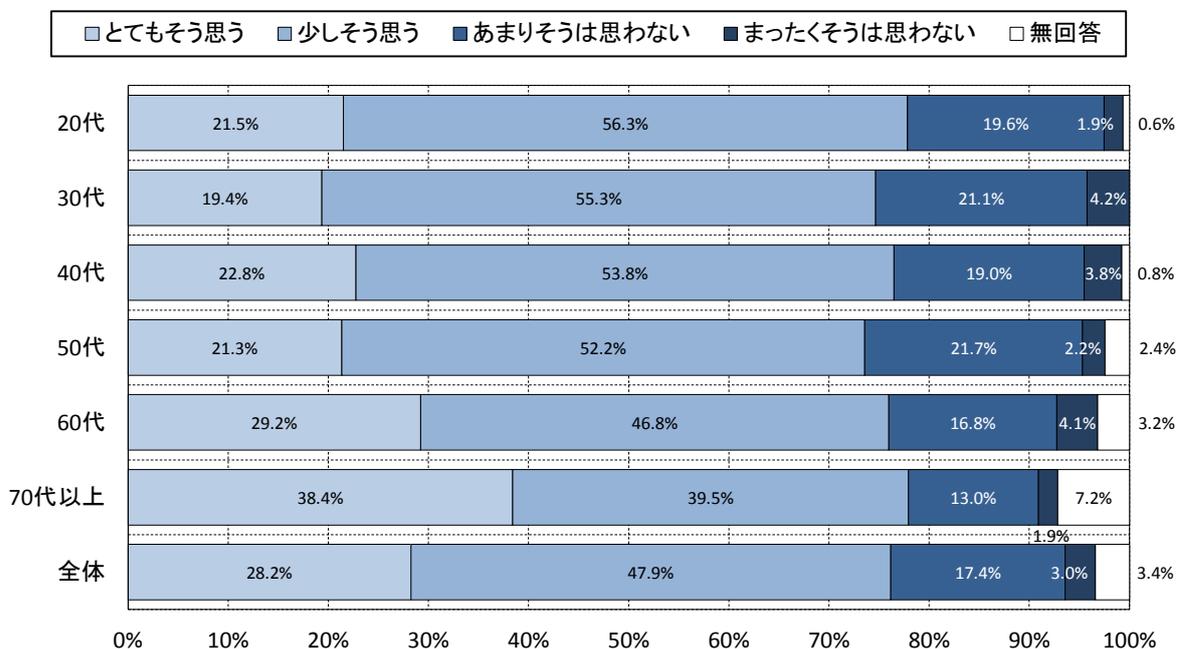


図 5-4-9 「市町別 計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答率

(4) あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？

「計画づくりに参画することで様々な情報を入手できると思うか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が71.8%となっている。
 市町別では、上記の計が64.6%から76.3%であり、大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が68.1%から75%であり、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	442	14.8%
2	少しそう思う	1,697	57.0%
3	あまりそうは思わない	627	21.0%
4	まったくそうは思わない	90	3.0%
99	無回答	123	4.2%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-4-4 「様々な情報を入手できると思うか」
回答状況

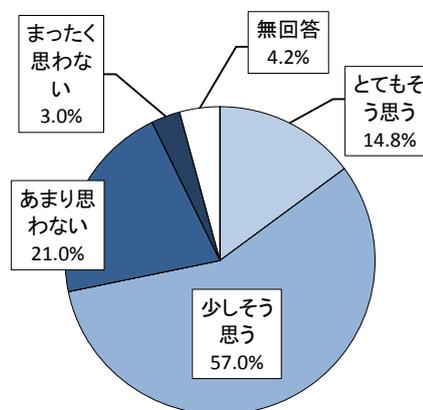


図 5-4-10 「様々な情報を入手できると思うか」回答率

② 市町別集計

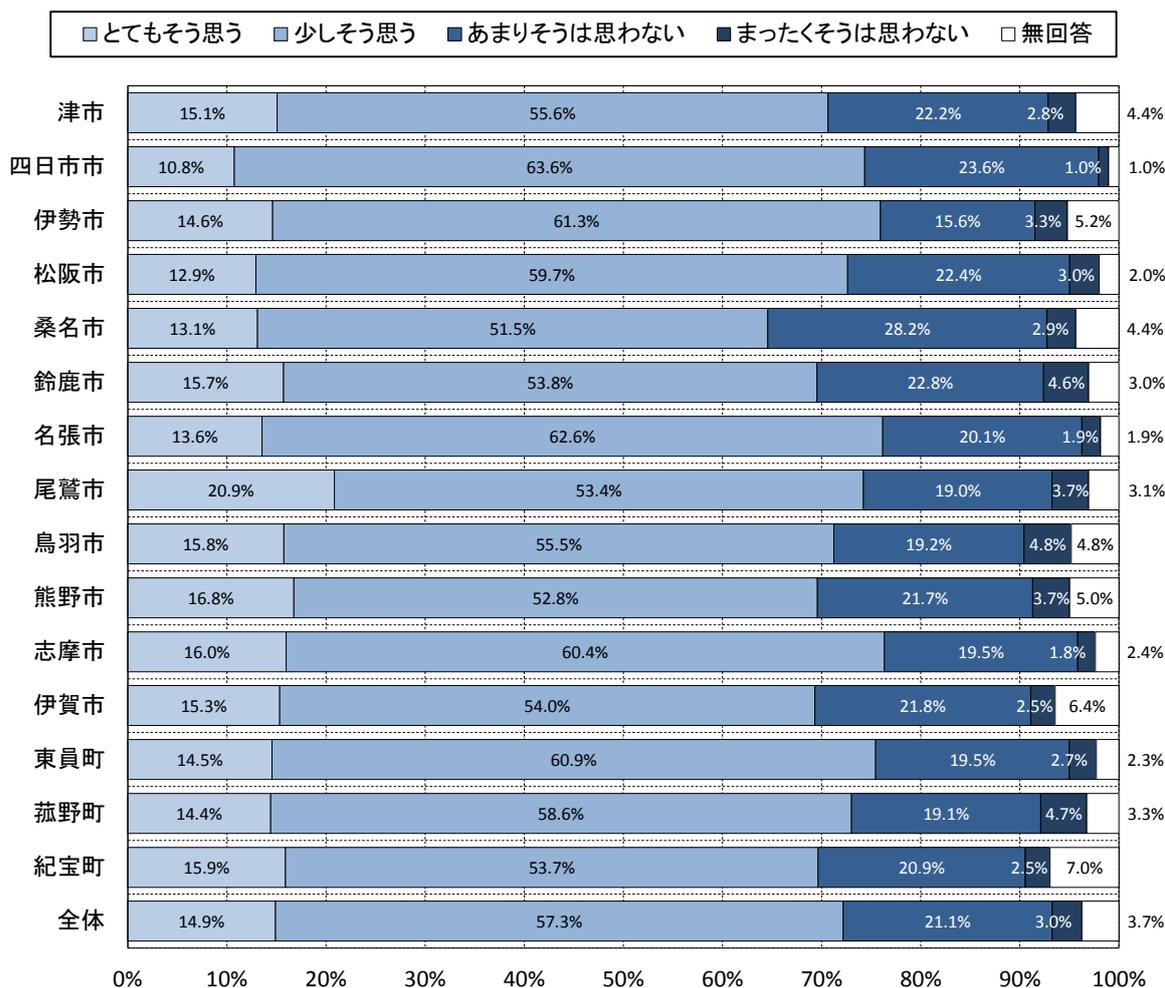


図 5-4-8 「市町別 計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答率

③ 年代別集計

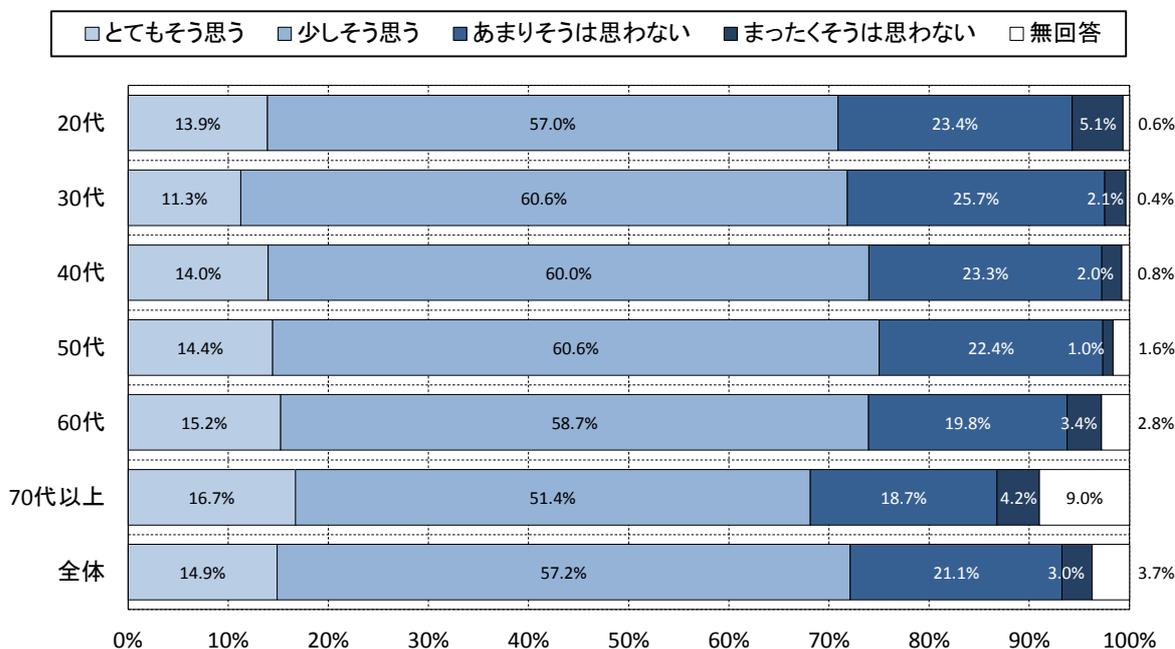


図 5-4-9 「市町別 計画は市町が主体的につくる方がよいか」回答率

(5) あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？

「計画づくりへの参加は時間や手間がかかり大変だと思うか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が86.4%となっている。
市町別では、上記の計が80.8%から91.8%であり、大きな偏りはみられない。
年代別では、上記の計が78.3%から94%であり、大きな偏りはみられない。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	851	28.6%
2	少しそう思う	1,722	57.8%
3	あまりそうは思わない	258	8.7%
4	まったくそうは思わない	38	1.3%
99	無回答	110	3.6%
有効回答数		2,979	100.0%

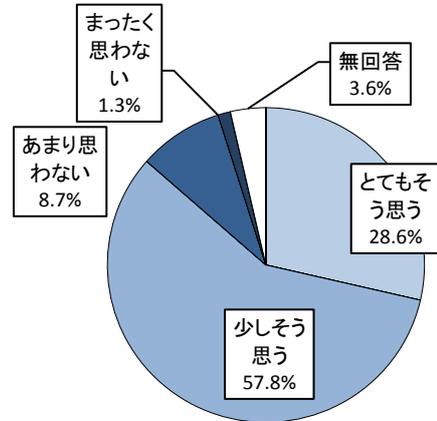


表 5-4-5 「時間や手間がかかり大変だと思うか」回答状況

図 5-4-13 「時間や手間がかかり大変だと思うか」回答率

② 市町別集計

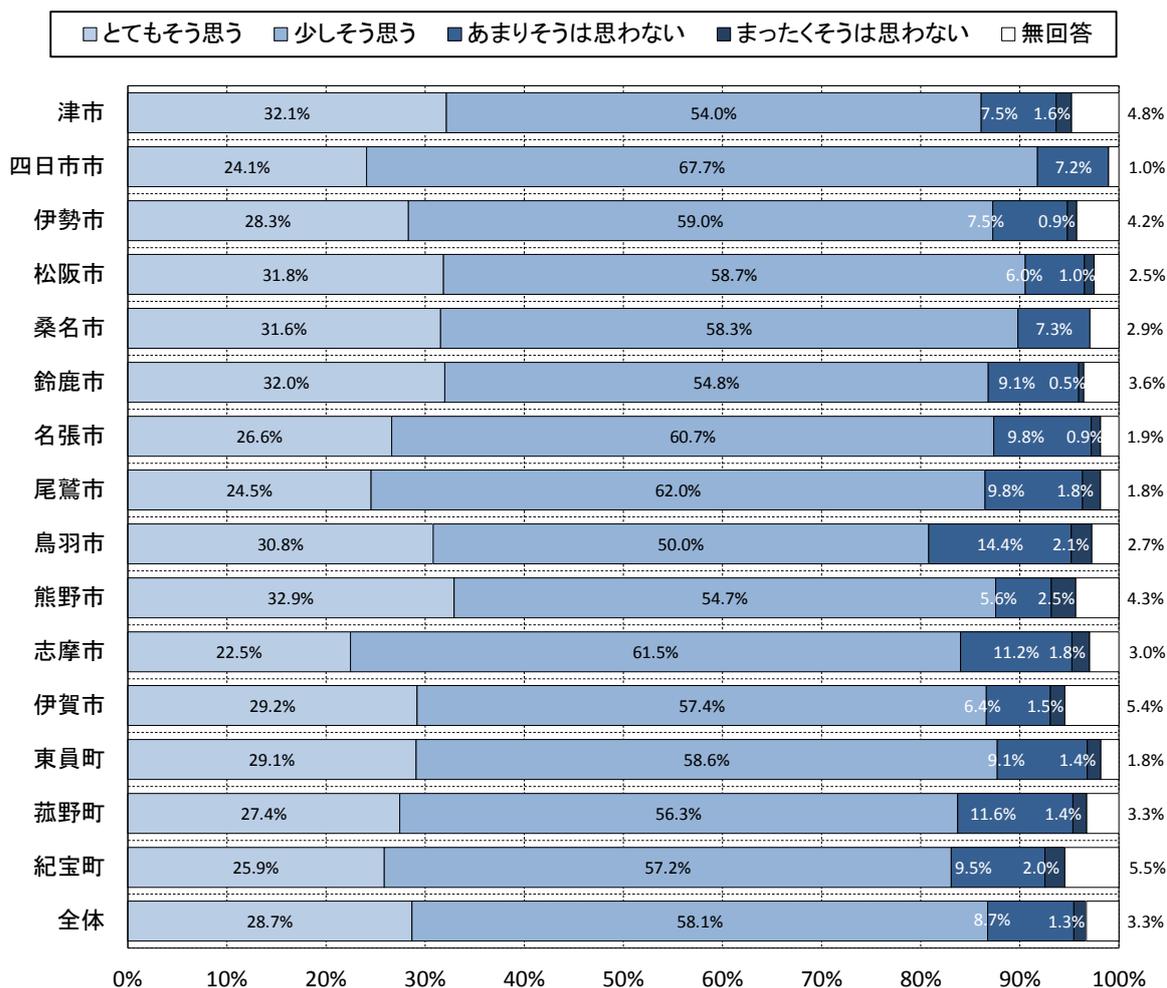


図 5-4-14 「市町別 時間や手間がかかり大変だと思うか」

③ 年代別集計

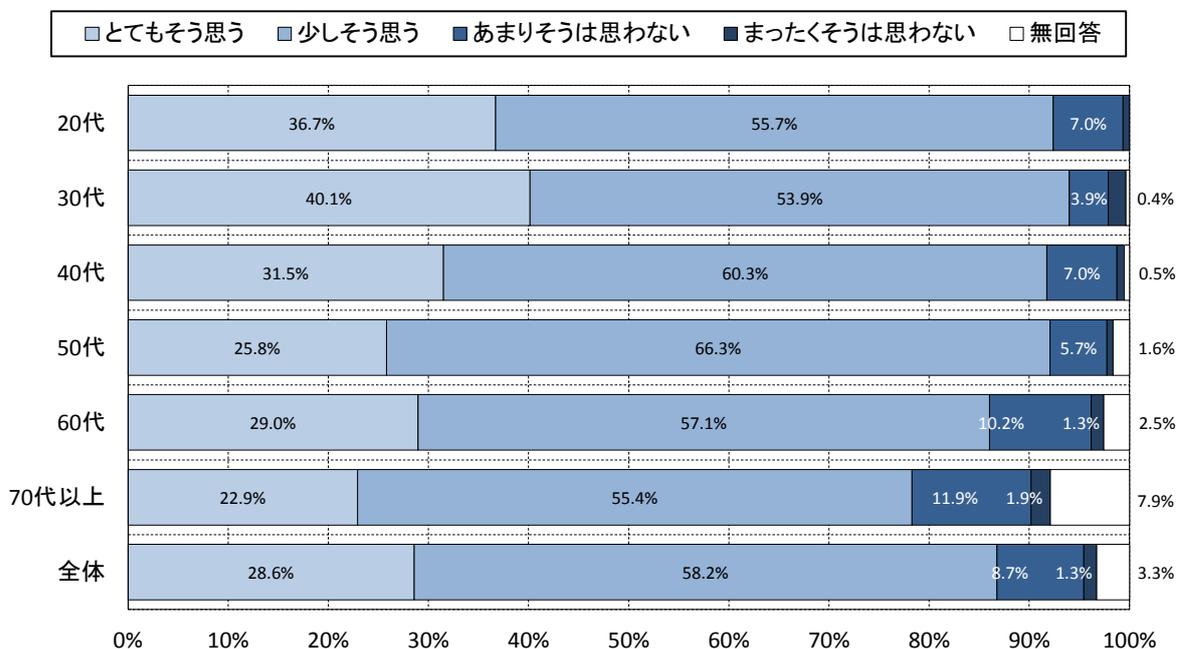


図 5-4-14 「年代別 時間や手間がかかり大変だと思うか」

(6) 今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？

「住民参画の機会があれば、参画したいか」については、「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計が48.9%となっている。
 市町別では、上記の計が41.8%から55.8%であり、大きな偏りはみられない。
 性別では、上記の計が49.1%から49.3%であり、大きな偏りはみられない。
 年代別では、上記の計が38%から52.4%であり、年代により差があり、「30代」が最も低く、「60代」が最も高くなっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	とてもそう思う	153	5.1%
2	少しそう思う	1,306	43.8%
3	あまりそうは思わない	1,108	37.2%
4	まったくそうは思わない	282	9.5%
99	無回答	130	4.4%
有効回答数		2,979	100.0%

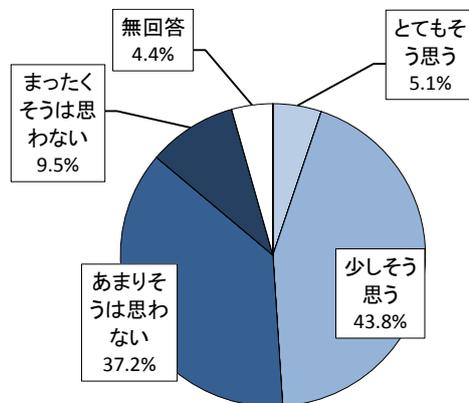


表 5-4-6 「住民参画の機会があれば、参画したいか」回答状況

図 5-4-16 「住民参画の機会があれば、参画したいか」回答率

② 市町別集計

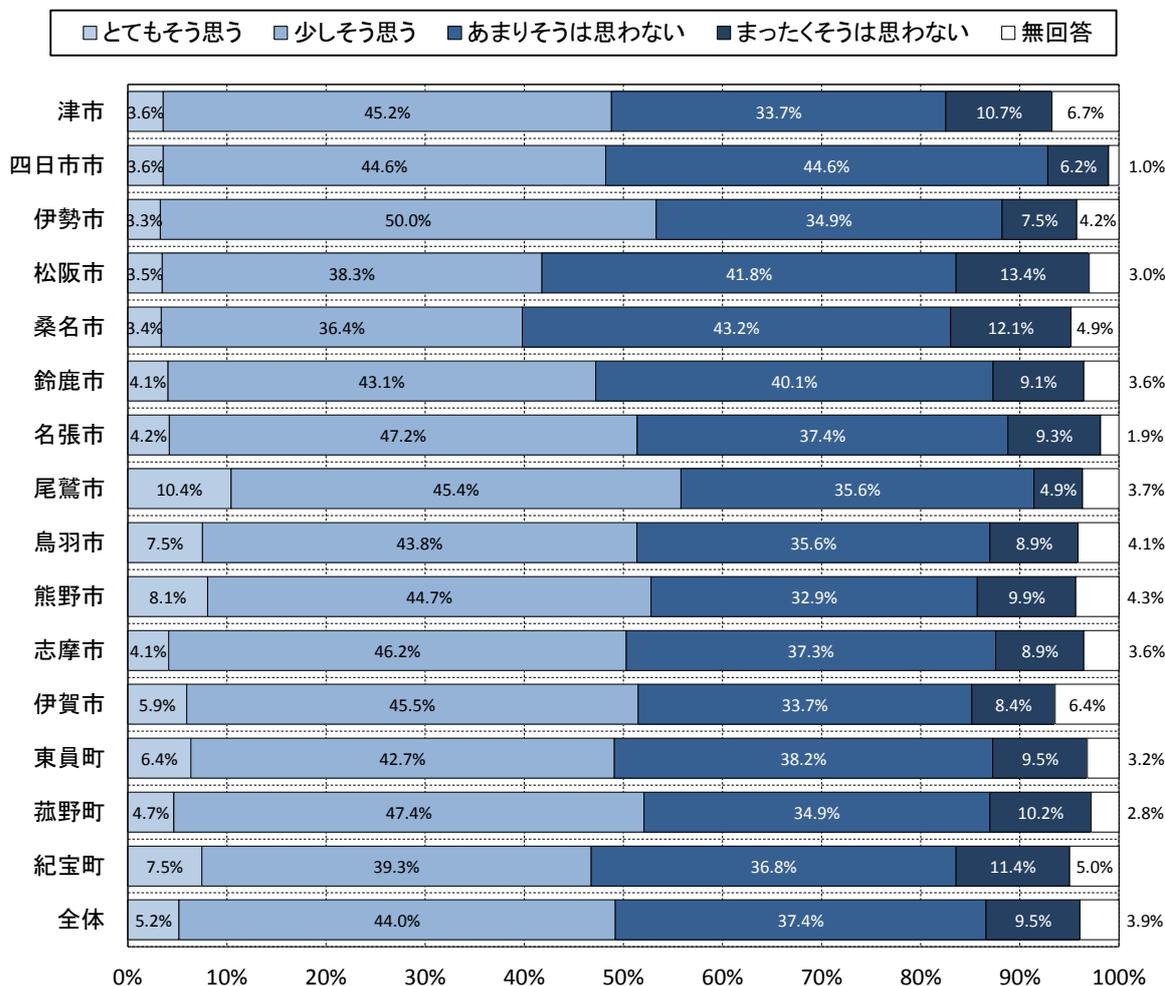


図 5-4-17 「市町別 住民参画の機会があれば、参画したいか」回答率

③ 性別集計

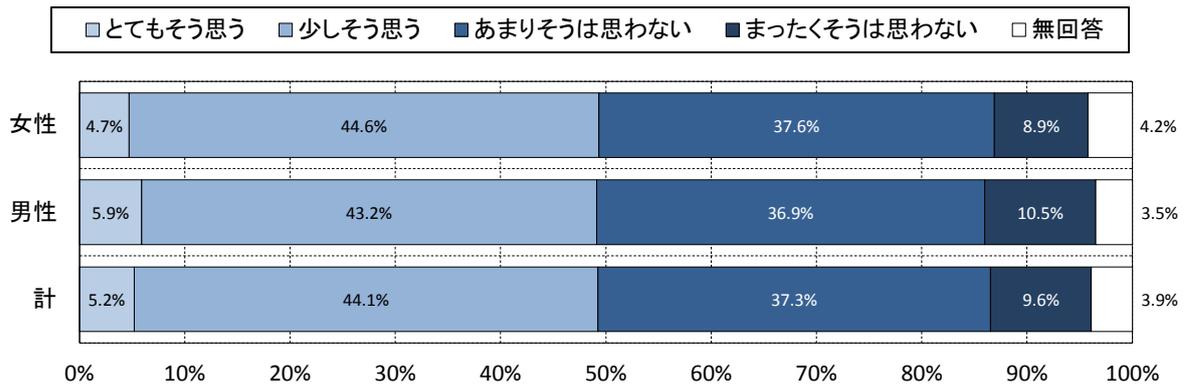


図 5-4-18 「性別 住民参画の機会があれば、参画したいか」回答率

④ 年代別集計

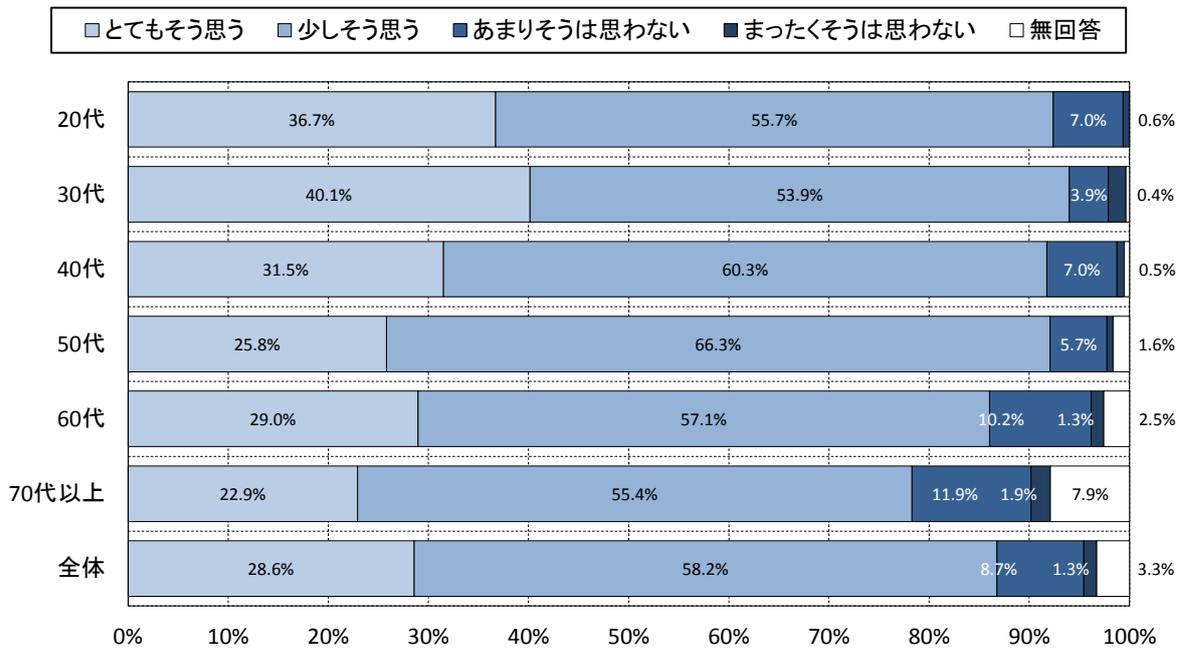


図 5-4-19 「年代別 住民参画の機会があれば、参画したいか」回答率

5-5 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」について

問43 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」をご存知ですか？（○は1つ）

「ごみゼロ社会実現プランを知っているか」については、「知らない」が59.1%を占め、次いで「名前は聞いたことがある」が33.9%となっている。
市町別については、「知っている」と「名前は聞いたことがある」の計が30.1%から48.1%であり、市町によって少し幅がある。
年代別については、上記の計が「70代以上」（41.3%）で高い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	知っている	135	4.5%
2	名前は聞いたことがある	1,009	33.9%
3	知らない	1,762	59.1%
99	無回答	73	2.5%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-5-1 「プランを知っているか」回答状況

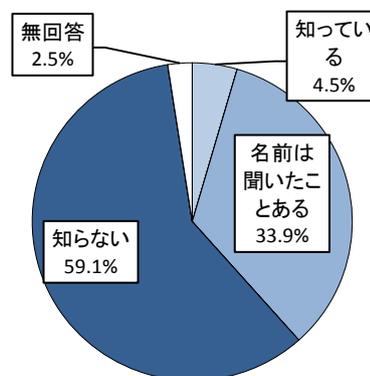


図 5-5-1 「プランを知っているか」回答率

② 市町別集計

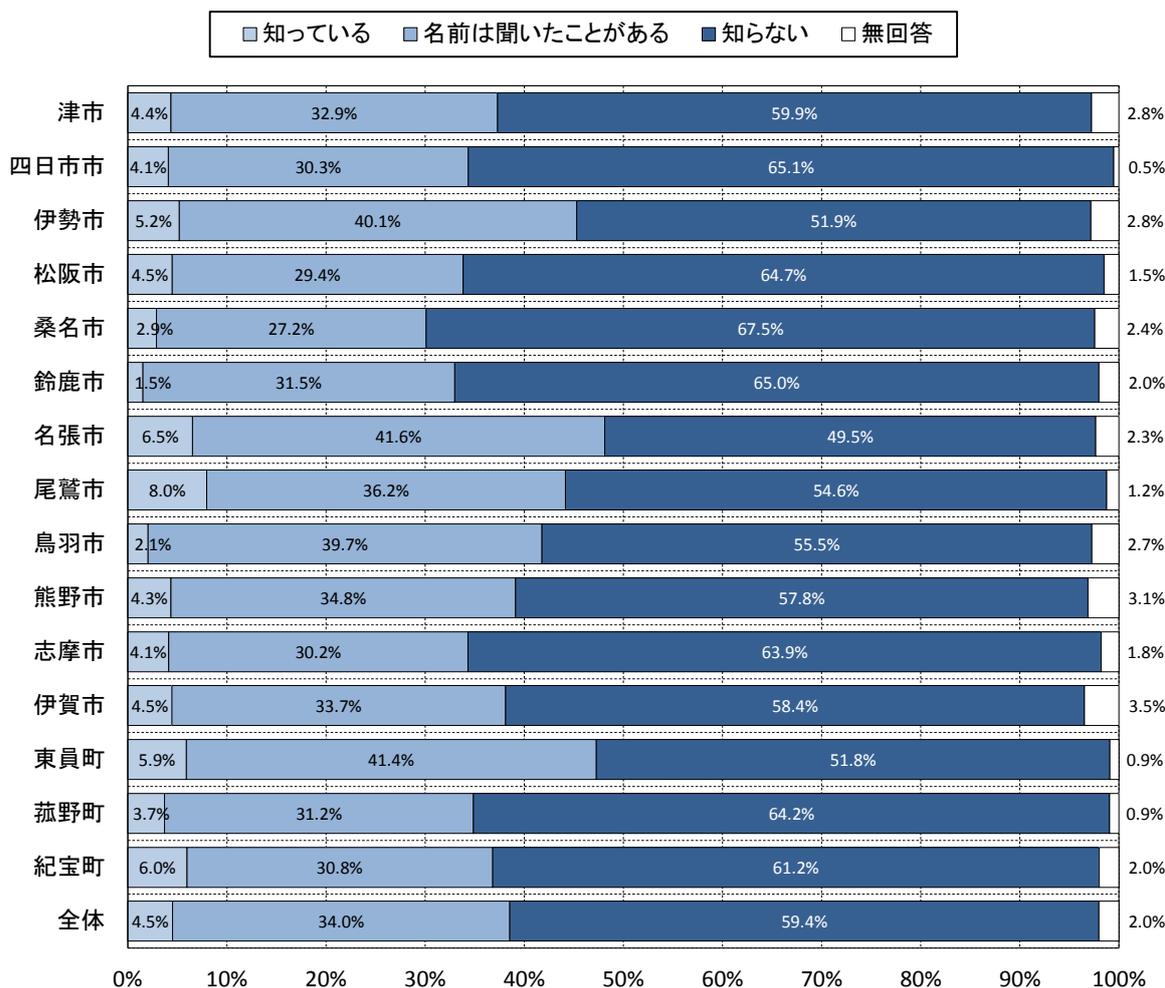


図 5-5-2 「市町別 プランを知っているか」回答率

③ 年代別集計

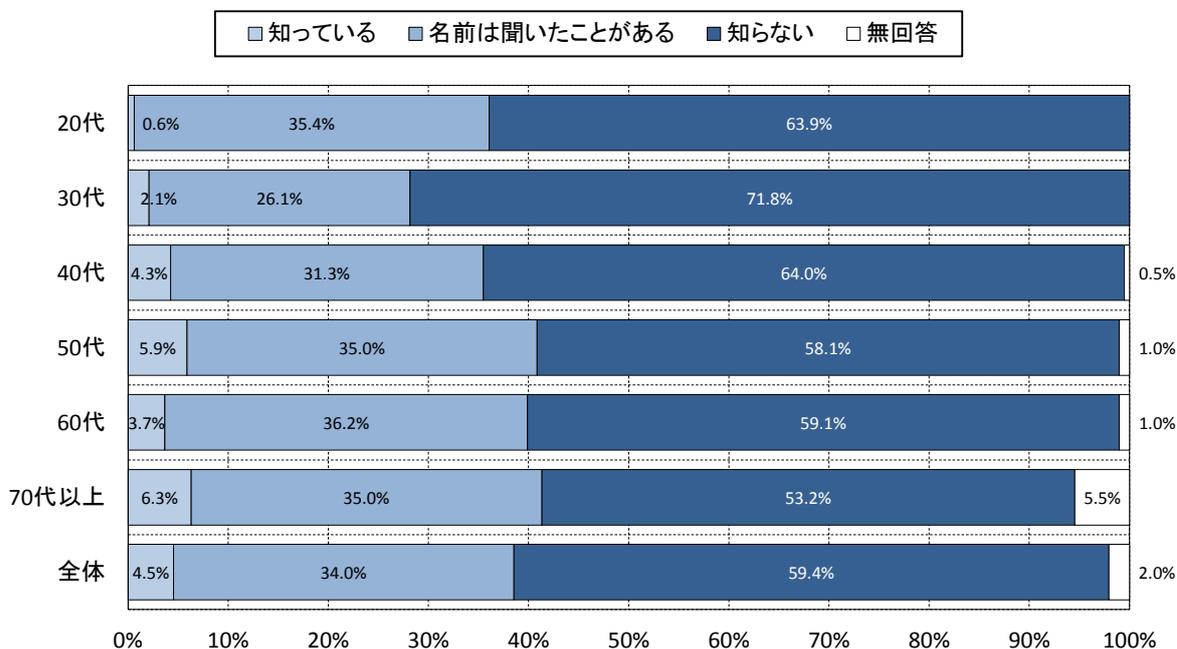


図 5-5-2 「年代別 プランを知っているか」回答率

問44 三重県のごみゼロキャラクター『ゼロ吉』をご存知ですか？（〇は1つ）

「三重県のごみゼロキャラクター『ゼロ吉』を知っているか』については、「知らない」が80.8%を占め、次いで「見たことはあるが、三重県のごみゼロキャラクターであることは知らなかった」が12.5%となっている。
 市町別については、大きな偏りはみられない。
 年代別については、「知らない」が「70代以上」で73.9%と一番低い。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	知っている	124	4.2%
2	見たことはあるが、三重県のごみゼロキャラクターであることは知らなかった	371	12.5%
3	知らない	2,407	80.8%
99	無回答	77	2.5%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-5-2 「『ゼロ吉』を知っているか」回答状況

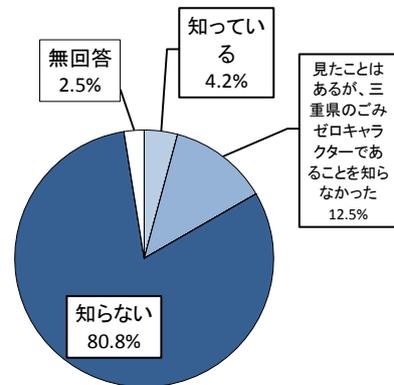


図 5-5-4 「『ゼロ吉』を知っているか」回答率



三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」

② 市町別集計

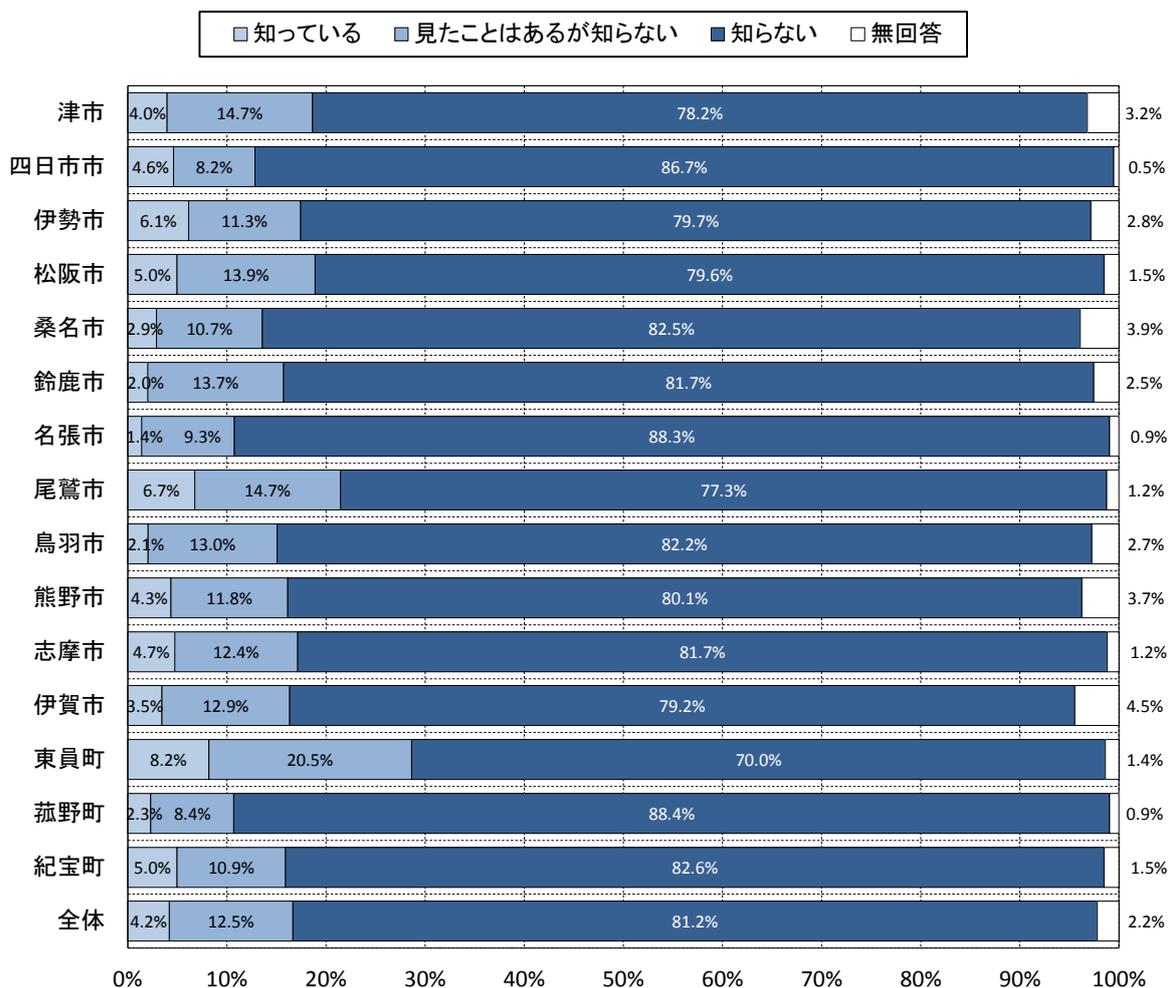


図 5-5-5 「市町別 『ゼロ吉』を知っているか」回答率

③ 年代別集計

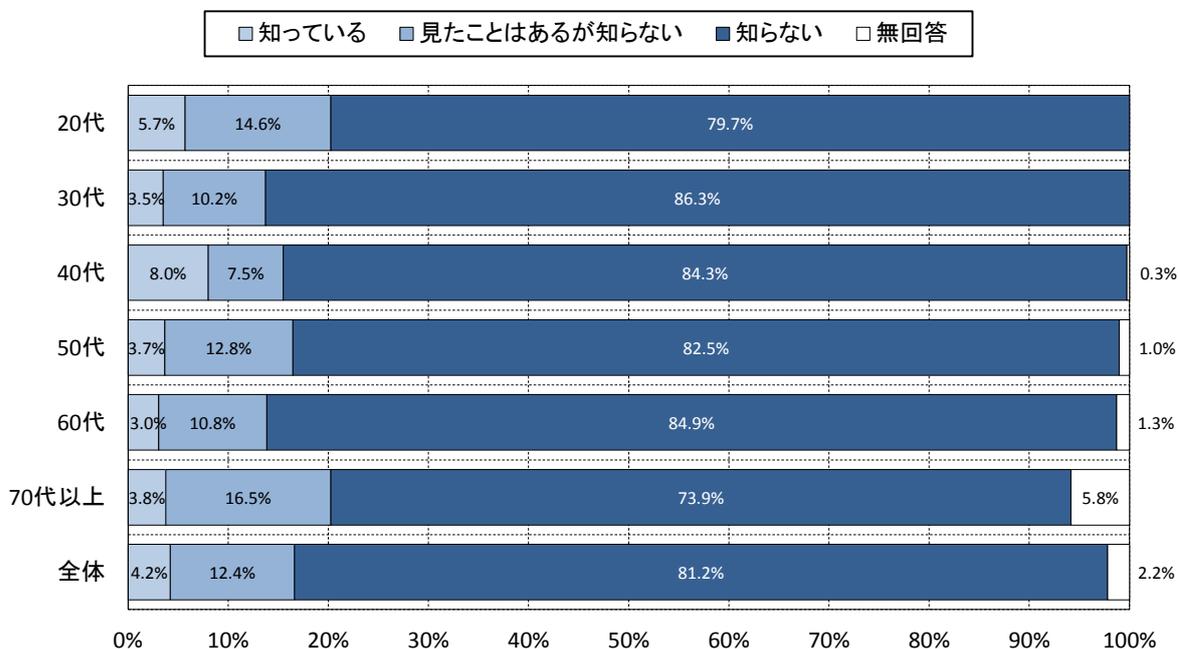


図 5-5-5 「年代別 『ゼロ吉』を知っているか」回答率

問45 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」に関する県民参画の取組に参加したいと思いますか？
(あてはまるものすべてに○)

「三重県の『ごみゼロ社会実現プラン』に関する取組に参加したいか」については、『アンケートなどに協力したい』が一番高く33.3%であり、次いで「いずれにも参加したいとは思わない」(25.8%)、「ごみゼロの取組をまとめた「ごみゼロレポート」を読みたい」(23.9%)となっている。
氏町別及び性別については、大きな差はみられない。
年代別については、「地域ごみゼロ交流会に参加したい」や「ごみゼロに関する講演会やセミナーに参加したい」は、年代が上がるごとに高い傾向になっている。

① 単純集計

番号	選択肢	回答数	回答率
1	地域ごみゼロ交流会に参加したい	223	7.5%
2	ごみゼロに関する講演会やセミナーに参加したい	298	10.0%
3	ごみゼロプランに関する情報をホームページ等で読みたい	666	22.4%
4	ゼロ吉Facebookでイベントなどの情報を読みたい	193	6.5%
5	ごみゼロプランの進み具合やごみ減量化などの取組をまとめた「点検・評価」を読みたい	713	23.9%
6	アンケートなどに協力したい	992	33.3%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	55	1.8%
8	ごみゼロプランの進捗状況などを評価検証する「ごみゼロプラン推進委員会」を傍聴したい	107	3.6%
9	いずれにも参加したいとは思わない	770	25.8%
11	その他	61	2.0%
総回答数		4,078	136.8%
有効回答数		2,979	100.0%

表 5-5-3 「県民参画の取組に参加したいか」回答状況

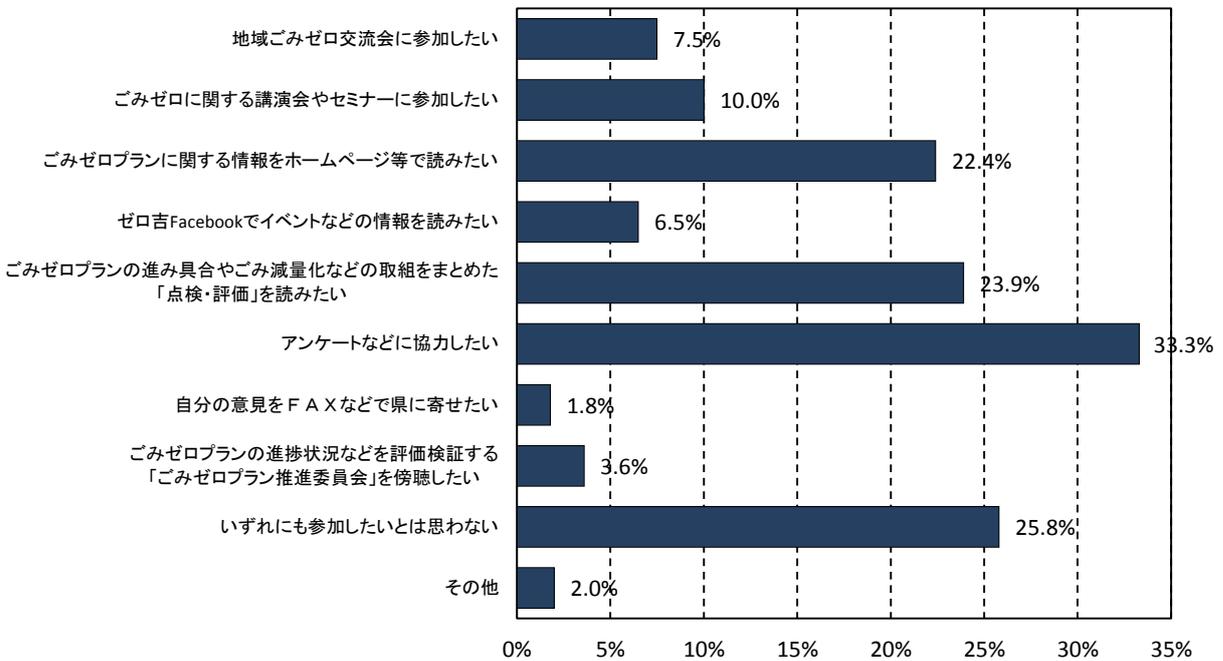


図 5-5-7 「県民参画の取組に参加したいか」回答率

② 市町別集計

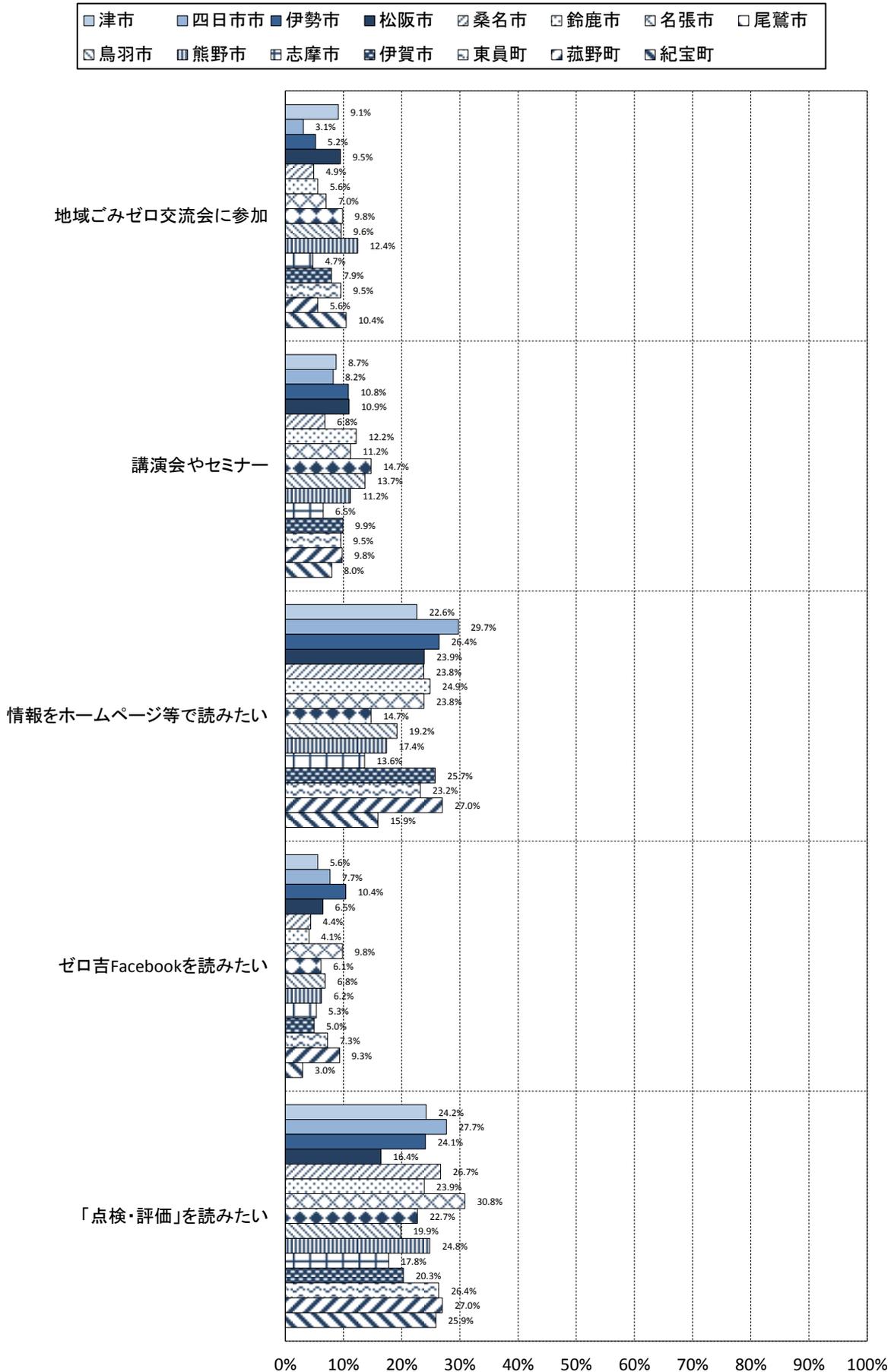


図 5-5-8 (1/2) 「市町別 県民参画の取組に参加したいか」回答率

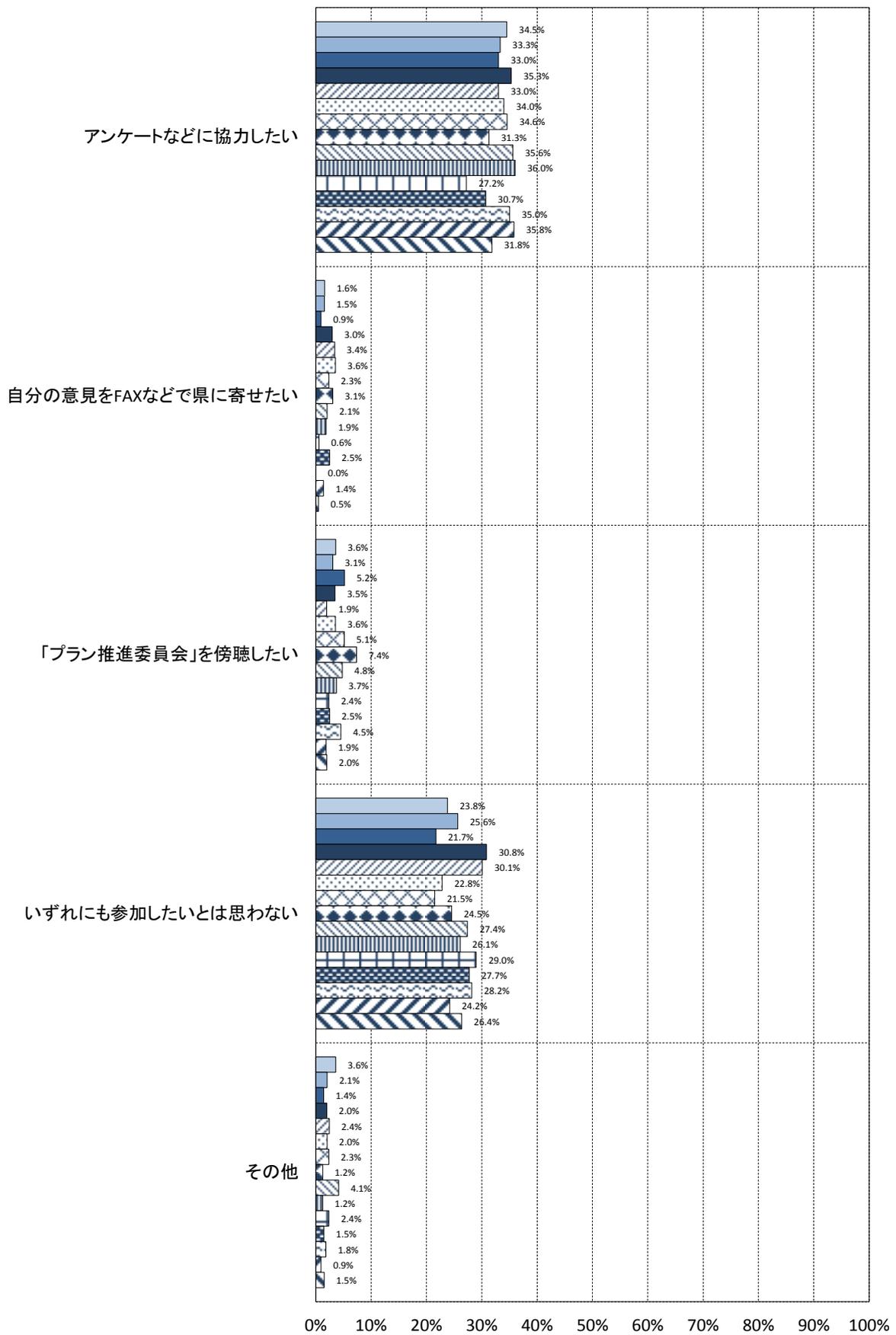
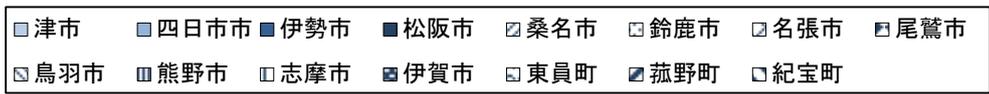


図 5-5-8 (2/2) 「市町別 県民参画の取組に参加したいか」回答率

③ 性別集計

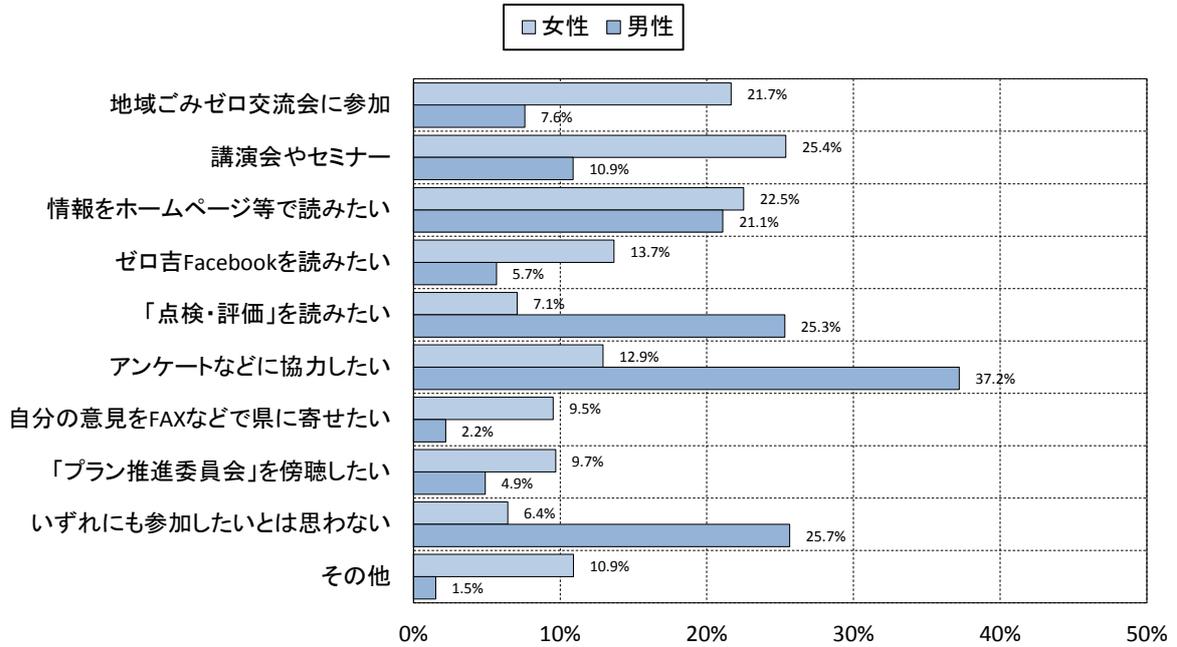


図 5-5-9 「性別 県民参画の取組に参加したいか」回答率

④ 年代別集計

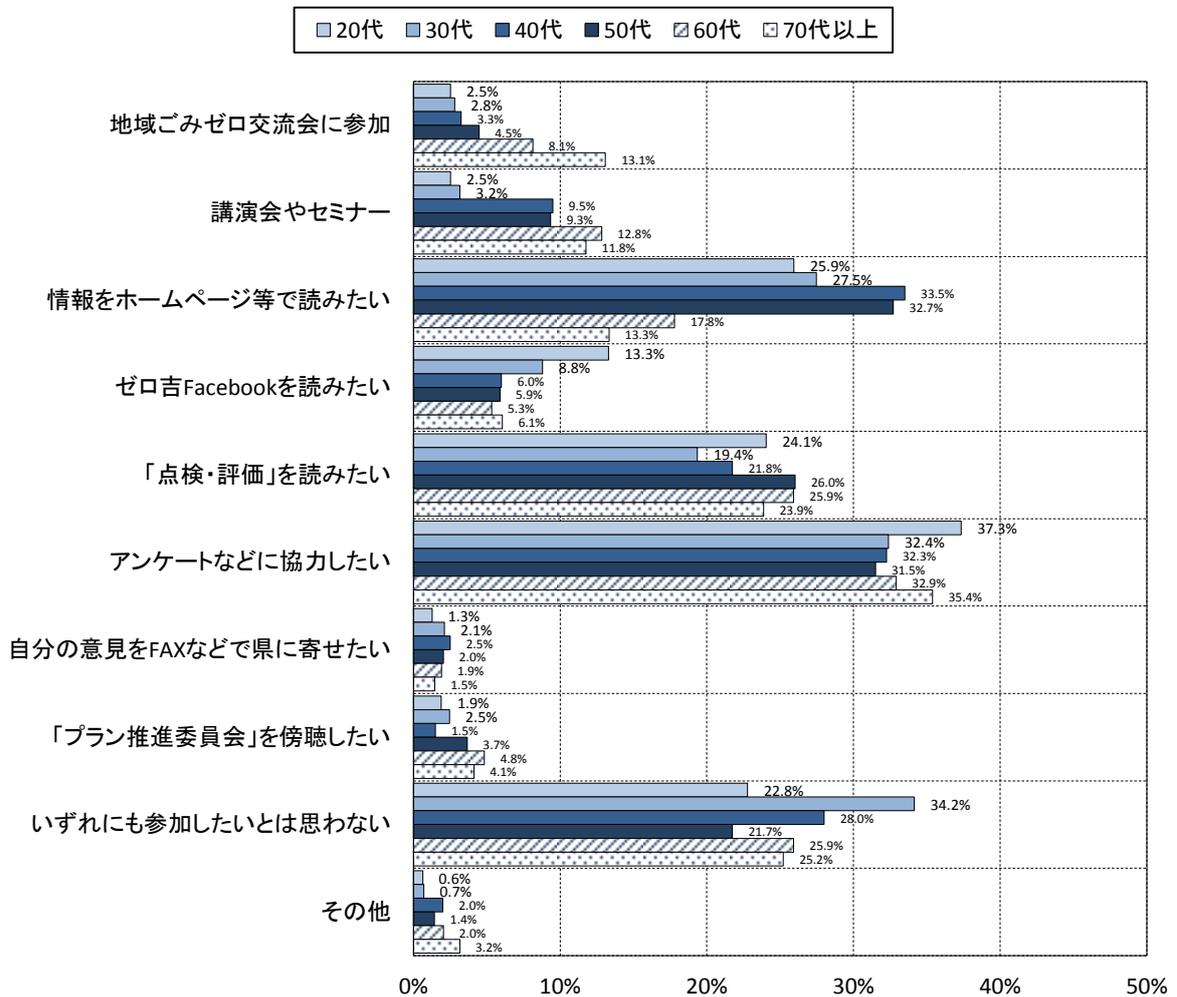


図 5-5-10 「年代別 県民参画の取組に参加したいか」回答率

6 意識・行動解析

6-1 目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析

ここでは、目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の分析を行い、差が解消されることで目標指標の達成率の向上に資すると仮定して、今後県民に普及・周知を図るべき項目を検討する。計算方法は平成22年度調査と同じである。

目標指標の達成状況の違いによる県民の行動及び意識の差の計算方法

(問26と問12-(1)における目標指標達成状況との相関で例示する)

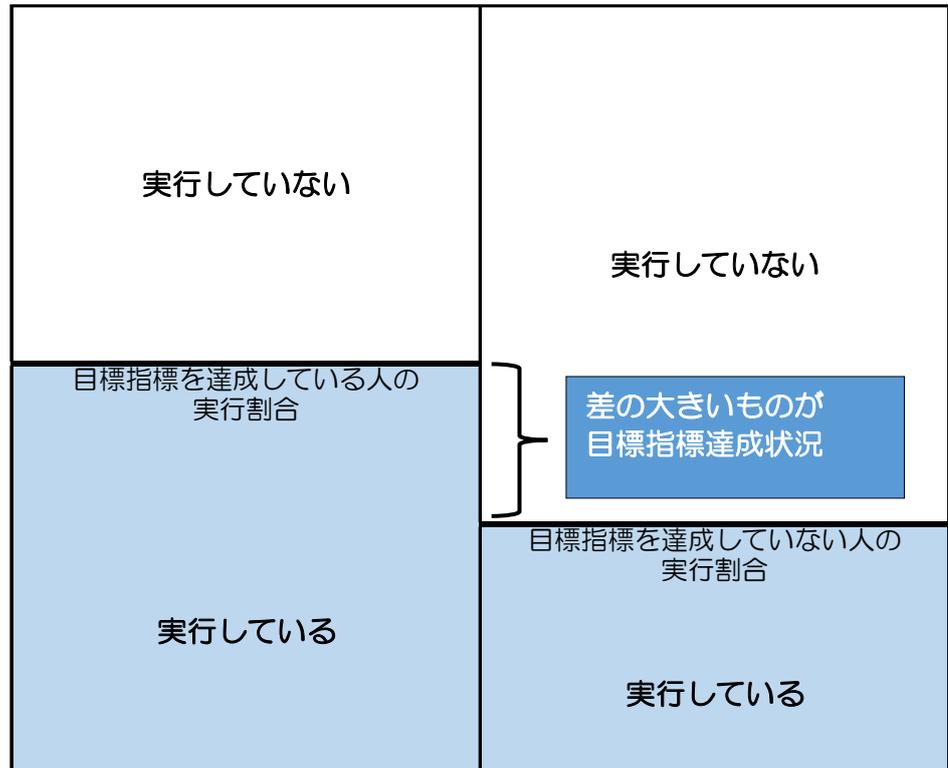
- 問12-(1)「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう」について、目標指標を達成している人（「③あまり当てはまらない」＋「④まったく当てはまらない」）、目標指標を達成していない人（「①よく当てはまる」＋「②少し当てはまる」）ごとに回答数を計算し、それぞれについて回答者数を母数にして比率にする。
- 上記で出た比率を元に、目標指標を達成している人と目標指標を達成していない人の差をみる。

問12-(1)特価品や新製品をみると
すぐには必要なくてもつい買ってしまう

目標指標を達成している人
(「③あまり当てはまらない」＋
「④まったく当てはまらない」)

目標指標を達成していない人
(「①よく当てはまる」＋
「②少し当てはまる」)

問16
あなたの家庭でやっているごみ対策



(1) 問26と問12-(1)における目標指標達成状況との相関

問26「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問12-(1)特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう」における目標指標の達成状況をみる。目標指標を達成している人の方が実行している割合が5%以上高かったのは「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」の3項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目が「9：詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「16：不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている」など8項目あったが、いずれも5%未満の差となっている。

番号	問26選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.5%	85.7%	83.3%	2.4%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	12.3%	12.2%	12.2%	0.0%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.2%	10.5%	9.3%	1.2%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	3.0%	3.3%	2.5%	0.8%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	2.7%	2.6%	2.9%	-0.3%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	10.1%	11.3%	8.1%	3.2%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.0%	7.0%	7.4%	-0.4%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	89.2%	89.7%	89.9%	-0.2%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	60.6%	59.9%	63.1%	-3.2%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	14.2%	15.1%	12.5%	2.6%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいく	9.2%	9.3%	9.1%	0.2%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	36.1%	36.7%	36.0%	0.7%
13	食品は買い過ぎないように注意している	57.5%	62.9%	47.6%	15.3%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などをかうようにしている	3.0%	3.3%	2.6%	0.7%
15	食事を食べ残さないようにしている	68.8%	72.7%	61.9%	10.8%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	19.9%	19.3%	21.8%	-2.5%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.4%	63.1%	56.4%	6.7%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	56.1%	57.6%	-1.5%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	8.4%	9.7%	6.1%	3.6%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	24.9%	26.0%	23.5%	2.5%
21	マイ箸を携帯している	7.5%	7.4%	7.8%	-0.4%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	15.2%	15.1%	15.5%	-0.4%
23	その他	0.6%	0.0%	0.0%	0.0%
24	これらいずれもやっていない	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%

表 6-1-1 「問26と問12-(1)の相関表」

(2) 問26と問12-(2)における目標指標達成状況との相関

問26「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問12-(2)買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える」における目標指標の達成状況をみる。目標指標を達成している人の方が実行している割合が5%以上高かったのは「9：詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「18：地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」の6項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「7：紙くすなどを庭や畑で焼却している」など4項目あったが、いずれも1%未満の僅差となっている。

番号	問26選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.5%	86.1%	83.3%	2.8%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	12.3%	13.0%	11.2%	1.8%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.2%	11.2%	8.8%	2.4%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	3.0%	3.3%	2.8%	0.5%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	2.7%	2.7%	2.8%	-0.1%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	10.1%	11.7%	8.4%	3.3%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.0%	6.8%	7.5%	-0.7%
8	買い物袋（マイバック）等を持参し、レジ袋をもらわない	89.2%	91.7%	87.3%	4.4%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	60.6%	64.3%	56.9%	7.4%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	14.2%	14.7%	13.6%	1.1%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでる	9.2%	9.0%	9.4%	-0.4%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	36.1%	39.7%	32.5%	7.2%
13	食品は買い過ぎないように注意している	57.5%	61.3%	53.3%	8.0%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などをかうようにしている	3.0%	3.3%	2.8%	0.5%
15	食事を食べ残さないようにしている	68.8%	73.7%	63.5%	10.2%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	19.9%	21.5%	18.4%	3.1%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.4%	64.0%	57.0%	7.0%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	59.5%	53.0%	6.5%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	8.4%	9.9%	6.7%	3.2%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	24.9%	27.3%	22.5%	4.8%
21	マイ箸を携帯している	7.5%	8.1%	6.8%	1.3%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	15.2%	16.8%	13.3%	3.5%
23	その他	0.6%	0.7%	0.6%	0.1%
24	これらいずれもやっていない	0.5%	0.4%	0.6%	-0.2%

表 6-1-2 「問26と問12-(2)の相関表」

(3) 問26と問12-(3)における目標指標達成状況との相関

問26「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問12-(3)お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」における目標指標の達成状況をみる。
 目標指標を達成している人の方が実行している割合が5%以上高かったのは「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の6項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している」など3項目であったが、いずれも2%未満の差となっている。

番号	問26選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.5%	85.7%	84.5%	1.2%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	12.3%	12.5%	12.1%	0.4%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.2%	12.0%	8.9%	3.1%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	3.0%	2.3%	3.5%	-1.2%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	2.7%	2.8%	2.5%	0.3%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	10.1%	11.9%	8.9%	3.0%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.0%	6.9%	7.1%	-0.2%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	89.2%	91.4%	88.8%	2.6%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	60.6%	63.5%	59.4%	4.1%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	14.2%	16.9%	12.7%	4.2%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んで	9.2%	10.0%	8.8%	1.2%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	36.1%	41.6%	33.5%	8.1%
13	食品は買い過ぎないように注意している	57.5%	63.3%	54.3%	9.0%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などをかうようにしている	3.0%	3.9%	2.5%	1.4%
15	食事を食べ残さないようにしている	68.8%	73.9%	66.4%	7.5%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	19.9%	20.8%	19.9%	0.9%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.4%	66.6%	57.4%	9.2%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	59.6%	54.7%	4.9%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	8.4%	11.0%	6.9%	4.1%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	24.9%	29.8%	22.2%	7.6%
21	マイ箸を携帯している	7.5%	8.9%	0.0%	8.9%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	15.2%	16.6%	14.4%	2.2%
23	その他	0.6%	0.7%	0.6%	0.1%
24	これらいずれもやっていない	0.5%	0.4%	0.5%	-0.1%

表 6-1-3 「問26と問12-(3)の相関表」

(4) 問26と問12-(4)における目標指標達成状況との相関

問26「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問12-(4)時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する」における目標指標の達成状況をみている。目標指標を達成している人の方が実行している割合が5%以上高かったのは「12：包装を断ったり、簡易舗装を依頼している」、「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「15：不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている」、「19：無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の6項目であった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「18：地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」など4項目であったが、いずれも1%未満の僅差となっている。

番号	問26選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.5%	85.6%	84.5%	1.1%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	12.3%	12.8%	11.5%	1.3%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.2%	10.0%	10.3%	-0.3%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	3.0%	3.8%	2.5%	1.3%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	2.7%	3.2%	2.3%	0.9%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	10.1%	11.7%	8.8%	2.9%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.0%	7.3%	6.6%	0.7%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	89.2%	91.2%	89.0%	2.2%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	60.6%	62.2%	60.2%	2.0%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	14.2%	14.5%	14.1%	0.4%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでる	9.2%	11.1%	8.0%	3.1%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	36.1%	39.4%	34.4%	5.0%
13	食品は買い過ぎないように注意している	57.5%	64.7%	52.5%	12.2%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	3.0%	4.2%	2.2%	2.0%
15	食事を食べ残さないようにしている	68.8%	75.1%	64.7%	10.4%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	19.9%	23.9%	17.6%	6.3%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.4%	62.2%	60.0%	2.2%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	56.6%	56.9%	-0.3%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	8.4%	13.2%	4.7%	8.5%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	24.9%	28.2%	22.9%	5.3%
21	マイ箸を携帯している	7.5%	7.8%	7.3%	0.5%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	15.2%	16.7%	14.2%	2.5%
23	その他	0.6%	0.5%	0.7%	-0.2%
24	これらいずれもやっていない	0.5%	0.2%	0.6%	-0.4%

表 6-1-4 「問26と問12-(4)の相関表」

(5) 問26と問14-(1)における目標指標達成状況との相関

問26「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問14-(1)使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」における目標指標の達成状況をみる。
 目標指標を達成している人の方が実行している割合が5%以上高かったのは「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買い過ぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「18：地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の6項目であった。特に「15：食事を食べ残さないようにしている」は21.1%と高かった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「24：これらいずれもやっていない」など2項目であったが、いずれも1%未満と僅差となっている。

番号	問26選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.5%	85.2%	84.7%	0.5%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	12.3%	14.6%	10.9%	3.7%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.2%	12.3%	9.0%	3.3%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	3.0%	3.3%	2.9%	0.4%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	2.7%	3.0%	2.6%	0.4%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	10.1%	12.8%	8.7%	4.1%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.0%	7.1%	7.0%	0.1%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	89.2%	91.3%	88.7%	2.6%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	60.6%	63.4%	59.5%	3.9%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	14.2%	15.8%	13.2%	2.6%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでる	9.2%	11.6%	8.0%	3.6%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	36.1%	40.2%	34.3%	5.9%
13	食品は買い過ぎないように注意している	57.5%	68.2%	51.9%	16.3%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	3.0%	3.3%	2.9%	0.4%
15	食事を食べ残さないようにしている	68.8%	82.8%	61.6%	21.2%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	19.9%	22.4%	19.0%	3.4%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.4%	65.8%	57.9%	7.9%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	60.4%	54.2%	6.2%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	8.4%	11.6%	6.8%	4.8%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	24.9%	31.8%	21.4%	10.4%
21	マイ箸を携帯している	7.5%	9.0%	6.5%	2.5%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	15.2%	16.4%	14.6%	1.8%
23	その他	0.6%	0.6%	0.7%	-0.1%
24	これらいずれもやっていない	0.5%	0.1%	0.6%	-0.5%

表 6-1-5 「問26と問14-(1)の相関表」

(6) 問26と問14-(2)における目標指標達成状況との相関

問26「あなたの家庭でやっているごみ対策」について、「問14-(2)食べきれず、料理を捨ててしまうことはありませんか」における目標指標の達成状況をみてみる。目標指標を達成している人の方が実行している割合が5%以上高かったのは「9：詰め替え容器を使用した商品を買っている」、「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」、「16：不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている」、「17：資源とごみの分別を徹底している」、「18：地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している」、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」の8項目であった。特に「15：食事を食べ残さないようにしている」は33%と高かった。一方、目標指標を達成している人の方が実行している割合が低かった項目は「紙くすなどを庭や畑で焼却している」など4項目であったが、いずれも2%未満の差となっている。

番号	問26選択肢	A	B	C	B-C
		全体	目標指標達成している	目標指標達成していない	差
1	台所ごみの水切りをしている	84.5%	84.9%	85.0%	-0.1%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	12.3%	13.4%	10.7%	2.7%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	10.2%	11.2%	8.6%	2.6%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	3.0%	3.1%	3.0%	0.1%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	2.7%	2.7%	2.6%	0.1%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	10.1%	11.6%	8.2%	3.4%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	7.0%	6.3%	7.8%	-1.5%
8	買い物袋（マイバッグ）等を持参し、レジ袋をもらわない	89.2%	91.3%	87.7%	3.6%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	60.6%	64.7%	56.4%	8.3%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	14.2%	15.1%	13.1%	2.0%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいく	9.2%	10.3%	8.0%	2.3%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	36.1%	39.0%	33.5%	5.5%
13	食品は買い過ぎないように注意している	57.5%	64.4%	50.0%	14.4%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている	3.0%	3.4%	2.6%	0.8%
15	食事を食べ残さないようにしている	68.8%	82.2%	53.3%	28.9%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	19.9%	23.4%	16.4%	7.0%
17	資源とごみの分別を徹底している	60.4%	65.3%	55.0%	10.3%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	56.2%	60.6%	51.5%	9.1%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	8.4%	10.2%	6.3%	3.9%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	24.9%	29.1%	20.3%	8.8%
21	マイ箸を携帯している	7.5%	8.2%	6.4%	1.8%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	15.2%	17.3%	12.8%	4.5%
23	その他	0.6%	0.6%	0.7%	-0.1%
24	これらいずれもやっていない	0.5%	0.2%	0.5%	-0.3%

表 6-1-5 「問26と問14-(2)の相関表」

(7) 目標指標達成状況による差

目標指標を達成している人と達成していない人の差について全体的にみると、すべてが5%以上は「13：食品は買いすぎないように注意している」、「15：食事を食べ残さないようにしている」の2項目であった。
 5%以上が5つあるのは、「12：包装を断ったり、簡易包装を依頼している」、「17：資源とごみの分別を徹底している」の2項目であった。
 5%以上が4つあるのは、「20：マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている」であった。
 以上の5項目の行動は、目標指標の達成と相関が強いといえる。

番号	問26選択肢	ものを大切に長く使おうとする 県民の率		環境に配慮した消費行動をとる 県民の率		食べ物を粗末にしないよう心がけている 県民の率	
		問2-1	問2-2	問2-3	問2-4	問4-1	問4-2
1	台所ごみの水切りをしている	2.4%	2.8%	1.2%	1.1%	0.5%	-0.1%
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている	0.0%	1.8%	0.4%	1.3%	3.7%	2.7%
3	台所ごみを、市町の助成を受けて購入した堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している	1.2%	2.4%	3.1%	-0.3%	3.3%	2.6%
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している	0.8%	0.5%	-1.2%	1.3%	0.4%	0.1%
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている	-0.3%	-0.1%	0.3%	0.9%	0.4%	0.1%
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている	3.2%	3.3%	3.0%	2.9%	4.1%	3.4%
7	紙くすなどを庭や畑で焼却している	-0.4%	-0.7%	-0.2%	0.7%	0.1%	-1.5%
8	買い物袋（マイバック）等を持参し、レジ袋をもらわない	-0.2%	4.4%	2.6%	2.2%	2.6%	3.6%
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている	-3.2%	7.4%	4.1%	2.0%	3.9%	8.3%
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う	2.6%	1.1%	4.2%	0.4%	2.6%	2.0%
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んでいる	0.2%	-0.4%	1.2%	3.1%	3.6%	2.3%
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している	0.7%	7.2%	8.1%	5.0%	5.9%	5.5%
13	食品は買い過ぎないように注意している	15.3%	8.0%	9.0%	12.2%	16.3%	14.4%
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などをかうようにしている	0.7%	0.5%	1.4%	2.0%	0.4%	0.8%
15	食事を食べ残さないようにしている	10.8%	10.2%	7.5%	10.4%	21.2%	28.9%
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている	-2.5%	3.1%	0.9%	6.3%	3.4%	7.0%
17	資源とごみの分別を徹底している	6.7%	7.0%	9.2%	2.2%	7.9%	10.3%
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している	-1.5%	6.5%	4.9%	-0.3%	6.2%	9.1%
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている	3.6%	3.2%	4.1%	8.5%	4.8%	3.9%
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている	2.5%	4.8%	7.6%	5.3%	10.4%	8.8%
21	マイ箸を携帯している	-0.4%	1.3%	8.9%	0.5%	2.5%	1.8%
22	携帯電話の店頭回収に協力している	-0.4%	3.5%	2.2%	2.5%	1.8%	4.5%
23	その他	0.0%	0.1%	0.1%	-0.2%	-0.1%	-0.1%
24	これらいずれもやっていない	0.0%	-0.2%	-0.1%	-0.4%	-0.5%	-0.3%

表 6-1-7 「目標指標達成状況による差」

6-2 意識と行動の相関分析

ここでは、意識と行動の相関を点数化した。意識と行動の相関を見ることにより、どのような意識が行動に結びつくか、また、行動を高めるためにはどのような意識を向上させる必要があるかを分析する。

意識パターンと行動パターンの相関を下表に示した。

意識と行動の相関			行動パターン			
			1	2	3	4
			よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
意識パターン	1	とてもそう思う	全く相関なし	相関なし	相関あり	強い相関あり
	2	少しそう思う	相関なし	相関あり	強い相関あり	相関あり
	3	あまりそう思わない	相関あり	強い相関あり	相関あり	相関なし
	4	全くそうは思わない	強い相関あり	相関あり	相関なし	全く相関なし

表 6-2-1 「意識と行動の相関表」

相関点数は、「強い相関あり」を2点、「相関あり」を1点、「相関なし」を-1点、「全く相関なし」を-2点とした。

意識と行動の相関			行動パターン			
			1	2	3	4
			よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
意識パターン	1	とてもそう思う	-2	-1	1	2
	2	少しそう思う	-1	1	2	1
	3	あまりそう思わない	1	2	1	-1
	4	全くそうは思わない	2	1	-1	-2

表 6-2-2 「意識と行動の相関点数表」

6-2-1 計算例：問11-1と問12-1の相関

(1) 問11-1と問12-1のクロス集計で回答数を算定する。

回答数		1	2	3	4	99	計
		よく当てはまる	少し当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない	無回答	
1	とてもそう思う	85	320	320	147	3	875
2	少しそう思う	58	430	668	297	3	1456
3	あまりそう思わない	8	83	266	165	0	522
4	全くそうは思わない	4	15	27	48	1	95
99	無回答	1	1	1	5	23	31
計		156	849	1282	662	30	2979

表 6-2-3 「問11-1と問12-1」クロス集計

(2) 表6-2-3の回答数に表6-2-2の相関点数を乗する。

相関点数の計を総回答数で除して平均相関点数を求める。

平均相関点数を相関点数の満点である2点で除して相関点数率を算定する。

回答数		1	2	3	4	99	計	相関 点 平 均 計 相 関 点 数 / 総 回 答 数
		よく当て はまる	少し当て はまる	あまり当て はまらない	まったく当 てはまらない	無回答		
1	とてもそう思う	-170	-320	320	294	0	124	0.77
2	少しそう思う	-58	430	1336	297	0	2005	
3	あまりそう思わない	8	166	266	-165	0	275	
4	全くそうは思わない	8	15	-27	-96	0	-100	
99	無回答	0	0	0	0	0	0	
計		-212	291	1895	330	0	2304	
相関点数率（平均相関点数/相関点数満点：2点）								38.5%

表 6-2-4 「問11-1と問12-1」相関点数表

以下同様の手段で、問11-1～6（意識に関する質問）と問12-1～4及び問14-1、2（行動に関する質問）の相関点数を求めることにより意識と行動の相関を分析した。

6-2-1 意識と行動の相関分析

(1) 問11-1「家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う」と行動の相関

意識：問11-1と行動の相関は、問12-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう」が最も高く、問14-1「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」が最も低い。最大と最小の差は0.28あり、ばらつきが大きい。

			相関点数	率
問11-1 あまり必要ないものがたくさんあると思う	問12-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう	0.77	38.5%
	問12-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.70	35.2%
	問12-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.60	30.0%
	問12-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.52	26.0%
	問14-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.49	24.7%
	問14-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.68	34.0%
最大値と最小値の差			0.28	14.0%

表 6-2-5 「問11-1と行動のまとめ」

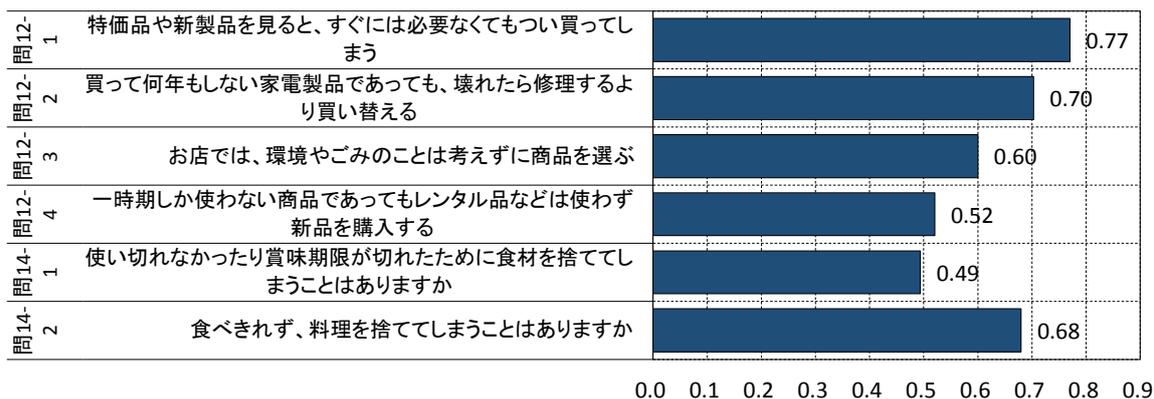


図 6-2-1 「問11-1と行動のまとめ」

(2) 問11-2「ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう」と行動の相関

意識：問11-2と行動の相関は、問12-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくともつい買ってしまおう」が最も高く、問12-4「一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する」が最も低い。最大と最小の差は0.25あり、ばらつきが大きい。

			相関点数	率
問11-2 ものを捨てる時、 つい「もった いない」とおもっ てしまう	問12-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくともつい買ってしまおう	0.87	43.4%
	問12-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.86	42.8%
	問12-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.70	35.2%
	問12-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.62	31.1%
	問14-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.68	34.2%
	問14-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.85	42.7%
	最大値と最小値の差			0.25

表 6-2-6 「問11-2と行動のまとめ」

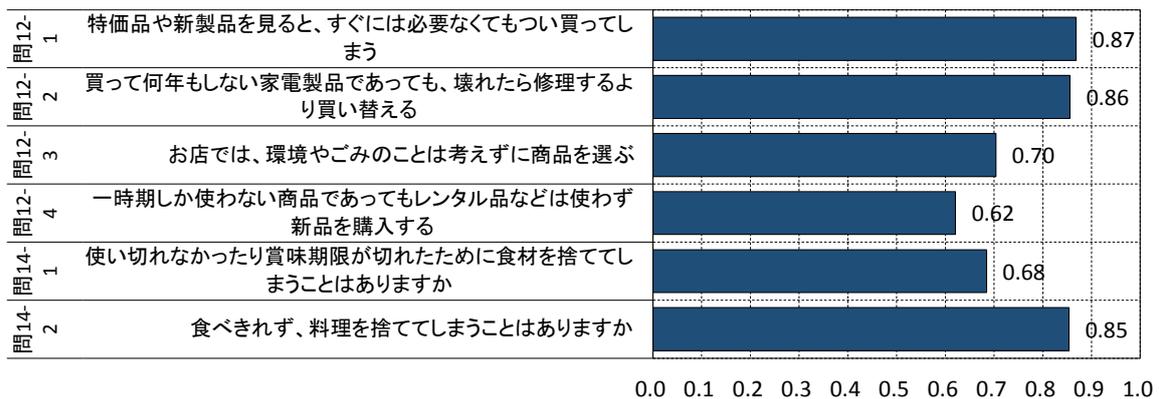


図 6-2-2 「問11-2と行動のまとめ」

(3) 問11-3「商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う」と行動の相関

意識：問11-3と行動の相関は、問12-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくともつい買ってしまおう」が最も高く、問12-3「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」、問12-4「一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する」、問14-1「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」、が最も低い。最大と最小の差は0.52あり、ばらつきがかなり大きい。

			相関点数	率
問11-3 商品につ いている 容器や包 装材は、 もっと少 なくてい いと思う	問12-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくともつい買ってしまおう	0.88	43.8%
	問12-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.62	31.2%
	問12-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.36	18.0%
	問12-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.36	18.2%
	問14-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.36	18.1%
	問14-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.70	34.9%
	最大値と最小値の差			0.52

表 6-2-7 「問11-3と行動のまとめ」

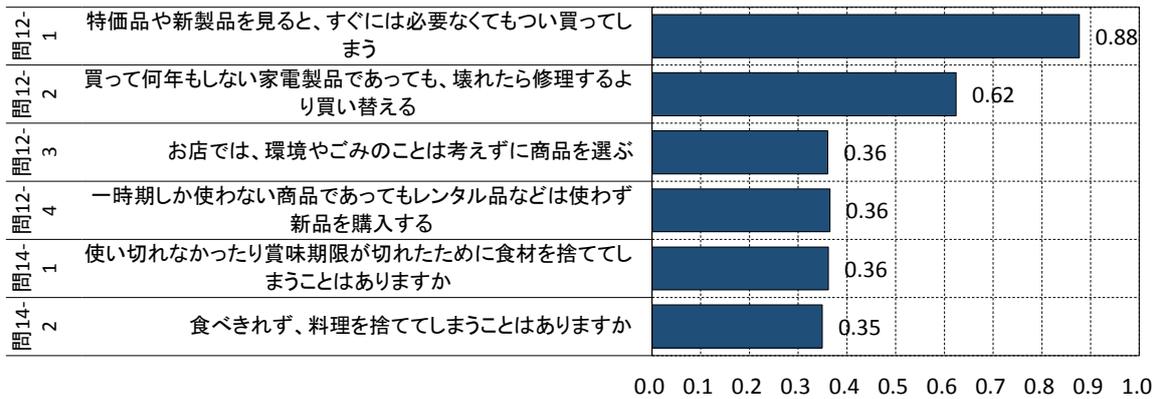


図 6-2-3 「問11-3と行動のまとめ」

(4) 問11-4「レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない」と行動の相関

意識：問11-4と行動の相関は、問12-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ」が最も高く、問14-1「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」が最も低い。最大と最小の差は0.07であり、ばらつきは小さい。

		相関点数	率
問11-4 レンタル製品など 多くの人 が使いま わすもの でも、特 に抵抗感 はない	問12-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまふ	0.88 43.8%
	問12-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.85 42.4%
	問12-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.81 40.5%
	問12-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.81 40.5%
	問14-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.80 39.9%
	問14-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.81 40.5%
最大値と最小値の差		0.07	3.9%

表 6-2-8 「問11-4と行動のまとめ」

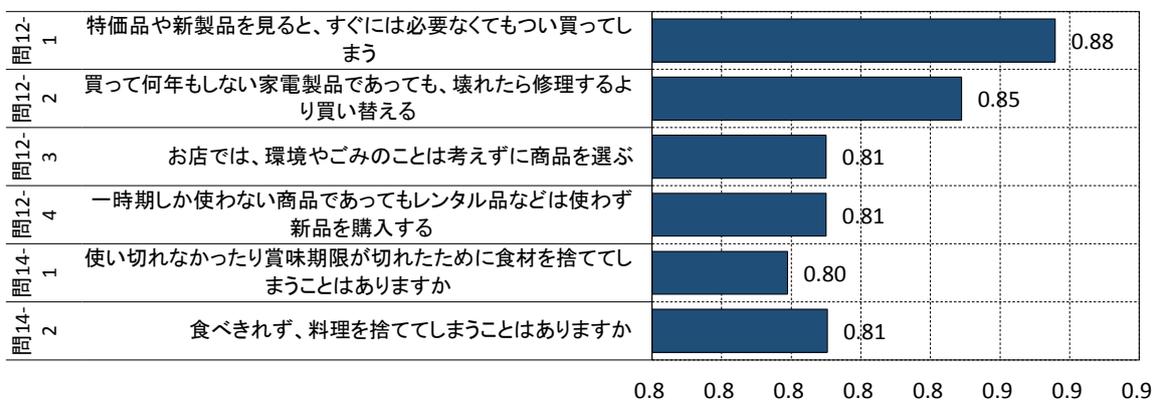


図 6-2-4 「問11-4と行動のまとめ」

(5) 問11-5「日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う」と行動の相関

意識：問11-5と行動の相関は、問12-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう」が最も高く、問14-1「使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか」が最も低い。最大と最小の差は0.4あり、ばらつきはかなり大きい。

			相関点数	率
問11-5 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う	問12-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう	0.84	42.2%
	問12-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.74	37.1%
	問12-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.47	23.6%
	問12-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.59	29.5%
	問14-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.44	21.8%
	問14-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.73	36.6%
最大値と最小値の差			0.40	20.4%

表 6-2-9 「問11-5と行動のまとめ」

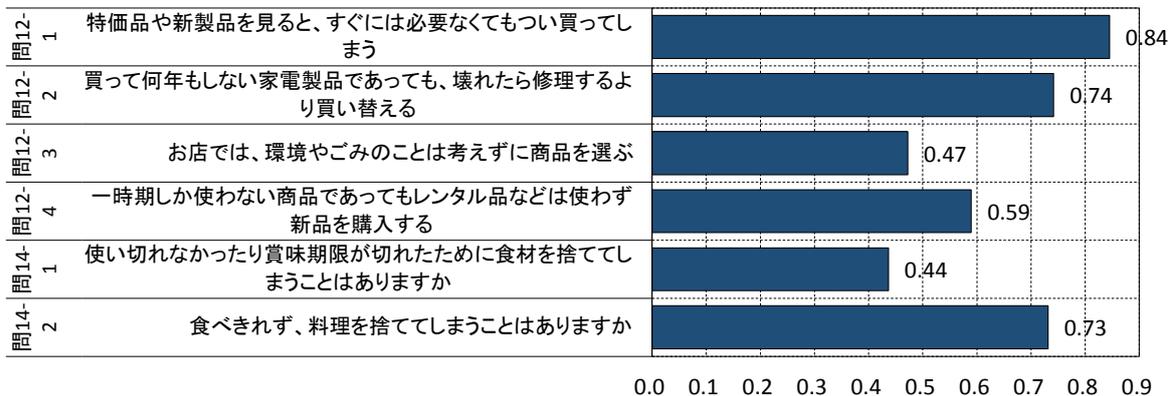


図 6-2-5 「問11-5と行動のまとめ」

(6) 問11-6「環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させる必要があると思う」と行動の相関

意識：問11-6と行動の相関は、問12-1「特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう」が最も高く、問12-3「お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ」が最も低い。最大と最小の差は0.48であり、ばらつきはかなり大きい。

			相関点数	率
問11-6 技術開発や研究を一層充実させる必要があると思う	問12-1	特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう	0.79	39.4%
	問12-2	買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える	0.55	27.3%
	問12-3	お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ	0.31	15.4%
	問12-4	一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する	0.34	16.9%
	問14-1	使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか	0.32	15.8%
	問14-2	食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか	0.63	31.6%
最大値と最小値の差			0.48	24.0%

表 6-2-10 「問11-6と行動のまとめ」

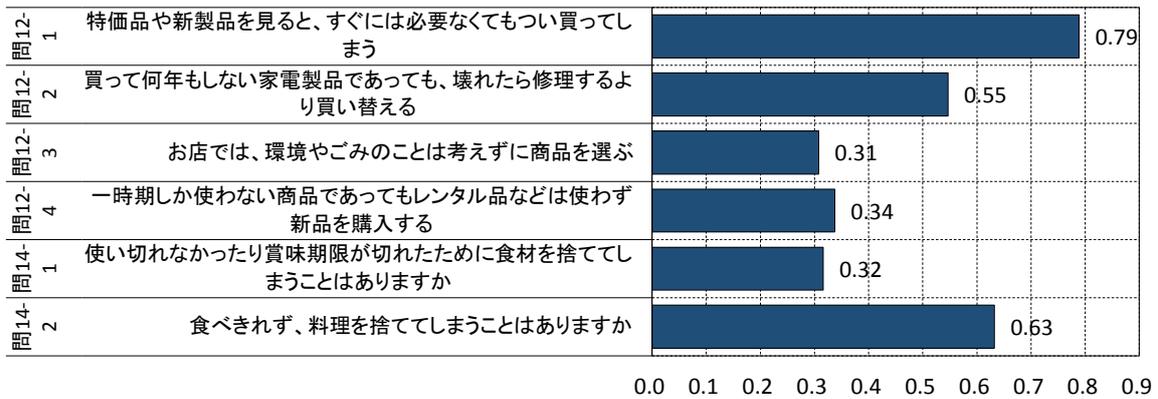


図 6-2-6 「問11-6と行動のまとめ」

(7) 意識と行動の相関まとめ (意識・行動の相関点数の平均値)

意識から行動の相関をみると、問11-4「レンタル製品に抵抗感ない」の意識が行動に対し0.83と最も高い相関を示している。次いで問11-2「捨てるのもったいない」(0.76)、問11-3「容器・包装材は少なくてよい」(0.74)となっている。
 相関が最も低い意識は、問11-6「技術開発・研究が大事」で0.49、次いで問11-1「不用なものが多い」(0.63)、問11-5「一人ひとりの行動が影響を及ぼす」となっている。
 行動から意識をみると、相関の高い行動は、問12-1「必要なくても買ってしまふ」(0.84)、問12-2「修理より買い替え」(0.76)、問14-2「食べきれず料理を捨てる」(0.73)となっている。
 相関が低い行動は、問14-1「期限切れで食材を捨てる」(0.57)となっている。

意識・行動 相関	問12-1	問12-2	問12-3	問12-4	問14-1	問14-2	平均値
	必要なくても買ってしまふ	修理より買い替え	環境・ごみを考えず商品を選ぶ	レンタル品でなく新品を購入	期限切れで食材を捨てる	食べきれず料理を捨てる	
問11-1 不用なものが多い	0.77	0.70	0.60	0.52	0.49	0.68	0.63
問11-2 捨てるのもったいない	0.87	0.86	0.70	0.62	0.68	0.85	0.76
問11-3 容器・包装材は少なくてよい	0.88	0.86	0.70	0.62	0.68	0.70	0.74
問11-4 レンタル製品に抵抗感ない	0.88	0.85	0.81	0.81	0.80	0.81	0.83
問11-5 一人ひとりの行動が影響を及ぼす	0.84	0.74	0.47	0.59	0.44	0.73	0.64
問11-6 技術開発・研究が大事	0.79	0.55	0.31	0.34	0.32	0.63	0.49
平均	0.84	0.76	0.60	0.58	0.57	0.73	0.68

表 6-2-11 意識と行動の相関まとめ 平均値

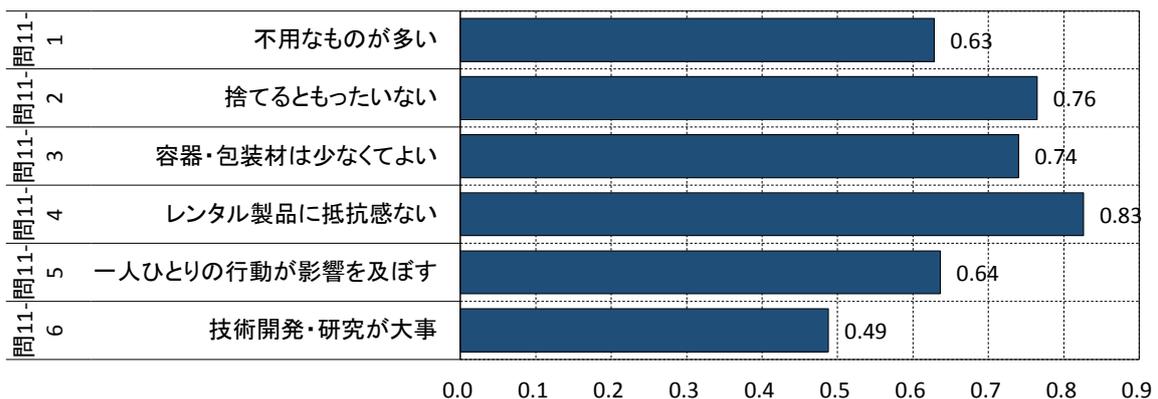


図 6-2-7 「意識と行動の相関まとめ」平均値

7 平成16年度・平成19年度・平成22年度・平成27年度比較

平成16年度・平成19年度・平成22年度・平成27年度比較は、同一設問について行った。
同一設問でも選択肢のことなるものは、除外してある。

7-1 属性

(1) 年代

年代の構成比率は、調査年度ごとに「70代以上」の比率が高くなってきている。

年代	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 20代	99	2.6%	233	6.3%	207	6.6%	158	5.3%
2 30代	421	11.0%	466	12.7%	416	13.2%	284	9.5%
3 40代	604	15.7%	572	15.5%	444	14.1%	400	13.4%
4 50代	991	25.8%	847	23.0%	638	20.2%	492	16.5%
5 60代	910	23.7%	808	21.9%	815	25.8%	787	26.4%
6 70代以上	614	16.0%	646	17.5%	582	18.5%	825	27.7%
99 無回答	196	5.1%	110	3.0%	52	1.6%	33	1.1%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-1-1 「年度別年代」 構成比率

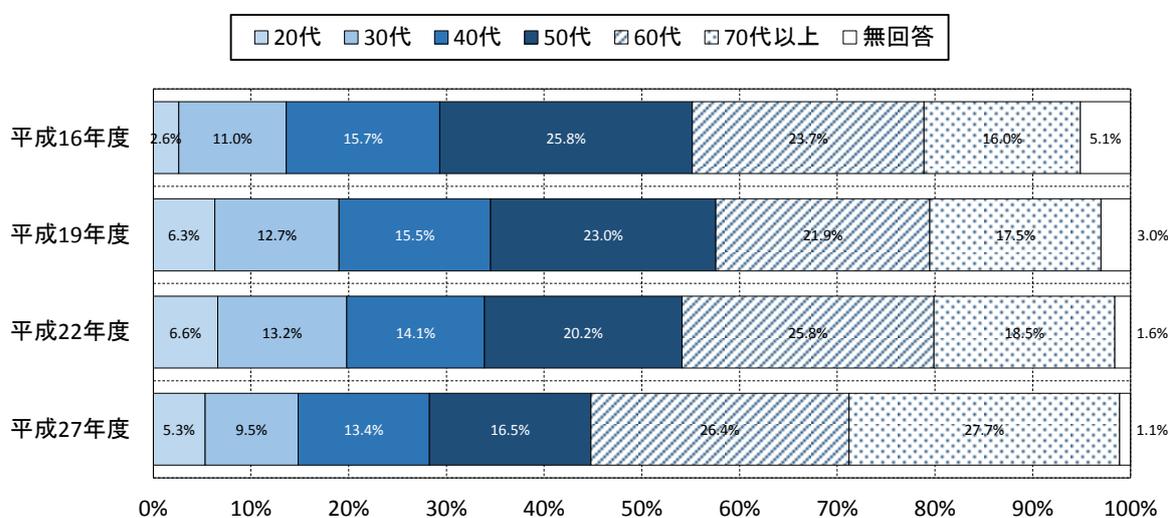


図 7-1-1 「年代別 年代」 構成比率

(2) 性別

性別の構成比率は、調査年度での大きな差はみられない。

年代	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 女性	1,655	43.2%	2,097	57.0%	1,881	59.6%	1,741	58.4%
2 男性	1,966	51.3%	1,461	39.7%	1,214	38.5%	1,185	39.8%
99 無回答	214	5.6%	124	3.4%	59	19.0%	53	1.8%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-1-2 年度別性別 構成比率

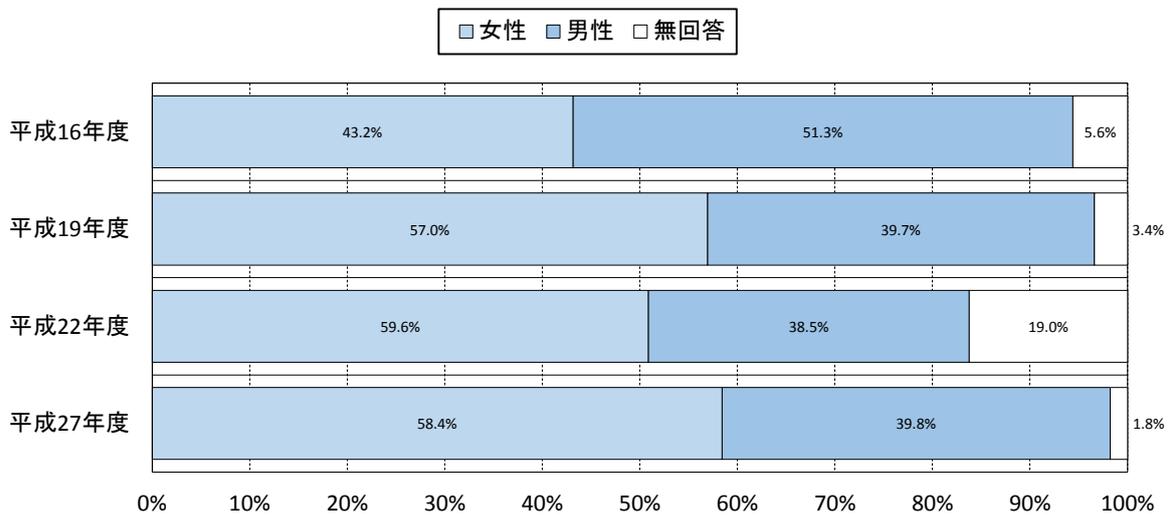


図 7-1-2 「年度別 性別」構成比率

(3) 職業

職業の構成比率は、調査年度ごとに「無職」の比率が高くなってきている。

職業	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 会社員・公務員	1,087	28.3%	1,014	27.6%	854	27.1%	801	26.9%
2 パート・アルバイト	421	11.0%	519	14.1%	461	14.6%	461	15.5%
3 農林水産業	157	4.1%	81	2.2%	74	2.3%	82	2.8%
4 自営業	510	13.3%	389	10.6%	261	8.3%	222	7.5%
5 家事・家事手伝い	288	7.5%	400	10.9%	360	11.4%	288	9.7%
6 学生	17	0.4%	40	1.1%	30	1.0%	31	1.0%
7 無職	996	26.0%	968	26.3%	927	29.4%	1,023	34.3%
8 その他	147	3.8%	143	3.9%	128	4.0%	26	0.9%
99 無回答	212	5.6%	120	3.3%	59	1.9%	45	1.4%
計	3,835	100%	3,674	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-1-3 年度別職業 構成比率

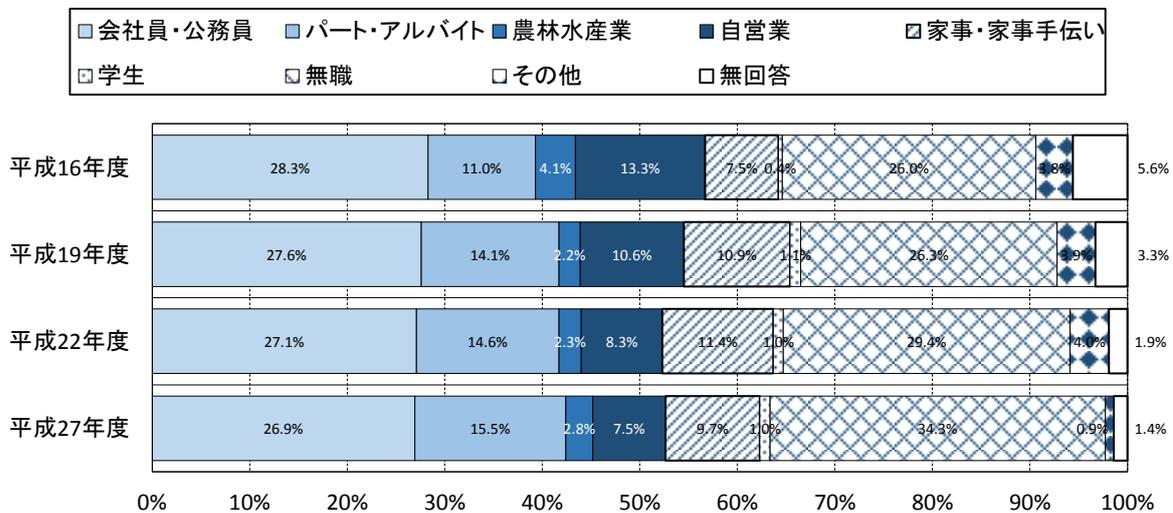


図 7-1-3 「年度別 職業」構成比率

(4) 世帯人員

世帯人員の構成比率は、調査年度ごとに「2人」の比率が高くなっている。

世帯人員		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	1人	343	8.9%	517	14.0%	530	16.8%	299	10.0%
2	2人	972	25.3%	1,033	28.1%	918	29.1%	1,027	34.5%
3	3人	874	22.8%	837	22.7%	717	22.7%	689	23.1%
4	4人	663	17.3%	593	16.1%	479	15.2%	513	17.2%
5	5人以上	789	20.6%	575	15.6%	452	14.3%	418	14.0%
99	無回答	194	5.1%	127	3.5%	58	1.9%	33	1.2%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-1-4 年度別世帯人員 構成比率

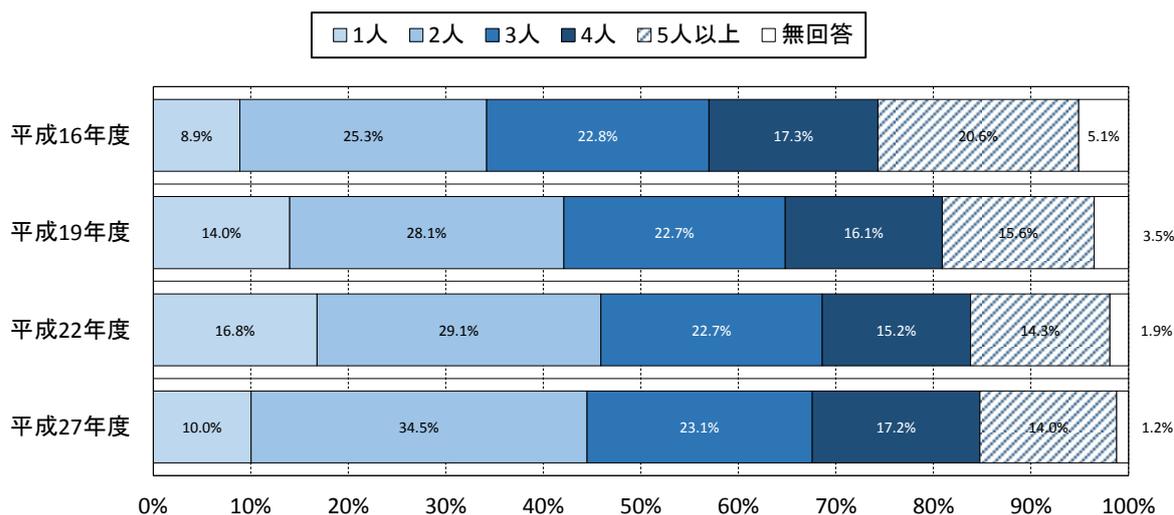


図 7-1-4 「年度別 世帯人員」構成比率

7-2 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動について

7-2-1 問11 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？

(1) 家の中を見ましてみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。

「必要でないもの」の構成比率は、調査年度ごとに「あまりそうは思わない」と「全くそうは思わない」の比率が高くなっている。

問11-1		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	とてもそう思う	1,192	31.1%	1,137	30.9%	1,013	32.1%	875	29.4%
2	少しそう思う	1,831	47.7%	1,824	49.5%	1,535	48.7%	1,456	48.9%
1+2		3,023	78.8%	2,961	80.4%	2,548	80.8%	2,331	78.3%
3	あまりそうは思わない	587	15.3%	577	15.7%	520	16.5%	522	17.5%
4	全くそうは思わない	83	2.2%	73	2.0%	71	2.3%	95	3.2%
99	無回答	142	3.7%	71	1.9%	15	0.4%	31	1.0%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-1 「年度別 必要でないもの」 構成比率

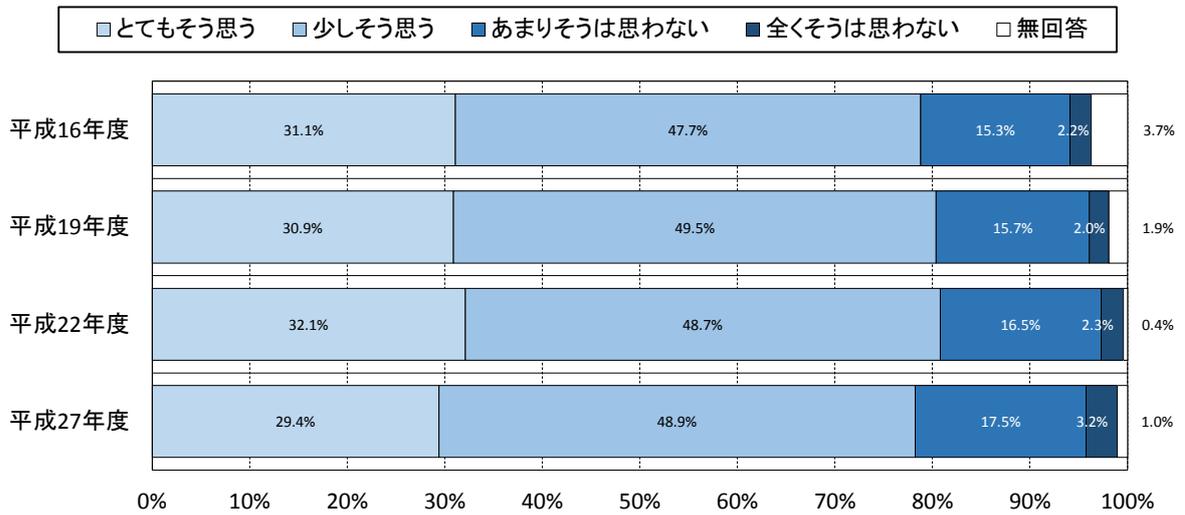


図 7-2-1 「年度別 必要ないもの」構成比率

(2) ものを捨てる時、つい「もったいない」とってしまう。

「もったいない」の構成比率は、調査年度ごとに「あまりそうは思わない」の比率が高くなって
いる。

問11-2	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 とてもそう思う	1,277	33.3%	1,265	34.4%	1,098	34.8%	717	24.1%
2 少しそう思う	1,980	51.6%	1,888	51.3%	1,626	51.6%	1,638	55.0%
1+2	3,257	84.9%	3,153	85.7%	2,724	86.4%	2,355	79.1%
3 あまりそうは思わない	355	9.3%	375	10.2%	357	11.3%	492	16.5%
4 全くそうは思わない	79	2.1%	87	2.4%	54	1.7%	102	3.4%
99 無回答	144	3.7%	67	1.7%	19	0.6%	30	1.0%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-2 「年度別 もったいない」構成比率

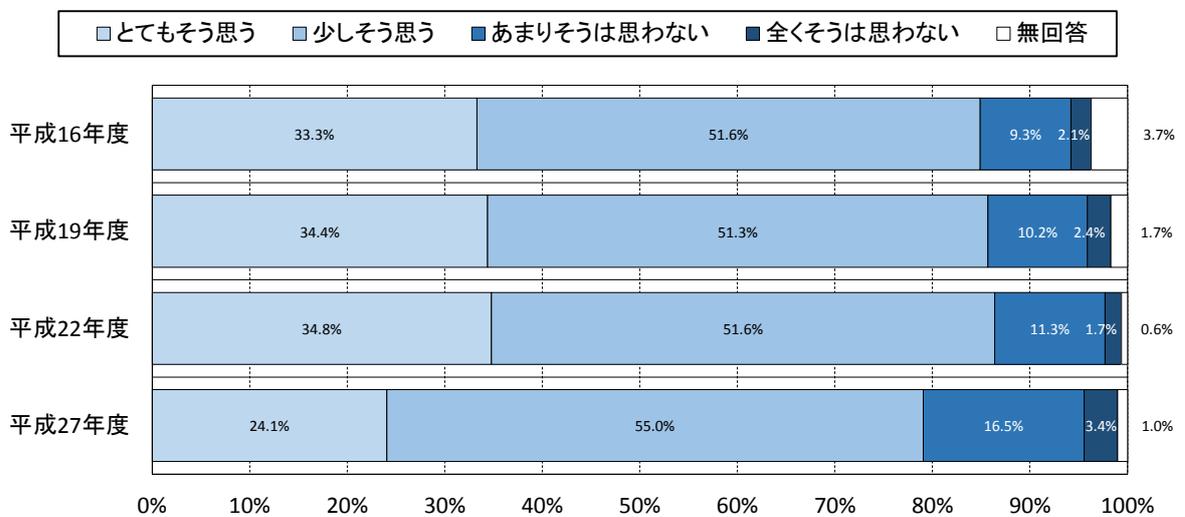


図 7-2-2 「年度別 もったいない」構成比率

(3) 商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う。

「過剰容器や包装材」の構成比率は、調査年度ごとに「少しそう思う」と「あまりそうは思わない」の比率が高くなっている。

問11-3	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	2,444	63.7%	2,356	64.0%	1,882	59.7%	1,507	50.6%
2	1,055	27.5%	1,069	29.0%	1,078	34.2%	1,245	41.8%
1+2	3,499	91.2%	3,425	93.0%	2,960	93.9%	2,752	92.4%
3	161	4.2%	166	4.5%	156	4.9%	178	6.0%
4	29	0.8%	19	0.5%	17	0.5%	15	0.5%
99	146	3.8%	72	2.0%	21	0.7%	34	1.1%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-3 「年度別 過剰容器や包装材」 構成比率

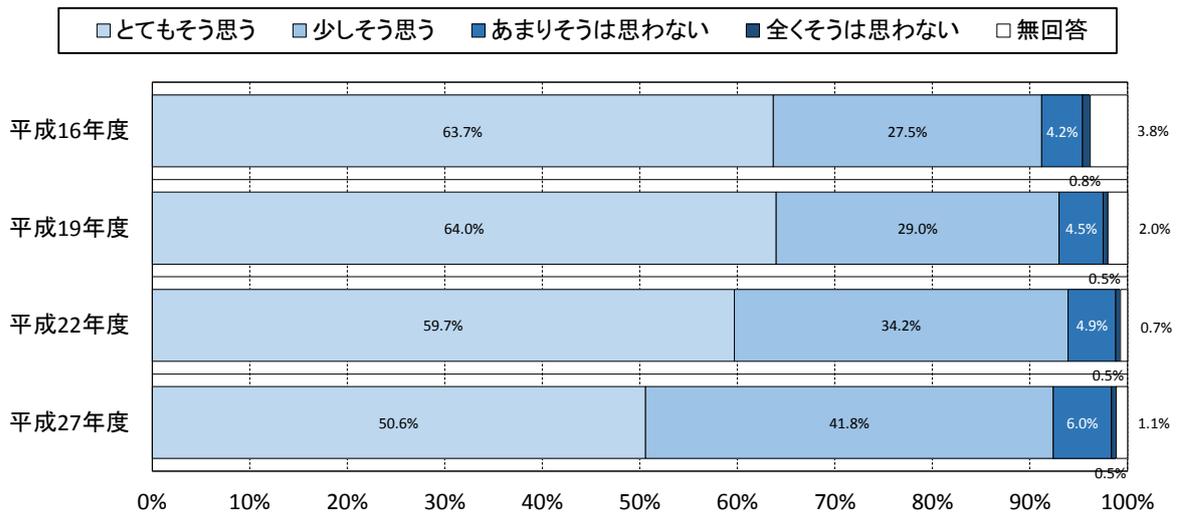


図 7-2-3 「年度別 過剰容器や包装材」構成比率

(4) レンタル製品など多くの方が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。

「レンタル製品等への抵抗感」の構成比率は、調査年度ごとに「少しそう思う」の比率が高くなっている。

問1-4	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	622	16.2%	637	17.3%	556	17.6%	457	15.3%
2	1,543	40.2%	1,578	42.9%	1,364	43.2%	1,304	43.8%
3	1,118	29.2%	1,003	27.2%	878	27.8%	860	28.9%
4	334	8.7%	338	9.2%	301	9.5%	277	9.3%
99	218	5.7%	126	3.4%	55	1.9%	81	2.7%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-4 「年度別 レンタル製品等への抵抗感」 構成比率

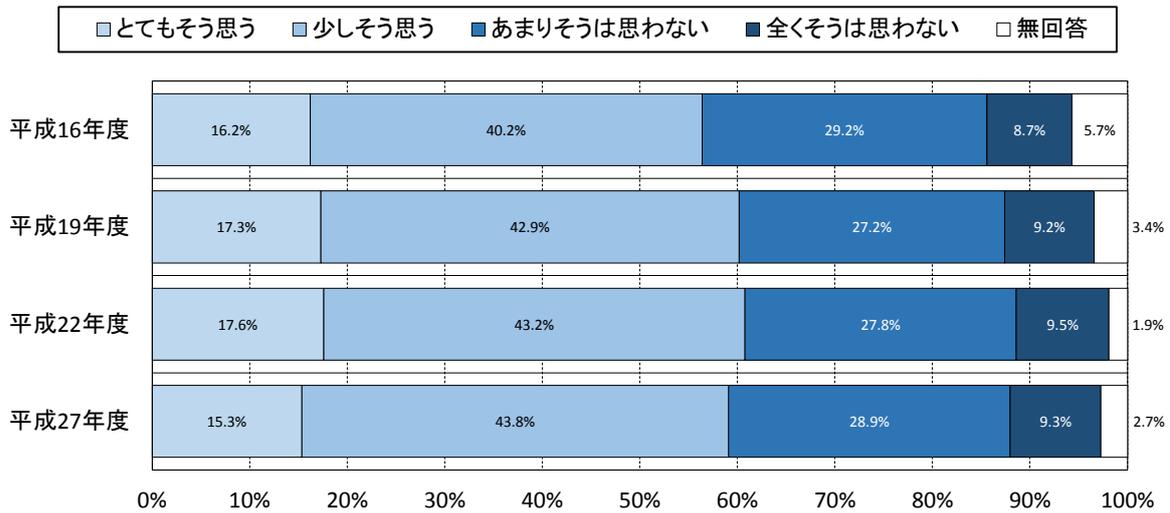


図 7-2-4 「年度別 レンタル製品等への抵抗感」構成比率

7-2-2 問12 次のそれぞれの場合についてあなたはどの程度あてはまりますか？

(1) 特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまおう。

「必要なくても買ってしまおう」の構成比率は、調査年度ごとに「あまり当てはまらない」と「全く当てはまらない」の計の比率が高くなっている。

問12-1		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よく当てはまる	215	5.6%	240	6.5%	204	6.5%	156	5.2%
2	少し当てはまる	1,174	30.6%	1,131	30.7%	988	31.3%	849	28.5%
3	あまり当てはまらない	1,450	37.8%	1,350	36.7%	1,205	38.2%	1,282	43.0%
4	全く当てはまらない	852	22.2%	888	24.1%	738	23.4%	662	22.2%
3+4		2,302	60.0%	2,238	60.8%	1,943	61.6%	1,944	65.2%
99	無回答	144	3.8%	73	2.0%	19	0.6%	30	1.1%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-5 「年度別 必要なくても買ってしまおう」構成比率

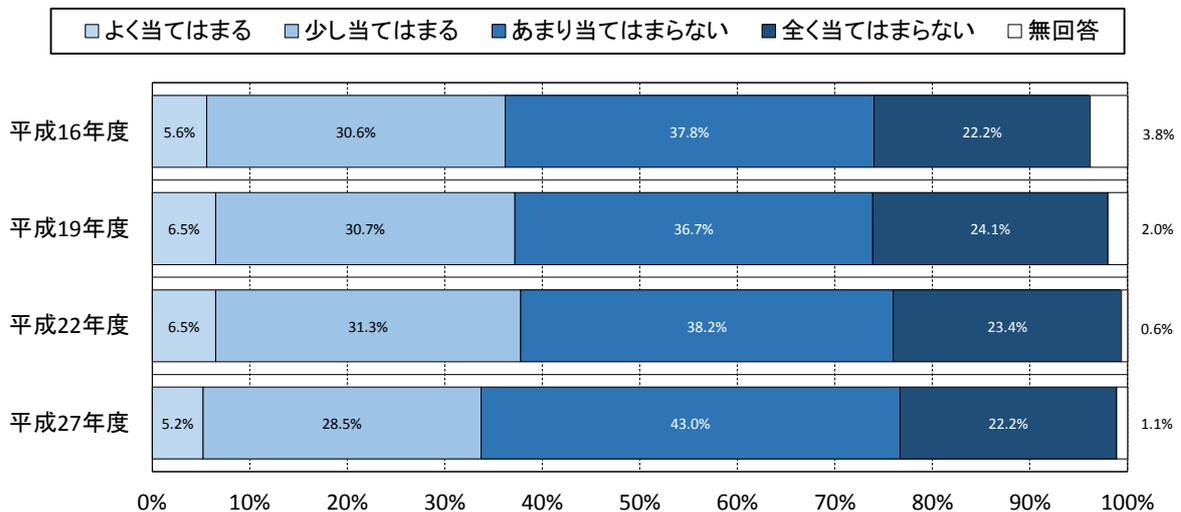


図 7-2-5 「年度別 必要なくても買ってしまおう」構成比率

(2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い換える。

「修理より買い替え」の構成比率は、調査年度ごとの変化はあまりみられない。

問12-2	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度		
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
1	よく当てはまる	455	11.9%	431	11.7%	379	12.0%	380	12.8%
2	少し当てはまる	1,060	27.6%	1,108	30.1%	942	29.9%	955	32.1%
3	あまり当てはまらない	1,432	37.3%	1,293	35.1%	1,185	37.6%	1,162	39.0%
4	全く当てはまらない	734	19.1%	764	20.7%	621	19.7%	447	15.0%
3+4		2,166	56.4%	2,057	55.8%	1,806	57.3%	1,609	54.0%
99	無回答	154	4.1%	86	2.4%	27	0.8%	35	1.1%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-6 「年度別 修理より買い替え」 構成比率

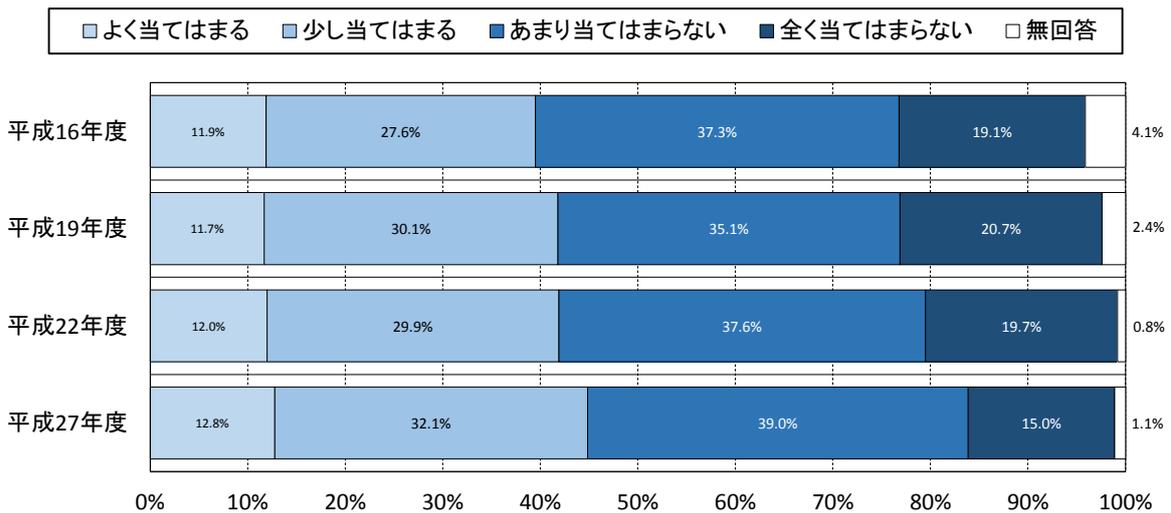


図 7-2-6 「年度別 修理より買い替え」 構成比率

(3) お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。

「環境やごみを考えず商品を選ぶ」の構成比率は、調査年度ごとの変化はあまりみられない。

問12-3	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度		
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
1	よく当てはまる	670	17.5%	652	17.7%	533	16.9%	486	16.3%
2	少し当てはまる	1,624	42.3%	1,601	43.5%	1,399	44.4%	1,322	44.4%
3	あまり当てはまらない	1,121	29.2%	1,089	29.6%	952	30.2%	916	30.7%
4	全く当てはまらない	256	6.7%	260	7.1%	248	7.9%	199	6.7%
3+4		1,377	35.9%	1,349	36.7%	1,200	38.1%	1,115	37.4%
99	無回答	164	4.3%	80	2.1%	22	0.6%	56	1.9%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-7 「年度別 環境やごみを考えず商品を選ぶ」 構成比率

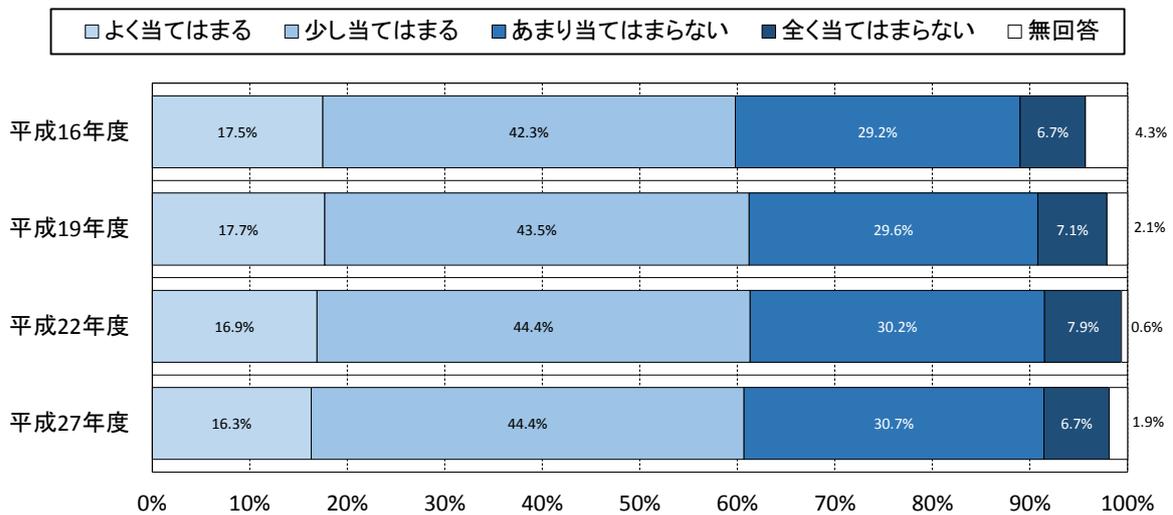


図 7-2-7 「年度別 環境やごみを考えず商品を選ぶ」構成比率

(4) 一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。

「レンタルよりも新品購入」の構成比率は、調査年度ごとの変化はあまりみられない。

問12-4	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	789	20.6%	771	20.9%	637	20.2%	594	19.9%
2	1,235	32.2%	1,209	32.8%	1,076	34.1%	1,041	34.9%
3	1,050	27.4%	1,043	28.3%	883	28.0%	859	28.8%
4	595	15.5%	567	15.4%	520	16.5%	415	13.9%
3+4	1,645	42.9%	1,610	43.7%	1,403	44.5%	1,274	42.7%
99	166	4.3%	92	2.6%	38	1.2%	70	2.5%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-8 「年度別 レンタルよりも新品購入」構成比率

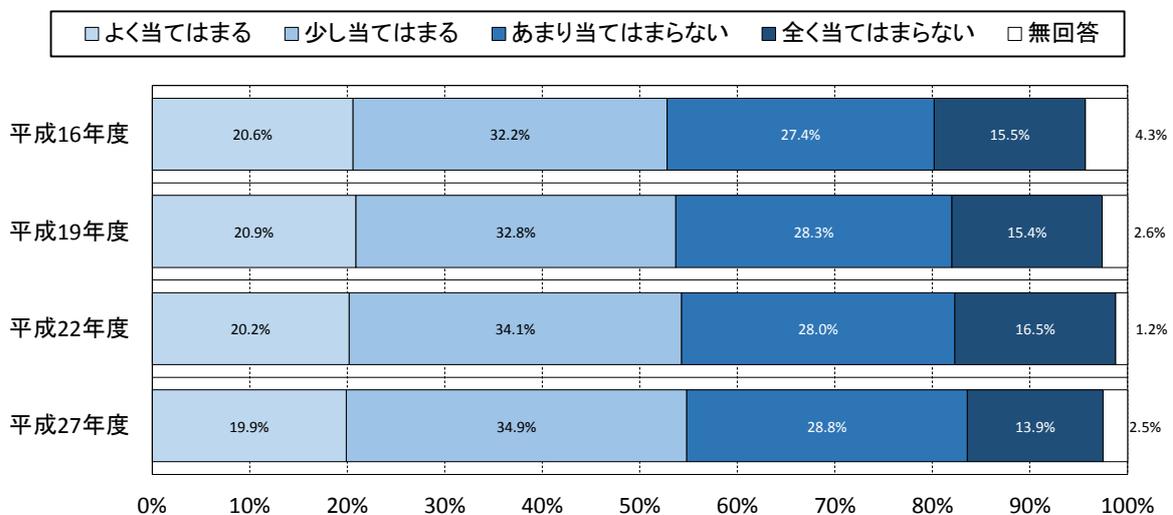


図 7-2-8 「年度別 レンタルよりも新品購入」構成比率

7-2-3 問14 食べ物のごみについてお聞きます。

(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？

「食材を捨てる」の構成比率は、調査年度ごとに「よくある」の比率が低くなっている。

問14-1		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくある	651	17.0%	624	16.9%	402	12.7%	377	12.7%
2	たまにある	2,004	52.3%	1,843	50.1%	1,571	49.8%	1,533	51.5%
3	あまりない	642	16.7%	651	17.7%	624	19.8%	628	21.1%
4	ほとんどない	494	12.9%	502	13.6%	541	17.2%	404	13.6%
99	無回答	44	1.1%	62	1.7%	16	0.5%	37	1.1%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-9 「年度別 食材を捨てる」構成比率

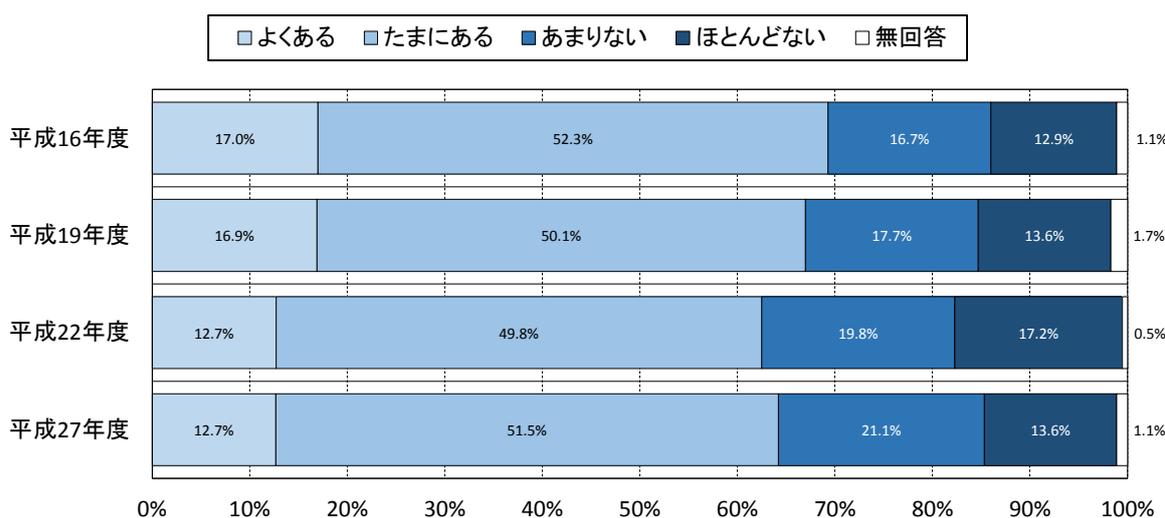


図 7-2-9 「年度別 食材を捨てる」構成比率

(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？

「食べきれず料理を捨てる」の構成比率は、調査年度ごとに「あまりない」の比率が高くなっている。

問14-2		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	よくある	400	10.4%	368	10.0%	199	6.3%	207	6.9%
2	たまにある	1,578	41.1%	1,410	38.3%	1,119	35.5%	1,120	37.6%
3	あまりない	970	25.3%	928	25.2%	886	28.1%	887	29.8%
4	ほとんどない	845	22.0%	906	24.6%	930	29.5%	717	24.1%
99	無回答	42	1.2%	70	1.9%	20	0.6%	48	1.6%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-2-10 「年度別 食べきれず料理を捨てる」構成比率

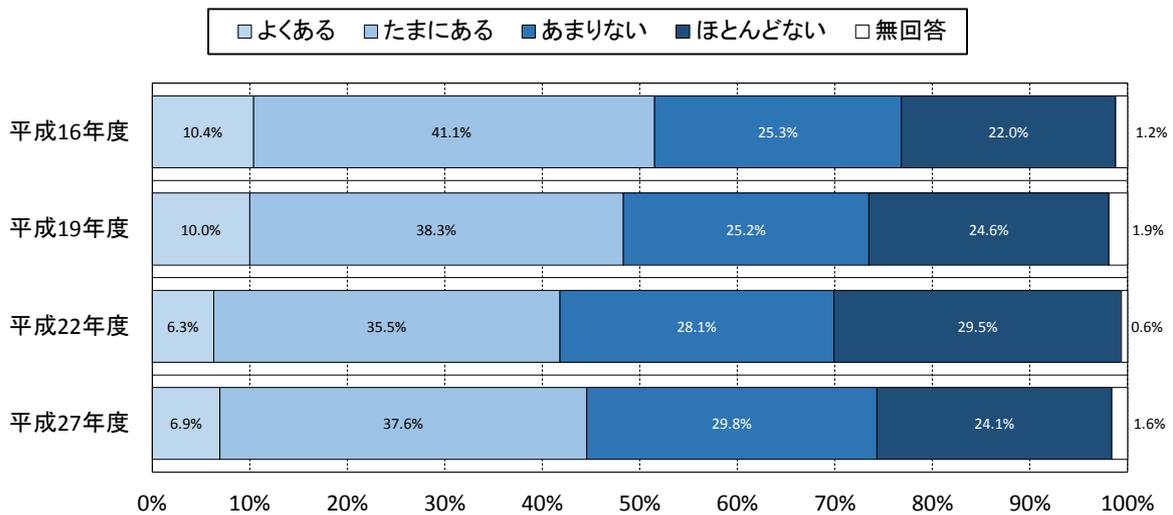


図 7-2-10 「年度別 食べきれず料理を捨てる」構成比率

7-2-4 問17 使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果としてごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか？

「使い捨て商品と大量のごみ」の構成比率は、調査年度ごとに「どちらかというと感じる」の比率が減少してきている。

問17		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	特に疑問は感じていない	152	4.0%	131	3.6%	137	4.5%	210	7.0%
2	どちらかというと感じる	3,463	90.3%	3,298	89.6%	2,641	86.9%	2,396	80.4%
3	よくわからない	166	4.3%	173	4.7%	216	7.1%	302	10.1%
99	無回答	54	1.4%	80	2.1%	44	1.5%	71	2.5%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,038	100%	2,979	100%

表 7-2-11 「年度別 使い捨て商品と大量のごみ」構成比率

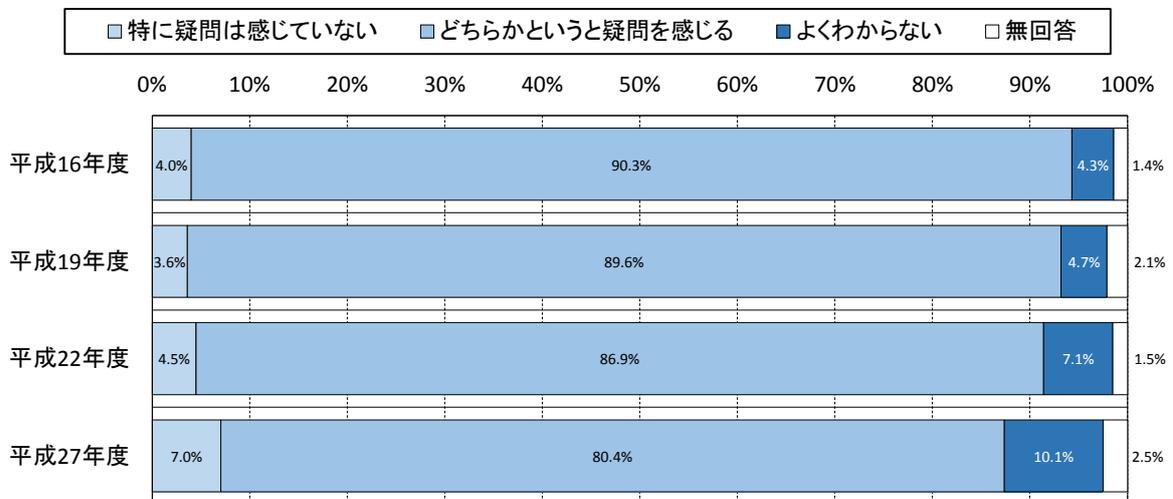


図 7-2-11 「年度別 使い捨て商品と大量のごみ」構成比率

7-2-5 問18 ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？

「コストをかけた資源としての有効利用」の構成比率は、調査年度ごとに「とてもそう思う」が大幅に減少し、「少しそう思う」は調査年度ごとに増加している。「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計は調査年度ごとに減少している。

問18		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	とてもそう思う	2,293	59.8%	2,057	55.9%	1,420	46.7%	1,179	39.6%
2	少しそう思う	1,320	34.4%	1,333	36.2%	1,353	44.5%	1,510	50.7%
1+2		3,613	94.2%	3,390	92.1%	2,773	91.2%	2,689	90.3%
3	あまりそうは思わない	142	3.7%	194	5.3%	186	6.1%	203	6.8%
3	全くそうは思わない	28	0.7%	26	0.7%	24	0.8%	16	0.5%
99	無回答	52	1.4%	72	1.9%	55	1.9%	71	2.4%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,038	100%	2,979	100.0%

表 7-2-12 「年度別 コストをかけた資源としての有効活用」構成比率

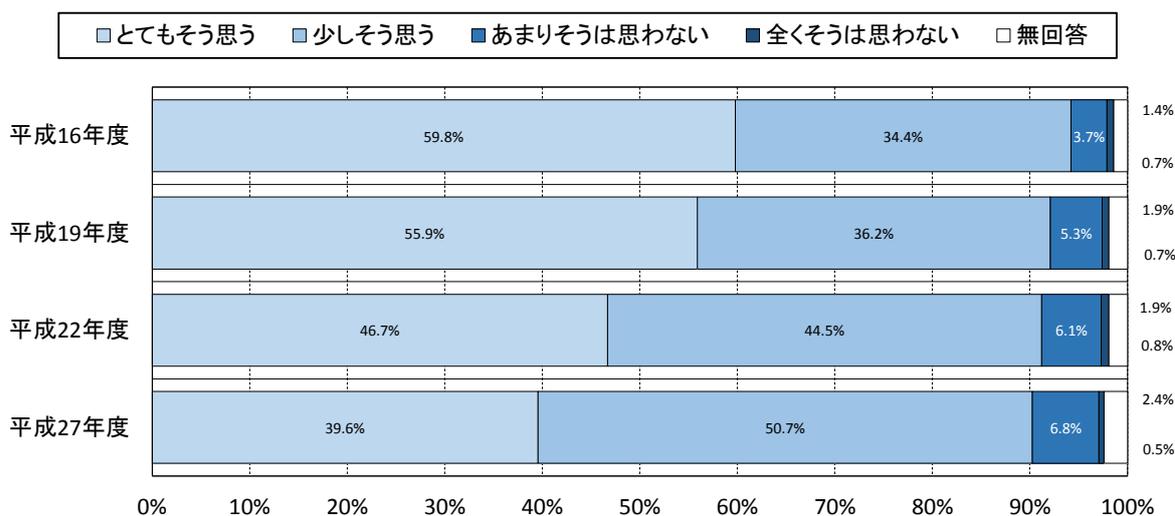


図 7-2-12 「年度別 コストをかけた資源としての有効利用」構成比率

7-3 現在行っているごみ減量やリサイクルの取組について

7-3-1 問19 ごみを減らす取組の中でどれが大切だと思いますか？

(1) 最も大切だと思うごみを減らす取組

「最も大切な取組」の構成比率は、いずれの年度においても「ごみの発生を減らすこと」が最も高くなっている。

問19-1		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	ごみの発生を減らすこと	2,146	56.0%	2,149	58.4%	1,811	57.4%	1,557	52.3%
2	製品等を繰り返し使うこと	522	13.6%	490	13.3%	451	14.3%	387	13.0%
3	原材料として有効利用すること	838	21.9%	703	19.1%	791	25.1%	845	28.4%
99	無回答	329	8.5%	340	9.2%	101	3.2%	190	6.3%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-3-1 「年度別 最も大切な取組」構成比率

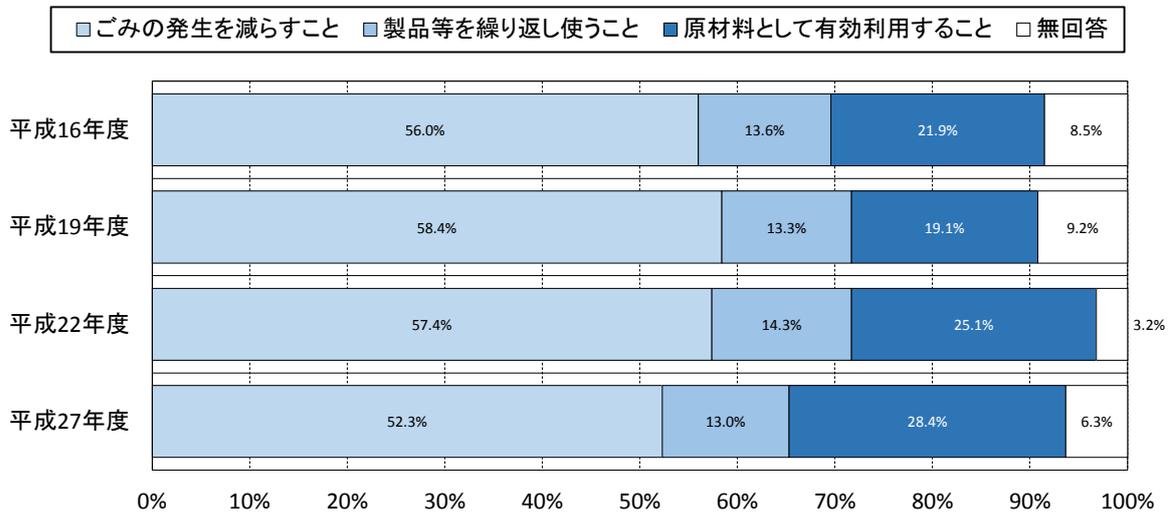


図 7-3-1 「年度別 最も大切な取組」構成比率

(2) 次に大切だと思うごみを減らす取組

「次に大切な取組」の構成比率は、いずれの年度においても「原材料として有効利用すること」が最も高くなっている。

問19-2	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 1	491	12.8%	433	11.8%	481	15.3%	543	18.2%
2 2	1,036	27.0%	1,228	33.4%	1,114	35.3%	922	30.9%
3 3	1,551	40.4%	1,541	41.9%	1,211	38.4%	1,170	39.3%
99 無回答	757	19.8%	480	12.9%	348	11.0%	344	11.6%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-3-2 「年度別 次に大切な取組」構成比率

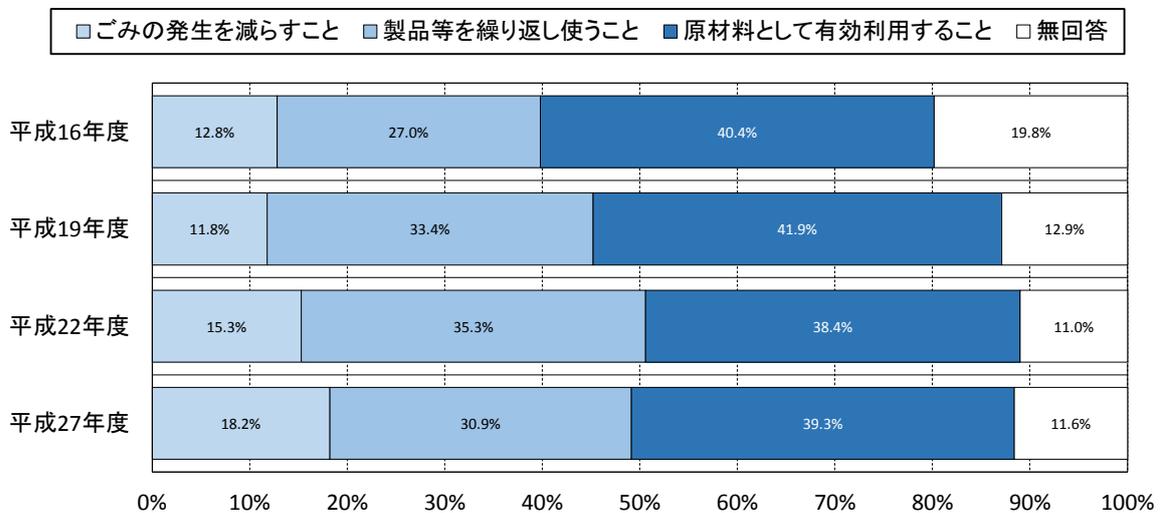


図 7-3-2 「年度別 次に大切な取組」構成比率

7-3-2 問20 あなたのご家庭では、次のうち、資源ごみとして市町の収集に出している品目はどれですか？

「市町の収集に資源ごみとして出している品目」の各年度の上位5品目は、順位は変化しているが、「空きびん」、「アルミ缶」、「ペットボトル」、「新聞」、「雑誌」で、いずれもほぼ8割と高い割合になっている。

問20		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	新聞	3,168	82.6%	3,001	81.5%	2,567	81.4%	2,239	75.2%
2	雑誌	2,967	77.4%	2,872	78.0%	2,542	80.6%	2,266	76.1%
3	牛乳パック	2,165	56.5%	1,957	53.2%	1,811	57.4%	1,593	53.5%
4	古布や衣類	2,144	55.9%	2,282	62.0%	2,133	67.6%	2,050	68.8%
5	食品トレイ	2,197	57.3%	1,957	53.2%	1,863	59.1%	1,772	59.5%
6	ペットボトル	3,042	79.3%	2,996	81.4%	2,669	84.6%	2,424	81.4%
7	アルミ缶	3,201	83.5%	3,039	82.5%	2,711	86.0%	2,451	82.3%
8	スチール缶	2,841	74.1%	2,677	72.7%	2,464	78.1%	2,316	77.7%
9	空きびん	3,111	81.1%	2,983	81.0%	2,713	86.0%	2,555	85.8%
10	蛍光管	1,630	42.5%	1,598	43.4%	1,716	54.4%	1,814	60.9%
11	電池類	1,977	51.6%	1,920	52.1%	2,066	65.5%	2,115	71.0%
12	あてはまるものなし	50	1.3%	40	1.1%	36	1.1%	62	2.1%
総回答数		28,493		27,322		25,291		23,657	
有効回答数		3,835	743.1%	3,682	742.1%	3,154	801.8%	2,979	794.3%

表 7-3-3 「年度別 市町の収集に出している品目」回答状況

問20順位表		平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成27年度
1	空きびん	3	4	1	1
2	アルミ缶	1	1	2	2
3	ペットボトル	4	3	3	3
4	スチール缶	6	6	6	4
5	雑誌	5	5	5	5
6	新聞	2	2	4	6
7	電池類	10	10	8	7
8	古布や衣類	9	7	7	8
9	蛍光管	11	11	11	9
10	食品トレイ	7	8	9	10
11	牛乳パック	8	9	10	11
12	あてはまるものなし	12	12	12	12

表 7-3-4 「年度別 市町の収集に出している品目」順位表

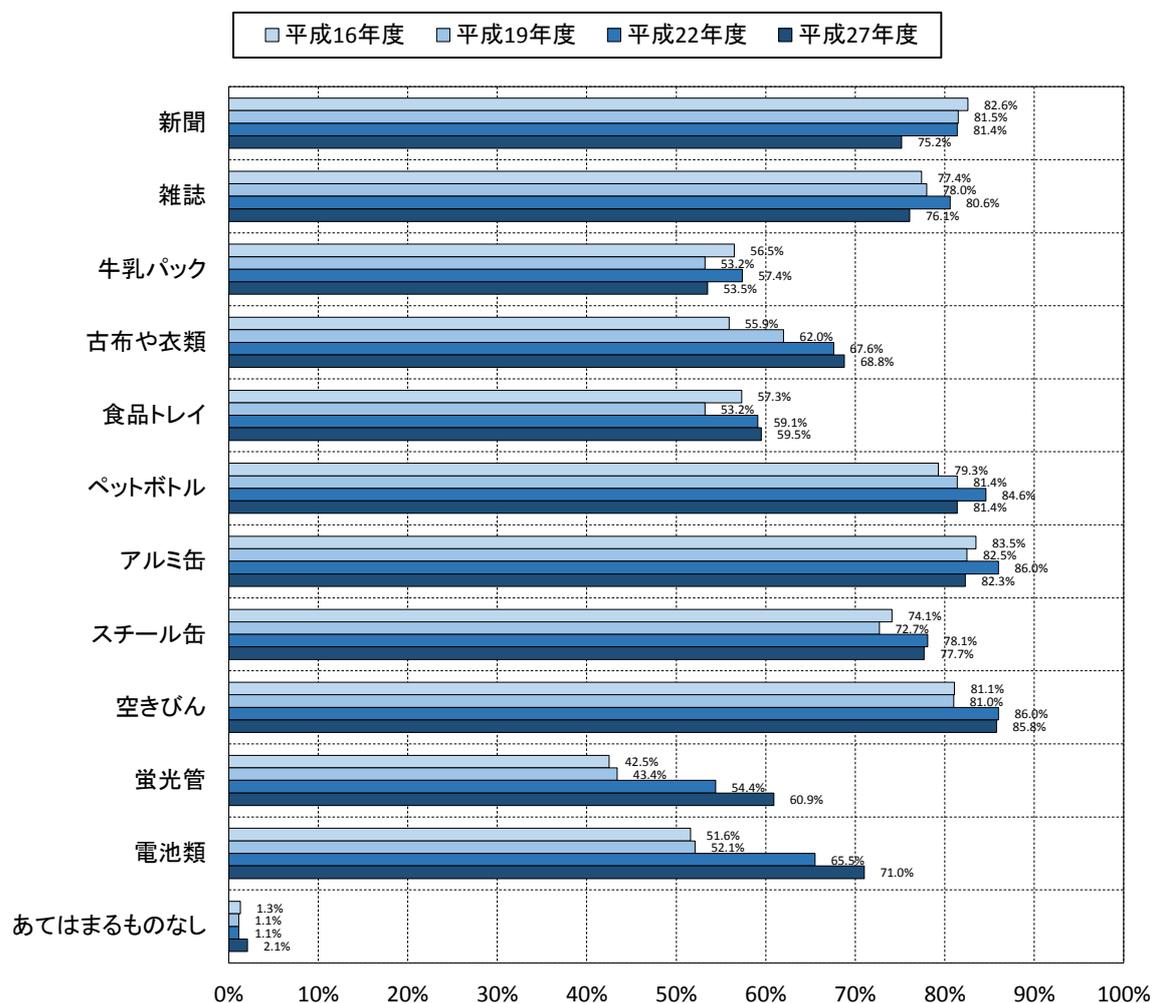


図 7-3-3 「年度別 市町の収集に出している品目」回答率

7-3-3 問21 あなたのご家庭では、次のうち、お店に持って行って回収してもらっている品目はどれですか？

「店頭で回収してもらっている品目」は、いずれの年度も上位3品目の順位は変化しているが、「食品トレイ」、「ペットボトル」、「牛乳パック」となっている。

問11	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 新聞	179	4.7%	215	5.8%	288	9.1%	419	14.1%
2 雑誌	126	3.3%	163	4.4%	226	7.2%	345	11.6%
3 牛乳パック	1,070	27.9%	1,018	27.6%	899	28.5%	852	28.6%
4 古布や衣類	60	1.6%	83	2.3%	134	4.2%	209	7.0%
5 食品トレイ	1,487	38.8%	1,364	37.0%	1,298	41.2%	1,169	39.2%
6 ペットボトル	1,073	28.0%	1,126	30.6%	1,029	32.6%	1,108	37.2%
7 アルミ缶	507	13.2%	569	15.5%	619	19.6%	752	25.2%
8 スチール缶	277	7.2%	270	7.3%	321	10.2%	373	12.5%
9 空きびん	549	14.3%	444	12.1%	355	11.3%	344	11.5%
10 蛍光管	354	9.2%	297	8.1%	288	9.1%	286	9.6%
11 電池類	592	15.4%	506	13.7%	453	14.4%	373	12.5%
12 あてはまるものなし	1,119	29.2%	1,107	30.1%	943	29.9%	867	29.1%
総回答数	7,393		7,162		6,853		7,097	
有効回答数	3,835	192.8%	3,682	194.5%	3,154	217.3%	2,979	238.1%

表 7-3-5 「年度別 店頭で回収してもらっている品目」回答状況

問21順位表		平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成27年度
1	食品トレイ	1	1	1	1
2	ペットボトル	3	2	2	2
3	あてはまるものなし	2	3	3	3
4	牛乳パック	4	4	4	4
5	アルミ缶	7	5	5	5
6	新聞	10	10	10	6
7	スチール缶	9	9	8	7
8	電池類	5	6	6	8
9	雑誌	11	11	11	9
10	空きびん	6	7	7	10
11	蛍光管	8	8	9	11
12	古布や衣類	12	12	12	12

表 7-3-6 「年度別 店頭で回収してもらっている品目」順位表

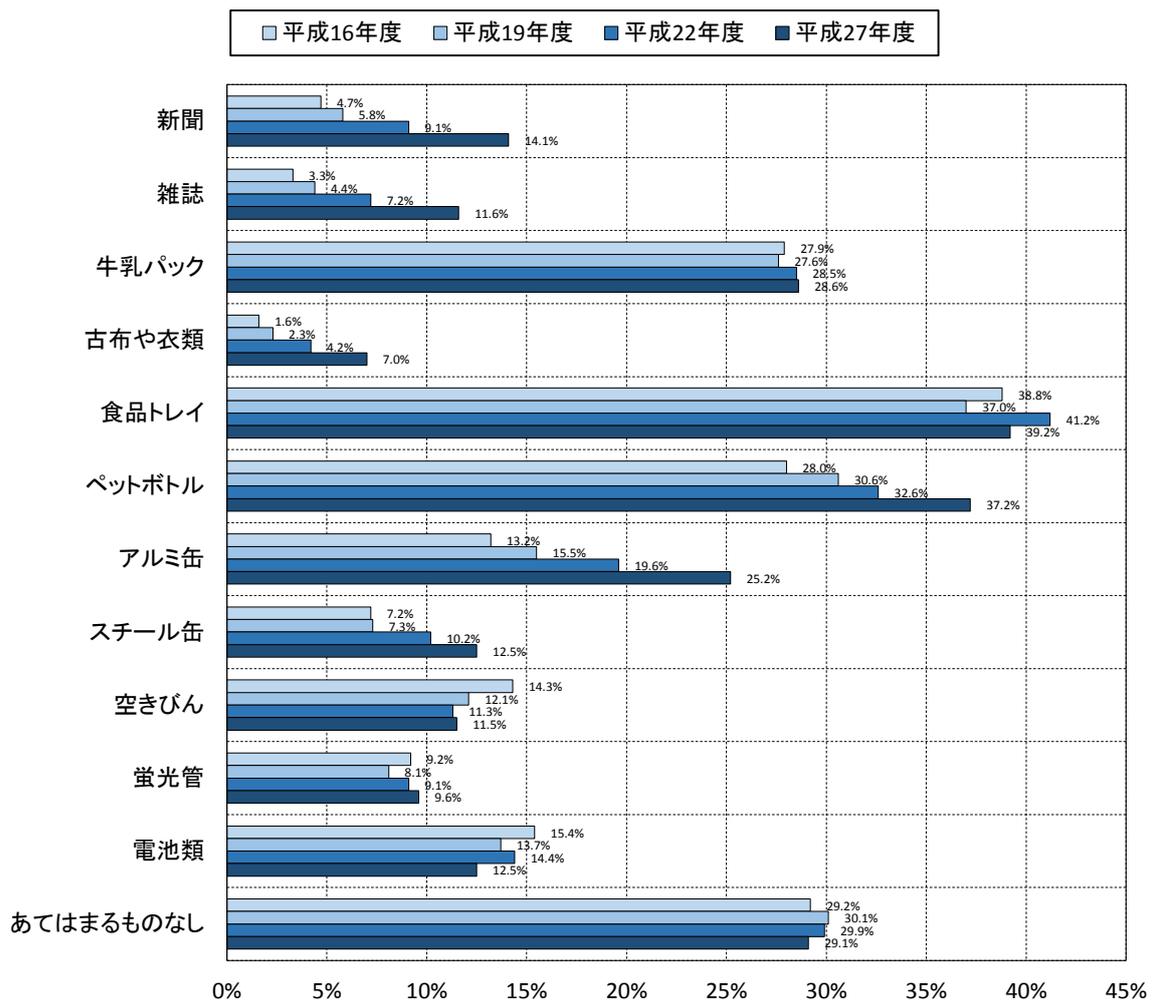


図 7-3-4 「年度別 店頭で回収してもらっている品目」回答率

7-3-4 問22 あなたのご家庭では、次のうち、地域で行われている廃品回収（集団回収）に出している品目はどれですか？

「集団回収に出している品目」は、上位5品目の順位は同じである。

問21	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 新聞	2,445	63.8%	2,169	58.9%	1,958	62.1%	1,758	59.0%
2 雑誌	2,102	54.8%	1,884	51.2%	1,794	56.9%	1,626	54.6%
3 牛乳パック	783	20.4%	760	20.6%	765	24.3%	762	25.6%
4 古布や衣類	1,295	33.8%	1,225	33.3%	1,170	37.1%	1,110	37.3%
5 食品トレイ	621	16.2%	536	14.6%	580	18.4%	616	20.7%
6 ペットボトル	893	23.3%	885	24.0%	969	30.7%	944	31.7%
7 アルミ缶	1,528	39.8%	1,364	37.0%	1,367	43.3%	1,258	42.2%
8 スチール缶	976	25.4%	882	24.0%	967	30.7%	946	31.8%
9 空きびん	1,255	32.7%	1,083	29.4%	1,140	36.1%	1,038	34.8%
10 蛍光管	579	15.1%	584	15.9%	675	21.4%	705	23.7%
11 電池類	644	16.8%	655	17.8%	715	22.7%	794	26.7%
12 あてはまるものなし	684	17.8%	808	21.9%	696	22.1%	713	23.9%
総回答数	13,805	359.9%	12,835	348.6%	12,796	405.8%	12,270	412.0%
有効回答数	3,835		3,682		3,154		2,979	

表 7-3-7 「年度別 集団回収に出している品目」回答状況

問22順位表	平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成27年度
1 新聞	1	1	1	1
2 雑誌	2	2	2	2
3 アルミ缶	3	3	3	3
4 古布や衣類	4	4	4	4
5 空きびん	5	5	5	5
6 スチール缶	6	7	7	6
7 ペットボトル	7	6	6	7
8 電池類	10	10	9	8
9 牛乳パック	8	9	8	9
10 あてはまるものなし	9	8	10	10
11 蛍光管	12	11	11	11
12 食品トレイ	11	12	12	12

表 7-3-8 「年度別 集団回収に出している品目」順位表

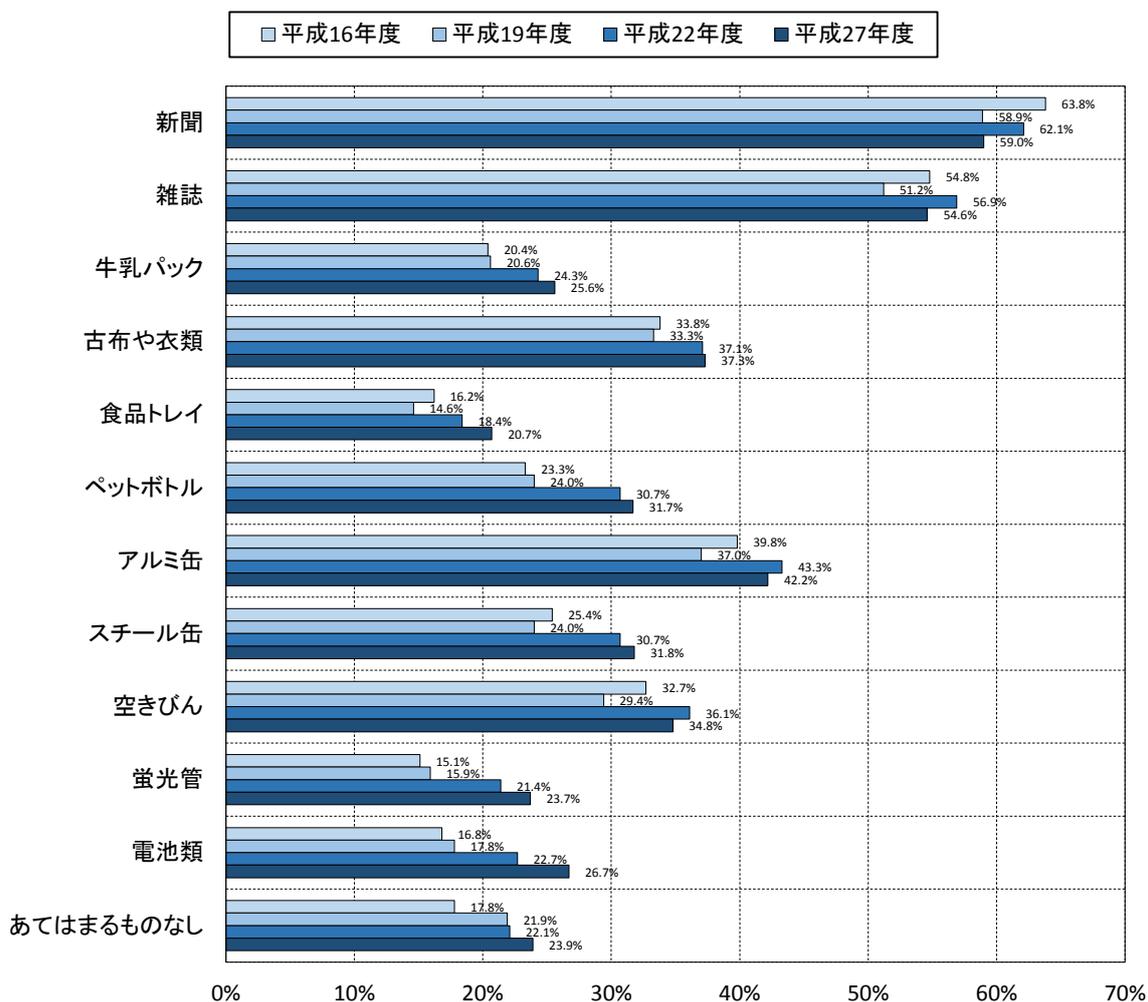


図 7-3-5 「年度別 集団回収に出している品目」回答率

7-3-5 問24 ごみを分別するのに、あなたは1日あたりおよそどのくらいの時間をかけていると思いますか？

「ごみの分別時間」については、平成27年度は平成22年度と大きな変化はない。

問24	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 1時間以上	66	1.7%	73	2.0%	269	8.5%	216	7.3%
2 30分~1時間	195	5.1%	170	4.6%	173	5.5%	158	5.3%
3 10分~30分	1,131	29.5%	958	26.0%	874	27.7%	801	26.9%
4 数分程度	1,704	44.4%	1,740	47.3%	1,433	45.4%	1,403	47.0%
5 ほとんどかけていない	615	16.0%	609	16.5%	341	10.8%	324	10.9%
99 無回答	124	3.3%	132	3.6%	64	2.1%	77	2.6%
計	3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100.0%

表 7-3-9 「年度別 ごみの分別時間」回答状況

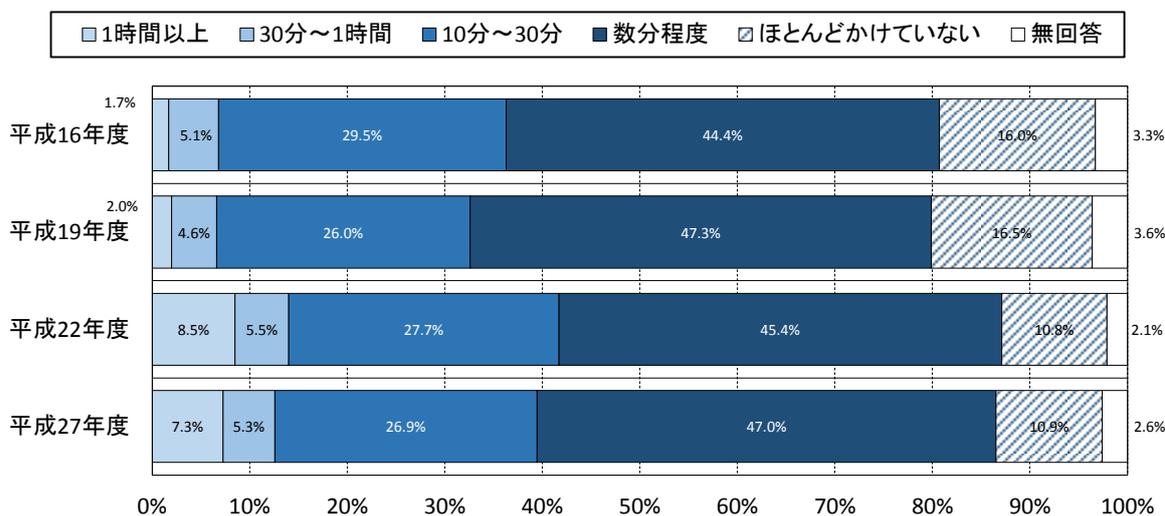


図 7-3-6 「年度別 ごみの分別時間」回答率

7-3-6 問27 あなたのご家庭では、ごみを出すにあたり、どのような問題がありますか？

「ごみを出すにあたっての問題」については、「収集日時が限られている」が各年度で最も高くなっている。各年度の順位は多少の変化はあるが、上位4項目は同じである。

問27	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1 分別ルールが複雑でわかりにくい	770	20.1%	701	19.0%	700	22.2%	558	18.7%
2 市町ごとにルールが異なり覚えにくい	327	8.5%	356	9.7%	378	9.9%	305	10.2%
3 次の収集日までごみを保管しておく場所がない	900	23.5%	693	18.8%	639	16.7%	561	18.8%
4 収集日時が限られている	1,609	42.0%	1,384	37.6%	1,197	31.2%	1,034	34.7%
5 ごみ集積所（ステーション）まで遠い	401	10.5%	350	9.5%	284	7.4%	289	9.7%
6 洗ったり束ねたり手間がかかる	1,216	31.7%	975	26.5%	753	19.6%	662	22.2%
7 その他	408	10.6%	313	8.5%	137	3.6%	104	3.5%
8 特に問題はない	-	-	-	-	1,000	26.1%	1,153	38.7%
総回答数	5,631	146.9%	4,772	129.6%	5,088	136.7%	4,666	156.6%
有効回答数	3,835		3,682		3,154		2,979	

表 7-3-10 「年度別 ごみを出すにあたっての問題」回答状況

問17順位表		平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成27年度
1	収集日時が限られている	1	1	1	1
2	洗ったり束ねたり手間がかかる	2	2	2	2
3	分別ルールが複雑でわかりにくい	4	3	3	3
4	次の収集日までごみを保管しておく場所がない	3	4	4	4
5	市町ごとにルールが異なり覚えにくい	7	5	5	5
6	ごみ集積所（ステーション）まで遠い	6	6	6	6
7	その他	5	7	7	7

表 7-3-11 「年度別 ごみを出すにあたっての問題」順位表

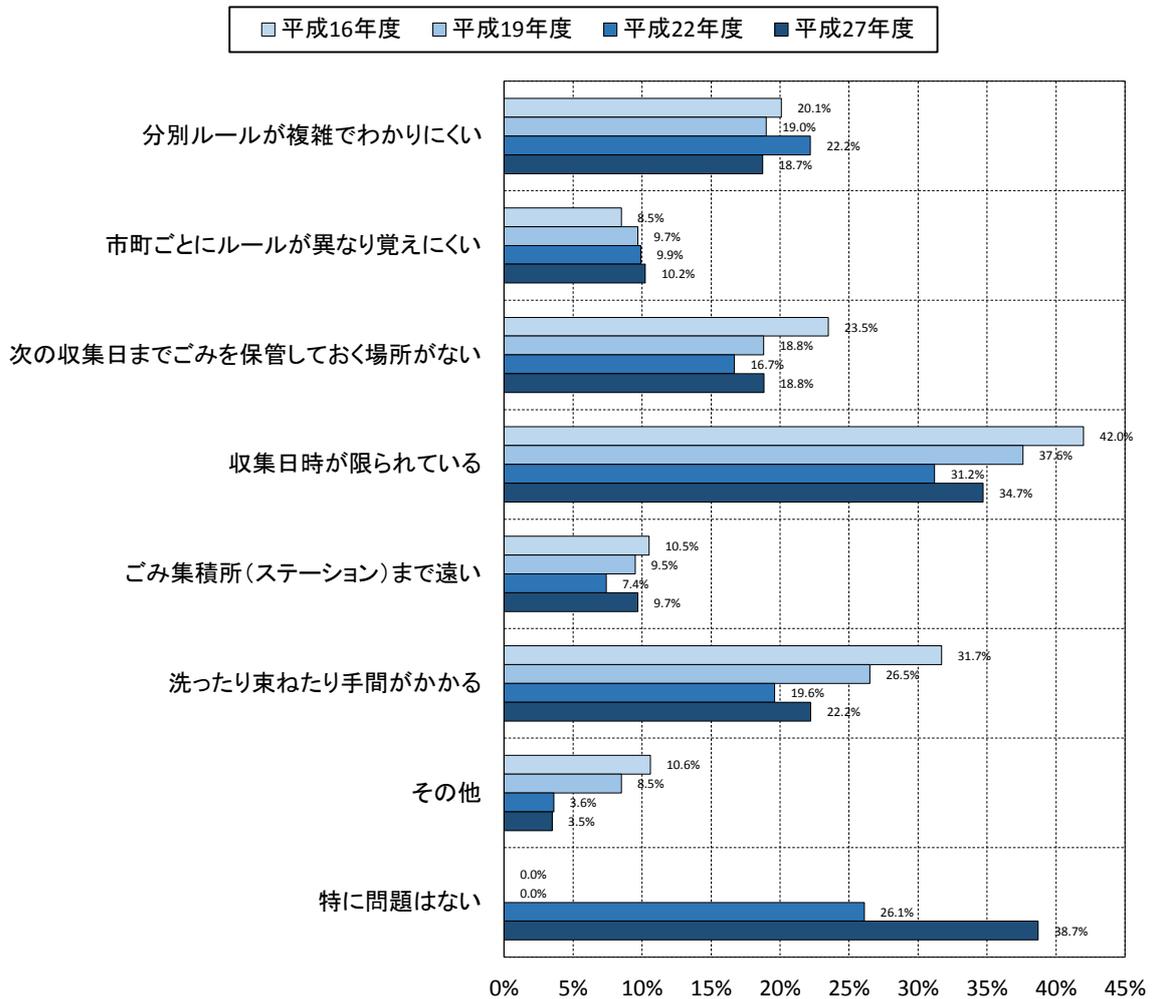


図 7-3-7 「年度別 問題」回答率

7-4 今後の方策に対する意向について

7-4-1 問28 今後あなたが、暮らしの工夫によって「家庭から出る量を減らせる」と思えるものはどれですか？

「家庭から出る量を減らせるごみ」の各年度の上位5項目を比較すると、「食べ残し」、「調理くず」、「賞味期限切れ食品」といった食べ物のごみが上位を占めている。各年度と比較し平成27年度は、「紙容器、紙袋や包装紙」、「新聞」、「プラスチック容器」、「紙バック」が大幅に増加している。容器包装リサイクル法により市町の分別が進み、「紙容器、紙袋や包装紙」、「プラスチック容器」、「紙バック」への関心が高まったことがつかえる。また、「レジ袋」は平成22年度では1.5%であったが、平成27年度は22.7%と大幅に減少している。レジ袋の有料化が導入された平成22年度頃のレジ袋への意識が常識化されたことが一因であると思われる。

問28		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	調理くず	1,653	43.1%	1,512	41.1%	1,432	45.4%	1,153	38.7%
2	食べ残し	2,131	55.6%	2,173	59.0%	2,001	63.4%	1,227	41.2%
3	賞味期限切れ食品	2,143	55.9%	2,060	55.9%	1,906	60.4%	1,810	60.8%
4	紙容器、紙袋や包装紙	1,262	32.9%	1,201	32.6%	906	28.7%	1,766	59.3%
5	新聞	381	9.9%	386	10.5%	371	11.8%	770	25.8%
6	チラシ	658	17.2%	675	18.3%	597	18.9%	366	12.3%
7	雑誌	613	16.0%	645	17.5%	586	18.6%	594	19.9%
8	段ボール	501	13.1%	501	13.6%	487	15.4%	525	17.6%
9	紙パック	381	9.9%	383	10.4%	383	12.1%	476	16.0%
10	古着類	780	20.3%	809	22.0%	701	22.2%	290	9.7%
11	ペットボトル	722	18.8%	802	21.8%	900	28.5%	650	21.8%
12	レジ袋	1,754	45.7%	1,883	51.1%	1,404	44.5%	676	22.7%
13	プラスチック容器	671	17.5%	706	19.2%	611	19.4%	1,075	36.1%
14	びん	414	10.8%	435	11.8%	376	11.9%	492	16.5%
15	缶	372	9.7%	386	10.5%	431	13.7%	335	11.2%
16	粗大ごみ	686	17.9%	688	18.7%	623	19.8%	369	12.4%
17	その他	64	1.7%	49	1.3%	63	2.0%	505	17.0%
総回答数		15,186	396.0%	15,294	415.3%	13,778	436.8%	13,079	439.0%
有効回答数		3,835		3,682		3,154		2,979	

表 7-4-1 「年度別 家庭から出る量を減らせるごみ」回答状況

問28順位表		平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成27年度
1	賞味期限切れ食品	1	2	3	1
2	紙容器、紙袋や包装紙	5	5	4	2
3	食べ残し	2	1	1	3
4	調理くず	4	4	2	4
5	プラスチック容器	9	8	13	5
6	新聞	14	14	6	6
7	レジ袋	3	3	8	7
8	ペットボトル	7	7	10	8
9	雑誌	11	11	7	9
10	段ボール	12	12	14	10
11	その他	17	17	11	11
12	紙パック	15	16	15	12
13	粗大ごみ	8	9	12	13
14	チラシ	10	10	5	14
15	びん	13	13	16	15
16	缶	16	15	17	16
17	古着類	6	6	9	17

表 7-4-2 「年度別 家庭から出る量を減らせるごみ」順位表

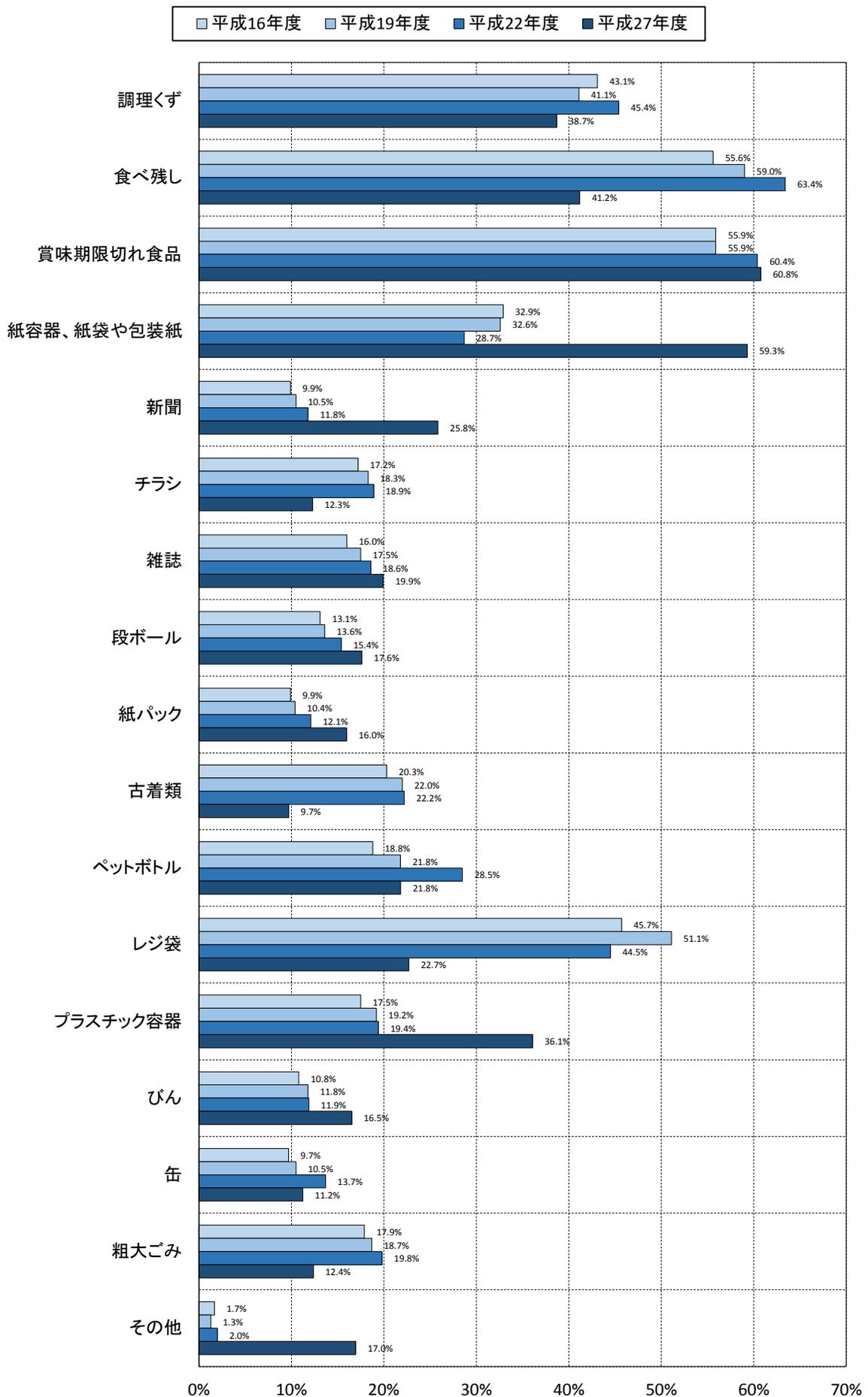


図 7-4-1 「年度別 家庭から出る量を減らせるごみ」回答率

7-4-2 問35 増え続けるごみを減らすため、ごみ（可燃ごみ）の排出に料金を課す市町が増えています。税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか？

「税金を使ってごみ処理を行うこと」については、「量に応じ出す人が負担する」が各年度で最も高くなっている。
 調査年度ごとの変化はあまりみられないが、「よくわからない」が調査年度ごとに増えている。
 「税金で処理する」が27.6%⇒22.1%⇒24.5%⇒23.6%、また「量に応じ出す人が負担する」は、44.8%⇒49.5%⇒46.8%⇒47.6%と変化している。

問35		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	税金で処理する	1,058	27.6%	815	22.1%	773	24.5%	703	23.6%
2	量に応じ出す人が負担する	1,718	44.8%	1,821	49.5%	1,475	46.8%	1,418	47.6%
3	福祉や教育等に使うのがよい	485	12.6%	521	14.1%	372	11.8%	297	10.0%
4	よくわからない	80	2.1%	76	2.1%	403	12.8%	413	13.9%
5	その他	241	6.3%	292	7.9%	53	1.7%	42	1.4%
99	無回答	253	6.6%	157	4.3%	78	2.4%	106	3.5%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-4-3 年度別「税金を使ってごみ処理を行うこと」 回答状況

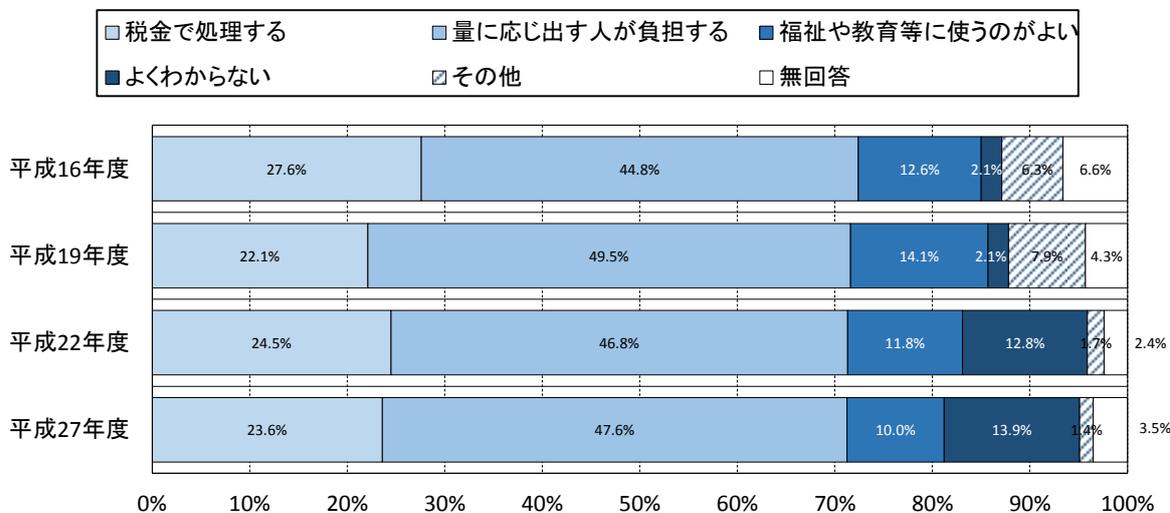


図 7-4-2 「年度別 税金を使ってごみ処理を行うこと」 回答率

7-4-3 問36 出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？

「ごみの量に応じたごみの有料化」については、調査年度ごとの変化はあまりみられない。

問36		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	賛成	1,064	27.7%	1,149	31.2%	744	23.6%	620	20.8%
2	どちらかという賛成	1,460	38.1%	1,474	40.0%	1,353	42.9%	1,313	44.1%
1+2		2,524	65.8%	2,623	71.2%	2,097	66.5%	1,933	64.9%
3	どちらかという反対	653	17.0%	577	15.7%	644	20.4%	592	19.9%
4	反対	400	10.4%	316	8.6%	309	9.8%	302	10.1%
3+4		1,053	27.4%	893	24.3%	953	30.2%	894	30.0%
99	無回答	258	6.8%	166	4.5%	104	3.3%	152	5.1%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-4-4 「年度別 ごみの量に応じたごみの有料化」 回答状況

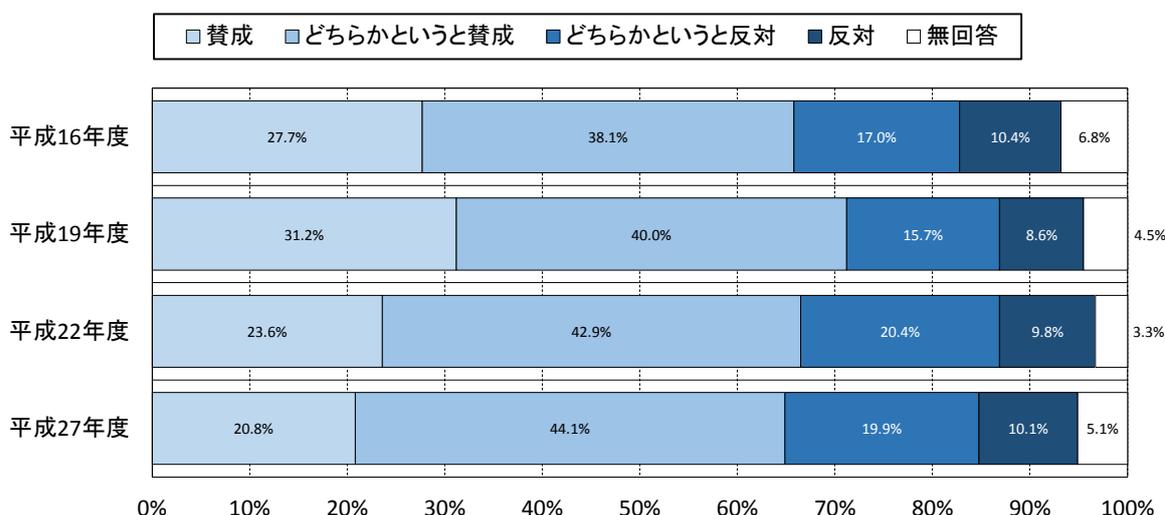


図 7-4-3 「年度別 ごみの量に応じたごみの有料化」回答率

7-4-4 問37 ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか？

「ごみ有料化で重視すべきこと」については、「家計への負担が少ない料金とすること」、「ルール違反（不法投棄など）を許さないこと」が各年度いずれも上位に入っている。

問37	平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度		
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	
1	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平な仕組みとすること	1,104	28.8%	1,037	28.2%	1,092	34.6%	996	33.4%
2	家計への負担が少ない料金とすること	1,655	43.2%	1,628	44.2%	1,641	52.0%	1,628	54.6%
3	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびにある程度の負担が感じられる料金とすること	459	12.0%	343	9.3%	404	12.8%	371	12.5%
4	一人ひとりが取り組めるごみ減量メニューを配布すること	702	18.3%	710	19.3%	669	21.2%	643	21.6%
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること	961	25.1%	1,020	27.7%	1,017	32.2%	919	30.8%
6	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること	1,901	49.6%	1,483	40.3%	1,160	36.8%	941	31.6%
7	ルール違反（不法投棄など）を許さないこと	1,589	41.4%	1,541	41.9%	1,332	42.2%	1,250	42.0%
8	有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を合わせて検討すること	1,227	32.0%	920	25.0%	715	22.7%	703	23.6%
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の用途（福祉や教育等）に使うことを検討すること	399	10.4%	459	12.5%	338	10.7%	365	12.3%
10	その他	82	2.1%	58	1.6%	59	1.9%	67	2.2%
総回答数		10,079	262.9%	9,199	250.0%	8,427	267.1%	7,883	264.6%
有効回答数		3,835		3,682		3,154		2,979	

表 7-4-5 「年度別 ごみ有料化で重視すべきこと」回答状況

問27順位表		平成16年度	平成19年度	平成22年度	平成27年度
1	家計への負担が少ない料金とすること	2	1	1	1
2	ルール違反（不法投棄など）を許さないこと	3	2	2	2
3	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平な仕組みとすること	5	4	4	3
4	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること	1	3	3	4
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること	6	5	5	5
6	有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を合わせて検討すること	4	6	6	6
7	一人ひとりが取り組めるごみ減量メニューを配布すること	7	7	7	7
8	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびにある程度の負担が感じられる料金とすること	8	9	8	8
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の用途（福祉や教育等）に使うことを検討すること	9	8	9	9
10	その他	10	10	10	10

表 7-4-6 「年度別 ごみ有料化で重視すべきこと」順位表

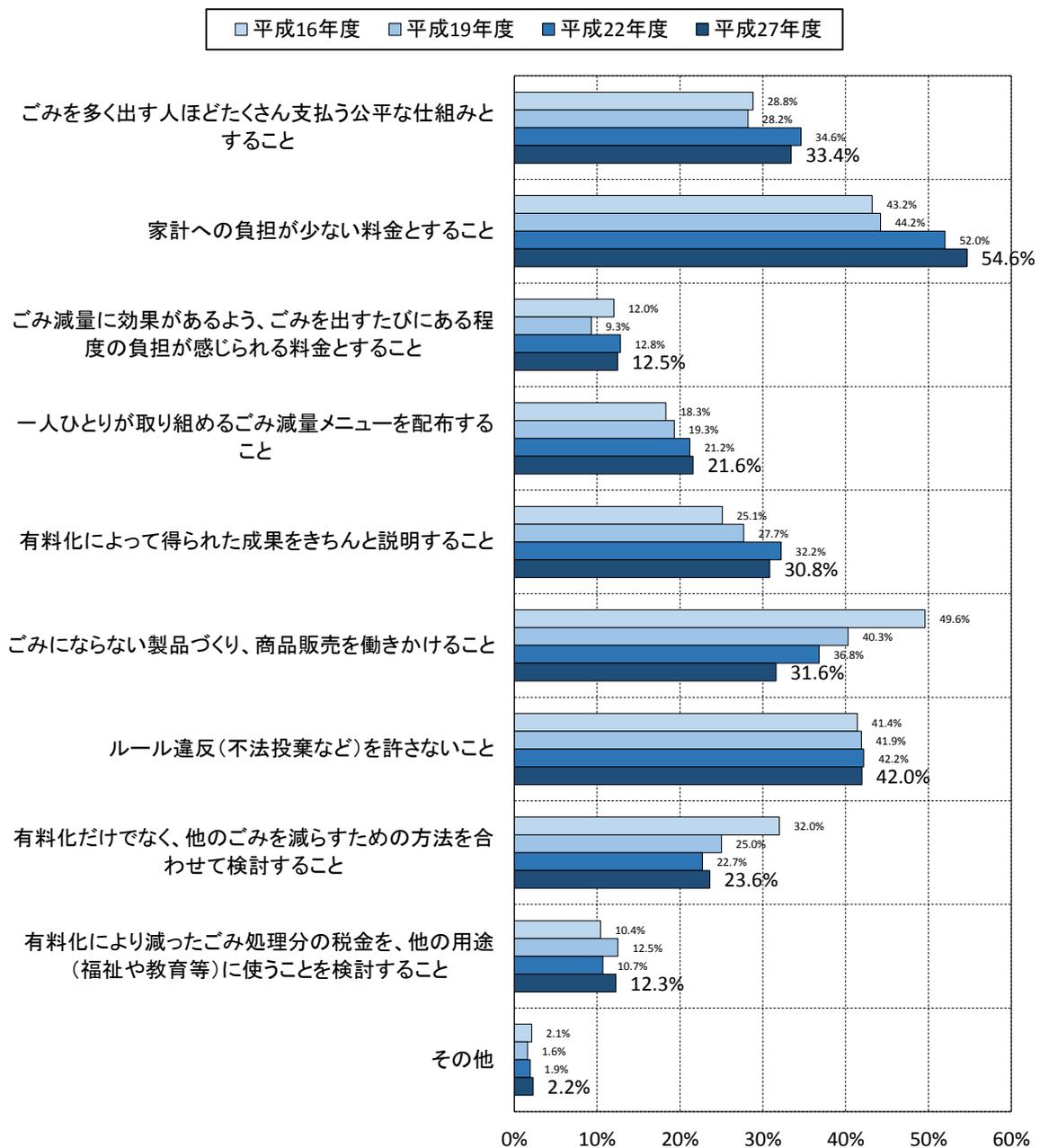


図 7-4-4 「年度別 ごみ有料化で重視すべきこと」回答率

7-4-5 問38 ごみ処理を有料化した市町では、料金を「指定のごみ袋」を購入するという形で支払うことが多く、「指定のごみ袋」は普通のごみ袋に比べて値段が高くなっています。有料化する場合、その料金としていくらまでなら受け入れられますか？

「ごみ有料化の料金」については、調査年度ごとの変化はあまりみられない。

問38		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	10円	2,038	53.1%	2,095	56.9%	1,755	55.6%	1,671	56.1%
2	50円程度	1,097	28.6%	1,041	28.3%	900	28.5%	806	27.1%
3	100円程度	349	9.1%	258	7.0%	258	8.2%	251	8.4%
4	200円程度	32	0.8%	38	1.0%	50	1.6%	53	1.8%
5	それ以上	24	0.6%	12	0.3%	11	0.3%	10	0.3%
99	無回答	295	7.8%	238	6.5%	180	5.8%	188	6.3%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-4-7 「年度別 ごみ有料化の料金」回答状況

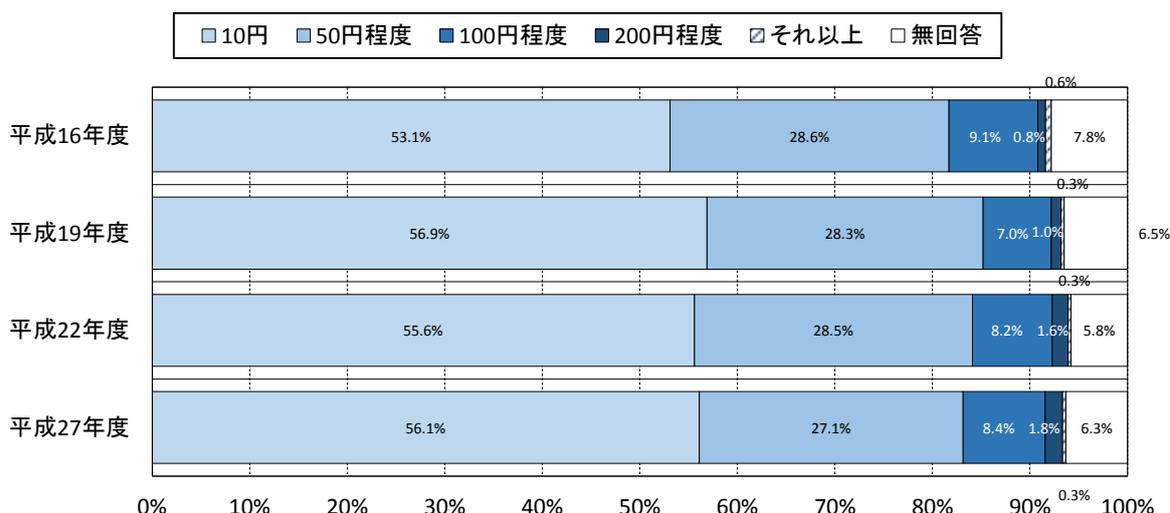


図 7-4-5 「年度別 ごみ有料化の料金」回答率

7-4-6 問41 あなたのご家庭から出る可燃ごみに限って言えば、努力によりどれだけ減らせると思いますか？

「ごみの減らせる量」については、「10%~30%」が各年度いずれも50%前後で最も高く、次いで「10%未満」が20%台となっている。ごみを減らせる量を多く考える人が減少傾向にある。

問41		平成16年度		平成19年度		平成22年度		平成27年度	
		回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
1	10%未満	969	25.3%	757	20.6%	740	23.5%	806	27.1%
2	10~30%	1,802	47.0%	1,832	49.8%	1,629	51.6%	1,452	48.7%
3	30~50%	430	11.2%	516	14.0%	347	11.0%	281	9.4%
4	50~80%	99	2.6%	93	2.5%	70	2.2%	62	2.1%
5	80%以上	24	0.6%	32	0.9%	17	0.5%	16	0.5%
6	減らせない	306	8.0%	279	7.6%	256	8.1%	238	8.0%
99	無回答	205	5.3%	173	4.6%	95	3.1%	124	4.2%
計		3,835	100%	3,682	100%	3,154	100%	2,979	100%

表 7-4-8 年度別「ごみの減らせる量」回答状況

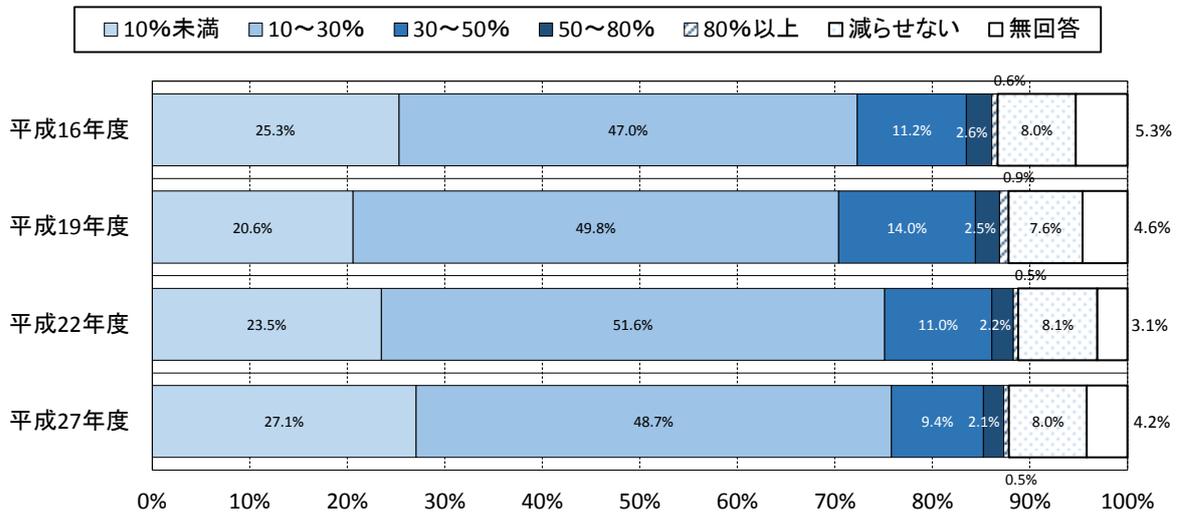


図 7-4-6 「年度別 ごみの減らせる量」回答率

8 平成19年度・平成22年度・平成27年度比較

8-1 現在行っているごみ減量やリサイクルの取組について

8-1-1 問25 ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？

年度別「分別数の増加について」は、「賛成（“賛成”＋“どちらかという賛成”）」は調査年度ごとに減少している。

問25		1	2	1+2 賛成	3	4	3+4 反対	5	計
		賛成	どちらか という 賛成		どちらか という 反対	反対		無回答	
平成 19年度	回答数	1,411	1,584	2,995	446	70	516	171	3,682
	回答率	38.3%	43.0%	81.3%	12.1%	1.9%	14.0%	4.7%	100%
平成 22年度	回答数	1,152	1,449	2,601	410	94	504	49	3,154
	回答率	36.5%	45.9%	82.4%	13.0%	3.0%	16.0%	1.6%	100%
平成 27年度	回答数	912	1,444	2,356	472	77	549	74	2,979
	回答率	30.6%	48.5%	79.1%	15.8%	2.6%	18.4%	2.5%	100%

表 8-1-1 「年度別 分別数の増加について」回答状況

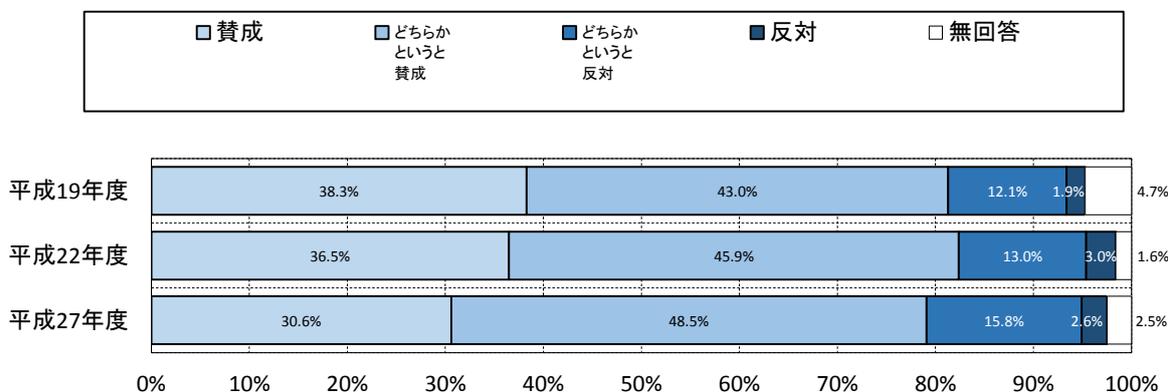


図 8-1-1 「年度別 分別数の増加について」回答率

8-2 「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画について

8-2-1 問42 ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きます。

(1) 計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？

「ごみ処理基本計画への住民参画」については、「思う（“とてもそう思う”＋“少しそう思う”）」は調査年度ごとに減少している。

問42-1		1	2	1+2	3	4	3+4	5	計
		とてもそう思う	少しそう思う	思う	あまりそうは思わない	まったくそうは思わない	思わない	無回答	
平成19年度	回答数	1,715	1,466	3,181	320	37	357	144	3,682
	回答率	46.6%	39.8%	86.4%	8.7%	1.0%	9.7%	3.9%	100%
平成22年度	回答数	1,317	1,381	2,698	335	28	363	93	3,154
	回答率	41.8%	43.8%	85.6%	10.6%	0.9%	11.5%	2.9%	100%
平成27年度	回答数	1,109	1,230	2,339	497	43	540	100	2,979
	回答率	37.2%	41.3%	78.5%	16.7%	1.4%	18.1%	3.4%	100%

表 8-2-1 「年度別 ごみ処理基本計画への住民参画」回答状況

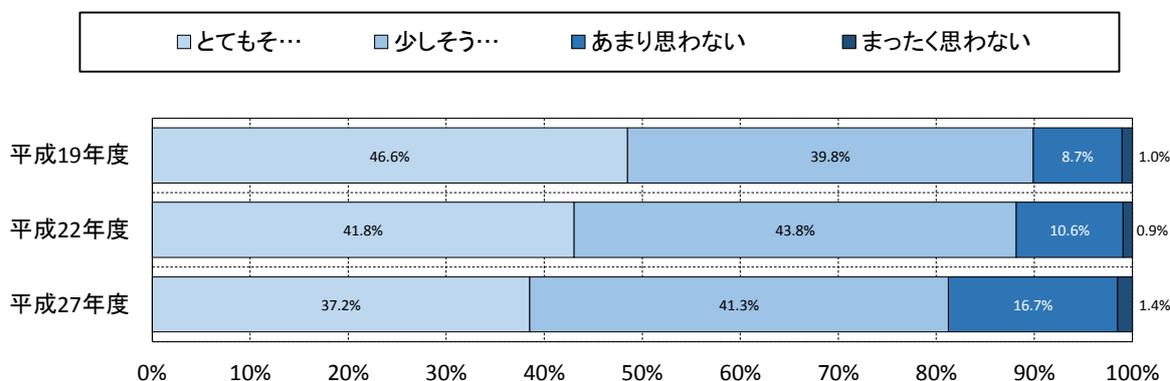


図 8-2-1 「年度別 ごみ処理基本計画への住民参画」回答率

(2) 計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？

「計画づくりへの住民参画による要望や意見の反映」については、「思う（“とてもそう思う”＋“少しそう思う”）」が平成27年度は平成22年度に比べ4.1%減少している。

問42-2		1	2	1+2	3	4	3+4	5	計
		とてもそう思う	少しそう思う	思う	あまりそうは思わない	まったくそうは思わない	思わない	無回答	
平成19年度	回答数	1,172	1,835	3,007	481	54	535	140	3,682
	回答率	31.8%	49.8%	81.6%	13.1%	1.5%	14.6%	3.8%	100%
平成22年度	回答数	865	1,718	2,583	423	51	474	97	3,154
	回答率	27.4%	54.5%	81.9%	13.4%	1.6%	15.0%	3.1%	100%
平成27年度	回答数	708	1,611	2,319	487	75	562	98	2,979
	回答率	23.8%	54.1%	77.9%	16.3%	2.5%	18.8%	3.3%	100%

表 8-2-2 年度別「計画づくりへの住民参画による要望や意見の反映」回答状況

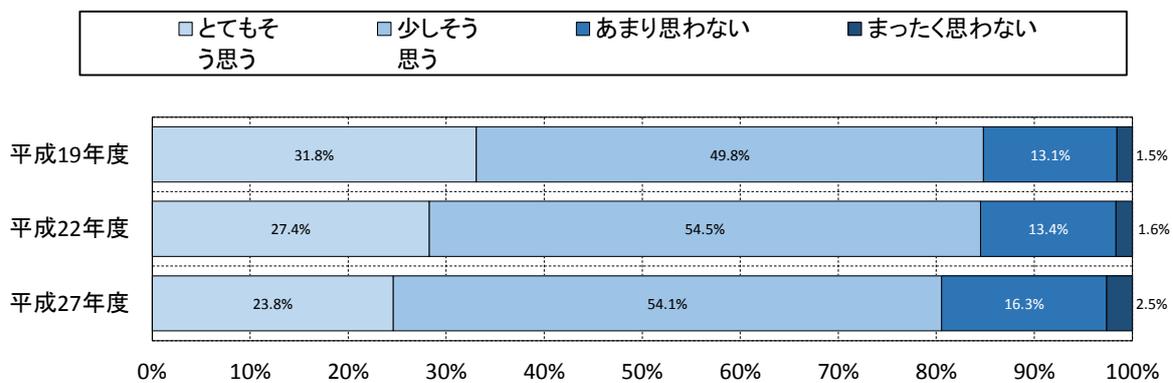


図 8-2-2 「年度別 計画づくりへの住民参画による要望や意見の反映」回答率

(3) 計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？

「計画は市町が主体的につくる方がよい」は、「思う（“とても思う”＋“少し思う”）」が調査年度ごとに増加している。

問42-3		1	2	1+2	3	4	3+4	5	計
		とても思う	少し思う	思う	あまりそうは思わない	まったくそうは思わない	思わない	無回答	
平成19年度	回答数	1,077	1,495	2,572	747	185	932	178	3,682
	回答率	29.3%	40.6%	69.9%	20.3%	5.0%	25.3%	4.8%	100%
平成22年度	回答数	942	1,418	2,360	566	110	676	118	3,154
	回答率	29.9%	45.0%	74.9%	17.9%	3.5%	21.4%	3.7%	100%
平成27年度	回答数	838	1,419	2,257	517	90	607	115	2,979
	回答率	28.1%	47.6%	75.7%	17.4%	3.0%	20.4%	3.9%	100%

表 8-2-3 「年度別 計画は市町が主体的につくる方がよい」回答状況

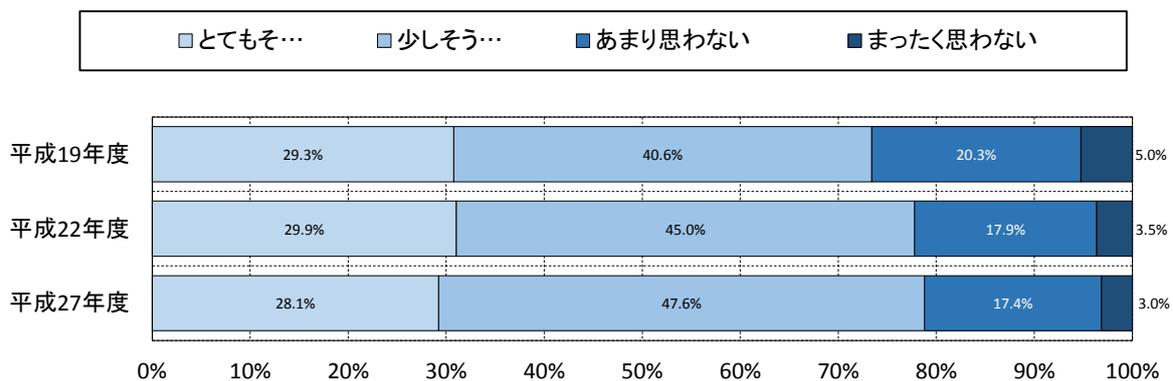


図 8-2-3 「年度別 計画は市町が主体的につくる方がよい」回答率

(4) あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？

「計画づくりに参画することによる情報の入手」は、「思う（“とても思う”＋“少し思う”）」が調査年度ごとに増加している。

問42-4		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とても 思う	少し 思う		あまり そうは 思わない	まったく そうは 思わない		無回答	
平成 19年度	回答数	809	1,955	2,764	671	88	759	159	3,682
	回答率	22.0%	53.1%	75.1%	18.2%	2.4%	20.6%	4.3%	100%
平成 22年度	回答数	593	1,802	2,395	558	85	643	116	3,154
	回答率	18.8%	57.1%	75.9%	17.7%	2.7%	20.4%	3.7%	100%
平成 27年度	回答数	442	1,697	2,139	627	90	717	123	2,979
	回答率	14.8%	57.0%	71.8%	21.0%	3.0%	24.0%	4.2%	100%

表 8-2-4 「年度別 計画づくりに参画することによる情報の入手」回答状況

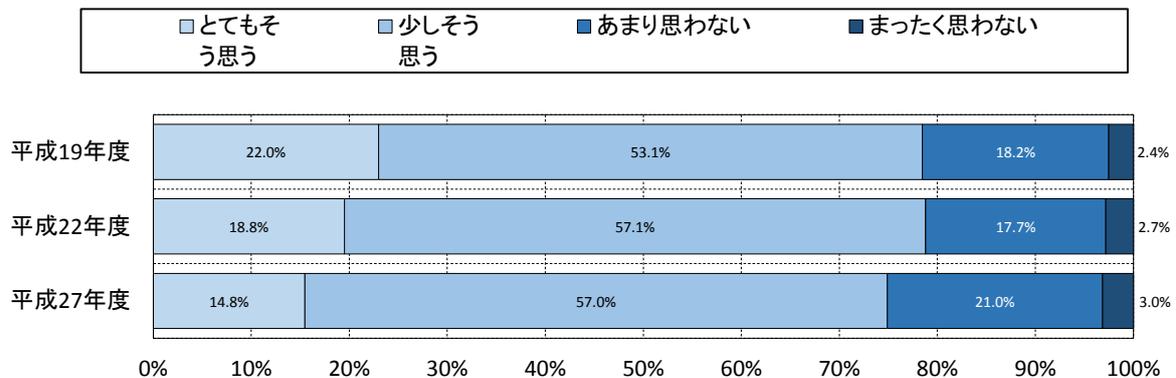


図 8-2-4 「年度別 計画づくりに参画することによる情報の入手」回答率

(5) あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？

「計画づくりには時間や手間がかかり大変である」は、「思う（“とても思う”＋“少し思う”）」が調査年度ごとに増加している。

問42-5		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とても 思う	少し 思う		あまり そうは 思わない	まったく そうは 思わない		無回答	
平成 19年度	回答数	1,063	2,061	3,124	327	65	392	165	3,681
	回答率	28.9%	56.0%	84.9%	8.9%	1.8%	10.7%	4.4%	100%
平成 22年度	回答数	929	1,786	2,715	275	48	323	116	3,154
	回答率	29.5%	56.6%	86.1%	8.7%	1.5%	10.2%	3.7%	100%
平成 27年度	回答数	851	1,722	2,573	258	38	296	110	2,979
	回答率	28.6%	57.8%	86.4%	8.7%	1.3%	10.0%	3.6%	100%

表 8-2-5 年度別「計画づくりに時間や手間がかかり大変である」回答状況

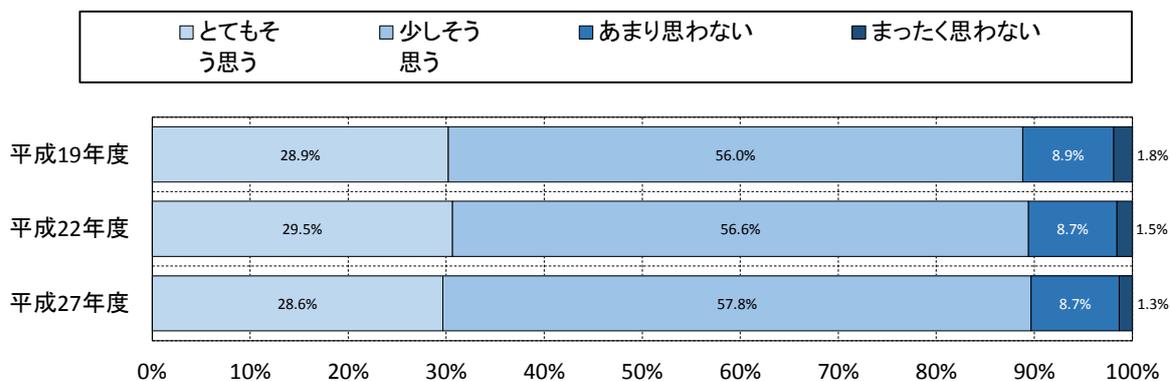


図 8-2-5 「年度別 計画づくりには時間や手間がかかり大変である」回答率

(6) 今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したですか？

「計画づくりへの参画の意向」は、「思う（“とてもそう思う”＋“少しそう思う”）」が調査年度ごとに減少している。

問42-6		1	2	1+2 思う	3	4	3+4 思わない	5	計
		とても そう 思う	少し そう 思う		あまり そうは 思わない	まったく そうは 思わない		無回答	
平成 19年度	回答数	323	1,772	2,095	1,134	277	1,411	176	3,682
	回答率	8.8%	48.1%	56.9%	30.8%	7.5%	38.3%	4.8%	100%
平成 22年度	回答数	224	1,487	1,711	1,038	279	1,317	126	3,154
	回答率	7.1%	47.1%	54.2%	32.9%	8.8%	41.7%	4.1%	100%
平成 27年度	回答数	153	1,306	1,459	1,108	282	1,390	130	2,979
	回答率	5.1%	43.8%	48.9%	37.2%	9.5%	46.7%	4.4%	100%

表 8-2-6 「年度別 参加の意向」回答状況

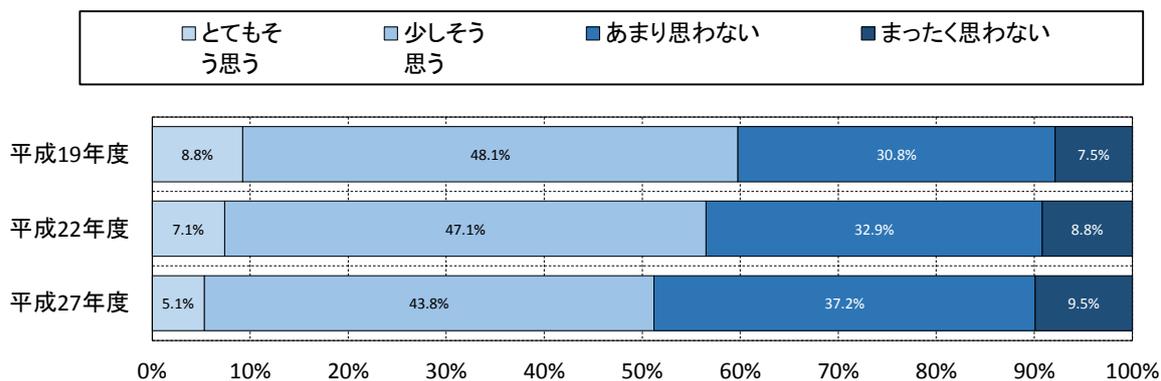


図 8-2-6 「年度別 参画の意向」回答率

8-3 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」について

8-3-1 問43 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」をご存じですか？

(1) 全体

「ごみゼロ社会実現プラン」の認知度は、全体で見ると、平成27年度は平成22年度と比較して、「知っている」、「知らない」が1.6%から0.4%減少し、「名前は聞いたことがある」が1.9%増加している。「知っている」は調査年度ごとに減少している。

問43-1：全体		年度	回答数	回答率	平成27年度 -平成19年度	平成27年度 -平成22年度
1	知っている	平成19年度	351	9.5%	-5.0%	-0.4%
		平成22年度	156	4.9%		
		平成27年度	135	4.5%		
2	名前は聞いたことがある	平成19年度	1328	36.1%	-2.2%	1.9%
		平成22年度	1006	32.0%		
		平成27年度	1009	33.9%		
3	知らない	平成19年度	1882	51.1%	8.0%	-1.6%
		平成22年度	1920	60.7%		
		平成27年度	1762	59.1%		
4	無回答	平成19年度	121	3.3%	-0.8%	0.1%
		平成22年度	72	2.4%		
		平成27年度	73	2.5%		
計		平成19年度	3682	100%		
		平成22年度	3154	100%		
		平成27年度	2979	100%		

表 8-3-1 「全体 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答状況

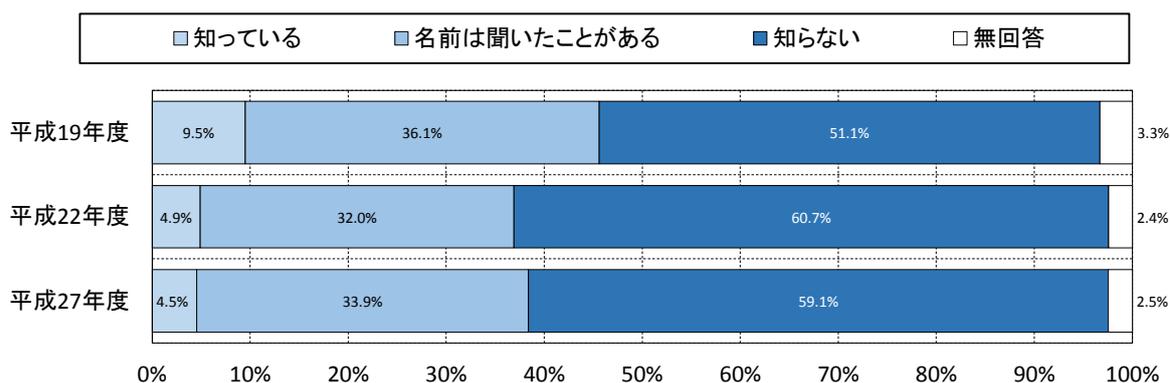


図 8-3-1 「全体 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答率

(2) 年代別

「ごみゼロ社会実現プラン」の認知度は、年代別で見ると「知っている」は「40代」、「50代」を除き減少している。「知らない」、「名前は聞いたことがある」は「60代」、「70代以下」を除き増加している。

問43：年代別：回答数		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
20代	平成19年度	18	58	154	3	233
	平成22年度	5	60	140	2	207
	平成27年度	1	56	101	0	158
30代	平成19年度	22	144	289	11	466
	平成22年度	10	96	309	1	416
	平成27年度	6	74	204	0	284
40代	平成19年度	39	185	337	11	572
	平成22年度	19	118	306	1	444
	平成27年度	17	125	256	2	400
50代	平成19年度	74	314	436	23	847
	平成22年度	25	198	413	2	638
	平成27年度	29	172	286	5	492
60代	平成19年度	88	344	351	25	808
	平成22年度	56	305	446	8	815
	平成27年度	29	285	465	8	787
70代以上	平成19年度	99	247	268	32	646
	平成22年度	41	225	298	18	582
	平成27年度	52	289	439	45	825

表 8-3-2 「年代別 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答数

問43：年代別：回答率		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
20代	平成19年度	7.7%	24.9%	66.1%	1.3%	100%
	平成22年度	2.4%	29.0%	67.6%	1.0%	100%
	平成27年度	0.6%	35.4%	64.0%	0.0%	100%
30代	平成19年度	4.7%	30.9%	62.0%	2.4%	100%
	平成22年度	2.4%	23.1%	74.3%	0.2%	100%
	平成27年度	2.1%	26.1%	71.8%	0.0%	100%
40代	平成19年度	6.8%	32.3%	58.9%	2.0%	100%
	平成22年度	4.3%	26.6%	68.9%	0.2%	100%
	平成27年度	4.3%	31.3%	64.0%	0.4%	100%
50代	平成19年度	8.7%	37.1%	51.5%	2.7%	100%
	平成22年度	4.0%	31.0%	64.7%	0.3%	100%
	平成27年度	5.9%	35.0%	58.1%	1.0%	100%
60代	平成19年度	10.9%	42.6%	43.4%	3.1%	100%
	平成22年度	6.9%	37.4%	54.7%	1.0%	100%
	平成27年度	3.7%	36.2%	59.1%	1.0%	100%
70代以上	平成19年度	15.3%	38.2%	41.5%	5.0%	100%
	平成22年度	7.0%	38.7%	51.2%	3.1%	100%
	平成27年度	6.3%	35.0%	53.2%	5.5%	100%

表 8-3-3 「年代別 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答率

問43：年代別：回答率差		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答
20代	平成22年度-平成19年度	-5.3%	4.1%	1.5%	-0.3%
		-2.3%	-7.8%	12.3%	-2.1%
		-2.5%	-5.8%	10.0%	-1.7%
		-4.8%	-6.0%	13.3%	-2.4%
		-4.0%	-5.2%	11.3%	-2.1%
		-8.3%	0.4%	9.7%	-1.9%
20代	平成27年度-平成22年度	-1.8%	6.4%	-3.6%	-1.0%
		-0.3%	3.0%	-2.5%	-0.2%
		0.0%	4.7%	-4.9%	0.2%
		1.9%	4.0%	-6.6%	0.7%
		-2.2%	-1.2%	4.4%	4.0%
		-0.7%	-3.7%	2.0%	2.4%
20代	平成27年度-平成19年度	-7.1%	10.5%	-2.1%	-1.3%
		-2.6%	-4.8%	9.8%	-2.4%
		-2.6%	-1.1%	5.1%	-1.6%
		-2.8%	-2.1%	6.6%	-1.7%
		-7.2%	-6.4%	15.7%	-2.1%
		-9.0%	-3.2%	11.7%	0.5%

表 8-3-4 「年代別 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答率差

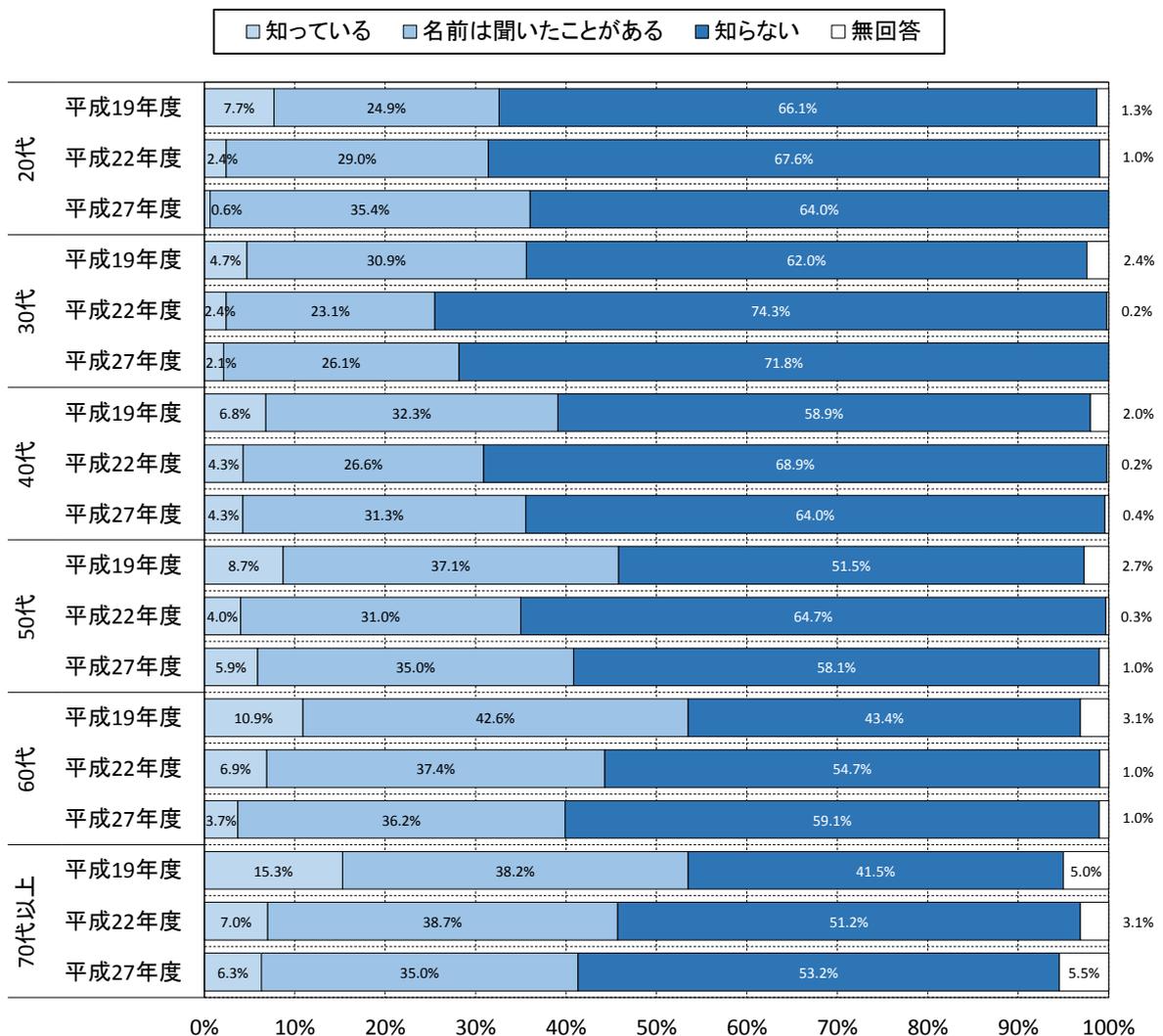


図 8-3-2 「年代別 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答率

(3) 性別

「ごみゼロ社会実現プラン」の認知度は、性別で見ると「知っている」、「知らない」は男女ともに減少し、「名前は聞いたことがある」は男女ともに増加している。

問43：性別：回答数		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
女性	平成19年度	202	779	1,049	67	2,097
	平成22年度	80	632	1,150	19	1,881
	平成27年度	73	597	1,036	35	1,741
男性	平成19年度	135	508	783	35	1,461
	平成22年度	74	369	759	12	1,214
	平成27年度	59	399	703	24	1,185
問43：性別：回答率		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	計
女性	平成19年度	9.6%	37.1%	50.0%	3.3%	100%
	平成22年度	4.3%	33.6%	61.1%	1.0%	100%
	平成27年度	4.2%	34.3%	59.5%	2.0%	100%
男性	平成19年度	9.2%	34.8%	53.6%	2.4%	100%
	平成22年度	6.1%	30.4%	62.5%	1.0%	100%
	平成27年度	5.0%	33.7%	59.3%	2.0%	100%
問43：性別：回答率差		知っている	名前は聞いたことがある	知らない	無回答	
女性	平成22年度-平成19年度	-5.4%	-3.5%	11.1%	-2.2%	
男性	平成22年度-平成19年度	-3.1%	-4.4%	8.9%	-1.4%	
女性	平成27年度-平成22年度	-0.1%	0.7%	-1.6%	1.0%	
男性	平成27年度-平成22年度	-1.1%	3.3%	-3.2%	1.0%	
女性	平成27年度-平成19年度	-5.4%	-2.8%	9.5%	-1.3%	
男性	平成27年度-平成19年度	-4.2%	-1.1%	5.7%	-0.4%	

表 8-3-5 「性別 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答状況、回答率差

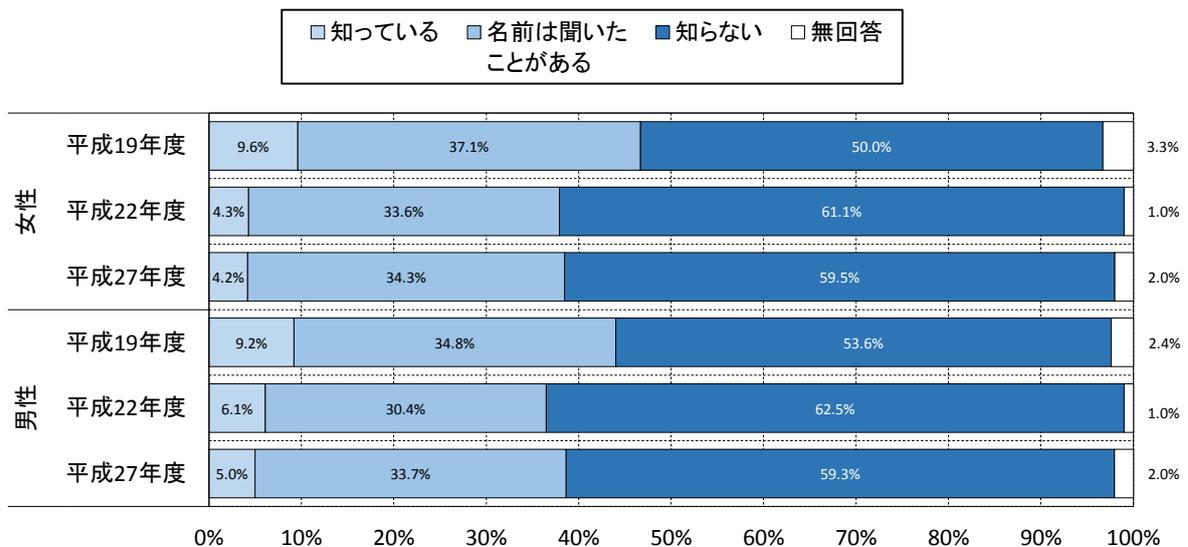


図 8-3-3 「性別 年度別 ごみゼロ社会実現プランの認知度」回答率

8-3-1 問44 三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」をご存じですか？

(1) 全体

三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」の認知度は、全体で見ると、平成27年度は平成22年度と比較して、「知っている」、「見たことがある」が0.9%から1.4%減少し、「知らない」が2%増加している。「知っている」は調査年度ごとに減少し、「知らない」は増加している。

問44：全体		年度	回答数	回答率	平成27年度 -平成19年度	平成27年度 -平成22年度
1	知っている	平成19年度	341	9.3%	-5.1%	-0.9%
		平成22年度	156	5.1%		
		平成27年度	124	4.2%		
2	見たことはある	平成19年度	660	17.9%	-5.4%	-1.4%
		平成22年度	423	13.9%		
		平成27年度	371	12.5%		
3	知らない	平成19年度	2569	69.8%	11.0%	2.0%
		平成22年度	2393	78.8%		
		平成27年度	2407	80.8%		
4	無回答	平成19年度	112	3.0%	-0.5%	0.3%
		平成22年度	66	2.2%		
		平成27年度	77	2.5%		
計		平成19年度	3682	100%		
		平成22年度	3038	100%		
		平成27年度	2979	100%		

表 8-3-6 「全体 年度別 ゼロ吉の認知度」回答状況

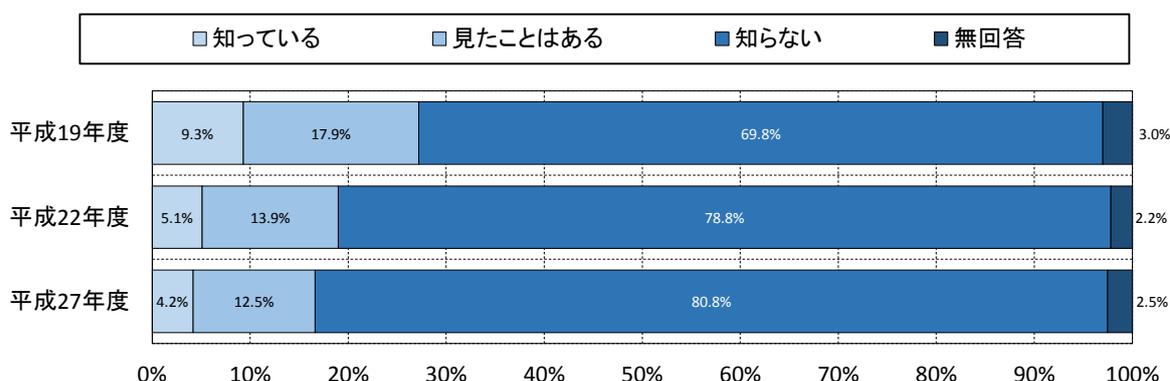


図 8-3-4 「全体 年度別 ゼロ吉の認知度」回答率

(2) 年代

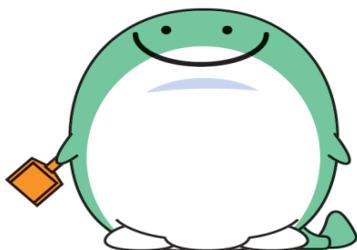
三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」の認知度は、性別で見ると「知っている」が「20代」、「40代」を除き減少し、「知らない」が「20代以下」、「50代」を除き増加している。「見たことはある」は、「20代」、「30代」、「50代」を除き減少している。

問44：年代別：回答数		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
20代	平成19年度	17	18	195	3	233
	平成22年度	6	25	174	2	207
	平成27年度	9	23	126	0	158
30代	平成19年度	46	36	374	10	466
	平成22年度	23	36	357	0	416
	平成27年度	10	29	245	0	284
40代	平成19年度	58	78	425	11	572
	平成22年度	30	45	367	2	444
	平成27年度	32	30	337	1	400
50代	平成19年度	60	163	602	22	847
	平成22年度	29	76	531	2	638
	平成27年度	18	63	406	5	492
60代	平成19年度	74	186	524	24	808
	平成22年度	41	128	641	5	815
	平成27年度	24	85	668	10	787
70代以上	平成19年度	74	161	383	28	646
	平成22年度	33	129	405	15	582
	平成27年度	31	136	610	48	825

表 8-3-7 「年代別 年度別 ゼロ吉の認知度」回答数

問44：年代別：回答率		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
20代	平成19年度	7.3%	7.7%	83.7%	1.3%	100%
	平成22年度	2.9%	12.1%	84.1%	0.9%	100%
	平成27年度	5.7%	14.6%	79.7%	0.0%	100%
30代	平成19年度	9.9%	7.7%	80.3%	2.1%	100%
	平成22年度	5.5%	8.7%	85.8%	0.0%	100%
	平成27年度	3.5%	10.2%	86.3%	0.0%	100%
40代	平成19年度	10.1%	13.6%	74.3%	2.0%	100%
	平成22年度	6.8%	10.1%	82.7%	0.4%	100%
	平成27年度	8.0%	7.5%	84.3%	0.2%	100%
50代	平成19年度	7.1%	19.2%	71.1%	2.6%	100%
	平成22年度	4.5%	11.9%	83.2%	0.4%	100%
	平成27年度	3.7%	12.8%	82.5%	1.0%	100%
60代	平成19年度	9.2%	23.0%	64.9%	2.9%	100%
	平成22年度	5.0%	15.7%	78.7%	0.6%	100%
	平成27年度	3.0%	10.8%	84.9%	1.3%	100%
70代以上	平成19年度	11.5%	24.9%	59.3%	4.3%	100%
	平成22年度	5.7%	22.2%	69.6%	2.5%	100%
	平成27年度	3.8%	16.5%	73.9%	5.8%	100%

表 8-3-8 「年代別 年度別 ゼロ吉の認知度」回答率



三重県ごみゼロキャラクター「ゼロ吉」

問44：年代別：回答率差		知っている	見たことはある	知らない	無回答
20代	平成22年度-平成19年度	-4.4%	4.4%	0.4%	-0.3%
		-4.3%	0.9%	5.6%	-2.1%
		-3.4%	-3.5%	8.4%	-1.5%
		-2.5%	-7.3%	12.2%	-2.3%
		-4.1%	-7.3%	13.8%	-2.4%
		-5.8%	-2.8%	10.3%	-1.8%
20代	平成27年度-平成22年度	2.8%	2.5%	-4.4%	-0.9%
		-2.0%	1.5%	0.5%	0.0%
		1.2%	-2.6%	1.6%	-0.2%
		-0.8%	0.9%	-0.7%	0.6%
		-2.0%	-4.9%	6.2%	0.7%
		-1.9%	-5.7%	4.3%	3.3%
20代	平成27年度-平成19年度	-1.6%	6.9%	-4.0%	-1.3%
		-6.4%	2.5%	6.0%	-2.1%
		-2.1%	-6.1%	10.0%	-1.8%
		-3.4%	-6.4%	11.4%	-1.6%
		-6.2%	-12.2%	20.0%	-1.6%
		-7.7%	-8.4%	14.6%	1.5%

表 8-3-9 「年代別 年度別 ゼロ吉の認知度」回答率差

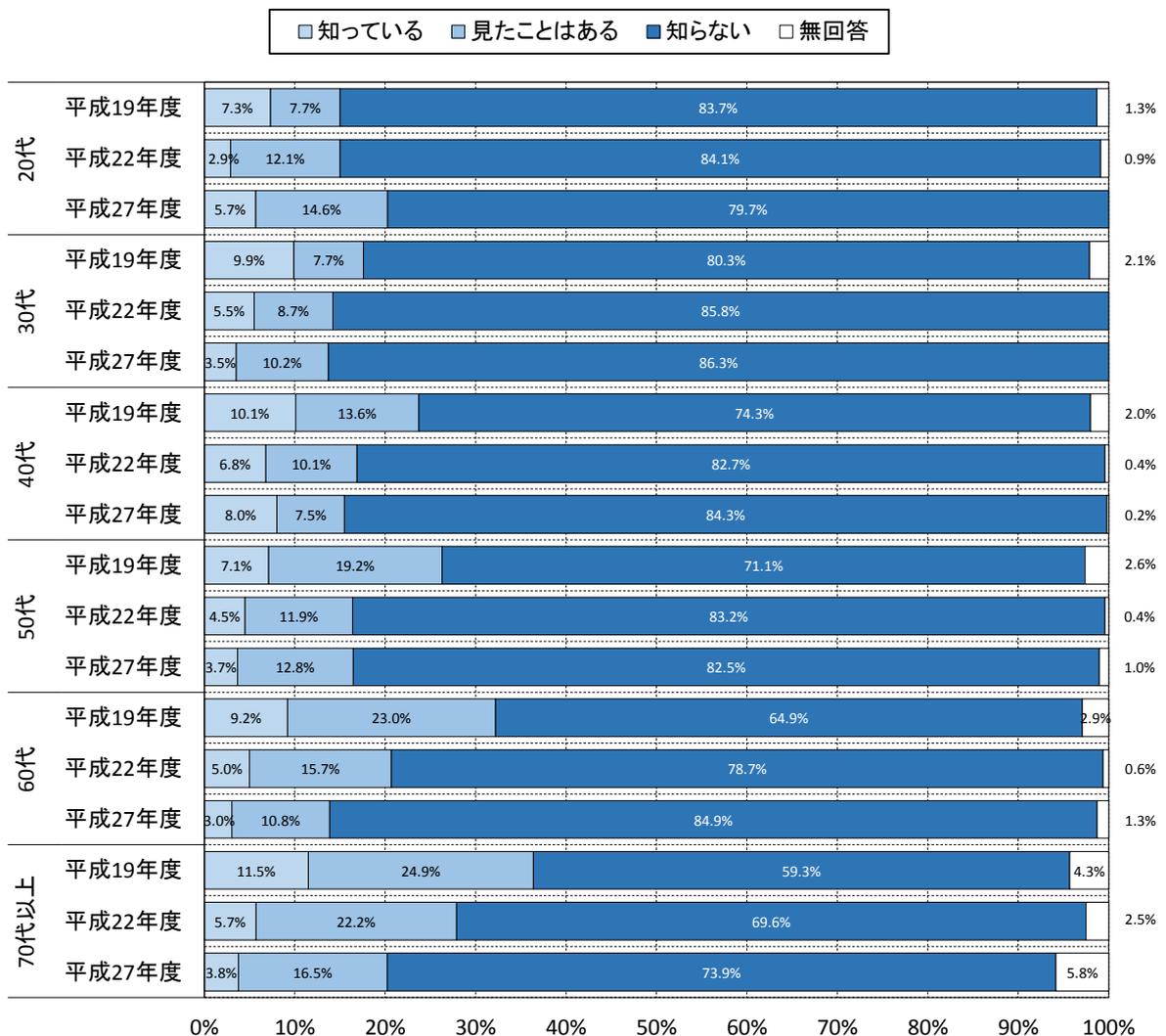


図 8-3-5 「年代別 年度別 ゼロ吉の認知度」回答率

(3) 性別

三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」の認知度は、性別で見ると「知っている」が「20代以下」、「40代」を除き減少し、「知らない」が「20代以下」、「50代」を除き増加している。「見たことはある」は、「20代」、「30代」、「50代」を除き減少している。

問44：性別：回答数		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
女性	平成19年度	202	779	1,049	67	2,097
	平成22年度	80	632	1,150	19	1,881
	平成27年度	78	220	1,406	37	1,741
男性	平成19年度	135	508	783	35	1,461
	平成22年度	74	369	759	12	1,214
	平成27年度	44	146	969	26	1,185
問44：性別：回答率		知っている	見たことはある	知らない	無回答	計
女性	平成19年度	9.6%	37.1%	50.0%	3.3%	100%
	平成22年度	4.3%	33.6%	61.1%	1.0%	100%
	平成27年度	4.5%	12.6%	80.8%	2.1%	100%
男性	平成19年度	9.2%	34.8%	53.6%	2.4%	100%
	平成22年度	6.1%	30.4%	62.5%	1.0%	100%
	平成27年度	3.7%	12.3%	81.8%	2.2%	100%
問44：性別：回答率差		知っている	見たことはある	知らない	無回答	
女性	平成22年度-平成19年度	-5.4%	-3.5%	11.1%	-2.2%	
男性	平成22年度-平成19年度	-3.1%	-4.4%	8.9%	-1.4%	
女性	平成27年度-平成22年度	0.2%	-21.0%	19.7%	1.1%	
男性	平成27年度-平成22年度	-2.4%	-18.1%	19.3%	1.2%	
女性	平成27年度-平成19年度	-5.1%	-24.5%	30.8%	-1.2%	
男性	平成27年度-平成19年度	-5.5%	-22.5%	28.2%	-0.2%	

表 8-3-10 「性別 年度別 ゼロ吉の認知度」回答状況、回答差

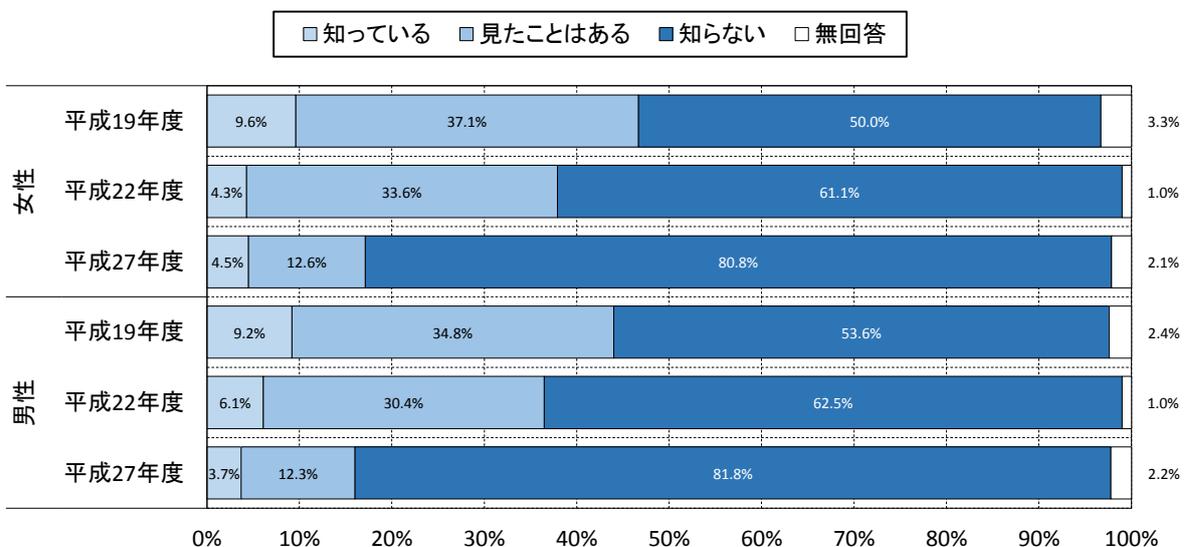


図 8-3-6 「性別 年度別 ゼロ吉の認知度」回答率差

8-3-3 問45 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」に関する県民参画の取組に参加したいと
 いますか？

(1) 全体

「県民参画の取組への参加」は、いずれの年度でも「アンケートなどに協力したい」が高いが、調査年度ごとに全体的に低下傾向にある。
 平成27年度は平成22年度と比較して、「ごみゼロの取組をまとめた「ごみゼロレポート」を読み
 みたい」が2.8%増加し、「アンケートなどに協力したい」が3.2%減少した。「いずれにも参
 加したいとは思わない」は1.6%増加している。

問44：全体		年度	回答数	回答率	平成27年度 -平成19年度	平成27年度 -平成22年度
1	地域ごみゼロ交流会に参加 したい	平成19年度	421	11.4%	-3.9%	-1.7%
		平成22年度	289	9.2%		
		平成27年度	223	7.5%		
2	ごみゼロに関する講演会や セミナーに参加したい	平成19年度	488	13.3%	-3.3%	-1.2%
		平成22年度	352	11.2%		
		平成27年度	298	10.0%		
3	ごみゼロプランに関する情 報をホームページ等で読み たい	平成19年度	808	21.9%	0.5%	2.8%
		平成22年度	619	19.6%		
		平成27年度	666	22.4%		
4	ゼロ吉Facebookでイベン トなどの情報を読みたい	平成19年度	—	—	—	—
		平成22年度	—	—		
		平成27年度	193	6.5%		
5	ごみゼロプランの進み具合 やごみ減量化などの取組を まとめた「点検・評価」を 読みたい	平成19年度	—	—	—	—
		平成22年度	—	—		
		平成27年度	713	23.9%		
6	アンケートなどに協力した い	平成19年度	1382	37.5%	-4.2%	-3.2%
		平成22年度	1152	36.5%		
		平成27年度	992	33.3%		
7	自分の意見をFAXなどで県 に寄せたい	平成19年度	112	3.0%	-1.2%	-0.4%
		平成22年度	68	2.2%		
		平成27年度	55	1.8%		
8	ごみゼロプランの進歩状況 などを評価検証する「ごみ ゼロプラン推進委員会」を 傍聴したい	平成19年度	115	3.1%	0.5%	0.7%
		平成22年度	92	2.9%		
		平成27年度	107	3.6%		
9	いずれにも参加したいとは思 わない	平成19年度	657	17.8%	8.0%	1.6%
		平成22年度	762	24.2%		
		平成27年度	770	25.8%		
10	その他	平成19年度	82	2.2%	-0.2%	-0.6%
		平成22年度	82	2.6%		
		平成27年度	61	2.0%		
総回答数		平成19年度	4065	110.2%		
有効回答数			3682			
総回答数		平成22年度	3416	108.4%		
有効回答数			3154			
総回答数		平成27年度	4078	136.8%		
有効回答数			2979			

表 8-3-11 「全体 年度別 県民参画の取組への参加」回答状況

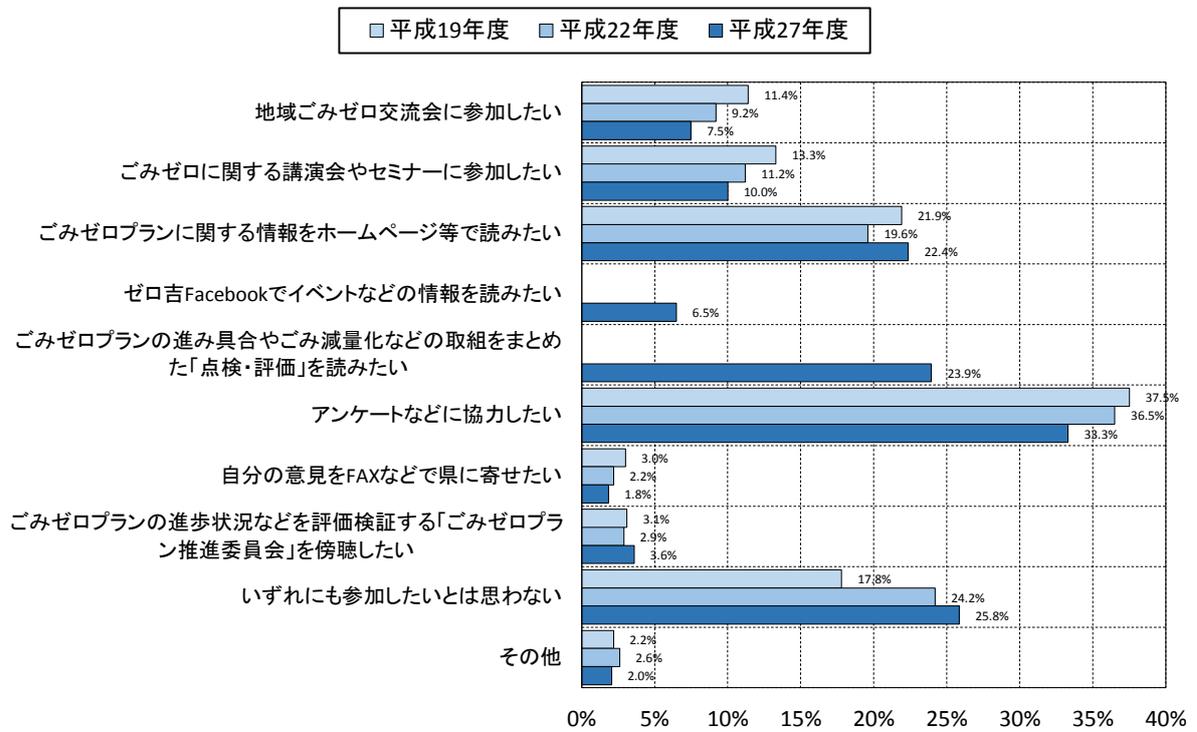


図 8-3-7 「全体 年度別 県民参画の取組への参加」回答率差

(2) 年代別

「県民参画の取組への参加」の年代別では、「いずれにも参加したいと思わない」が平成27年度は平成22年度と比較して「50代」をのぞき増加している。特に30代以下は5%以上の増加となっている。
「地域ごみゼロ交流会に参加」は、すべての年代で減少している。

問45 年代別：回答率	年度	1	2	3	4	5	6	99
		20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答
1 地域ごみゼロ交流会に参加	平成19年度	6.9%	5.8%	7.2%	9.1%	16.5%	17.0%	15.6%
	平成22年度	3.9%	5.5%	5.0%	6.4%	12.9%	15.3%	1.9%
	平成27年度	2.5%	2.8%	3.3%	4.5%	8.1%	13.1%	12.1%
2 講演会やセミナーへ参加	平成19年度	6.4%	9.0%	11.2%	11.9%	17.9%	16.6%	12.8%
	平成22年度	5.3%	4.8%	7.7%	11.8%	15.6%	14.6%	0.0%
	平成27年度	2.5%	3.2%	9.5%	9.3%	12.8%	11.8%	9.1%
3 情報をホームページ等で読みたい	平成19年度	30.5%	33.7%	30.9%	21.8%	13.1%	14.2%	18.3%
	平成22年度	30.4%	29.1%	29.5%	20.2%	13.4%	11.2%	1.9%
	平成27年度	25.9%	27.5%	33.5%	32.7%	17.8%	13.3%	6.1%
4 ゼロ吉Facebookで情報を読みたい	平成19年度	11.2%	12.9%	14.3%	11.7%	5.6%	5.7%	10.1%
	平成22年度	8.2%	6.3%	7.9%	9.7%	6.4%	3.8%	1.9%
	平成27年度	13.3%	8.8%	6.0%	5.9%	5.3%	6.1%	6.1%
5 「点検・評価」を読みたい	平成19年度	24.9%	24.2%	28.3%	26.8%	31.3%	24.9%	17.4%
	平成22年度	23.7%	21.2%	23.2%	22.9%	28.1%	21.5%	1.9%
	平成27年度	24.1%	19.4%	21.8%	26.0%	25.9%	23.9%	12.1%
6 アンケートなどに協力したい	平成19年度	44.6%	40.6%	36.7%	37.9%	38.6%	32.4%	33.9%
	平成22年度	43.5%	43.0%	35.1%	36.2%	36.8%	33.0%	7.7%
	平成27年度	37.3%	32.4%	32.3%	31.5%	32.9%	35.4%	18.2%
7 自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	平成19年度	4.3%	5.8%	3.5%	2.6%	1.9%	2.3%	2.8%
	平成22年度	2.4%	2.4%	2.7%	2.7%	1.7%	1.7%	0.0%
	平成27年度	1.3%	2.1%	2.5%	2.0%	1.9%	1.5%	0.0%
8 「プラン推進委員会」を傍聴したい	平成19年度	1.7%	4.9%	2.6%	2.6%	3.0%	3.4%	4.6%
	平成22年度	2.9%	2.6%	2.3%	2.2%	3.8%	3.4%	0.0%
	平成27年度	1.9%	2.5%	1.5%	3.7%	4.8%	4.1%	3.0%
9 いずれにも参加したいとは思わない	平成19年度	26.6%	17.2%	15.9%	19.4%	17.1%	19.3%	15.6%
	平成22年度	17.6%	27.4%	25.2%	24.6%	23.2%	22.5%	7.7%
	平成27年度	22.8%	34.2%	28.0%	21.7%	25.9%	25.2%	18.2%
10 その他	平成19年度	0.9%	1.7%	2.1%	1.9%	2.5%	3.1%	3.7%
	平成22年度	1.0%	1.0%	2.9%	2.5%	2.0%	5.3%	0.0%
	平成27年度	0.6%	0.7%	2.0%	1.4%	2.0%	3.2%	3.0%

表 8-3-12 「年代別 年度別 県民参画の取組への参加」回答率

問45：年代別 平成27年度-平成22年度回答率差	1	2	3	4	5	6
	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
1 地域ごみゼロ交流会に参加	-1.4%	-2.7%	-1.8%	-1.9%	-4.8%	-2.2%
2 講演会やセミナーへ参加	-2.8%	-1.6%	1.8%	-2.5%	-2.8%	-2.8%
3 情報をホームページ等で読みたい	-4.5%	-1.6%	4.0%	12.5%	4.4%	2.1%
4 ゼロ吉Facebookで情報を読みたい	5.1%	2.5%	-1.9%	-3.8%	-1.1%	2.3%
5 「点検・評価」を読みたい	0.4%	-1.8%	-1.5%	3.1%	-2.2%	2.4%
6 アンケートなどに協力したい	-6.2%	-10.6%	-2.9%	-4.7%	-3.9%	2.4%
7 自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	-1.1%	-0.3%	-0.2%	-0.7%	0.2%	-0.2%
8 「プラン推進委員会」を傍聴したい	-1.0%	-0.1%	-0.8%	1.5%	1.0%	0.7%
9 いずれにも参加したいとは思わない	5.2%	6.8%	2.8%	-2.9%	2.7%	2.7%
10 その他	-0.4%	-0.3%	-0.9%	-1.1%	0.0%	-2.1%

表 8-3-13 「年代別 平成27年度-平成22年度 県民参画の取組への参加」回答率差

問45：年代別 平成27年度-平成19年度回答率差		1	2	3	4	5	6
		20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上
1	地域ごみゼロ交流会に参加	-4.4%	-3.0%	-4.0%	-4.6%	-8.4%	-3.9%
2	講演会やセミナーへ参加	-3.9%	-5.8%	-1.7%	-2.6%	-5.1%	-4.8%
3	情報をホームページ等で読みたい	-4.6%	-6.2%	2.6%	10.9%	4.7%	-0.9%
4	ゼロ吉Facebookで情報を読みたい	2.1%	-4.1%	-8.3%	-5.8%	-0.3%	0.4%
5	「点検・評価」を読みたい	-0.8%	-4.8%	-6.6%	-0.8%	-5.4%	-1.0%
6	アンケートなどに協力したい	-7.3%	-8.2%	-4.5%	-6.4%	-5.7%	3.0%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	-3.0%	-3.7%	-1.0%	-0.6%	0.0%	-0.8%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	0.2%	-2.4%	-1.1%	1.1%	1.8%	0.7%
9	いずれにも参加したいとは思わない	-3.8%	17.0%	12.1%	2.3%	8.8%	5.9%
10	その他	-0.3%	-1.0%	-0.1%	-0.5%	-0.5%	0.1%

表 8-3-14 「年代別 平成27年度-平成19年度 県民参画の取組への参加」回答率差

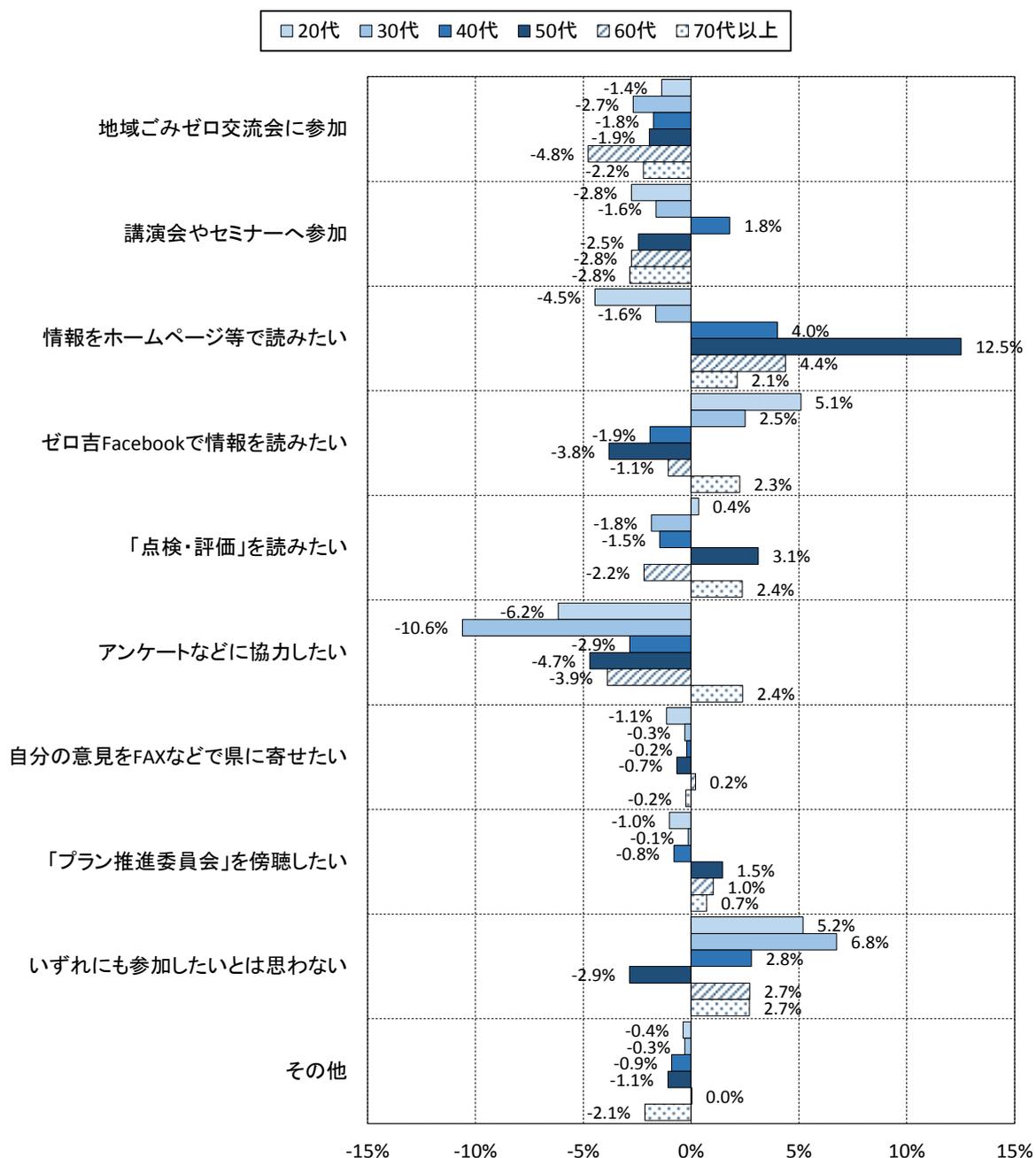


図 8-3-8 「年代別 平成27年度-平成22年度 県民参画の取組への参加」回答率差

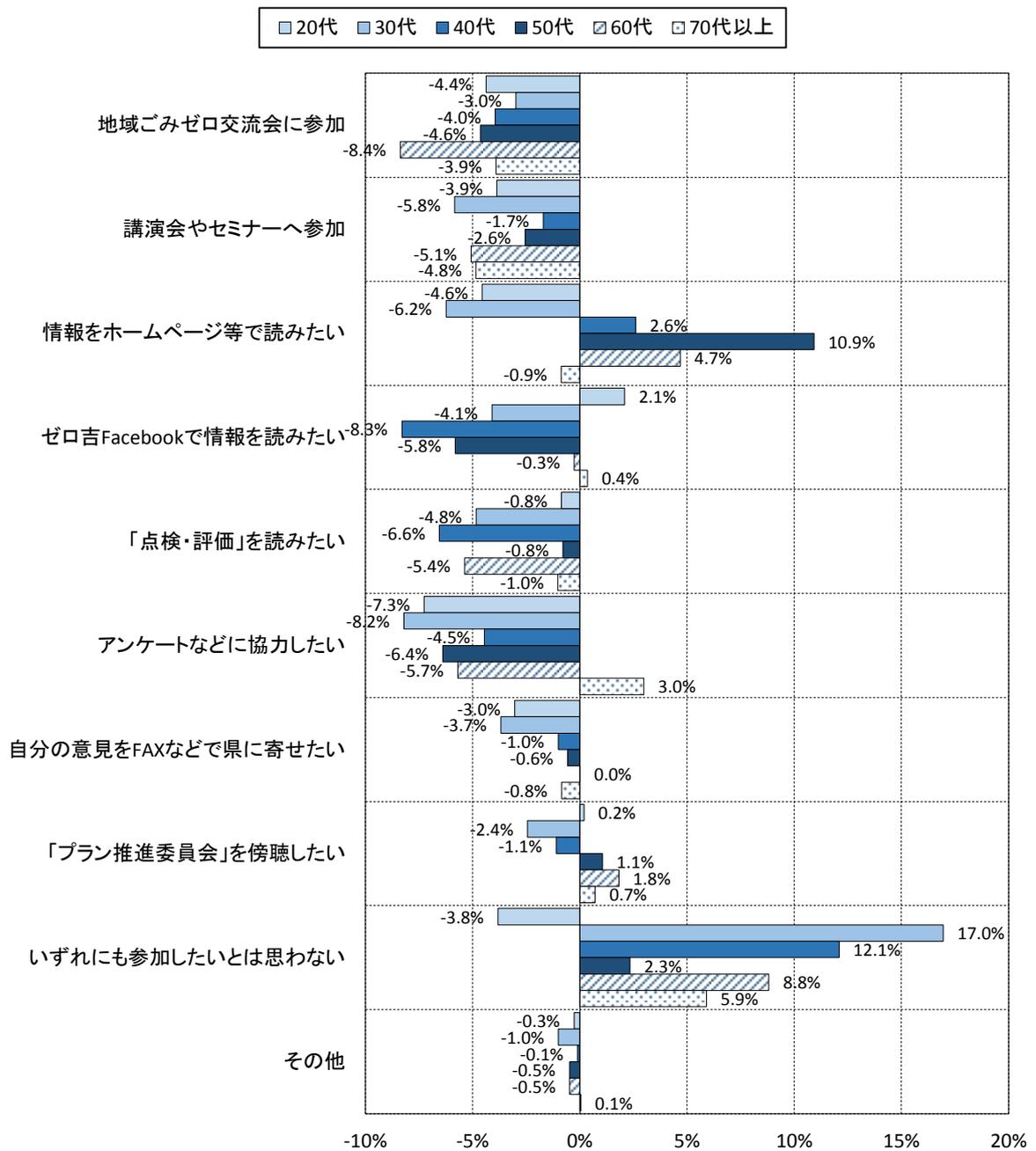


図 8-3-9 「年代別 平成27年度-平成19年度 県民参画の取組への参加」回答率差

(3) 性別

「県民参画の取組への参加」の性別は、「いずれにも参加したいと思わない」が、平成27年度は平成22年度と比較して男女ともに約1%の増加となっている。
「情報をホームページ等で読みたい」は男女ともに1.2%から3.4%の増加となっている。

問45 性別：回答率		年度	1	2	99
			女性	男性	無回答
1	地域ごみゼロ交流会に参加	平成19年度	10.4%	12.5%	17.2%
		平成22年度	9.0%	9.8%	1.7%
		平成27年度	7.5%	7.6%	3.8%
2	講演会やセミナー	平成19年度	12.0%	15.0%	13.9%
		平成22年度	10.7%	12.4%	0.0%
		平成27年度	9.6%	10.9%	3.8%
3	情報をホームページ等で読みたい	平成19年度	22.2%	22.0%	15.6%
		平成22年度	19.9%	19.9%	5.1%
		平成27年度	23.3%	21.1%	21.2%
4	ゼロ吉Facebookで情報を読みたい	平成19年度	9.9%	9.7%	9.0%
		平成22年度	6.5%	7.5%	1.7%
		平成27年度	7.0%	5.7%	7.7%
5	「点検・評価」を読みたい	平成19年度	27.4%	27.2%	17.2%
		平成22年度	23.4%	24.5%	3.4%
		平成27年度	23.3%	25.3%	13.5%
6	アンケートなどに協力したい	平成19年度	36.1%	39.8%	36.1%
		平成22年度	35.4%	39.8%	5.1%
		平成27年度	31.0%	37.2%	21.2%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	平成19年度	2.2%	4.1%	4.9%
		平成22年度	2.0%	2.6%	0.0%
		平成27年度	1.7%	2.2%	0.0%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	平成19年度	2.1%	4.4%	4.9%
		平成22年度	1.9%	4.7%	0.0%
		平成27年度	2.7%	4.9%	3.8%
9	いずれにも参加したいと思わない	平成19年度	17.7%	18.3%	13.1%
		平成22年度	24.5%	24.5%	6.8%
		平成27年度	26.0%	25.7%	25.0%
10	その他	平成19年度	2.5%	1.8%	3.3%
		平成22年度	3.1%	1.9%	1.7%
		平成27年度	2.4%	1.5%	1.9%

表 8-3-16 「性別 年度別 県民参画の取組への参加」回答率

問45：性別 平成27年度-平成22年度回答率差		1	2
		女性	男性
1	地域ごみゼロ交流会に参加	-1.5%	-2.2%
2	講演会やセミナー	-1.1%	-1.5%
3	情報をホームページ等で読みたい	3.4%	1.2%
4	ゼロ吉Facebookで情報を読みたい	0.5%	-1.8%
5	「点検・評価」を読みたい	-0.1%	0.8%
6	アンケートなどに協力したい	-4.4%	-2.6%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	-0.3%	-0.4%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	0.8%	0.2%
9	いずれにも参加したいと思わない	1.5%	1.2%
10	その他	-0.7%	-0.4%

表 8-3-17 「性別 平成27年度-平成22年度 県民参画の取組への参加」回答率差

問45：性別 平成27年度-平成19年度回答率差		1	2
		女性	男性
1	地域ごみゼロ交流会に参加	-2.9%	-4.9%
2	講演会やセミナー	-2.4%	-4.1%
3	情報をホームページ等で読みたい	1.1%	-0.9%
4	ゼロ吉Facebookで情報を読みたい	-2.9%	-4.0%
5	「点検・評価」を読みたい	-4.1%	-1.9%
6	アンケートなどに協力したい	-5.1%	-2.6%
7	自分の意見をFAXなどで県に寄せたい	-0.5%	-1.9%
8	「プラン推進委員会」を傍聴したい	0.6%	0.5%
9	いずれにも参加したいとは思わない	8.3%	7.4%
10	その他	-0.1%	-0.3%

表 8-3-18 「性別 平成27年度-平成19年度 県民参画の取組への参加」回答率差

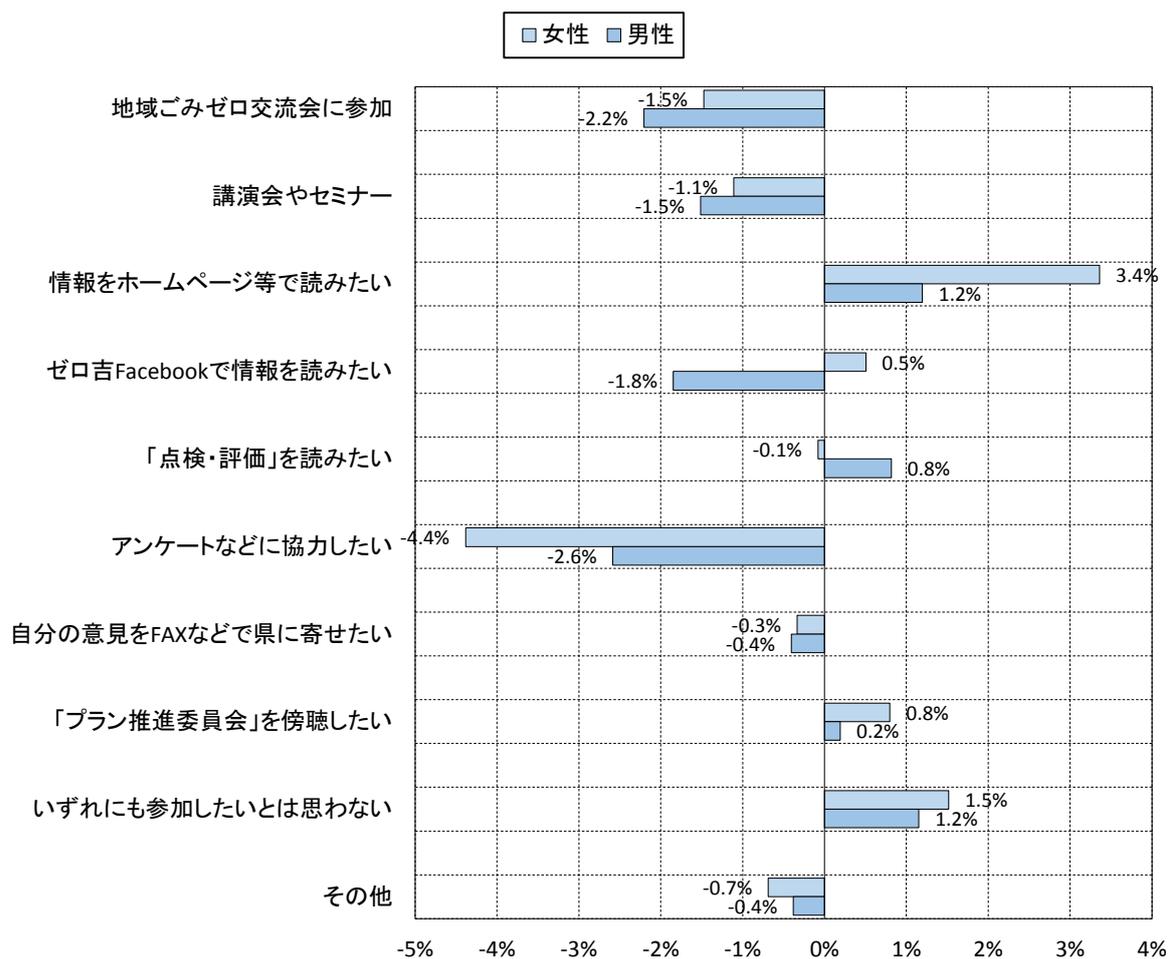


図 8-3-10 「性別 平成27年度-平成22年度 県民参画の取組への参加」回答率差

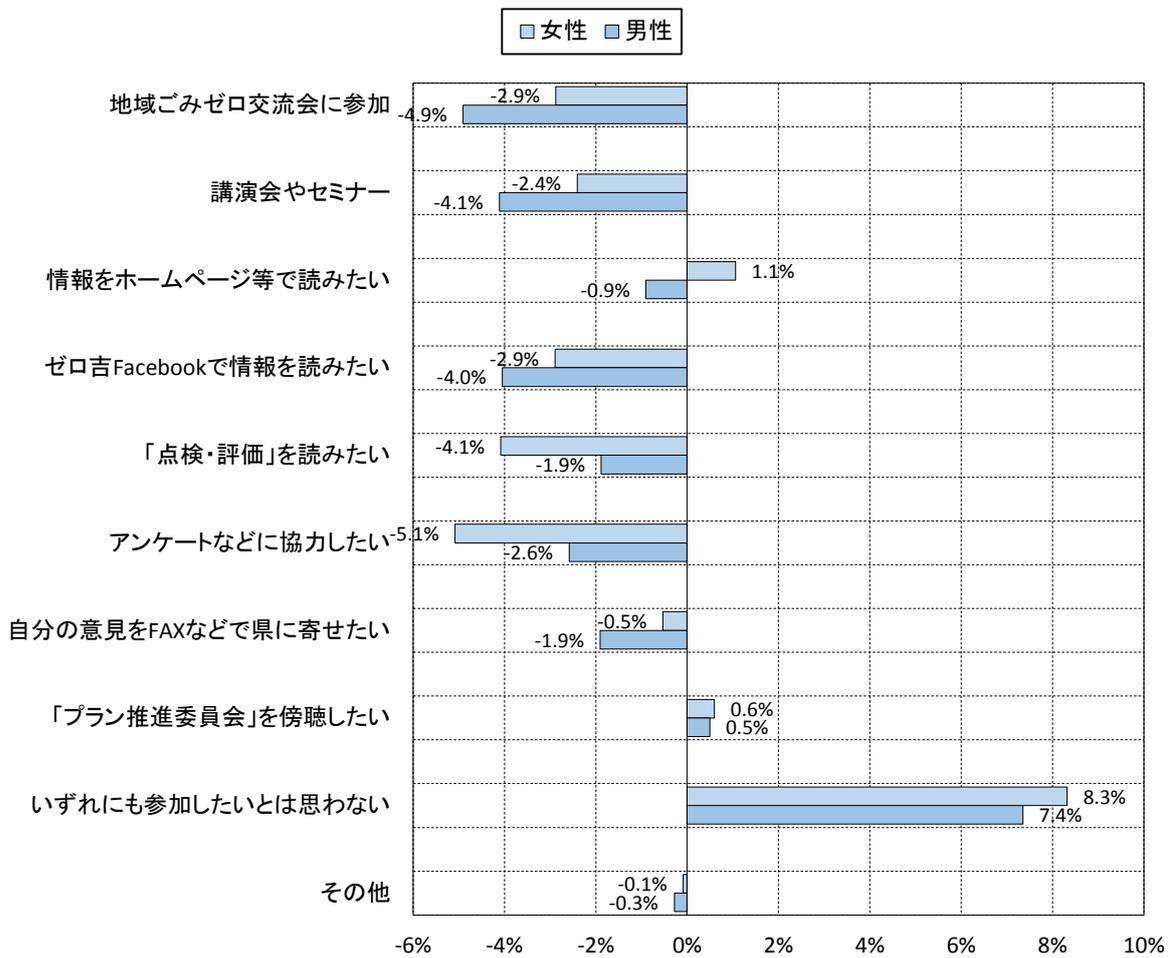


図 8-3-11 「性別 平成27年度-平成19年度 県民参画の取組への参加」回答率差

9 国との比較

国において、平成26年11月に行われた「循環型社会に関する意識・行動調査」の調査項目と今回（平成27年度三重県調査）の調査項目が同じ内容のものを抽出して比較した。

9-1 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動について

問11	次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？ それぞれの考えについて、あてはまるものを1つ選び番号に○を付けてください。
-----	---

(1) 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う。

「日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う」での「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計は、三重県93.3%、国94.2%とほぼ同じであるが、「とてもそう思う」は三重県が16.5%高い。三重県では「一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う」の割合はかなり高いと思われる。

問11-5		1	2	3	4	5	計
		とても そう思う	少し そう思う	あまりそうは 思わない	全くそうは思 わない	無回答	
三重県：H27	回答数	1911	867	141	19	41	2979
	回答率	64.1%	29.1%	4.7%	0.6%	1.5%	100.0%
国調査：H26	回答率	47.6%	46.6%	4.7%	1.1%	0.0%	100.0%
三重県－国調査		16.5%	-17.5%	0.0%	-0.5%	1.5%	－
問1-5 まとめ		思う（1+2）		思わない（3+4）		無回答	計
平成27年度：三重県		93.2%		5.3%		1.5%	100.0%
H26：国調査26：国調査		94.2%		5.8%		0.0%	100.0%
三重県－国調査		-1.0%		-0.5%		1.5%	－

表 9-1 「問11-5」回答状況

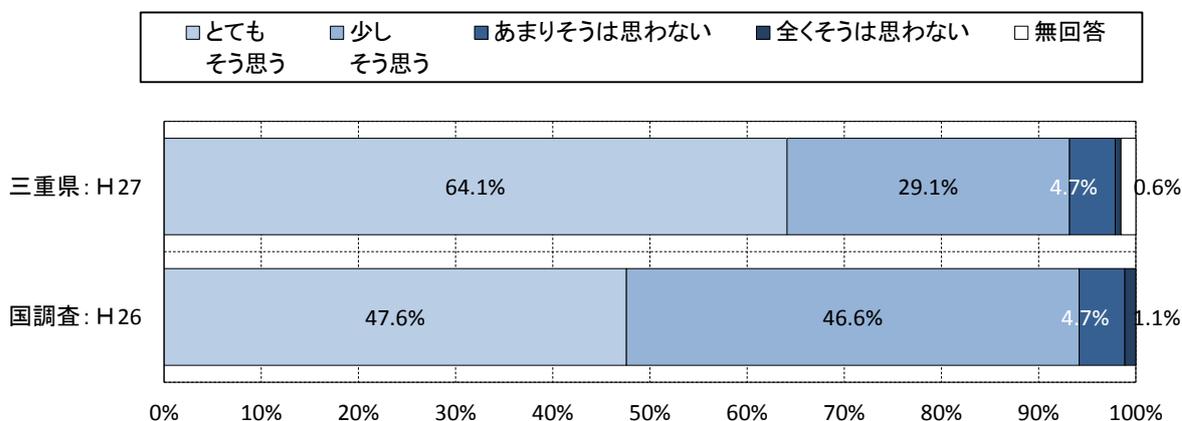


図 9-1 「問11-5」回答率

(2) 環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う。

「環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う」の「とてもそう思う」と「少しそう思う」の計は、三重県88.2%、国93.5%と三重県が5.3%低いが、「とてもそう思う」は、三重県が9.9%上回っている。

問11-6		1	2	3	4	5	計
		とても そう思う	少し そう思う	あまりそうは 思わない	全くそうは思 わない	無回答	
三重県：H27	回答数	1554	1073	267	31	54	2979
	回答率	52.2%	36.0%	9.0%	1.0%	1.8%	100.0%
国調査：H26	回答率	42.3%	51.2%	5.5%	1.0%	0.0%	100.0%
三重県-国調査		9.9%	-15.2%	3.5%	0.0%	1.8%	-
問1-5 まとめ		思う (1+2)		思わない (3+4)		無回答	計
平成27年度：三重県		88.2%		10.0%		1.8%	100.0%
H26：国調査26：国調査		93.5%		6.5%		0.0%	100.0%
三重県-国調査		-5.3%		3.5%		1.8%	-

表 9-2 「問11-6」回答状況

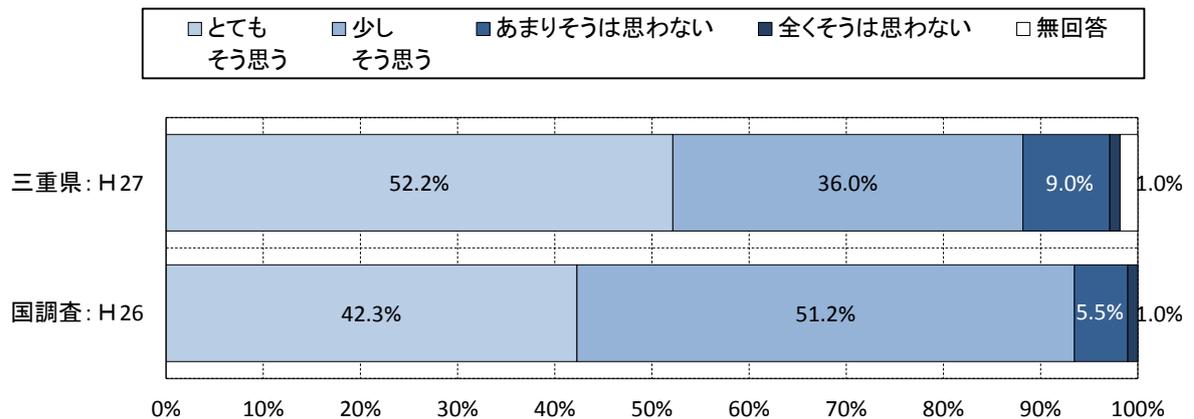


図 9-2 「問11-6」回答率

問16	あなたは、ごみ問題について、どのようなことを知っていますか？ あてはまるものすべてを選び、番号に○を付けてください。	(複数回答)
-----	---	--------

ごみ問題の知識では、8項目中7項目を三重県が上回っている。

番号	選択肢	三重県：H27		国調査 ：H26	三重県-国
		回答数	回答率		
1	ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている	1,484	49.8%	54.1%	-4.3%
2	ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することには反対 と考えている人が多い	1,999	67.1%	63.5%	3.6%
3	規制の強化によりダイオキシン類の排出量が大幅に削減されて いる	1,203	40.4%	38.4%	2.0%
4	野山や河原等への不法投棄が大きな社会問題になっている	2,310	77.5%	68.5%	9.0%
5	私有地に廃タイヤやパチンコ台などが将来リサイクルするとの 名目で、放置されている	915	30.7%	29.4%	1.3%
6	海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、 生態系などに影響を及ぼしている	2,095	70.3%	57.3%	13.0%
7	稲わらや間伐材など、資源として利用できるものを生かしてい ないものがある	1,037	34.8%	26.6%	8.2%
8	テレビやパソコンなどの身近な使用済み家電が海外へ輸出さ れ、その一部が不適正に処理されることによる環境汚染が生じ ている	1,050	35.2%	30.7%	4.5%
9	その他	35	1.2%	1.2%	0.0%
10	特に知っているものはない	154	5.2%	7.8%	-2.6%
総回答数		12,282			
有効回答数		2,979	412.2%	377.5%	34.7%

表 9-5 「問16」回答状況

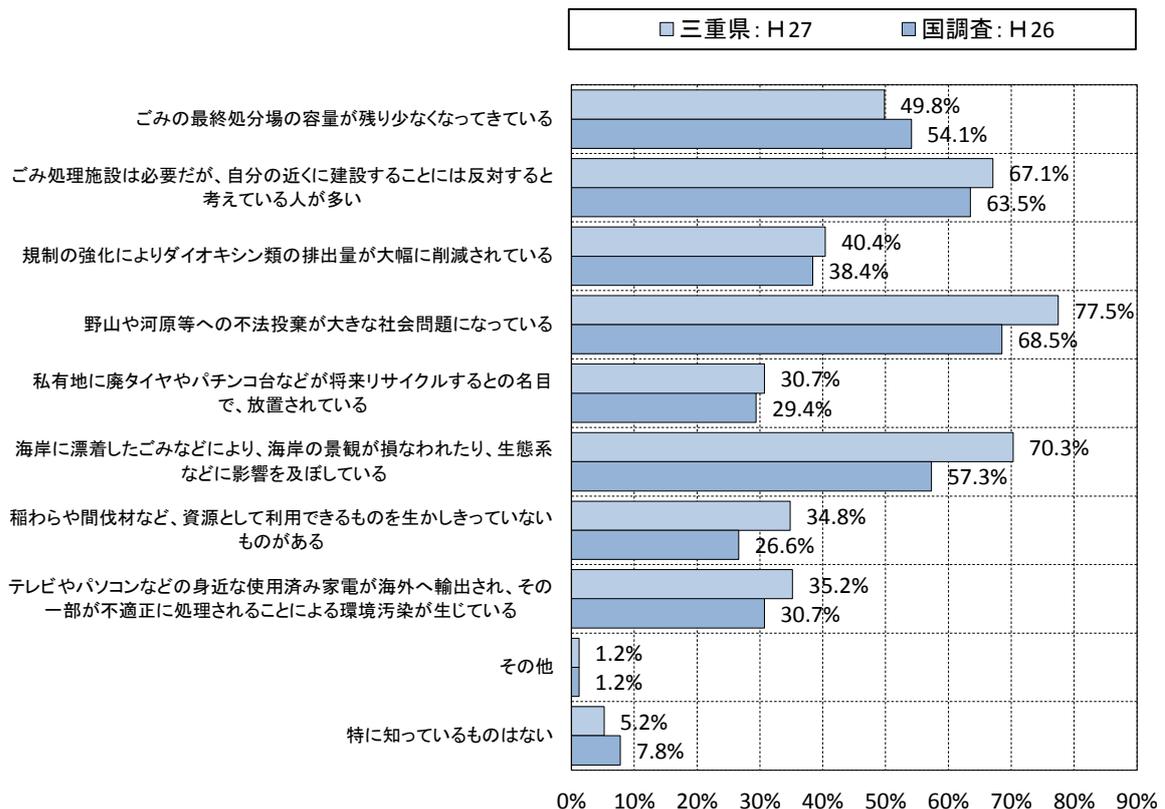


図 9-5 「問16」回答率

9-2 今後の方策に対する意向について

問29	イベントなどにおいて、使い捨てカップの代わりに洗って繰り返し再利用できるプラスチック製のカップ（リユースカップ）を使うことについて、あなたはどのように思いますか？ あなたのお考えに最も近いものを1つ選び番号に○を付けてください。
-----	---

リユースカップの使用については、「使った方がよい」（選択肢の1と2の計）では、三重県は国調査より20.4%低い。
「使わない方がよい」（選択肢の3と4の計）では、三重県は国調査より26.4%高い。
リユースカップの使用の意識は、国の調査結果とかなりギャップがある。

問29		1	2	3	4	5	計
		ぜひ使うべきである	できれば使った方がよい	どちらかというってほしくない	使うべきでない	無回答 その他 わからない	
三重県：H27	回答数	253	1,000	1,290	292	144	2,979
	回答率	8.5%	33.6%	43.3%	9.8%	4.8%	100.0%
国調査：H26	回答率	17.6%	44.9%	23.2%	3.5%	10.8%	100.0%
三重県－国調査		-9.1%	-11.3%	20.1%	6.3%	-6.0%	－
問13 まとめ		使った方がよい		使わない方がよい		無回答他	計
平成27年度：三重県		42.1%		53.1%		4.8%	100.0%
H26：国調査26：国調査		62.5%		26.7%		10.8%	100.0%
三重県－国調査		-20.4%		26.4%		-6.0%	－

表 9-6 「問29」回答状況

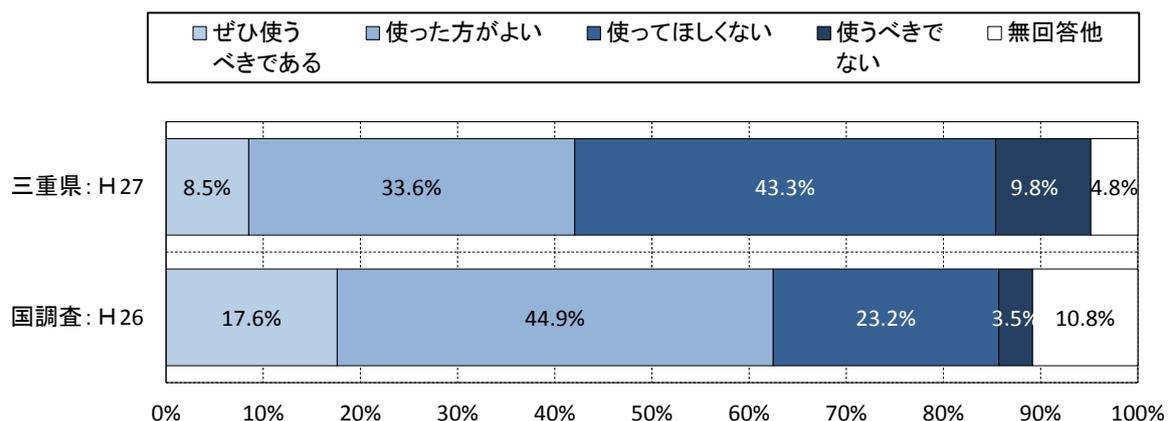


図 9-6 「問29」回答率

問30	<p>(問い29で「1 ぜひ使うべきである」「2 できれば使った方がよい」と答えた方のみ)</p> <p>「ぜひ使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由はなんですか？(あてはまるものすべてに○)</p>
-----	---

リユースカップの「使った方がよい」(選択肢の1と2の計)の理由では、三重県・国調査ともに「ごみの減量化につながるから」が最も多く、次いで「資源の有効利用につながるから(使い捨てコップはもったいない)」が2番目に高くなっている。

番号	選択肢	三重県：H27		国調査：H26	三重県一国
		回答数	回答率		
1	資源の有効利用につながるから (使い捨てコップはもったいない)	885	70.6%	28.4%	42.2%
2	ごみの減量化につながるから	1,058	84.4%	37.9%	46.5%
3	利用者にとっては特に大きな負担にならないから	399	31.8%	14.0%	17.8%
4	環境問題への意識向上に役立つから	500	39.9%	17.0%	22.9%
5	リユースカップで飲む方がおいしく感じられるから	36	2.9%	1.6%	1.3%
6	その他	20	1.6%	0.6%	1.0%
7	特にない、わからない	11	0.9%	0.6%	0.3%
総回答数		2,909	232.1%	100.0%	132.0%
有効回答数		1,253			

表 9-7 「問30」回答状況

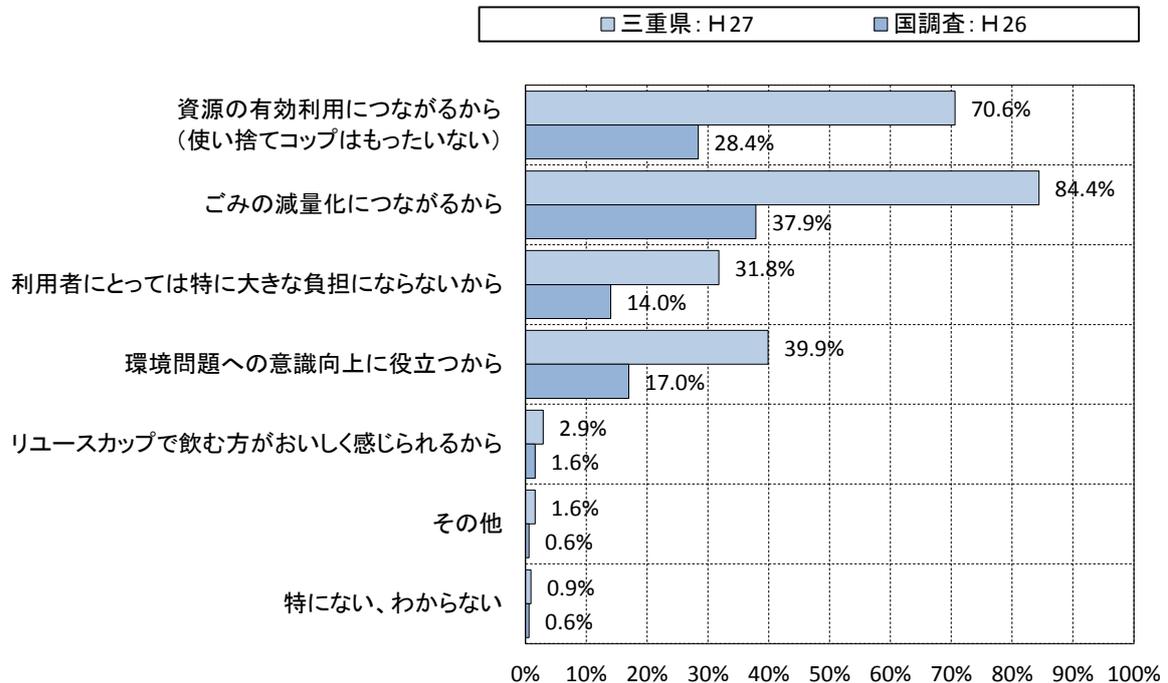


図 9-7 「問30」回答率

問31	<p>(問い29で「3 どちらかというってほしくない」「4 使うべきでない」と答えた方のみ)</p> <p>「どちらかというってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由は何ですか？ (あてはまるものすべてに○)</p>
-----	---

リユースカップの「使わない方がよい」(選択肢の3と4の計)の理由では、三重県・国調査ともに「衛生上の不安があるから」が最も高く、次いで「リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負担が小さいと思うから」が2番目に高くなっている。

番号	選択肢	三重県：H27		国調査：H26	三重県一国
		回答数	回答率		
1	指定場所への返却など、手間がかかるから	148	9.4%	7.0%	2.4%
2	商品の値上げにつながる可能性があるから	61	3.9%	4.2%	-0.3%
3	衛生上の不安があるから	1,476	93.3%	62.8%	30.5%
4	リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負担が小さいと思うから	740	46.8%	19.5%	27.3%
5	使い捨てコップで飲む方がおいしく感じられるから	106	6.7%	3.0%	3.7%
6	その他	42	2.7%	1.6%	1.1%
7	特になし	18	1.1%	1.9%	-0.8%
総回答数		2,591			
有効回答数		1,582	163.9%	100.0%	63.9%

表 9-8 「問31」回答状況

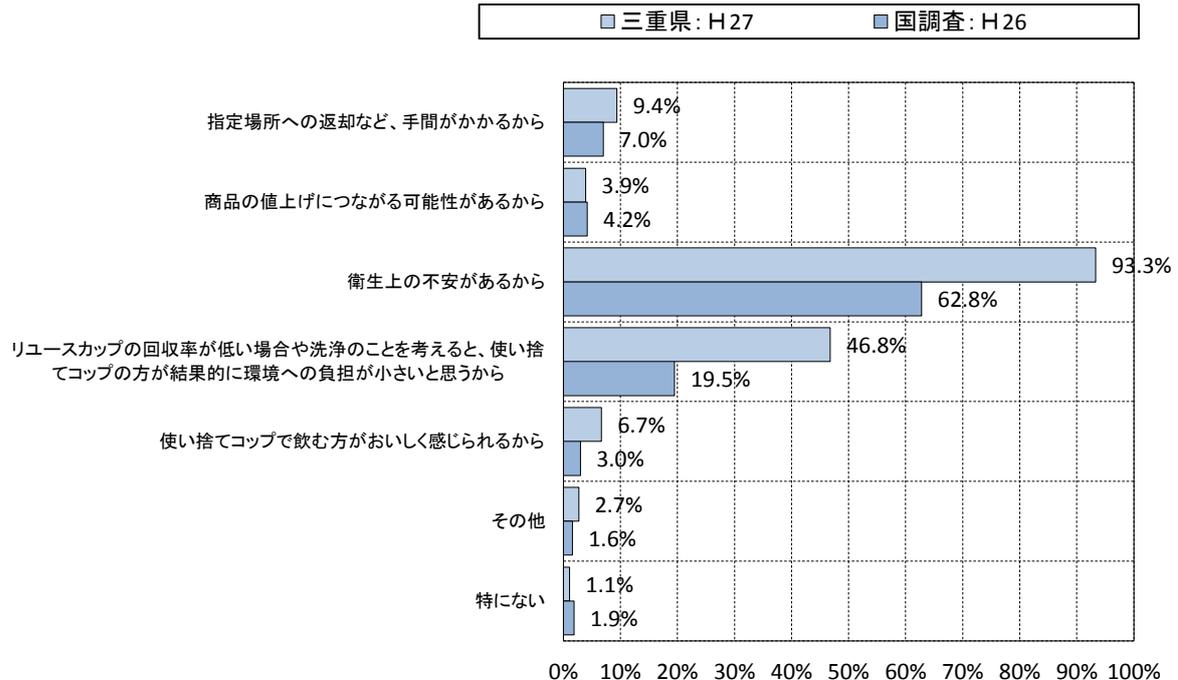


図 9-8 「問31」回答率

10 自由記入意見まとめ

有効回答数2,979のうち、自由記入意見は701件あり、多種多様な意見が寄せられている。分類ごとに主な意見をまとめると、次のとおりである。

① 発生・排出抑制に関して（113件）

i) ごみの有料化について（46件）

- ・市指定のごみ袋は高価格なのにとっても弱くすぐ破れる。丈夫なものにして欲しい。
- ・有料化は高齢者には負担が大きい。有料化にするにも、あまり高額になると、不法投棄する人が増える。なんでも有料化にすればいいというわけではない。

ii) 暮らしの工夫によるごみ減量について（67件）

- ・資源ごみの分別や食品トレーのスーパーへの返却はしてきましたが、生ごみの堆肥化処理をして燃えるごみの量を減らしていきたいと思います。
- ・必要なものを必要なときに必要なだけ求める。

② 分別・収集に関して（128件）

i) ごみの分別について（49件）

- ・ごみの分別は大切だと思いますが、高齢者には手の力が弱くラベルをはがしたり牛乳パックをひらけたりするのが大変です。
- ・ごみは個々に気をつけて集合所へ出すことが一番だと思います。地域皆様の協力にて努力しましょう。

ii) ごみ出し・収集について（59件）

- ・コンビニのごみ分別BOXへ家庭ごみを捨てる人が多くいます。ひとつの集積場所としては非常に便利なところだと思います。これらを利用してうまく再生できるごみの収集できないか？
- ・敷地内での木や笹竹などを指定の長さに裁断するのが大変です。何とか大きなものでも収集していただきたい。

iii) ごみ収集後の処理について（20件）

- ・資源ごみ、プラスチック類と分別しているが、何に生まれ変わっているのか正直わからないので教えて欲しい。
- ・粗大ごみ等の回収業者が車で回っているがエアコンや冷蔵庫等も回収している。当然無資格だし無料で持っていきだろ。エアコンであればフロンの回収もせず大気放出は当然だろう。こういったことは警察と連携して取り締まるべき。

③ 経済活動に関して（88件）

i) ごみを出さない製品づくり・商品販売について（73件）

- ・環境を悪くするものやごみを出さない製品作りをすすめ、原因の元をなくして欲しい。回収したごみを再利用できるものを販売したどうですか？
- ・企業やメーカーにもっと包装を少なくする工夫を促すべきです。家庭レベルの問題では限界があり、国をあげて商品を作る側がもっと減らしてくれなければごみゼロ？なんて無理。

ii) ごみの回収・処理に関する企業責任について（15件）

- ・大型家電等有料処分のもはどうしても無料回収業者に渡してしまう人が多いと思う。そういう業者のストック用地も増えている気がする。景観も悪いしどうにかしてもらえたらと思う。

④ 意識・モラルに関して（156件）

i) 一人ひとりの心がけについて（86件）

- ・ごみゼロにはならないと思いますが、毎日のごみを少しでも出さないように気をつけたいと思います。
- ・食品を購入する際には、なるべく賞味期限の間近のものを求め、廃棄する食品（ごみになる）を減らす為に心がけています。

ii) マナー違反について（31件）

- ・「正直者がバカを見る」ような事がないルールがあればなぁと思います。不法投棄 ダメ！絶対！
- ・他地区から持ち込みが多くなっている。こうしたマナー違反が横行する現状を正さない限り社会は良くなる。何らかの対策が必要と思う。

iii) 教育・広報啓発活動について（39件）

- ・ごみの処分にはお金がかかるということをもっと知らせるべきではないか。
- ・幼稚園や小学校の授業や家庭で幼い頃からごみゼロ教育をすることで意識が高まると思います。

⑤ ごみ対策全般に関して・その他（216件）

i) 現代の生活スタイルについて（58件）

- ・高齢化になって来るにつれてオムツ処理が今後の大きな課題になると思います。身内の介護でオムツを使用していますので。
- ・修理すればまだ使える物でも修理代の方が高く、家電販売店では買替えをすすめられる。また、修理をしてくれる所（オモチャなど）がない。使わなくなった物を出すリサイクルショップなどが近くにない。

ii) ごみゼロ社会の実現について（53件）

- ・各家庭のごみより企業のごみの方が多いのでは？その対策は？
- ・ごみゼロは大切だと思います。しかしまだまだ意識が低いと思います。やればごみは減らせると思います。ごみの有料化も反対ではありませんが不法投棄が心配です。

iii) 住民参加によるごみゼロ運動について（24件）

- ・住民の意識がさらに高まり、みんなが積極的に取り組み、その成果が目に見えると、関心の無かった人まで影響され、良い方向に向かっていくと思います。
- ・定期的に自治会あるいは市町村でリサイクル市を催したらどうでしょうか？自分では不要な品も他の人が必要としている場合もあります。自宅の庭で少々の物は焼却できると助かります。

iv) 行政の姿勢について（28件）

- ・「ごみゼロ社会実施プラン」こんなの全く知らなかった。PR不足です。
- ・生ごみ処理機を補助金をいただき購入しましたが、壊れて買い換えたいのですが、補助金は一度限りということで、高すぎて購入できません。ごみが減って便利だったんですけど、残念です。
- ・大変だと思いますが必要な行政サービスだと思います。がんばってください。

v) ごみゼロアンケートに関するもの（41件）

- ・アンケート、紙じゃなくインターネット回答の方が助かります。
- ・高齢のため、アンケートの意味がわからなくなってしまいました。もっと簡単な設問にして欲しい。

vi) その他（12件）

- 一般家庭のごみ以上に核のごみ処理をする場所がなく困っているのに、原発を再稼動してどんどん核のごみを増やし、これからの日本 これからの子供達に大変な荷物を負わせる事についての方が一般のごみ以上に問題だと思えます。

11 県民アンケート 調査票

◎ まず、あなたご自身や世帯についてお聞きします。

問1 あなたの年齢は？ あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	20代以下	2	30代	3	40代
4	50代	5	60代	6	70代以上

問2 あなたの性別は？ あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	女性	2	男性
---	----	---	----

問3 あなたのお仕事は？ あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	会社員・公務員	2	パート・アルバイト
3	農林水産業	4	自営業
5	家事・家事手伝い	6	学生
7	無職	8	その他（具体的に：_____）

問4 いっしょに住んでいる家族の人数は？（あなた自身を含めた人数）

あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	1人	2	2人	3	3人
4	4人	5	5人以上		

問5 お住まいの市町は？ あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	津市	2	四日市市	3	伊勢市
4	松阪市	5	桑名市	6	鈴鹿市
7	名張市	8	尾鷲市	9	鳥羽市
10	熊野市	11	志摩市	12	伊賀市
13	東員町	14	菟野町	15	紀宝町

問6 お住まいの形態は？ あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	戸建住宅	2	ワンルームのマンションや アパート	3	学校や会社の寮
4	その他のマンションや アパート	5	その他（具体的に：_____）		

問7 お住まいの周辺の様子は？ あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	住宅地	2	住宅とお店や工場などが混在している地域
3	住宅が点在する農山漁村	4	その他（具体的に：_____）

問8 次のうち、あなたの家庭にあてはまることはありますか？

あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	夫婦共働き	2	就学前の乳幼児がいる	3	小中学生がいる
4	家族は全員60歳以上	6	いずれにもあてはまらない		

問9 あなたの住んでいる地域では、自治会や子供会などの地域活動は盛んですか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	とても盛ん	2	比較的盛ん
3	あまり盛んでない	4	まったく盛んでない

問10 あなた自身は家庭でごみの分別にどうかかかわっていますか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	家族の中心になって熱心に分別している
2	家族の中心ではないが、ごみは分別している
3	ごみの分別にはあまりかかわらない

◎ 暮らしの中での関心ごとや考えられる行動についてお聞きします。

問11 次のそれぞれの考えについてあなたはどの程度あてはまりますか？
それぞれの考えについて、あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

(1) 家の中を見回してみると、あまり必要ないものがたくさんあると思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(2) ものを捨てる時、つい「もったいない」と思ってしまう。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(3) 商品についている容器や包装材は、もっと少なくていいと思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(4) レンタル製品など多くの人が使いまわすものでも、特に抵抗感はない。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(5) 日常生活における一人ひとりの行動が環境に大きな影響を及ぼすと思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(6) 環境問題解決のためには、技術開発や研究を一層充実させることが必要だと思う。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

問12 次のそれぞれの場合についてあなたはどの程度あてはまりますか？
それぞれの場合について、あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

(1) 特価品や新製品を見ると、すぐには必要なくてもつい買ってしまう。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

(2) 買って何年もしない家電製品であっても、壊れたら修理するより買い替える。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

(3) お店では、環境やごみのことは考えずに商品を選ぶ。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

(4) 一時期しか使わない商品であってもレンタル品などは使わず新品を購入する。

1	よくあてはまる	2	少しあてはまる
3	あまりあてはまらない	4	まったくあてはまらない

問13 物を買うときの環境への配慮について、あなたはどのように感じていますか？
最も近いものを**1つ**選び番号に**○**を付けてください。

1	環境保全のために良いことなので、常に意識している
2	習慣になっており、特に意識することではない
3	店頭で環境配慮の情報が明示されていれば考慮する
4	家計の圧迫につながるのを避けたい
5	手間や時間がかかる・面倒だ
6	生活の便利さや快適さを損なう
7	その他（具体的に：_____）
8	わからない

問14 食べ物のごみについてお聞きします。
それぞれについて、あてはまるものを**1つ**選び番号に**○**を付けてください。

(1) 使い切れなかったり賞味期限が切れたために食材を捨ててしまうことはありますか？

1	よくある	2	たまにある
3	あまりない	4	ほとんどない

(2) 食べきれず、料理を捨ててしまうことはありますか？

1	よくある	2	たまにある
3	あまりない	4	ほとんどない

問15 次のうち、だいたい意味がわかる言葉はどれですか？
あてはまるもの**すべて**を選び、番号に**○**を付けてください。

1	循環型社会	2	低炭素社会
3	ごみゼロ社会	4	リデュース
5	リユース	6	リサイクル
7	3R（さんアール、スリーアール）	8	エコライフ
9	スローライフ	10	容器包装リサイクル法
11	家電リサイクル法	12	食品リサイクル法
13	排出者責任	14	拡大生産者責任
15	マイバッグ	16	レジ袋の有料化
17	ごみの有料化	18	どれも知らない

問16 あなたは、ごみ問題について、どのようなことを知っていますか？
 あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	ごみの最終処分場の容量が残り少なくなっている
2	ごみ処理施設は必要だが、自分の近くに建設することには反対と考えている人が多い
3	規制の強化によりダイオキシン類の排出量が大幅に削減されている
4	野山や河原などへの不法投棄が大きな社会問題になっている
5	私有地に廃タイヤやパチンコ台などが将来リサイクルするとの名目で、放置されている
6	海岸に漂着したごみなどにより、海岸の景観が損なわれたり、生態系などに影響を及ぼしている
7	稲わらや間伐材など、資源として利用できるものを活かしていないものがある
8	テレビやパソコンなどの身近な使用済み家電が海外へ輸出され、その一部が不適正に処理されることによる環境汚染が生じている
9	その他（具体的に： _____）
10	特に知っているものはない

問17 使い捨て商品が身の回りにあふれ、その結果としてごみが大量に捨てられる現代の社会を、あなたはどのように感じていますか？
 あなたのお考えに**最も近いものを1つ**選び番号に○を付けてください。

1	どちらかという、便利で暮らしやすく、特に疑問は感じていない
2	どちらかという、将来のことを考えると「このままでいいのか」という疑問を感じる
3	よくわからない

問18 ごみは手間やコストをかけてでも、できるだけ資源として有効利用すべきだと思いますか？
 あなたのお考えに**最も近いものを1つ**選び番号に○を付けてください。

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

◎ 現在行っているごみ減量やリサイクルの取組についてお聞きします。

問19 ごみを減らす取組の中でどれが大切だと思いますか？
 それぞれの枠内に**番号を1つずつ**記入してください。

1	ごみそのものの発生を減らすこと
2	まだ使える製品や容器などを、くり返し使うこと
3	ごみではなく資源として分別し、再び原材料として有効利用すること

設問	番号を記入
最も大切だと思う→	番
次に大切だと思う→	番

問20 あなたのご家庭では、次のうち、資源ごみとして市町の収集に出している品目はどれですか？
 あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	新聞	2	雑誌
3	牛乳パック	4	古布や衣類
5	食品トレイ	6	ペットボトル
7	アルミ缶	8	スチール缶
9	空きびん	10	蛍光管
11	電池類	12	あてはまるものなし

問21 あなたのご家庭では、次のうち、お店に持って行って回収してもらっている品目はどれですか？
あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	新聞	2	雑誌
3	牛乳パック	4	古布や衣類
5	食品トレイ	6	ペットボトル
7	アルミ缶	8	スチール缶
9	空きびん	10	蛍光管
11	電池類	12	あてはまるものなし

問22 あなたのご家庭では、次のうち、地域で行われる廃品回収（集団回収）に出している品目はどれですか？
あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	新聞	2	雑誌
3	牛乳パック	4	古布や衣類
5	食品トレイ	6	ペットボトル
7	アルミ缶	8	スチール缶
9	空きびん	10	蛍光管
11	電池類	12	あてはまるものなし

問23 あなたは、分別したごみがあるあなたの市町でどのように処理・リサイクルされるかご存知ですか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	知っている	2	少し知っている
3	あまり知らない	4	まったく知らない

問24 ごみを分別するのに、あなたは1日あたりおよそどのくらいの時間をかけていると思いますか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	1時間以上	2	30分～1時間くらい
3	10分～30分くらい	4	数分程度
5	ほとんどかけていない		

問25 ごみを資源としてより有効に利用するために、資源やごみの分別数が増えることなどについてどう思われますか？
あなたのお考えに最も近いものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	賛成	2	どちらかという賛成
3	どちらかという反対	4	反対

設問は次ページへ続きます



問26 次のうち、あなたのご家庭でやっていることはどれですか？
 あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	台所ごみの水切りをしている
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋めている
3	台所ごみを、堆肥化容器や生ごみ処理機で処理している
4	市町や団体で取り組んでいる生ごみ堆肥化に参加している
5	台所ごみを、その他の方法で堆肥化などしている
6	生ごみ堆肥を利用して園芸や野菜作りをしている
7	紙くずなどを庭や畑で焼却している
8	買い物袋（マイバッグ）などを持参し、レジ袋をもらわない
9	詰め替え容器を使用した商品を買っている
10	ビールや牛乳のびんなど再使用可能な容器を使った製品を買う
11	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選んで
12	包装を断ったり、簡易包装を依頼している
13	食品は買いすぎないように注意している
14	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにしている
15	食事を食べ残さないようにしている
16	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりしている
17	資源とごみの分別を徹底している
18	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用している
19	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにしている
20	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにしている
21	マイ箸を携帯している
22	携帯電話の店頭回収に協力している
23	その他（具体的に： _____）
24	これらのいずれもやっていない

問27 あなたのご家庭では、ごみを出すにあたり、どのような問題がありますか？
 あてはまるものを**3つまで**選び、番号に○を付けてください。

1	分別ルールが複雑でわかりにくい	2	市町ごとにルールが異なり覚えにくい
3	次の収集日までごみを保管しておく場所がない	4	収集日時が限られている
5	ごみ集積所（ステーション）まで遠い	6	洗ったり束ねたり手間がかかる
7	その他（具体的に： _____）		
8	特に問題はない		

◎ 今後の方策に対する意向についてお聞きします。

問28 今後あなたが、暮らしの工夫によって「家庭から出る量を減らせる」と思えるものはどれですか？
 あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	調理くず	2	食べ残し
3	賞味期限切れ食品	4	紙容器、紙袋や包装紙
5	新聞	6	チラシ
7	雑誌	8	段ボール
9	紙パック	10	古着類
11	ペットボトル	12	レジ袋
13	プラスチック容器	14	びん
15	缶	16	粗大ごみ
17	その他（具体的に： _____）		

問29 イベントなどにおいて、使い捨てコップの代わりに洗って繰り返し再利用できるプラスチック製のカップ（リユースカップ）を使うことについて、あなたはどのように思いますか？
あなたのお考えに**最も近いものを1つ**選び番号に○を付けてください。

1	ぜひ使うべきである⇒問30へ	2	できれば使った方がよい⇒問30へ
3	どちらかというと思ってほしくない⇒問31へ	4	使うべきでない⇒問31へ

問30 (問29で「1 ぜひ使うべきである」「2 できれば使った方がよい」と答えた方のみ)
「ぜひ使うべきである」又は「できれば使った方がよい」と思う理由はなんですか？
あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	資源の有効利用につながるから (使い捨てコップはもったいない)	2	ごみの減量化につながるから
3	利用者にとっては特に大きな負担にならないから	4	環境問題への意識向上に役立つから
5	リユースカップで飲む方がおいしく感じられるから		
6	その他(具体的に:)		
7	特になし		

問31 (問29で「3 どちらかというと思ってほしくない」「4 使うべきでない」と答えた方のみ)
「どちらかというと思ってほしくない」又は「使うべきでない」と思う理由はなんですか？
あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	指定場所への返却など、手間がかかるから	2	商品の値上げにつながる可能性があるから
3	衛生上の不安があるから	4	リユースカップの回収率が低い場合や洗浄のことを考えると、使い捨てコップの方が結果的に環境への負荷が小さいと思うから
5	使い捨てコップで飲む方がおいしく感じられるから		
6	その他(具体的に:)		
7	特になし		

問32 ごみに関する情報を、あなたはどのような方法で手に入れていますか？
あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	市町の広報や分別マニュアルを通じて	2	市町のホームページを通じて
3	公共施設などでのポスターやチラシを通じて	4	地域の回覧板や掲示物を通じて
5	防災無線や広報スピーカーで	6	住民説明会を通じて
7	新聞などマスコミを通じて	8	企業の広告、広報誌、パンフレット、環境報告書で
9	家族や友人・知人を通じて	10	子供(学校などの情報)を通じて
11	書籍から	12	スーパーマーケットなど地域の店舗や流通業者を通じて
13	エコ製品やサービスを展示するイベントを通じて	14	PTA・自治会などの地域の活動を通じて
15	勤務先・取引先など仕事を通じて	16	環境保護団体・環境NGOの広報誌やパンフレットを通じて
17	生協活動・ボランティア活動など社会活動を通じて	18	シンポジウムや講演会、市民大学などで
19	その他(具体的に:)		
20	あてはまるものなし		

問33 今後、ごみに関してどのような情報がほしいですか？
 あてはまるもの**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	わかりやすい分別方法	2	ごみ処理コスト
3	ごみの減量方法	4	地域の集団（資源）回収
5	生ごみ処理機などの購入費助成制度	6	ごみ減量・リサイクル推進活動団体の紹介
7	ごみ減量・リサイクルに関する講座・セミナー	8	ごみ減量による CO ₂ 削減量を表示するなど、地球温暖化防止効果の「見える化」
9	市町のごみの量やリサイクル率などのごみ処理状況		
10	その他（具体的に： _____）		
11	あてはまるものなし		

問34 家庭から出されるごみを市町が処理するのに、どれくらい費用がかかっているかをご存知ですか？
 あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	知っている	2	少し知っている
3	あまり知らない	4	まったく知らない

問35 増え続けるごみを減らすため、ごみ（可燃ごみ）の排出に料金を課す市町が増えています。
 税金を使ってごみ処理を行うことについてどう思いますか？
 あなたのお考えに最も近いものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	ごみ処理は公共サービスなので、税金で処理するのがよい
2	最低限のごみ処理は税金で行い、それ以上のごみ処理は量に応じ出す人が負担するのがよい
3	ごみ処理費用はごみの量に応じて出す人が負担する仕組みとすることで、これまでごみ処理に使っていた税金を福祉や教育などにまわすのがよい
4	よくわからない
5	その他（具体的に _____）

問36 出したごみの量に応じて、多く出した者が多く負担するごみの有料化についてどう思いますか？
 あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	賛成	2	どちらかという賛成
3	どちらかという反対	4	反対

問37 ごみ有料化を検討する場合、どのようなことを重視すべきだと思いますか？
 特に重要と思われるものを**3つまで**選び、番号に○を付けてください。

1	ごみを多く出す人ほどたくさん支払う公平なしくみとすること
2	家計への負担が少ない料金とすること
3	ごみ減量に効果があるよう、ごみを出すたびに一定程度の負担が感じられる料金とすること
4	一人ひとりが取り組めるごみ減量メニューを配布すること
5	有料化によって得られた成果をきちんと説明すること
6	ごみにならない製品づくり、商品販売を働きかけること
7	ルール違反（不法投棄など）を許さないこと
8	有料化だけでなく、他のごみを減らすための方法を併せて検討すること
9	有料化により減ったごみ処理分の税金を、他の用途（福祉や教育など）に使うことを検討すること
10	その他（具体的に _____）

問38 ごみ処理を有料化した市町では、料金を「指定のごみ袋」を購入するという形で支払うことが多く、「指定のごみ袋」は普通のごみ袋に比べて値段が高くなっています。有料化する場合、その料金としていくらまでなら受け入れられますか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	ごみ袋大（45リットル）が1袋10円程度	2	ごみ袋大が1袋50円程度
3	ごみ袋大が1袋100円程度	4	ごみ袋大が1袋200円程度
5	それ以上		

問39 あなたの市町でごみの有料化が実施された場合、どのようにごみを減らしますか？
既に実施している市町の方については、どのように減らしていますか？
あてはまるものを**すべて**を選び、番号に○を付けてください。

1	台所ごみの水切りをする
2	台所ごみを、そのまま庭や畑に埋める
3	台所ごみを堆肥化处理する
4	紙くずなど少量のごみを庭や畑で焼却する
5	買い物袋（マイバッグ）などを持参しレジ袋をもらわない
6	詰め替え容器を使用した商品を買う
7	量り売り、ばら売りなど容器包装の少ないものを選ぶ
8	包装を断ったり、簡易包装を依頼する
9	食品は買いすぎないように注意する
10	生ごみなどの堆肥を利用した野菜や果物などを買うようにする
11	食事を食べ残さないようにする
12	不用物をフリーマーケットに出したり、リサイクルショップに売ったりする
13	資源とごみの分別をより徹底する
14	地域の集団回収やスーパーの店頭回収を利用する
15	無駄な製品をできるだけ買わないよう、レンタル・リースの製品を使うようにする
16	マイボトル・マイカップの持参などで、ペットボトルなどの使い捨て型飲料容器をなるべく使わないようにする
17	マイ箸を携帯する
18	その他（具体的に：_____）
19	これらいずれもしない

問40 あなたの家の近くに中古の家電製品や家具を扱うお店（リサイクルショップ）ができたとします。
この店がどんな店だったら、あなたは足を運んでみようと思いますか？
あてはまるものを**3つまで**選び、番号に○を付けてください。

1	店舗がきれい、明るい	2	取り扱っている商品がきれい
3	商品の品ぞろえがある	4	商品が探しやすい
5	品質など信頼できる	6	販売金額は安く、買取金額は高め
7	その他（具体的に：_____）		
8	どんな店でも足は運ばないと思う		

問41 あなたのご家庭から出る可燃ごみに限って言えば、努力によりどれだけ減らせると思いますか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に○を付けてください。

1	10%未満	2	10%～30%
3	30%～50%	4	50%～80%
5	80%以上	6	これ以上は減らせない

◎ 「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてお聞きします。

問42 ごみ処理のあり方や具体的なごみ減量化施策について定めた市町の「ごみ処理基本計画」づくりへの住民参画についてあなたの意見をお聞きします。
それぞれの意見について、あてはまるものを**1つ**選び番号に**○**を付けてください。

(1) 計画づくりには、できるだけ多くの住民が参画することが必要だと思いますか？

1	とてもそう思う	3	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(2) 計画づくりに住民が参画すれば、住民の要望や意見を反映できると思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(3) 計画は市町が主体的につくる方がよいと思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(4) あなたが計画づくりに参画することで、様々な情報を入手できると思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(5) あなたが計画づくりに参画すると、時間や手間がかかり大変だと思いますか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

(6) 今後、このような計画づくりに住民参画の機会があった場合、あなたは参画したいですか？

1	とてもそう思う	2	少しそう思う
3	あまりそうは思わない	4	まったくそうは思わない

◎ 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」についてお聞きします。

問43 三重県の「ごみゼロ社会実現プラン」をご存じですか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に**○**を付けてください。

1	知っている	2	名前は聞いたことがある
3	知らない		



問44 この三重県のごみゼロキャラクター「ゼロ吉」をご存じですか？
あてはまるものを**1つ**選び番号に**○**を付けてください。

1	知っている	2	見たことはあるが、三重県のごみゼロキャラクターであることは知らなかった	3	知らない
---	-------	---	-------------------------------------	---	------

